佐賀県文化財調査報告書第 199 集

西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書（13）

中　原　遺　跡　Ⅶ

（第一分冊）

11 区～ 13 区の集落跡の調査

２０１３年３月

佐賀県教育委員会

中　原　遺　跡　と　松　浦　川

11 ～ 13 区全景と鏡山

11 区竪穴住居群の完掘と検出状況１

11 区竪穴住居群の完掘と検出状況２

11 区竪穴住居群の完掘と検出状況３

11 区竪穴住居群検出状況

11 区竪穴住居群完掘状況 1

11 区竪穴住居群完掘状況 2

SH12035 竪穴住居跡遺物出土状況

SH12036 竪穴住居跡遺物出土状況

肥後系・島原半島系土器群

SH11230 出土羽口

SK13196 出土古式陶質土器

佐賀県文化財調査報告書第 199 集

西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書（13）

中　原　遺　跡　Ⅶ

（第一分冊）

11 区～ 13 区の集落跡の調査

２０１３年３月

佐賀県教育委員会

序

この報告書は佐賀県教育委員会が国土交通省九州地方整備局佐賀国道事務所の委託をえて唐津市教育委員会の協力のもと平成 13 ～ 17 年度に実施した西九州自動車道唐津道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告です。中原遺跡の 7 冊目で、西九州自動車道建設に係る文化財発掘調査報告書では『矢作遺跡』につづく 13 冊目にあたります。

中原遺跡は弥生～平安時代前期までの複合遺跡で、各時代において重要な遺構・遺物が発見されました。弥生・古墳時代では甕棺墓群、墳丘墓、古墳、竪穴住居跡、掘立柱建物跡などが検出され、青銅鏡をはじめ青銅製品や鉄製品、石製品、木製品などの多くの貴重な遺物が出土いたしました。

今回の報告は中原遺跡の 11 区～ 13 区で確認した主に弥生時代～古墳時代の集落跡の調査成果です。本遺跡は弥生時代中期から古墳時代の長期間にわたり、唐津地域の拠点集落のひとつであることが判ってきました。

本書が今後の学術・文化向上に少しでも役立てば幸いに存じます。発刊にあたり多難な調査作業に従事していただいた地元の皆様、整理作業に従事していただいた調査事務所の方々並びに埋蔵文化財の保護に御理解いただきました佐賀国道事務所に対し、心より厚くお礼申しあげます。

平成 25 年 3 月 15 日

佐賀県教育委員会

教育長　　川　﨑　俊　広

例　言

1，本書は西九州自動車道唐津－浜玉道路建設に伴い平成 13 ～ 17 年度に実施した唐津市原所在の中原遺跡の発掘調査報告書であり、西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書の第 13 冊である。2 分冊の構成で、第一分冊は本文、挿図、表で、第二分冊は写真図版からなる。

2，発掘調査は国土交通省九州地方整備局佐賀国道事務所の委託を受け、佐賀県教育委員会が主体となり唐津市教育委員会の協力を得て実施した。

3，本書の執筆分担は目次に記す。Ⅰ章、Ⅱ章、Ⅲ章は『中原遺跡Ⅲ』の同章をもとに加筆訂正した。

4，報告書作成にあたっての整理作業の遺物復元、遺物実測、製図、遺物写真撮影、編集などは主に唐津中原事務所で行い、一部文化財調査研究資料室で行った。また、写真現像焼付は唐津中原事務所で行った。主な作業分担は次のとおりである。

遺物復元整理……桑代ゆかり・徳田まり子・松本いつ子・脇山邦子

遺物実測・製図…大薗聖子・美浦あずさ・山浦美香（唐津中原事務所）　一番ヶ瀬富士子・江島美恵子・桑原廣子・山口美佐子（文化財調査研究資料室）

遺物写真撮影……小松譲・古藤真理子

写真現像焼付……古藤真理子

写真整理・事務…樋口令子・松本綾子

5，遺構実測は一部作業員の補助のもとに調査員が行い、（株）埋蔵文化財サポートシステムに委託した。空中写真は（有）空中写真企画に委託した。遺構のデジタルトレースは（有）とっぺんに委託した。遺物実測の一部を（株）埋蔵文化財サポートシステムに委託した。

6，発掘調査、遺物整理に際して下記の方々から指導・助言を得た。

亀田修一・蒲原宏行・福田匡朗・久住猛雄（順不同・敬称略）

7，本書の編集は吉野進一の協力のもと小松譲が行った。

凡　例

1，遺跡の略号は下記のとおりである。

中原遺跡（ＮＡＫ）

2，遺構種別記号は次のとおりである。

ＳＨ：竪穴住居、ＳＢ：掘立柱建物、ＳＫ：土坑、ＳＤ：溝

3，各遺構番号は（遺構種別記号－番号）で連番とした。本書では発掘調査時の遺構番号を原則的にそのまま用いた。遺構番号の下 4 桁、5 桁は調査区を示す。

4，本書に掲載した遺物番号は挿図ごとに連番として本文中では挿図番号－遺物番号で表記した。写真図版遺物も同じである。

5，本書に用いた方位はすべて国土座標第Ⅱ系の座標北である。

6，遺物及び実測図の検索・照合のため、実測遺物全てに県遺物登録番号を付け表に付記した。

7，遺構・遺物写真、遺構・遺物実測図は佐賀県文化財調査研究資料室に保管する。

目　　次（第一分冊）

Ⅰ．調査の経過 …… 1
　1，調査に至る経過 …… 1
　2，調査組織 …… 3
　3，調査の方法と経過 …… 9
　　⑴　調査の方法 …… 9
　　⑵　調査の経過 …… 10

Ⅱ．遺跡の位置と環境 …… 16
　1，地理的環境 …… 16
　2，歴史的環境 …… 19

Ⅲ．調査の概要 …… 26
　1，中原遺跡の調査歴（小松） …… 26
　2，遺跡の概要 …… 26

Ⅳ．弥生～古墳時代の遺構と遺物 …… 51
　1，概要（小松）…… 51
　2，遺構 …… 52
　　⑴　竪穴住居跡（吉野、伊達、小松）…… 52
　　⑵　掘立柱建物跡（吉野、伊達）…… 140
　　⑶　土坑（吉野）…… 153
　3，遺物 …… 191
　　⑴　土器 …… 191
　　① 竪穴住居跡出土土器（小松） …… 191
　　② 掘立柱建物跡出土土器（小松） …… 272
　　③ 土坑出土土器（吉野） …… 273
　　⑵　石器（吉野）…… 301

Ⅴ．古代・中世の遺構と遺物 …… 361
　1，概要（小松）…… 361
　2，遺構（小松）…… 361
　　⑴　溝 …… 361
　　⑵　土坑 …… 361
　3，遺物（吉本）…… 364
　　⑴　溝 …… 364
　　⑵　土坑 …… 391

Ⅵ．総括 …… 406
　1，中原遺跡の弥生時代～古墳時代集落構造の変遷（小松） …… 406
　2，唐津地域出土の肥後系・島原半島系土器群（小松） …… 422

挿図目次

図－1　路線図(1/50000) …… 2
図－2　遺跡位置図 …… 16
図－3　旧海岸線・砂丘列地形分類図 (1/100000) …… 17
図－4　周辺遺跡分布図(1/70000) …… 20
図－5　主要遺跡分布図(1/50000) …… 23
図－6　調査区位置図(1/6000) …… 27
図－7　中原遺跡全調査区遺構配置図 (1/2000) …… 29・30
図－8　中原遺跡全景 …… 31
図－9　遺跡概略(1/6000) …… 32
図－10　11, 12, 13区遺構配置図(1/600)… 33・34
図－11　遺構配置図1(1/200) …… 35・36
図－12　遺構配置図2(1/200) …… 37・38
図－13　遺構配置図3(1/200) …… 39・40
図－14　遺構配置図4(1/200) …… 41・42
図－15　遺構配置図5(1/200) …… 43・44
図－16　遺構配置図6(1/200) …… 45・46
図－17　遺構配置図7(1/200) …… 47・48
図－18　遺構配置図8(1/200) …… 49・50
図－19　SH11003竪穴住居跡(1/60) …… 53
図－20　SH11004・11005竪穴住居跡(1/60)… 54
図－21　SH11012・11013竪穴住居跡(1/60)… 55
図－22　SH11027・11028竪穴住居跡(1/60)… 56
図－23　SH11029・11039竪穴住居跡(1/60)… 58
図－24　SH11047竪穴住居跡(1/60) …… 59
図－25　SH11052竪穴住居跡(1/60) …… 60
図－26　SH11055竪穴住居跡(1/60) …… 62
図－27　SH11061竪穴住居跡(1/60) …… 63
図－28　SH11064・11066竪穴住居跡(1/60)… 64
図－29　SH11068・11069竪穴住居跡(1/60)… 65
図－30　SH11081・11082竪穴住居跡(1/60)… 67
図－31　SH11094・11095竪穴住居跡(1/60)… 68
図－32　SH11096竪穴住居跡(1/60) …… 70
図－33　SH11098竪穴住居跡(1/60) …… 71
図－34　SH11106・11110竪穴住居跡(1/60)… 72
図－35　SH11111・11112竪穴住居跡(1/60)… 73
図－36　SH11113・11121竪穴住居跡(1/60)… 75
図－37　SH11122竪穴住居跡(1/60) …… 76
図－38　SH11127・11129竪穴住居跡(1/60)… 77
図－39　SH11130・11131竪穴住居跡(1/60)… 79
図－40　SH11133竪穴住居跡(1/60) …… 80
図－41　SH11138・11139竪穴住居跡(1/60)… 81
図－42　SH11140・11142竪穴住居跡(1/60)… 83
図－43　SH11143・11144竪穴住居跡(1/60)… 84
図－44　SH11147・11149竪穴住居跡(1/60)… 85
図－45　SH11150・11151竪穴住居跡(1/60)… 87
図－46　SH11152・11153竪穴住居跡(1/60)… 88
図－47　SH11154竪穴住居跡(1/60) …… 89
図－48　SH11156竪穴住居跡(1/60) …… 91
図－49　SH11159竪穴住居跡(1/60) …… 92
図－50　SH11160・11165竪穴住居跡(1/60)… 93
図－51　SH11166・11169竪穴住居跡(1/60)… 94
図－52　SH11175・11181竪穴住居跡(1/60)… 96
図－53　SH11182竪穴住居跡(1/60) …… 97
図－54　SH11183竪穴住居跡(1/60) …… 98
図－55　SH11187・11188竪穴住居跡(1/60)… 99
図－56　SH11189・11190竪穴住居跡(1/60)… 101
図－57　SH11204・11205竪穴住居跡(1/60)… 102
図－58　SH11206・11207竪穴住居跡(1/60)… 103
図－59　SH11209・11210竪穴住居跡(1/60)… 105
図－60　SH11211・11212竪穴住居跡(1/60)… 106
図－61　SH11216・11217竪穴住居跡(1/60)… 107
図－62　SH11219竪穴住居跡(1/60) …… 109
図－63　SH11229竪穴住居跡(1/60) …… 110
図－64　SH11230竪穴住居跡(1/60) …… 111
図－65　SH11231竪穴住居跡(1/60) …… 113
図－66　SH11252・11253竪穴住居跡(1/60)… 114
図－67　SH11254・11257竪穴住居跡(1/60)… 115
図－68　SH11258・11261竪穴住居跡(1/60)… 116
図－69　SH11262・11264竪穴住居跡(1/60)… 118
図－70　SH11267・11276竪穴住居跡(1/60)… 119
図－71　SH11279・11291竪穴住居跡(1/60)… 121
図－72　SH11293竪穴住居跡(1/60) …… 122
図－73　SH12027竪穴住居跡(1/60) …… 123
図－74　SH12028竪穴住居跡(1/60) …… 124

図－75　SH12035竪穴住居跡(1/60) …… 126
図－76　SH12036・12041竪穴住居跡(1/60)… 127
図－77　SH12043竪穴住居跡(1/60) …… 128
図－78　SH12052竪穴住居跡(1/60) …… 129
図－79　SH12053・12067竪穴住居跡(1/60)… 130
図－80　SH12068・13086竪穴住居跡(1/60)… 132
図－81　SH13115竪穴住居跡(1/60) …… 133
図－82　SH13154・13157竪穴住居跡(1/60)… 134
図－83　SH13158・13163竪穴住居跡(1/60)… 136
図－84　SH13212・13216竪穴住居跡(1/60)… 137
図－85　SH13246・13345竪穴住居跡(1/60)… 138
図－86　SH13375・13416竪穴住居跡(1/60)… 139
図－87　SB11009・11011掘立柱建物跡
(1/60) …… 141
図－88　SB11032・11033掘立柱建物跡
(1/60) …… 142
図－89　SB11038掘立柱建物跡(1/60) …… 143
図－90　SB11044・11046掘立柱建物跡
(1/60) …… 145
図－91　SB11058・11059掘立柱建物跡
(1/60) …… 146
図－92　SB11060・11077掘立柱建物跡
(1/60) …… 147
図－93　SB11079・11084掘立柱建物跡
(1/60) …… 148
図－94　SB11085・11088掘立柱建物跡
(1/60) …… 150
図－95　SB11089・11091掘立柱建物跡
(1/60) …… 151
図－96　SB11100・11101掘立柱建物跡
(1/60) …… 152
図－97　SB11102・11256掘立柱建物跡
(1/60) …… 154
図－98　SB11202掘立柱建物跡(1/60) …… 155
図－99　SK11006・11008土坑(1/30) …… 156
図－100 SK11010土坑(1/30) …… 157
図－101 SK11037・11051土坑(1/30)…… 159
図－102 SK11057・11072土坑(1/30)…… 160
図－103 SK11075・11105土坑(1/40,1/30) … 161
図－104 SK11114・11118土坑(1/40,1/30) … 163
図－105 SK11120土坑(1/30) …… 164
図－106 SK11123・11124土坑(1/30)…… 165
図－107 SK11128・11135土坑(1/40)…… 166
図－108 SK11148・11157土坑(1/40,1/60) … 167
図－109 SK11174・11186土坑(1/90,1/60) … 169
図－110 SK11214土坑(1/30) …… 170
図－111 SK11215土坑・SD11218溝状遺構
(1/30,1/60) …… 171
図－112 SK11232・11233土坑(1/30)…… 172
図－113 SK11238・11244土坑(1/30)…… 174
図－114 SK11246・11248土坑(1/30)…… 175
図－115 SK11250・11260土坑(1/30,1/60) … 176
図－116 SK11282・11297土坑(1/90,1/30) … 177
図－117 SK12005土坑(1/20) …… 179
図－118 SK12018・12025土坑(1/40)…… 180
図－119 SK12042土坑(1/20) …… 181
図－120 SK12044土坑(1/30) …… 182
図－121 SK12050・12051土坑(1/20,1/30) … 183
図－122 SK12070・12080土坑(1/60,1/40) … 184
図－123 SK12083土坑(1/60) …… 187
図－124 SK13010・13033土坑(1/30)…… 188
図－125 SK13140・13196土坑(1/40,1/30) … 189
図－126 SK13218・13368土坑(1/40,1/30) … 190
図－127 SH11003出土土器1(1/4) …… 192
図－128 SH11003出土土器2(1/4,1/6) …… 193
図－129 SH11005・11012出土土器
(1/3,1/4) …… 194
図－130 SH11013・11027出土土器
(1/2,1/3) …… 195
図－131 SH11028出土土器(1/3)…… 196
図－132 SH11029出土土器(1/3,1/4) …… 198
図－133 SH11039・11047出土土器(1/3) …… 199
図－134 SH11052・11055出土土器(1/3) …… 200
図－135 SH11061・11064出土土器
(1/3,1/4) …… 201
図－136 SH11066・11068出土土器
(1/3,1/4) …… 203
図－137 SH11069・11081出土土器(1/3) …… 204
図－138 SH11081・11082出土土器
(1/3,1/4) …… 205

図－139 SH11094・11095・11096・11098
出土土器(1/3) …… 206
図－140 SH11110・11111・11112出土土器
(1/3) …… 208
図－141 SH11112・11113・11121出土土器
(1/3,1/4) …… 210
図－142 SH11121・11122・11127出土土器
(1/3) …… 211
図－143 SH11129・11130・11131出土土器
(1/3,1/4) …… 212
図－144 SH11138出土土器(1/3,1/4) …… 213
図－145 SH11139・11140出土土器(1/3,1/4)… 215
図－146 SH11142・11143・11144出土土器
(1/3,1/4) …… 216
図－147 SH11144出土土器(1/3)…… 217
図－148 SH11147・11149出土土器(1/3) …… 219
図－149 SH11149・11150・11151・11152
出土土器(1/3) …… 220
図－150 SH11154・11159出土土器(1/3,1/4)… 221
図－151 SH11160・11165・11166出土土器
(1/3,1/4) …… 223
図－152 SH11169出土土器1(1/3) …… 224
図－153 SH11169出土土器2(1/3) …… 225
図－154 SH11169・11175出土土器(1/3) …… 226
図－155 SH11181・11182・11183出土土器
(1/3) …… 228
図－156 SH11187・11188出土土器(1/3) …… 229
図－157 SH11188出土土器(1/3)…… 230
図－158 SH11189・11190・11204出土土器
(1/3) …… 232
図－159 SH11205・11206出土土器(1/3,1/4)… 233
図－160 SH11206出土土器1(1/3,1/4) …… 234
図－161 SH11206出土土器2(1/3) …… 235
図－162 SH11207出土土器(1/3)…… 237
図－163 SH11207・11209・11210出土土器
(1/3) …… 238
図－164 SH11210・11212・11216出土土器
(1/3) …… 239
図－165 SH11217・11219出土土器
(1/3,1/4,1/6) …… 241
図－166 SH11228出土土器1(1/4) …… 242
図－167 SH11228出土土器2(1/3,1/4,1/6) … 243
図－168 SH11229・11230出土土器(1/3,1/4)… 244
図－169 SH11230・11231出土土器(1/3,1/4)… 245
図－170 SH11231出土土器(1/3)…… 247
図－171 SH11253・11254出土土器(1/3) …… 248
図－172 SH11258出土土器(1/3,1/4) …… 249
図－173 SH11261・11264出土土器(1/3) …… 251
図－174 SH11267・11279出土土器(1/3) …… 252
図－175 SH11279・11291出土土器(1/3) …… 253
図－176 SH11291・11293出土土器(1/3) …… 254
図－177 SH12027出土土器(1/3,1/4) …… 256
図－178 SH12027・12028・12035出土土器
(1/2,1/3,1/4,1/6) …… 257
図－179 SH12035出土土器1(1/4,1/6) …… 258
図－180 SH12035出土土器2(1/3,1/4、1/6) … 259
図－181 SH12035出土土器3(1/3,1/4,1/6) … 261
図－182 SH12036出土土器(1/4)…… 262
図－183 SH12036・12041・12043・12052
出土土器(1/3,1/4) …… 263
図－184 SH12053・12067・12068出土土器
(1/3) …… 264
図－185 SH13086・13115出土土器(1/3,1/6)… 267
図－186 SH13154・13157・13158出土土器
(1/3) …… 268
図－187 SH13163・13212出土土器(1/3,1/4)… 269
図－188 SH13212・13246出土土器(1/3,1/4)… 270
図－189 SH13345・13375・13416出土土器
(1/3,1/4) …… 271
図－190 SK11006・11008・11010・11037
出土土器(1/3) …… 274
図－191 SK11051・11057出土土器(1/3,1/4)… 275
図－192 SK11057出土土器1(1/3) …… 276
図－193 SK11057出土土器2(1/3,1/4) …… 277
図－194 SK11057・11072・11075・11105・
11118出土土器(1/3) …… 278
図－195 SK11120・11124・11128・11135
出土土器(1/3) …… 280
図－196 SK11148・11157出土土器(1/3) …… 282
図－197 SK11174・11186・11201出土土器

(1/3) …… 283
図－198 SK11214・11215・SD11218
出土土器(1/3) …… 284
図－199 SK11232・11233出土土器(1/3) …… 286
図－200 SK11233・11238・11244・11246
出土土器(1/3) …… 287
図－201 SK11248・11250・11260・11282
出土土器(1/3,1/4) …… 288
図－202 SK12005・12018出土土器(1/3,1/4)… 290
図－203 SK12018・12025・12042出土土器
(1/3, 1/6)…… 291
図－204 SK12044・12050・12051・12070・
12080出土土器(1/3,1/4) …… 292
図－205 SK12083出土土器(1/3,1/4) …… 293
図－206 SK13010出土土器(1/3) …… 295
図－207 SK13010・13033・13140・13196
出土土器(1/3,1/4) …… 296
図－208 SK13196・13218出土土器(1/3) …… 297
図－209 SK13368出土土器1(1/3) …… 298
図－210 SK13368出土土器2(1/3) …… 299
図－211 11～13区出土石器1(1/3) …… 302
図－212 11～13区出土石器2(1/3) …… 303
図－213 11～13区出土石器3(1/3) …… 304
図－214 11～13区出土石器4(1/3,1/4) …… 305
図－215 11～13区出土石器5(1/4) …… 306
図－216 11～13区出土石器6(1/4) …… 308
図－217 11～13区出土石器7(1/4) …… 309
図－218 11～13区出土石器8(1/2,1/3,1/4) … 310
図－219 SD11065土層図(1/40) …… 362
図－220 SK11263・13369土坑(1/40,1/30) … 363
図－221 SD11065出土土器1(1/3) …… 365
図－222 SD11065出土土器2(1/3) …… 367
図－223 SD11065出土土器3(1/3) …… 368
図－224 SD11065出土土器4(1/3) …… 370
図－225 SD11065出土土器5(1/3) …… 372
図－226 SD11065出土土器6(1/3) …… 374
図－227 SD11065出土土器7(1/3) …… 376
図－228 SD11065出土土器8(1/3) …… 377
図－229 SD11065出土土器9(1/3) …… 379
図－230 SD11065出土土器10(1/3)…… 380
図－231 SD11065出土土器11(1/3)…… 382
図－232 SD11065出土土器12(1/3)…… 384
図－233 SD11065出土土器13(1/3)…… 385
図－234 SD11065出土土器14(1/3)…… 387
図－235 SD11065出土土器15(1/3)…… 389
図－236 SK11263・13369出土土器(1/3) …… 392
図－237 11,12,13区遺構配置図1(1/600)…407・408
図－238 11,12,13区遺構配置図2(1/600)…409・410
図－239 11,12,13区遺構配置図3(1/600)…411・412
図－240 11,12,13区遺構配置図4(1/600)…413・414
図－241 11,12,13区遺構配置図5(1/600)…415・416
図－242 肥後系・島原半島系土器群1(1/3) …… 423
図－243 肥後系・島原半島系土器群2(1/3) …… 424
図－244 肥後系・島原半島系土器群3
(1/2, 1/3, 1/4)…… 425
図－245 肥前型器台の分布と台付甕地域 …… 429
図－246 宮ノ前北遺跡出土器台・午戌遺跡,
栢ノ木遺跡出土鏡 …… 430

表 目 次

表－１ 調査経過表 …… 8
表－２ 調査担当者一覧表 …… 9
表－３ 中原遺跡各調査区調査期間・担当者
一覧 …… 9
表－４ 中原遺跡報告書掲載地区一覧表 …… 14
表－５ 西九州自動車道建設に係る文化財調査
報告書一覧 …… 15
表－６ 竪穴住居跡一覧表(1)…… 312
表－７ 竪穴住居跡一覧表(2)…… 313
表－８ 11区掘立柱建物一覧表 …… 314
表－９ 土坑・溝状遺構一覧表(1) …… 314
表－10 土坑・溝状遺構一覧表(2) …… 315

表－11　竪穴住居出土土器一覧表(1)…… 316
表－12　竪穴住居出土土器一覧表(2)…… 317
表－13　竪穴住居出土土器一覧表(3)…… 318
表－14　竪穴住居出土土器一覧表(4)…… 319
表－15　竪穴住居出土土器一覧表(5)…… 320
表－16　竪穴住居出土土器一覧表(6)…… 321
表－17　竪穴住居出土土器一覧表(7)…… 322
表－18　竪穴住居出土土器一覧表(8)…… 323
表－19　竪穴住居出土土器一覧表(9)…… 324
表－20　竪穴住居出土土器一覧表(10) …… 325
表－21　竪穴住居出土土器一覧表(11) …… 326
表－22　竪穴住居出土土器一覧表(12) …… 327
表－23　竪穴住居出土土器一覧表(13) …… 328
表－24　竪穴住居出土土器一覧表(14) …… 329
表－25　竪穴住居出土土器一覧表(15) …… 330
表－26　竪穴住居出土土器一覧表(16) …… 331
表－27　竪穴住居出土土器一覧表(17) …… 332
表－28　竪穴住居出土土器一覧表(18) …… 333
表－29　竪穴住居出土土器一覧表(19) …… 334
表－30　竪穴住居出土土器一覧表(20) …… 335
表－31　竪穴住居出土土器一覧表(21) …… 336
表－32　竪穴住居出土土器一覧表(22) …… 337
表－33　竪穴住居出土土器一覧表(23) …… 338
表－34　竪穴住居出土土器一覧表(24) …… 339
表－35　竪穴住居出土土器一覧表(25) …… 340
表－36　竪穴住居出土土器一覧表(26) …… 341
表－37　竪穴住居出土土器一覧表(27) …… 342
表－38　竪穴住居出土土器一覧表(28) …… 343
表－39　竪穴住居出土土器一覧表(29) …… 344
表－40　竪穴住居出土土器一覧表(30) …… 345
表－41　竪穴住居出土土器一覧表(31) …… 346
表－42　竪穴住居出土土器一覧表(32) …… 347
表－43　竪穴住居出土土器一覧表(33) …… 348
表－44　竪穴住居出土土器一覧表(34) …… 349
表－45　土坑・溝状遺構出土土器一覧表(1) … 349
表－46　土坑・溝状遺構出土土器一覧表(2) … 350
表－47　土坑・溝状遺構出土土器一覧表(3) … 351
表－48　土坑・溝状遺構出土土器一覧表(4) … 352
表－49　土坑・溝状遺構出土土器一覧表(5) … 353
表－50　土坑・溝状遺構出土土器一覧表(6) … 354
表－51　土坑・溝状遺構出土土器一覧表(7) … 355
表－52　土坑・溝状遺構出土土器一覧表(8) … 356
表－53　土坑・溝状遺構出土土器一覧表(9) … 357
表－54　土坑・溝状遺構出土土器一覧表(10)… 358
表－55　11区～13区竪穴住居跡・土坑出土石器一覧表(1)…… 358
表－56　11区～13区竪穴住居跡・土坑出土石器一覧表(2)…… 359
表－57　11区～13区竪穴住居跡・土坑出土石器一覧表(3)…… 360
表－58　中世土坑一覧表…… 393
表－59　SD11065出土土器一覧表(1)…… 393
表－60　SD11065出土土器一覧表(2)…… 394
表－61　SD11065出土土器一覧表(3)…… 395
表－62　SD11065出土土器一覧表(4)…… 396
表－63　SD11065出土土器一覧表(5)…… 397
表－64　SD11065出土土器一覧表(6)…… 398
表－65　SD11065出土土器一覧表(7)…… 399
表－66　SD11065出土土器一覧表(8)…… 400
表－67　SD11065出土土器一覧表(9)…… 401
表－68　SD11065出土土器一覧表(10) …… 402
表－69　SD11065出土土器一覧表(11) …… 403
表－70　SD11065出土土器一覧表(12) …… 404
表－71　SD11065出土土器一覧表(13) …… 405
表－72　中世土坑出土土器一覧表 …… 405
表－73　集落時期編年表 …… 406
表－74　11～13区集落・墳墓時期別一覧 …… 421
表－75　唐津地域出土肥後系・島原半島系土器一覧 …… 428

巻頭図版目次

1，中原遺跡と松浦川
2，11 ～ 13 区全景と鏡山
3，11 区竪穴住居群の完掘と検出状況 1
11 区竪穴住居群の完掘と検出状況 2
4，11 区竪穴住居群の完掘と検出状況 3
11 区竪穴住居群検出状況
5，11 区竪穴住居群完掘状況 1
11 区竪穴住居群完掘状況 2
6，SH12035 竪穴住居跡遺物出土状況
SH12036 竪穴住居跡遺物出土状況
7，肥後系・島原半島系土器群
8，SH11230 出土羽口
SK13196 出土古式陶質土器

図版目次（第二分冊）

PL.1 1.11～13区 全景(南東上空から)…… 1
2.11区 全景(真上から) …… 1
PL.2 1.SH11003(南東から) …… 2
2.SH11004(南から) …… 2
3.SH11005(北から) …… 2
PL.3 1.SH11012(北西から) …… 3
2.SH11013(東から) …… 3
3.SH11027(北東から) …… 3
PL.4 1.SH11028(西から) …… 4
2.SH11028高杯出土状況(南東から) … 4
3.SH11029(南から) …… 4
4.SH11039(西から) …… 4
PL.5 1.SH11047(東から) …… 5
2.SH11052(東から) …… 5
3.SH11055(東から) …… 5
PL.6 1.SH11061(南から) …… 6
2.SH11064(西から) …… 6
3.SH11066(東から) …… 6
PL.7 1.SH11068(東から) …… 7
2.SH11068(右側) …… 7
SH11069(左側)(北から) …… 7
3.SH11069(西から) …… 7
PL.8 1.SH11081(南から) …… 8
2.SH11082(東から) …… 8
3.SH11094(南から) …… 8
PL.9 1.SH11095(西から) …… 9
2.SH11096(北西から) …… 9
3.SH11098(北から) …… 9
PL.10 1.SH11106(西から) …… 10
2.SH11110(東から) …… 10
3.SH11111(東から) …… 10
PL.11 1.SH11112(東から) …… 11
2.SH11113(北から) …… 11
3.SH11121(東から) …… 11
PL.12 1.SH11122(東から) …… 12
2.SH11127(東から) …… 12
3.SH11129(西から) …… 12
PL.13 1.SH11130(東から) …… 13
2.SH11131(東から) …… 13
3.SH11133(西から) …… 13
PL.14 1.SH11138(東から) …… 14
2.SH11139(東から) …… 14
3.SH11140(北から) …… 14
PL.15 1.SH11142(東から) …… 15
2.SH11143(東から) …… 15
3.SH11144(東から) …… 15
PL.16 1.SH11147(東から) …… 16
2.SH11149(東から) …… 16
3.SH11150(西から) …… 16
PL.17 1.SH11151(東から) …… 17

2.SH11152(東から) …… 17
3.SH11154(東から) …… 17
PL.18 1.SH11156(東から) …… 18
2.SH11159(東から) …… 18
3.SH11160(西から) …… 18
PL.19 1.SH11165(北から) …… 19
2.SH11166(西から) …… 19
3.SH11169(北から) …… 19
PL.20 1.SH11175(東から) …… 20
2.SH11181(東から) …… 20
3.SH11182(西から) …… 20
PL.21 1.SH11183(南から) …… 21
2.SH11187(西から) …… 21
3.SH11188(北から) …… 21
PL.22 1.SH11189(北から) …… 22
2.SH11190(東から) …… 22
3.SH11204(北から) …… 22
PL.23 1.SH11205(東から) …… 23
2.SH11206(東から) …… 23
3.SH11207(南から) …… 23
PL.24 1.SH11209(東から) …… 24
2.SH11210(北から) …… 24
3.SH11211(東から) …… 24
PL.25 1.SH11212(西から) …… 25
2.SH11216(南から) …… 25
3.SH11217(東から) …… 25
PL.26 1.SH11219(東から) …… 26
2.SH11229(西から) …… 26
3.SH11230(南から) …… 26
PL.27 1.SH11231(西から) …… 27
2.SH11252(南から) …… 27
3.SH11253(南から) …… 27
PL.28 1.SH11254(南西から) …… 28
2.SH11257(北東から) …… 28
3.SH11258(北東から) …… 28
PL.29 1.SH11261(東から) …… 29
2.SH11262(北から) …… 29
3.SH11264(東から) …… 29
PL.30 1.SH11267(北から) …… 30
2.SH11276(北から) …… 30
3.SH11279(西から) …… 30
PL.31 1.SH11291(西から) …… 31
2.SH11293(西から) …… 31
3.SH12027(南から) …… 31
PL.32 1.SH12027 東側焼土(西から) …… 32
2.SH12027 鉄片出土状況 …… 32
3.SH12027遺物出土状況(南西から) … 32
PL.33 1.SH12027土器出土状況1(東から)…… 33
2.SH12027土器出土状況2(北から)…… 33
3.SH12027土器出土状況3(東から)…… 33
PL.34 1.SH12027土器出土状況4(東から)…… 34
2.SH12027石器出土状況(南から) …… 34
3.SH12028(西から) …… 34
PL.35 1.SH12035(南から) …… 35
2.SH12035 遺物出土状況1(東から) … 35
3.SH12035 遺物出土状況2(西から) … 35
PL.36 1.SH12036 遺物出土状況(東から) …… 36
2.SH12041(北から) …… 36
3.SH12043(西から) …… 36
PL.37 1.SH12052(南東から) …… 37
2.SH12053(南から) …… 37
3.SH12067(西から) …… 37
PL.38 1.SH12068(西から) …… 38
2.SH13086(東から) …… 38
3.SH13115(北西から) …… 38
PL.39 1.SH13154(南から) …… 39
2.SH13157(南から) …… 39
3.SH13158(南から) …… 39
PL.40 1.SH13163(東から) …… 40
2.SH13212(北東から) …… 40
3.SH13216(南から) …… 40
PL.41 1.SH13246(北から) …… 41
2.SH13345(西から) …… 41
3.SH13375(北から) …… 41
PL.42 1.SH13416(西から) …… 42
2.SB11009(北東から) …… 42
3.SB11011(北東から) …… 42
PL.43 1.SB11032(南東から) …… 43

2.SB11033(南東から) …… 43
3.SB11038(南から) …… 43
PL.44 1.SB11044(南東から)…… 44
2.SB11046(南東から)…… 44
3.SB11058(東から) …… 44
PL.45 1.SB11059(1×3) …… 45
SB11060(1×1)(北から)…… 45
2.SB11077(北から) …… 45
3.SB11079(西から) …… 45
PL.46 1.SB11084(北から) …… 46
2.SB11085(東から) …… 46
3.SB11088(東から) …… 46
PL.47 1.SB11089・11091・11256(東から) … 47
2.SB11100(南から) …… 47
3.SB11101(西から) …… 47
PL.48 1.SB11102(西から) …… 48
2.SB11202(北から) …… 48
3.SB11202(南から) …… 48
PL.49 1.SK11008(東から) …… 49
2.SX11010(北から) …… 49
3.SX11051(東から) …… 49
PL.50 1.SX11057(西から) …… 50
2.SK11118(西から) …… 50
3.SK11120(北東から)…… 50
PL.51 1.SK11123(西から) …… 51
2.SK11148(東から) …… 51
3.SK11214(東から) …… 51
PL.52 1.SK11215(北から) …… 52
2.SK11232 勾玉出土状況(東から) …… 52
3.SK11232 勾玉アップ写真(東から) … 52
4.SK12005(北東から)…… 52
PL.53 1.SK12005 土層(南から) …… 53
2.SK12018(西から) …… 53
3.SK12018土器出土状況1(西から)…… 53
PL.54 1.SK12018土器出土状況2(西から)…… 54
2.SK12025 土層(南東から) …… 54
3.SK12025 完掘状況(北東から) …… 54
PL.55 1.SK12042土器出土状況(北西から) … 55
2.SK12042(西から) …… 55
3.SK12044 土器出土状況(東から) …… 55
PL.56 1.SK12044(西から) …… 56
2.SK12050土器出土状況(南西から) … 56
3.SK12051土器出土状況(東から) …… 56
PL.57 1.SK12051 土層(東から) …… 57
2.SK12083土器出土状況(東から) …… 57
3.SK12054(東から) …… 57
PL.58 1.SK12056 土層(南東から) …… 58
2.SK12083土器出土状況(東から) …… 58
3.SK12083 土層(東から) …… 58
PL.59 1.SK13010(南から) …… 59
2.SK13033(西から) …… 59
3.SK13368(南から) …… 59
PL.60 1.SD11065 全景(真上から) …… 60
2.SD11065 近景(北東から) …… 60
PL.61 1.SD11065 土層Ⅱ(南から) …… 61
2.SK11263(北から) …… 61
3.SK13369(北から) …… 61
PL.62 竪穴住居跡出土土器1…… 62
PL.63 竪穴住居跡出土土器2…… 63
PL.64 竪穴住居跡出土土器3…… 64
PL.65 竪穴住居跡出土土器4…… 65
PL.66 竪穴住居跡出土土器5…… 66
PL.67 竪穴住居跡出土土器6…… 67
PL.68 竪穴住居跡出土土器7…… 68
PL.69 竪穴住居跡出土土器8…… 69
PL.70 竪穴住居跡出土土器9…… 70
PL.71 竪穴住居跡出土土器10 …… 71
PL.72 竪穴住居跡出土土器11 …… 72
PL.73 竪穴住居跡出土土器12 …… 73
PL.74 竪穴住居跡出土土器13 …… 74
PL.75 竪穴住居跡出土土器14 …… 75
PL.76 竪穴住居跡出土土器15 …… 76
PL.77 竪穴住居跡出土土器16 …… 77
PL.78 竪穴住居跡出土土器17 …… 78
PL.79 竪穴住居跡出土土器18 …… 79
PL.80 竪穴住居跡出土土器19 …… 80
PL.81 竪穴住居跡出土土器20 …… 81
PL.82 竪穴住居跡出土土器21 …… 82

PL.83 竪穴住居跡出土土器22 …… 83
PL.84 竪穴住居跡出土土器23 …… 84
PL.85 竪穴住居跡出土土器24 …… 85
PL.86 竪穴住居跡出土土器25 …… 86
PL.87 竪穴住居跡出土土器26 …… 87
PL.88 竪穴住居跡出土土器27 …… 88
PL.89 竪穴住居跡出土土器28 …… 89
PL.90 竪穴住居跡出土土器29 …… 90
PL.91 竪穴住居跡出土土器30 …… 91
PL.92 竪穴住居跡出土土器31 …… 92
PL.93 竪穴住居跡出土土器32 …… 93
PL.94 竪穴住居跡出土土器33 …… 94
PL.95 竪穴住居跡出土土器34 …… 95
PL.96 竪穴住居跡出土土器35 …… 96
PL.97 竪穴住居跡出土土器36 …… 97
PL.98 竪穴住居跡出土土器37 …… 98
PL.99 竪穴住居跡出土土器38 …… 99
PL.100 竪穴住居跡出土土器39 …… 100
PL.101 竪穴住居跡出土土器40 …… 101
PL.102 竪穴住居跡出土土器41 …… 102
PL.103 竪穴住居跡出土土器42 …… 103
PL.104 竪穴住居跡出土土器43 …… 104
PL.105 土坑出土土器1 …… 105
PL.106 土坑出土土器2 …… 106
PL.107 土坑出土土器3 …… 107
PL.108 土坑出土土器4 …… 108
PL.109 土坑出土土器5 …… 109
PL.110 土坑・溝状遺構出土土器…… 110
PL.111 土坑出土土器6 …… 111
PL.112 土坑出土土器7 …… 112
PL.113 土坑出土土器8 …… 113
PL.114 土坑出土土器9 …… 114
PL.115 土坑出土土器10 …… 115
PL.116 土坑出土土器11 …… 116
PL.117 土坑出土土器12 …… 117
PL.118 土坑出土土器、竪穴住居跡・土坑出土
石器 …… 118
PL.119 竪穴住居跡、土坑、溝状遺構出土石器 … 119
PL.120 竪穴住居跡他出土石器 …… 120
PL.121 土坑、竪穴住居跡出土石器…… 121
PL.122 SD11065溝跡出土土器1 …… 122
PL.123 SD11065溝跡出土土器2 …… 123
PL.124 SD11065溝跡出土土器3 …… 124
PL.125 SD11065溝跡出土土器4 …… 125
PL.126 SD11065溝跡出土土器5 …… 126
PL.127 SD11065溝跡出土土器6 …… 127
PL.128 SD11065溝跡出土土器7 …… 128
PL.129 SD11065溝跡出土土器8 …… 129
PL.130 SD11065溝跡・SK11263土坑・
SK13369土坑出土土器…… 130

Ⅰ．調査の経過

１，調査に至る経過

西九州自動車道は福岡県福岡市から前原市、佐賀県唐津市、伊万里市、長崎県松浦市、佐世保市を経由して佐賀県武雄市に至り九州横断自動車長崎大分線と合流する総延長約 150km の路線であり、国土交通省九州地方整備局佐賀国道事務所の事業である。本埋蔵文化財発掘調査事業はこのうちの唐津道路・唐津伊万里道路・伊万里道路・伊万里松浦道路区間の約 45.2km（佐賀県分）を対象としている。

佐賀県教育委員会文化課（平成 21 年度から社会教育・文化財課）は佐賀国道事務所から道路建設事業の照会を受け、平成 6 年度から路線予定地の踏査および確認調査を実施した。文化財調査体制は開発事業が広域かつ大規模であることから調査主体は佐賀県教育委員会文化課とし、調査対象地の当該教育委員会からの職員派遣をうけた。これまでの本調査は唐津市堂の前遺跡・井ゲタ遺跡・末広遺跡・梅白遺跡・中原遺跡、唐津市浜玉町赤野遺跡・岩根遺跡・袈裟丸城跡・目貫古墳群・大江前遺跡・仁田古墳群・矢作遺跡・下新田古墳群・大坂古墳群、唐津市千々賀汐井川古墳群・古園遺跡・寺ノ元遺跡・千々賀遺跡・千田島Ⅱ遺跡、伊万里市打越遺跡がある。このうち、刊行した発掘調査報告書は 2000 年 3 月に『堂の前遺跡・井ゲタ遺跡』、2003 年 3 月に『梅白遺跡』、2006 年 3 月に唐津市浜玉町『大江前遺跡・目貫古墳群・赤野遺跡・袈裟丸城跡・岩根遺跡』2007 年 3 月に『中原遺跡Ⅰ』、2008 年 3 月に『中原遺跡Ⅱ』、2009 年 3 月に『中原遺跡Ⅲ』、2010 年 3 月に『中原遺跡Ⅳ』『仁田古墳群Ⅰ』、2011 年 3 月に『中原遺跡Ⅴ』『仁田古墳群Ⅱ』、2012 年 3 月に『中原遺跡Ⅵ』『矢作遺跡』などがある。

中原遺跡の調査は本調査事業以前に 2 回の発掘調査が実施されている。この 2 回の発掘調査地点は本事業調査区 11 区～１３区で確認できた。第一次調査は 1965 年 11 月 11 日～ 11 月 21 日の第一次日仏合同調査として行われた。弥生前期～中期後半の甕棺墓 6 基を調査した。また、このとき検出した石組遺構は本事業で確認した ST11158 前方後円墳の葺石であることが判った。

第二次調査は 1986 年 4 月～ 7 月にかけて分譲住宅地造成に伴い唐津市教育委員会が実施した。調査の結果、弥生時代中期の甕棺墓 3 基と古墳時代初頭の周溝墓 4 基と古墳時代中期の古墳周溝を確認した。本事業発掘調査は中原遺跡としては第 3 次調査になるが本事業の調査区の中に第一次、第二次調査の調査区が含まれる。

本調査に至る確認調査は平成 9 年 1 月～ 3 月にかけて実施した。確認調査担当は佐賀県文化課立石泰久（企画調整主査）・家田淳一（主査）・中尾賢治（調査補助員）である。確認調査対象地は路線内の宇木川以西から県道浜玉・相知線付近までである。佐賀国道事務所路線測点番号では NO480 ～ NO540 までである。3 m× 40 mを基本とする試掘坑を 57 本設定し重機による掘削を行った。この確認調査により梅白遺跡および中原遺跡の広がりを確認した。特に 36 トレンチから弥生時代終末の土器群が多量に出土したがこれは 2 区のＳＸ 246 にあたる。前述の第一次・第二次調査により中原遺跡は埋蔵文化財包蔵地として周知化されていたが、中原遺跡周辺は路線のインターチェンジ部分に相当しその開発面積も 80,000㎡を超える広大なものであった。平成 9 年度の確認調査により中原遺跡の範囲が拡大することが判り、小字原、西丸田も含めて遺跡の範囲を拡大した。但し、第一次・第二次調査地点は住宅地であり住宅移転も進んでおらず確認調査をすることはできなかったが遺跡があることは判っていたので調査対象地とした。また、この段階では古代の遺構・遺物が出土することはほとんど想定していなかった。このような経過を得て中原遺跡の調査対象面積を約 90,000㎡とし平成 11 年から本調査に着手した。

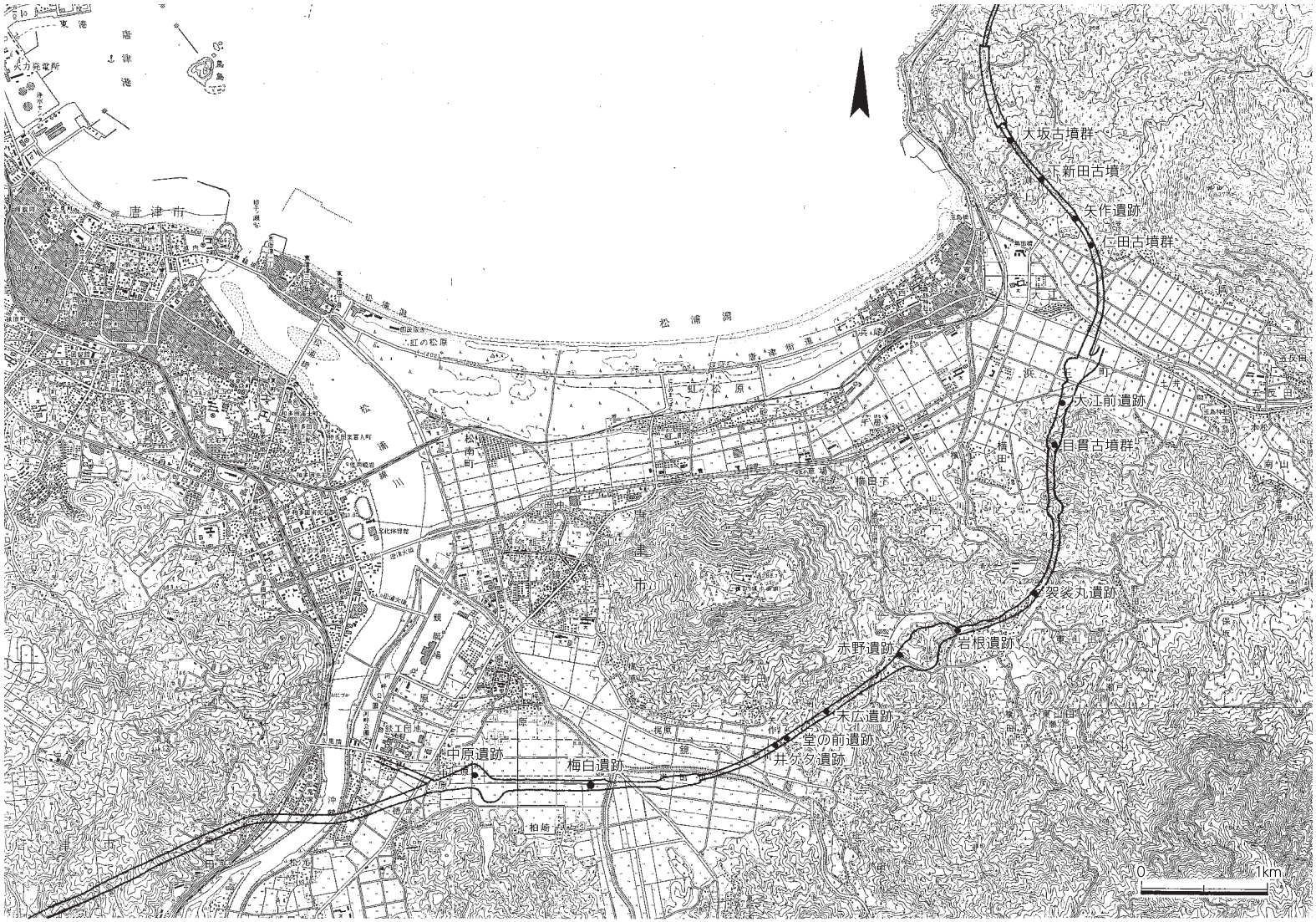


図１　路線図（1/50,000）

2，調査組織

調査主体　佐賀県教育委員会
調査協力　唐津市教育委員会

発掘調査（平成 13 年 4 月～ 18 年 3 月）

平成 13 年度

総括	佐賀県教育委員会	教育長	松尾　正廣
	佐賀県教育委員会	文化課長	佛坂　勝男
	佐賀県教育委員会	文化課参事	堤　　博文
	佐賀県教育委員会	文化課副課長	天本　洋一
	佐賀県教育委員会	文化課副課長	山口　康郎
調査総括	佐賀県教育委員会	文化課企画調整主査	立石　泰久
調査員	佐賀県教育委員会	文化課指導主事	小松　　譲
	佐賀県教育委員会	文化課指導主事	井上　倫生
	佐賀県教育委員会	文化課嘱託	辻村美代子
	佐賀県教育委員会	文化課嘱託	松浦　　智
	唐津市教育委員会	文化課職員	内田　孔明
庶務会計	佐賀県教育委員会	文化課専門員	天本　茂春
	佐賀県教育委員会	文化課主査	相川ミエ子
	佐賀県教育委員会	文化課主査	島田　一幸
	佐賀県教育委員会	文化課主事	陶山　　優

平成 14 年度

総括	佐賀県教育委員会	教育長	松尾　正廣
	佐賀県教育委員会	文化課長	佛坂　勝男
	佐賀県教育委員会	文化課参事	中園　一次
	佐賀県教育委員会	文化課副課長	天本　洋一
	佐賀県教育委員会	文化課副課長	山口　康郎
調査総括	佐賀県教育委員会	文化課企画調整主査	立石　泰久
調査員	佐賀県教育委員会	文化課指導主事	小松　　譲
	佐賀県教育委員会	文化課主査	川副麻理子
	佐賀県教育委員会	文化課嘱託	松浦　　智
	佐賀県教育委員会	文化課嘱託	松瀬　京子
	唐津市教育委員会	文化課職員	内田　孔明
庶務会計	佐賀県教育委員会	文化課専門員	天本　茂春
	佐賀県教育委員会	文化課主査	野口佐智子
	佐賀県教育委員会	文化課主査	島田　一幸
	佐賀県教育委員会	文化課主事	陶山　　優

平成 15 年度

総括	佐賀県教育委員会	教育長	松尾　正廣
	佐賀県教育委員会	文化課長	香月　博子
	佐賀県教育委員会	文化課参事	中園　一次
	佐賀県教育委員会	文化課副課長	天本　洋一
	佐賀県教育委員会	文化課副課長	川久保弘二郎
調査総括	佐賀県教育委員会	文化課企画調整主査	立石　泰久
調査員	佐賀県教育委員会	文化課指導主事	小松　　譲
	佐賀県教育委員会	文化課主査	川副麻理子
	佐賀県教育委員会	文化課嘱託	松瀬　京子
	佐賀県教育委員会	文化課嘱託	谷　洋一郎
	唐津市教育委員会	文化課職員	内田　孔明
庶務会計	佐賀県教育委員会	文化課専門員	天本　茂春
	佐賀県教育委員会	文化課主査	野口佐智子
	佐賀県教育委員会	文化課主査	島田　一幸
	佐賀県教育委員会	文化課主事	坂口　豪史

平成 16 年度

総括	佐賀県教育委員会	教育長	吉野　健二
	佐賀県教育委員会	文化課長	初村　健二
	佐賀県教育委員会	文化課副課長	天本　洋一
	佐賀県教育委員会	文化課副課長	福山　正廣
調査総括	佐賀県教育委員会	文化課係長	立石　泰久
調査員	佐賀県教育委員会	文化課指導主事	小松　　譲
	佐賀県教育委員会	文化課主査	川副麻理子
	佐賀県教育委員会	文化課嘱託	谷　洋一郎
	佐賀県教育委員会	文化課嘱託	大島　健司
	唐津市教育委員会	文化課職員	内田　孔明
庶務会計	佐賀県教育委員会	文化課係長	中原　吉朗
	佐賀県教育委員会	文化課主査	野口佐智子
	佐賀県教育委員会	文化課主査	島田　一幸
	佐賀県教育委員会	文化課主事	坂口　豪史

平成 17 年度

総括	佐賀県教育委員会	教育長	吉野　健二
	佐賀県教育委員会	文化課長	初村　健二
	佐賀県教育委員会	文化課参事	東中川忠美
	佐賀県教育委員会	文化課副課長	松本　誠一
	佐賀県教育委員会	文化課副課長	中村　　信

調査総括	佐賀県教育委員会	文化課主幹	西田　和己
調査員	佐賀県教育委員会	文化課指導主事	小松　　譲
	佐賀県教育委員会	文化課主査	川副麻理子
	佐賀県教育委員会	文化課嘱託	谷　洋一郎
	佐賀県教育委員会	文化課嘱託	大島　健司
	佐賀県教育委員会	文化課嘱託	田中健一郎
	唐津市教育委員会	文化課職員	美浦　雄二
庶務会計	佐賀県教育委員会	文化課係長	中原　吉朗
	佐賀県教育委員会	文化課主査	平尾　和子
	佐賀県教育委員会	文化課主査	黒木　文好
	佐賀県教育委員会	文化課主事	山口　徹也

発掘作業員　平成 13 年度～平成 17 年度

〔H 13 年度〕

青木淳一、阿賀野千鶴、安藤剛、磯口裕子、市丸和子、市丸クミエ、伊藤末司、伊藤正子、井上義秋、岩田桂子、岩田泰浩、岩村正、内山智子、浦津正美、大木壽明、緒方義春、小栗三行、小副川初美、小野尾千代香、片峰秋子、片峰節子、加茂春江、小石加奈子、古賀和江、佐伯明、佐伯ヨシ子、坂本ヱキヨ、坂本直久、重カズヨ、田中フサ子、谷口やす子、堤怜子、手島茂一、戸野川一二、長嶋サツエ、中島康子、中村静江、鍋島フミ子、野口洋一、野崎徳蔵、長谷川三男、馬場重治、藤瀬哲代、古川善彦、増井博、松下一枝、豆田紀久子、三塩タチ子、森智恵子、吉岡俊雄、吉村百合子、米倉幸一郎、脇山忠義、脇山ツタ子、脇山典子、脇山春雄、脇山マスエ、脇山美佐子、渡辺フサエ

〔H 14 年度〕

阿賀野千鶴、安藤剛、市丸和子、市丸クミエ、伊藤末司、伊藤正子、井上義秋、岩田桂子、岩村正、浦津正美、緒方義春、小栗三行、小副川初美、小野尾千代香、片峰秋子、小石加奈子、古賀和江、佐伯明、佐伯ヨシ子、坂本ヱキヨ、坂本直久、重カズヨ、田中フサ子、谷口やす子、堤怜子、手島茂一、戸野川一二、中村静江、鍋島フミ子、野口洋一、野崎徳蔵、長谷川三男、馬場重治、藤瀬哲代、古川善彦、増井博、松下一枝、豆田紀久子、三塩タチ子、森智恵子、吉岡俊雄、吉村百合子、米倉幸一郎、脇山忠義、脇山ツタ子、脇山典子、脇山春雄、脇山マスエ、脇山美佐子

〔H 15 年度〕

阿賀野千鶴、安藤剛、市丸和子、市丸クミエ、伊藤末司、伊藤正子、井上義秋、岩田桂子、内山清信、浦津正美、緒方義春、小副川初美、片峰秋子、小石加奈子、古賀和江、佐伯明、佐伯ヨシ子、坂本ヱキヨ、坂本直久、重カズヨ、田中フサ子、谷口やす子、手島茂一、戸野川一二、中村静江、鍋島フミ子、野口洋一、野崎徳蔵、馬場重治、原直嗣、藤瀬哲代、古川善彦、増井博、松下一枝、豆田紀久子、三塩タチ子、森智恵子、吉岡俊雄、吉村百合子、米倉幸一郎、脇山忠義、脇山ツタ子、脇山典子、脇山春雄、脇山マスエ

〔H 16 年度〕

阿賀野千鶴、市丸和子、市丸クミエ、伊藤末司、伊藤正子、井上義秋、岩田桂子、内山清信、浦津正美、緒方義春、小副川初美、片峰秋子、小石加奈子、佐伯明、佐伯ヨシ子、坂本ヱキヨ、坂本直久、重カズヨ、谷口やす子、手島茂一、戸野川一二、中村静江、鍋島フミ子、野口洋一、野崎徳蔵、馬場重治、藤瀬哲

代、古川善彦、増井博、松下一枝、豆田紀久子、三塩タチ子、森智恵子、吉岡俊雄、吉村百合子、米倉幸一郎、脇山忠義、脇山ツタ子、脇山典子、脇山春雄、脇山マスエ
〔H 17 年度〕
阿賀野千鶴、石本雅生、市丸クミエ、伊藤末司、伊藤正子、岩田桂子、上野政喜、浦津正美、大谷節子、緒方義春、小副川初美、片峰秋子、川﨑はつえ、川﨑美登香、小石加奈子、佐伯明、坂本直久、重カズヨ、進藤英司、谷口やす子、中山博司、野口洋一、野崎徳蔵、橋本静夫、馬場重治、藤瀬哲代、増井博、松下一枝、豆田紀久子、三塩タチ子、森智恵子、吉岡俊雄、吉村百合子、米倉幸一郎、脇山忠義、脇山典子

室内整理作業　平成 13 年度～平成 23 年度
報告書作成　平成 24 年度

総括	佐賀県教育委員会	教育長	川﨑　俊広
	佐賀県教育委員会	文化財課長	松本　啓嗣
	佐賀県教育委員会	文化財課副課長	森田　孝志
	佐賀県教育委員会	文化財課副課長	森永　哲生
調査総括	佐賀県教育委員会	文化財課主幹	小松　　譲
調査員	佐賀県教育委員会	文化財課主査	梶山　裕史
	佐賀県教育委員会	文化財課主査	吉本　健一
	佐賀県教育委員会	文化財課嘱託	吉野　進一
	佐賀県教育委員会	文化財課嘱託	伊達　惇一朗
庶務会計	佐賀県教育委員会	文化財課係長（吉野ヶ里遺跡担当）	原﨑　弘成
	佐賀県教育委員会	文化財課主事（吉野ヶ里遺跡担当）	前田　亮太
	佐賀県教育委員会	文化財課主事（文化財指導・世界遺産推進担当）	黒田　康裕

調査補助員・整理作業員　平成 13 年度～平成 23 年度
〔H 13 年度〕
唐津中原事務所
調査補助員：美浦あずさ
整理作業員：池内理恵、市丸宮子、浦田照千代、菊池孝子、桑代ゆかり、辻美紀子、馬場薫、松本いつ子、三浦美智子、渡部直美
佐賀県文化財調査研究資料室
整理作業員：奥知恵子、村里育子
〔H 14 年度〕
唐津中原事務所
整理作業員：青木淳一、池内理恵、市丸宮子、浦田照千代、菊池孝子、桑代ゆかり、辻美紀子、徳田まり子、中島美佳、馬場薫、松本いつ子、美浦あずさ、三浦美智子、脇山邦子、渡部直美
佐賀県文化財調査研究資料室
整理作業員：奥知恵子、村里育子

〔H 15 年度〕
唐津中原事務所
整理作業員：池内理恵、市丸宮子、浦田照千代、菊池孝子、桑代ゆかり、辻美紀子、徳田まり子
中島美佳、馬場薫、松本いつ子、美浦あずさ、脇山邦子、渡部直美
佐賀県文化財調査研究資料室
調査補助員：百崎正子
整理作業員：奥知恵子、村里育子
〔H 16 年度〕
唐津中原事務所
整理作業員：池内理恵、市丸宮子、浦田照千代、菊池孝子、桑代ゆかり、辻美紀子、徳田まり子
中島美佳、松本いつ子、美浦あずさ、脇山邦子、渡部直美
佐賀県文化財調査研究資料室
調査補助員：百崎正子
整理作業員：江副明子、奥知恵子、村里育子
〔H 17 年度〕
唐津中原事務所
整理作業員：池内理恵、市丸宮子、浦田照千代、菊池孝子、桑代ゆかり、坂本直久、辻美紀子
徳田まり子、中島美佳、松本いつ子、美浦あずさ、脇山邦子、渡部直美
佐賀県文化財調査研究資料室
整理作業員：江副明子、奥知恵子、村里育子
〔H 18 年度〕
唐津中原事務所
整理作業員：池内理恵、市丸宮子、浦田照千代、菊池孝子、桑代ゆかり、坂本直久、徳田まり子
中島美佳、松本いつ子、美浦あずさ、脇山邦子、渡部直美
佐賀県文化財調査研究資料室
整理作業員：江副明子、奥知恵子、村里育子
〔H 19 年度〕
唐津中原事務所
調査補助員：美浦あずさ
整理作業員：市丸宮子、浦田照千代、大薗聖子、川原里美、菊池孝子、桑代ゆかり、坂本直久
徳田まり子、中島美佳、松本いつ子、脇山邦子、渡部直美
佐賀県文化財調査研究資料室
整理作業員：江島美恵子、桑原廣子、上瀧光子、山口美佐子
〔H 20 年度〕
唐津中原事務所
調査補助員：美浦あずさ
整理作業員：市丸宮子、大薗聖子、川原里美、菊池孝子、桑代ゆかり、古藤真理子、徳田まり子、松本
綾子、松本いつ子、脇山邦子
佐賀県文化財調査研究資料室

整理作業員：一番ヶ瀬富士子、江島美恵子、桑原廣子、山口美佐子
〔H 21 年度〕
唐津中原事務所
調査補助員：美浦あずさ
整理作業員：大薗聖子、菊池孝子、桑代ゆかり、古藤真理子、徳田まり子、松本綾子、松本いつ子、
脇山邦子
佐賀県文化財調査研究資料室
整理作業員：一番ヶ瀬富士子、江島美恵子、桑原廣子
〔H 22 年度〕
唐津中原事務所
調査補助員：美浦あずさ
整理作業員：大薗聖子、菊池孝子、桑代ゆかり、古藤真理子、樋口令子、松本いつ子、脇山邦子
佐賀県文化財調査研究資料室
整理作業員：桑原廣子（五十音順）
〔H２３年度〕
唐津中原事務所
調査補助員：美浦あずさ
整理作業員：大薗聖子、桑代ゆかり、古藤真理子、樋口令子、松本綾子、松本いつ子
佐賀県文化財調査研究資料室
整理作業員：桑原廣子（五十音順）
〔H２４年度〕
唐津中原事務所
調査補助員：美浦あずさ
整理作業員：大薗聖子、桑代ゆかり、古藤真理子、樋口令子、松本綾子、松本いつ子、山浦美香
佐賀県文化財調査研究資料室
整理作業員：桑原廣子（五十音順）

表 1　調査経過表

年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
A班	井上・松浦	小松・松瀬	内田・松瀬	内田・大嶋	川副・田中
B班	内田・松瀬	川副・松浦	川副・谷	川副・谷	谷
11区					
10区					
14-1区					
9-2区					
12区					
13区					
14-2区					
9-3区					
14-3区					

表２　調査担当者一覧表

年度		佐賀県(職員)	(嘱託)	唐津市職員	資料室(嘱託)
平成13	2001	立石・小松・井上	辻村・松浦	内田	吉田
平成14	2002	立石・小松・川副	松浦・松瀬	内田	百崎
平成15	2003	立石・小松・川副	松瀬・谷	内田	大嶋
平成16	2004	立石・小松・川副	大嶋・谷	内田	松瀬
平成17	2005	西田・小松・川副	大嶋・谷・田中(9月まで)	美浦（10月から）	児玉
平成18	2006	西田・小松・川副	丹羽・児玉	美浦	小森
平成19	2007	西田・小松・川副	戸塚・藤原・田中(10月から)	美浦	小森
平成20	2008	小松・梶山・井上・市川	戸塚・田中・藤原	美浦	小森
平成21	2009	小松・梶山・井上・市川	戸塚・藤原・土屋	美浦（9月まで）	—
平成22	2010	小松・井上・市川	吉野・伊達	美浦（12月まで）	—
平成23	2011	小松・井上・吉本	吉野・伊達	美浦（9月まで）	—
平成24	2012	小松・梶山・吉本	吉野・伊達	—	—

表３　中原遺跡各調査区調査期間・担当者一覧

調査区	調　査　期　間	主　な　担　当　者
９－2区	H14．4.10～H14.11.27	小松・松瀬
９－3区	H16.12．7～H17．3．2	内田・大嶋
10区	H13．9.27～H13.12．7	井上・松浦
11区	H13．5.28～H15.12.16	内田・井上・松浦．松瀬・川副・谷
12区	H14.10．7～H16.10.28	小松・松瀬・内田・大嶋
13区	H14.12.10～H17．9.27	川副・　谷　・小松
14－１区	H14．3．8～H15．3.15	川副・松浦
14－２区	H15.10.20～H16．3.19	内田・松瀬
14－３区	H17．4.22～H17．7．1	川副・田中

３，調査の方法と経過

(1)　調査の方法

中原遺跡の略号はＮＡＫとし調査区の呼称は算用数字を用い１区であれば「ＮＡＫ－１」とし、図面や写真、遺物の注記など記録類の表示に用いた。調査区内を現道路などの区画により１区から 14 区の調査区に分け、さらに調査年度や調査工程上、細分し 14 －１区、14 －２区などのように表示した。11 区、12 区、13 区の現況は水田、畑、宅地であり、それらの区画によりそれぞれの調査区を設定した。

調査区画は国土座標にあわせＸ＝ 46260、Ｙ＝ -92700 の交点を原点とする 10 ｍ× 10 ｍの方眼区画を設定した。南北方向をアルファベットとし北から南にＡ～Ｇ、東西方向を算用数字にし東から西に１～59 とし、グリッド(区画)名をアルファベット－算用数字で表記した。各グリッドの北東杭をグリッド杭とし、杭にグリッド名を表示した。

遺構番号は３桁の一連の番号とし、４桁、５桁目は調査区を示すことにした。この遺構番号の頭に遺構の種別を示すアルファベット２文字の分類記号を付けて表示した。柱穴は調査区ごとの４桁の一連番号とし４桁目は調査区を示すことにした。

遺構の写真は白黒、カラーリバーサルとも４×５、ブローニー、35mm を使用し、カラーネガは 35mm のみに使用した。また、必要に応じ気球や高所作業車(ハイライダー)による写真撮影を実施した。

調査にあたっては基本土層を設定し、表土は重機により掘削し、包含層は人力掘削を原則とした。ただし、出土遺物が少ない包含層は重機掘削を行った。

(2) 調査の経過

中原遺跡の調査は平成 11 年 7 月 5 日の 1 区の重機による表土掘削から始まった。終了は平成 17 年 9 月であり、調査期間は約 6 年間である。平成 11 年度～平成 12 年度はおもに 1 区から 7 区の古代の遺構と遺物の調査であり、『中原遺跡Ⅰ』、『中原遺跡Ⅱ』、『中原遺跡Ⅲ』で報告した。

本報告書に掲載する調査区は 12 区、13 区であり、その調査期間は平成 14 年 10 月から平成 17 年 3 月である。調査は主に 2 班体制で行い、この調査期間中に 9 区、10 区、11 区、14 区の調査も併行したために 9 区～ 14 区の調査経過を記す。

11 区の調査は平成 13 年 5 月末から始めた。調査区内の除草作業のち人力によるトレンチ掘り下げを開始した。主担当は B 班であり、7 月は A・B 班合同で 11 区の調査を行った。本調査区はこれまでの唐津市教育委員会や日仏合同調査結果などでも遺構密度が高いことが予想されたが、現況が宅地であり、用地買収などの関係で充分な予備調査ができなかったため、当初は慎重に調査を計画し、トレンチを設定し人力掘削をおこない、表土や包含層の厚さなどを調べた。

7 月上旬、11 区の重機による表土掘削に着手した。7 月下旬、ST11002 古墳の葺石を検出し、唐津市教育委員会の調査区も確認できた。9 月、竪穴住居などの遺構を検出し掘り下げに入った。

9 月 27 日、10 区の重機による表土掘削を開始し、10 月上旬から A 班は 10 区の人力による遺構検出に着手した。10 区は 10-1 区、10-2 区、10-3 区に分かれるが、12 月上旬には調査を終了した。その後、A 班は 11 区の調査に合流した。

10 月、11 区の直線溝である SD11065 の掘り下げ、11 月から 12 月にかけて ST11002 古墳や ST11067 古墳、ST11141 古墳の周溝掘り下げに入った。

12 月上旬、ST11141 古墳の主体部を確認した。

平成 14 年 1 月、竪穴住居や土坑など集落域の調査が本格化してきた。2 月、テレビ局の番組のロケ撮影に協力した。調査員、作業員もエキストラとして出演した。11 区の東側から中央部にかけて甕棺は希薄であったが、2 月頃から甕棺の調査にも入った。

3 月 8 日、14-1 区の重機による表土掘削を開始し 4 月から人力掘削を始めた。14-1 区はさらに 3 つの調査区に分かれるが、北側 2 つの調査区の包含層掘り下げを実施した。A 班が 11 区と 14-1 区の調査を併行して行った。

4 月上旬、9-2 区の重機による表土掘削を開始し、引き続き人力掘削による遺構の掘り下げ作業に入った。9-2 区は A 班が担当した。9-2 区からは SD11065 の延長の溝である SD901 や掘立柱建物群を検出した。11 区は B 班が担当し 4 月以降、竪穴住居や甕棺の掘り下げ作業を行った。また、B 班は 14-1 区の包含層掘り下げも併行した。

5 月、9-2 区から方格規矩鏡片が出土した。

6 月、9-2 区の調査区北側の低地部から木組遺構を検出した。

8 月、9-2 区の調査区東側の重機による表土掘削を再開した。その結果、掘立柱建物群を検出した。高島忠平先生から調査指導を受けた。

8 月下旬、14-1 区から鋳型が出土した。9 月から 10 月にかけて 9-2 区の調査区北側の低地部からは木組遺構のほか、柱材やねずみ返しなどの建築部材が出土した。

10 月上旬、12 区の重機による表土掘削を開始した。表土は薄く、重機で剥いだ遺構検出面から石製

把頭飾が出土した。10 月 23 日、福富中学校 1 年生の発掘体験学習を 11 区で行った。

11 月下旬、9-2 区の調査が終了した。A 班は 12 区の調査に入った。

12 月中旬、13 区南東部の重機による表土掘削をおこなった。その結果、11 区～ 13 区にまたがる ST11158 前方後円墳を検出した。また、日仏合同調査のトレンチを確認した。日仏合同調査に確認されていた石列は ST11158 前方後円墳の葺石であることも判明した。

平成 15 年 1 月、ST11158 前方後円墳の後円部墳丘部下検出の甕棺群から硬玉製や碧玉製の玉類などが出土した。

2 月、12 区で ST12032 を検出し周溝掘り下げを開始した。また、14 区から鋳型片が出土した。小田富士雄先生から調査指導を受けた。

3 月、11 区の甕棺から銅矛や鉄斧や鉄鉇などが出土し、厚葬墓群が明確になってきた。

平成 15 年 4 月､嘱託職員の谷が着任した。松浦の後任である。A 班は内田､松瀬､B 班は川副､谷の体制で､A 班は 12 区を、B 班は 13 区と 11 区の残務を担当した。

4 月下旬、鏡ケーブル TV の取材があった。12 区は ST12032 古墳の周溝掘り下げ、13 区は ST11158 古墳の周溝掘り下げを 4 月から 5 月にかけて行った。

5 月、ST12032 周溝内にて甕棺を検出し調査した。

5 月中旬、九州大学岩永先生から銅矛、鋳型についての調査指導を受けた。

5 月下旬、高所作業車による ST12032 古墳と ST11158 古墳の全景写真撮影を実施した。

6 月、ST12032 墳丘、周溝の平板測量（1 回目）実施。13 区の近・現代墓の掘り下げを実施、ほぼ終了した。

6 月 5 日、銅矛、鋳型の記者発表を行った。

6 月 7 日、現地説明会を実施、見学者は約 150 名であった。

7 月、12 区は弥生時代後期の竪穴住居他の調査を実施、13 区は前方後円墳の後円部墳丘上の厚葬甕棺墓周囲の祭祀土坑の調査を行った。

7 月下旬、13 区甕棺墓より鉄矛出土。12 区の竪穴住居から鏡の紐片や碧玉原石片なども出土した。

8 月、SX12012 の周溝掘り下げを開始した。

9 月、14-2 区の調査に入るため、プレハブを移動し重機による盛土、表土掘削を開始した。

9 月上旬、甕棺墓より円環型銅釧 3 点が出土した。下旬には福富中学校の発掘体験学習を行った。12 区は周溝墓群の掘り下げを行った。ST12002 古墳の周溝掘り下げを開始した。

10 月、SX12048 周溝掘り下げを開始した。

10 月下旬、14-2 区の人力掘削に着手した。担当は A 班である。12 区と 14-2 区の調査を併行した。

11 月中旬、13 区の甕棺墓から碧玉製管玉 108 点や円環型銅釧 12 点が出土、円環型銅釧や石製玉類など装身具の副葬が際だってきた。また、13 区の南側を重機により表土掘削して拡張した。

12 月、12 区 ST12032 古墳の周溝内埋葬施設である石棺墓を検出、12 月 12 日、福岡大学武末先生から中原遺跡出土陶質土器についての調査指導を受けた。

平成 16 年 1 月 15 日、宮崎大学柳沢先生から中原遺跡検出の古墳について調査指導をうけた。

2 月、SX12038、12065、12081 周溝墓の掘り下げを実施。

2 月 22 日、鏡地区の「まつらの姫達の宴ウオーキング」で中原遺跡見学に協力した。

2 月 26 日、東京大学後藤先生から青銅器ほかの調査指導をうけた。

3 月 3 日、愛媛大学村上先生から鉄器の調査指導をうけた。その結果、遺跡内で弥生時代後期～終末

期に鍛冶が行われていたことが確実になった。

2月から3月にかけて、12区は周溝墓群の調査、13区は甕棺墓の掘り下げを継続した。また、3月末で14-2区の調査が終了した。

平成16年、4月から松瀬にかわって大嶋が着任した。A班内田、大嶋、B班川副、谷の体制で12区、13区を引き続いて担当した。

4月、ST12032墳丘、周溝の平板測量（2回目）実施。

5月、唐津市北波多上平野遺跡の調査にはいった。

5月末、鏡山小学校6年生の遺跡見学があった。また、13区南側の包含層掘り下げを実施した。この谷状の落ち込みから多量の農具や工具などの木製品や土器片が出土した。

6月、SK13230、SK13231掘り下げ、SK13231から獣形勾玉出土。

7月上旬、久里小学校6年生の遺跡見学があった。また、SK13231から鏡片、石製玉類が出土した。SK13252の掘り下げを行った。さらに、円環型銅釧の公表を行った。

8月上旬、13区南側の落ち込みから鋳型片出土。14区出土の鋳型と接合した。また、木組遺構や杭列なども検出し、木組遺構埋土から多量の堅果が出土した。

9月上旬、13区の空中写真撮影を実施した。

10月、13区南側の落ち込みの木組遺構の調査が終了した。落ち込み内を横断する数条からなる杭列とそれに直交する木樋を検出した。11月にかけて調査を継続し、鋳型片なども出土した。
12区西側の一部を拡張した。SK12090、SC12091を掘り下げた。
11月中旬、熊本大学甲元先生から調査指導をうけた。

11月末で13区南側落ち込みの調査が終了した。調査終了後、工事用の仮設道路施工のため埋め戻された。また、12区西側のSC12092から鉄剣、刀などが出土した。
12月、ST13398周溝掘り下げを開始した。

12月上旬、9-3区の重機による表土掘削を開始した。調査はA班が担当した。

平成17年1月、13区の墳丘墓の周溝埋土からは人頭大の葺石が出土した。またST13414の主体部から内行花文鏡片が出土した。9-3区では11区から延長して伸びる古代の直線溝を検出した。

2月、墳丘墓間に位置する土壙墓群から小形仿製鏡、素環頭刀子、ガラス小玉などが出土した。また、ST13415の主体部の調査に着手し、鏡片が出土した。

2月下旬、熊本大学木下先生に石製玉類の調査指導をうけた。

3月、ST13415の周溝内埋葬施設の掘り下げを行った。方格規矩鏡片が出土した。また、駒沢大酒井先生や別府大下村先生の調査指導を受けた。3月末で9-3区の調査が終了した。

平成17年4月、田中が着任した。14-3区の重機による表土掘削後人力掘削を開始した。5月、6月と包含層の掘り下げを継続し、三叉鍬やリース状木製品などが出土した。6月末で調査を終了した。

8月中旬、青銅鏡を公表した。

8月下旬、13区北西端にあたる市道部の調査に着手した。重機掘削のち、人力掘削を継続した。道路中央部に水道管が埋設されており大半が攪乱されていた。ST13415墳丘墓の西側周溝は確認できなかった。この市道部の調査も9月末で終了した。これにより、中原遺跡の全ての調査が終了した。

調査日誌

平成 13 年（2001 年）

5 月 28 日　11 区トレンチ掘り下げ開始
6 月 6 日　甲元眞之先生来訪、土壌水洗機搬入
7 月 17 日　ST11002 の葺石を検出
8 月 3 日　唐津市教育委員会調査区を確認
8 月 22 日　A 班、5 区の調査に移動
9 月 10 日　石野博信先生来訪
9 月 27 日　10 区重機掘削開始
12 月 7 日　ST11141 の主体部確認

平成 14 年（2002 年）

1 月 25 日　ST11141 周溝から馬具出土
1 月 30 日　蒲原宏行氏調査指導
2 月 6 日　11 区空中写真撮影
2 月 12 日　北波多地区確認調査開始
3 月 8 日　14-1 区重機掘削開始
4 月 10 日　9-2 区重機掘削開始
4 月 17 日　9-2 区人力掘削開始
4 月 22 日　14 区人力掘削開始
5 月 23 日　9-2 区より方格規矩鏡片出土
5 月 28 日　9-2 区、11 区、ハイライダーによる写真撮影
7 月 24 日　田辺昭三先生来訪
8 月 2 日　9-2 区、11 区、ハイライダーによる写真撮影
8 月 6 日　高島忠平先生調査指導
8 月 7 日　田中正日子先生来訪
8 月 28 日　14 区から鋳型出土
10 月 7 日　12 区重機による表土掘削開始
10 月 23 日　福富中学校生徒発掘体験
10 月 24 日　甲元眞之先生来訪
11 月 13 日　9-2 区空中写真撮影
12 月 2 日　ST11158 古墳は前方後円墳と確認
12 月 5 日　14 区、ハイライダーによる写真撮影

平成 15 年（2003 年）

2 月 19 日　小田富士雄先生調査指導
2 月 21 日　11 区空中写真撮影
2 月 24 日　11 区、ハイライダーによる写真撮影
3 月 10 日　佐田先生調査指導
5 月 13 日　岩永先生調査指導
5 月 28 日　ST11158 古墳ハイライダーによる写真撮影
6 月 5 日　銅矛、鋳型記者発表
6 月 7 日　現地説明会
7 月 2 日　唐木田先生、藤瀬氏来訪
7 月 24 日　鉄矛出土、村上先生来訪
9 月 3 日　ハイライダーによる写真撮影
9 月 4 日　SJ13112 から円環型銅釧出土
9 月 17 日　福富中学校生徒発掘体験
11 月 7 日　村上先生来訪
11 月 18 日　SJ13134 から円環型銅釧出土
12 月 12 日　武末純一先生調査指導

平成 16 年（2004 年）

1 月 15 日　柳沢先生調査指導
12 区 ST12032 全景写真撮影
2 月 26 日　後藤直先生調査指導
3 月 3 日　村上先生調査指導
3 月 11 日　気球写真撮影
3 月 12 日　ハイライダーによる写真撮影
3 月 15 日　柳田康雄氏来訪
4 月 28 日　北波多村上平野遺跡重機掘削開始
5 月 27 日　鏡山小学校児童遺跡見学
7 月 1 日　久里小学校児童遺跡見学
7 月 2 日　SP13231 より鏡片出土
7 月 7 日　円環型銅釧公表
7 月 9 日　中山清隆氏、韓国（財）東北支石墓研究所来訪
7 月 13 日　田尻氏来訪
9 月 3 日　13 区空中写真撮影
9 月 6 日　大阪府藤田氏、関西外語大佐古先

生来訪
10月13日　13区落ち込み、材出土状況ハイライダーによる撮影
10月29日　高島忠平先生来訪
11月9日　柳田康雄氏来訪
11月10日　福岡市教委吉留氏来訪
11月19日　甲元眞之先生調査指導
12月16日　佐世保文化財事務所より調査員来訪

平成17年（2005年）
1月12日　ST13414より鏡片出土
1月25日　坪井清足先生来訪
2月8日　佐賀女子短期大学学生来訪
2月15日　高島忠平先生、藤田等先生来訪
2月22日　木下尚子先生調査指導、安藤広道先生来訪
2月28日　佐世保教育事務所、文化財担当者来訪
3月2日　空中写真撮影
3月3日　酒井清治先生調査指導
3月17日　下村智先生調査指導
4月17日　筑紫古代研究会来訪
7月1日　藤丸詔八郎氏来訪
8月17日　青銅鏡出土公表
9月7日　柳田康雄氏来訪
9月22日　空中写真撮影
9月30日　13区調査終了

表4　中原遺跡報告書掲載地区一覧表

書　　名	掲載地区	主な遺構	主な遺物
中原遺跡Ⅰ	1区・2区・3区・4区・8区・9-1区	掘立柱建物、井戸、土坑、水田、溝、	木簡、墨書土器、中空円面硯、木製品、子持ち勾玉
中原遺跡Ⅱ	6区・7区	掘立柱建物、木組遺構、溝、水田(畔畔、杭列)	木簡、墨書土器、施釉陶器、平瓦、丸瓦、権形石製品、木製品
中原遺跡Ⅲ	5区	掘立柱建物、溝、杭列、水田(畔畔)	木簡、墨書土器、緑釉陶器、奈良三彩、平瓦、丸瓦、木製品
中原遺跡Ⅳ	11区・13区の弥生時代甕棺墓	甕棺墓	銅矛、鉄矛、円環型銅釧、鉄斧、鉄製鉇、硬玉製玉類、碧玉製管玉、瑪瑙製管玉、天河製丸玉、ｶﾞﾗｽ製管玉、ｶﾞﾗｽ製小玉
中原遺跡Ⅴ	11区・12区・13区の弥生時代・古墳時代の墳墓	土壙墓、祭祀土坑、前方後円墳、円墳	硬玉製玉類、碧玉製管玉、石剣、石戈、磨製石鏃、土製人形、水晶原石、馬具、U字形鍬鋤先、滑石製勾玉、ｶﾞﾗｽ製小玉、器財埴輪片、陶質土器
中原遺跡Ⅵ	12区・13区の古墳時代初頭前後の墳墓	墳丘墓、土壙墓、木棺墓、石棺墓、前方後円墳、周溝墓	内行花文鏡、方格規矩鏡、浮彫式獣帯鏡、仿製鏡、鉄剣、素環頭小刀、刀子、硬玉製勾玉、碧玉製管玉、
中原遺跡Ⅶ	11区・12区・13区の集落跡	竪穴住居、掘立柱建物、土坑、溝	弥生土器、土師器、須恵器、陶質土器

表５　西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書一覧

書　　名	刊行年	掲 載 遺 跡	西九州自動車道 シ リ ー ズ 名	県文化財報告書 シ リ ー ズ 名
堂の前・井ゲタ遺跡	2000年	堂の前遺跡・井ゲタ遺跡	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書（１）	佐賀県文化財調査報告書第144集
梅白遺跡	2003年	梅白遺跡	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書（２）	佐賀県文化財調査報告書第154集
大江前遺跡	2006年	大江前遺跡・目貫古墳群・赤野遺跡・袈裟丸城跡・岩根遺跡	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書（３）	佐賀県文化財調査報告書第167集
中原遺跡Ⅰ	2007年	中原遺跡	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書（４）	佐賀県文化財調査報告書第168集
中原遺跡Ⅱ	2008年	中原遺跡	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書（５）	佐賀県文化財調査報告書第175集
中原遺跡Ⅲ	2009年	中原遺跡	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書（６）	佐賀県文化財調査報告書第179集
中原遺跡Ⅳ	2010年	中原遺跡	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書（７）	佐賀県文化財調査報告書第182集
仁田古墳群Ⅰ	2010年	仁田古墳群１区・２区・３区・矢作遺跡４区・下新田古墳群・大坂古墳群	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書（８）	佐賀県文化財調査報告書第183集
中原遺跡Ⅴ	2011年	中原遺跡	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書（９）	佐賀県文化財調査報告書第187集
仁田古墳群Ⅱ	2011年	仁田古墳群4区・仁田埴輪窯跡・矢作遺跡3区	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書(10)	佐賀県文化財調査報告書第188集
中原遺跡Ⅵ	2012年	中原遺跡	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書(11)	佐賀県文化財調査報告書第193集
矢作遺跡	2012年	矢作遺跡1区・2区	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書(12)	佐賀県文化財調査報告書第194集
中原遺跡Ⅶ	2013年	中原遺跡	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書(13)	佐賀県文化財調査報告書第199集
古園遺跡・千々賀遺跡・千田島Ⅱ遺跡	2013年	古園遺跡・千々賀遺跡・千田島Ⅱ遺跡	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書(14)	佐賀県文化財調査報告書第200集

Ⅱ．遺跡の位置と環境

1，地理的環境

中原遺跡は佐賀県唐津市大字原字西丸田、西ノ畑、溜ノ内、笹原、大字中原字中原に所在する。本書に掲載する 11 区～ 13 区は大字原字溜ノ内、西ノ畑にあたる。

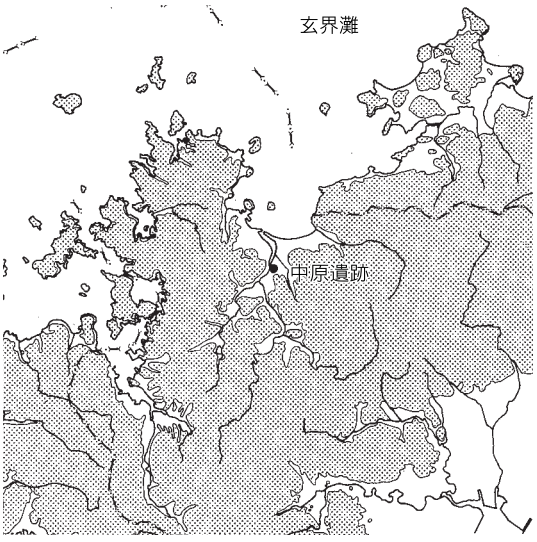


図２　遺跡位置図

唐津市は九州の北端で佐賀県の北西部、現在の市役所で北緯 33 度 27 分、東経 129 度 58 分である。平成 17 年 1 月に唐津市、浜玉町、厳木町、相知町、北波多村、肥前町、鎮西町、呼子町が合併し、さらには平成 18 年 1 月に七山村も合併した。平成 20 年 10 月の統計によれば、面積 487.47㎢で人口 128,551 人、世帯数は 44,455 世帯である。唐津市は今回の合併により東は福岡県二丈町、南は佐賀市と多久市、西は伊万里市と玄海町に接する。北は唐津湾及び玄界灘に面し、朝鮮半島へと連なる。呼子町から壱岐島まで約 30km であり、鏡山山頂からも壱岐島影を望むことができる。このように半島に最も近いという地理的環境のため古代より我が国のなかでもいち早く半島や大陸の文化を受容した地域である。

唐津市及びその周辺の地形は①東松浦溶岩台地域②松浦杵島丘陵地域③脊振山地西部域④低地部（広義の唐津平野）⑤島嶼域の五つに区分できる。①東松浦溶岩台地は東松浦半島の大半を占め、第三系や花崗岩類の基盤のうえに第三紀末期～第四紀初頭にかけて噴出した松浦玄武岩が覆う溶岩台地である。通称“上場台地”と呼ばれ、標高 150 ～ 200 ｍである。②松浦杵島丘陵地は南北に流下する佐志川及びその延長線を境に東側の丘陵性山地であり、松浦川左岸まで続く。その地質は第三系や花崗岩類からなり、標高約 200 ｍ内外である。③脊振山地西部域は松浦川及び唐津平野の東南部にあたり脊振山系の西部地域にあたる。地質は風化の進んだ花崗岩類からなる。唐津平野の基盤の大部分もこの花崗岩類であり、不整合面を介して沖積層が堆積する。④低地部（唐津平野）は東松浦溶岩台地や松浦杵島丘陵地や脊振山地に囲まれ、北は唐津湾および玄界灘に接する低地を総称している。松浦川とその支流、玉島川、佐志川流域にあたる。五つの地形区分のうち①東松浦溶岩台地では主に旧石器～縄文時代の遺跡が、④低地部では主に弥生時代以降の遺跡が、⑤島嶼域ではおもに弥生～古墳時代の遺跡が立地する。また②の地域は急峻な地形を利用し中世には山城が築かれ、近代以降石炭の採掘が盛んに行なわれるようになる。

唐津平野を形成した河川には、最大規模の松浦川やその支流の徳須恵川、半田川、宇木川がある。松浦川とその支流は、脊振山系と松浦杵島丘陵地の間を縫うように流れる。玉島川は唐津平野の東端を流れる松浦川に次ぐ規模の河川である。脊振山系に水源をもち唐津湾に注ぐ。この他、唐津市街地を流れる町田川や唐津平野の北西端を流れる佐志川がある。これらの大河川や中小河川流域により、唐津平野内の遺跡立地はさらに地域区分ができる。

唐津平野の地形発達は海岸線の変化と密接に関わり、井関氏 (1982) や下山氏 (1994) の先行研究がある。井関氏の研究は唐津平野の地形発達史の嚆矢である。縄文海進の海域の拡大による奥唐津湾の範囲を想定し、唐津平野の地形発達史の原型を示した。下山氏は海成層に含まれる海棲生物化石のうち貝

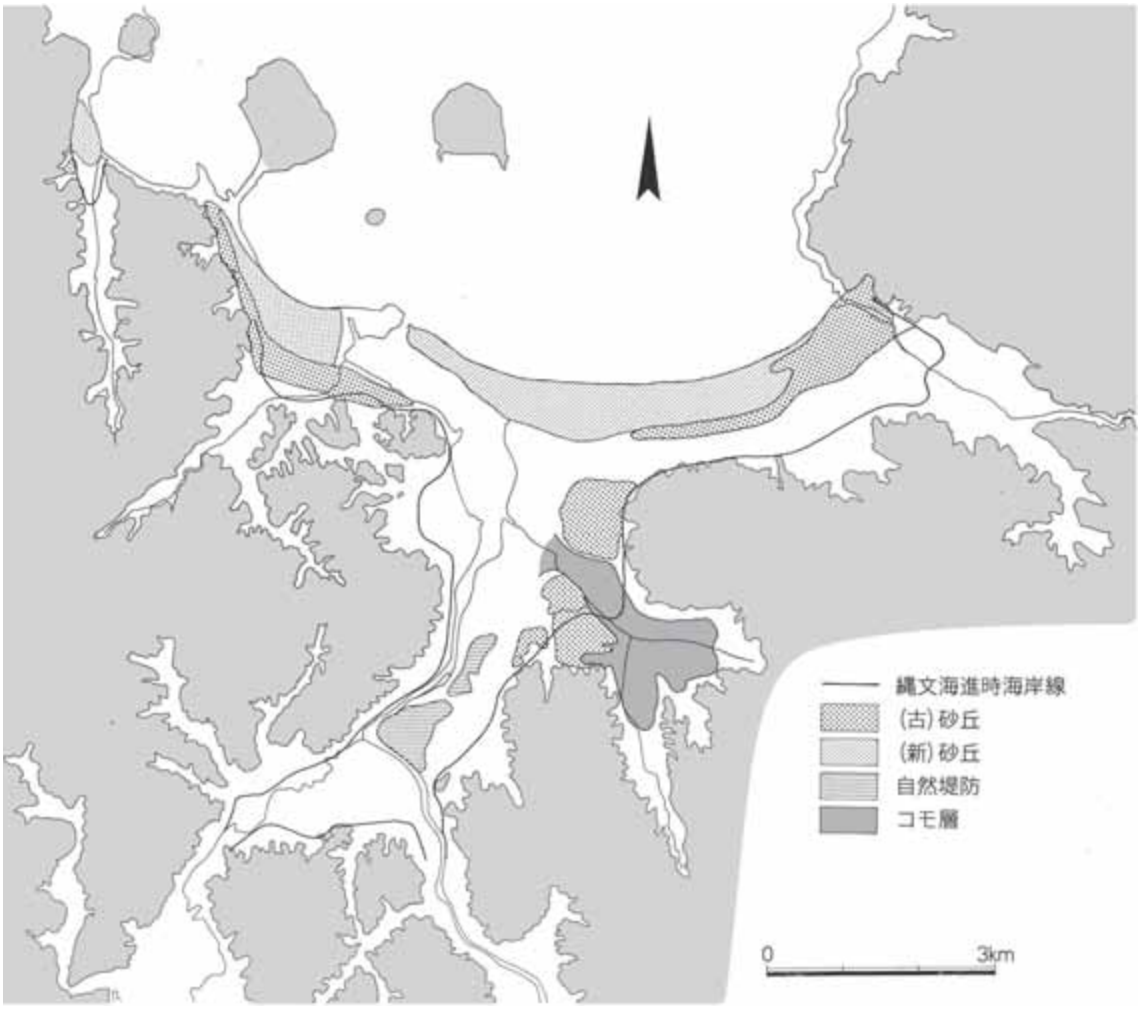


図３　旧海岸線・砂丘列地形分類図（1/100,000）

殻に注目し、ボーリング資料により北部九州の海岸線を復元した。考古学的な検討は、コモ層の分布域を明らかにした木下氏 (1981,1993) に始まる。近年、田崎氏 (2007) が唐津平野をモデルに、発掘調査データを用いて沖積低地の環境変遷を追っている。また小松・美浦 (2008) は自然科学的な分析に加え、発掘調査成果を盛り込んで、現在までの唐津平野の地形発達と遺跡立地の関係についてまとめを行なっている。図３の縄文海進時海岸線は、これまでの研究をもとにしたものである。

縄文海進期の海面上昇の終焉後､幾度か訪れた海退現象により河川の堆積（沖積上部砂層）が拡大し、奥唐津湾は埋め立てられ現在の平野の概形が形成された。また同時に松浦川東岸地域と唐津市街地南部地域に砂丘列（古砂丘列）も形成され、初期稲作に適した後背湿地を生み出した。松浦川東岸の砂丘列は鏡山西麓の鏡集落から原集落、中原集落、徳武集落まで連続している。中原遺跡や後述する梅白遺跡は砂丘微高地上に立地するが、この砂丘の砂は極めて細く礫などを含まない風成砂である。井関氏は原集落と中原集落を古砂丘列としたが、西九州自動車道に係る文化財確認調査により梅白遺跡から中原遺跡間も砂丘があることが判り、夕日山北麓に広い砂丘が形成されていることが判明した。この古砂丘列の形成は発掘調査成果により縄文中期の前半代には始まっていることが分かった。

鏡山南麓の宇木川・半田川流域は砂丘列によって後背湿地になるが、この低地部に植物遺体層・通称コモ層が広く堆積する。木下氏（1981）は、昭和 40 年代末～ 50 年代にかけての農業基盤整備事業に

係る文化財確認調査により、コモ層の分布範囲を明らかにした。宇木汲田貝塚遺跡や柏崎貝塚遺跡は、縄文時代晩期～弥生時代前期の貝塚であり、後背湿地に面する丘陵裾部に立地する。発見された貝殻にヤマトシジミが多く見られた。そのため当該期、後背湿地は汽水性の潟であるとの考え方が支配的となり、コモ層の分布がその潟の範囲を示すものと考えられてきた。ところが、平成９年から始まった梅白遺跡の調査によって、コモ層の下から古墳時代の水田と、さらにその下層から縄文時代晩期～弥生時代中期の水田関連遺構が発見され、後背湿地の低地部においてもすでに水田開発が行われていたことが判ってきた。また､井関氏が想定した中原集落の砂丘はさらに夕日山北麓まで広がることも確認できた。

松浦川西岸の砂丘列は唐津市街地の南部地域に広がる砂丘であり、その背後に流れる町田川流域が後背湿地になる。菜畑遺跡の水田はこの後背湿地に、桜馬場遺跡は砂丘上に立地する。前述したコモ層は町田川流域にも広がっている。菜畑内田遺跡ではコモ層直下から梅白遺跡と同時期の古墳時代の水田が見つかっていることから、コモ層の堆積時期が宇木・半田川流域と同じであることが分かった。現在町田川の流路は砂丘列を横断し唐津城下が河口域になっているが、これは近世の河川改修の結果であり、それ以前の流路がどこを流れていたのかが問題である。小松・美浦 (2008) では、和多田方面に東流し松浦川に注いでいたと想定している。

これに対し松浦川本流域ではコモ層は見つかるものの、その堆積時期は中原遺跡の調査成果により弥生後期中頃～後半と分かり、上述の流域とは違いがあることが分かった。堆積時期の違いは今後の検討課題である。

佐志川流域ではコモ層が発達しないことが発掘調査により確かめられている。河口部には砂丘列が形成されるものの規模が小さく、河口部を閉塞するまでには至らなかったためであろうか。中流域の汐入遺跡では縄文海進時の貝層が見つかっており、海岸線の推定ができるようになった。

唐津平野の旧地形のうち注目されるものの一つに玉島川の流路がある。現在の玉島川は北流して唐津湾に注ぐが、これは近世の河川改修によるものであり、旧玉島川は虹の松原砂丘と鏡山の間を西流していたと考えられる。新砂丘列は弥生～古墳時代に形成されたと考えられ、虹の松原砂丘の発達は玉島川河口を天然の良港に仕上げたと思われる。近世の河川改修は松浦川、町田川においても実施されており旧流路、旧地形の復元は遺跡の理解に不可欠である。このように小地域毎の地形発達の違いは、遺跡の形成時期や規模、性格が異なる要因となっている。

参考文献

木下巧 1981『古代末盧文化資料集成』肥前文化史研究会

井関弘太郎 1982「末盧の地形と地質」『末盧国』六興出版

下山正一　1994「北部九州における縄文海進以降の海岸線と地盤変動傾向」『第四紀研究』33-5

田崎博之　2007「発掘調査データからみた砂堆と沖積低地の形成過程」『砂丘形成と寒冷化現象』科研費補助研究報告書

小松譲　2008 『中原遺跡Ⅱ』佐賀県教育委員会

小松譲・美浦雄二　2008「弥生成立期の地理的景観―佐賀県唐津市唐津平野にみる初期農耕集落の出現と拡大」藤尾慎一郎編『弥生時代の考古学第２巻　弥生文化誕生』同成社

2，歴史的環境

唐津地方は前項で記したとおりの地理的条件のため原始・古代から半島・大陸文化受容の地であった。東松浦溶岩台地・通称上場台地や低地部（唐津平野）さらに東松浦半島海岸に浮かぶ島嶼などにそれぞれ特徴的な遺跡が立地することも記した。以下、松浦川東岸を中心に概観する。

［旧石器時代］

最も遺跡数が多いのは上場台地上である。台地上には比較的幅の広い谷がヤツデ状に発達しており、遺跡は谷部の湧水点近くに立地する。旧石器時代の著名な遺跡としてナイフ形石器文化の唐津市肥前町磯道遺跡(1)や生石遺跡(2)、細石器文化の唐津市原遺跡(3)などがある。東松浦半島周辺の海岸部や島嶼でも旧石器時代から人類の活動の痕跡が認められる。馬渡島、加唐島、小川島、神集島からはナイフ形石器などが採集されている。最終氷期の最盛期の海面は現在より約 130m 低位にあったと考えられており、現在の島という地形ではないことも考慮しなければならない。松浦川東岸では、赤野遺跡(4)を代表に丘陵裾部の遺跡から極少量の遺物が見つかっているだけで、遺跡数が非常に少なく、詳しい状況は分かっていない。

［縄文時代］

上場台地上では押型文土器・石鏃が出土した牟田辻遺跡や住居跡、組織痕文土器を出土した女山遺跡(5)、晩期の貯蔵穴状土坑を検出した唐の川高峰遺跡(6)や梨川内村前遺跡(7)があり、早期と晩期前半に上場台地では遺跡数が増大することが指摘されている。低地部では、西唐津海底遺跡(8)では前期の土器が出土しており、菜畑遺跡(9)では前期～後期の遺構と遺物が、徳蔵谷遺跡(10)では中～後期の遺構と大量の遺物が確認されている。近年の調査で玉島川流域の五反田松本遺跡(11)から、縄文中期後半代～後期にかけての大量の遺物が流路状の落込みから見つかり、注目すべき成果が挙がっている。松浦川東岸では丘陵裾部や砂丘微高地上に遺跡が点在しているが、規模が小さく遺構は見つかっていない。辻裏遺跡(12)、井ゲタ遺跡(14)、梅白遺跡(13)がこれにあたる。

［弥生時代］

東松浦半島海岸部や島々には弥生時代の遺跡もみられる。これらは漁撈を生業とした海人集団の活動の痕跡であろう。とくに拠点的な地域として加部島、呼子周辺と神集島、湊、相賀周辺がある。唐津市呼子町大友遺跡(14)では、弥生時代前期～後期前半の約 150 基の墳墓が確認されている。甕棺墓、配石墓、土壙墓、箱式石棺墓、石囲墓、敷石墓、支石墓など埋葬施設の種類が多く、埋葬方法なども五島列島など西北九州の埋葬との共通性がみられる。また、南海産の貝輪を副葬していることも特筆され、海人の共同墓地と考えられる。呼子港の対岸に浮かぶ加部島には古墳時代後期の瓢塚前方後円墳が所在する。さらに加部島には式内社である田島神社が鎮座しており、古墳時代～古代において海上交通の要所であったことが窺える。呼子町から約 5km 南東に位置する唐津市湊周辺にも弥生～古墳時代の遺跡がみられる。湊中野遺跡(15)では弥生中期～後期の焼土坑が確認されている。唐津平野や糸島半島が望める眺望のいい立地であり、焼土坑は「のろし」的性格が考えられている。雲透遺跡(16)では弥生時代中期の貝塚が調査され、鹿角製のヤスや釣針のほか貝輪などが出土した。これらの大友遺跡、湊中野遺跡、雲透遺跡では糸島・福岡平野系の土器が出土していることも特筆される。湊の対岸に浮かぶ神集島には短甲や鉄刀を出土した学校東古墳群や鬼塚古墳群がある。また相賀には陶質土器を出土した相賀古墳もあり、湊・神集島周辺も海上交通の要所であった。

縄文時代晩期後半になると、低地部に形成された砂丘列背後の低湿地が初期稲作の適地となり、町田川流域では菜畑遺跡が、宇木川流域では宇木汲田遺跡(17)が出現する。菜畑遺跡では我が国最古の水田跡が確認された。晩期以降、唐津平野において多くの著名な遺跡が出現するが、それは河川流域毎に遺跡の

図４　周辺遺跡分布図（1/70,000）

まとまりを形成する。

唐津平野の中で調査事例も多く、研究史的にも重要な遺跡が多いのは松浦川東岸の宇木川・半田川流域である。宇木汲田貝塚遺跡では、1965 年の日仏合同調査により、縄文時代晩期の夜臼式期の土器底部に炭化米や籾圧痕が発見され、稲作の存在を提示した。貝塚から 200 ～ 300m 南方の宇木汲田遺跡では、昭和初期に銅剣、銅矛が発見されており、1957 年の東亜考古学会、1965、1966 年の日仏合同調査で、甕棺墓群から多鈕細文鏡、細形銅剣、銅矛、銅戈、銅釧、玉類など多数の副葬品が出土した。柏崎貝塚は昭和初期の耕地整理によって発見されその後、数回の学術調査が実施され弥生前期後半の短期間に形成されたものであることが判った。柏崎遺跡[18]では明治末に触角式銅剣、銅矛が発見され、柏崎田島遺跡の甕棺墓群では異体字銘帯鏡が柏崎大深田遺跡からは広形銅矛の鋳型が出土している。

また、唐津平野には西北九州に特徴的に分布する支石墓がみられる。葉山尻支石墓[19]では 1952、1953 年の調査で支石墓と甕棺墓を検出しており、この他瀬戸口支石墓、森田支石墓などが調査された。梅白遺跡は本事業により 1997 年～ 1999 年に調査が実施され、弥生、古墳時代の集落と水田を確認した。このように、鏡山南麓の宇木川・半田川流域は、砂丘形成による後背湿地の出現という初期稲作に適した地理的条件をもとに、農耕集落が出現、発展する。その発展の様子は、墳墓出土の鏡や青銅器、玉類、銅釧などの副葬品からも伺える。

本報告の中原遺跡は松浦川右岸で後背湿地を形成した砂丘微高地上に立地する。弥生時代中期の甕棺墓や終末期～古墳時代初頭の墳墓から青銅鏡、鉄剣、玉類が出土している。また、中期の鋳型片 4 点も出土しており、宇木汲田遺跡と並び弥生時代中期の拠点集落である。

弥生時代中期後半以降､松浦川本流域の遺跡群が発展していく。久里大牟田遺跡[20]では鉛製の矛や銅矛、銅戈などが甕棺、土壙墓から出土している。松浦川の左岸に注ぐ徳須恵川の下流に立地する千々賀遺跡群は中期から後期にかけて発展していく。千々賀庚申山遺跡からは細形双耳銅矛や銅戈が、千々賀遺跡からはイモ貝縦切銅釧が、千々賀遺跡[21]からは赤色漆で同心円文や鋸歯文を描いた容器蓋 3 点とともに、中期から後期の多量の土器や建築部材が出土している。

菜畑遺跡や桜馬場遺跡は町田川流域にあたる。菜畑遺跡では、初期に水田が開かれた後も継続的に水田が営まれており、流域の拠点的な遺跡である。桜馬場遺跡では、後期の甕棺墓から方格規矩鏡、有鉤銅釧、巴形銅器が見つかっており、このほか広形矛先や内行花文鏡片も採集されている。近年調査が行なわれ、不時の発見であった甕棺や副葬品が再確認され、大きな話題となった。

このように唐津地域では多くの厚葬墓が発見されており、稲作が開始されて首長層が出現、展開していく過程を看取することができる。東松浦半島や島々にも弥生時代の遺跡は分布するが青銅器を副葬するような首長墓は松浦川流域やその支流である宇木川・半田川流域や町田川流域に限られる。

宇木汲田遺跡では多くの青銅製武器が出土しているが、複数の青銅製武器や青銅製品を副葬した墳墓は少なく、その分布からみても有力集団墓であることは明瞭である。また、宇木川・半田川流域の厚葬墓の分布をみると鏡山山麓部には厚葬墓がないことが判る。同時期の墳墓群は立地するにも関わらず、厚葬墓がないことは同流域において集団格差が生じていることを物語る。

また、中原遺跡は宇木汲田遺跡や柏崎遺跡群と至近距離であるが生産基盤となる水田などの立地が両遺跡とは異なることは集団系譜を考える上で重要であろう。唐津平野での特定個人墓の出現は後期前半の桜馬場遺跡である。ただし、その周辺には伝平野町出土の銅矛以外青銅器の出土はみられず、市街地化が進み周辺の遺跡の分布状況が判らないため、遺跡の形成過程が追えない。

終末期以降、松浦川右岸地域で首長墓が出現する。中原遺跡で墳丘墓 3 基や土壙墓・木棺墓・石棺

墓群が出現する。破砕鏡や鉄剣、玉類を副葬した厚葬墓である。墳丘墓３基は溝で区画された個人墓である。土壙墓・木棺墓・石棺墓群は墳丘墓のあとに造営された数基からなる集団墓であり４つの群からなる。古墳時代初頭には前方後円墳と周溝墓がつくられるなど、古墳時代初頭前後の首長墓が確認できた。

［古墳時代］

古墳時代前期の首長墓には松浦川流域の双水柴山２号墳[22]、中原遺跡 ST12032、久里双水前方後円墳[23]がある。古墳時代初頭の双水柴山２号墳は全長 34.7m で丘陵の尾根上に造られる。主体部は木棺である。久里双水前方後円墳は墳丘長 90m で、竪穴式石室から盤龍鏡、碧玉製管玉、棺外から刀子が出土した。

近年、徳須恵川流域の唐津市北波多の竹の下古墳群[24]で、前期に属すると思われる全長 32 m と 52 m の２基の前方後円墳がみつかり首長墓系譜に加えられることになった。前期後半から中期、後期にかけて首長墓は玉島川流域に移る。谷口古墳[25]は組合わせ式の長持形石棺を主体部にもち、仿製三角縁神獣鏡、碧玉製石釧など畿内的要素をもつ。その後、初期横穴式石室をもつ横田下古墳[26]や、金銅製冠や銅椀などの渡来系文物を副葬した島田塚前方後円墳[27]が造られる。

中小古墳では宇木川・半田川流域に垂飾付耳飾り、三累環頭を出土した半田宮の上古墳[28]や竪穴系横口式石室のほか土壙墓、箱式石棺などが確認された迫頭古墳群[28]、同じく竪穴系横口式石室をもつ長崎山古墳群[29]、石障系石室をもつ樋の口古墳[30]などがある。中原遺跡[31]では複数の陶質土器や鉄鐸、初期の馬具、梅白遺跡の古墳水田流路中から軟質土器など渡来系文物の出土が目立つのも特筆される。他の地域では同事業で浜玉町渕上の仁田古墳群から遺存状態の良い埴輪窯が確認され、埴輪資料の少ない佐賀県で貴重な発見となった。

後期は他地域では群集墳が発達する時期であるが、唐津地域では数基単位の古墳群が形成されるに留まる。しかし加部島には多数の古墳が築かれていたと伝えられており、地域内では特異な存在である。半島への航路上重要な位置を占めていたことが要因であろう。

［奈良・平安時代］

古代の唐津地域は肥前国松浦郡にあたる。松浦郡は現唐津市、西松浦郡、長崎県平戸や五島列島、佐世保市などを範囲とする極めて広い面積をもつ。松浦郡の古代行政組織は肥前国風土記によれば郷 11 所、里 26 所、駅５所、烽８所である。この中の具体的な地名や駅名は肥前国風土記、延喜式、和名抄などの史料によってわかる。郷名は肥前国風土記に値嘉郷、和名抄に庇羅、大沼、値嘉、生佐、久利の郷名が記される。里名は肥前国風土記に賀周里がみえるだけである。駅名は肥前国風土記に逢鹿駅、登望駅、延喜式に磐氷、大村、賀周、逢鹿、登望の５駅名が記されている。烽は肥前国風土記に褶振烽、値嘉郷３所となっている。その他の地名の由来で鏡渡や大家島がみえる。

唐津地域の古代の主要な遺跡ではまず千々賀古園遺跡[32]が挙げられる。松浦川の支流である徳須恵川下流の西岸に位置する。唐津市教育委員会の２回の調査により掘立柱建物８棟を検出した。そのうちの３棟は大規模でＬ字形の配置をもつ。特筆される出土遺物に銅製の天秤受け皿や蛇紋岩製の権（分銅）や平瓦片がある。平瓦には特徴的な幅広のカキ目が巡らされており、壱岐嶋分寺や法隆寺等で類例が見られる。また、墨書土器が 95 点出土している。墨書土器には「嶋守」「川上」「田造」等があり、最も多いのが「六」である。また「川部」は中原遺跡出土１号木簡にもみられる人名である。８世紀前～中頃を盛期とし後半までの遺物がみられ、官衙的配置をした大型建物の存在などから松浦郡衙とも推定されてきた。

座主遺跡[33]は徳須恵川中流域の左岸に立地する。谷状低湿地の遺物包含層から石帯・巡方や墨書土器

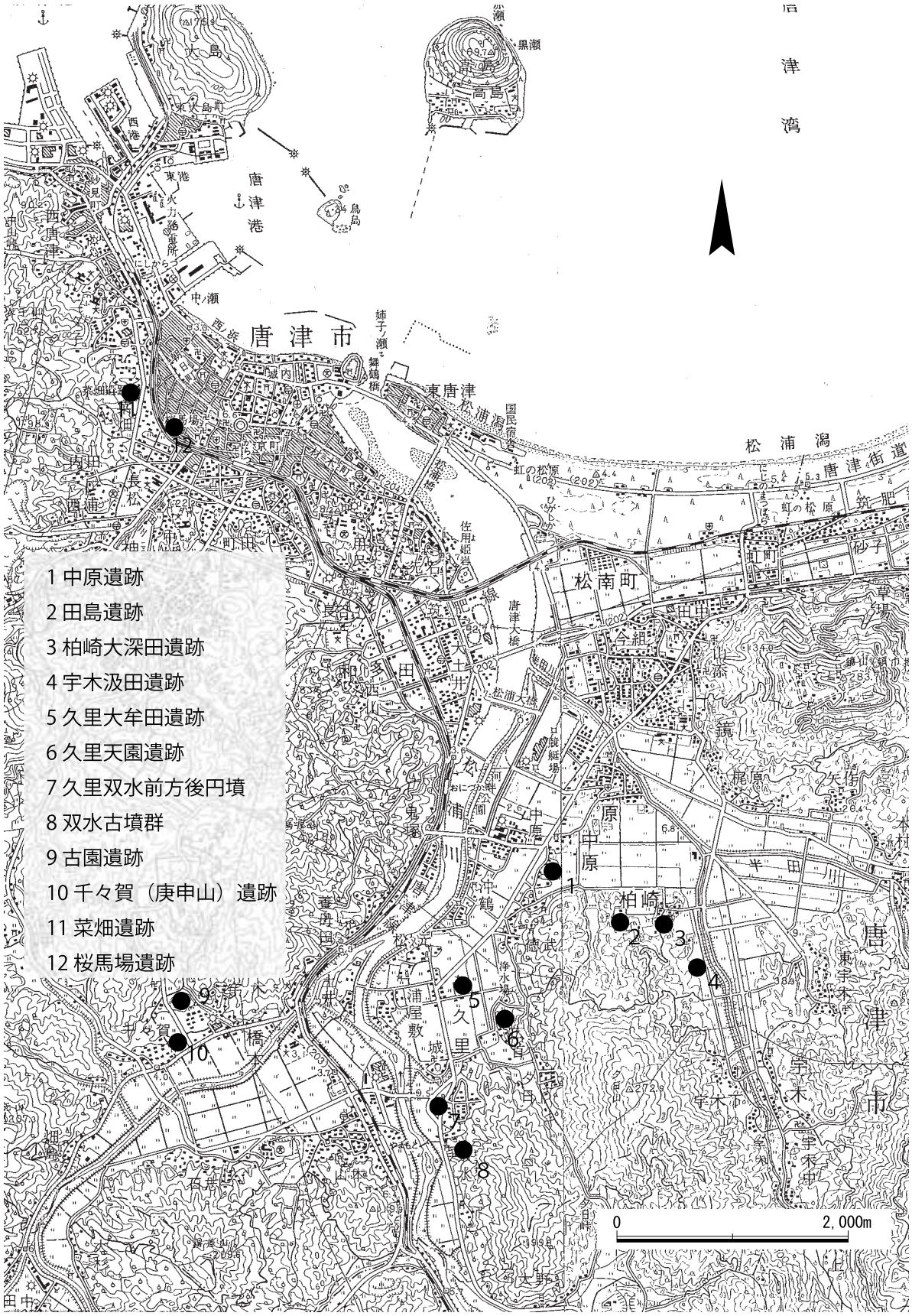


図５　主要遺跡分布図（1/50,000）

15 点が出土した。墨書土器には「坂本」「廣」「大」「六」などがある。8 世紀代を中心とし、盆地状の地形であることなどからも里あるいは郷のひとつとも考えられよう。双水迫遺跡(34)は松浦川右岸の久里に所在する。古代においても「久利郷」に含まれていたと思われる。詳細不明ながら 8 世紀代の集落が確認されている。伊岐佐伊良尾遺跡(35)は「生佐郷」内に所在する。掘立柱建物や鍛冶炉など 8 世紀代の集落が確認されている。鶏ノ尾遺跡(36)は鏡山南麓に立地する。平安時代の鍛冶炉と奈良～平安時代の炭窯等の遺構の他、谷部の整地層から大量の土師器供膳具と共に緑釉陶器、越州窯系青磁、播磨系須恵器が出土している。岩根遺跡(37)は鏡山南東麓の丘陵上に立地する。9 世紀代の製鉄関連遺構を確認した。製錬炉本体は確認できなかったが、遺物の検討から箱形炉であることが判った。製鉄を主体とし精錬鍛冶から鍛錬鍛冶までの作業が行われていた。

延喜式に記載された大村駅は唐津市浜玉町東北部にある大村神社周辺が比定地である。大村神社の境内から布目瓦が出土し、社殿背後に基壇状の盛り土もみられ、奈良時代の寺院跡と考えられる。三代格や東大寺要録にみられる弥勒知識寺と推定されている。中世以降も交通の要所であったと思われ、草野氏が山城や居館を築いている。

肥前国風土記にみえる賀周里や賀周駅は地名などからも唐津市見借がその推定地と考えられてきた。見借は佐志川の上流にあたるが、その河口に立地するのが佐志中通遺跡(38)や徳蔵谷遺跡である。両遺跡からは遺構こそ確認されていないが 8 世紀代の土器が出土している。佐志中通遺跡からは腰帯金具も出土している。賀周里や賀周駅を比定する上で参考になる遺跡であろう。

この他、逢鹿駅や登望駅に比定できる遺跡や調査事例はみあたらないが、地名や弥生、古墳時代以降の遺跡群の分布などを考えても、逢鹿駅は唐津市相賀周辺に登望駅は唐津市呼子周辺に比定できるであろう。

［中世以降］

古代後半以降近世に至るまで中原遺跡では遺構や遺物が激減する。これと入れ替わるように遺構や遺物の確認が急増するのが、現鏡集落が所在する鏡山西麓の砂丘である。11 世紀には鏡神社(39)が建造物として成立していると考えられ、それ以降の時期の遺跡が砂丘のほぼ全体に広がっている。近世になり松浦川本流域の本格的な開発が行なわれる。それまでは谷部の扇状地を利用した谷水田であったものが、積極的な新田開発により平野のほぼ全域が水田域となっている。

遺跡文献

1，堀川義英 1981『田尾遺跡群磯道遺跡』肥前町教育委員会
2，堀川義英 1978『生石・森の下遺跡』佐賀県教育委員会
3，松岡史・富桝憲次 1960『佐賀県東松浦郡鎮西町字原出土の細石器』九州考古学 10
杉原荘介・戸沢充則 1971「佐賀県原遺跡における細石器文化の様相」考古学集刊 4-4
4，小松譲編 2006「赤野遺跡」『大江前遺跡』佐賀県教育委員会
5，日本考古学協会西北九州総合調査特別委員会編 1960「島原半島（原山、山ノ寺、礫石原）および唐津市（女山）の考古学的調査」『九州考古学』10
6，田島龍太 1996『唐ノ川高峰遺跡』（3）唐津市教育委員会
7，内田孔明 1996『梨川内村前遺跡』（2）唐津市教育委員会
8，松岡史・森醇一朗 1982「西唐津海底遺跡」『末盧國』六興出版
9，中島直幸・田島龍太 1982『菜畑遺跡』唐津市教育委員会

10，田島龍太 1995『徳蔵谷遺跡』（2）唐津市教育委員会
田島龍太 1996『徳蔵谷遺跡』（3）唐津市教育委員会
11，田島龍太 2008『五反田松本遺跡』唐津市教育委員会
12，田島龍太 1989『唐津市内遺跡確認調査（4)』唐津市教育委員会
13，小松譲 2003『梅白遺跡』佐賀県教育委員会
14，東中川忠美 1981『大友遺跡』呼子町教育委員会
15，中島直幸 1985『湊中野遺跡』唐津市教育委員会
16，仁田坂聡 1998『雲透遺跡Ⅱ』唐津市教育委員会
17，岡崎敬ほか 1982「宇木汲田遺跡」『末盧國』六興出版
18，堀川義英 1980『柏崎遺跡群』佐賀県教育委員会
中島直幸 1980『柏崎松本遺跡』唐津市教育委員会
中島直幸 1982「柏崎遺跡群」『末盧國』六興出版
19，渡辺正気 1982「葉山尻支石墓」『末盧國』六興出版
20，中島直幸 1980『久里大牟田遺跡』唐津市教育委員会
21，仁田坂聡 2001『千々賀遺跡』唐津市文化財調査報告書第 102 集
22，中島直幸 1987『双水柴山遺跡』唐津市教育委員会
23，唐津市教育委員会 1992『久里双水古墳確認調査概要報告』唐津市教育委員会
唐津市教育委員会 1993『久里双水古墳確認調査概要報告（2)』唐津市教育委員会
唐津市教育委員会 1994『久里双水古墳確認調査概要報告（3)』唐津市教育委員会
唐津市教育委員会 2009『久里双水古墳』唐津市教育委員会
24，唐津市教育委員会陣内康光 2008『竹の下古墳群』唐津市教育委員会
25，亀井明徳 1982「谷口古墳」『末盧國』六興出版
26，小田富士雄 1982「横田下古墳」『末盧國』六興出版
27，岡崎敬・本村豪章 1982「島田塚古墳」『末盧國』六興出版
28，松岡史 1962「第二編　古代」『唐津市史』唐津市
29，中島直幸『長崎山古墳群』唐津市教育委員会
30，1982「樋の口古墳」『末盧國』六興出版
31，田島龍太 1987『中原遺跡』唐津市教育委員会
小松譲 2002『中原遺跡』佐賀県教育委員会
32，伴耕一朗 1991『千々賀古園遺跡』唐津市教育委員会
仁田坂聡 1997『千々賀古園遺跡』（2）唐津市教育委員会
33，森田孝志 1981「座主遺跡」『押川遺跡』佐賀県教育委員会
34，田島龍太 1982「双水迫遺跡」『末盧國』六興出版
35，蒲原宏行 1986「伊岐佐遺跡群」相知町教育委員会
36，草場誠司 2003『鶏ノ尾遺跡』（2）唐津市文化財調査報告書第 109 集
37，小松譲編 2006「岩根遺跡」『大江前遺跡』佐賀県教育委員会
38，岩尾峯希 2002『佐志中通遺跡』（2）唐津市教育委員会
39，中島直幸 1986『鏡神社経塚』唐津市教育委員会
唐津市教育委員会 1986『鏡神社』鏡神社一の宮建設委員会

Ⅲ．調査の概要

１，中原遺跡の調査歴

中原遺跡は本事業による発掘調査以前に過去２回の発掘調査が実施されており、また、本発掘調査期間中に同遺跡内を唐津市教育委員会が発掘調査を行っており、現在までに４回の発掘調査が実施された。以下が中原遺跡の調査歴である。

	調　査　期　間	調査主体	文　　献
1	1965年11月11日～11月21日	日仏合同調査団	『末盧国』六興出版1982年
2	1986年4月9日～7月17日	唐津市教育委員会	唐津市教育委員会1987『中原遺跡』唐津市報18集
3	1999年7月5日～2005年7月1日	佐賀県教育委員会（本事業）	『中原遺跡Ⅰ～Ⅵ』以下刊行中
4	2005年10月5日～2006年3月31日	唐津市教育委員会	唐津市教育委員会2006『中原遺跡(2)』唐津市報129集

このうち、1965 年の日仏合同調査と 1986 年の唐津市教育委員会の発掘調査区は本事業の 11 ～ 13 区の中に含まれる。

日仏合同調査は第 1 トレンチと砂丘形成状況確認のための第 2 トレンチが設定された。第 1 トレンチでは 5 基の甕棺と古墳時代後期の石組遺構を検出しているが、石組遺構は本事業で検出した ST11158 前方後円墳の葺石であることが判った。5 基の甕棺墓は中期に属し、5 号甕棺から硬玉製勾玉 1 点、碧玉製管玉 7 点が、7 号甕棺の棺内から鉄戈が、棺外から鉄矛が出土している。この他、包含層から鋳造鉄斧側片が出土している。

1986 年の唐津市教育委員会による調査は宅地造成に伴うもので、本事業の 11 区、12 区、13 区にまたがる。検出した主な遺構は弥生時代中期の甕棺墓 3 基と古墳時代前期の周溝墓 4 基、中期の円墳の周溝と近世の井戸跡 1 基である。周溝墓のうち、1 号、3 号、4 号周溝墓は本調査でも確認できたが、2 号周溝墓は確認できなかった。1 号周溝墓の埋葬主体部は 2 基からなり土壙墓（木棺墓？）であった。

円墳の周溝は本事業で検出した ST11141 古墳の周溝である。周溝内から須恵器有蓋高杯、壺、甕が、鉄製品には鉄鐸 6 点のほか鉄鎌、摘鎌、刀子、鉇が、玉類として滑石製有孔円盤、滑石製臼玉、ガラス小玉、琥珀小玉、管玉、土製勾玉などがある。

2005 年の唐津市教育委員会による調査は道路新設に伴うもので、本事業調査区の西方に位置する。調査対象地は低湿地帯にあたり、包含層から弥生時代後期、古墳時代前期、中期の土師器のほか木製品などが出土している。特筆される遺物として朝鮮半島系の軟質土器である棒状の把手付き甑の破片が出土している。

２，遺跡の概要

中原遺跡は弥生・古墳時代の集落と墳墓および古代の官衙的な遺跡である。主に調査区の南半部に弥生・古墳時代の集落と墳墓が北半部で古代の官衙的的遺構や遺物が出土した。

遺跡の立地は第Ⅱ章で述べたとおり標高約 4 ｍの砂丘微高地上に立地する。調査面積は約 90,000㎡。遺跡の現況はやや起伏がみられ、水田と宅地、畑地、墓地であった。現況の宅地は 1980 年代に開発さ

図６　調査区位置図（1/6,000）

れた。聞き取りによるとそれ以前は古墳の墳丘らしき盛土があったと言う。

図６に調査区位置図を掲載する。遺跡の南方は標高 272 mの夕日山からのびる丘陵の裾部にあたる。この裾部から砂丘微高地が北方にのびる。夕日山の北麓裾部にある池ノ浦溜池は深い谷地形を利用している。旧地形は夕日山に源をもつ流路がこの谷地形を経由して旧松浦川に注いでいたと思われる。本調査区の南端に幅20～30 mの落ち部がみられるが、夕日山から注ぎ出た自然流路であったかもしれない。このように概ね南北に形成された砂丘微高地は所々東西方向に走る谷状の地形によって分断される。本調査区内においても 13 区南端と２区、５区、７区にわたる谷地形がみられる。この谷地形は弥生時代には存在し、古墳、奈良・平安時代にかけて序々に埋没していく。本遺跡の評価をする上で以上のよう

な旧地形の復元は欠かせない。

図 7 は本遺跡全調査区の遺構配置図である。図 9 は調査区毎に撮影した空中写真を合成したものである。図 9 の空中写真では黄褐色と黒褐色の部分が見て取れる。黄褐色の部分が砂丘微高地であり、黒褐色部分が低地部になる。砂丘微高地は 11 ～ 13 区にかけて広がる。砂丘微高地の南北両側は幅約 20 ～ 30 mの谷状地形になり、東側は緩やかに、西側はやや急に傾斜して低地部になる。従って、本調査区は独立した砂丘微高地をほぼ全掘したことになる。この砂丘微高地上に分布するのが弥生・古墳時代の集落と墳墓である。弥生時代の墳墓は甕棺墓 281 基、土壙墓 14 基、終末期の墳丘墓 3 基を検出した。甕棺、土壙墓は前期後半に出現し、中期前半から中期中頃にかけてピークをむかえ、中期後半から後期前半にかけて衰退していく。副葬品を所有する墓群が数群みられ特定有力集団墓を形成する。甕棺埋葬法や副葬品種別において唐津地域の弥生墳墓の地域性がみられる。甕棺埋葬法では埋置角度が他地域に比べて急傾斜であり、直立棺や倒置棺も多く見られる。口縁部の打ち欠きも多く、さらには打ち欠いた口縁部を墓壙に埋置するものもある。副葬品では円環型銅釧 15 点、硬玉製勾玉 22 点、碧玉製管玉約 700 点等装身具の卓越があげられる。

調査区南側の谷状地形から南西部の低地部にかけて非常に多くの土器（コンテナ 1,000 箱以上）が出土した。土器群の時期は中期中頃～後半を主体とし後期前半までである。これらの土器群に混じって青銅器の鋳型が 4 点出土した。4 点とも両面鋳型であり、このうち 2 点が接合した。石材は石英―長石斑岩で中細形銅矛・銅剣の鋳型と思われる。鋳型片 4 点は調査区南西隅の比較的狭い範囲から多量の土器と共に出土している。調査区南側の谷状地形を挟んだ南側は調査区外になり、夕日山北麓裾部から北方にのびる砂丘微高地になる。ここに青銅器生産を行なった弥生集落中心部があると推定される。

また、上記の調査区南側の幅約 20 ～ 30 mの谷状地形は多量の杭を打ち込み、自然木を芯材として置いた堤防状の施設が造られる。堤防状の遺構には芯を中空に刳りぬいた木製の水管や、長さ約 4 mの木樋が埋置される。その周辺には木組遺構もあることから、堤防状施設は灌漑用か木の実などの水さらしの水量調節のための機能が考えられる。さらに、砂丘微高地西側縁辺の低地部からは、多量のヤスや石錘などの漁撈具が出土しており、中原遺跡は旧松浦川岸に立地していたことを窺わせる。

弥生時代終末期には特定個人墓である墳丘墓 3 基が出現する。平面形態は方形と長方形であり、いずれも西側に陸橋部をもち周溝が巡る。主体部は刳り貫き式の木棺で、棺内から硬玉製異形勾玉や碧玉製管玉、棺外から破砕された内行花文鏡や鉄剣が出土している。さらに周溝内埋葬施設もあり棺外から破砕された方格規矩鏡や鉄鏃、鉄剣が出土した。また、土壙墓・木棺墓群が 4 群あり破砕された獣帯鏡や折れ曲がった鉄剣、硬玉製勾玉、碧玉製管玉などが出土した。

古墳時代初頭には墳長 26.0 mの前方後円墳が造られる。主体部は削平されていたが、周溝内から石棺を確認した。さらに周溝を共有して周溝墓 4 基と平面方形、円形の周溝墓 4 基も造られる。

古墳時代中期の帆立貝式前方後円墳 1 基、円墳 3 基と後期の前方後円墳 1 基も確認した。後期の前方後円墳は墳長 33.0 mで内部主体は削平されていた。時期は 6 世紀後半である。

砂丘微高地は調査区の北側にも見られる。2 区、3 区、5 区、7 区の調査区北半部にみられ、この砂丘微高地上から古代の掘立柱建物群や井戸跡などを検出した。この砂丘微高地と前述した弥生・古墳時代の墳墓と集落が立地する砂丘微高地の間は谷状の地形になり、その中に流路が東西方向に横切る。検出した流路の総延長は約 360 mであり、流路からは木簡、墨書土器、緑釉陶器、奈良三彩の他、曲物、挽物皿等の木製品が多量に出土した。古代の官衙的遺構や遺物は全調査区の北半部の谷状地形にある流路や溝跡さらに砂丘微高地上にて検出した。

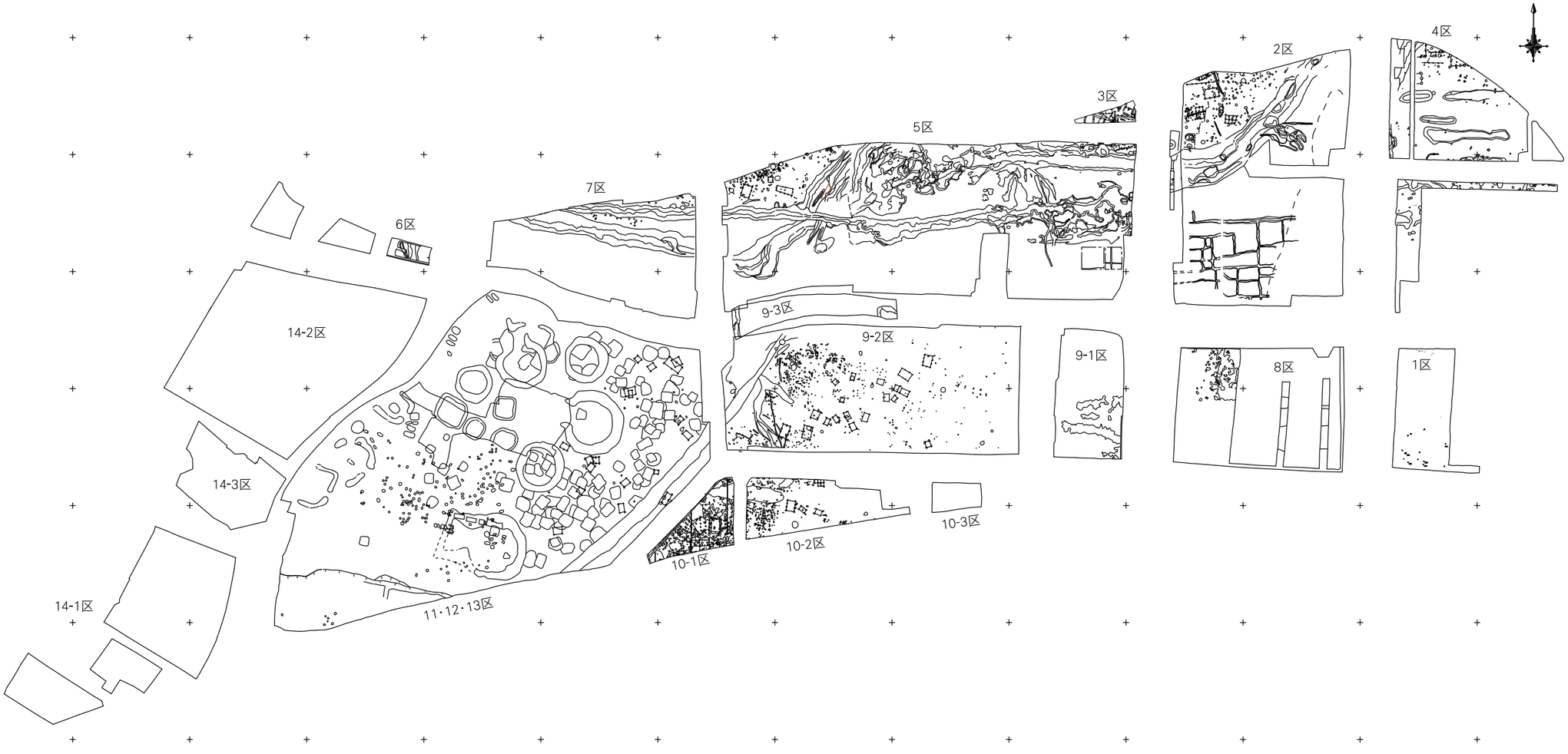


図７　中原遺跡全調査区遺構配置図（1/2,000）

図８　中原遺跡全景

図 10 は本調査区の全遺構配置図を地形測量図に組み込み、遺跡の概略を示したものである。アミ部分は低地になる。11 ～ 13 区の砂丘微高地に弥生・古墳時代の墳墓と集落が立地し、南側の谷状地形をはさんで未調査ではあるものの、弥生時代の集落の中心部があることが予測される。古代の官衙関連施設や集落は弥生・古墳時代の遺跡が立地する砂丘のさらに北側の砂丘微高地に立地する。この砂丘微高地の東西幅は不明であるが、おおよそ 370 m、南北は約 150 mである。この範囲に古代の官衙関連施設や集落が立地すると予想される。

本報告書は南側の砂丘微高地上に立地する弥生時代～古墳時代の集落跡、古代の溝跡の報告である。

図９　遺跡概略（1/6,000）

図 10　11,12,13 区遺構配置図（1/600）

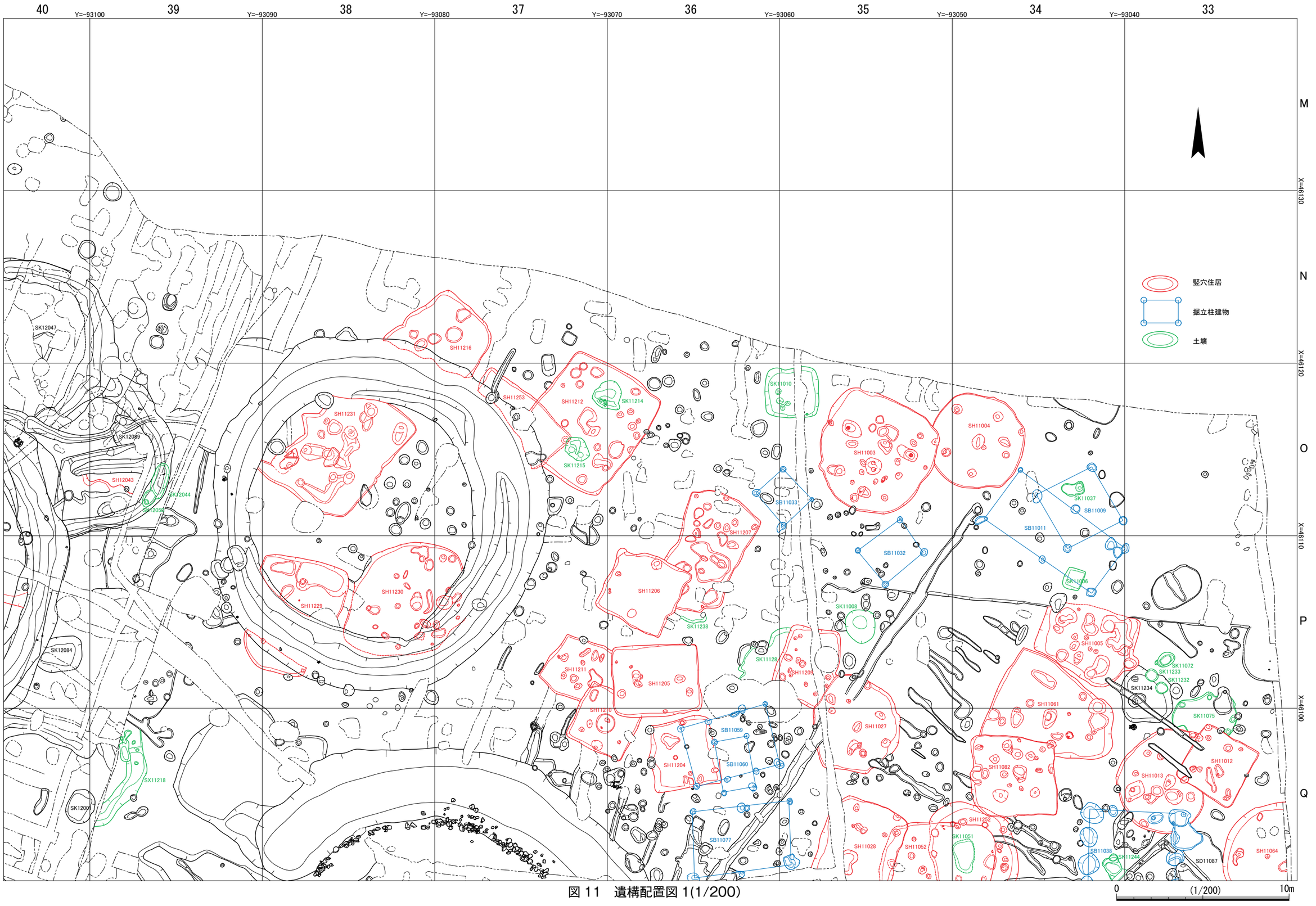


図 11　遺構配置図 1(1/200)

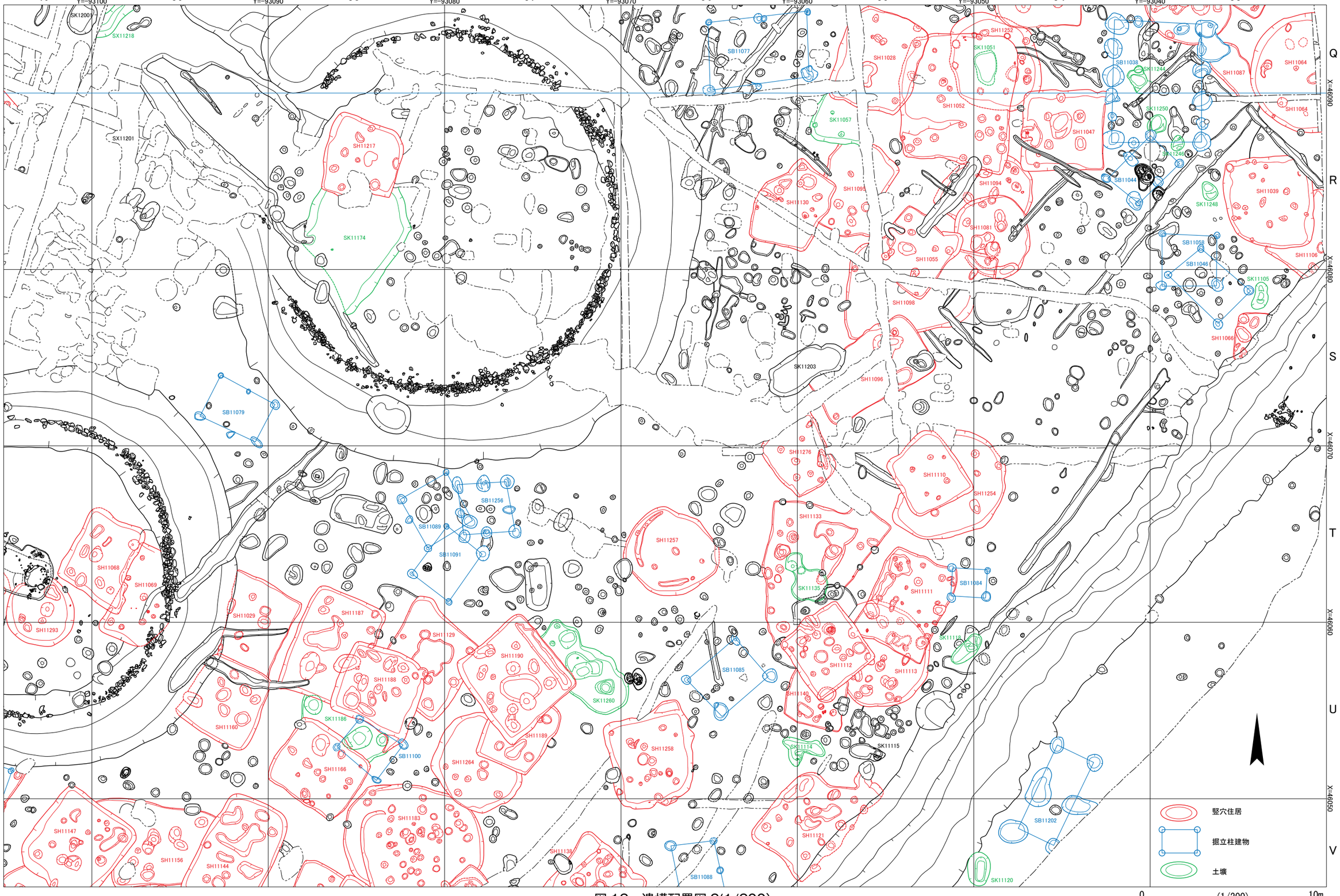


図 12　遺構配置図 2(1/200)

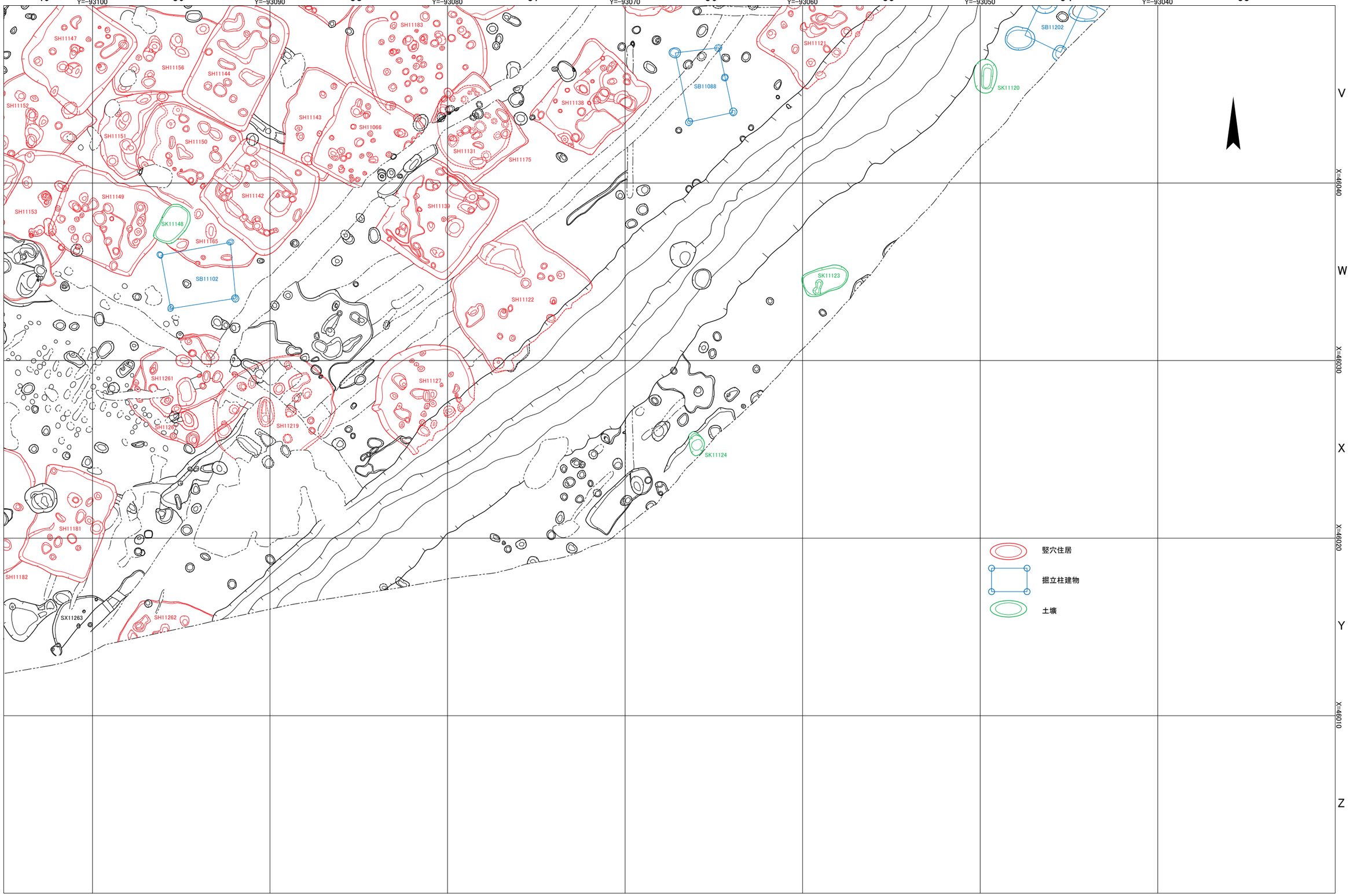


図 13　遺構配置図 3(1/200)

図 14　遺構配置図 4(1/200)

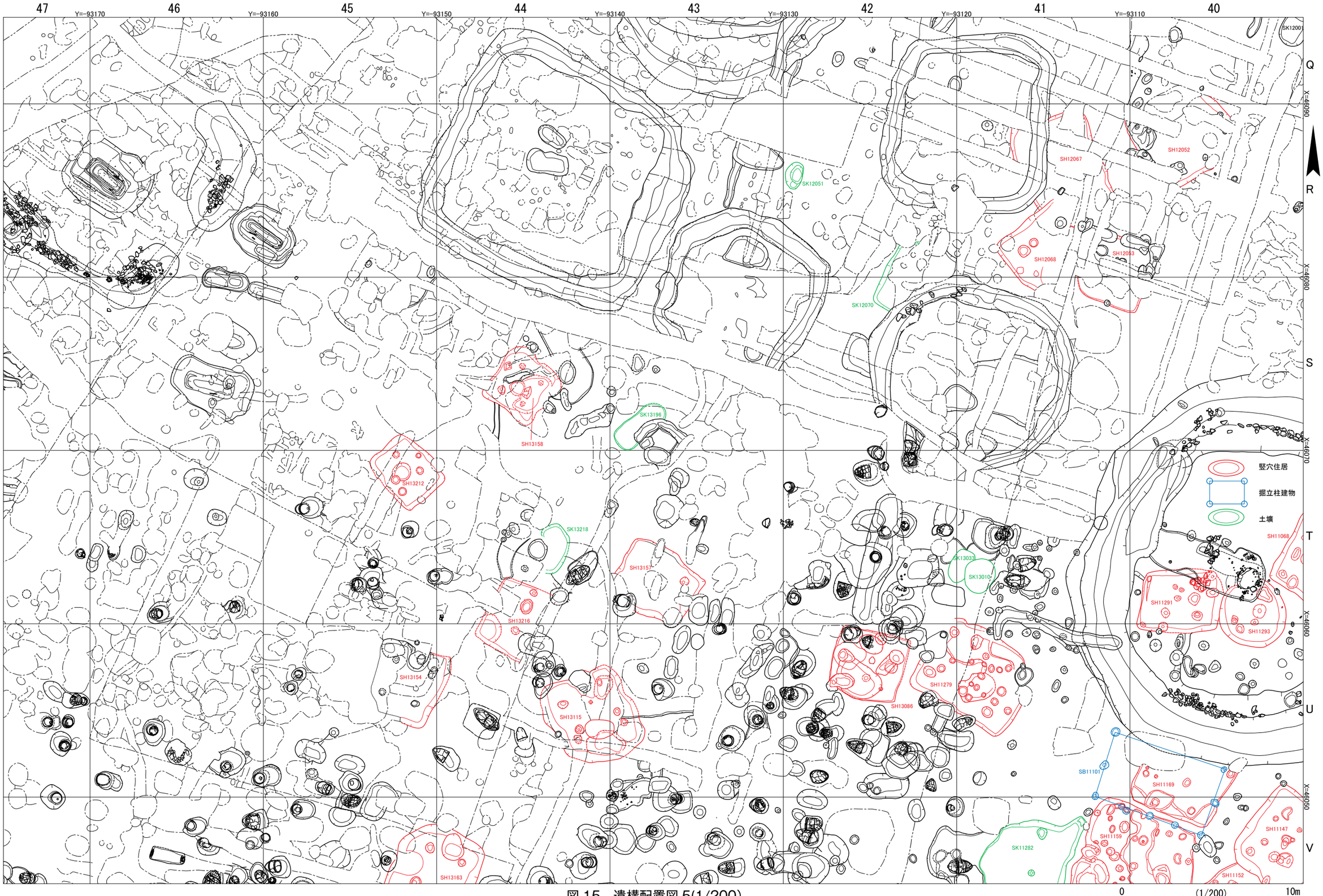


図 15　遺構配置図 5(1/200)

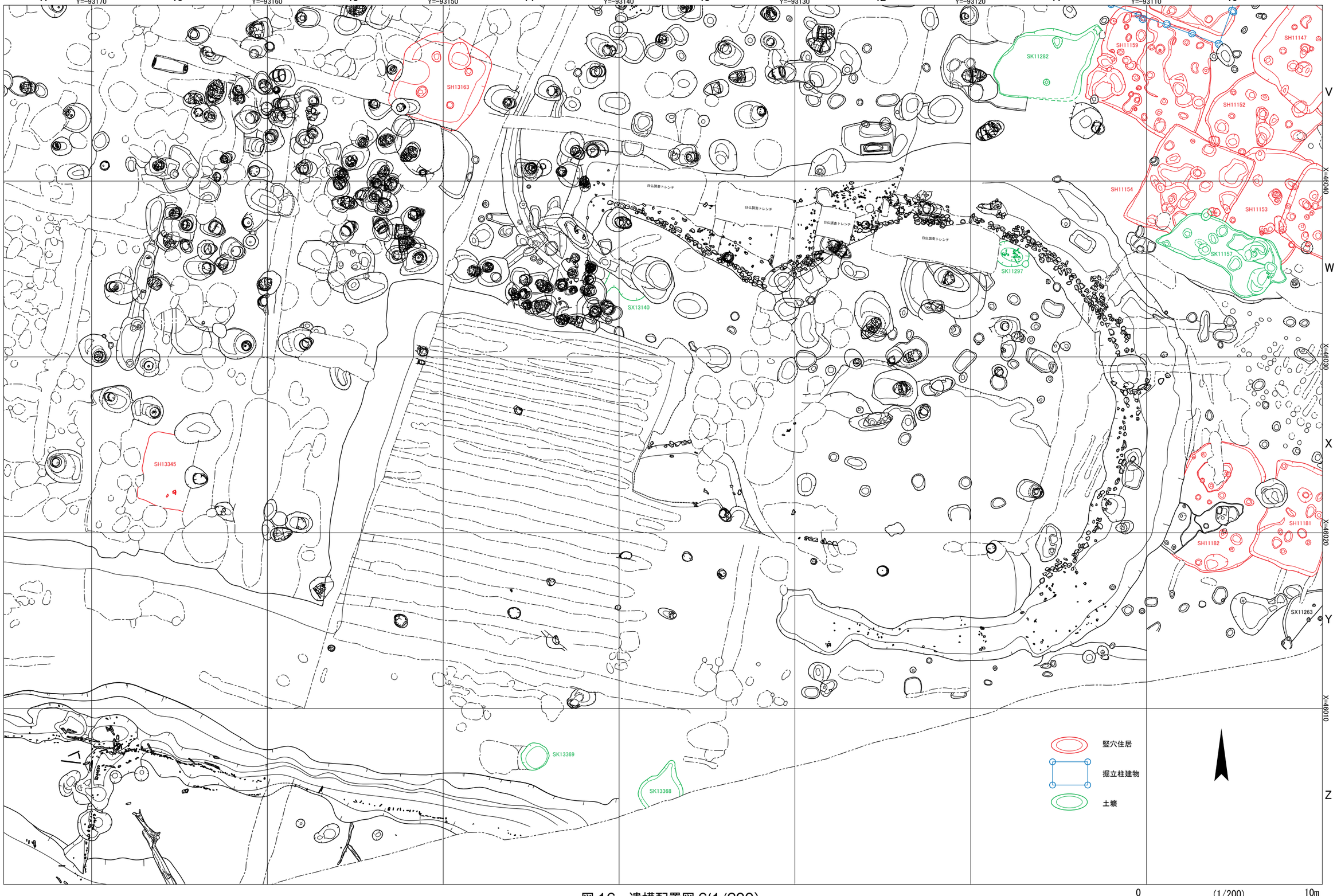


図 16　遺構配置図 6(1/200)

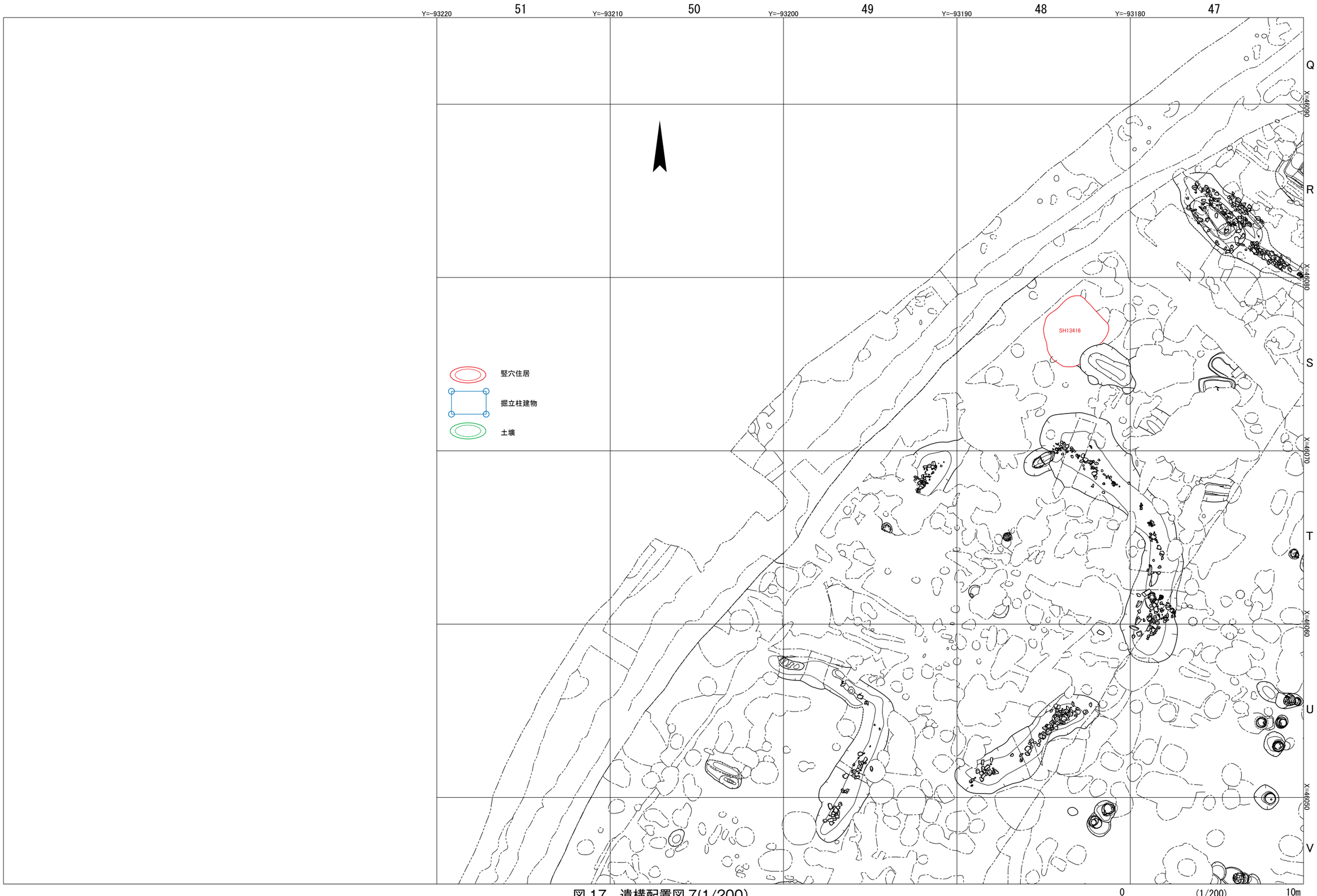


図 17　遺構配置図 7(1/200)

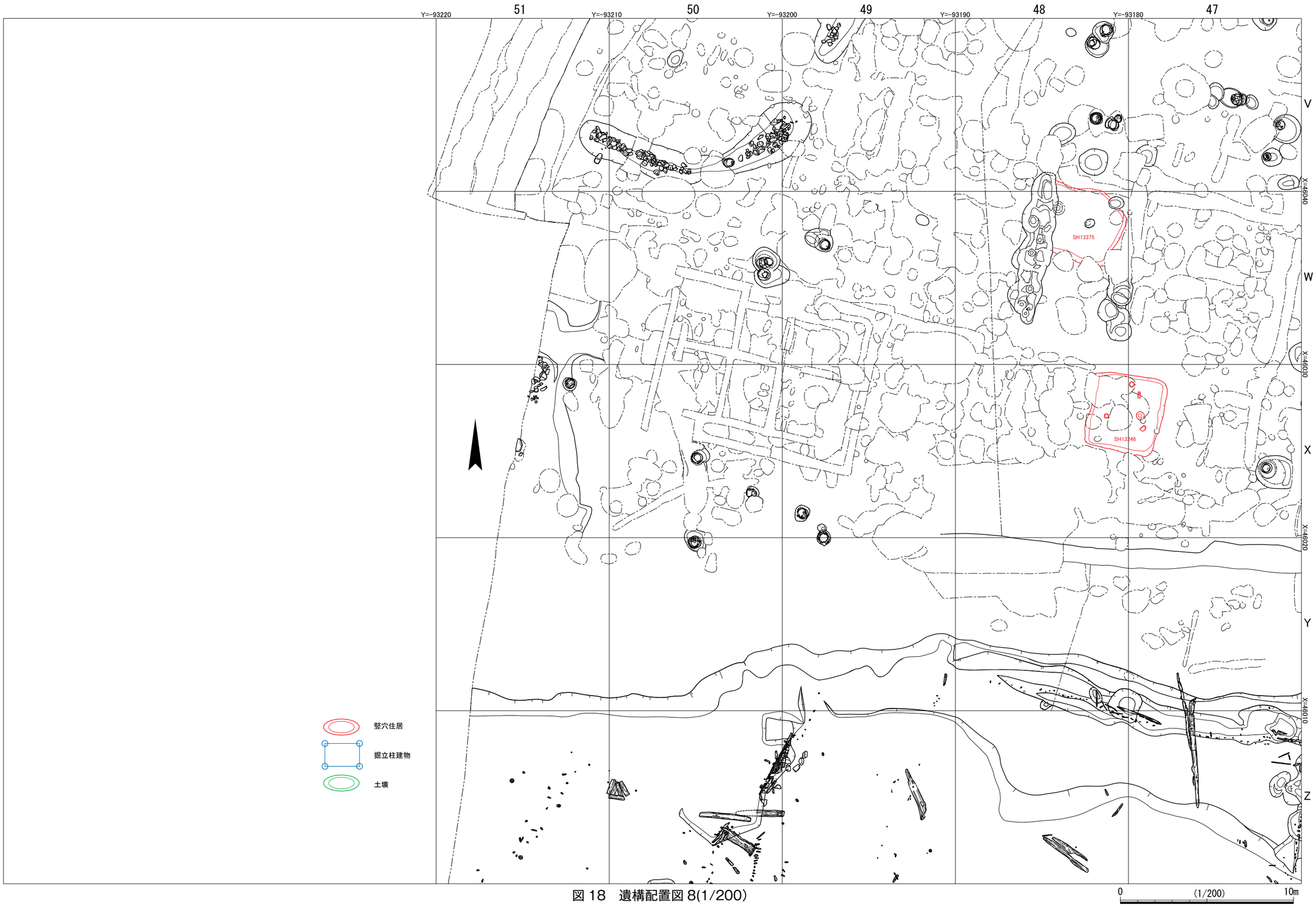


図 18　遺構配置図 8(1/200)

Ⅳ．弥生～古墳時代の遺構と遺物

1，概要

これまで、『中原遺跡Ⅳ』2010 年刊で弥生時代の甕棺墓を、『中原遺跡Ⅴ』2011 年刊で弥生時代の土壙墓、木棺墓、祭祀土坑と古墳時代中期～後期の前方後円墳や円墳を報告した。さらに『中原遺跡Ⅵ』2012 年刊で、古墳時代初頭前後の墳墓群として墳丘墓、土壙墓、木棺墓群、前方後円墳と周溝墓群の調査を報告した。これら 3 冊は 11 区～ 13 区に分布する弥生時代～古墳時代の墳墓群の報告にあたる。

本項では 11 区、12 区、13 区で検出した弥生時代～古墳時代の竪穴住居、掘立柱建物、土坑について報告する。これまで報告してきた墳墓編に対して集落編にあたる。報告する遺構数は竪穴住居 112 軒、掘立柱建物 22 棟、土坑 49 基、溝状遺構 1 条である。表 6 ～ 10 にそれぞれの一覧表を掲載する。

本遺跡は図 8 の遺構配置図からも判るように、多くの遺構が切りあう。遺跡は砂丘に立地するため遺構の平面形や壁面の土壌は漸移的に変化し、明瞭に検出できるものが少なかった。特に竪穴住居の平面形は顕著であり、竪穴住居の平面形と出土土器の時期が一致しないものがある。例えば、SH11003 は平面不整方形である。埋土出土土器は惣座式の甕がまとまって出土しており、遺構の時期は明瞭である。住居の平面形は方形が予想されるが、調査結果としては図 19 のとおりであった。このように竪穴住居の時期を決定するにあたり、出土土器、住居形態、遺構分布、切りあいなどを参考にした。

掘立柱建物跡は調査終了後に小穴の検討から掘立柱建物を認定した。時期は柱穴出土土器による。

土坑は出土土器などで時期が特定できるものを抽出して報告した。また、溝状遺構 1 条はこの項目で報告した。

集落の各遺構の時期を示す編年として以下を用いた。遺構一覧表の時期について参照されたい。以下、遺構ごとに個別に記す。

集落時期編年

田崎(1985)武末(1987)		蒲原(1992,2003)		小松(2002)	田辺(1966)
城ノ越式				2A期	
須玖Ⅰ式	古段階			2B期	TK73
	新段階			3期	TK216
須玖Ⅱ式	古段階			4A期	TK208
	新段階	村徳永式	1式		TK23
			2式	4B期	TK47
			3式	5A期	MT15
		千住式	1式		TK10
			2式	5B期	TK43
			3式		TK209
		惣座式	0式	6期	7世紀前半
			1式	7期	7世紀中～後
			2式		
		夕ヶ里式			
		土師本村式	1式		
			2式		
			3式		

参考文献

田崎博之 1985「須玖式土器の再検討」『史淵』122

武末純一 1987「須玖式土器」『弥生文化の研究』第 4 巻　雄山閣

蒲原宏之 1992「古墳時代初頭前後の土器編年」『佐賀県立博物館・美術館調査研究書』16

蒲原宏之 2003「佐賀平野における弥生後期の土器編年」『佐賀県立博物館・美術館調査研究書』27

小松　譲 2002「肥前地域における古墳時代中・後期土師器編年」『古墳時代中・後期の土師器』第 5 回九州前方後円墳研究会資料集

田辺昭三 1966『陶邑古窯址群Ⅰ』平安学園考古学クラブ

2，遺構（11 区～ 13 区）

（1）竪穴住居跡

ＳＨ１１００３

O -35 区画に位置する遺構である。東側は SH11004 を切る。また、南西側は SB11033、南側に SB11032 がある。

規模は、長軸は 6.64m、短軸は 6.54m、深さは 0.28m、床面積は約 34.19㎡を測る。壁の残存高は約 0.1 ～ 0.15 mになる。平面形は不整方形で、円形か楕円形の主柱穴が P1 ～ P5 まであり、うち 2 つに柱材が残る。それぞれの距離は、P1 から P2 は 3.4 m、P2 から P3 は 2.6 m、P3 から P4 は 2.4 m、P4 から P5 は 1.6 m、P5 から P1 は 1.4 mになる。

遺物は弥生土器、砥石、土製紡錘車が出土している。

ＳＨ１１００４

O -34・35 区画に位置する遺構である。西側は SH11003 に切られる。南東側は SB11009、SB11011 がある。

規模は、長軸は 5.59m、短軸は 5.48、深さは 0.19m、床面面積は約 24.10㎡を測る。平面形は円形で、主柱穴が P1 ～ P5 まである。それぞれの距離は、P1 から P2 が 2.4 m、P2 から P3 は 2.3 m、P3 から P4 は 2.4 m、P4 から P5 は 2.0 m、P5 から P1 は 2.4 mになる。床面中央に長方形の小穴が見られる。

遺物は弥生土器が出土している。

ＳＨ１１００５

P -33・34 区画に位置する遺構である。北側は SB11009、SB11011、南西側には SH11061 がある。

規模は、北側を削平されている為、正確な大きさは不明だが、確認できる範囲では、長軸は 5.54m、短軸は 4.26m、深さは 0.22m、床面積は約 23.60㎡を測る。壁の残存高は約 0.15 m～ 0.2 mになる。平面形は長方形で、円形の主柱穴が P1 ～ P5 まである。それぞれの距離は、P1 から P4 までがそれぞれ 1.2 m、P4 から P5 が 1.0 m、P5 から P1 が 1.2 mになる。

遺物は遺構南側の小穴から、浮いた状態で土師器片が出土しており、その他に砥石が出土している。

ＳＨ１１０１２

Q -33 区画に位置する遺構である。南西側は SH11013、北西側は SK11075 を切っている。

規模は、長軸は 3.65m、短軸は 3.52m、深さは 0.22m、床面積は約 12.85㎡を測る。壁の残存高は約 0.15 m～ 0.2 mになる。平面形は方形で、小穴は見つかっているが、主柱穴になると思われる小穴は不明瞭。

遺物は須玖式土器が出土している。

ＳＨ１１０１３

Q -33・34 区画に位置する遺構である。北東側は SH11012、南東側は SK11011、北側は SK11075 を切る。

規模は、北西側を SH11012 に切られている為、正確ではないが、確認できる範囲では、長軸は 6.27m、短軸は 5.34m、深さは 0.20m、床面積は 26.40㎡を測る。壁の残存高は、約 0.15 m～ 0.2 mになる。平面形は円形で、主柱穴は 6 穴と思われる。

遺物は須玖Ⅰ式の土器、砥石、石斧が出土している。

ＳＨ１１０２７

Q-35 区画に位置する遺構である。北西は SH11209 に切られ、西側は SB11059 等の掘立柱建物がある。

規模は、長軸は 5.26m、短軸は 5.18m、深さは 0.36m、床面積は約 21.39㎡を測る。壁の残存高は約 0.2

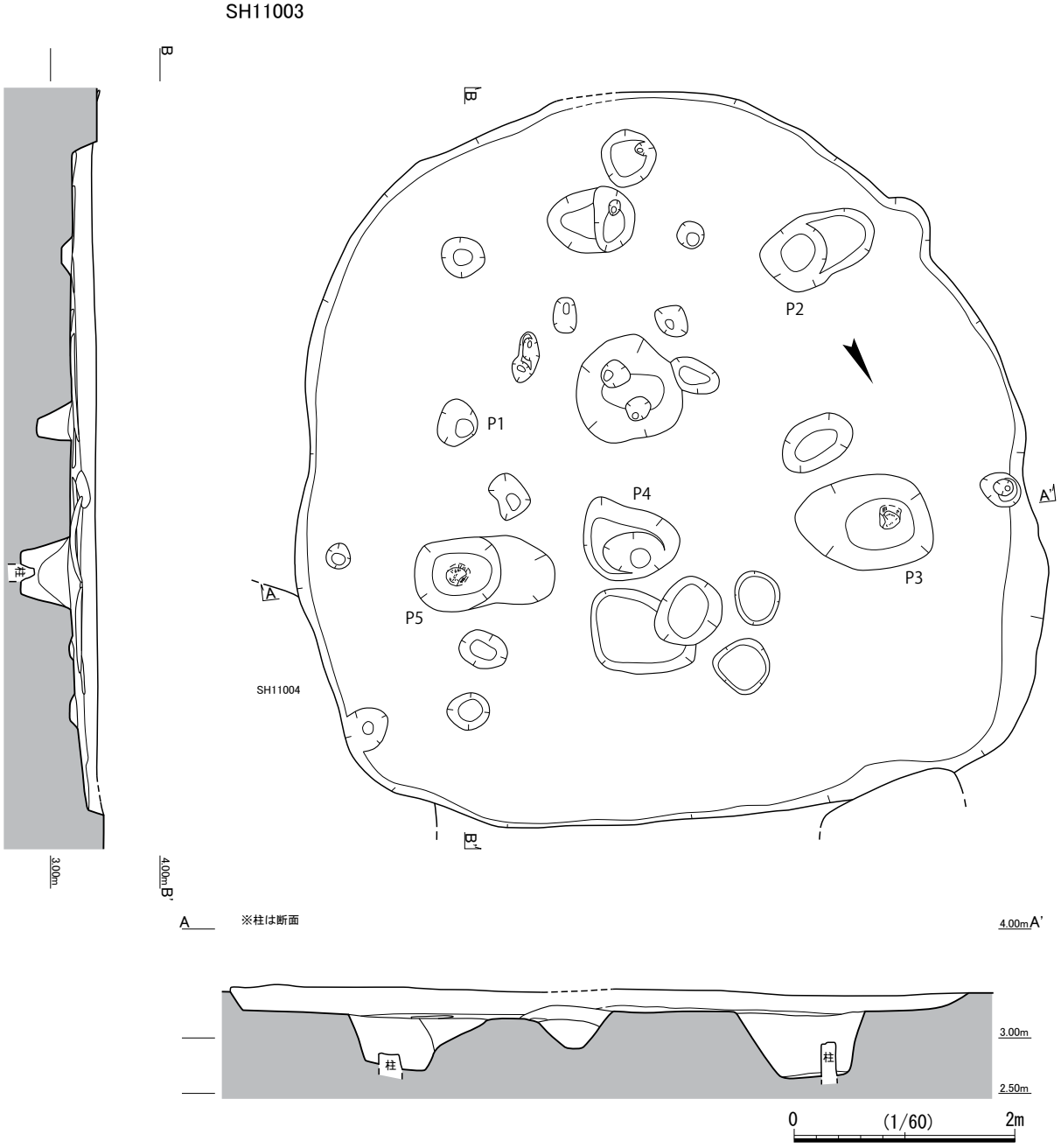


図 19　SH11003 竪穴住居跡 (1/60)

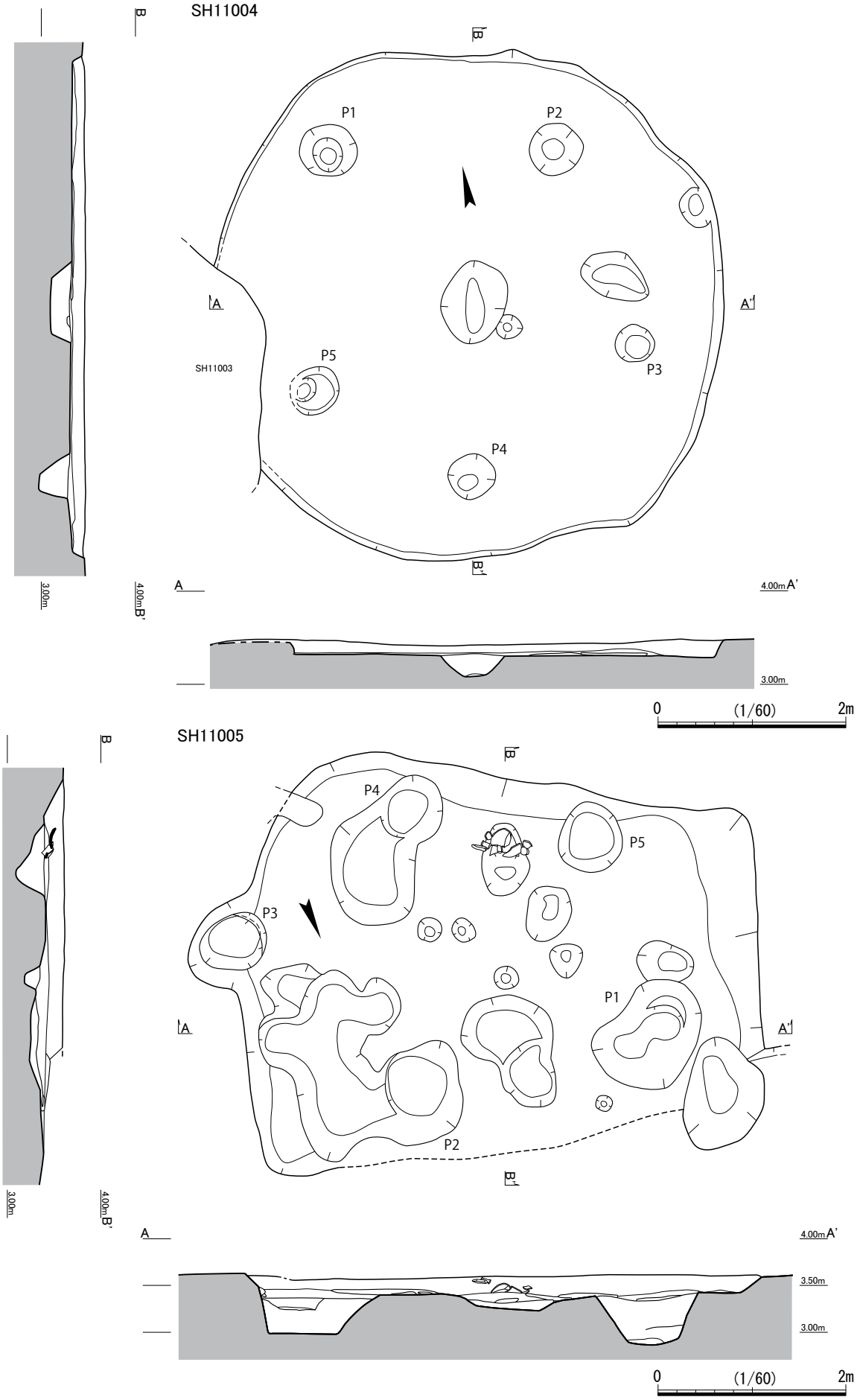


図 20　SH11004・11005 竪穴住居跡 (1/60)

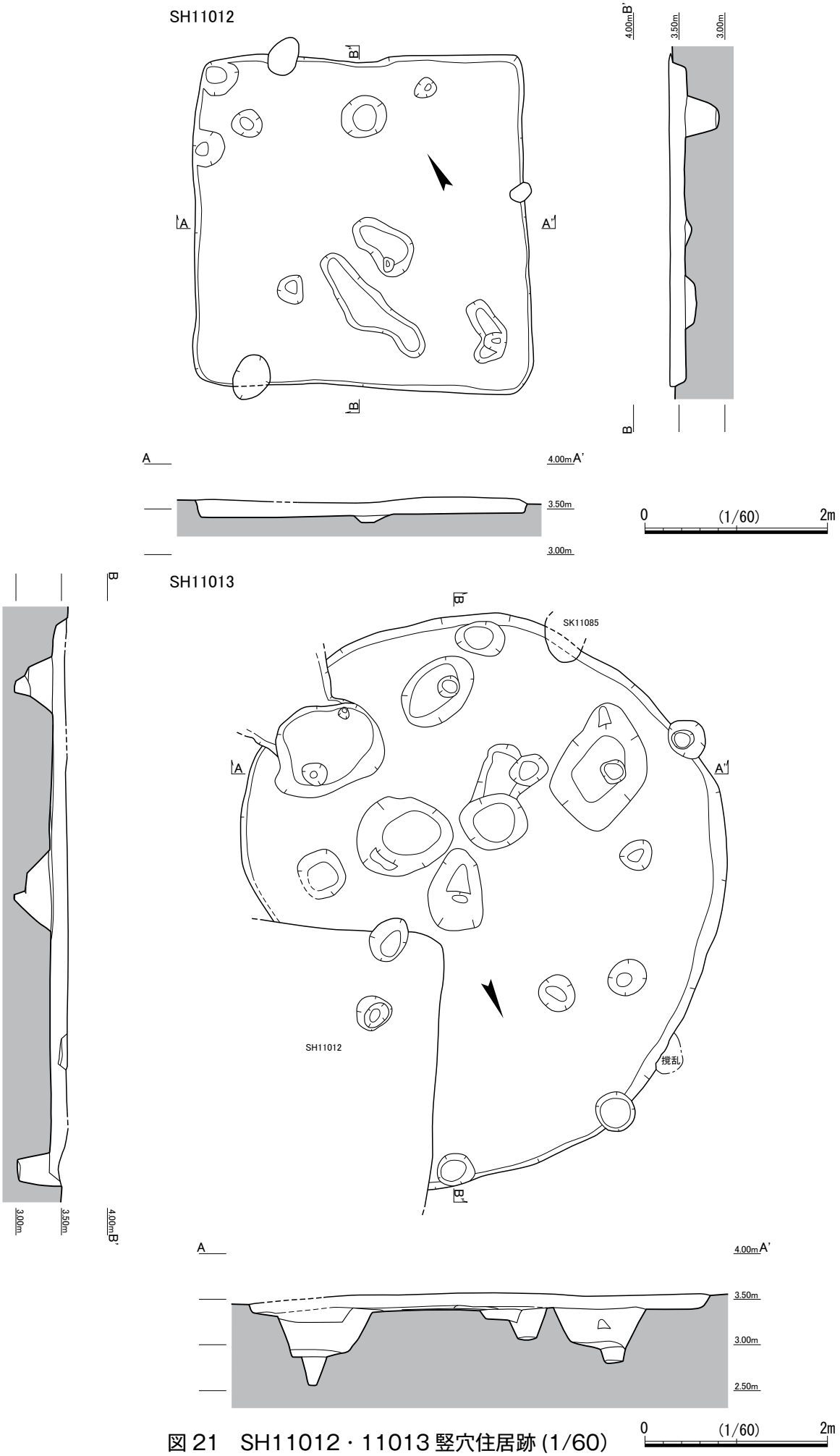


図 21　SH11012・11013 竪穴住居跡 (1/60)

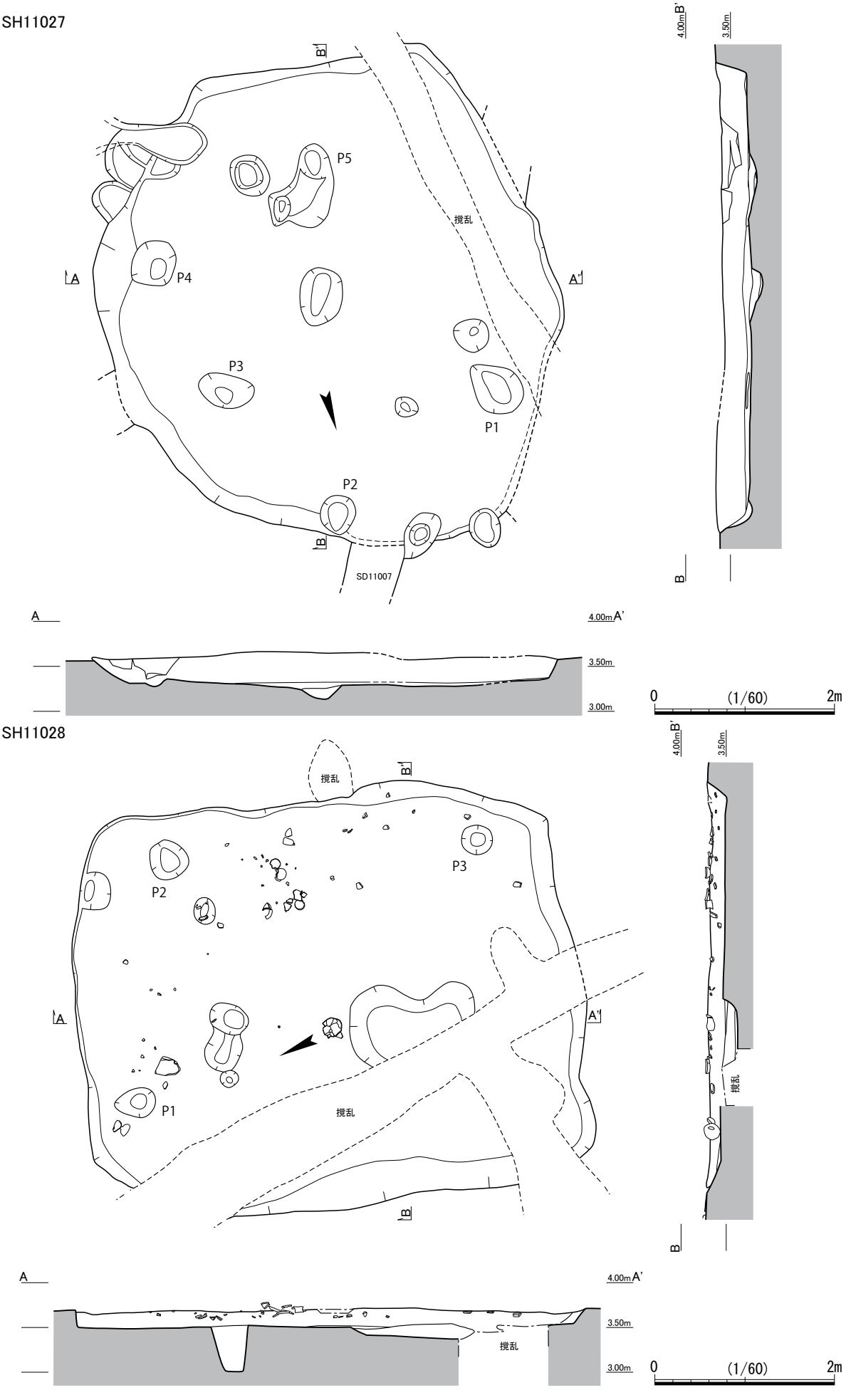


図 22　SH11027・11028 竪穴住居跡（1/60）

m～ 0.25 mある。平面形は円形で、主柱穴が P1 ～ P5 まである。それぞれの距離は、P1 から P2 は 2.3 m、P2 から P3 は 1.8 m、P3 から P4 は 1.6 m、P4 から P5 は 2.1 m、P5 から P1 は 3.2 mになる。

遺物は弥生土器、土製紡錘車が出土している。土器には吉備系と思われる甕口縁と肥前型器台が出土する。

ＳＨ１１０２８

Q･R-35 区画に位置する遺構である。南側は SK11057 を切る。東側は SH11052 の上に作られている。また、西側には SB11077 等の掘立柱建物がある。

規模は、長軸は 8.61m、短軸は 6.84m、深さは 0.24m、床面積は約 58.89㎡を測る。壁の残存高は約 0.1 m～ 0.2 mになる。平面形は長方形で、円形の主柱穴が P1 ～ P3 まであり、南から北西にかけて溝状の撹乱が T 字状に入っており、主柱穴が 1 つなくなっていると思われる。それぞれの距離は、P1 から P2 が 2.7 m、P2 から P3 が 3.5 mになる。

遺物は弥生土器が南東側に散乱する形で出土しており、砥石も出土している。

ＳＨ１１０２９

T・U-39 区画に位置する遺構である。西側は ST11141、南側は SH11160 に切られる。東側には SH11187 がある。

規模は確認できる範囲で、長軸は（4.84）m、短軸は（3.74）m、深さは 0.23m、床面積は約 18.10㎡を測る。壁の残存高は約 0.1 mになる。平面形は方形と思われ、遺構内には浅い小穴が見られるが、主柱穴かどうかは不明瞭。

遺物は弥生土器、土師器が出土している。

ＳＨ１１０３９

R-33 区画に位置する遺構である。北側は SX11062、南西は SH11106 を切る。また、北側には SH11087 があり、北西側は SB11038、SB11044、南西側には SB11058、SB11046 等、掘立柱建物が集中する。

規模は、北東側を溝に一部切られるが、長軸は 5.11m、短軸は 4.90m、深さは 0.46m、床面積は約 25.04㎡を測る。壁の残存高は約 0.3 m～ 0.4 mになる。平面形は方形で、円形または楕円形の主柱穴が P1 ～ P4 まである。それぞれの距離は、P1 から P4 までがそれぞれ 2.2 m、P4 から P1 が 2.0 mになる。

遺物は弥生土器、土師器、砥石が出土している。

ＳＨ１１０４７

R-34 区画に位置する遺構である。北西側は SH11252、南西側は SH11094 を切る。また、北東側は SB11038、南東側には SB11044 など、東側は掘立柱建物が集中している。

規模は、長軸は 4.65㎝、短軸は 4.53㎝、深さは 0.29㎝、床面積は約 21.06㎡を測る。壁の残存高は約 0.2 m～ 0.3 mになる。平面形は方形で、円形の主柱穴が P1 ～ P4 まである。それぞれの距離は、南北の P1 から P2、P3 から P4 は 1.6 m、東西の P2 から P3、P4 から P1 は 1.8 mになる。また、竈が西側に作られており、その中から砥石が出土し、南東側からは鉄滓が出土している。また、4 つの主柱穴の中心に土坑が作られている。

その他の遺物は、土師器が出土している。

ＳＨ１１０５２

Q・R-34・35 区画に位置する遺構である。北東側に SH11252、北西側に SH11028 があり、切られ

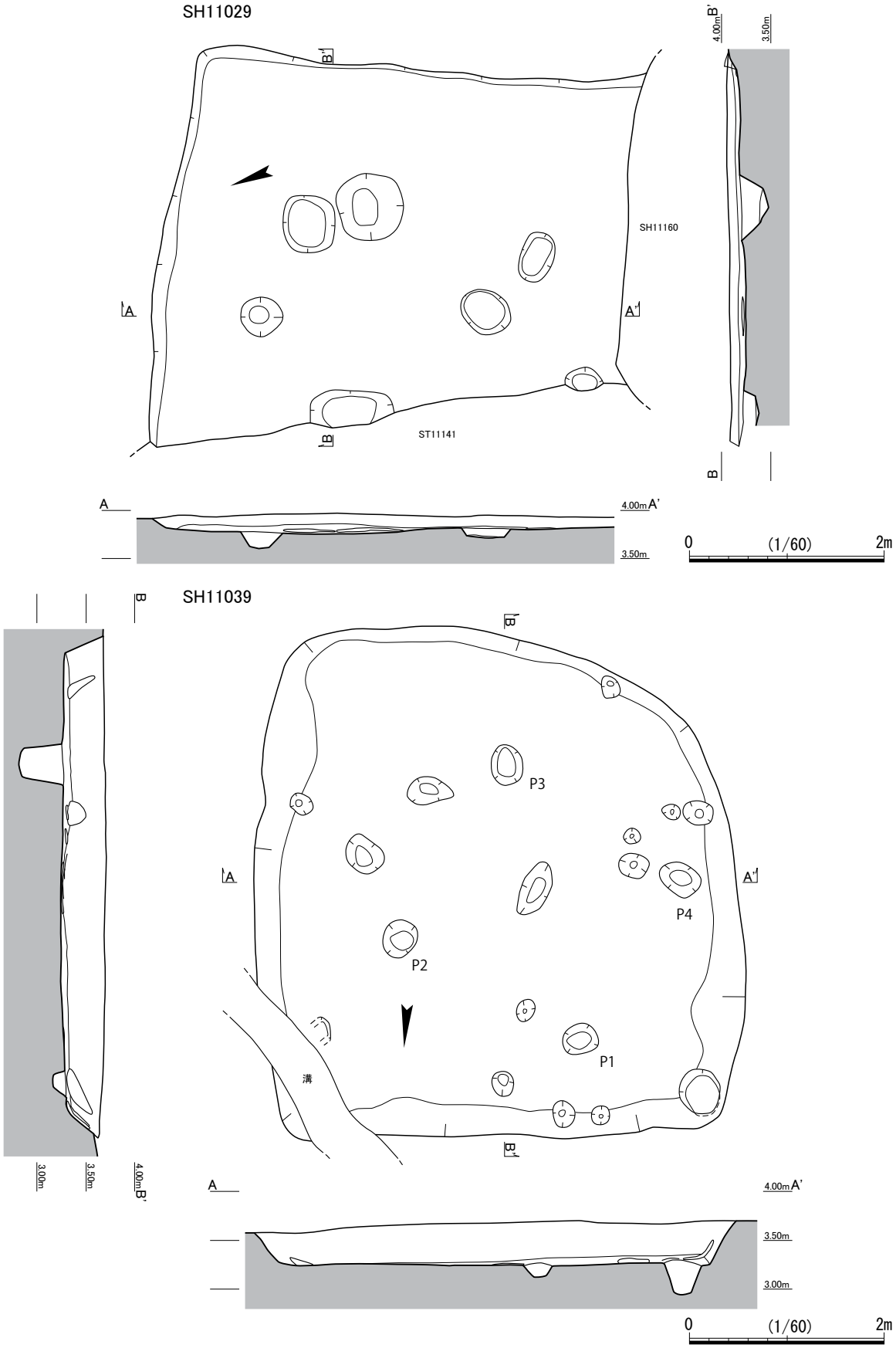


図 23　SH11029・11039 竪穴住居跡（1/60）

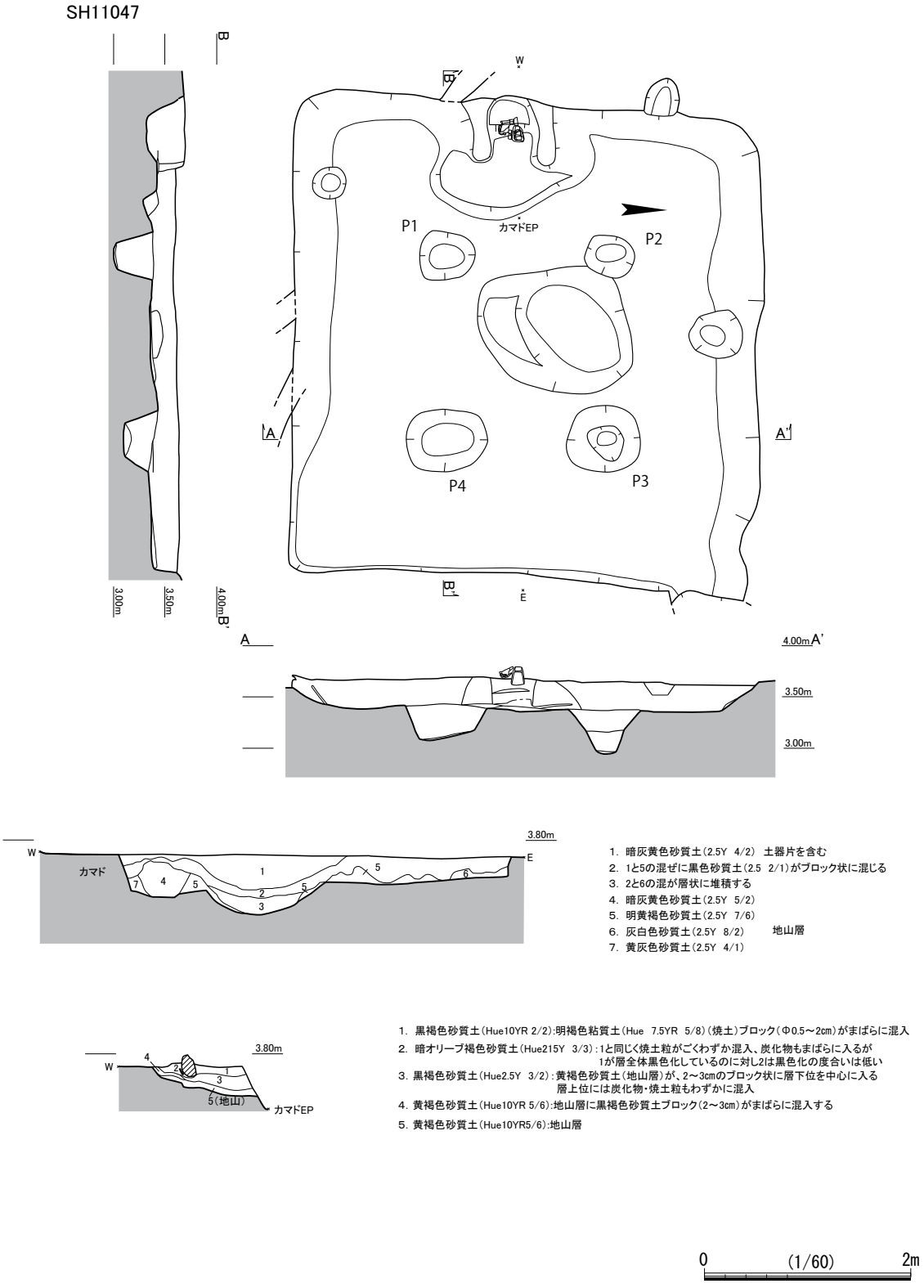


図 24　SH11047 竪穴住居跡 (1/60)

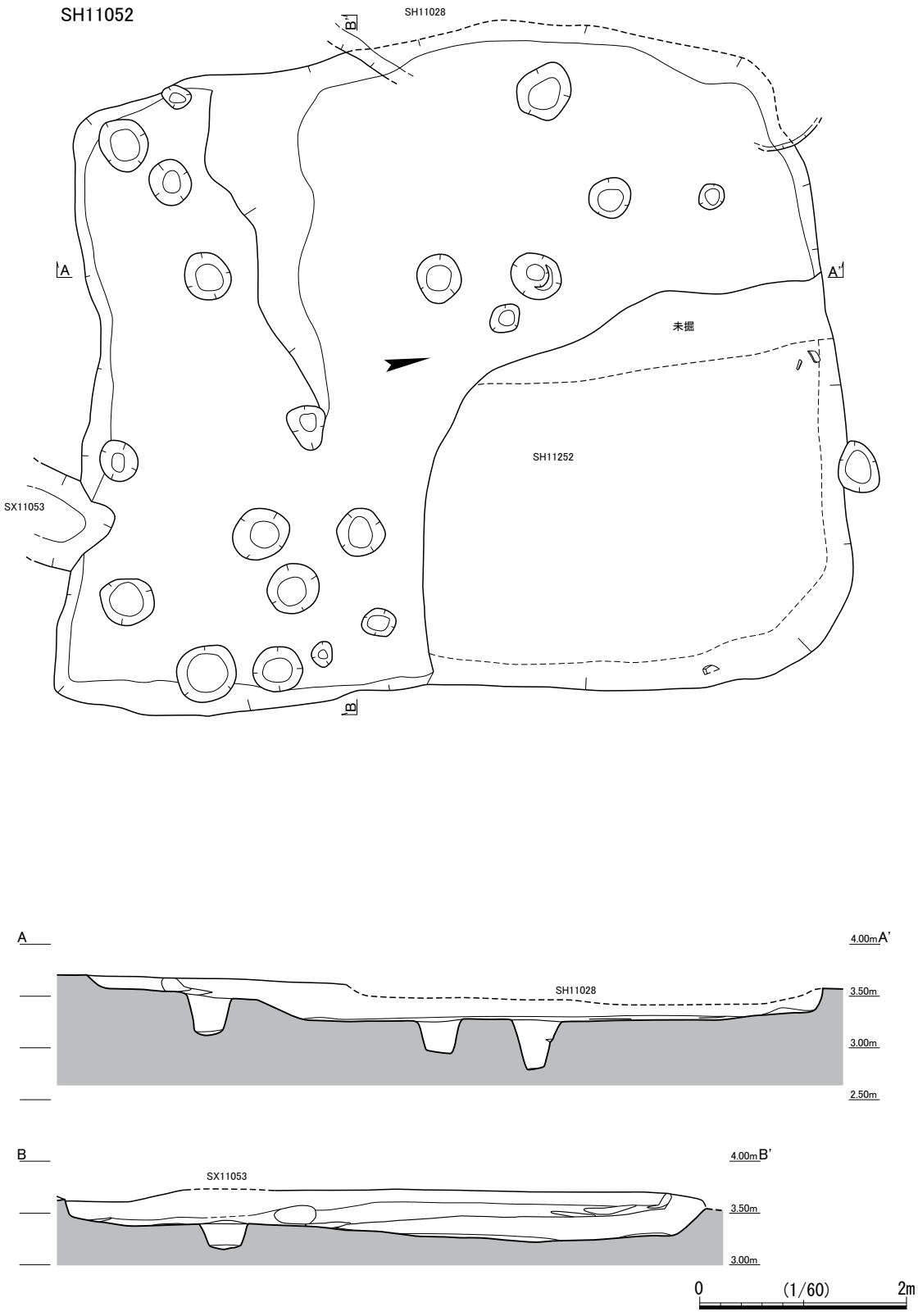


図 25　SH11052 竪穴住居跡 (1/60)

ている。また、南東側は SH11094 を切る。東側は SH11047、南西には SH11095 がある。

規模は確認できる範囲で、長軸は 7.16m、短軸は 6.32m、深さは 0.43m、床面積は約 45.25㎡を測る。壁の残存高は約 0.1 m～ 0.2 mになる。平面形は長方形で、小穴は見られるものの、主柱穴かどうかは不明。遺構南側には床面が 0.2m ほど段差を持って高くなっている部分が有り、ベッド状遺構と思われる。

遺物は須玖 I 式の土器、砥石が出土している。

ＳＨ１１０５５

R-35 区画に位置する遺構である。東側は SH11081、南側は SH11098 を切る。また、北西側には SH11095 がある。

規模は、溝状の撹乱によって南側を切られているが、確認できる範囲で、長軸は 3.91m、短軸は 3.82m、深さは 0.35m、床面積は約 15.09㎡を測る。壁の残存高は約 0.1 m～ 0.2 mになる。平面形は不整方形で、円形の主柱穴が P1 ～ P4 まである。それぞれの距離は、P1 から P2 が 1.6 m、P2 から P3 が 1.7 m、P3 から P4 が 1.7 m、P4 から P1 が 1.6 mになる。西壁には竈が作られている。

遺物は土師器が出土している。

ＳＨ１１０６１

P･Q-34 区画に位置する遺構である。南西側は SH11082 に切られる。また、北側は SH11005 があり、さらに北側に SB11011 等の掘立柱建物が集中し、南東側には SB11038 等の掘立柱建物が集中している。

規模は確認できる範囲で、長軸は 7.38m、短軸は 4.32m、深さは 0.46m、床面積は約 31.88㎡を測る。壁の残存高は約 0.2 mになる。平面形は長方形で、小穴は見られるが、主柱穴になると思われる小穴は不明瞭。

遺物は弥生土器が出土している。

ＳＨ１１０６４

Q-33 区画に位置する遺構である。西側は SD11087 を切る。また、北西側は SH11012、南西側は SH11039、西側には SB11038 等の掘立穴建物跡が集中している。

規模は、東側が調査区外のため、正確な規模は不明だが、長軸は 6.80m、短軸は 3.94m、深さは 0.21m、床面積は約 18.15㎡を測る。壁の残存高は約 0.05 m～ 0.2 mになる。平面形は円形で、円形と楕円形の主柱穴が P1 と P2 がある。P1 から P2 の距離は 2.2 mになる。中央に土坑が作られている。そのほかに粘土の塊が 3 箇所認められ、焼けた粘土痕も見られる。

遺物は北西側の床面からは弥生土器が出土している。

ＳＨ１１０６６

V-38 区画に位置する遺構である。北側は SH11183、西側は SH11143 を切る。また、北東側では SH11175 が隣接している。

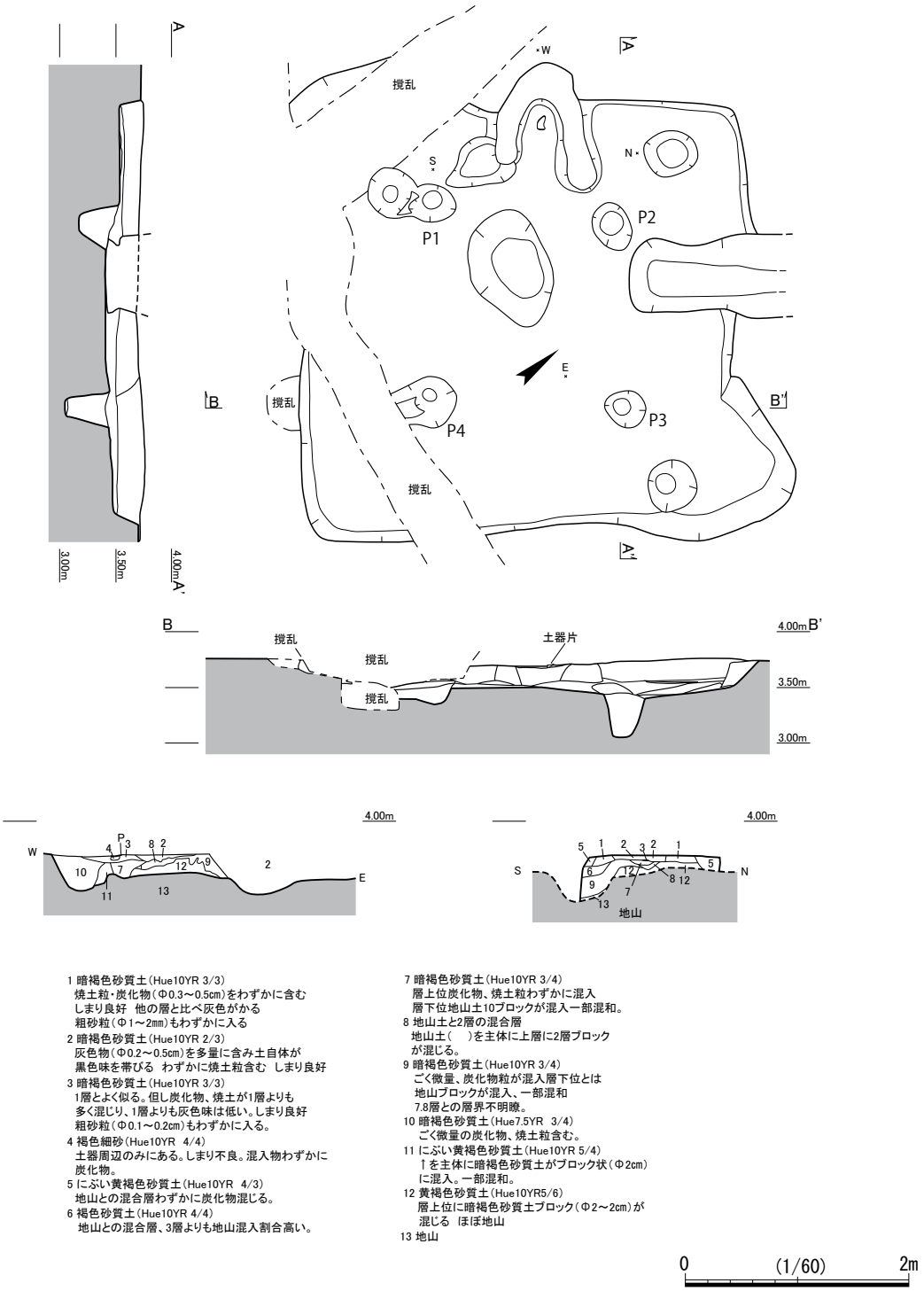
規模は、南東側を溝状の撹乱によって一部切られるが、長軸は 5.72m、短軸は 5.22m、深さは 0.27m、床面積は約 29.86㎡を測る。壁の残存高は約 0.15 m～ 0.2 mになる。平面形は方形で、円形と楕円形の主柱穴が P1 ～ P4 まである。それぞれの距離は、P1 から P2 が 3.0 m、P2 から P3 が 2.7 m、P3 から P4 が 2.8 m、P4 から P1 が 2.8 mになる。

遺物は土師器が出土している。

ＳＨ１１０６８

T-39・40 区画に位置する遺構である。本遺構は ST11141 の下に作られている。東側には SH11069

SH11055



1 暗褐色砂質土(Hue10YR 3/3)
焼土粒・炭化物(Φ0.3～0.5cm)をわずかに含む
しまり良好　他の層と比べ灰色がかる
粗砂粒(Φ1～2mm)もわずかに入る
2 暗褐色砂質土(Hue10YR 2/3)
灰色物(Φ0.2～0.5cm)を多量に含み土自体が
黒色味を帯びる　わずかに焼土粒含む　しまり良好
3 暗褐色砂質土(Hue10YR 3/3)
1層とよく似る。但し炭化物、焼土が1層よりも
多く混じり、1層よりも灰色味は低い。しまり良好
粗砂粒(Φ0.1～0.2cm)もわずかに入る。
4 褐色細砂(Hue10YR　4/4)
土器周辺のみにある。しまり不良。混入物わずかに
炭化物。
5 にぶい黄褐色砂質土(Hue10YR　4/3)
地山との混合層わずかに炭化物混じる。
6 褐色砂質土(Hue10YR 4/4)
地山との混合層、3層よりも地山混入割合高い。
7 暗褐色砂質土(Hue10YR 3/4)
層上位炭化物、焼土粒わずかに混入
層下位地山土10ブロックが混入一部混和。
8 地山土と2層の混合層
地山土(　)を主体に上層に2層ブロック
が混じる。
9 暗褐色砂質土(Hue10YR 3/4)
ごく微量、炭化物粒が混入層下位とは
地山ブロックが混入、一部混和
7.8層との層界不明瞭。
10 暗褐色砂質土(Hue7.5YR　3/4)
ごく微量の炭化物、焼土粒含む。
11 にぶい黄褐色砂質土(Hue10YR 5/4)
↑を主体に暗褐色砂質土がブロック状(Φ2cm)
に混入。一部混和。
12 黄褐色砂質土(Hue10YR5/6)
層上位に暗褐色砂質土ブロック(Φ2～2cm)が
混じる　ほぼ地山
13 地山

0　(1/60)　2m

図 26　SH11055 竪穴住居跡 (1/60)

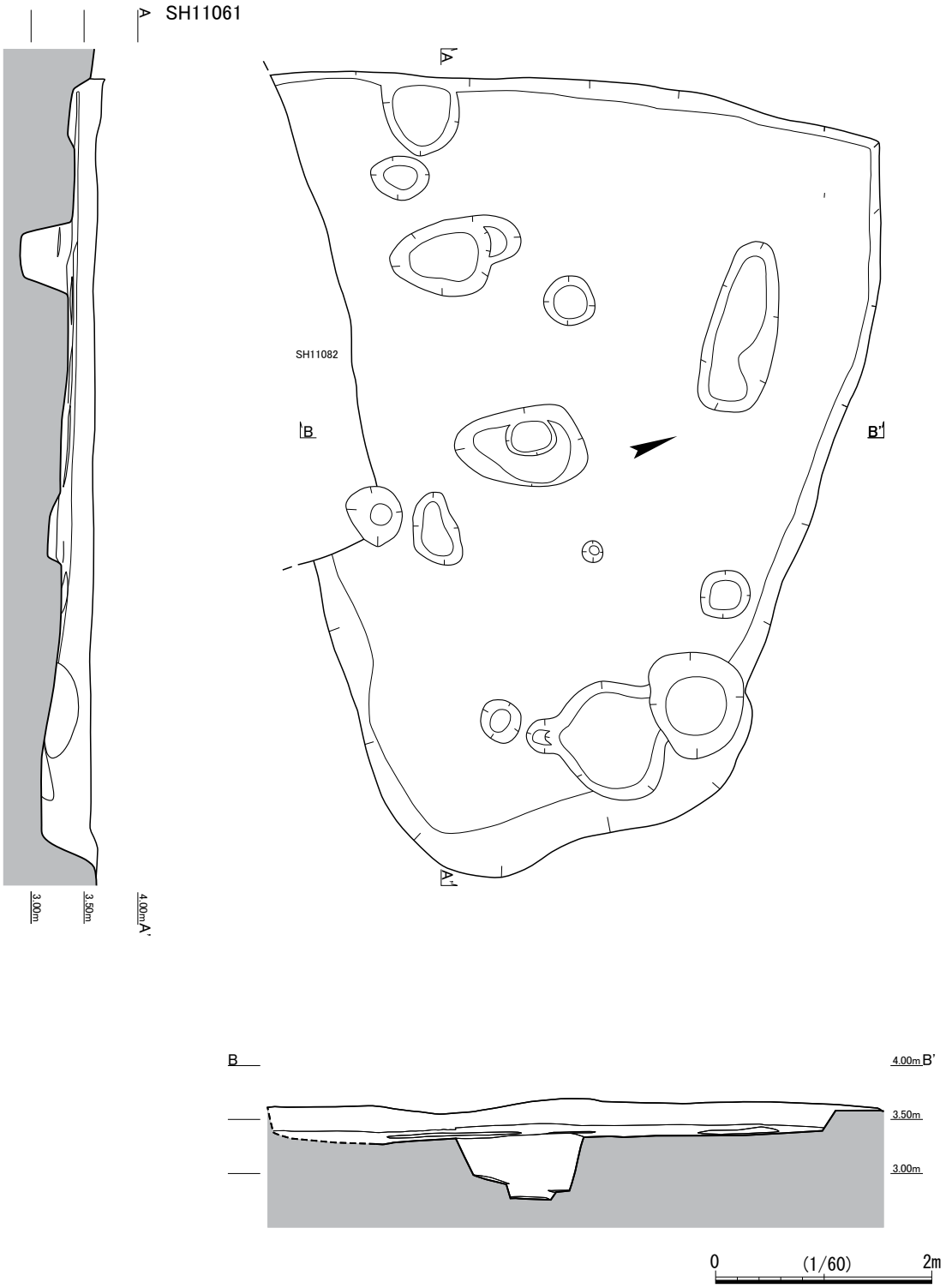
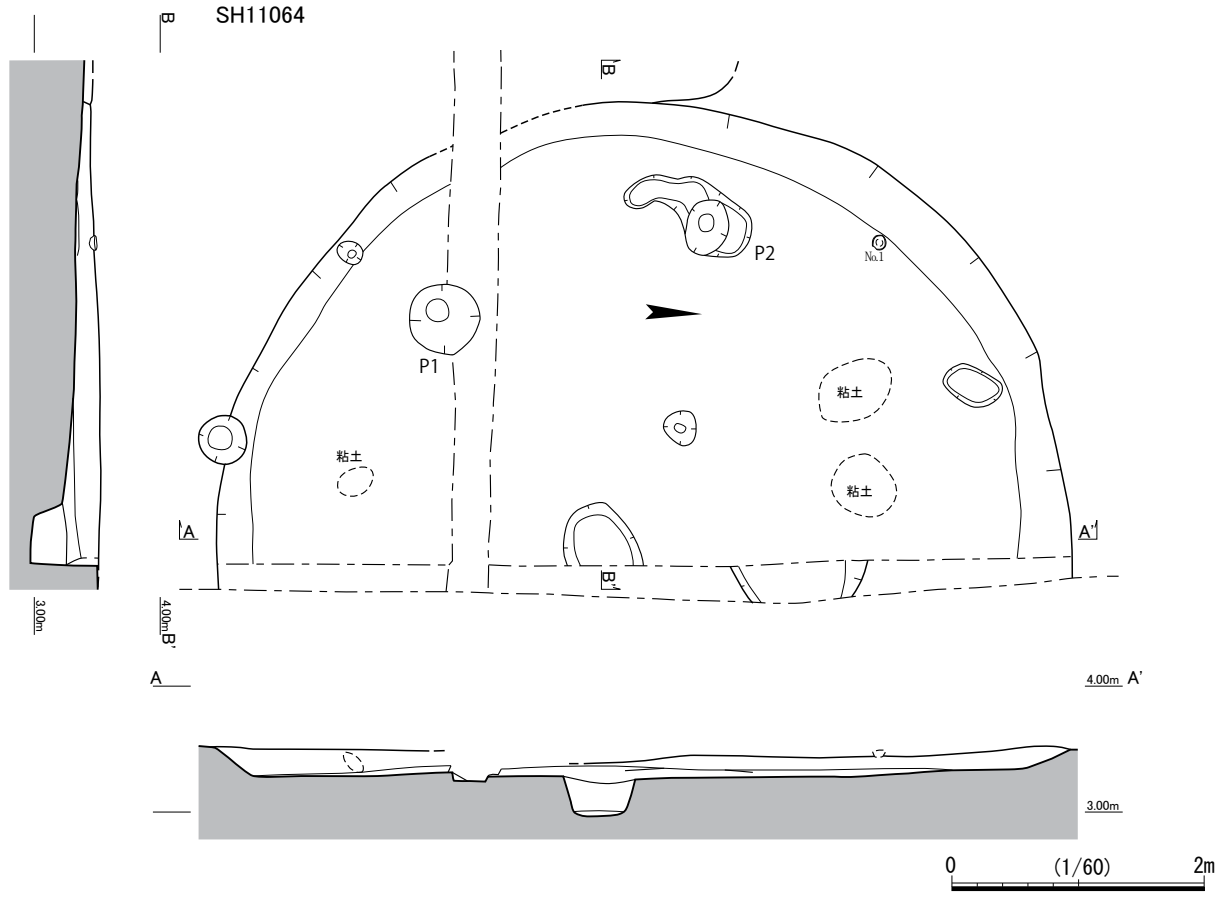


図 27　SH11061 竪穴住居跡 (1/60)



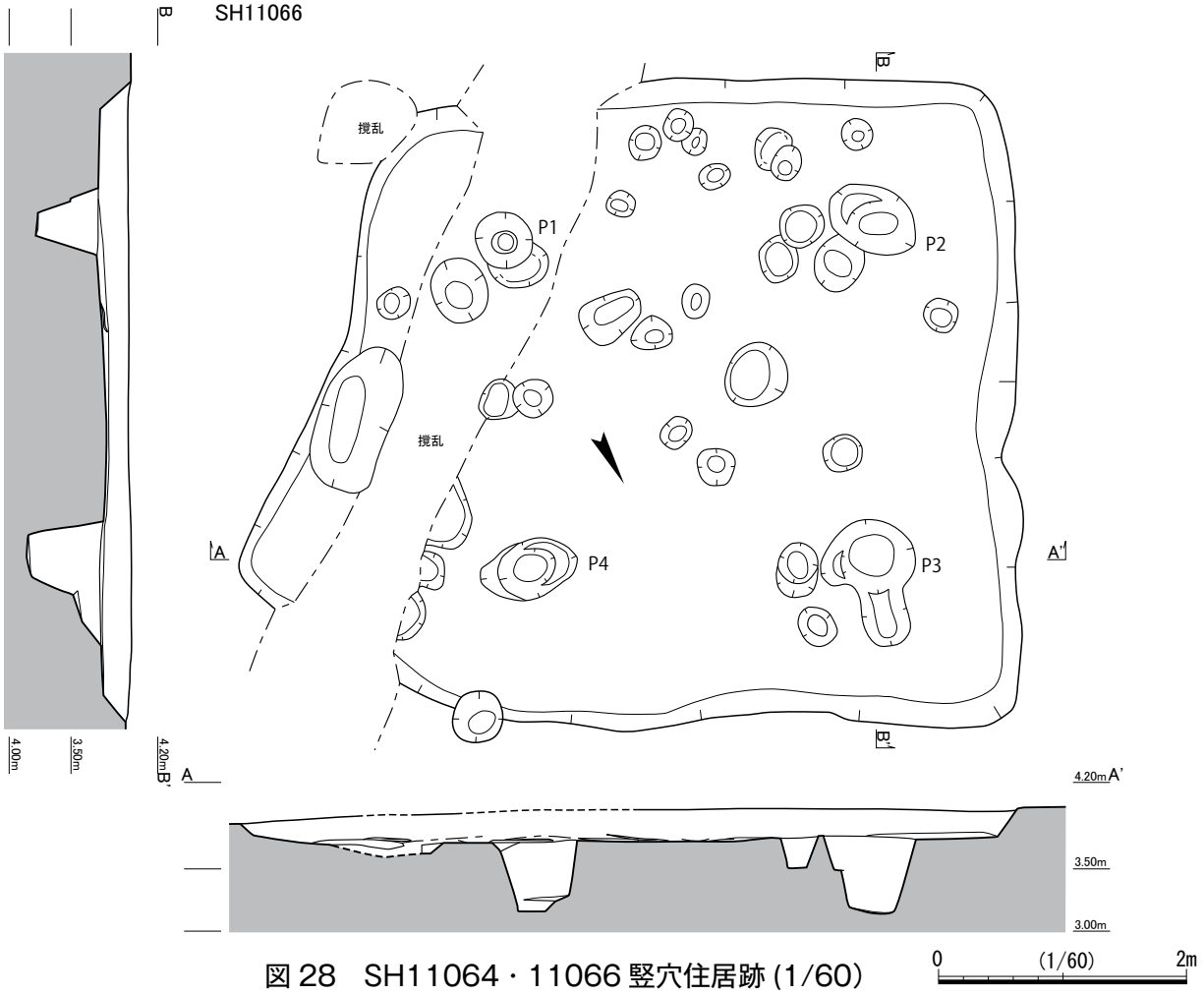


図 28　SH11064・11066 竪穴住居跡 (1/60)

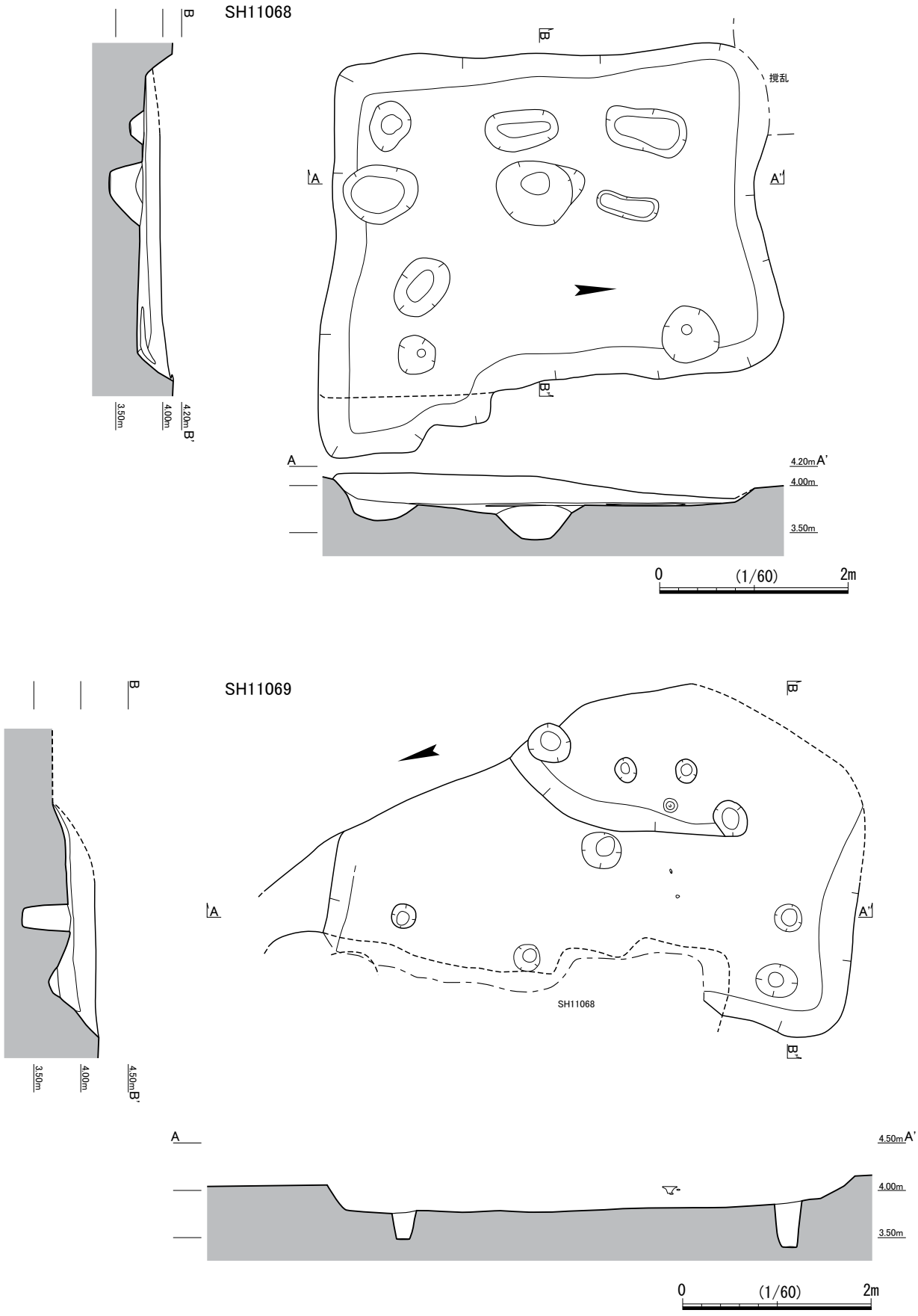


図 29　SH11068・11069 竪穴住居跡 (1/60)

があり、これを切っている。また、南西側にはSH11291、SH11293がある。

規模は、長軸は4.51m、短軸は4.15m、深さは0.38m、床面積は約18.72㎡を測る。壁の残存高は約0.1m～0.3mになる。平面形は不整方形で、小穴は見られるが、主柱穴と思われる小穴は不明。

遺物は弥生土器、土師器、砥石が出土している。

ＳＨ１１０６９

T-39区画に位置する遺構である。東側はST11141に切られる。西側はSH11068を切る。

規模は確認できる範囲で、長軸は5.62㎝、短軸は（2.20）㎝、深さは0.32m、床面積は約12.36㎡を測る。壁の残存高は約0.2 m～0.25 mになる。平面形は方形と思われ、小穴が見られるが主柱穴と思われる小穴は不明。

遺物は土師器が出土している。

ＳＨ１１０８１

R-34区画に位置する遺構である。西側はSH11055、南西側はSH11098に切られる。北側はSH11094を切る。南側ではSX11099が隣接する。

規模は確認できる範囲で、長軸は4.74m、短軸は4.27m、深さは0.19m、床面積は約15.90㎡を測る。壁の残存高は約0.15 mになる。平面形は円形で、小穴がP1～P4まであり、それぞれの距離は、P1からP2が1.8m、P2からP4までのそれぞれが2.2m、P4からP1が2.4mになる。遺溝南壁沿には溝が作られている。

遺物は須玖Ⅰ式からⅡ式の弥生土器、土製紡錘車が出土している。

ＳＨ１１０８２

Q-34区画に位置する遺構である。北側はSH11061がある。南側はSH11252上に造られている。また、南東側にはSB11038等の掘立柱建物が集中している。

規模は、長軸は4.93㎝、短軸は4.73㎝、深さは0.20㎝、床面積は約23.32㎡を測る。壁の残存高は約0.1m～0.2mになる。平面形は方形で、円形の主柱穴がP1～P4まである。それぞれの距離は、P1からP2が2.0m、P2からP3が2.1m、P3からP4が2.0m、P4からP1が2.1mになる。西側には竈が作られ、遺構中央には土坑が作られる。

遺物は土師器が出土し、竈から土師器が出土している。

ＳＨ１１０９４

R-35区画に位置する遺構である。北側はSH11047、SH11052、南側はSH11081に切られる。

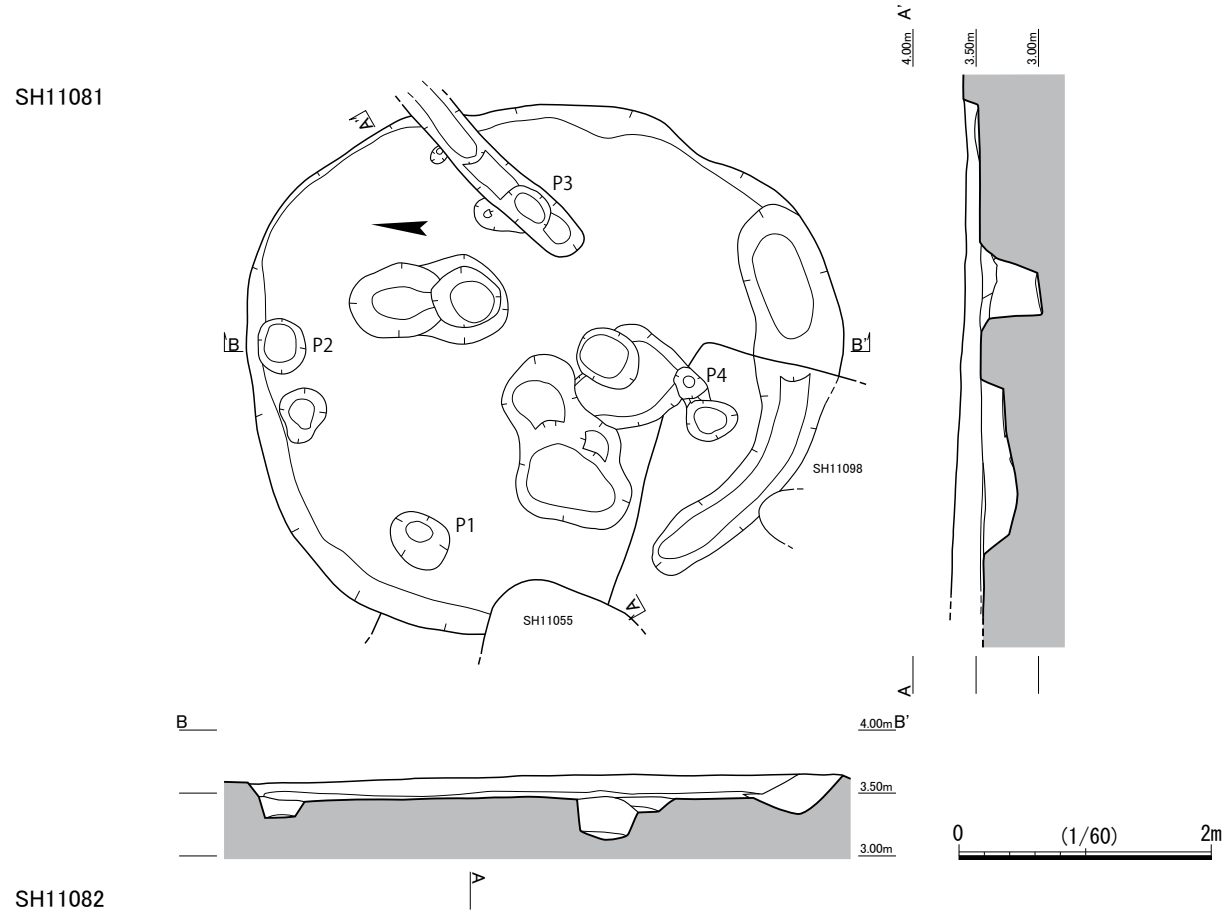
規模は確認できる範囲で、長軸は5.62m、短軸は（4.54）m、深さは0.21n、床面積は約20.26㎡を測る。壁の残存高は、約0.2m～0.3mになる。平面形は円形になると思われ、主柱穴がP1～P4まである。それぞれの距離は、P1からP2が1.8m、P2からP3、P4がそれぞれ2.0m、P4からP1が1.8mになる。中央に楕円形の小穴がある。

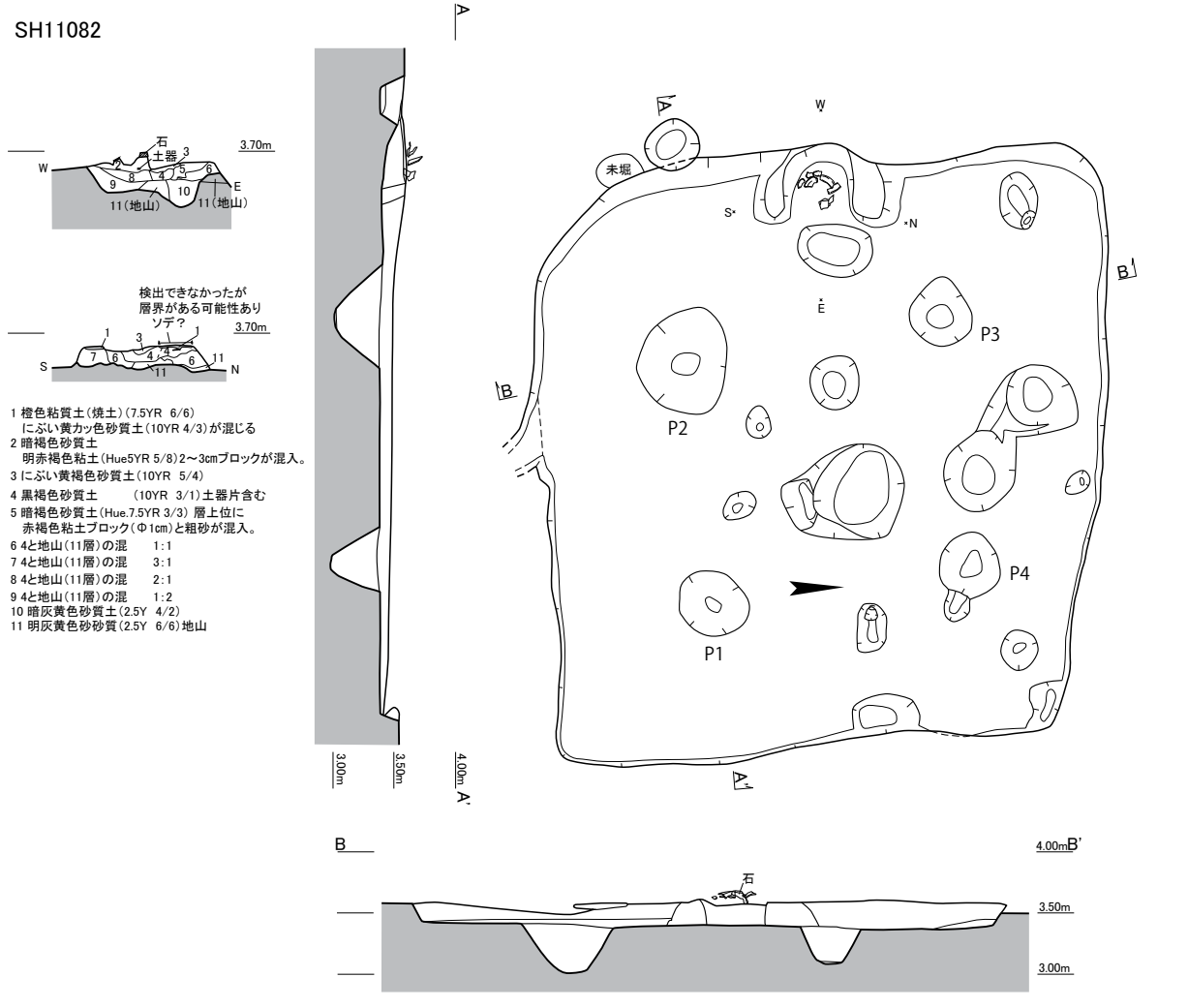
遺物は弥生土器、石器が出土している。

ＳＨ１１０９５

R-35区画に位置する遺構である。南西側はSH11130、北西側はSK11057に切られる。また、東側はSH11055、北東側はSH11052、北西側にはSB11077がある。

規模は、遺構内を溝状の撹乱が横断し、正確な形は不明だが、確認できる範囲では、長軸は5.47m、短軸は3.76m、深さは0.27m、床面積21.13㎡を測る。壁の残存高は約0.15 mになる。平面形は長方形で、小穴は見られるが、主柱穴と思われる小穴は不明。南側が北側よりも0.2mほど高くなっている。





1 橙色粘質土(焼土)(7.5YR 6/6)
にぶい黄カッ色砂質土(10YR 4/3)が混じる
2 暗褐色砂質土
明赤褐色粘土(Hue5YR 5/8)2～3cmブロックが混入。
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR 5/4)
4 黒褐色砂質土 (10YR 3/1)土器片含む
5 暗褐色砂質土(Hue.7.5YR 3/3) 層上位に
赤褐色粘土ブロック(Φ1cm)と粗砂が混入。
6 4と地山(11層)の混 1:1
7 4と地山(11層)の混 3:1
8 4と地山(11層)の混 2:1
9 4と地山(11層)の混 1:2
10 暗灰黄色砂質土(2.5Y 4/2)
11 明灰黄色砂砂質(2.5Y 6/6)地山

図 30　SH11081・11082 竪穴住居跡 (1/60)

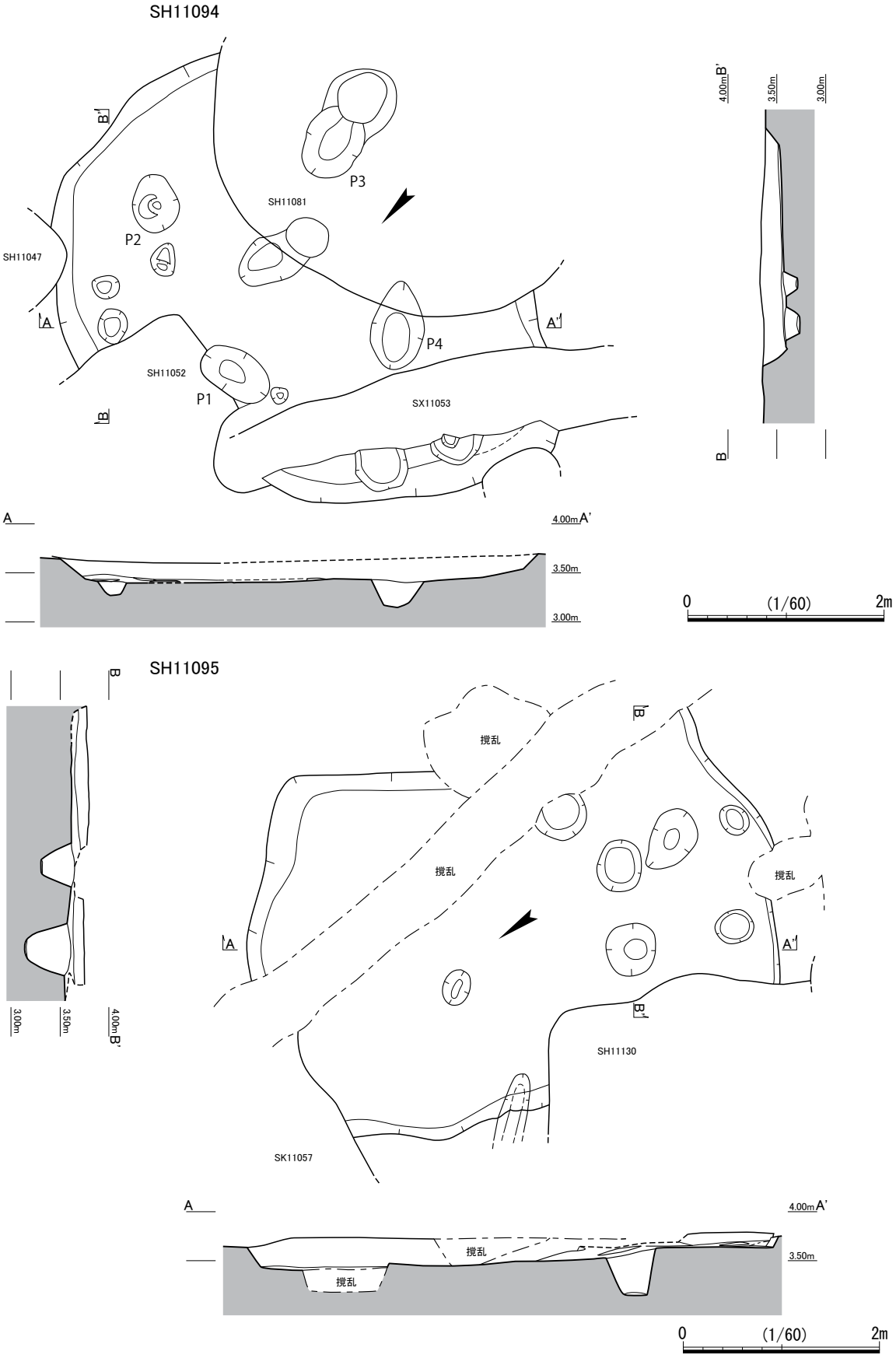


図 31　SH11094・11095 竪穴住居跡 (1/60)

遺物は須玖Ⅰ式の弥生土器、石錘、土製紡錘車が出土している。

ＳＨ１１０９６

S-35 区画に位置する遺構である。西側は SK11203 に切られる。北側は SH11098 を切る。また、南側には SH11276 がある。

規模は、遺構内を溝状の撹乱が入っており正確な形はわからないが、確認できる範囲では、長軸は 6.77m、短軸は 3.62m、深さは 0.16m、床面積は約 25.50㎡を測る。壁の残存高は約 0.05 mになる。平面形は長方形で、小穴は見られるが、主柱痕と思われる小穴は見当たらない。東側に土坑がみられる。

遺物は弥生土器、土師器、砥石が出土している。

ＳＨ１１０９８

R・S-34・35 区画に位置する遺構である。北側は SH11055、南側は SH11096、東側は SX11099 に切られる。北西側は SH11081 を切る。

規模は、遺構内を溝状の撹乱が通っている為正確な形は不明。確認できる範囲では、長軸は 8.26m、短軸は 5.44m、深さは 0.27m となっている。壁の残存高は、約 0.15 m～ 0.2 mになる。平面形は不整長方形になると思われ、小穴は見られるが、主柱穴と思われる小穴は見当たらない。

遺物は須玖Ⅱ式の弥生土器が出土している。

ＳＨ１１１０６

R・S-33 区画に位置する遺構である。北東側は調査区外のため未調査で、西側は SH11039、南東側は SD11065 に切られる。また、南西側には SB11046 など、掘立柱建物が集まっている。

規模は確認できる範囲で、長軸は 4.69m、短軸は（3.00）m、深さは 0.19 m、床面積は 14.07㎡を測る。壁の残存高は、約 0.1 m～ 0.2 mになる。平面形は方形と思われ、浅い小穴が見つかっているが主柱穴は見つかっていない。

遺物は弥生土器が出土している。

ＳＨ１１１１０

T-35 区画に位置する遺構である。本遺構は SH11254 の上に作られる。

規模は、北側と北西側に一部撹乱により切られているが、長軸は 4.02m、短軸は 3.64m、深さは 0.43m、床面積は約 13.63㎡を測る。壁の残存高は、約 0.35 mとなっている。平面形は方形で、主柱穴が P1～ P4 まである。それぞれの距離は、P1 から P2 が 1.3 m、P2 から P3 が 1.6 m、P3 から P4 が 1.3 m、P4 から P1 が 1.6 mになる。

遺物は弥生土器、土師器、投弾が出土している。

ＳＨ１１１１１

T・U-35 区画に位置する遺構である。北東側は SB11084 の柱穴と切り合う。南西側は SH11112 に切られる。南側は SH11113 を切る。その他に、北側には SH11254 がある。

規模は、長軸は 5.50m、短軸は 4.14m、深さは 0.11m となっている。床面積は 22.77㎡を測る。壁の残存高は、約 0.05 mになる。平面形は長方形で、小穴はあるが、主柱穴と思われる小穴は不明瞭。西側には溝と思われる遺構が作られる。

遺物は弥生土器、土師器、土製紡錘車が出土している。

ＳＨ１１１１２

T・U-35 区画に位置する遺構である。北側は SH11133、SH11111、南側は SH11113 を切る。また、西側には SB11085 がある。

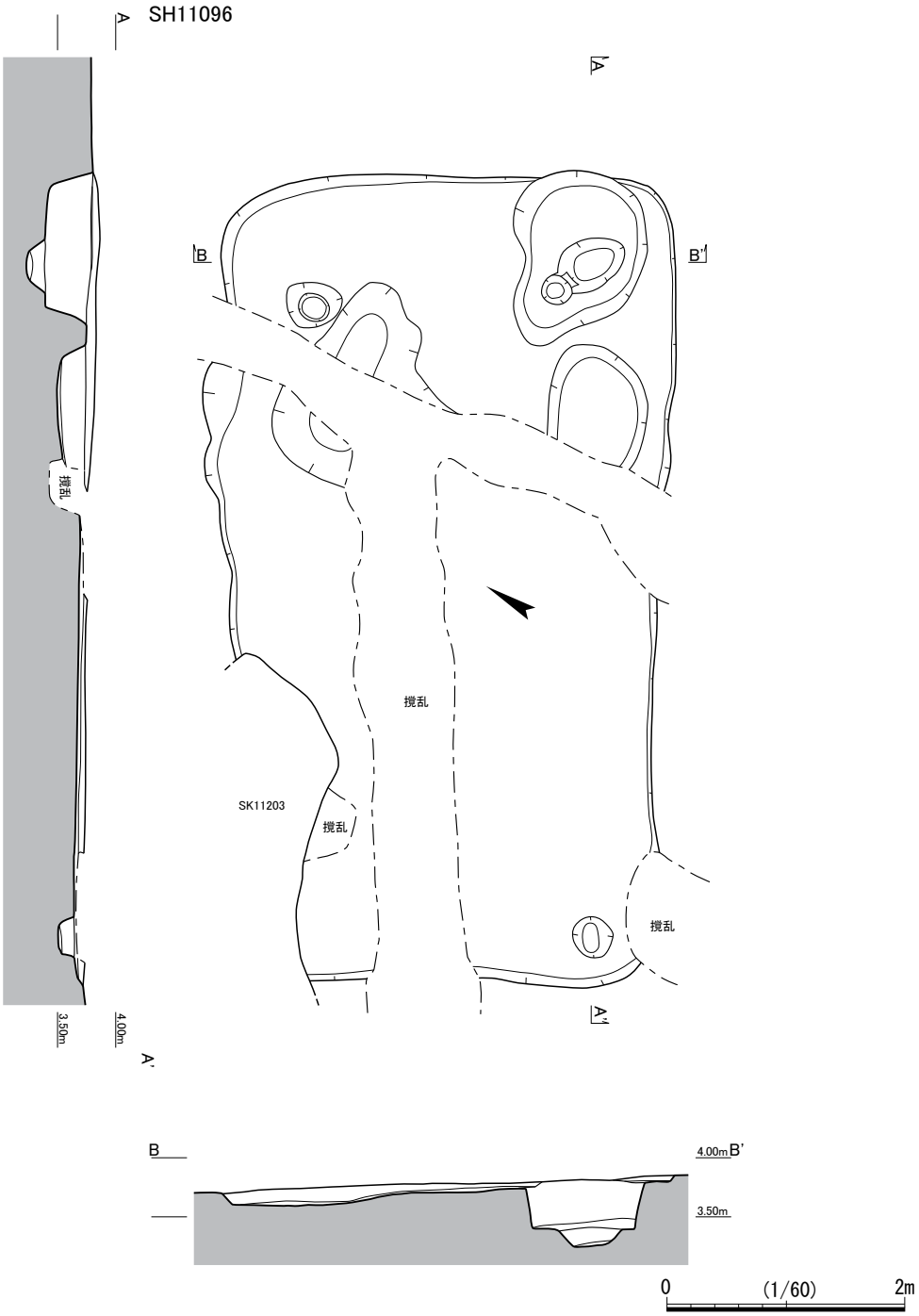


図 32　SH11096 竪穴住居跡 (1/60)

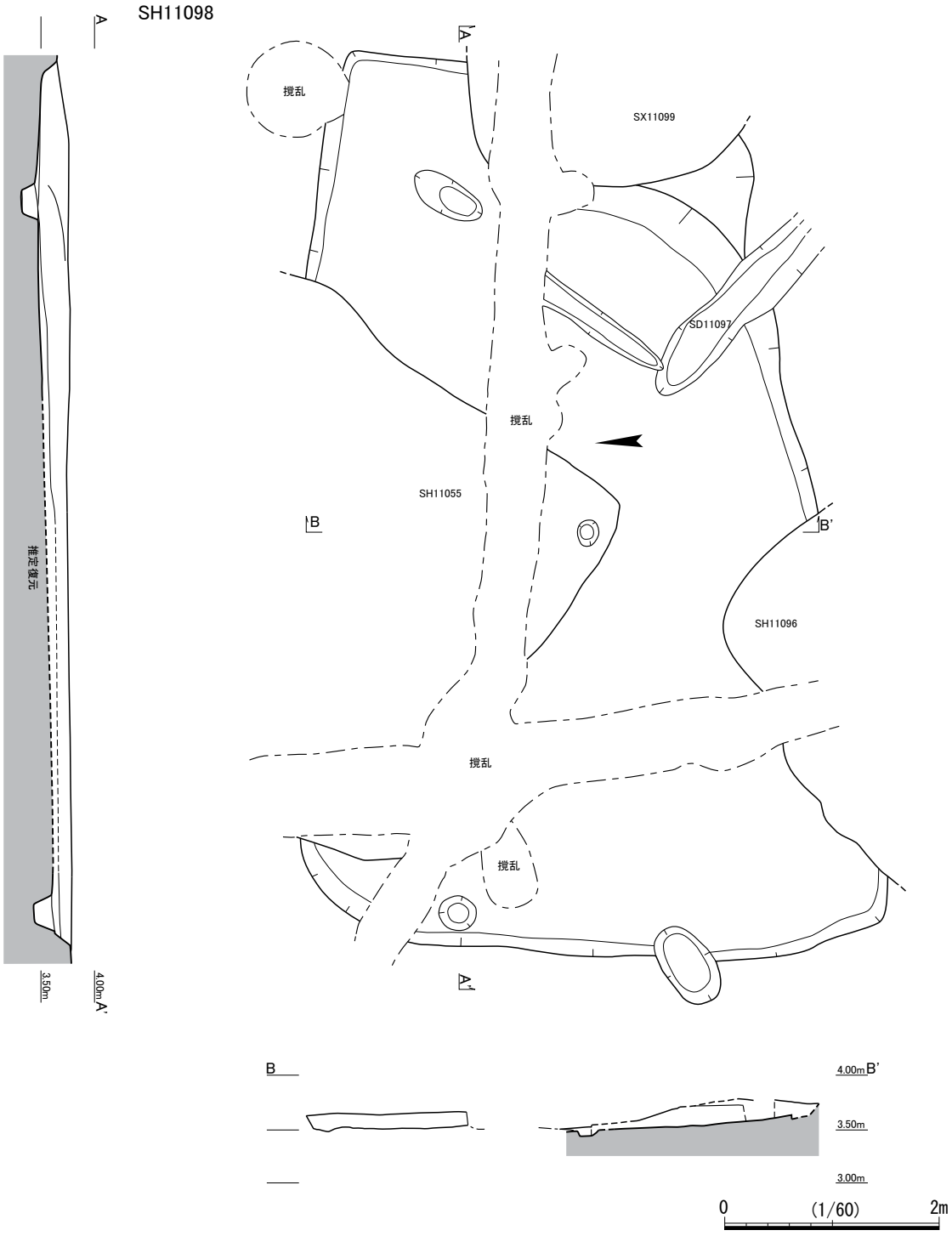


図 33　SH11098 竪穴住居跡 (1/60)

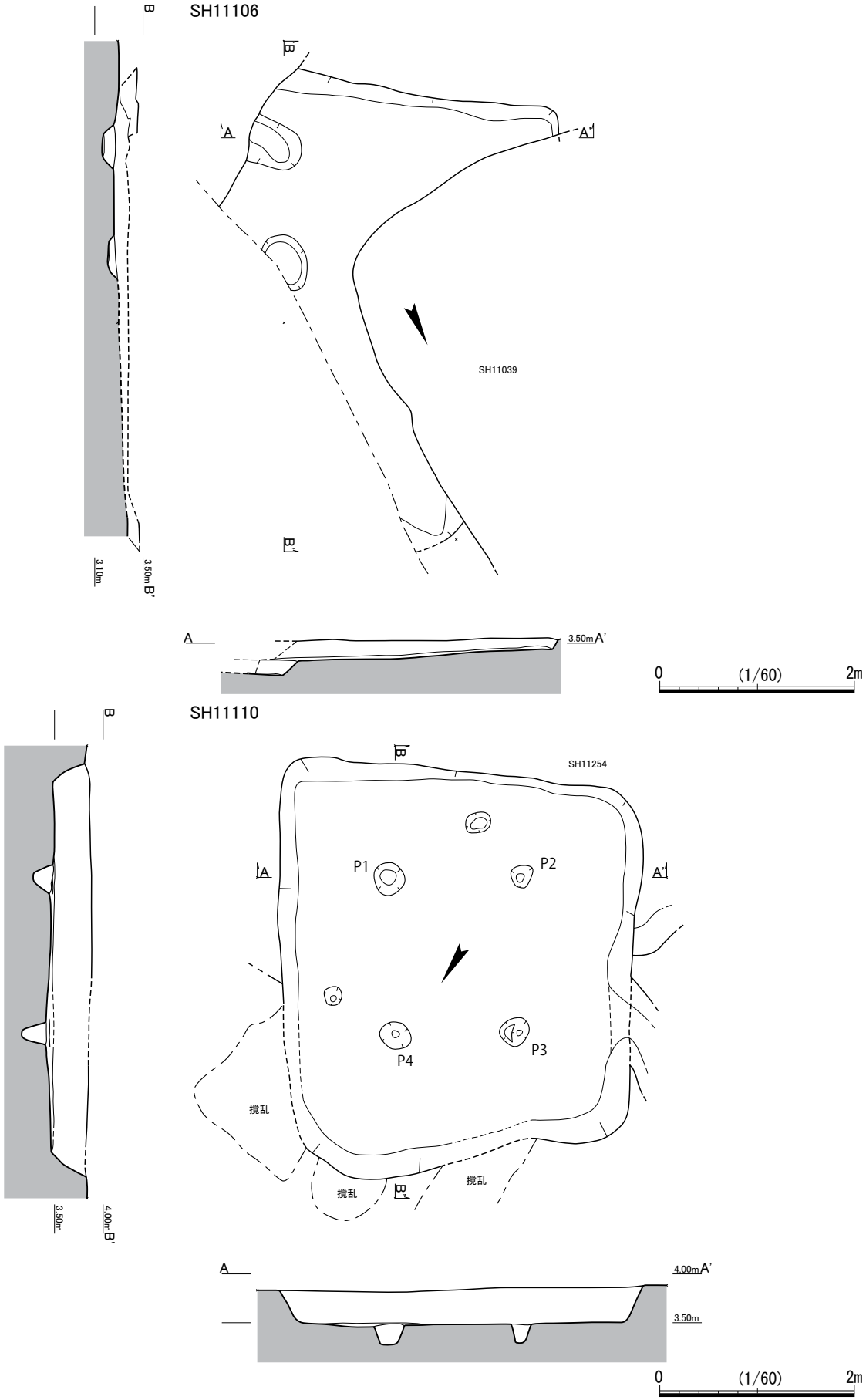
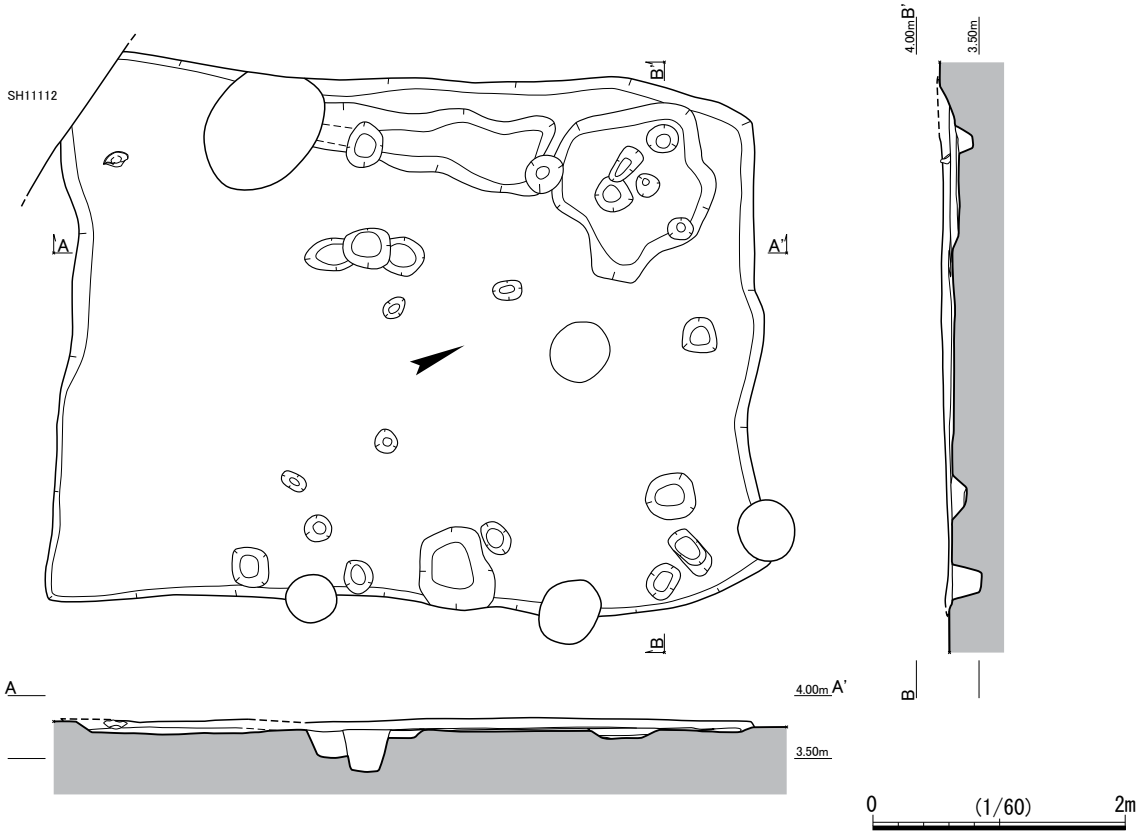
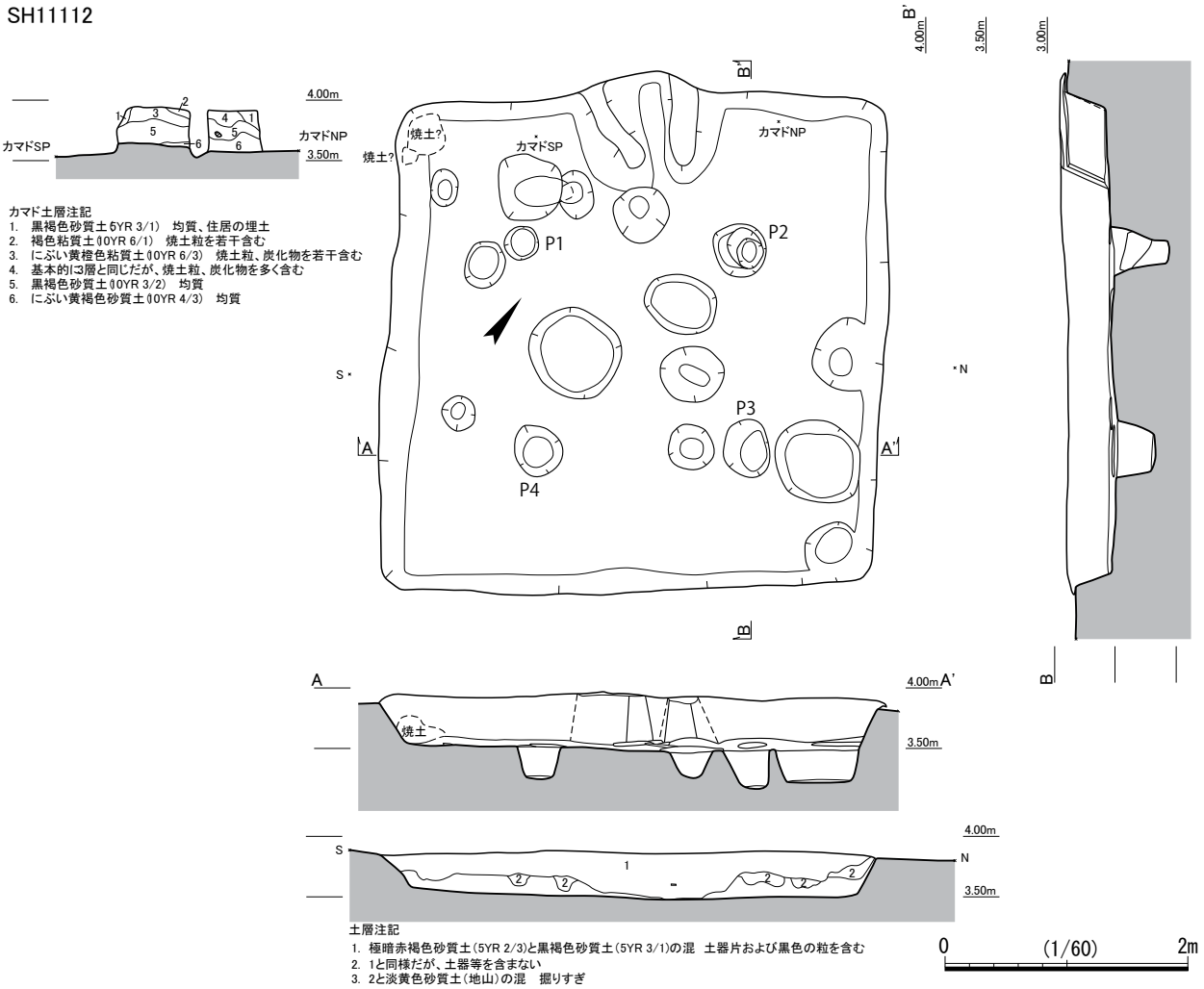


図 34　SH11106・11110 竪穴住居跡 (1/60)

SH11111



SH11112



カマド土層注記
1. 黒褐色砂質土6YR 3/1) 均質、住居の埋土
2. 褐色粘質土10YR 6/1) 焼土粒を若干含む
3. にぶい黄橙色粘質土10YR 6/3) 焼土粒、炭化物を若干含む
4. 基本的に3層と同じだが、焼土粒、炭化物を多く含む
5. 黒褐色砂質土10YR 3/2) 均質
6. にぶい黄褐色砂質土10YR 4/3) 均質

土層注記
1. 極暗赤褐色砂質土(5YR 2/3)と黒褐色砂質土(5YR 3/1)の混 土器片および黒色の粒を含む
2. 1と同様だが、土器等を含まない
3. 2と淡黄色砂質土(地山)の混 掘りすぎ

図 35 SH11111・11112 竪穴住居跡 (1/60)

規模は、長軸は 4.10m、短軸は 4.10m、深さは 0.47m、床面積は 16.81㎡を測る。壁の残存高は約 0.3 mになる。平面形は方形で、主柱穴が P1 ～ P4 ある。それぞれの距離は、P1 から P2 が 1.9 m、P2 から P3 が 1.7 m、P3 から P4 が 1.8 m、P4 から P1 が 1.8m。北西側には竈が作られている。そのほかに、竪穴住居跡の北西部端には焼土と思わしき土が出ている。

遺物は弥生土器、土師器、須恵器、土製紡錘車が出土している。

ＳＨ１１１１３

U-35 区画に位置する遺構である。東側は SH11112、南東側は SH11140 に切られる。また、本遺構上に SH11111 が作られている。

規模は確認できる範囲では、長軸は 6.12m、短軸は 5.87m、深さは 0.23m、床面積は約 28.26㎡を測る。壁の残存高は約 0.1 m～ 0.2 mとなっている。平面形は円形で、小穴は多数見つかっているが、主柱穴と見られる小穴は不明瞭。

遺物は須玖Ⅰ式の弥生土器が出土している。

ＳＨ１１１２１

U・V-35・36 区画に位置する遺構である。東側は SD11065 に切られる。また、北側は SH11140、西側には SB11088 がある。

規模は確認できる範囲で、長軸は 5.81m、短軸は（4.34）m、深さは 0.22m、床面積は約 25.22㎡を測る。壁の残存高は約 0.1 mになる。平面形は方形と思われ、小穴が多数見られるが、主柱穴と思われる小穴は不明瞭。

遺物は須玖Ⅰ式の土器が出土している。

ＳＨ１１１２２

W-37 区画に位置する遺構である。東側は SD11065 に切られる。また、北側は SH11139、南西側には SH11127 がある。

規模は、確認できる範囲で、長軸が 6.92m、短軸は 5.67m、深さは 0.23m、床面積は約 40.62㎡を測る。壁の残存高は約 0.05 m～ 0.15 mになる。平面形は隅丸正方形と思われ、小穴が多数見られるが、主柱穴と思われる小穴は不特定。

遺物は須玖Ⅰ式の土器が出土している。

ＳＨ１１１２７

W・X-37・38 区画に位置する遺構である。南西側は SD11065 に切られる。また、北東側には SH11122 がある。

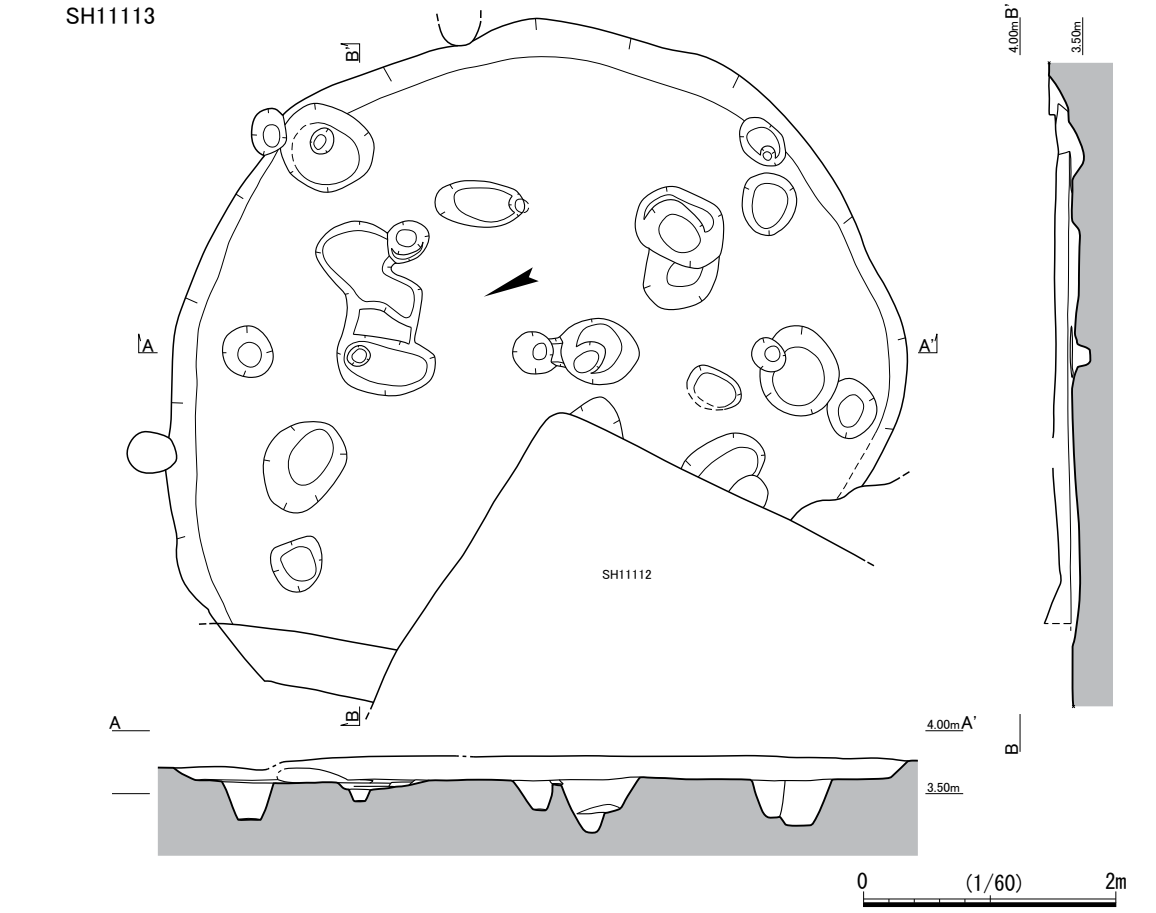
規模は確認できる範囲では、長軸は 6.03m、短軸は（5.59）m、深さは 0.38m、床面積は約 26.59㎡を測る。壁の残存高は約 0.4 mになる。平面形は円形で、円形の主柱穴が P1 ～ P4 ある。それぞれの距離は、P1 から P2 は 2.6 m、P2 から P3 は 2.0 m、P3 から P4 は 2.4m、P4 から P1 は 2.0 mになる。その中心部に楕円形の小穴が見られるが、火を使った形跡は無く、炉なのかは不明。

遺物は須玖Ⅰ式の弥生土器・石鏃が出土している。

ＳＨ１１１２９

T･U-37･38 区画に位置する遺構である。東側は SH11190、南西側は SH11188 によって切られている。また西側に SH11187 があり、北側には SB11091 といった掘立柱建物が集中している。

規模は、確認できる範囲では、長軸は 5.05m、短軸は 4.66m、深さは 0.25m、床面積は約 23.53㎡を測る。壁の残存高は約 0.05 m～ 0.2 mとなっている。平面形は方形で、小穴は見つかっているが、主柱穴と



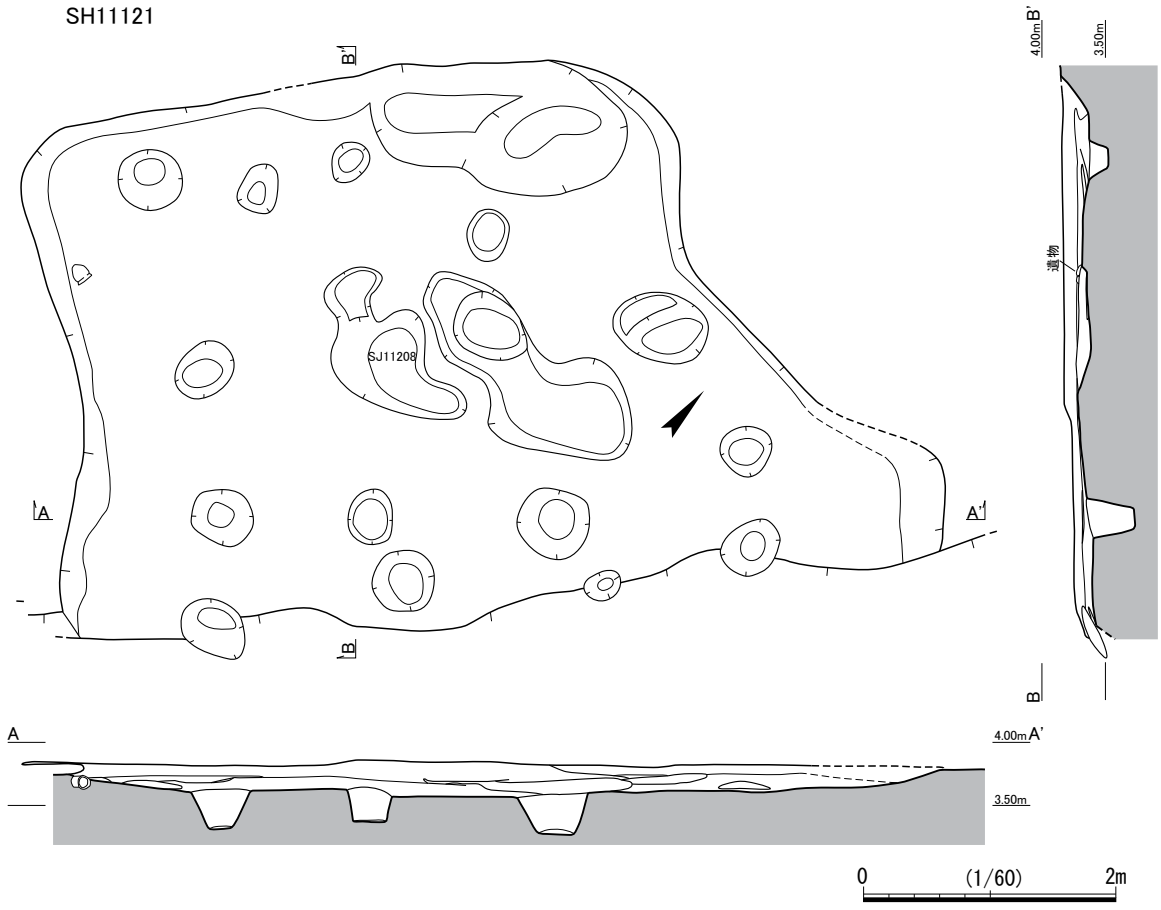


図 36　SH11113・11121 竪穴住居跡 (1/60)

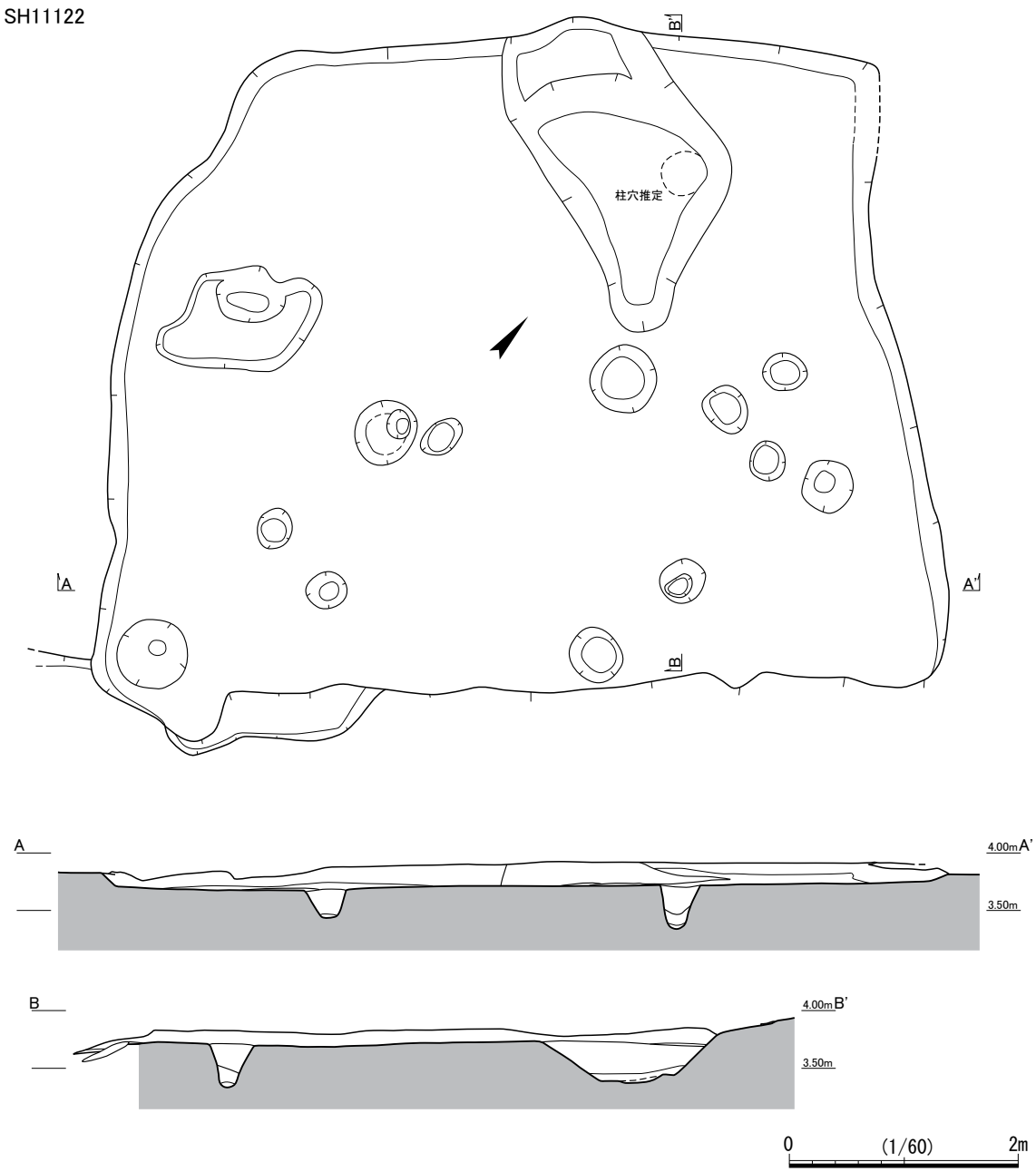
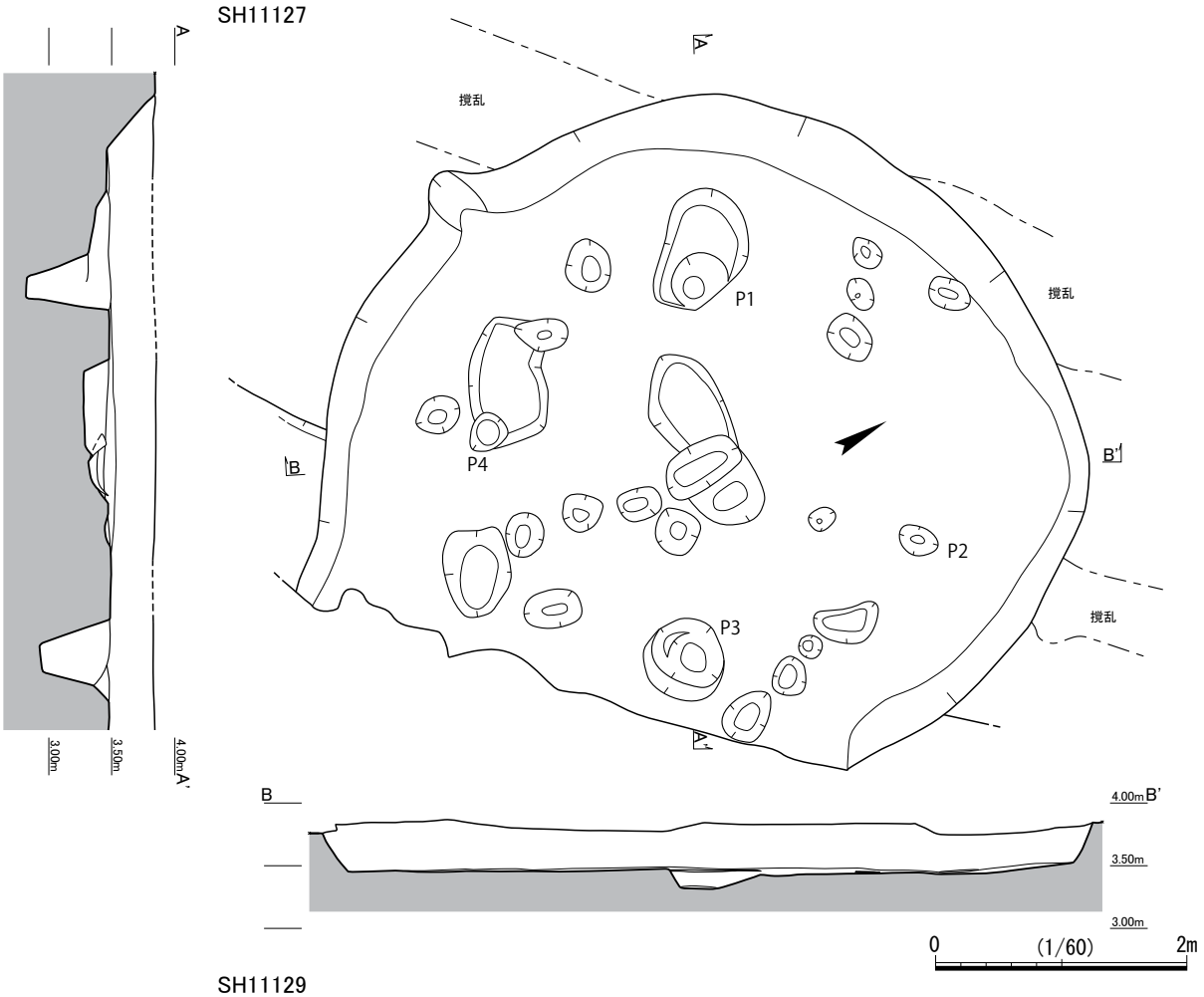


図 37　SH11122 竪穴住居跡 (1/60)



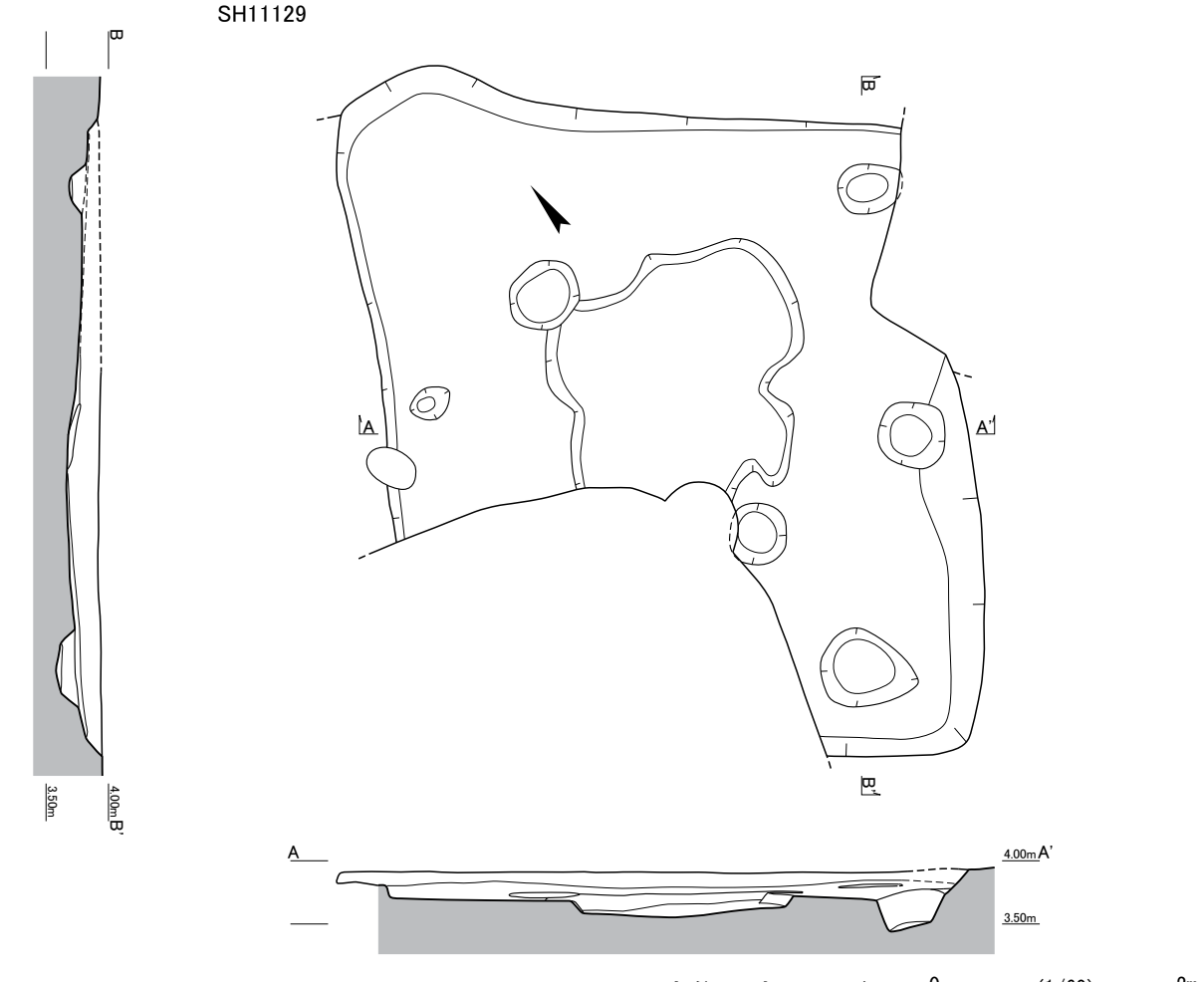


図 38　SH11127・11129 竪穴住居跡 (1/60)

思われる小穴は不確定。中央に大きく土坑が作られている。

遺物は弥生土器が出土している。

ＳＨ１１１３０

R-35・36 区画に位置する遺構である。東は SH11095 に切られる。また、北側は SB11077、西側には ST11002 がある。

規模は、長軸は 5.21m、短軸は 3.82m、深さは 0.28m、床面積は約 19.90㎡を測る。壁の残存高は約 0.15 m～ 0.25 mになっている。平面形は長方形で、中央に溝状の撹乱が遺構を横断している。主柱穴と見られる小穴は P1 ～ P4 まであり、それぞれの距離は、P1 から P2 が 1.3 m、P2 から P3、P3 から P4 がそれぞれ 1.4 m、P4 から P1 が 1.3 mになっている。また、撹乱が横断している北東側と南西側では、南西側が 0.05m ほど平均的に高くなっている。

遺物は土師器、砥石が出土している。

ＳＨ１１１３１

V-37・38 区画に位置する遺構である。本遺構上に SH11175 が作られる。北側は SH11183、西側は SH11066、南西側は SH11139、東側には SH11138 がある。

規模は、北東側から西側にかけて溝状の撹乱によって壁が一部破壊されているが、床面は残っており、長軸は 4.74m、短軸は 4.30m、深さは 0.16m、床面積は約 16.04㎡を測る。壁の残存高は、約 0.15 mになる。平面形は円形で、小穴が多数あるが、主柱穴と見られる小穴は不明瞭。

遺物は須玖Ⅰ式頃の弥生土器、石鎌、敲石が出土している。

ＳＨ１１１３３

T・U-35・36 区画に位置する遺構である。本遺構上に SK11135 が作られる。南側は SH11112、東側は SH11111、北東側は SH11254、北側には SH11276 がある。

規模は確認できる範囲で、長軸は 5.75m、短軸は 3.80m、深さは 0.10m、床面積は 21.85㎡を測る。壁の残存高は約 0.05 m～ 0.2 mになる。平面形は不整長方形で、小穴が多数あるが、主柱穴と見られる小穴は不明瞭。

遺物は弥生土器が出土している。

ＳＨ１１１３８

Ⅴ -36・37 区画に位置する遺構である。東側は SB11088、西側には SH11175 がある。

規模は、長軸は 5.71m、短軸は 4.41m、深さは 0.34m、床面積は約 24.18㎡を測る。壁の残存高は約 0.2 m～ 0.3 mになる。平面形は長方形で、床面が 5 つ見られ、北西側が一番浅く、約 0.2m 程度、一番深いのが南側で、0.40m 程度となっている。主柱穴は、小穴が多数あるが、主柱穴と見られる小穴は不明瞭。

遺物は土師器、石包丁、石錘が出土している。

ＳＨ１１１３９

V・W-37・38 区画に位置する遺構である。北側は SH11175 を切り、北西側は SH11066 と切りあっている。南東側には SH11122 がある。

規模は、確認できる範囲で、長軸は 5.69m、短軸は 5.18m、深さは 0.24m、床面積は約 29.24㎡を測る。壁の残存高は約 0.15 mになる。平面形は方形で、楕円形の主柱穴が P1 ～ P4 ある。それぞれの距離は、P1 から P2 が 3.0 m、P2 から P3 が 2.6 m、P3 から P4 が 2.8 m、P4 から P1 が 2.4m になる。中央よりやや東側に土坑が作られ、小穴も多数見つかっている。

遺物は土師器が出土している。

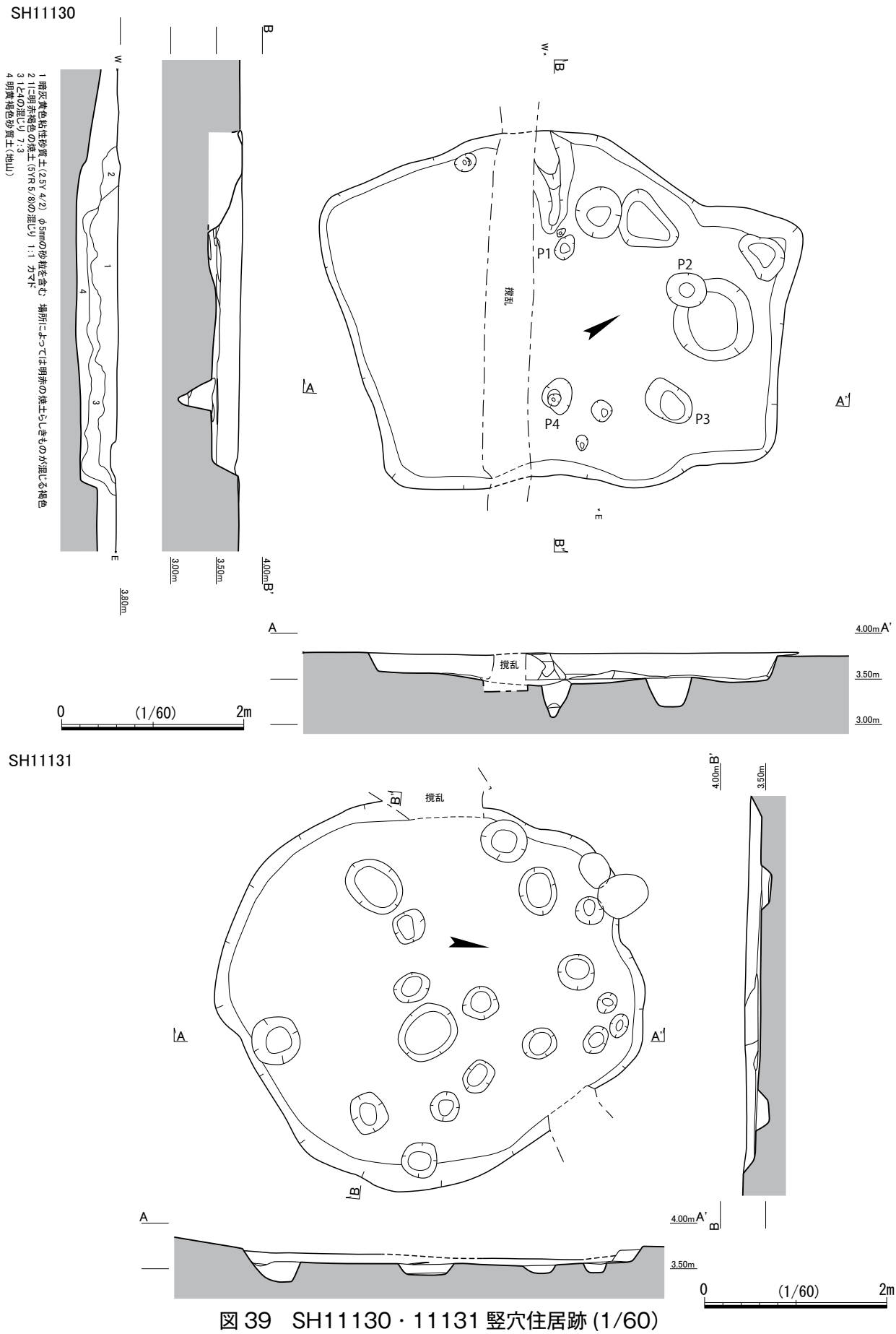


図 39　SH11130・11131 竪穴住居跡 (1/60)

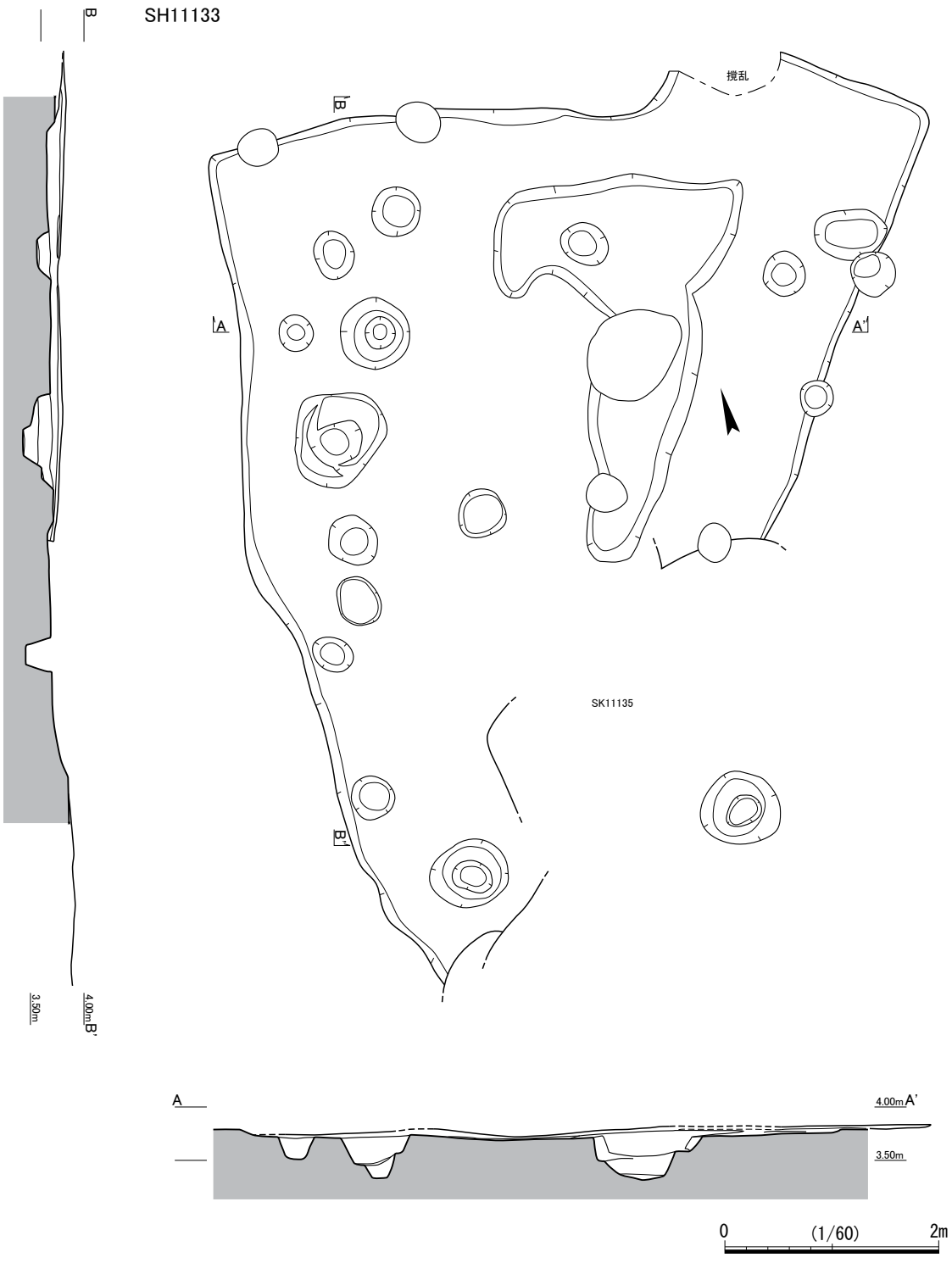


図 40　SH11133 竪穴住居跡 (1/60)

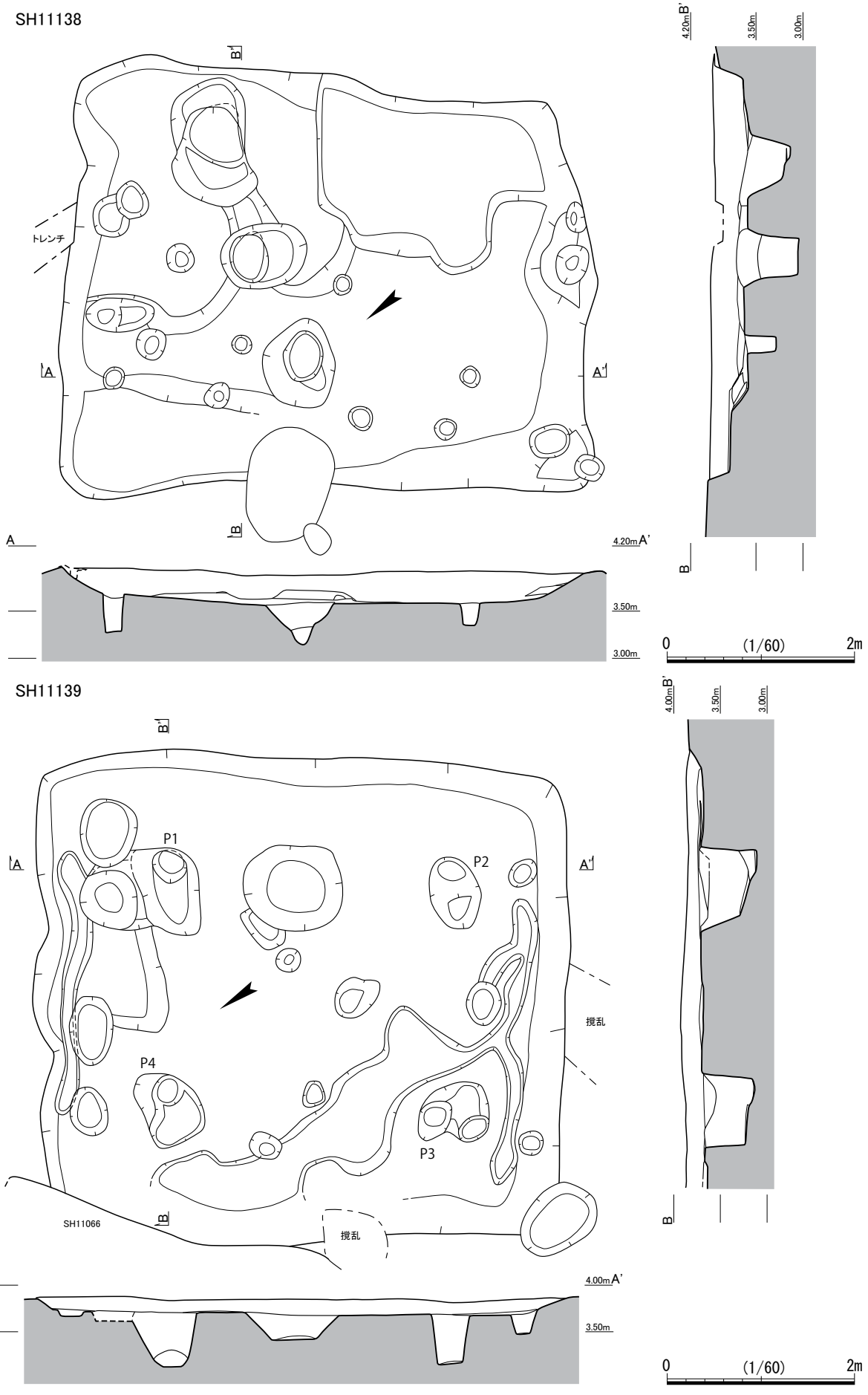


図 41　SH11138・11139 竪穴住居跡 (1/60)

ＳＨ１１１４０

U-35･36 区画に位置する遺構である。北側は SH11112 に切られる。北東側は SH11113 を切る。また、西側には SB11085 がある。

規模を確認できる範囲では、長軸は 3.30m、短軸は（3.00）m、深さは 0.16m、床面積は 9.9㎡を測る。壁の残存高は、約 0.1 mとなっている。平面形は方形で、小穴は見つかっているが、主柱穴とみられる小穴は不明瞭。中央よりやや東と、南側に土坑が作られている。

遺物は弥生土器、石鑿、石錘が出土している。

ＳＨ１１１４２

V・W-38・39 区画に位置する遺構である。北西側は SH11143、西側は SH11150、南西側は SH11165 を切る。また、南西側には SB11102 がある。

規模は、長軸は 5.54m、短軸は 5.49m、深さは 0.38m、床面積は約 30.41㎡を測る。壁の残存高は約 0.15 m～ 0.3 mになる。平面形は方形で、主柱穴が P1 ～ P4 まである。それぞれの距離は、P1 から P2 が 2.50 m、P2 から P3 が 3.0 m、P3 から P4 は 2.4 m、P4 から P1 は 3.1 mになる。西側には竈が、東側には土坑が、北側には 0.03 mほどの浅い溝が作られている。

遺物は土師器、須恵器、土製紡錘車が出土している。

ＳＨ１１１４３

V-38 区画に位置する遺構である。東側は SH11066、南側は SH11142 に切られる。また、北東側には SH11183 がある。

規模は、東側を SH11066 に、南側を SH11142 に、共に大きく切られているが、確認できる範囲では、長軸は（5.10）m、短軸は（2.60）m、深さは 0.16m、床面積 13.26㎡を測る。壁の残存高は約 0.15 mになる。平面形は長方形で、小穴は見つかっているが、主柱穴かどうかは不明瞭

遺物は弥生土器が出土している。

ＳＨ１１１４４

V-38・39 区画に位置する遺構である。西側は SH11156 を切る。また、南側には SH11150 がある。

規模は、長軸は 6.73m、短軸は 4.16m、深さは 0.30m、床面積約 28.00㎡を測る。壁の残存高は約 0.2 m～ 0.3 mとなっている。平面形は長方形で、小穴は多数見つかっているが、主柱穴と思われる小穴は不明瞭。土坑と思われる遺構が作られている。

遺物は弥生土器、石鏃、敲石、砥石が出土している。

ＳＨ１１１４７

V-39・40 区画に位置する遺構である。東側は SH11156、南側は SH11152 を切る。また、東側は SB11101、北側には ST11141 がある。

規模は、長軸は 5.46 m、短軸は 5.01 m、深さは 0.41 m、床面積は約 27.35㎡を測る。壁の残存高は約 0.3 m～ 0.4 mになる。平面形は方形で、主柱穴が P1 ～ P4 まである。それぞれの距離は、P1 から P2 は 2.0 m、P2 から P3 は 2.0 m、P3 から P4 は 1.8m、P4 から P1 は 2.8 mになる。土坑と思われる遺構が作られている。

遺物は弥生土器と土師器、砥石が出土している。

ＳＨ１１１４９

V・W-39・40 区画に位置する遺構である。西側は SH11153 と切り合う。北側は SH11151、北東側は SH11150、東側には SH11165 がある。

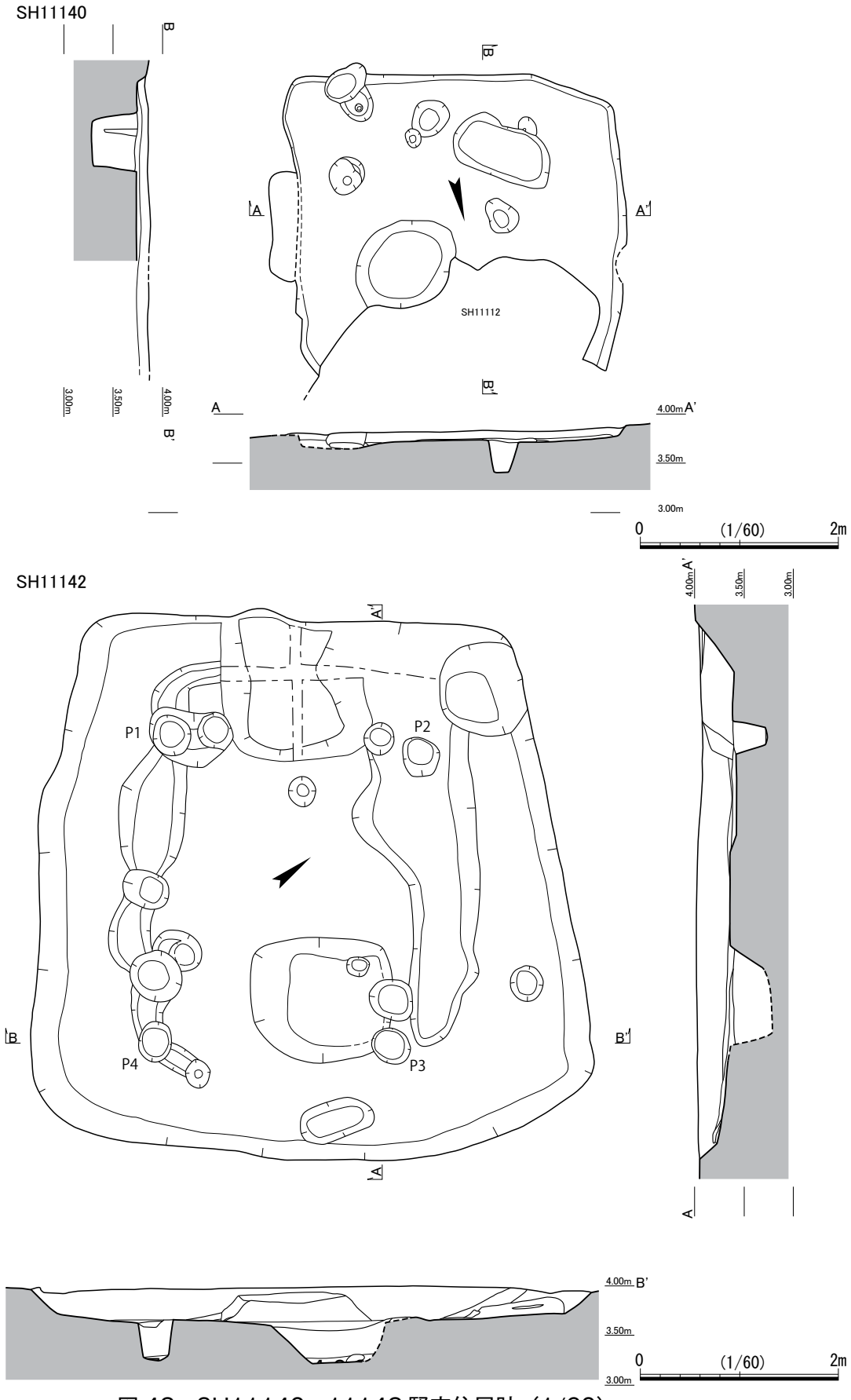
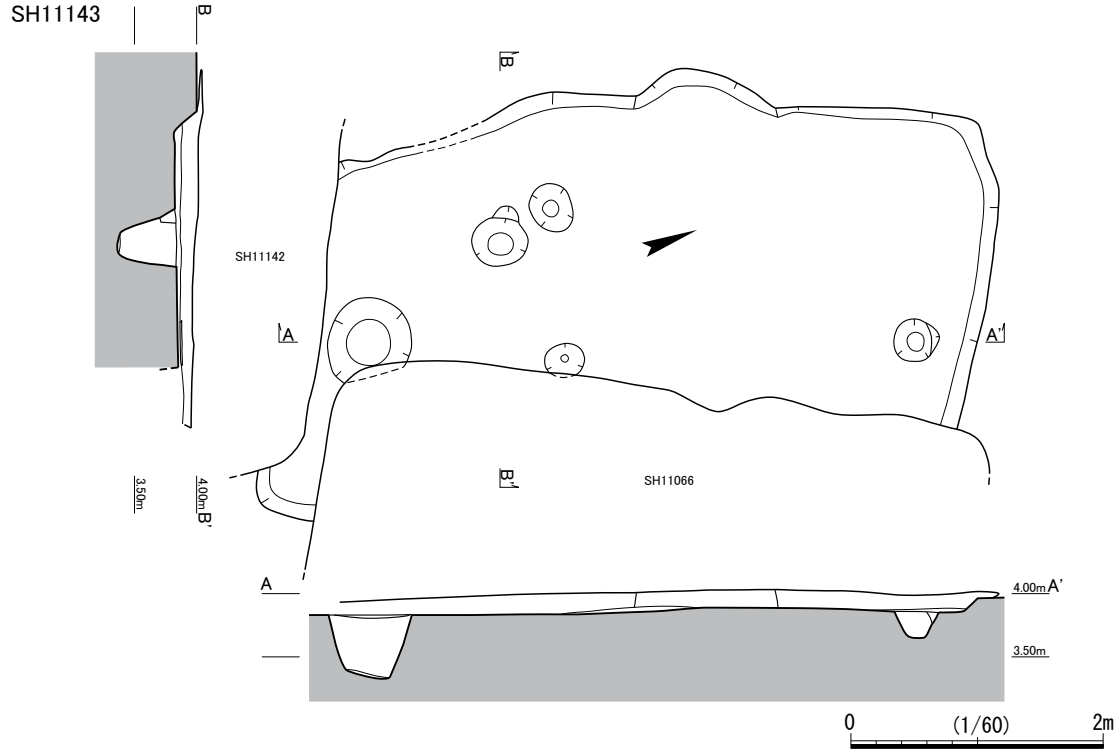


図 42　SH11140・11142 竪穴住居跡（1/60）



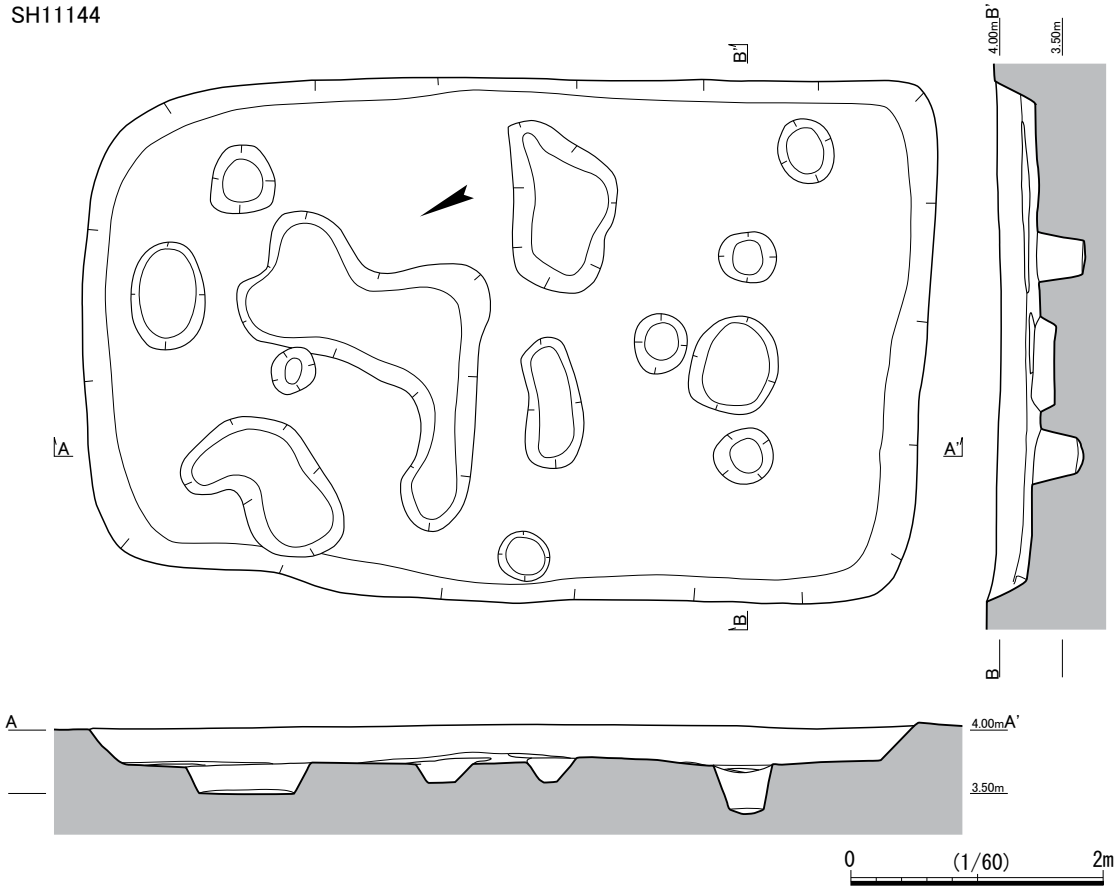
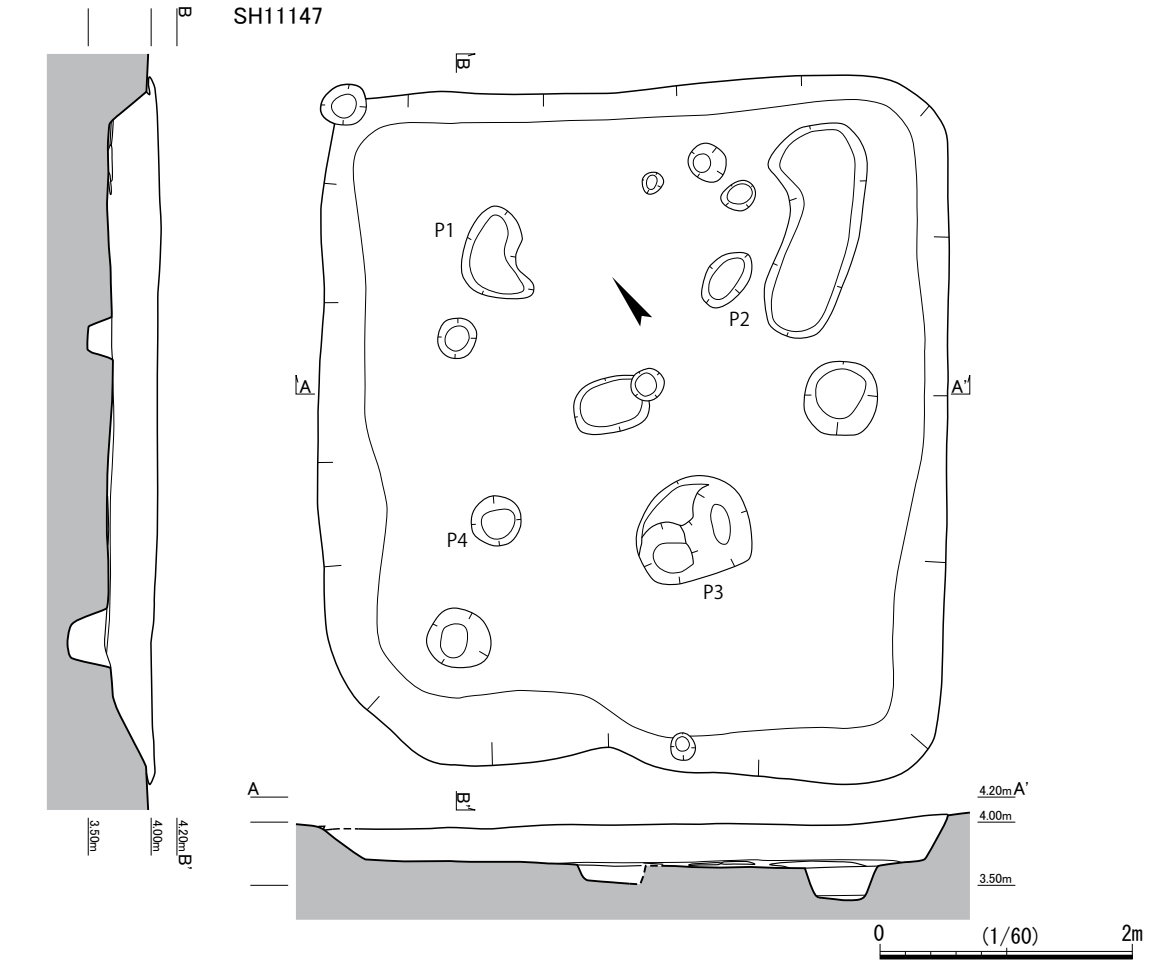


図 43　SH11143・11144 竪穴住居跡（1/60）



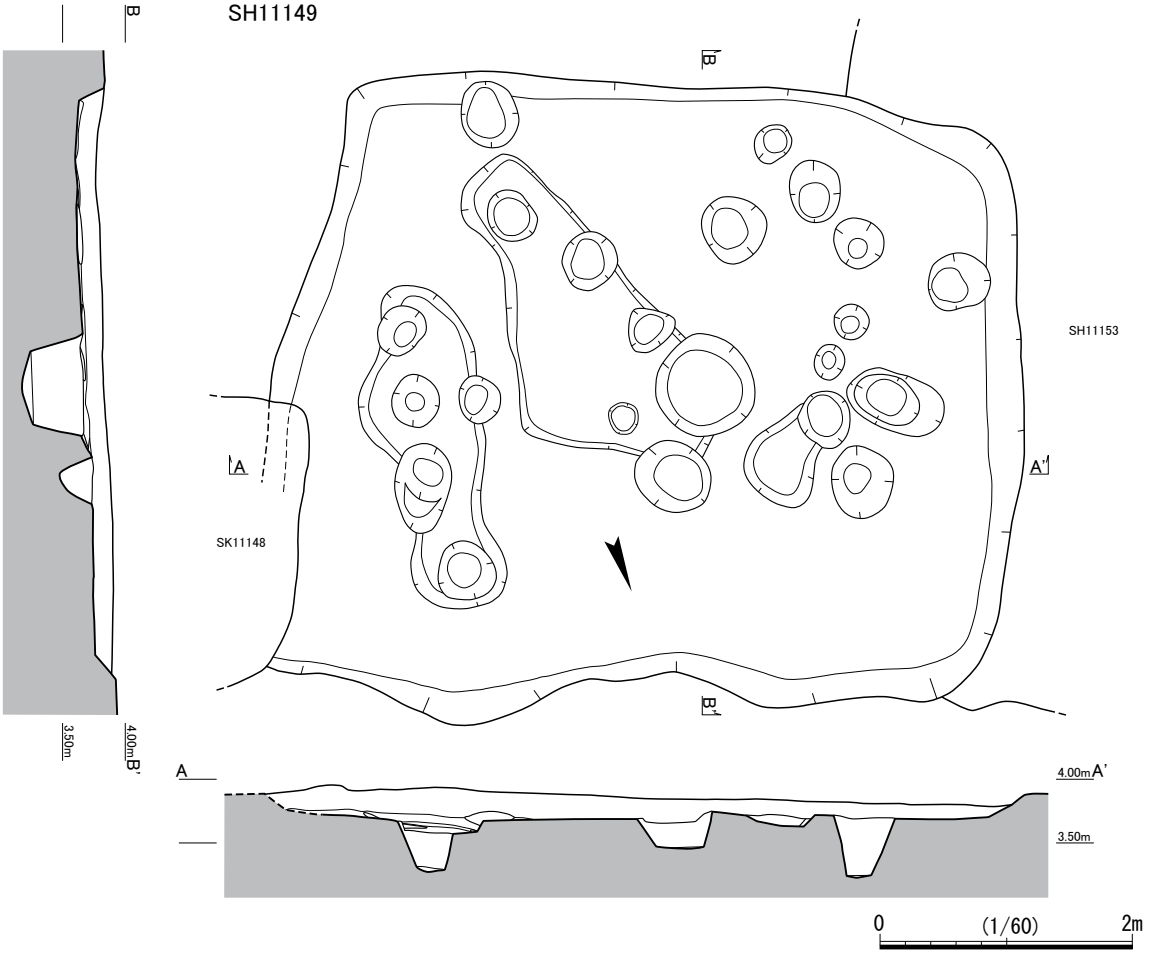


図 44　SH11147・11149 竪穴住居跡（1/60）

規模は、長軸は 5.83m、短軸は 4.75m、深さは 0.23m、床面積は約 27.69㎡を測る。壁の残存高は約 0.15 m～ 0.2 mになる。平面形は方形で、小穴は多数見つかっているが、主柱穴と思われる小穴は不明瞭。土坑と思われる遺構が造られている。

遺物は弥生土器と土師器、石錘が出土している。

ＳＨ１１１５０

V-39 区画に位置する遺構である。東側は SH11142 に切られる、西側は SH11151 を切る。南側は SH11165 と切り合う。また、周辺には他にも、北側は SH11156、南側は SH11149、SB11102 がある。

規模は、東側を SH11142 によって大きく切られており、確認できる範囲では、長軸は 5.04m、短軸は（4.70）m、深さは 0.23m。床面積は約 23.69㎡を測る。壁の残存高は約 0.1 m～ 0.2 mになる。平面形は方形と思われ、小穴が多数見つかっているが、主柱穴と思われる小穴は不明瞭。

遺物は土師器、砥石が出土している。

ＳＨ１１１５１

V-39 区画に位置する遺構である。東側は SH11150 に切られる。北側は SH11156、北西側は SH11147、西側は SH11152、南西側は SH11153、南側には SH11149 がある。

規模は、東側を SH11150 に大きく切られており、確認できる範囲では、長軸は 4.88m、短軸は（2.40）m、深さは 0.22m、床面積は約 11.71㎡を測る。壁の残存高は約 0.2 mになる。平面形は方形か長方形と思われ、小穴が見つかっているが、主柱穴と思われる小穴は不明瞭。

遺物は弥生土器、砥石が出土している。

ＳＨ１１１５２

Ⅴ -40 区画に位置する遺構である。南側は SH11153、SH11154、北側は SH11147 に切られる。規模は、確認できる範囲で、長軸は 5.13m、短軸は（4.10）m、深さは 0.10m を測る。壁の残存高は約 0.05 mになる。平面形は不整方形と思われ、小穴が見つかっているが、主柱穴と思われる小穴は不明瞭。遺構中心に土坑が造られている。

遺物は庄内式の甕等の弥生終末頃の土器が出土している。

ＳＨ１１１５３

V・W-40 区画に位置する遺構である。北側は SH11152 を切る。南側は SK11157、東側は SH11149、西側は SH11154 と切り合う。

規模は、確認できる範囲では、長軸は（5.21）m、短軸は（3.85）m、深さは 0.21m、床面積は約 20.06㎡を測る。壁の残存高は約 0.1 mになる。平面形は長方形になると思われ、小穴が見つかっているが、主柱穴と思われる小穴は不明。

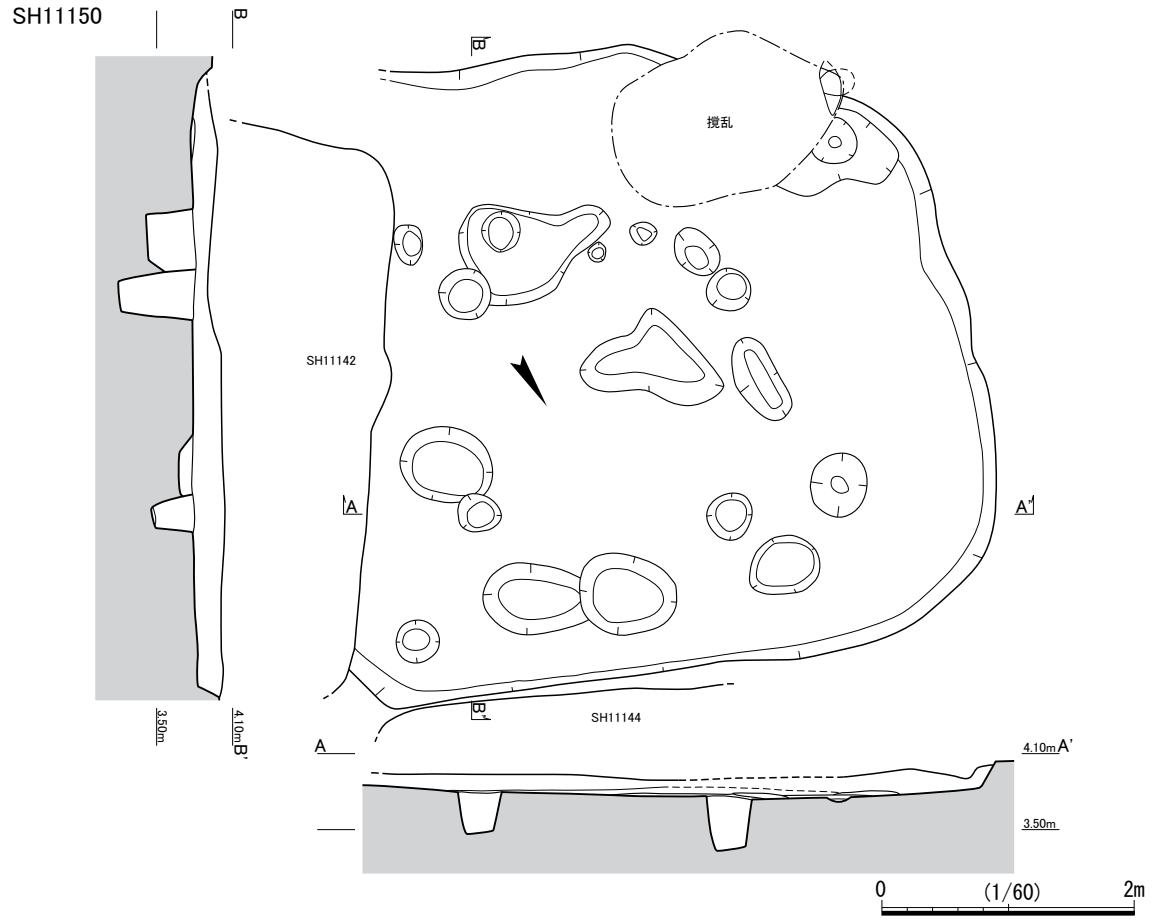
遺物は弥生土器が出土している。

ＳＨ１１１５４

V・W-40 区画に位置する遺構である。北側は SH11152 を切り、SH11159 と切り合い、南側は SK11157、東側は SH11153 と切り合う。

規模は、確認できる範囲で、長軸は 6.16m、短軸は 5.25m、深さは 0.21m、床面積は 32.34㎡を測る。壁の残存高は約 0.15㎡になる。平面形は方形で、小穴が見つかっているが、主柱穴と見られる小穴は不明瞭。

遺物は弥生土器と土師器が出土している。



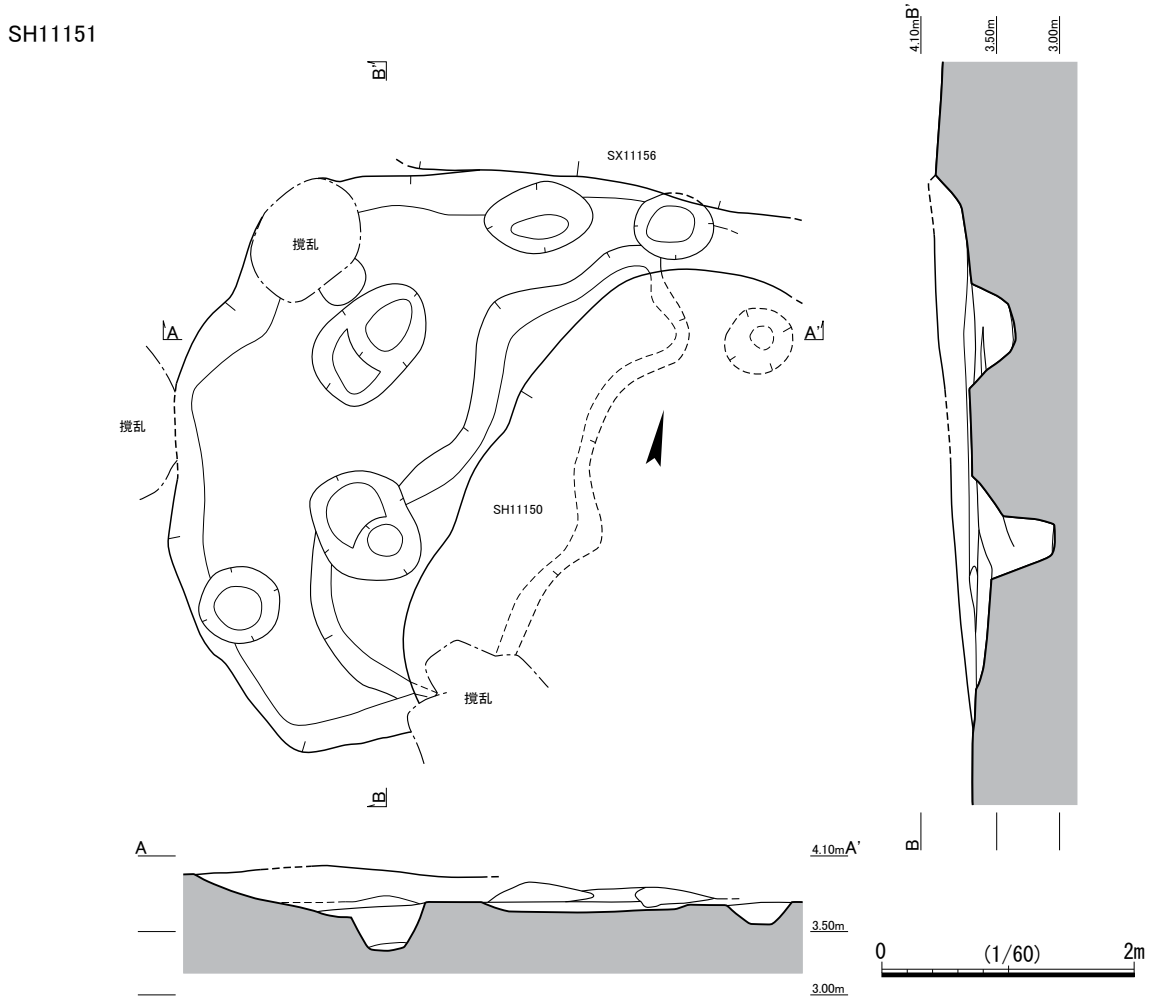


図 45　SH11150・11151 竪穴住居跡（1/60）

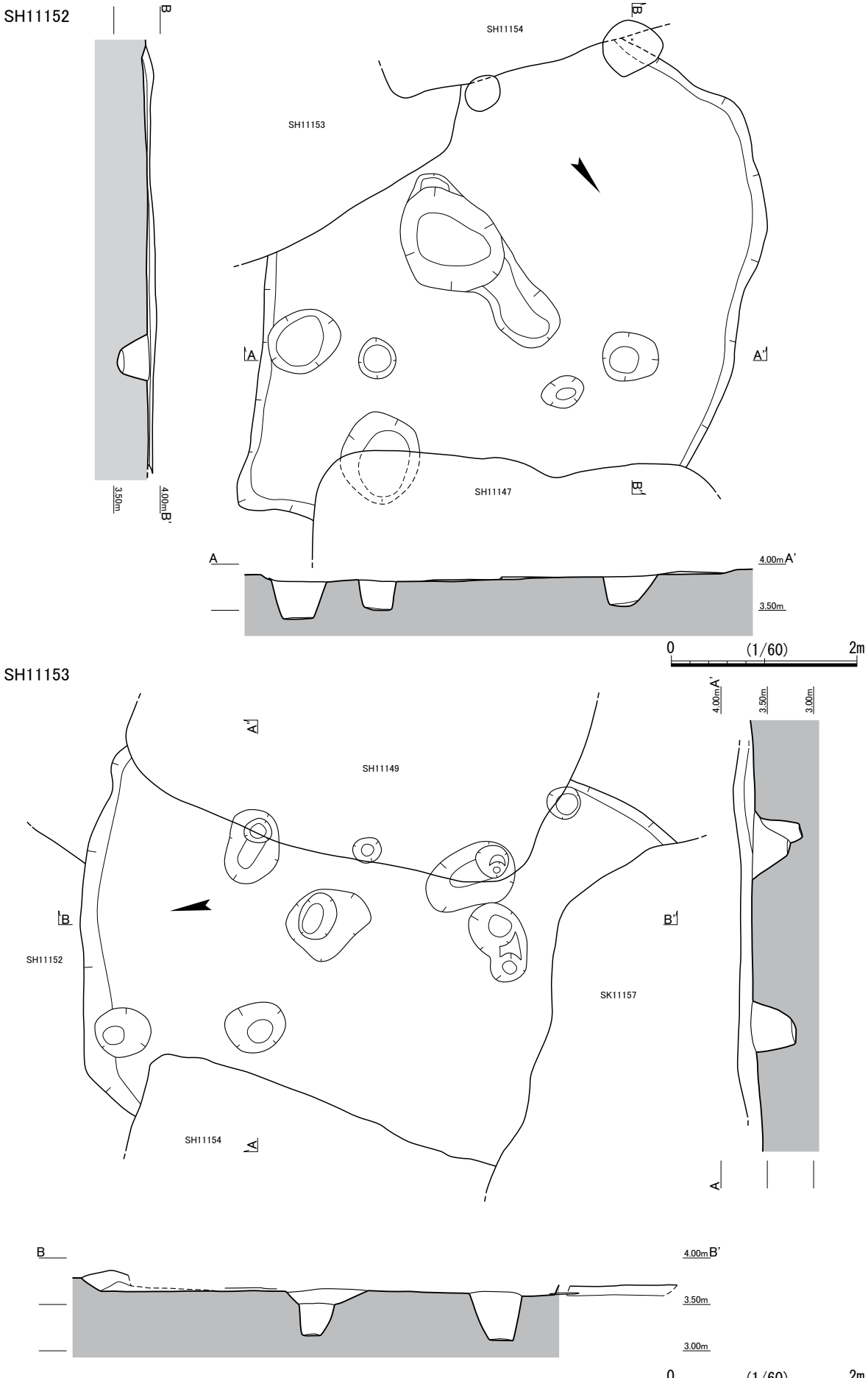


図 46　SH11152・11153 竪穴住居跡（1/60）

SH11154

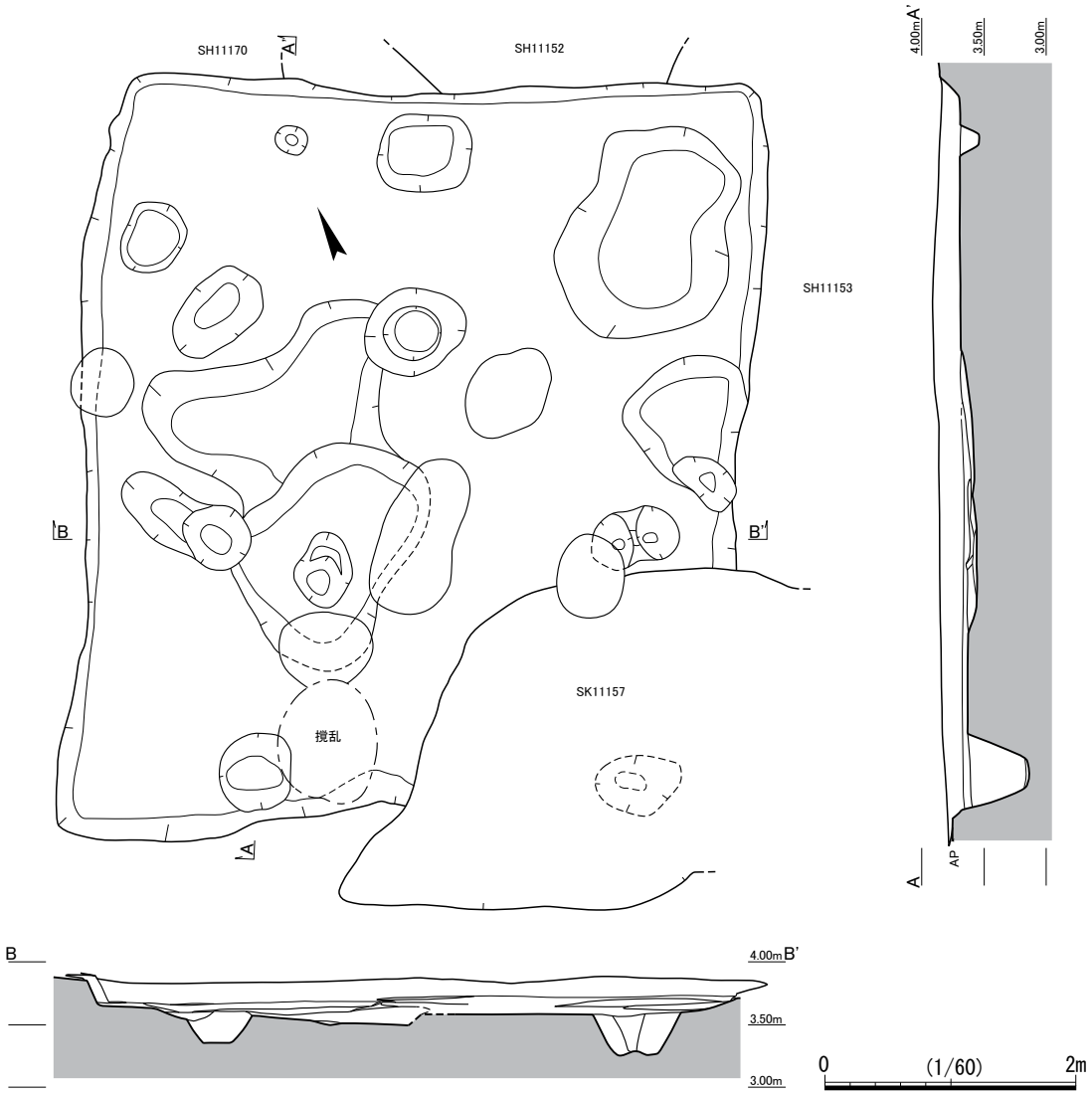


図 47　SH11154 竪穴住居跡（1/60）

SH11152 ～ SH11154、SK11157 の切り合い関係を整理すると、古い順から SH11152 → SH11153 → SH11154 → SK11157 となり、SH11152 → SH11147、SH11153 → SH11149 と切り合う。

ＳＨ１１１５６

V-39 区画に位置する遺構である。東側は SH11144、西側は SH11147 に切られる。また、南側には SH11150、SH11151、北側には ST11141 がある。

規模は、西側を SH11147 に、東側を SH11144 に切られているが、長軸は（6.70）m、短軸は 4.47m、深さは 0.11m、床面積は約 29.95㎡を測る。壁の残存高は約 0.1 mになる。平面形は長方形で、小穴が見つかっているが、主柱穴とみられる小穴は不明瞭。

遺物は弥生土器が出土している。

ＳＨ１１１５９

V-40・41 区画に位置する遺構である。南側は SH11154 に切られる。北側は SB11101、東側は SH11152、西側には SK11282 がある。

規模は、確認できる範囲で、長軸は 6.54m、短軸は 5.72m、深さは 0.33m を測る。壁の残存高は約 0.1 m～ 0.2 mになる。平面形は方形で、小穴が見つかっているが、主柱穴とみられる小穴は不明瞭。西側に竈が造られている。

遺物は土師器、砥石、投弾が出土している。

ＳＨ１１１６０

T・U-39 区画に位置する遺構である。西側は ST11141 に大きく切られ、北側は SH11029、東側には SB11100、SH11166、SH11187 がある。

規模は、確認できる範囲で、長軸は 4.48m、短軸は 4.10m、深さは 0.36m、床面積は 18.17㎡を測る。壁の残存高は約 0.3 mとなる。平面形は方形になると思われ、小穴は見つかっているが、主柱穴と見られる小穴は不明瞭。

遺物は土師器、石器が出土している。

ＳＨ１１１６５

W-39 区画に位置する遺構である。西側は SK11148、北側は SH11142、SH11150 に切られる。また、遺構内に SB11102 の柱穴が見つかっている。

規模は、東側を SH11142 に大きく切られ、確認できる範囲では、長軸は（4.95）m、短軸は（3.16）m、深さは 0.15m、床面積 15.64㎡を測る。壁の残存高は約 0.1 mになる。平面形は円形か楕円形になると思われ、小穴が見つかっているが、主柱穴となる小穴は不明瞭。

遺物は弥生土器が出土している。

ＳＨ１１１６６

U・V-38 区画に位置する遺構である。北側は SK11186 を切る。北側に SH11188、東側に SH11183、西側に SH11160 がある。その他に、本遺構上に SB11100 がある。

規模は、長軸は 4.90m、短軸は 4.32m、深さは 0.21m、床面積は約 21.17㎡を測る。壁の残存高は約 0.1 m～ 0.15 mになる。平面形は方形で主柱穴が P1 から P4 まである。それぞれの距離は、P1 から P2 が 2.6 m、P2 から P3 が 2.6 m、P3 から P4 が 2.2 m、P4 から P1 が 2.6 mになる。北側に土坑が見られる。

遺物は弥生土器、土師器、土製紡錘車が出土している。

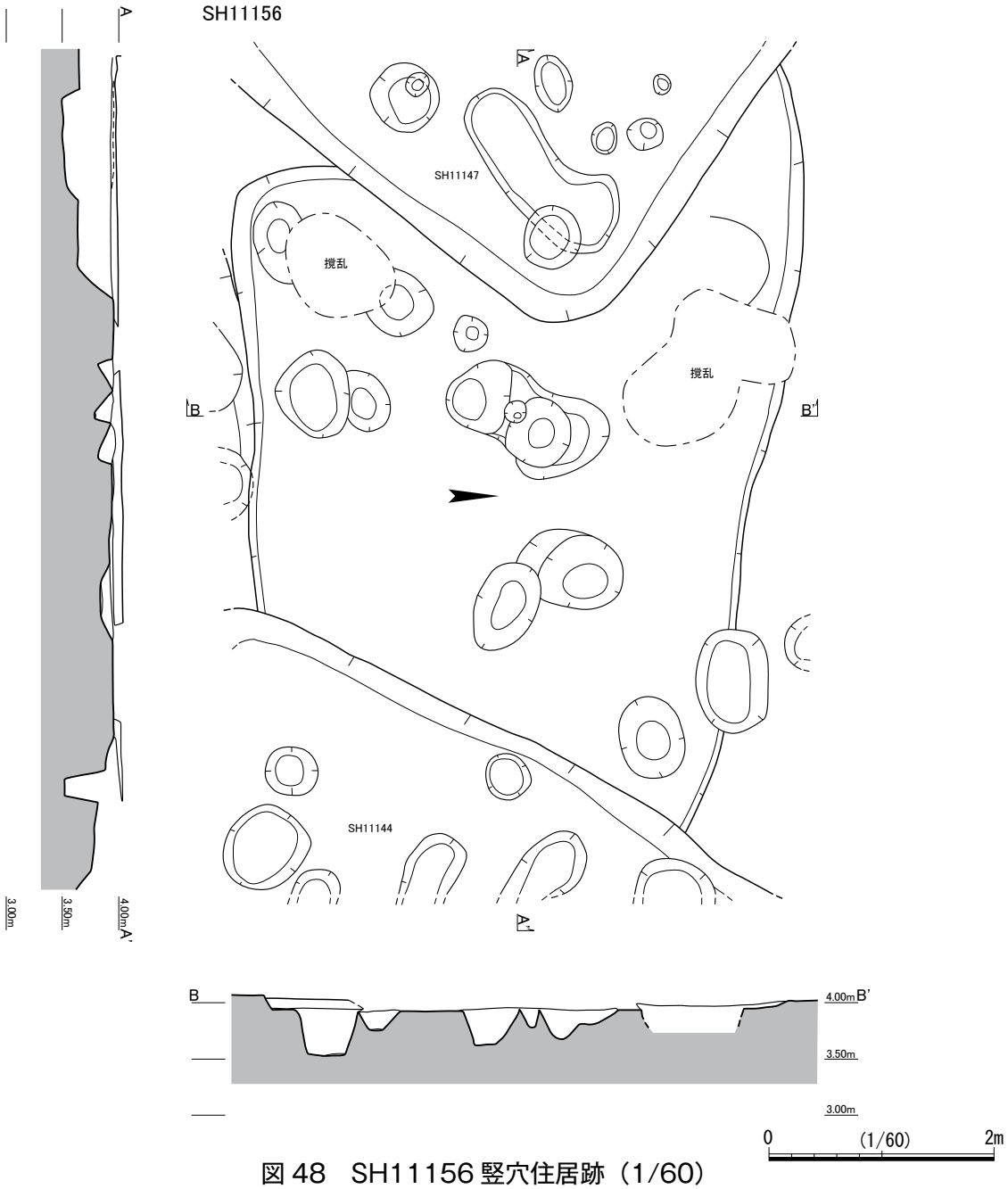


図 48　SH11156 竪穴住居跡（1/60）

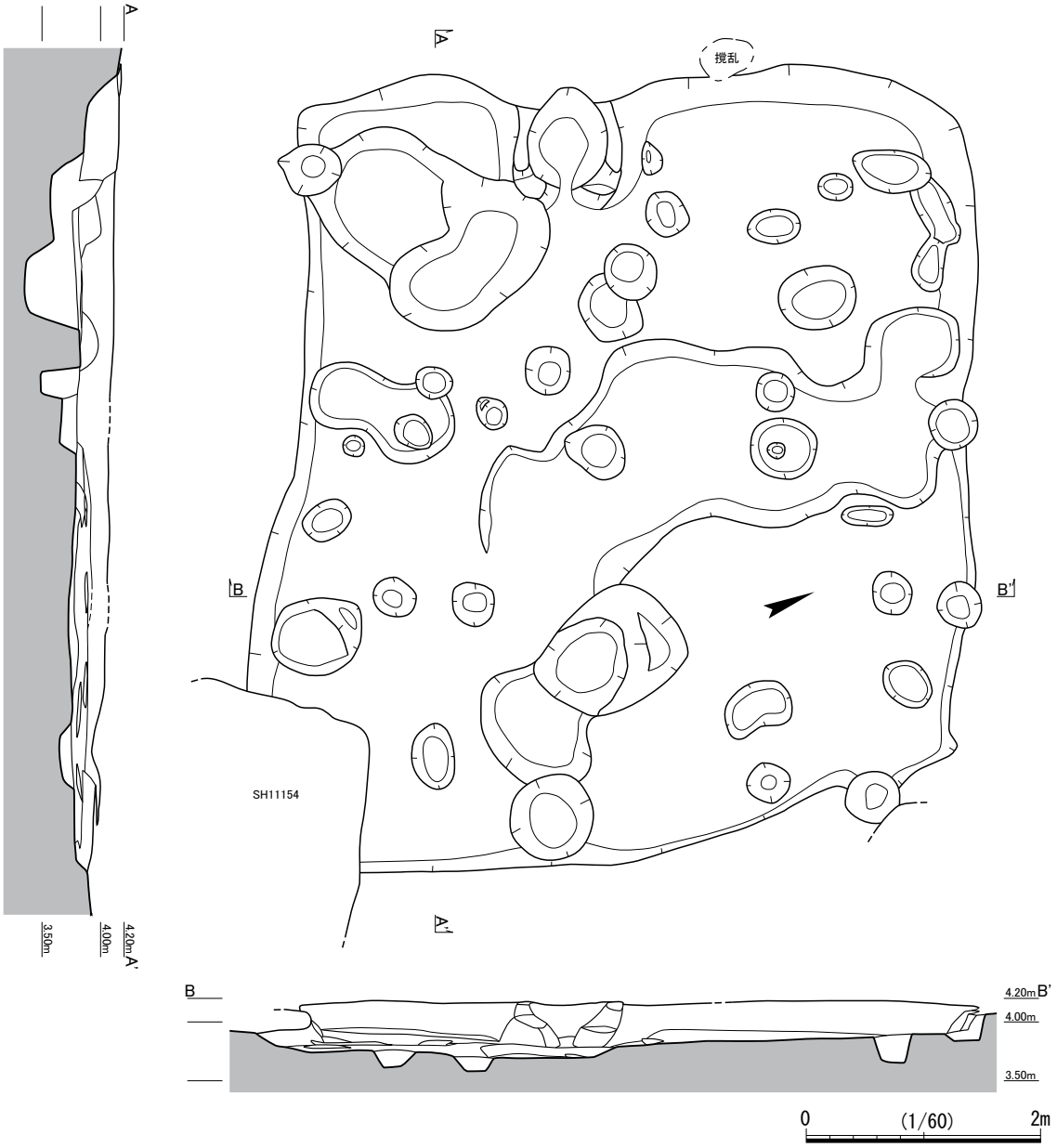
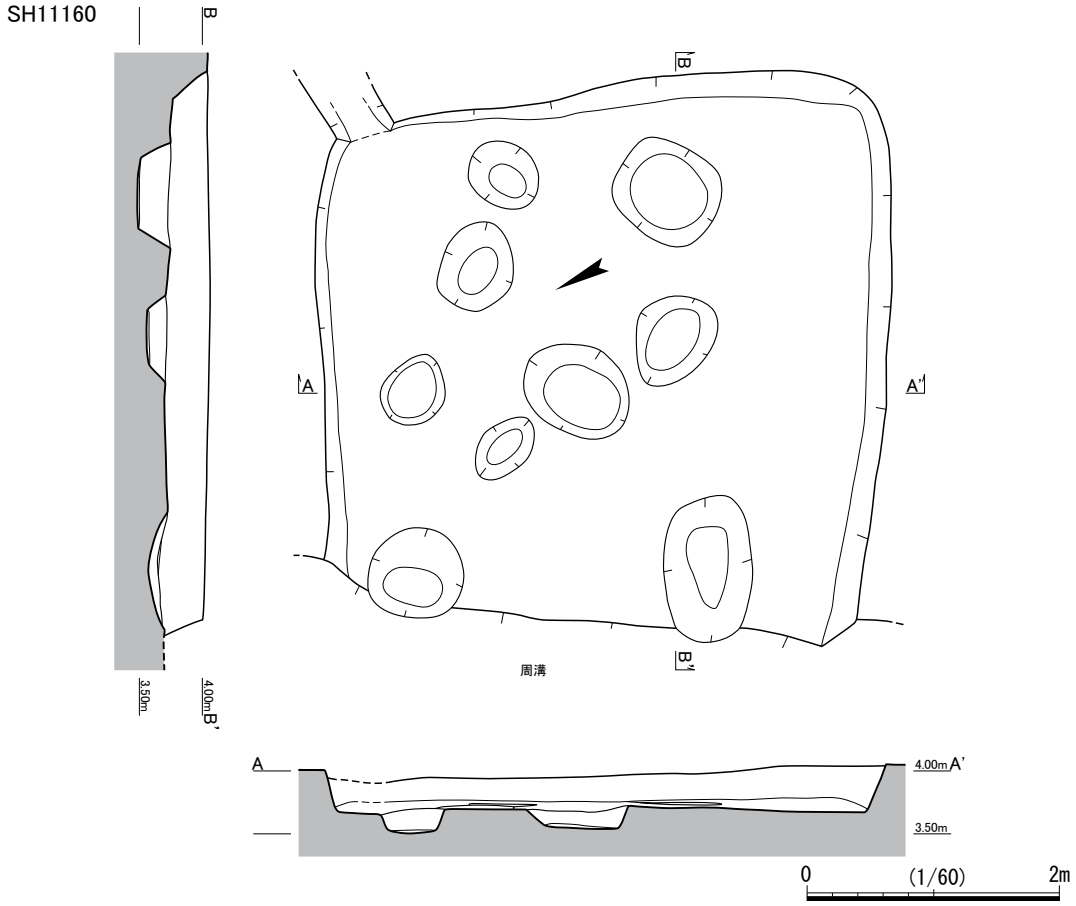


図 49　SH11159 竪穴住居跡（1/60）



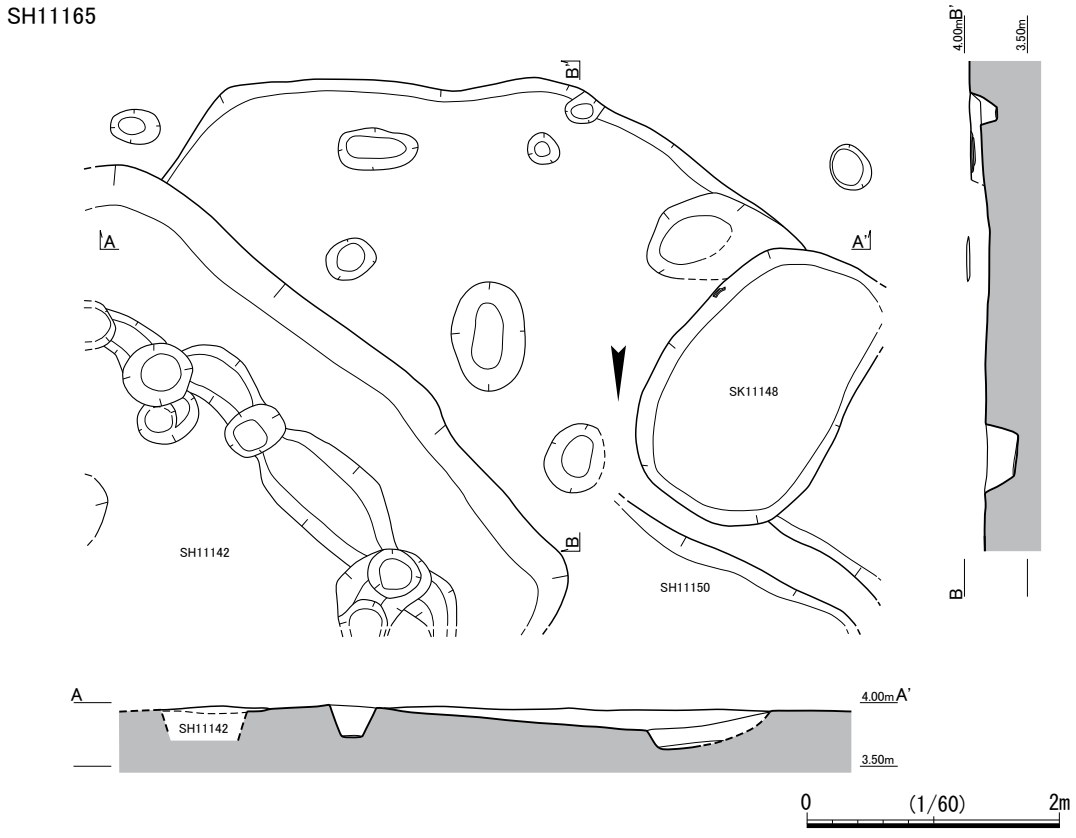


図 50　SH11160・11165 竪穴住居跡（1/60）

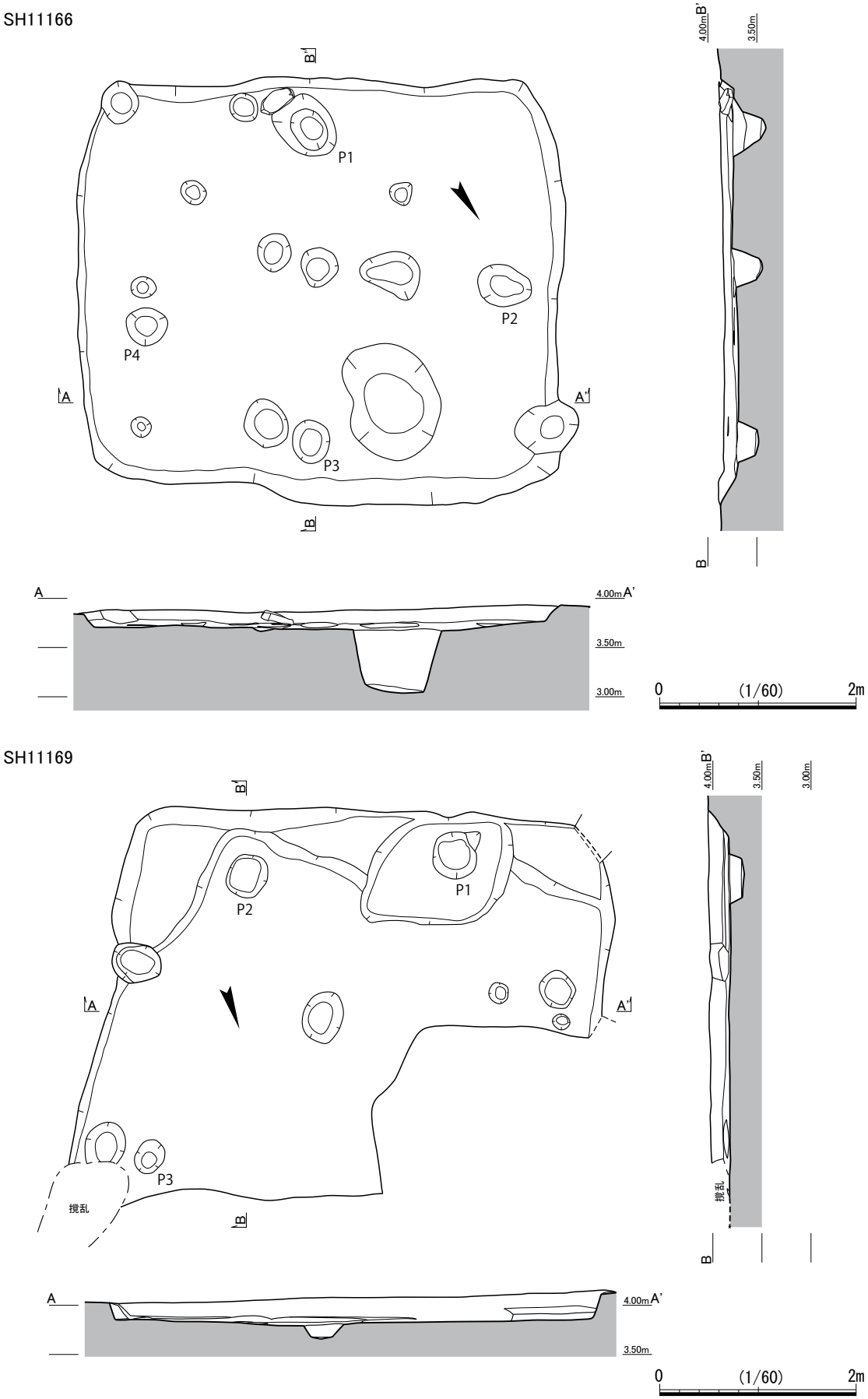


図 51　SH11166・11169 竪穴住居跡（1/60）

ＳＨ１１１６９

U・V-40 区画に位置する遺構である。北側は ST11141 に大きく削られ、東側は SH11147、南側は SH11159、本遺構上には SB11001 がある。

規模は、確認できる範囲では、長軸は 5.03m、短軸は（4.00）m、深さは 0.21m、床面積は 20.12㎡を測る。壁の残存高は約 0.15 m～ 0.2 mになる。平面形は方形になるとおもわれ、主柱穴が P1 ～ P3 までである。それぞれの距離は、P1 から P2 は 2.2 m、P1 から P3 は 3.0 mになる。

遺物は土器、土師器、砥石が出土している。

ＳＨ１１１７５

V-37・38 区画に位置する遺構である。本遺構の下に SH11131 がある。他に、東側は SH11138、南側は SH11139、西側は SH11066、北西側には SH11183 がある。

規模は、北東から南西にかけて溝状の撹乱が入り、南側も撹乱によって切られており、確認できる範囲では、長軸は 4.87m、短軸は（4.83）m、深さは 0.24m、床面積は 23.52㎡を測る。壁の残存高は約 0.1 m～ 0.2 mとなっている。平面形は方形になると思われ、主柱穴と思われる小穴は不明瞭。

遺物は弥生土器が出土している。

ＳＨ１１１８１

X･Y-40 区画に位置する遺構である。西側は SH11182 を切る。また、さらに西側に ST11158 がある。

規模は、長軸は 6.01m、短軸は 4.10m、深さは 0.23m、床面積は 24.64㎡を測る。平面形は長方形で、小穴は見つかっているが、主柱穴と見られる小穴は不明瞭。

遺物は弥生土器、土師器、磨製石斧が出土している。

ＳＨ１１１８２

X・Y-40 区画に位置する遺構である。東側は SH11181、西側は ST11158 に切られる。

規模は、東西を切られているほか、北側を溝状の撹乱によって一部切られ、確認できる範囲では、長軸は 7.51m、短軸は（4.70）m、深さは 0.13m、床面積は約 27.75㎡を測る。壁の残存高は約 0.1 m以下となっている。平面形は楕円形で、小穴は多数見つかっているが、主柱穴と見られる小穴は不明瞭。遺構中央部に土坑が造られている。

遺物は須玖Ⅰ式の弥生土器、砥石が出土している。

ＳＨ１１１８３

V-37・38 区画に位置するの遺構である。北東側は SH11264、南東側は SH11175、南西側は SH11066 があり、いずれにも切られている。また、北西側には SB11100 と SH11166 がある。

規模は、長軸は 7.69m、短軸は（6.80）m、深さは 0.26m、床面積は約 41.15㎡を測る。壁の残存高は約 0.1 m～ 0.15 mある。平面形は円形で、小穴が多数見つかっており、主柱穴と思われる小穴は推定で 5 つある。また、竪穴内に 0.1 mほどのベッド状遺構が造られている。

遺物は須玖Ⅰ式の弥生土器、石包丁、土製紡錘車が出土している。

ＳＨ１１１８７

T･U-38 区画に位置する遺構である。東側を SH11188 に切られており、南側で SK11186 を切っている。また、東側に SH11129、西側に SH11029、南西側に SH11160 がある。

規模は、南東側を SH11188 によって切られており、確認できる範囲では、長軸は 6.11m、短軸は 4.45m、深さは 0.22m、床面積は約 27.19㎡を測る。壁の残存高は約 0.15 m～ 0.2 mとなっている。平面形は長方形で、主柱穴と思われる小穴は不明瞭。

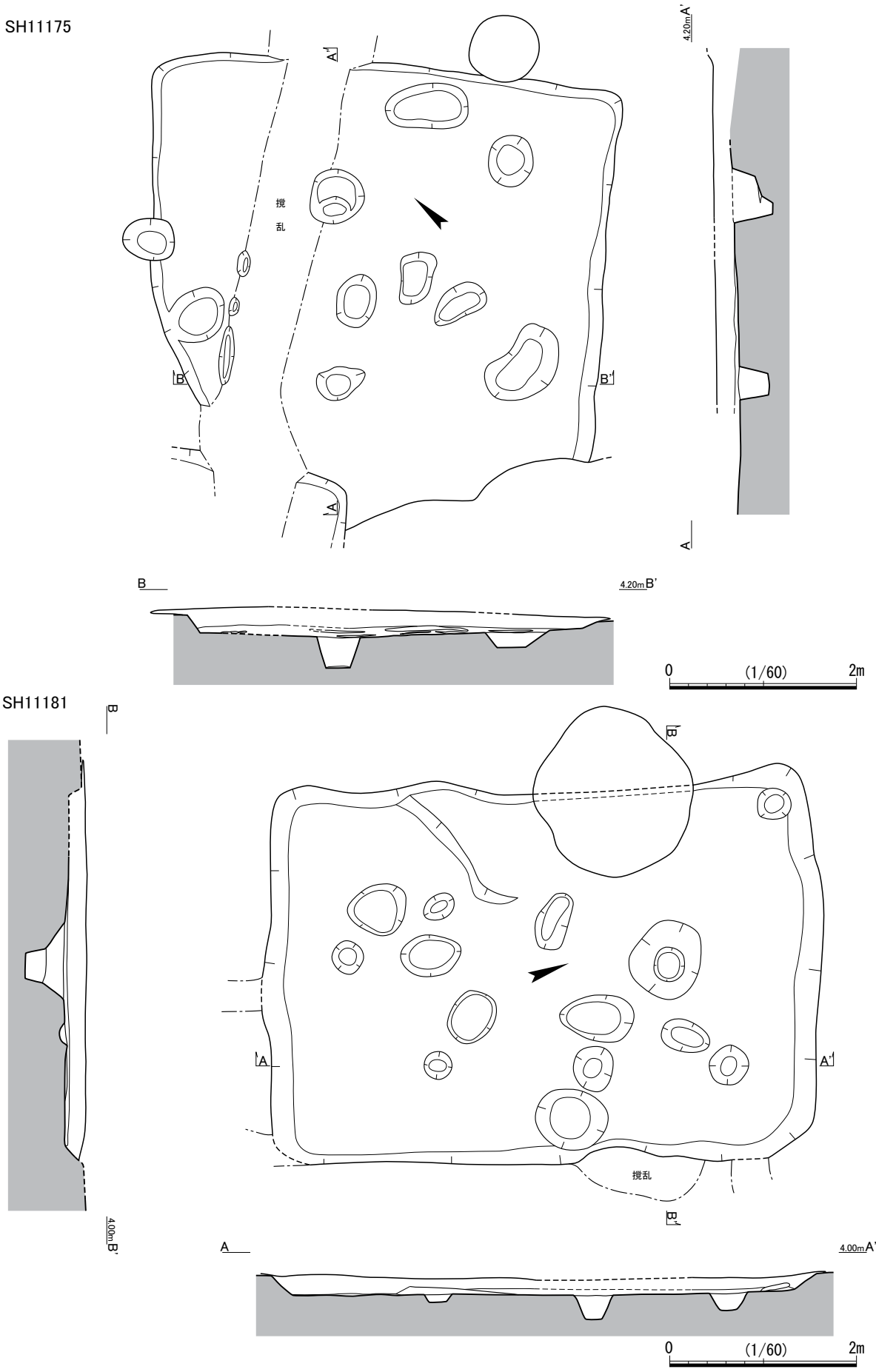


図 52　SH11175・11181 竪穴住居跡（1/60）

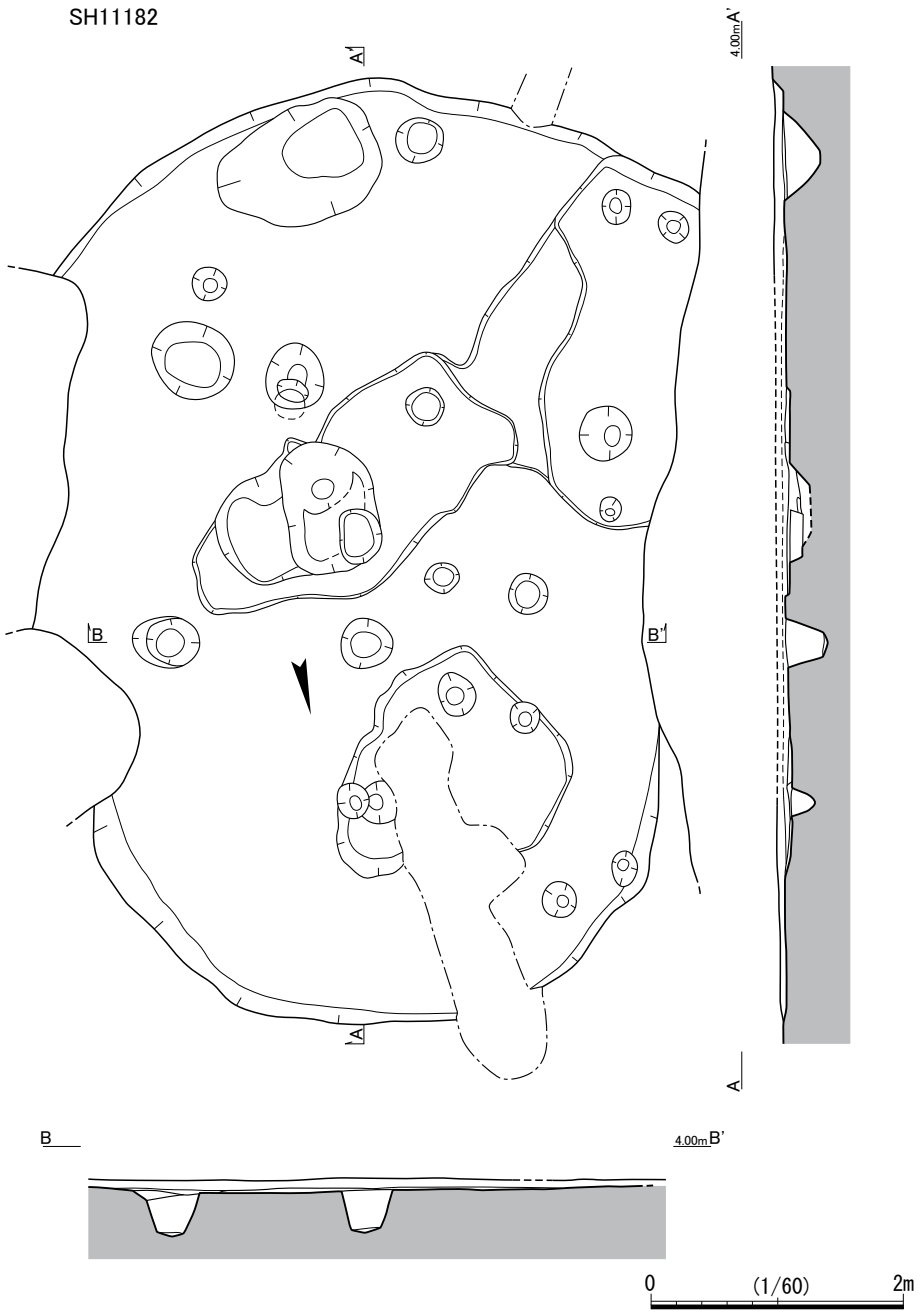


図 53　SH11182 竪穴住居跡（1/60）

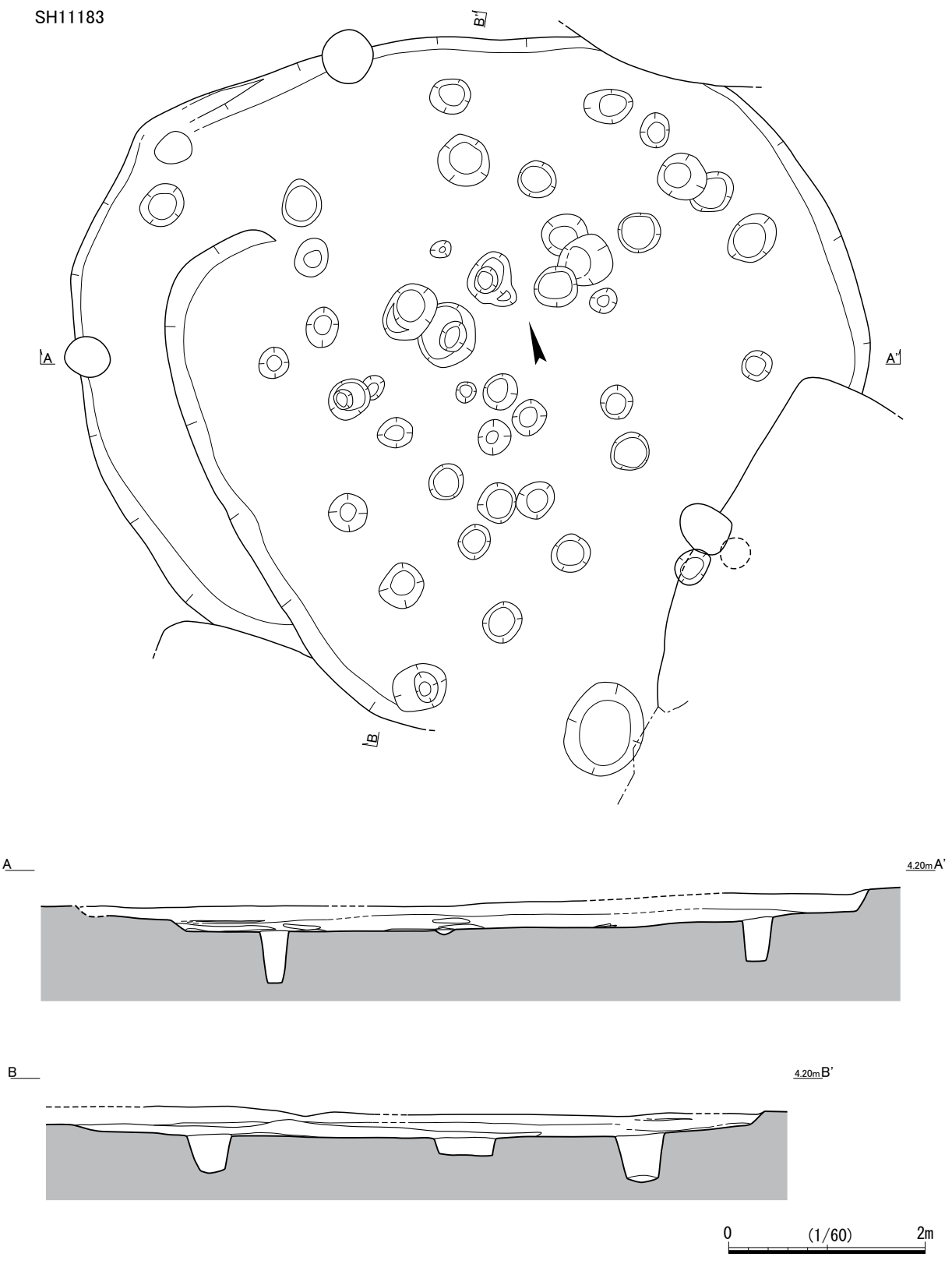
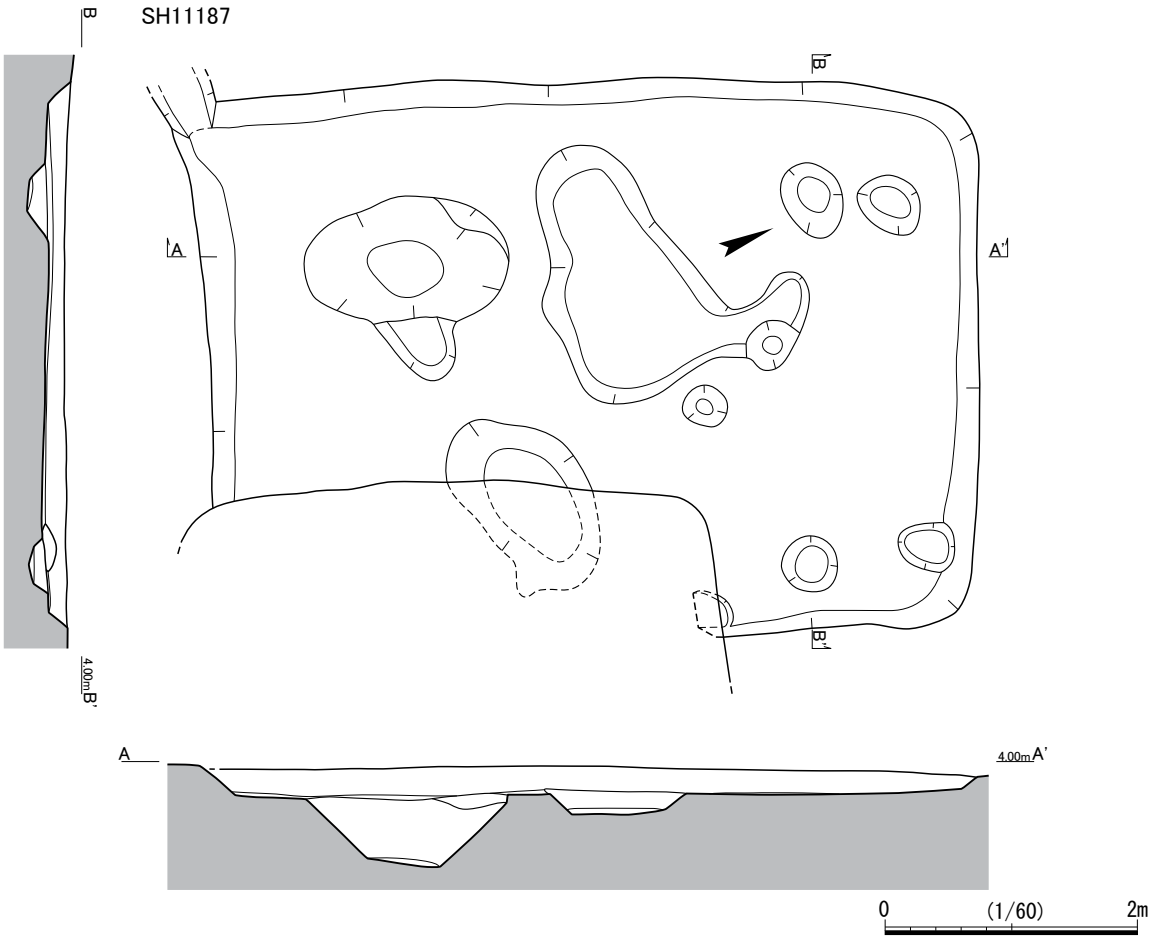


図 54　SH11183 竪穴住居跡（1/60）



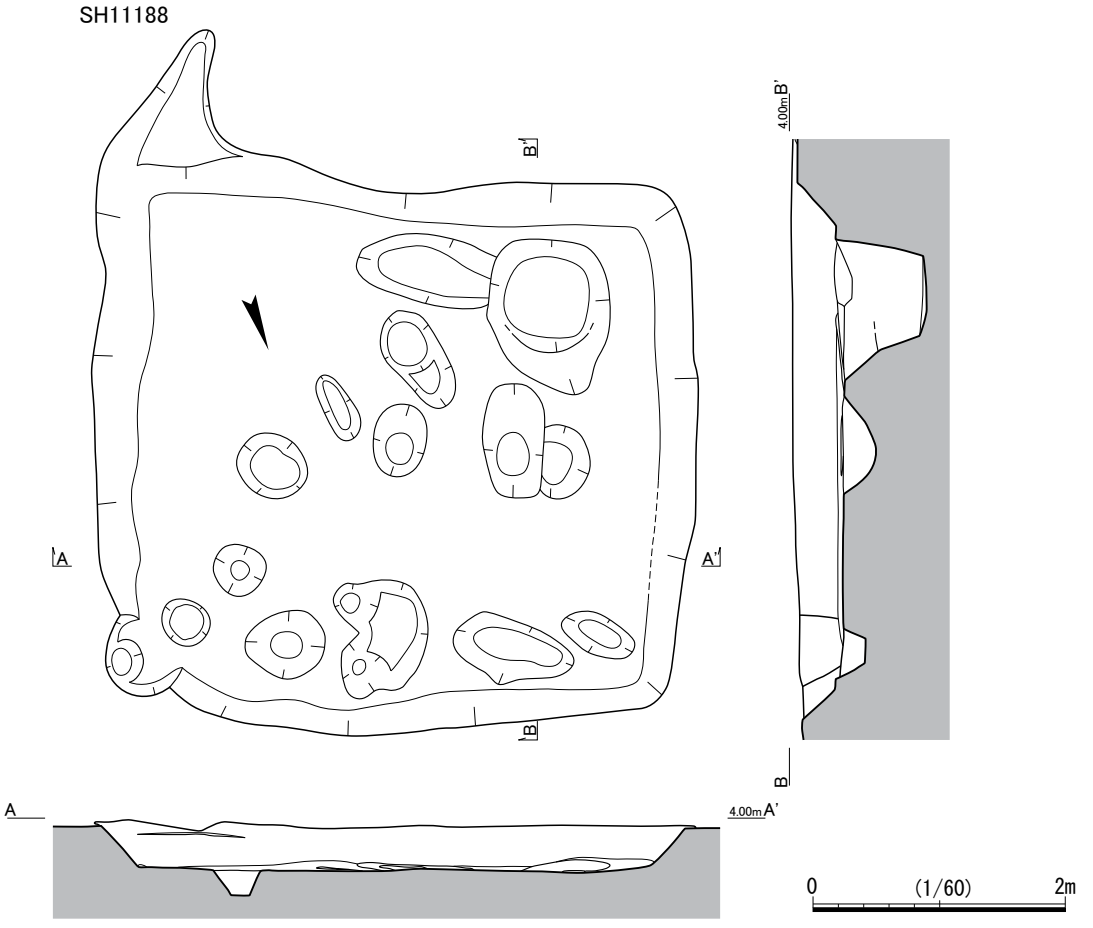


図 55　SH11187・11188 竪穴住居跡（1/60）

遺物は弥生土器、土師器、砥石が出土している。

ＳＨ１１１８８

T・U -38 区画に位置する遺構である。東側は SH11129、西側は SH11187 を切る。南側には SB11100 があり、柱穴と壁が切り合う。

規模は、長軸は 4.78m、短軸は 4.26m、深さは 0.36m、床面積は 20.36㎡を測る。壁の残存高は約 0.3 mとなっている。平面形は方形で、小穴が見つかっているが、主柱穴と見られる小穴は不明瞭。

遺物は弥生土器、土師器、砥石が出土している。

ＳＨ１１１８９

U-37 区画に位置する遺構である。北側は SH11190、南側は SH11264 を切る。

規模は、確認できる範囲では、長軸は 4.24m、短軸は 3.68m、深さは 0.30m、床面積は約 15.60 を測る。壁の残存高は約 0.3 mとなっている。平面形は方形で、主柱穴が P1 ～ P4 まであるが、P3 については SH11190 と被るため推定による。それぞれの距離は、P1 から P2 は 1.8 m、P4 から P1 は 2.2 mになる。

遺物は弥生土器、砥石が出土している。

ＳＨ１１１９０

U-37 区画に位置する遺構である。東側は SK11260、西側は SH11129、南側は SH11189 を切る。

規模は、長軸は 5.24m、短軸は 5.16m、深さは 0.19m、床面積は 27.04㎡を測る。壁の残存高は約 0.15 m～ 0.2 mになる。平面形は方形で、主柱穴が P1 ～ P4 まであるが、P4 については SH11189 と被るため推定による。それぞれの距離は、P1 から P2 は 2.2 m、P2 から P3 は 2.8 m、P3 から P4 は 2.6 m、P4 から P1 は 2.7 mになる。遺構中央に土坑が造られている。

遺物は弥生土器、土師器が出土している。

ＳＨ１１２０４

Q-36 区画に位置する遺構である。北側は SH11205、北西側は SH11210、SH11211、南西側は ST11002、南側には SB11077 がある。本遺構上にも SB11059 と SB11060 の柱穴が見つかっている。

規模は、長軸は 4.02m、短軸は 3.75m、深さは 0.38m、床面積は約 15.08㎡を測り、壁の残存高は約 0.35 m～ 0.4 mになっている。平面形は方形で、小穴は見つかっているが、主柱穴と見られる小穴は不明瞭。

遺物は弥生土器、土師器が出土している。

ＳＨ１１２０５

P・Q-36 区画に位置する遺構である。西側は SH11211、南西側は SH11210 を切る。また、北側は SH11206、SH11207、南側は SH11204、北西側は ST11067、南西側には ST11002 がある。

規模は、長軸は 4.94m、短軸は 4.16m、深さは 0.35m、床面積は約 20.55㎡を測り、壁の残存高は約 0.3 mになり、立ち上がりがかなり強い壁になっている。平面形は方形で、小穴は見られるが、主柱穴と見られる小穴は不明瞭。

遺物は弥生土器、土師器、石錘、土製紡錘車が出土している。

ＳＨ１１２０６

P -36 区画に位置する遺構である。北東側は SH11207 を切る。南側は SH11205、SH11211、西側には ST11067 がある。

規模は、長軸は 4.24m、短軸は 4.22m、深さは 0.27m、床面積は約 17.89㎡を測り、壁の残存高は約 0.2 m～ 0.3 mになる。平面形は方形で、小穴は見つかっているが主柱穴は不明瞭。

遺物は弥生土器、土師器、敲石が南西側にまとめて出土する。

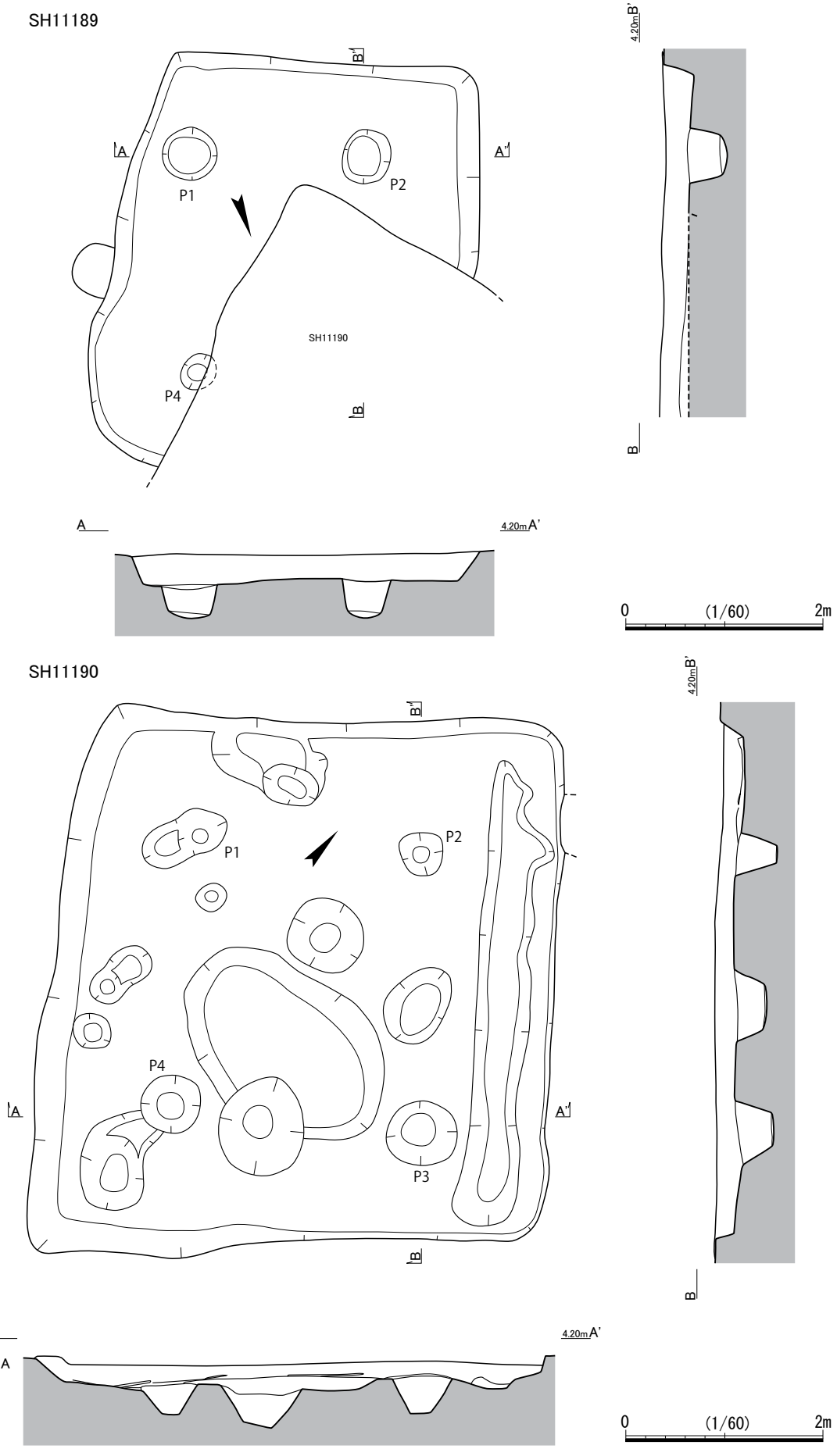


図 56　SH11189・11190 竪穴住居跡（1/60）

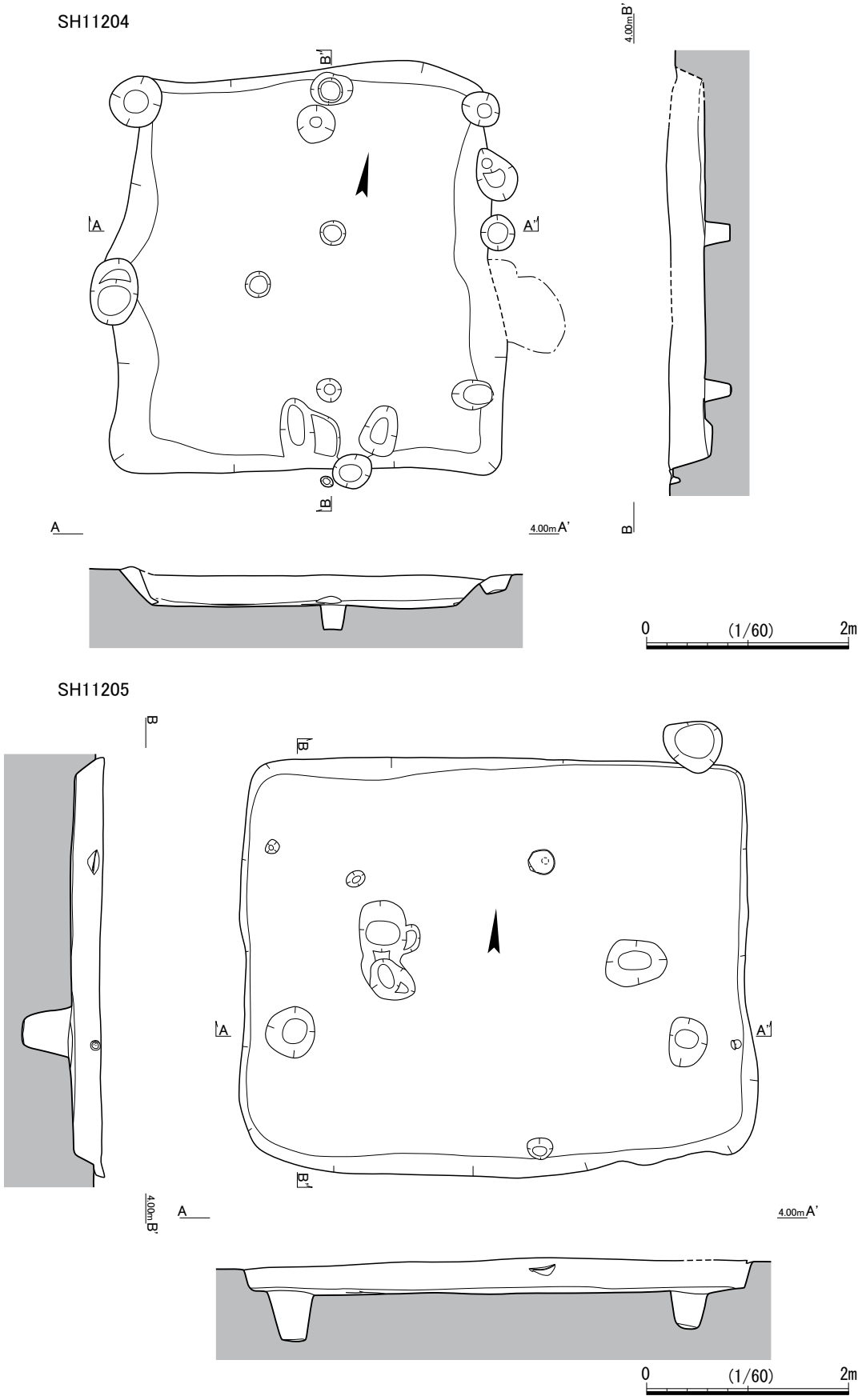


図 57　SH11204・11205 竪穴住居跡（1/60）

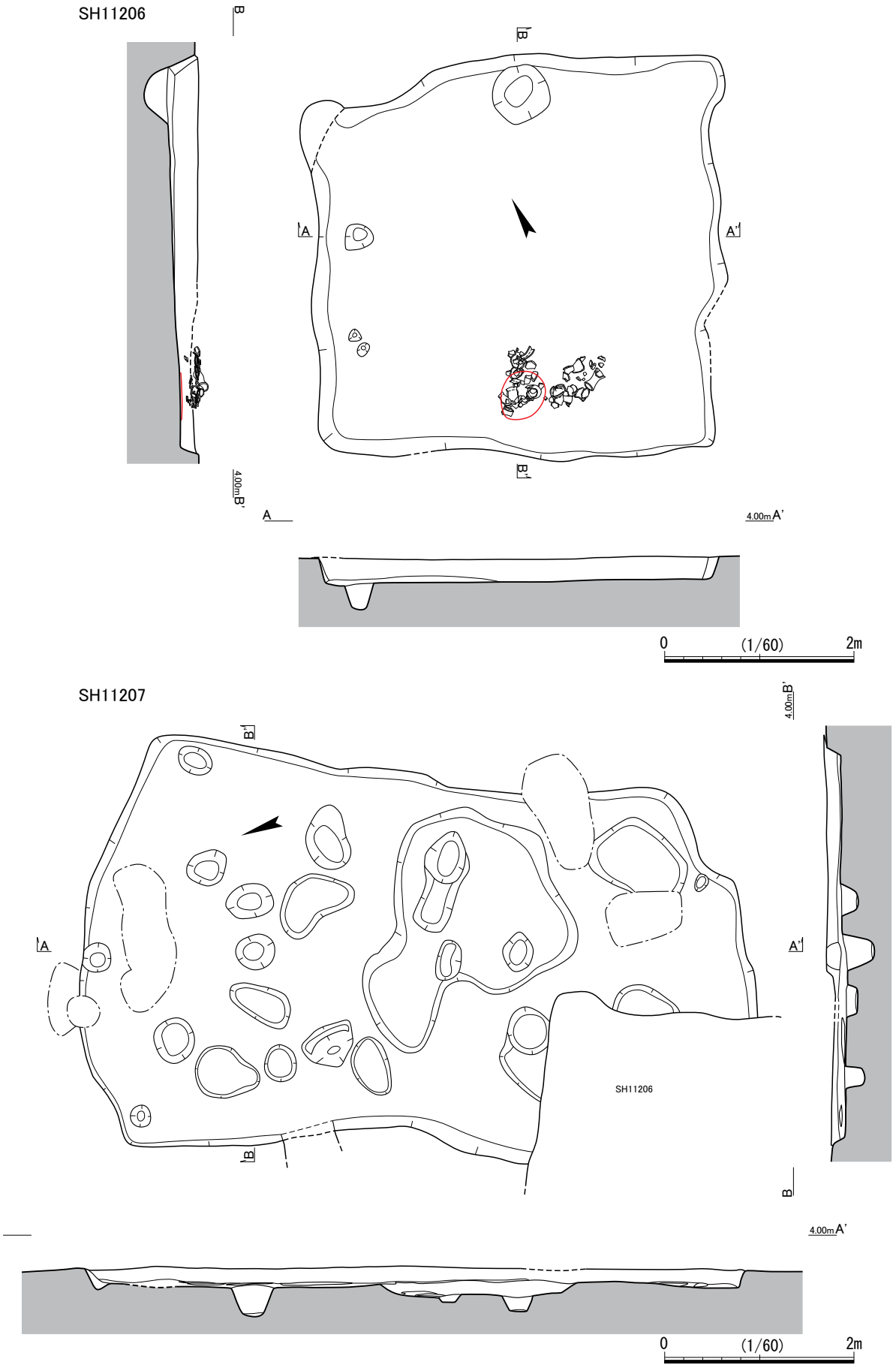


図 58　SH11206・11207 竪穴住居跡（1/60）

ＳＨ１１２０７

O・P-36 区画に位置する遺構である。南西側は SH11206 に切られる。北東側は SB11033、南側は SH11205、西側には ST11067 がある。

規模は、南西側を SH11206 によって切られているが、確認できる範囲では、長軸は 7.24m、短軸は 3.66m、深さは 0.22m、床面積は約 26.50㎡を測り、壁の残存高は約 0.15 mになる。平面形は長方形で、小穴は見つかっているが、主柱穴と見られる小穴は不明瞭。中央付近に土坑が造られている。

遺物は弥生の土器、土師器、石錘が出土している。土器は台付甕、肥前型器台が出土する。

ＳＨ１１２０９

P-35･36 区画に位置する遺構である。南側は SH11027、西側は SK11128 を切る。南西側は撹乱によって切られ、遺構内も溝状と土坑状の撹乱によって一部切られている。

規模は確認できる範囲で、長軸は 4.43m、短軸は 3.30m、深さは 0.30m、床面積は約 14.62㎡を測り、壁の残存高は約 0.2 mになる。平面形は長方形で、小穴は見つかっているが、主柱穴と見られる小穴は不明瞭。

遺物は須玖Ⅰ式の土器が出土している。

ＳＨ１１２１０

P･Q-36･37 区画に位置する遺構である。北東側は SH11205 に切られる。北西側は SH11211 を切る。また、南西側には SH11204、ST11002 がある。

規模は、長軸は 3.68m、短軸は 3.55m、深さは 0.27m、床面積は約 13.06㎡を測り、壁の残存高は、約 0.1 m～ 0.3 mになる。平面形は方形で、小穴は見つかっているが、主柱穴と見られる小穴は不明瞭。

遺物は弥生土器、土師器、石錘が出土している。

ＳＨ１１２１１

P-36・37 区画に位置する遺構である。東側は SH11205、SH11210 に切られる。また、北東側に SH11206、北西側に ST11067、南西側には ST11002 がある。

規模は、確認できる範囲では、長軸は（4.04）m、短軸は 3.56m、深さは 0.24m、床面積は 14.38㎡を測り、壁の残存高は約 0.1 m～ 0.2 mになる。平面形は長方形で、小穴は見つかっているが、主柱穴と見られる小穴は不明瞭。

遺物は弥生土器が出土している。

ＳＨ１１２１２

O-36・37 区画に位置する遺構である。西側に SH11253 があり、その上に本遺構が作られる。南西側は ST11067 に切られる。約 15 m離れた南東側には、SB11033、SH11207 がある。

規模は、確認できる範囲で長軸は 7.24 m、短軸は 6.15 m、深さは 0.20 m、床面積は約 44.52㎡を測り、壁の残存高は約 0.1 m～ 0.2 mになる。平面形は長方形で、主柱穴は四隅のうち 3 箇所あるが、一つは切られている為不明。中央に土坑が掘られている。

遺物は弥生土器、土師器、砥石が出土している。

ＳＨ１１２１６

N・O-37・38 区画に位置する遺構である。南側は ST11067 に切られる。東側は SH11212、SH11253、南西側には SH11231 がある。

規模は、南西側を周溝に切られているが、確認できる範囲では、長軸は 4.77m、短軸は（4.60）m、深さは 0.24m、床面積は約 21.94㎡を測り、壁の残存高は約 0.15 m～ 0.2 mになる。平面形は方形か

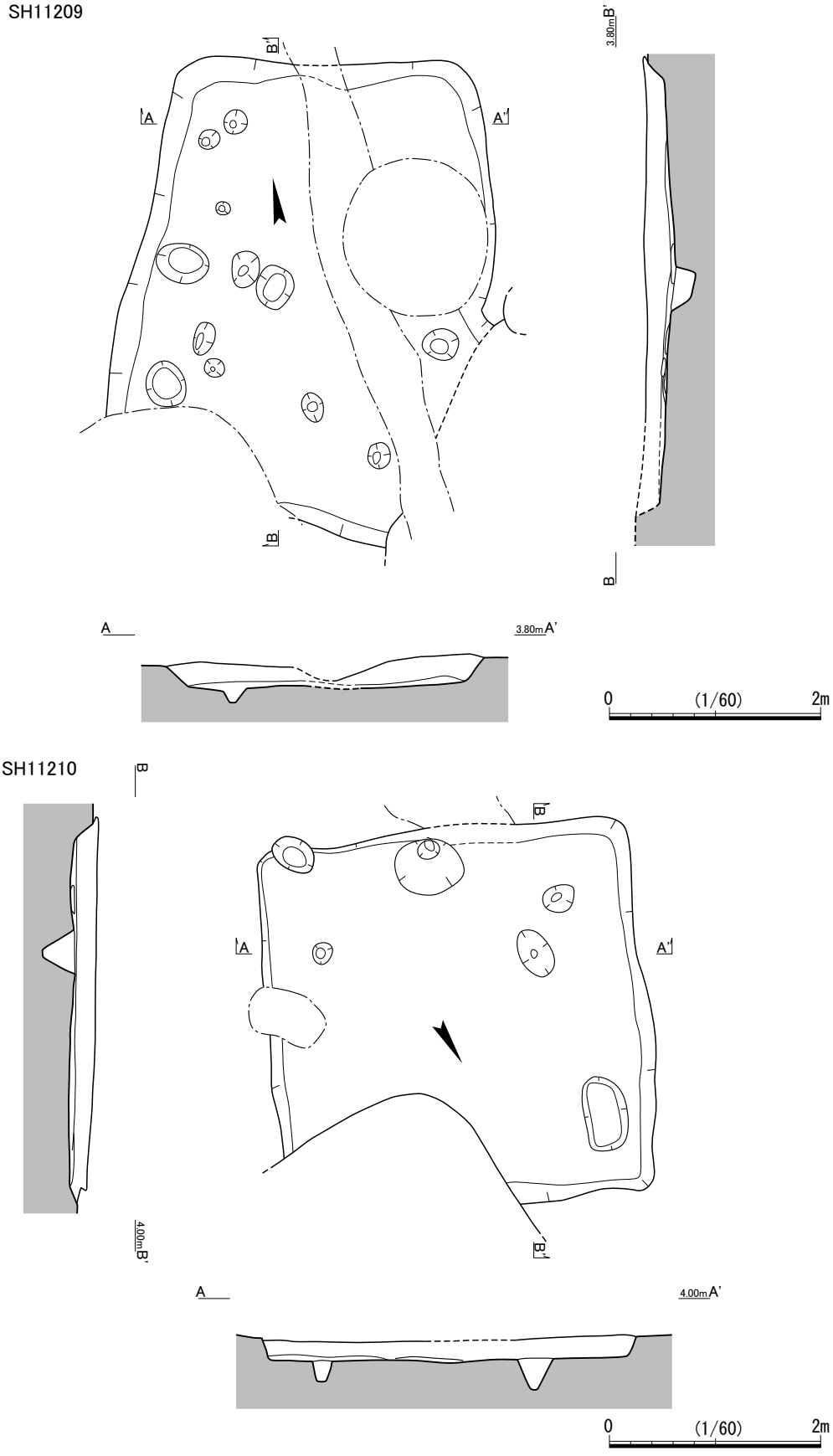


図 59　SH11209・11210 竪穴住居跡（1/60）

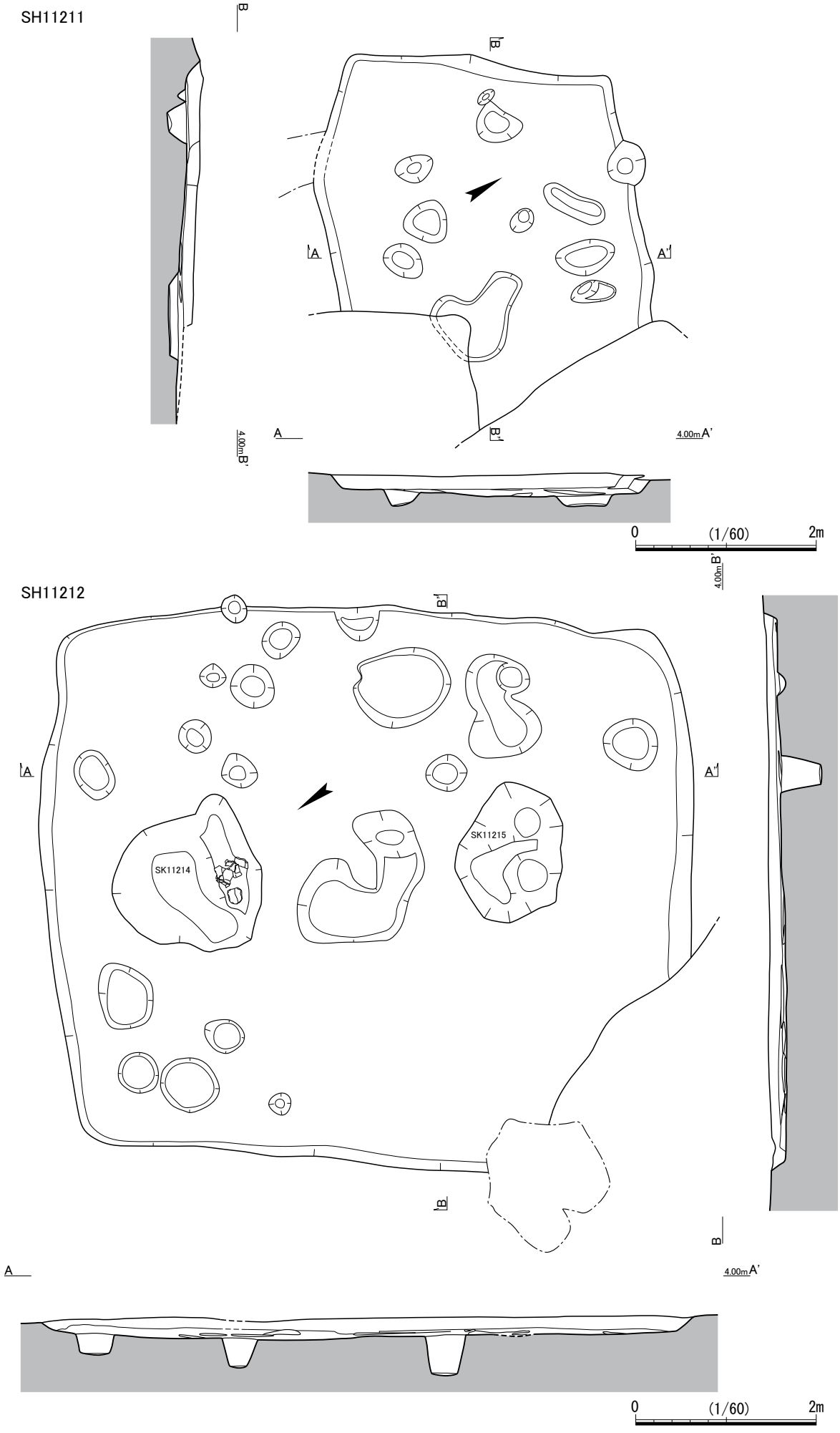
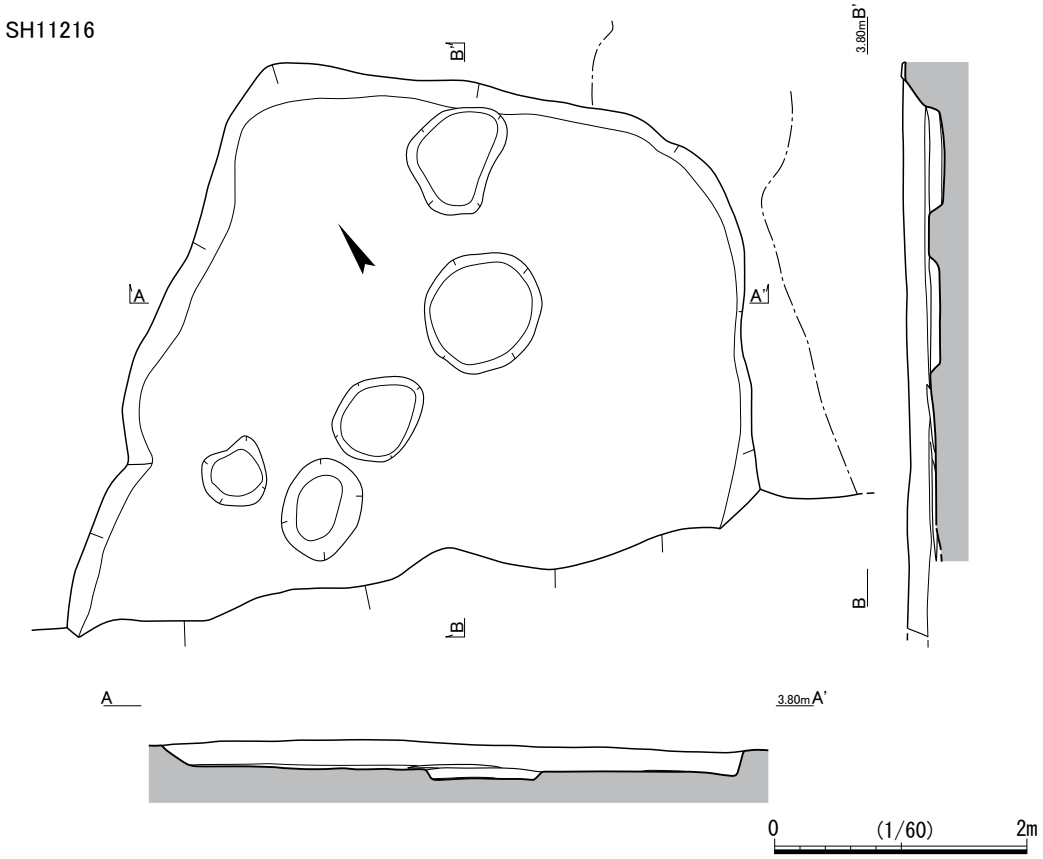


図 60　SH11211・11212 竪穴住居跡（1/60）



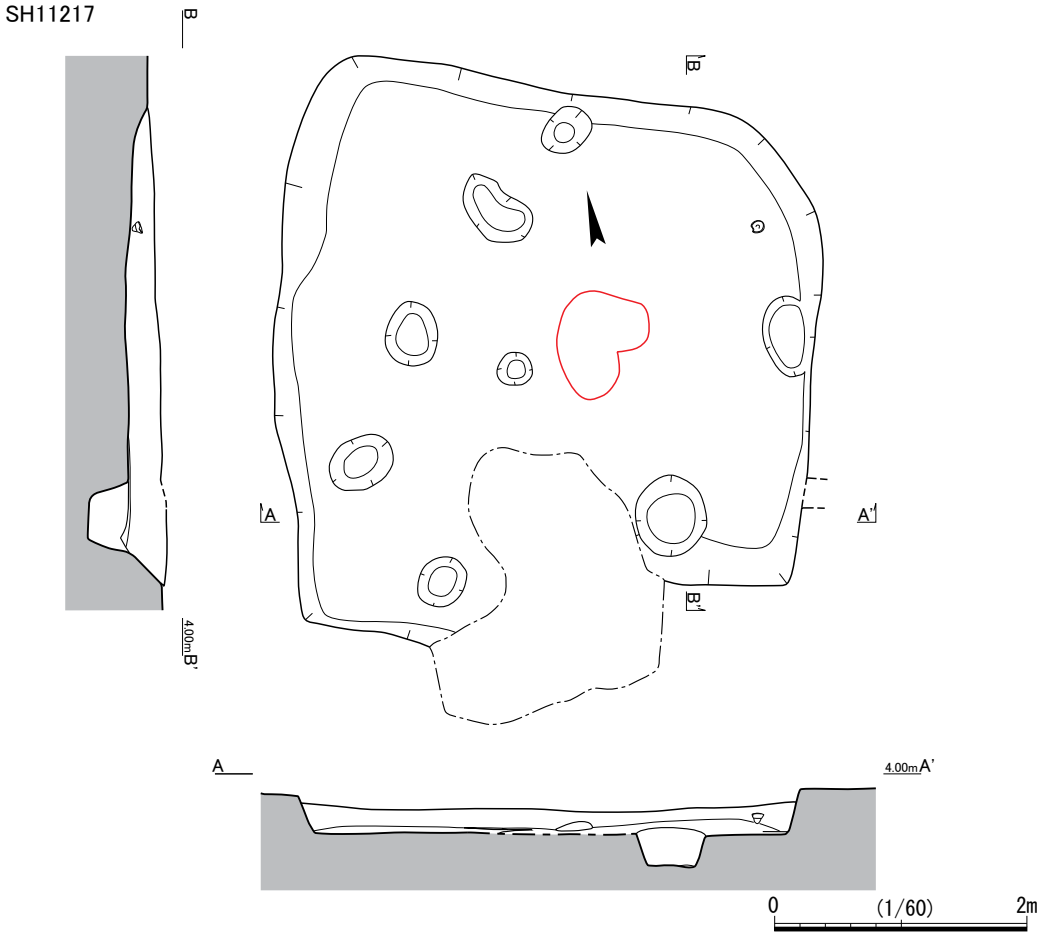


図 61　SH11216・11217 竪穴住居跡（1/60）

長方形で、浅い小穴が見つかっているが、主柱穴の小穴かどうかは不明瞭。

遺物は弥生土器、石斧、砥石が出土している。

ＳＨ１１２１７

Ｒ -38 区画に位置する遺構である。南側は SK11174 を切る。また本遺構上に ST11002 が作られている。

規模は、長軸は 4.61m、短軸は 4.22m、深さは 0.28m、床面積は約 19.45㎡を測り、壁の残存高は約 0.1 m～ 0.25 mになる。平面形は方形で、小穴は見つかっているが、主柱穴と見られる小穴は不明瞭。中央に焼土が残っている。

遺物は弥生土器、土師器、凹石が出土している。

ＳＨ１１２１９

Ｘ -38・39 区画に位置する遺構である。西側は SH11261、SH11267 を切る。また、北側は SB11102、東側には SH11127 がある。

規模は、南側を撹乱によって切られているが、確認できる範囲で、長軸は 7.65m、短軸は 5.80m、深さは 0.25m、床面積は 34.88㎡を測り、壁の残存高は約 0.15 mになる。平面形は円形で、小穴は多数見つかっているが、主柱穴とみられる小穴は不明瞭。中央に土坑が造られている。

遺物は弥生土器が出土している。

ＳＨ１１２２８

Q-38・39 区画に位置する遺構である。南東側は ST11002 に切られる。

規模は、確認できる範囲で、長軸（9.27）m、短軸 6.21m、深さは 0.09m、床面積は約 57.57㎡を測る。平面形は不整方形になる。

遺物は、弥生土器が出土している。

本報告書には遺構個別図は掲載していない。

ＳＨ１１２２９

Ｐ -38・39 区画に位置する遺構である。東側は SH11230、北側には SH11231 がある。また、本遺遺構上に ST11067 が作られ、本遺構が切られている。

規模は、東西を ST11067 が横切り、大半が切られている。長軸は 6.81m、短軸は 5.21m、深さは 0.27m、床面積は約 35.48 mを測り、壁の残存高は約 0.15 mになる。平面形は長方形で、小穴は見つかっているが、主柱穴とみられる小穴は不明瞭。

遺物は弥生土器、砥石が出土している。

ＳＨ１１２３０

Ｐ -38 区画に位置する遺構である。西側は SH11229、北側は SH11231 がある。また、遺構上に ST11067 が作られ、本遺構は切られている。

規模は、東側を ST11067 に一部切られ、西側も溝状の撹乱によって壁が一部切られ、確認できる範囲で、長軸は（8.10）m、短軸は（6.80）m、深さは 0.27m、床面積は 43.24㎡を測る。壁の残存高は約 0.25 m～ 0.3 mになる。平面形は円形で、主柱穴と見られる小穴が P1 ～ P6 あると思われ、それぞれの距離は、P1 から P2 が 1.8 m、P2 から P3 は 2.4 m、P3 から P4 は 1.8 m、P4 から P5 は 2.8 m、P5 から P6 は 2.4 m、P6 から P1 は 2.0 mになる。中央に土坑が造られている。

遺物は弥生土器、布留式土器等の土師器、砥石が出土している。

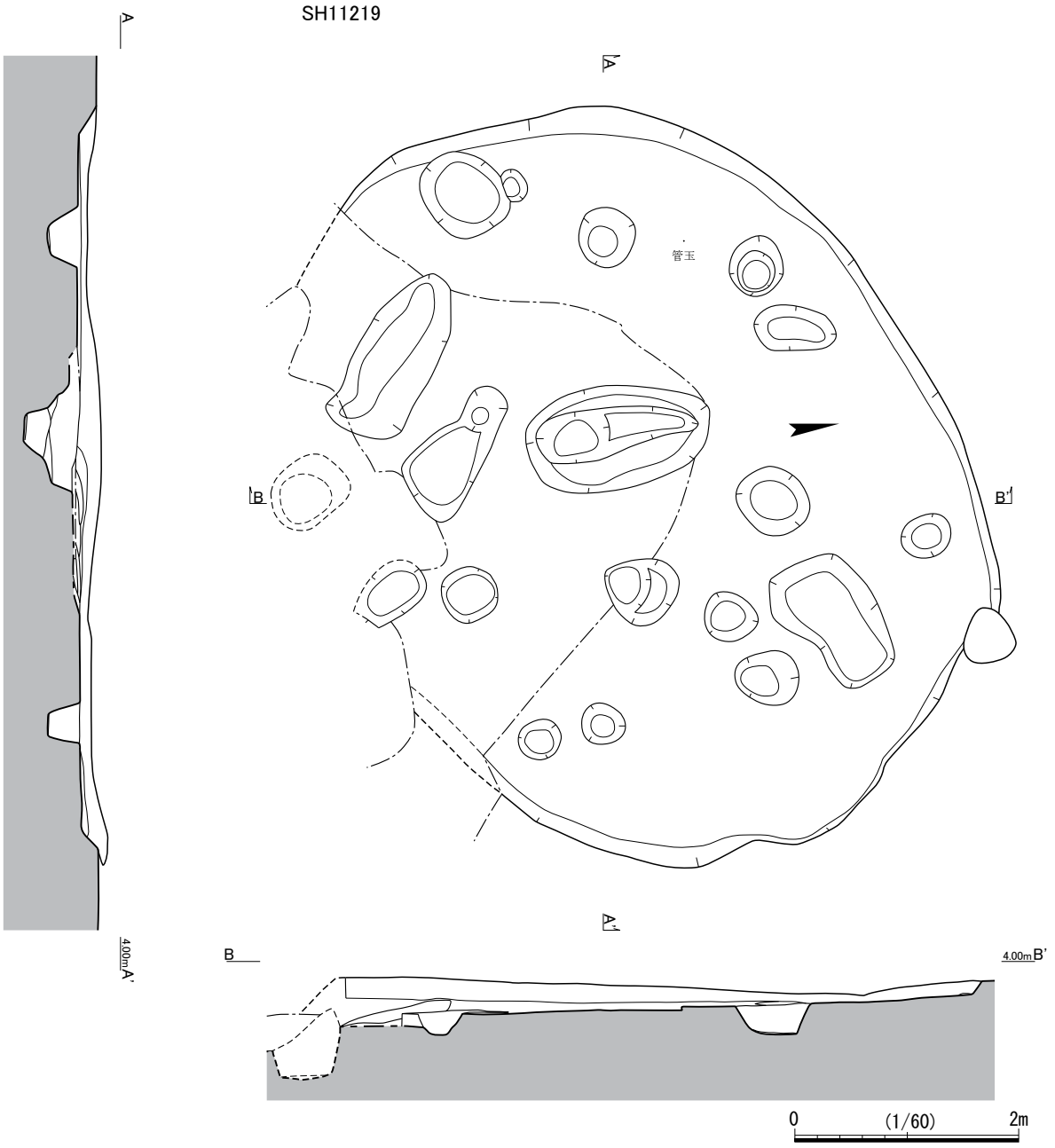


図 62　SH11219 竪穴住居跡（1/60）

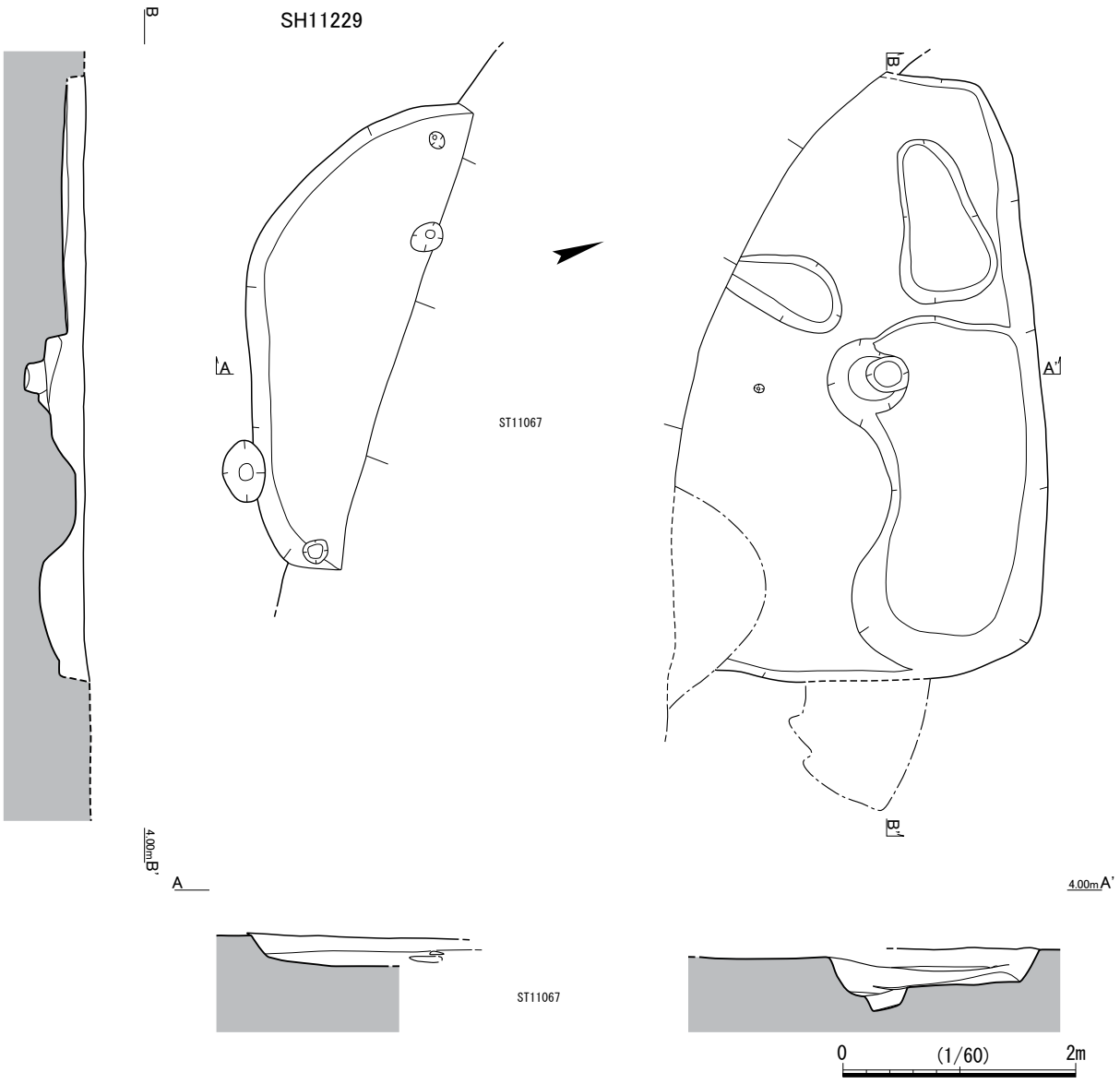


図 63　SH11229 竪穴住居跡（1/60）

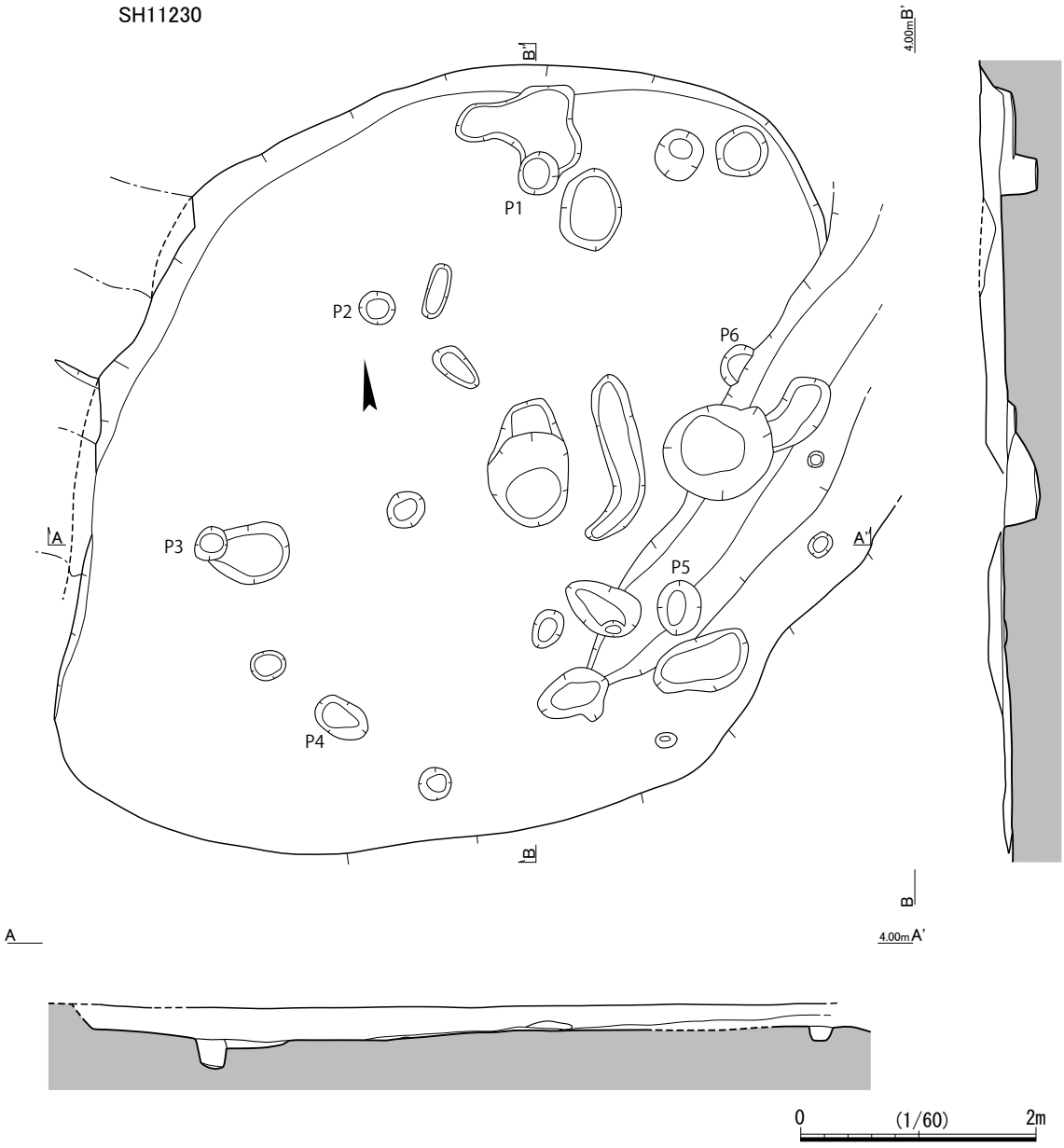


図 64　SH11230 竪穴住居跡（1/60）

ＳＨ１１２３１

O-38 区画に位置する遺構である。北東側は SH11216、南側は SH11229、SH11230、西側は SH12043 がある。また、本遺構上に ST11067 が作られており、北側を切られる。

規模は、西側を ST11067 に一部切られ、南側を撹乱によって 2 箇所切られ、長軸は 7.45m、短軸は（5.10）m、深さは 0.37m、床面積は約 38.0㎡を測る。壁の残存高は約 0.15 m～ 0.25 mになる。平面形は不整長方形で、小穴は見つかっているが主柱穴とみられる小穴は不明瞭。

遺物は弥生土器、敲石、砥石が出土し、肥前系の器台が出土する。

ＳＨ１１２５２

Q-34 区画に位置する遺構である。北側は SH11082、東側は SH11047、南西側は SH11052 に切られる。また、東側には SB11038 などの掘立柱建物が見られる。

規模は、南側の壁を SH11052 に切られ、長軸は 6.01m、短軸は 4.98m、深さは 0.38m、床面積は約 23.75㎡を測り、壁の残存高は約 0.3 mになる。平面形は円形で、主柱穴が P1 ～ P6 まである。それぞれの距離は、P1 から P2 が 1.9 m、P2 から P3、P3 から P4 は 2.0 m、P4 から P5 は 1.5 m、P5 から P6 は 1.9 m、P6 から P1 は 1.7 mになる。中央には土坑が造られている。

遺物は弥生土器が出土している。

ＳＨ１１２５３

O-37 区画に位置する遺構である。東側は SH11212 が本遺構上に作られる。南西側は ST11067 に切られる。また、西側は SH11231、北西側には SH11216 がある。

規模は、確認できる範囲で、長軸は 6.13m、短軸は（2.48）m、深さは 0.43m、床面積は約 15.20㎡を測り、壁の残存高は約 0.2 m～ 0.3 mになる。平面形は方形か長方形で、小穴は見つかっているが、主柱穴と見られる小穴は不明瞭。

遺物は弥生土器、砥石が出土している。

ＳＨ１１２５４

T-34・35 区画に位置する遺構である。東側は SH11110 に切られる。また、南側は SB11084、SH11111、南西側は SH11133、北西側には SH11098 がある。

規模は、確認できる範囲で、長軸は 6.66m、短軸は 5.84m、深さは 0.31m、床面積約 30.53㎡を測り、壁の残存高は約 0.2 m～ 0.3 mになる。平面形は楕円形で、小穴は見つかっているが、主柱穴と見られる小穴は不明瞭。

遺物は須玖Ⅱ式の弥生土器が出土している。

ＳＨ１１２５７

T-36 区画に位置する遺構である。東側は SH11133、SB11256、南西側は SB11085 がある。

規模は、東側と南西側を撹乱によって一部切られ、長軸は 4.98m、短軸は 4.79m、深さは 0.26m、床面積は約 18.69㎡を測る。壁の残存高は約 0.1 m～ 0.15 mになる。平面形は円形で、円形の主柱穴が P1 ～ P4 まであると思われ、P1 から P3 までがそれぞれ 2.2 m、P3 から P4 は 1.2 m、P4 から P1 は 4.0 mになる。北西と南西側に溝状の遺構があり、中央に楕円形の土坑が造られている。

遺物は弥生土器、石製紡錘車が出土している。

ＳＨ１１２５８

U・V-36・37 区画に位置する遺構である。北東側は SB11085、南東側は SB11088、北西側は SH11190 等がある。

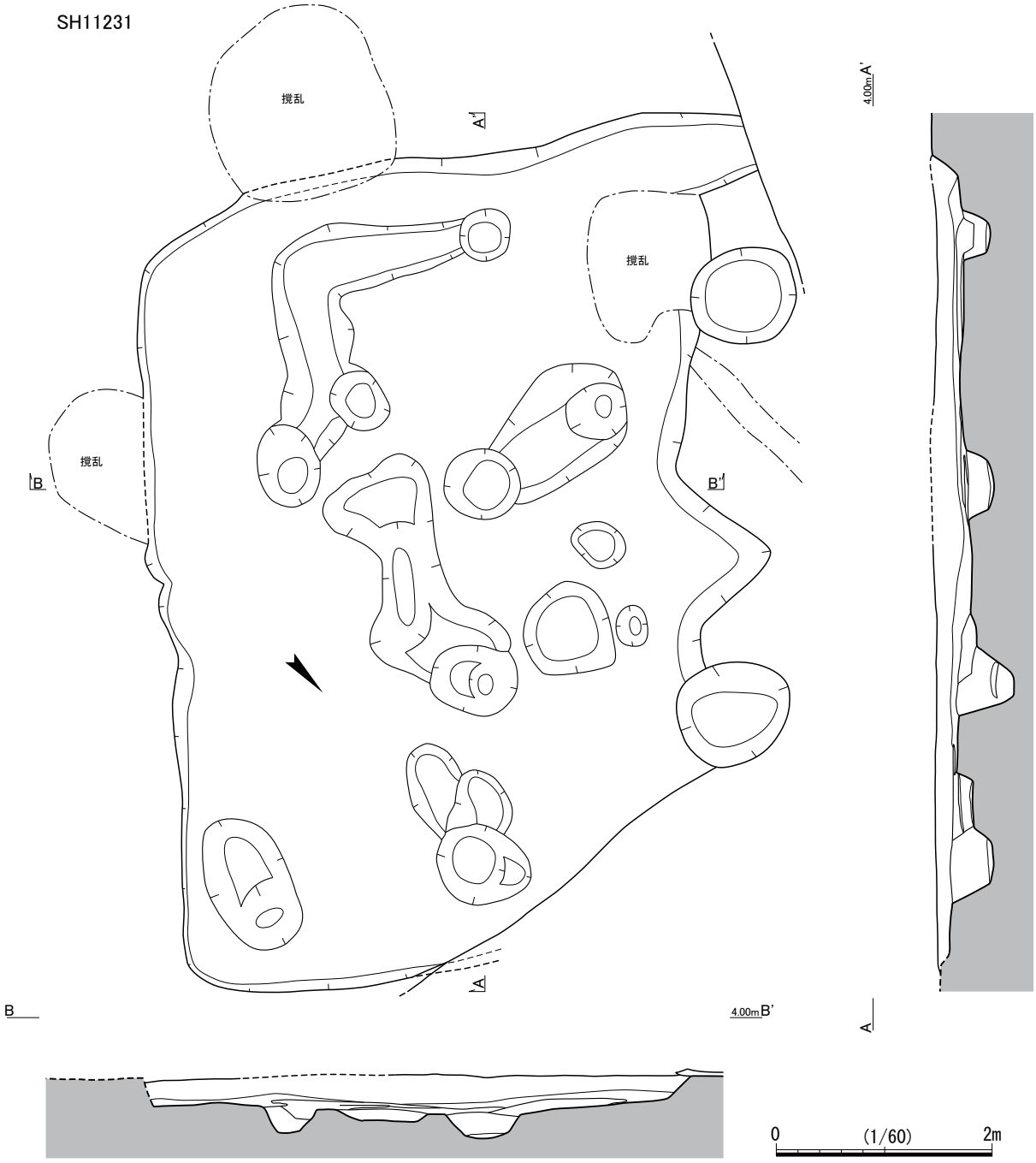
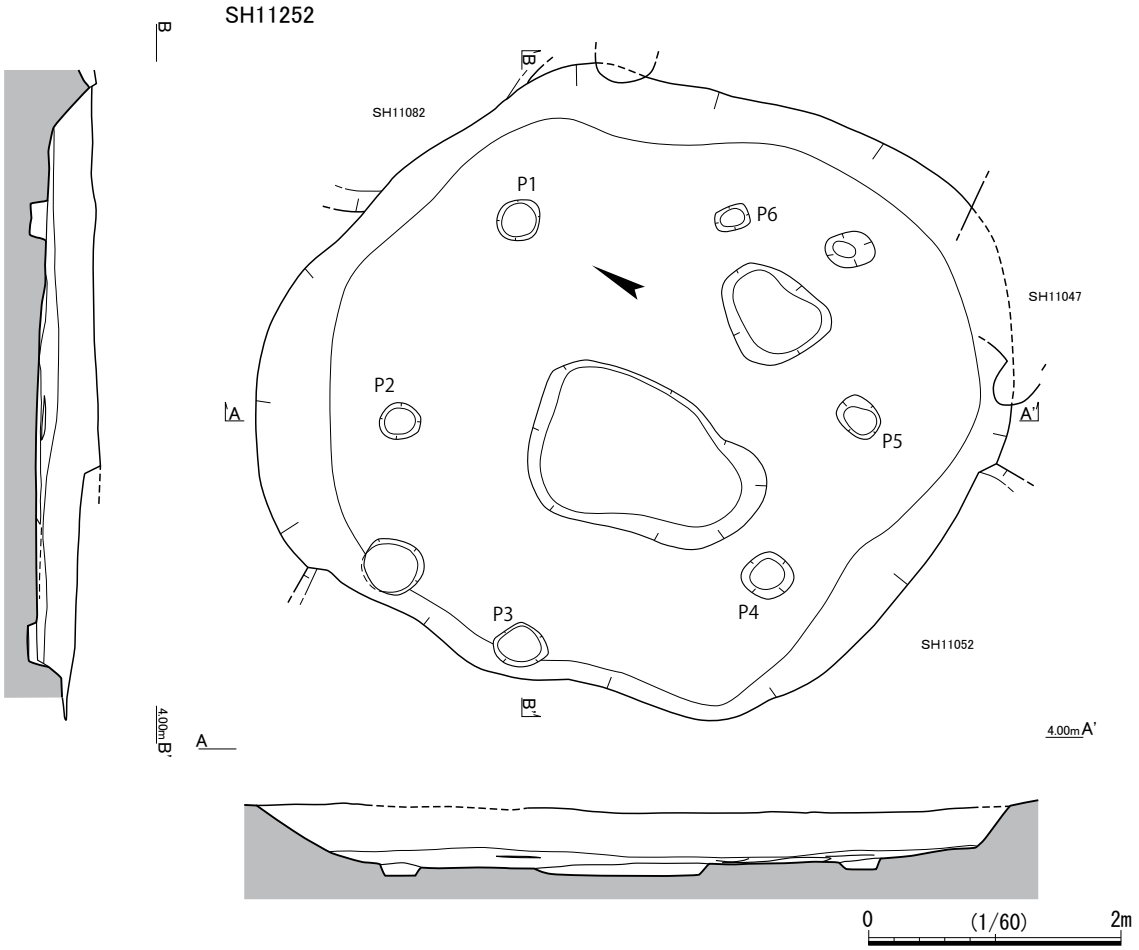


図 65　SH11231 竪穴住居跡（1/60）



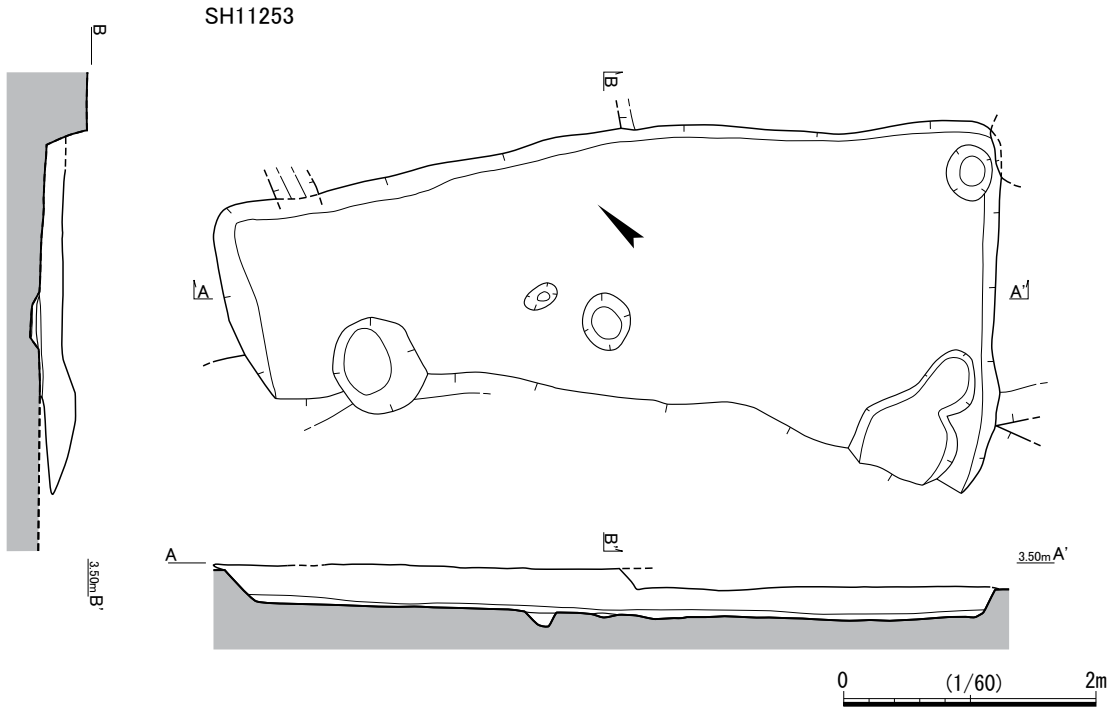


図 66　SH11252・11253 竪穴住居跡（1/60）

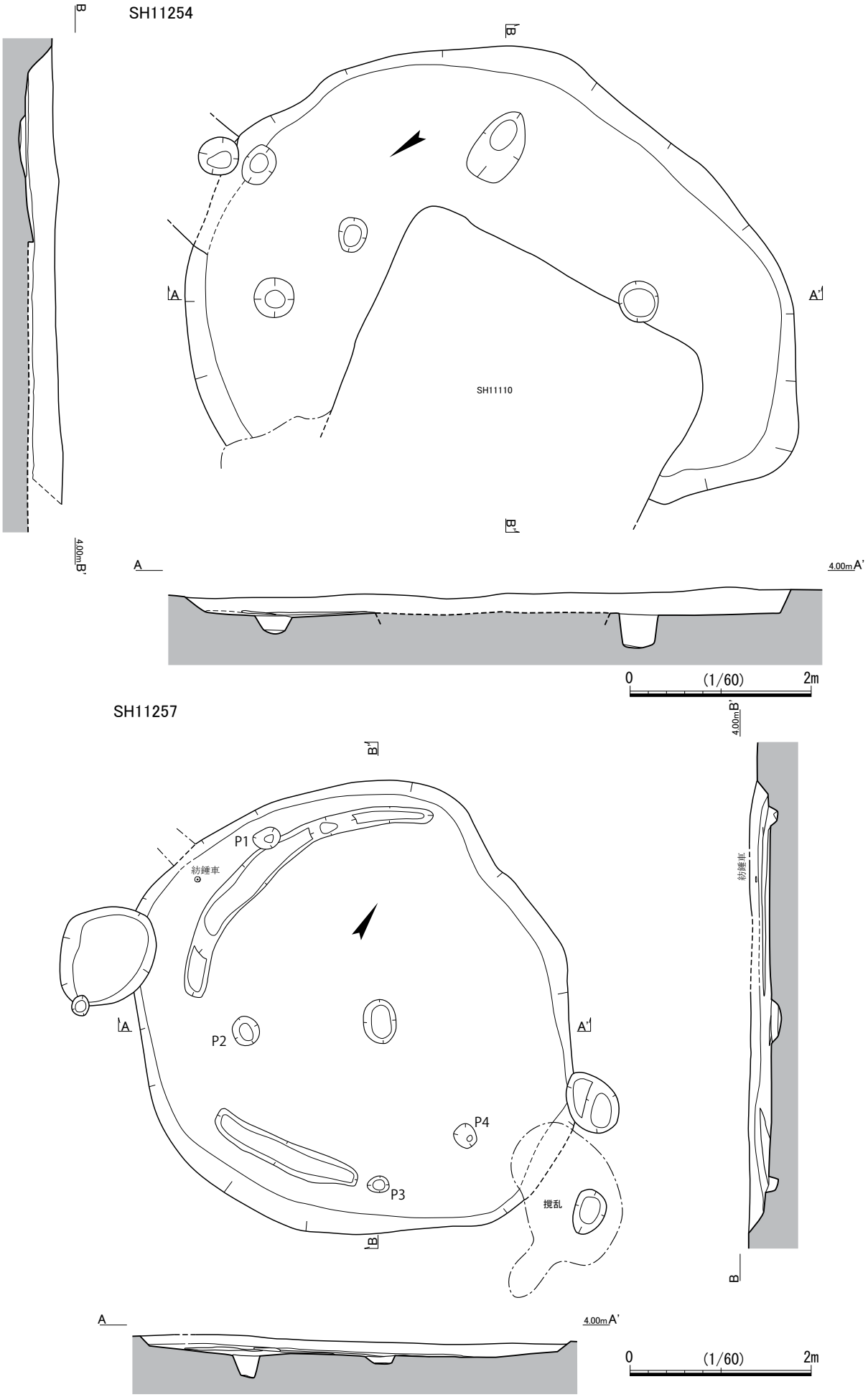


図 67　SH11254・11257 竪穴住居跡（1/60）

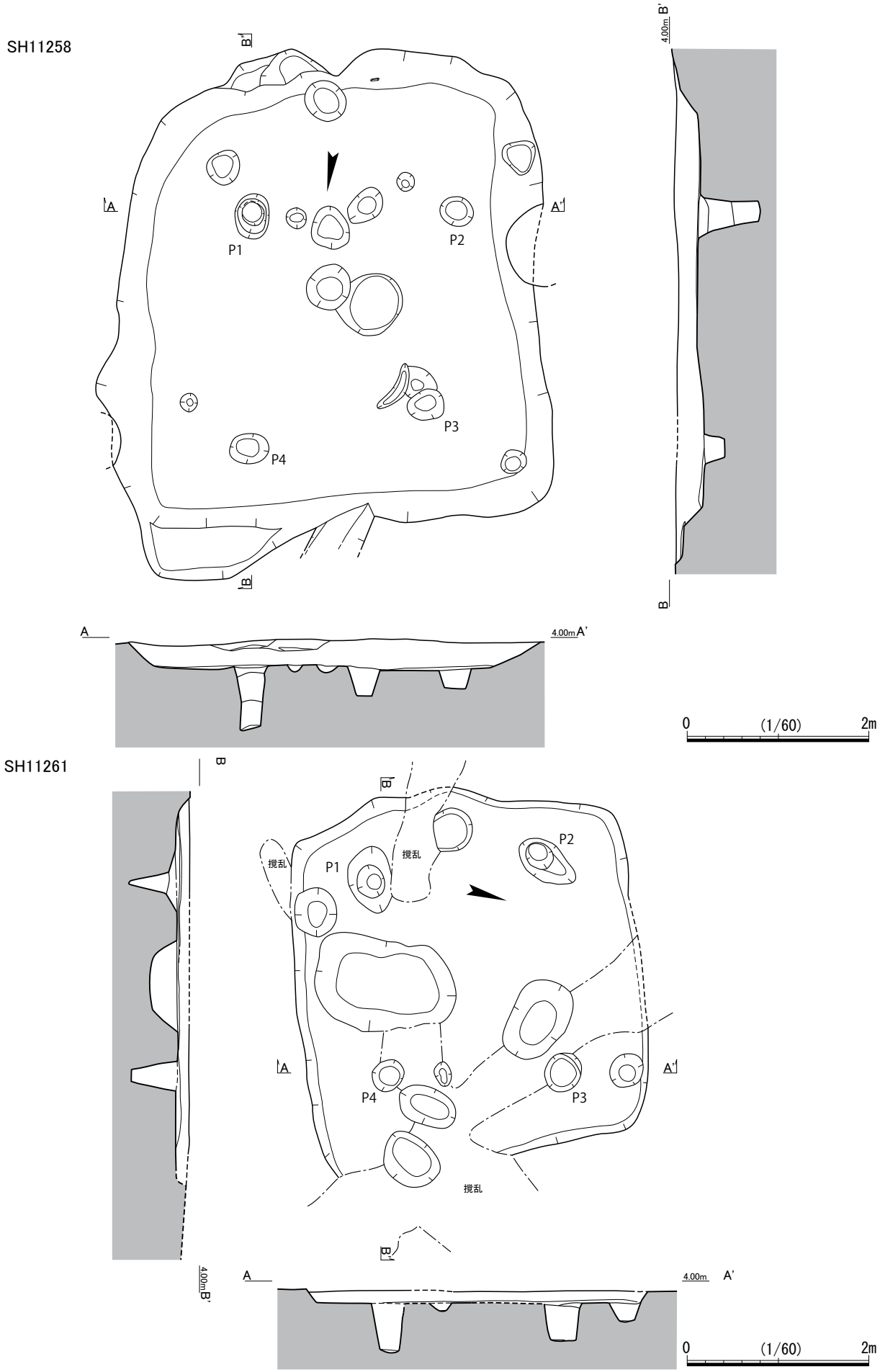


図 68　SH11258・11261 竪穴住居跡（1/60）

規模は、長軸は 5.18m、短軸は 4.62m、深さは 0.22m、床面積は約 23.93㎡を測る。壁の残存高は、約 0.3 mになる。平面形は方形で、円形の主柱穴が P1 ～ P4 まで有る。それぞれの距離は、P1 から P 2、P2 から P3 までそれぞれ 2.2 m、P3 から P4 は 2.0 m、P4 から P1 は 2.6 mになる。

遺物は古墳前期の布留式土器等の土師器、石斧が出土している。

ＳＨ１１２６１

W・X-39 区画に位置する遺構である。本遺構は SH11267 上に作られており、これを切る。また、北側は SB11102、東側には SH11219 がある。

規模は、南西側と東側を溝状の撹乱によって切られており、確認できる範囲では、長軸は 3.83m、短軸が 3.74m、深さは 0.15m、床面積は 14.32㎡を測り、壁の残存高は約 0.1 mになる。平面形は方形で、円形の主柱穴が P1 ～ P4 ある。それぞれの距離は、P1 から P2 が 1.8 m、P2 から P3 は 2.2 m、P3 から P4 は 2.0 m、P4 から P1 は 2.1 mになる遺構内の南側と北側に土坑が造られている。

遺物は古墳前期の布留式土器等の土師器が出土している。

ＳＨ１１２６２

Y-39 区画に位置する遺構で、調査区外によるため未調査部分がある。東側は SD11065 があり、南側まで続いていると思われる。

規模は、南側が調査区外のため未調査になっており、確認できる範囲では、長軸は（4.40）m、短軸は（1.80）m、深さは 0.07m、床面積 7.92㎡を測る。壁の残存高は約 0.05 m～ 0.1 mになる。平面形は方形と思われ、P1 の小穴は主柱穴になるか。

遺物は出土していない。

ＳＨ１１２６４

U-37・38 区画に位置する遺構である。東側は SH11189 に切られる。南側は SH11183、東側は SH11188 など、竪穴住居が集中する。

規模は、東側を確認できた範囲で、長軸は 5.67m、短軸は（5.25）m、深さは 0.19m、床面積約 23.40㎡を測り、壁の残存高は、約 0.2 m～ 0.3 mになる。平面形は円形で、小穴は見つかっているが、主柱穴と見られる小穴は不明瞭。

遺物は須玖Ⅰ式の弥生土器、石包丁、砥石が出土している。

ＳＨ１１２６７

W・X-39 区画に位置する遺構である。本遺構上に SH11261 が造られており、切られる。また、北側は SB11102、東側には SH11219 がある。

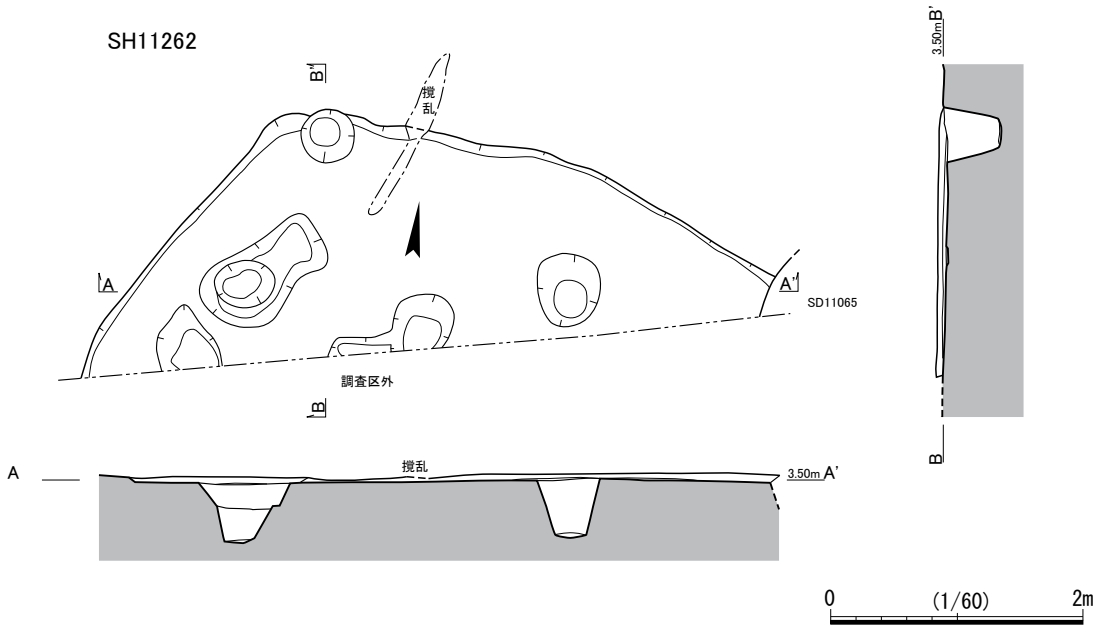
規模は、北側、北西側、南西側に溝状の撹乱によって切られ、確認できる範囲では、長軸は 6.29m、短軸は 6.18m、深さは 0.12m、床面積は約 38.87㎡を測る。壁の残存高は約 0.05 mになる。平面形は隅丸方形と思われ、小穴は見つかっているが、主柱穴と見られる小穴は不明瞭。

遺物は須玖Ⅰ式から須玖Ⅱ式にかけての弥生土器が出土している。

ＳＨ１１２７６

S・T-35・36 区画に位置する遺構である。北西側は SH11096、南側は SH11133 がある。

規模は、北西側を溝状の撹乱によって切られ、南東側も壁が一部撹乱によって切られ、確認できる範囲では、長軸は（3.83）m、短軸は 3.52m、深さは 0.19m、床面積は約 10.63㎡を測る。壁の残存高は、約 0.1 mになる。平面形は方形で、円形の主柱穴が P1 ～ P4 まである。それぞれの距離は、P1 から P2 が 1.5 m、P2 から P3 は 1.8 m、P3 から P4 は 1.3 m、P4 から P1 は 1.8 mになる。



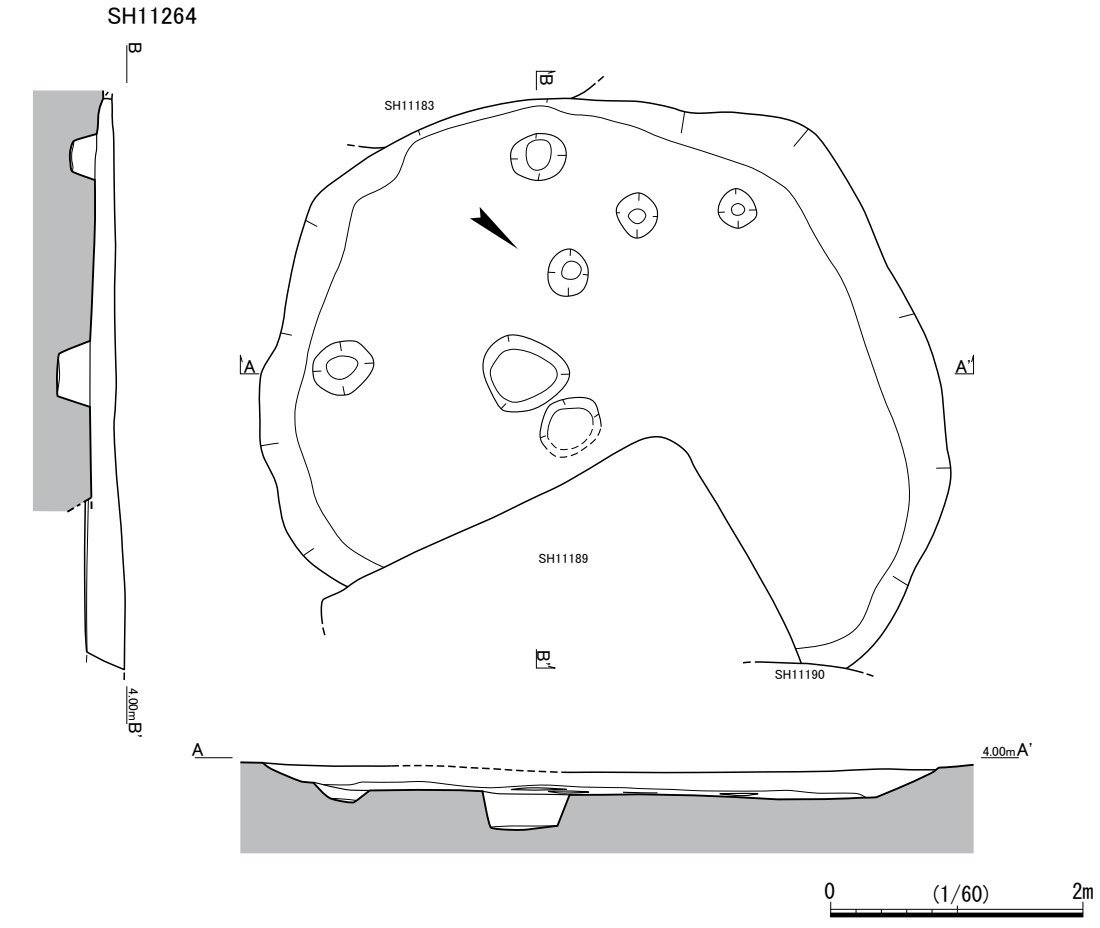


図 69　SH11262・11264 竪穴住居跡（1/60）

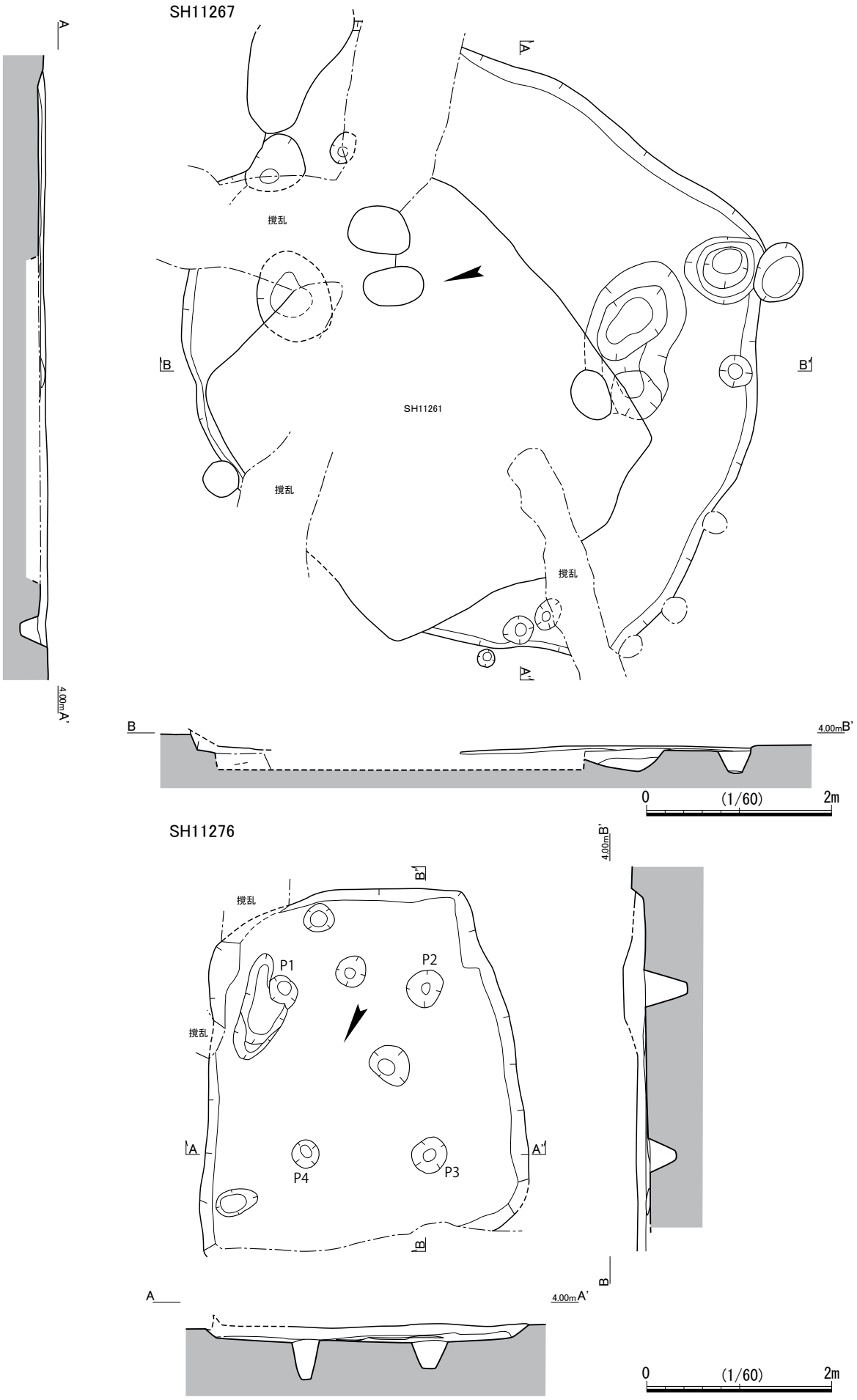


図 70　SH11267・11276 竪穴住居跡（1/60）

遺物は土師器が出土している。

ＳＨ１１２７９

U-41 区画に位置する遺構である。西側は SH13086、東側には ST11141 がある。

規模は、北側、東側を土坑の撹乱によって切られ、確認できる範囲では、長軸は 4.91m、短軸は（3.88）m、深さは 0.33m、床面積 19 .05 ㎡を測る。壁の残存高は約 0.2 m～ 0.3 mになる平面形は方形と思われ、小穴は見つかっているが、主柱穴と思われる小穴は不明瞭。ベッド状遺構が造られており、西側からは焼土が出土している。

遺物は須玖Ⅰ式、須玖２式の弥生土器、古墳前期の布留式土器が出土している。

ＳＨ１１２９１

T-40 区画に位置する遺構である。遺構上に ST11141 が造られる。北東側を ST11141 の土坑に切られる。東側は SH11293、さらに東側には SH11068、SH11293 がある。

規模は、北側を ST11141 に切られ、東側を SH11293 に壁を一部切られ、長軸は 5.34m、短軸は 3.64m、深さは 0.50m、床面積は約 19.44㎡を測る。壁の立ち上がりは緩く造られている。平面形は方形で、円形の主柱穴と思われる小穴が P1 ～ P4 まである。それぞれの距離は、P1 から P2 が 1.6m、P2 から P3 は 1.5 m、P3 から P4 は 1.8 m、P4 から P1 は 1.6 mになる。

遺物は弥生土器、土師器が北東側より集中して出土している。

ＳＨ１１２９３

Ｔ -40 区画に位置する遺構である。遺構上に ST11141 が造られており、北東側を ST11141 の土坑に切られている。西側は SH11291、東側には SH11068、SH11069 がある。

規模は、北側を ST11141 に切られ、長軸は 3.82m、短軸は（2.25）m、深さは 0.42m、床面積は約 7.16 ㎡を測る。壁の残存高は約 0.4 mになる。平面形は円形で、小穴は見つかっているが、主柱穴と思われる小穴は不鮮明。

遺物は須玖Ⅰ式の弥生土器が出土している。

ＳＨ１２０２７

O・P-41・42 区画に位置する遺構である。東側は SH12028 に切られる。北西側から東側にかけて溝上の撹乱に切られる。

規模は確認できる範囲で、長軸は 7.23m、短軸は 4.50m、深さは 0.39m、床面積は 32.54㎡を測る。壁の残存高は約 0.2 mになる。平面形は長方形で、主柱穴は P1 ～ P4 と思われる。P 1 ～ P4 のそれぞれの距離は、P1 から P2 は 4.0 m、P2 から P3 は 2.6 m、P3 から P4 は 4.0 m、P4 から P1 は 2.6 m となる。遺構中央とやや南側には土坑が見られる。

遺物は多数の弥生土器、石器、鉄器が出土している。

ＳＨ１２０２８

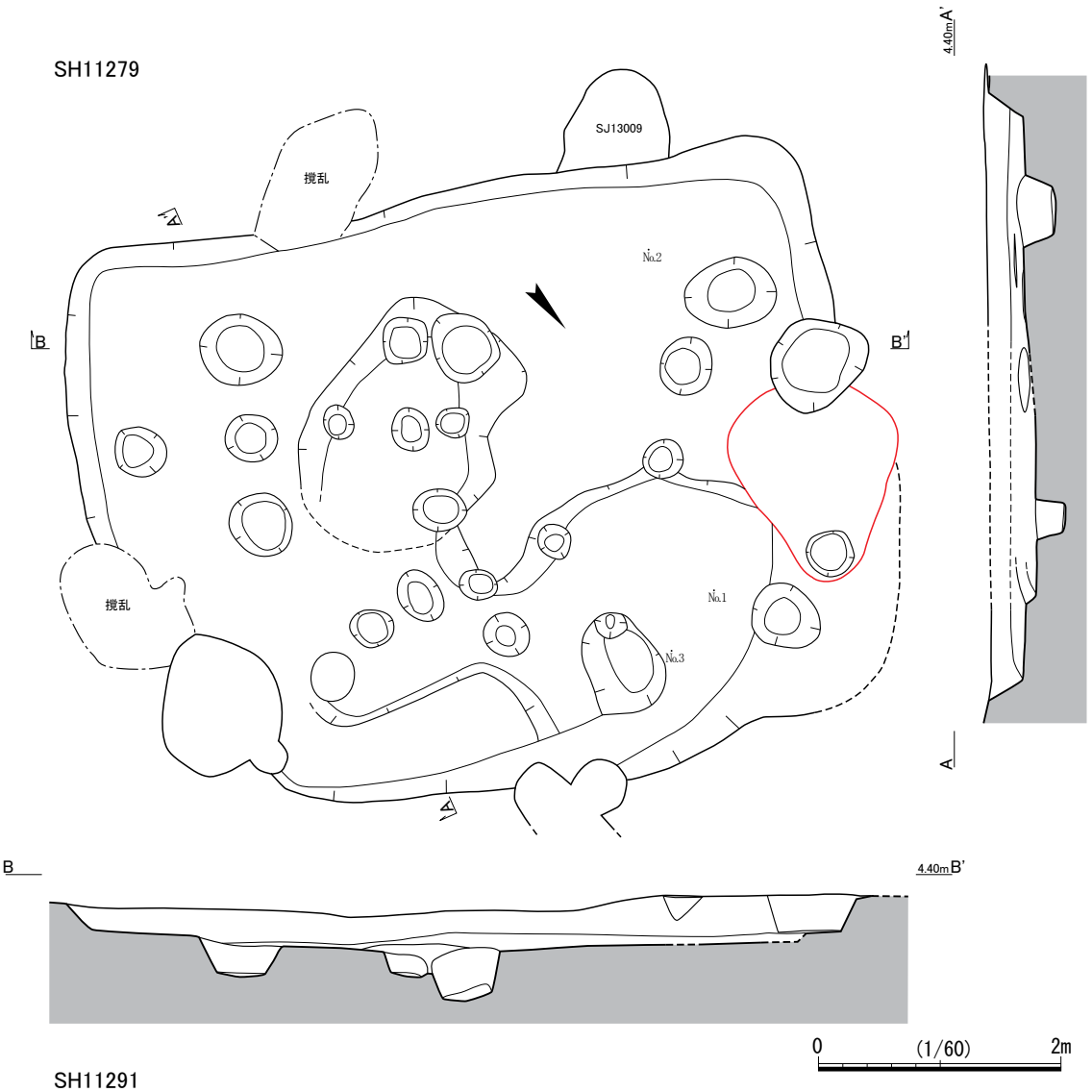
O・P-40 区画に位置する遺構である。東側は ST12032 に切られる。

規模は確認できる範囲で、長軸は（5.81）m、短軸は（5.40）m、深さは 0.48m、床面積は約 31.37 ㎡を測る。壁の残存高は、約 0.1 m～ 0.15 mとなっている。平面形は方形と思われ、主柱穴は P1 ～ P3 と思われる。P1 ～ P3 のそれぞれの距離は、P1 から P2 は 4.4 m、P1 から P3 は 4.8 mとなる。

遺物は弥生土器、鉄器、砥石が出土している。

ＳＨ１２０３５

O・P -42 区画に位置する遺構である。北側は SX12065 に切られる。本遺構上の東側に ST12032 が



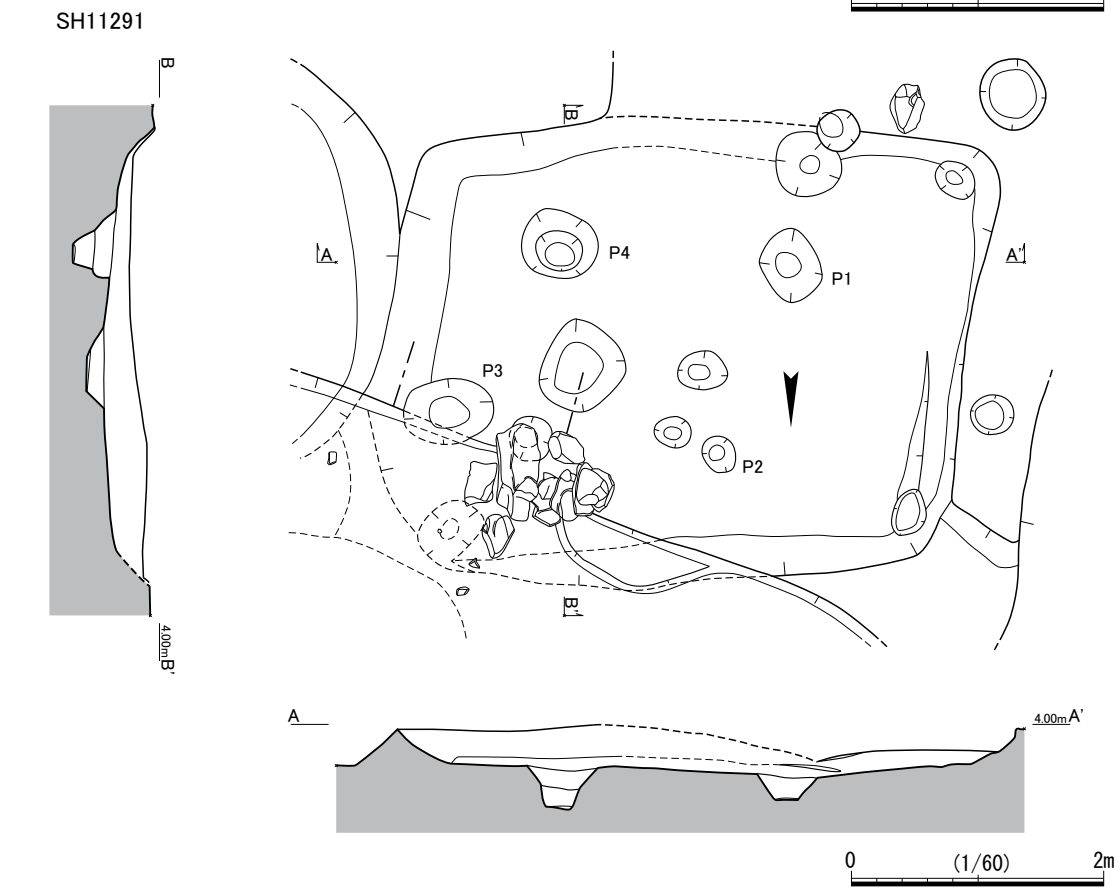


図 71　SH11279・11291 竪穴住居跡（1/60）

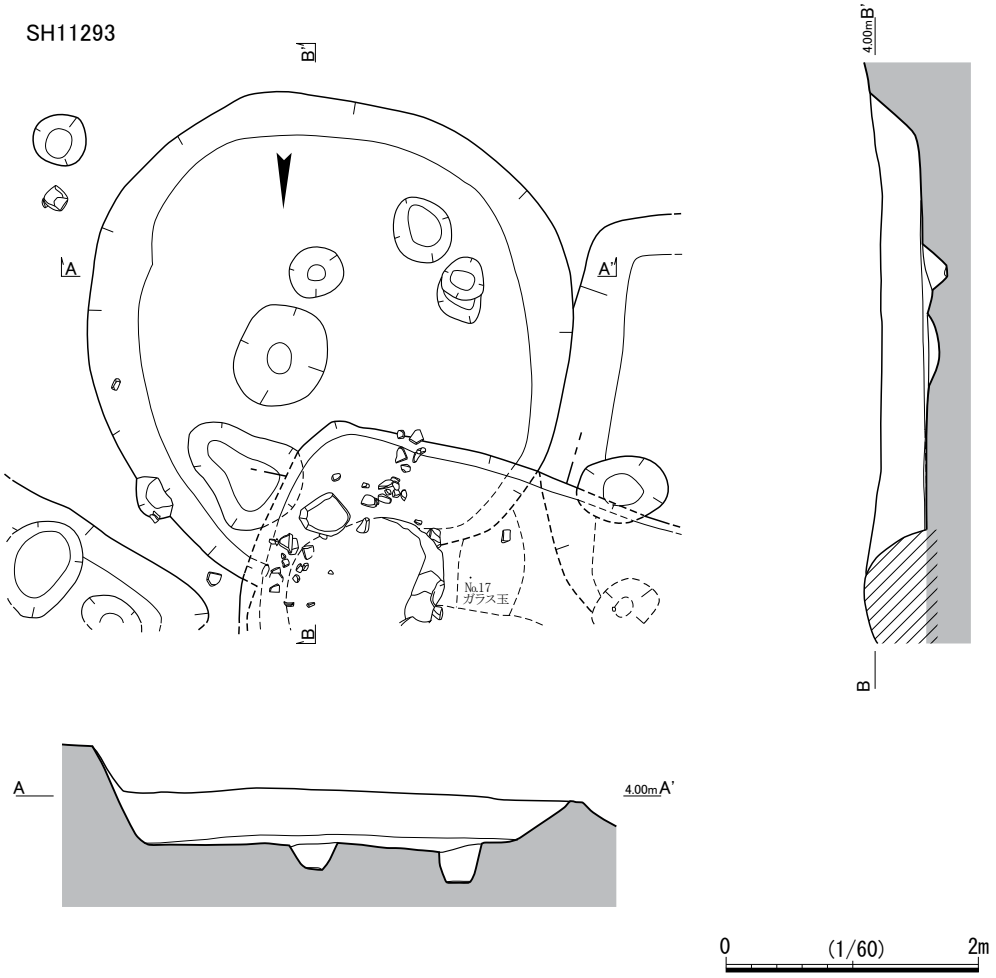


図 72　SH11293 竪穴住居跡（1/60）

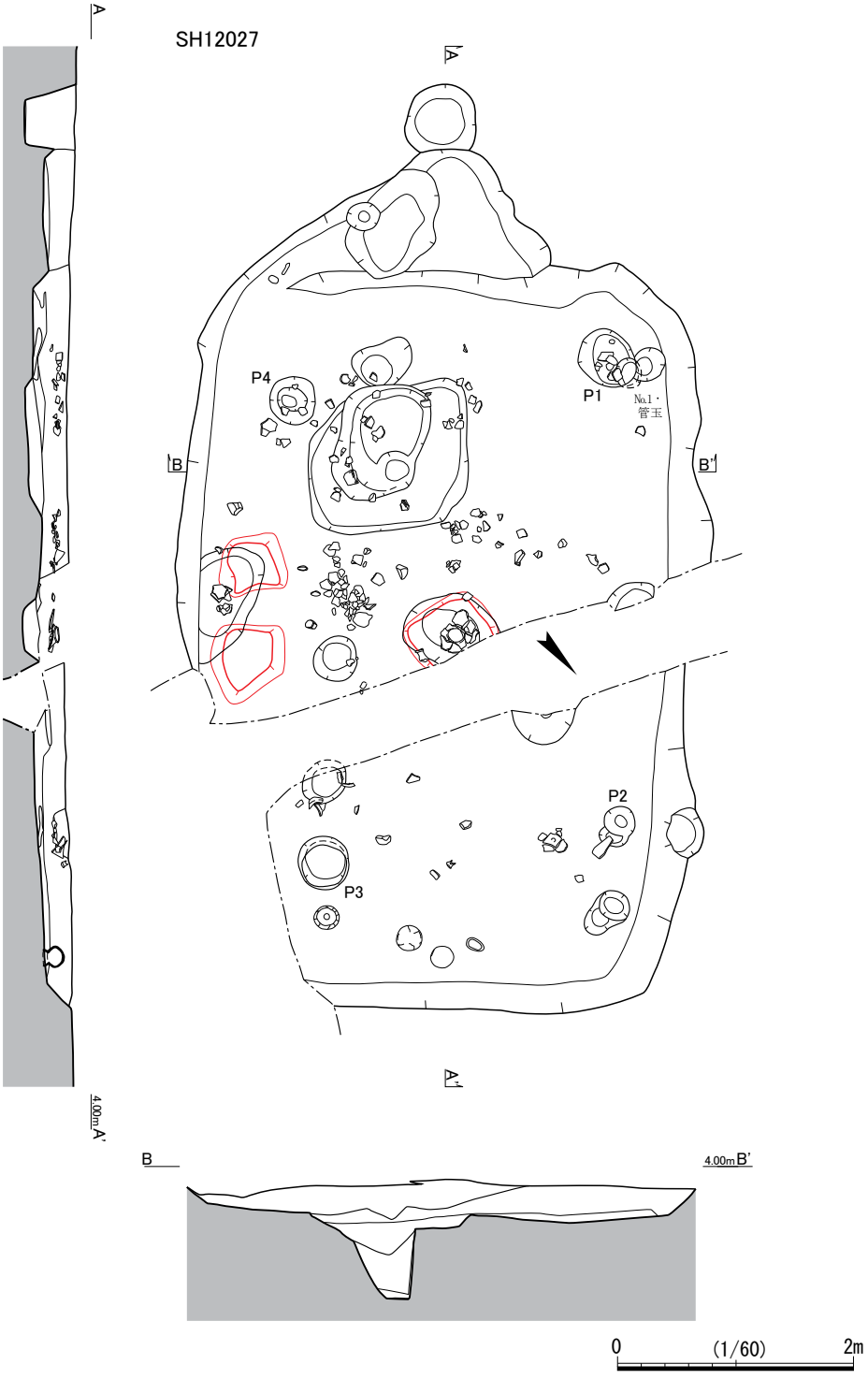


図 73　SH12027 竪穴住居跡（1/60）

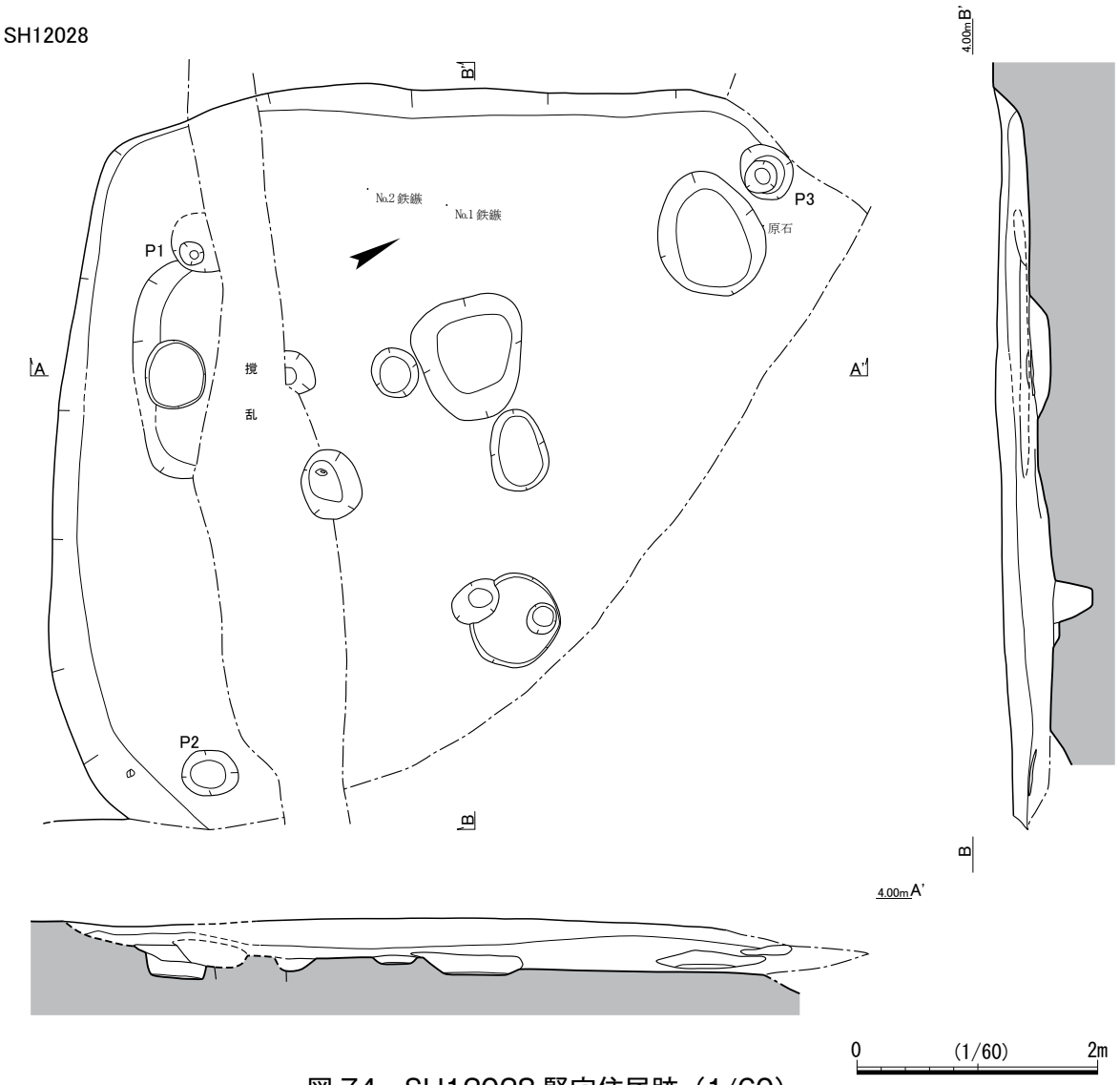


図 74　SH12028 竪穴住居跡（1/60）

作られる。

規模は確認できる範囲で、長軸は 5.78m、短軸は 5.76m、深さは 0.36m、床面積は約 33.29㎡を測る。壁の残存高は約 0.1 m～ 0.2 mとなっている。平面形は方形か長方形になると思われ、主柱穴は 7 穴確認できた。

遺物は、中央から南側にかけて弥生土器、土師器が集中して出土し、その他に砥石、鋤先が出土している。

ＳＨ１２０３６

O-41 区画に位置する遺構である。西側は SD12026 に切られる。東側は SH12041、南東側には SH12027 がある。

規模は確認できる範囲で、長軸は 6.86m、短軸は（3.12）m、深さは 0.18m、床面積は約 21.40㎡を測る。壁の残存高は約 0.01 ～ 0.15 mになる。平面形は長方形と思われ、主柱穴となる小穴は不明瞭。

遺物は、弥生土器、土師器、鉄器が出土している。

ＳＨ１２０４１

O-40・41 区画に位置する。北側は ST12032 に切られる。東側は SH12028、南側は SH12027、西側には SH12036 がある。

規模は確認できる範囲で、長軸は 6.52m、短軸は（2.81）m、深さは 0.28m、床面積は約 18.32㎡を測る。壁の残存高は約 0.1 mとなっている。平面形は正方形か長方形で、小穴は見つかっているが、主柱穴と思われる小穴は不明瞭。

遺物は弥生土器、鉄器が出土している。

ＳＨ１２０４３

O -39・40 区画に位置する。東側をトレンチに切られ、周辺を SX12081 に囲まれる。

規模は確認できる範囲で、長軸は（7.28）m、短軸は 4.82m、深さは 0.20m、床面積は約 35.09㎡を測る。壁の残存高は約 0.1 m～ 0.2 mになる。平面形は方形か長方形とみられ、主柱穴と思われる小穴は不明瞭。

遺物は弥生土器、石器、鉄器、砥石が出土している。

ＳＨ１２０５２

Q・R -40 区画に位置する。南西側は SH12067、SH12068、南側には SH12053 がある。

遺構東側には溝状の撹乱があり、遺構上にも土坑状の撹乱が北側から東側にかけて 4 箇所見られ、確認できる遺構の規模は、長軸は 5.40m、短軸は 5.10m、深さは 0.14m、床面積は約 27.54㎡を測る。壁の残存高は、0.1 m以下となっている。平面形は方形と思われ、主柱穴と思われる小穴は不明瞭。

遺物は須玖Ⅱ式の弥生土器が出土している。

ＳＨ１２０５３

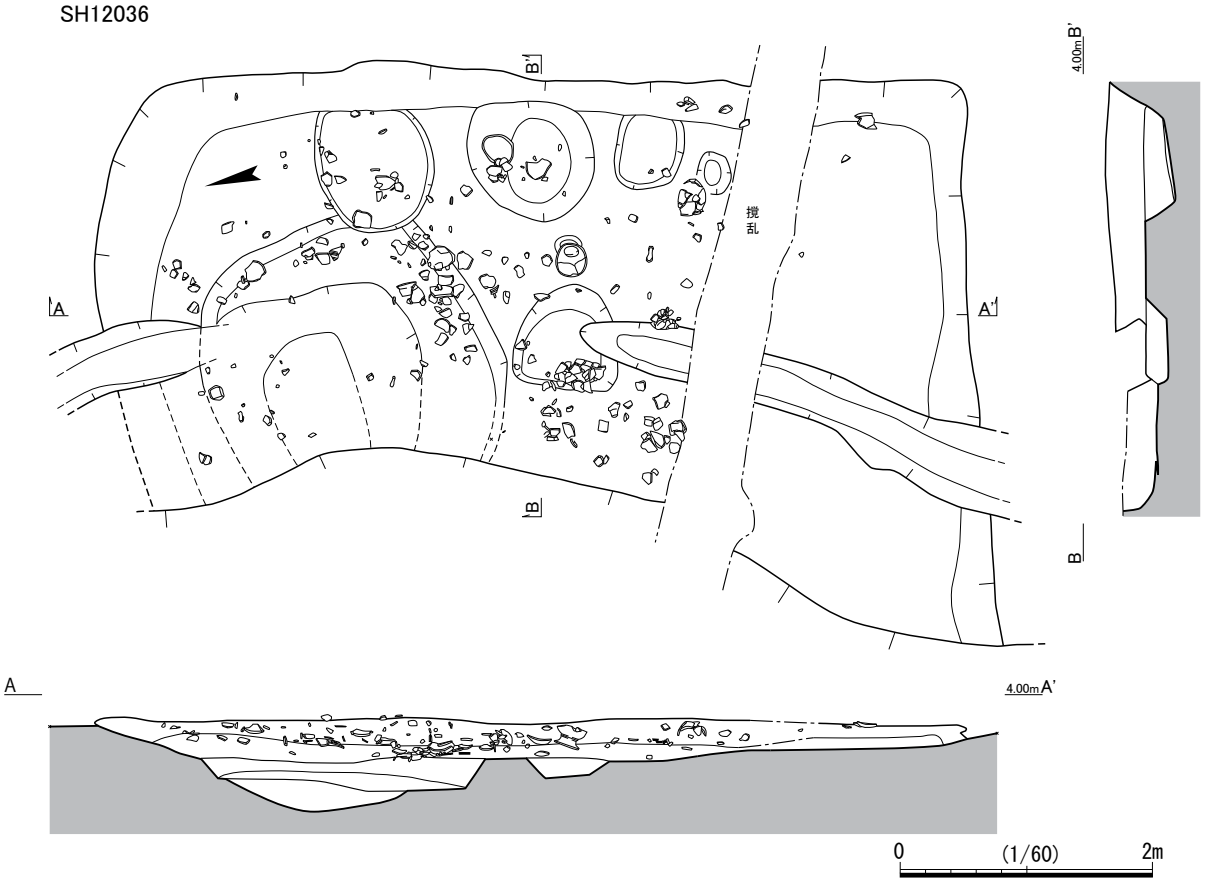
R・S-40・41 区画に位置する。西側は SH12068、北西側は SH12067、北側には SH12052 がある。遺構上は、土坑状の撹乱が多く、遺構の規模は確認できる範囲で、長軸は 4.65m、短軸は 3.98m、深さは 0.14m、床面積は 18.05㎡を測る。壁の残存高は、約 0.05 m～ 0.1 mになる。平面形は方形と思われ、撹乱により残り具合が悪く、主柱穴等は不明瞭ながら、西側には焼土が見つかっている。

遺物は弥生土器が出土している。

ＳＨ１２０６７

Q・R-41 区画に位置する。東側は SX12048 の周溝に、南西側は SH12068 に切られる。南東側は

図 75　SH12035 竪穴住居跡（1/60）



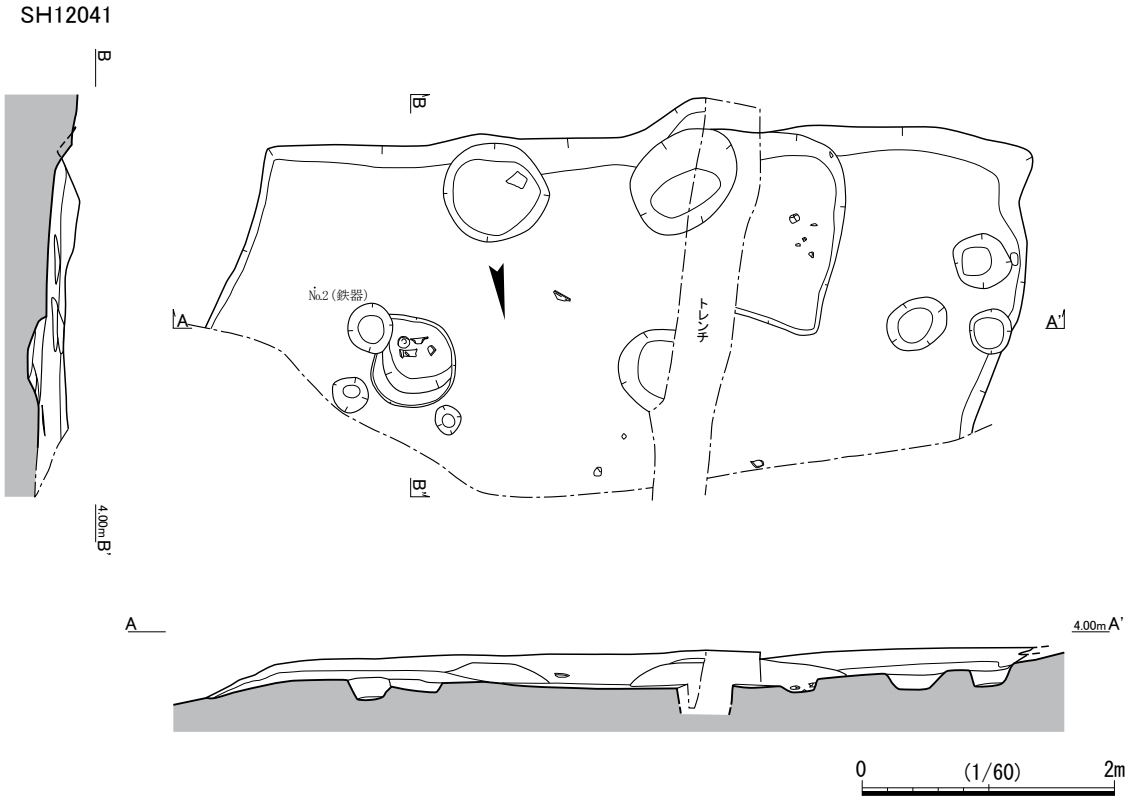


図 76　SH12036・12041 竪穴住居跡（1/60）

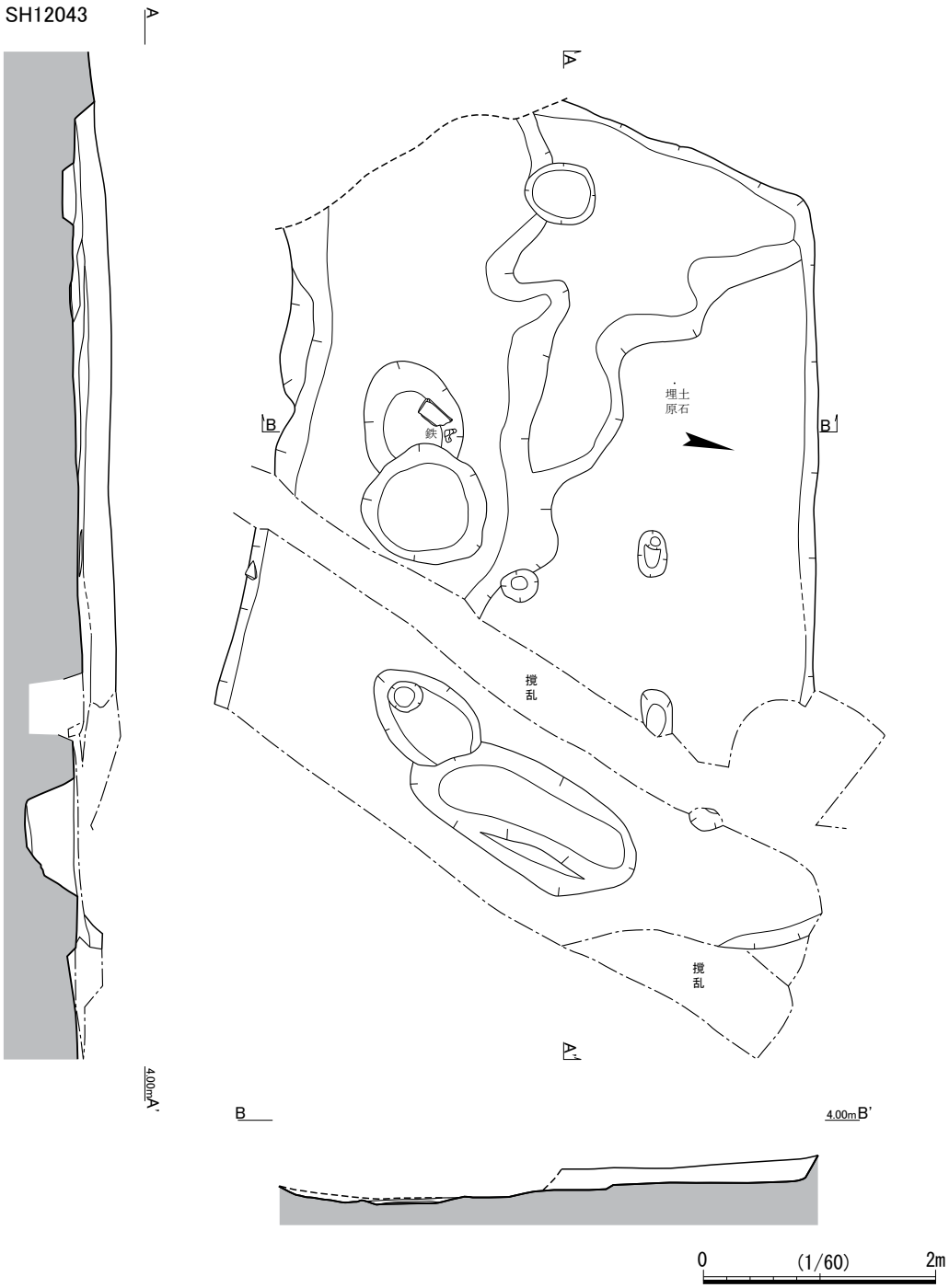


図 77　SH12043 竪穴住居跡（1/60）

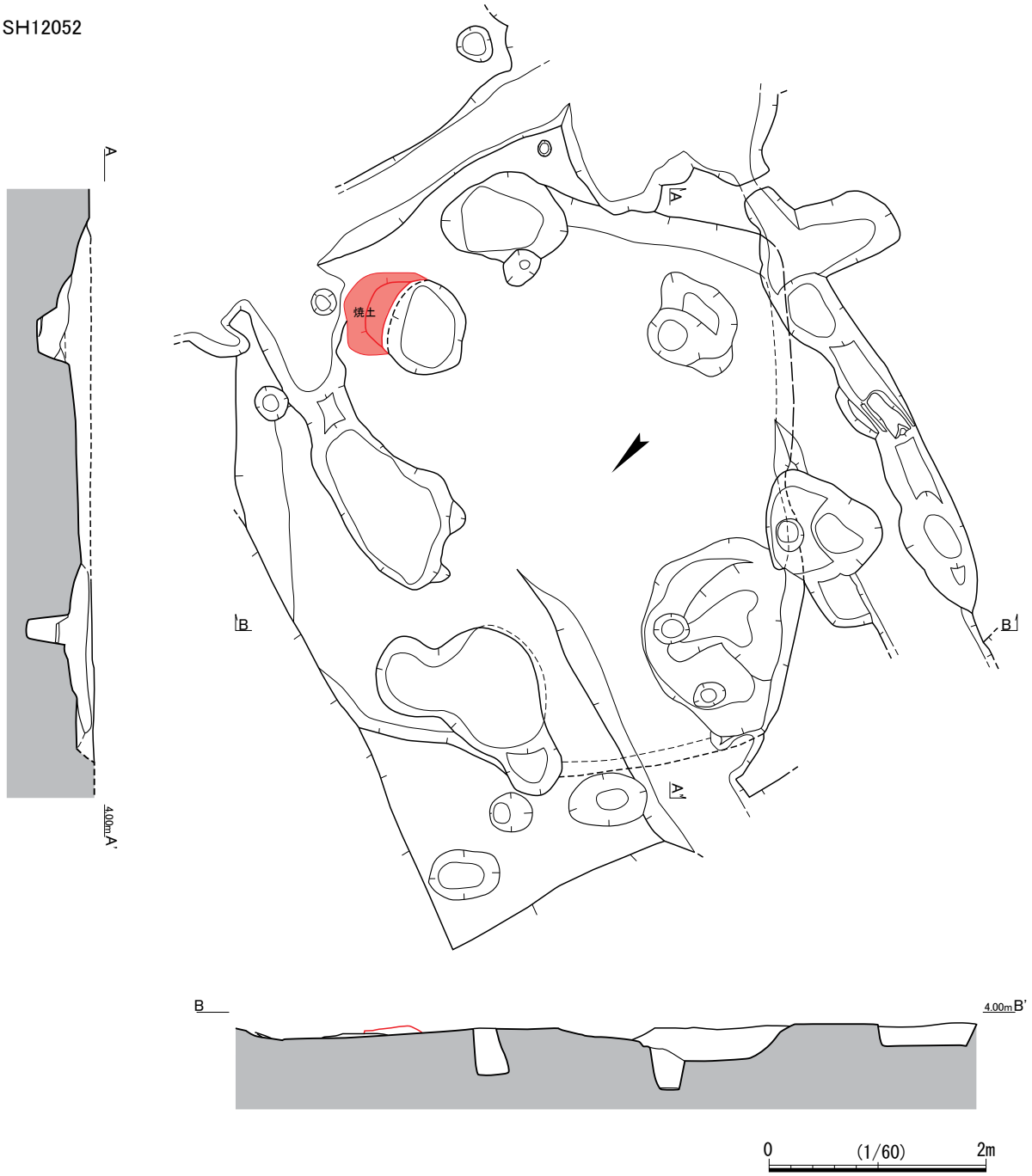
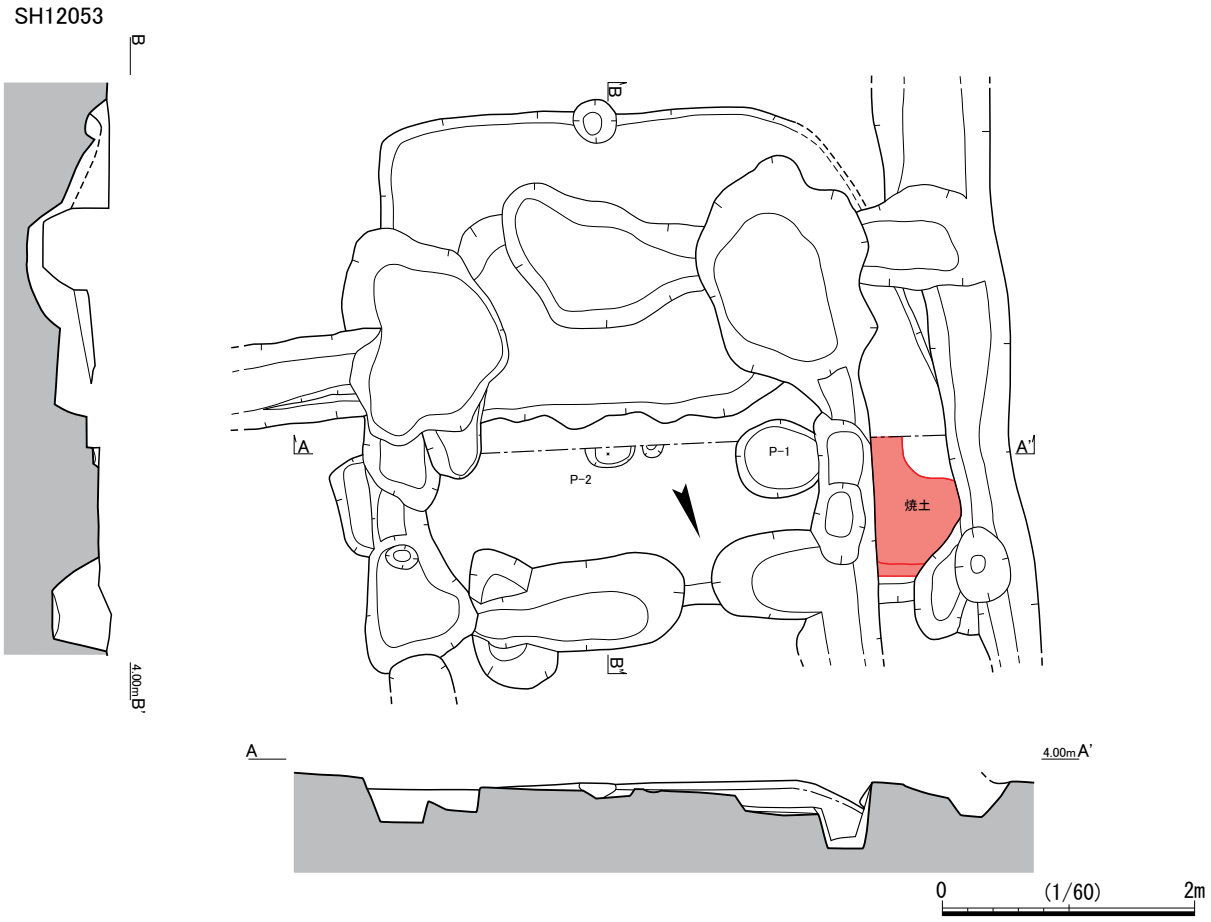


図 78　SH12052 竪穴住居跡（1/60）



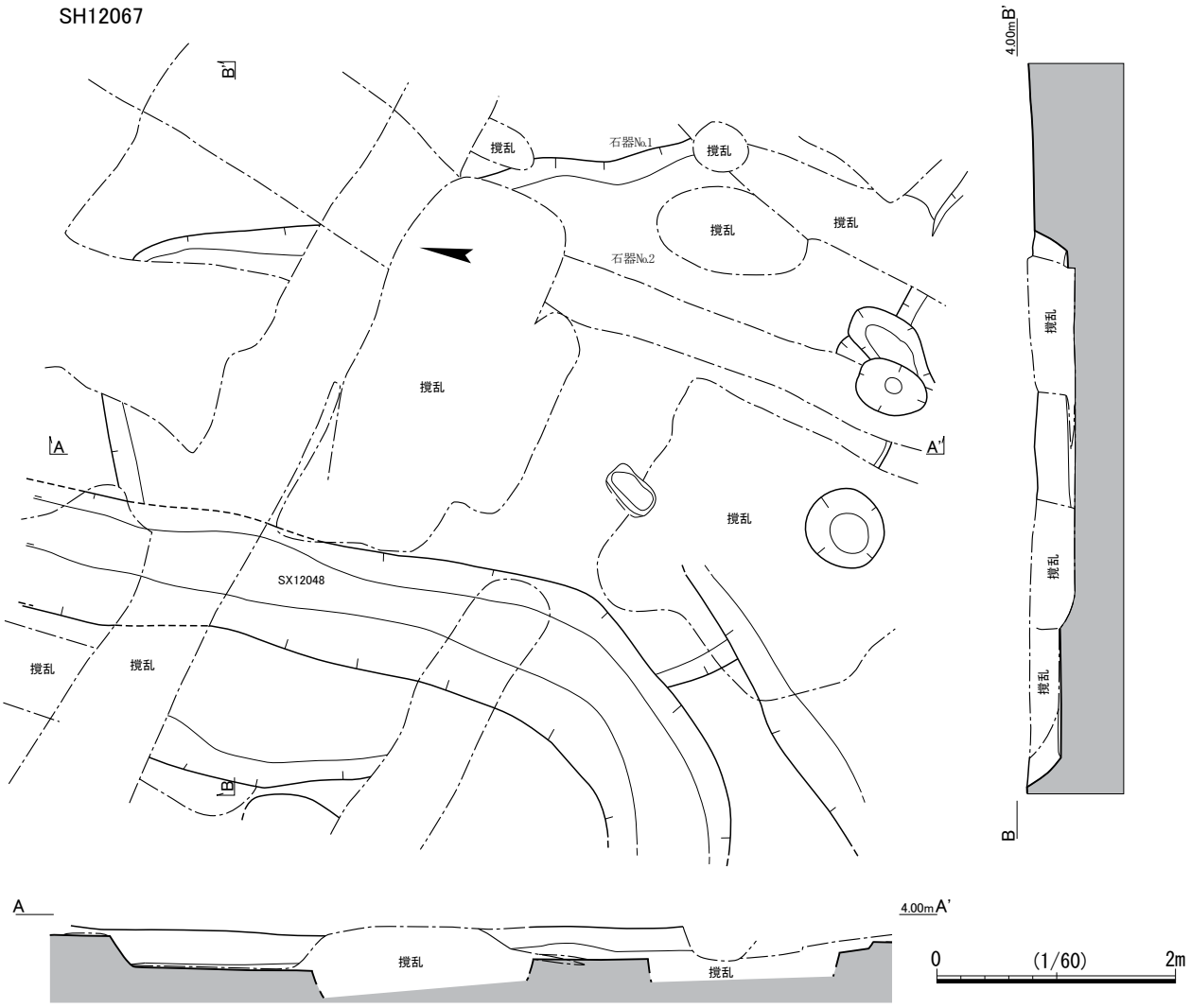


図 79　SH12053・12067 竪穴住居跡（1/60）

SH12053、東側には SH12052 がある。

遺構のほぼ全域を撹乱によって壊されている。遺構の確認できる範囲は推定で、長軸は 6.42m、短軸は 4.50m、深さは 0.26㎝、床面積は約 28.89㎡を測る。壁の残存高は約 0.15 m～ 0.2 mになる。平面形は長方形になると思われ、撹乱により遺構の内容については不明瞭。

遺物は弥生土器、土師器、鉄器が出土している。

ＳＨ１２０６８

R・S-41 区画に位置する。北側は SH12067 を切る。北西側は SX12055、南側は SX12057、東側には SH12053 がある。

北側から東側を除いて、他は撹乱などにより、切られている。よって、規模は推定で、長軸は（3.90）m、短軸は（3.14）m、深さは 0.15m、床面積は約 12.25㎡を測る。壁の残存高は、約 0.2 mになる。平面形は方形か長方形と思われ、遺構に伴う施設は不明瞭。

遺物は土師器、須恵器が出土している。

ＳＨ１３０８６

U -42 区画に遺構である。13 区の東側に位置する。南西側は SK13045 に切らる。東側では SH11279 が隣接する。

規模は、撹乱によって一部切られているが、確認できる範囲では、長軸は（4.10）m、短軸は 4.02m、深さは 0.18m、床面積は約 16.48㎡を測る。壁の残存高は約 0.05 m～ 0.1 mになっている。平面形は方形で、主柱穴と見られる小穴は不明瞭。西側に竈が造られている。

遺物は、弥生土器が出土している。

ＳＨ１３１１５

U -43・44 区画に位置する。13 区の東側に位置する。北西側には SH13216 がある。

規模は、長軸は 5.64m、短軸は 4.60m、深さは 0.30m、床面積は約 19.44㎡を測る。平面形は方形で、主柱穴が P1 ～ P4 まであり、P1 から P 2 までは 2.4 m、P2 から P3 までは 2.0m、P3 から P4 までは 2.4 m、P4 から P1 までは 1.8 mとなっている。北側には土坑が造られている。

遺物は、弥生土器、土師器、鉄製品が出土している。

ＳＨ１３１５４

U -44・45 区画に位置する。13 区の中央付近に位置する。

規模は、長軸は 4.61m、短軸は（3.90）m、深さは 0.32m、床面積は約 17.98㎡を測る。平面形は方形と思われ、主柱穴が P1 ～ P4 まであり、P1 から P2 は 2.2 m、P2 から P3 は 2.0m、P3 から P4 は 2.0m、P4 から P1 は 2.0m となっている。

遺物は土師器が出土している。

ＳＨ１３１５７

T -43 区画に位置する。13 区の中央付近に位置する。南西側は SJ13220 に切られる。

規模は北側、東側を撹乱により切られているが、確認できる範囲で、長軸は 4.70m、短軸は 4.08m、深さは 0.30m、床面積は 19.18㎡を測る。壁の残存高は約 0.1 m～ 0.2 mになる。平面形は方形で、主柱穴と見られる小穴は不明瞭。

遺物は、弥生土器、土師器、鉄製品が出土している。

ＳＨ１３１５８

S -44 区画に位置する遺構である。13 区の北側に位置する。北側は唐津市 1 号周溝墓、北西側には

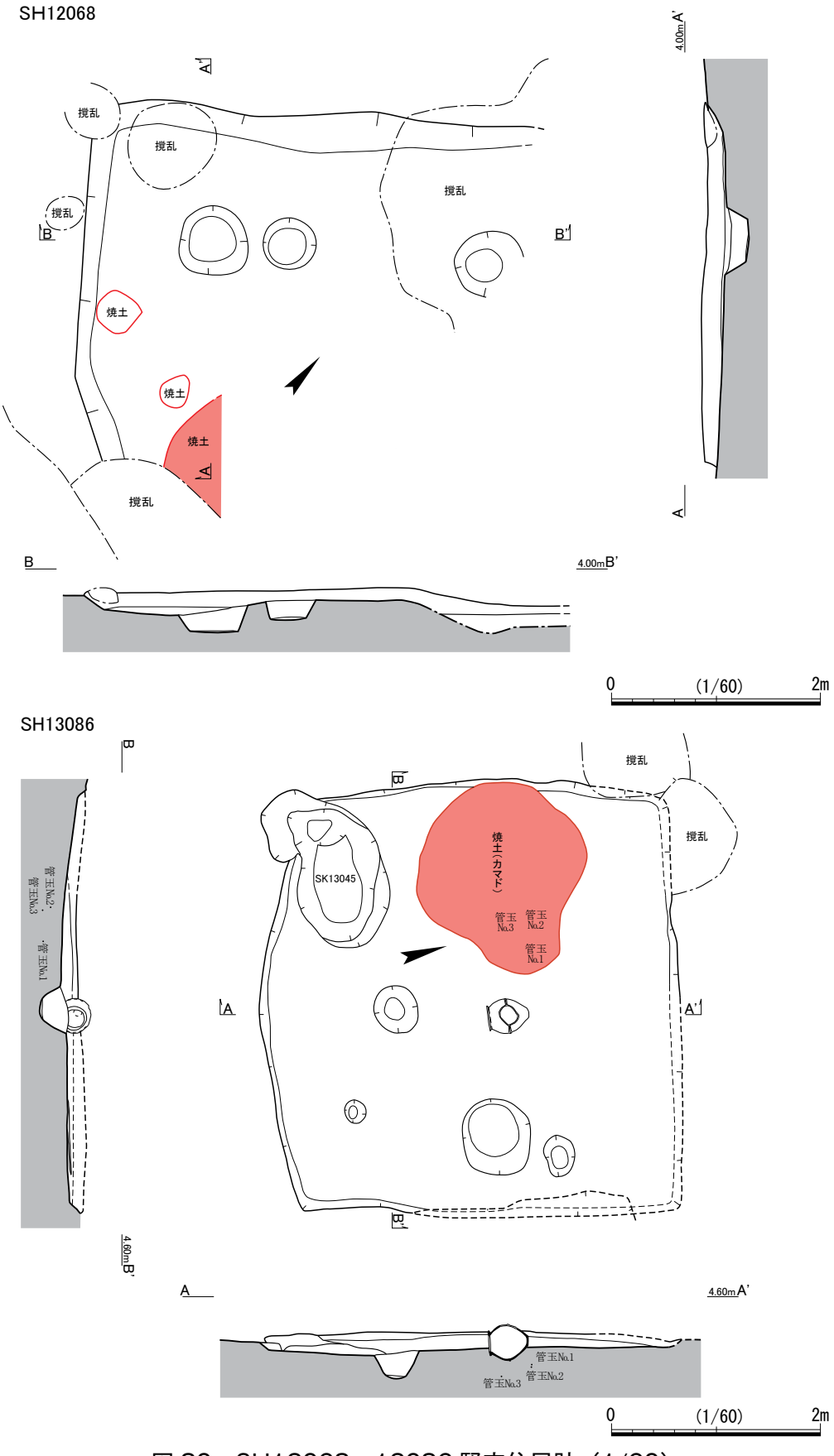


図 80　SH12068・13086 竪穴住居跡（1/60）

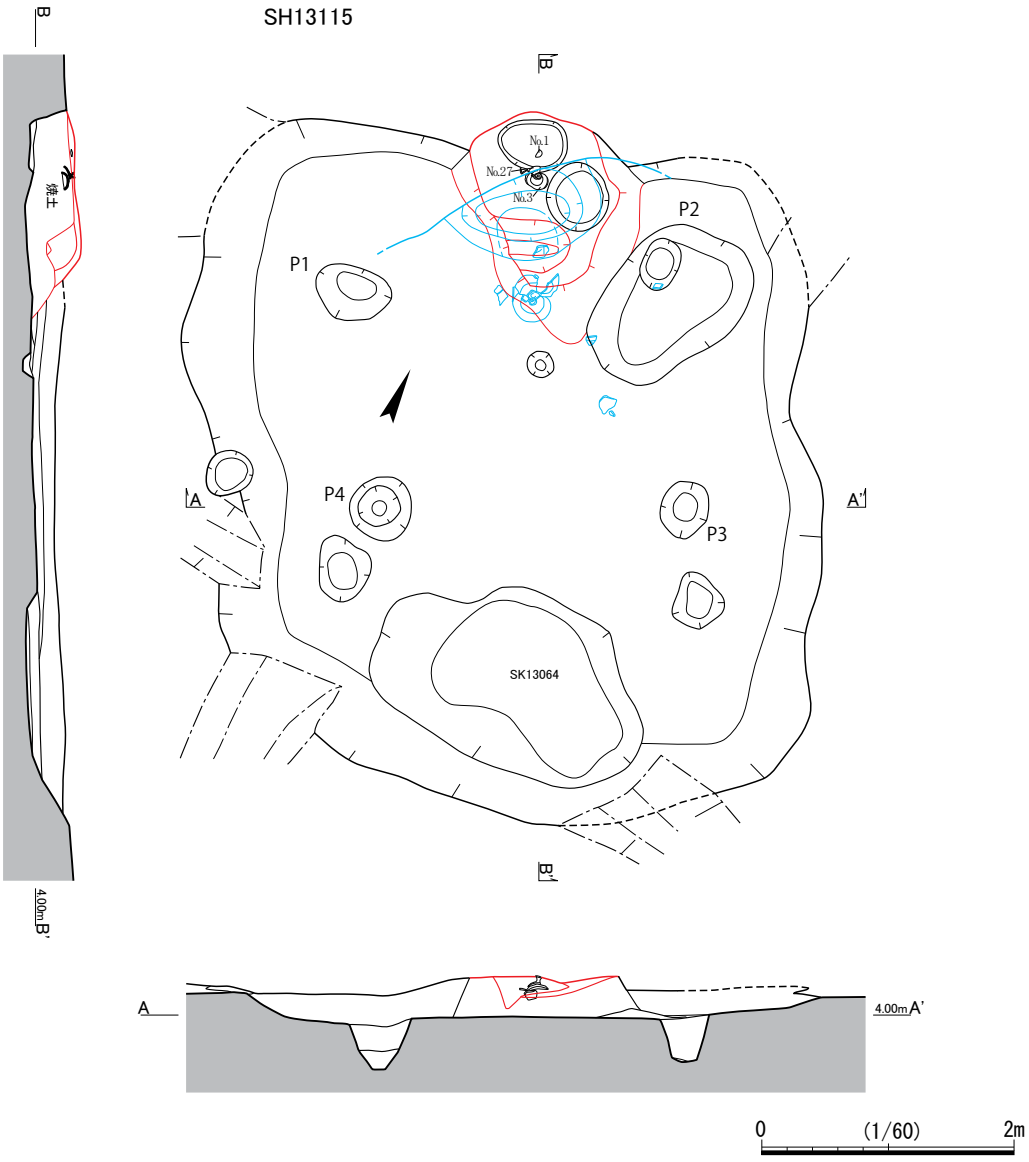


図 81　SH13115 竪穴住居跡（1/60）

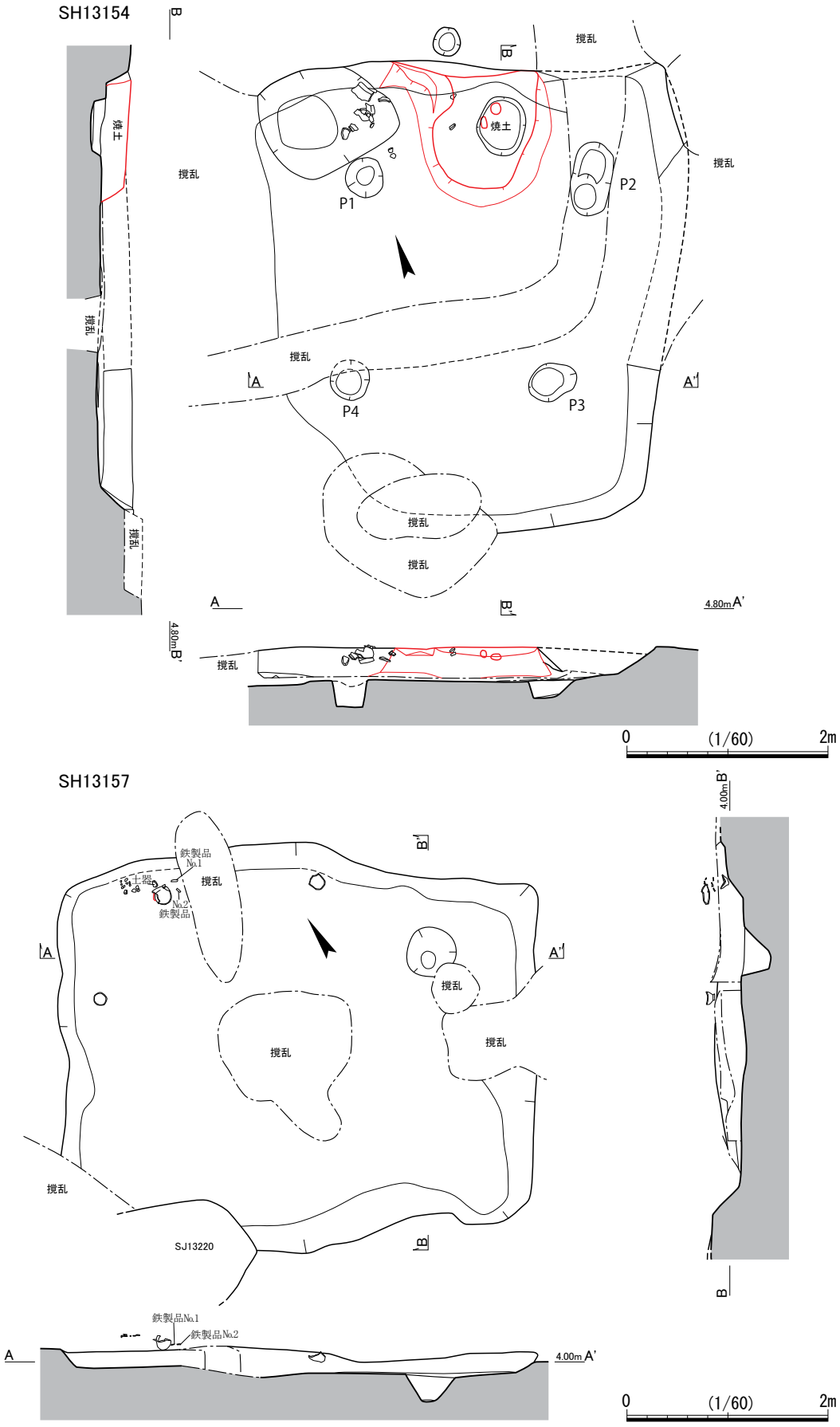


図 82　SH13154・13157 竪穴住居跡（1/60）

唐津市３号周溝墓がある。

規模は、長軸は（3.50）m、短軸は（3.30）m、深さは 0.34m、床面積は 11.55㎡を測る。壁の残存高は約 0.15 mになる。平面形は方形で、主柱穴が P1 ～ 4 まであり、P1 ～ P2 の距離は 1.5 m、P2 ～ P3 は 1.7 m、P3 ～ P4 は 1.5 m、P4 ～ P1 は 1.6 mとなっている。

出土遺物は土師器が出土している。

ＳＨ１３１６３

Ｖ -44・45 区画に位置する遺構である。13 区の中央付近に有り、南側に甕棺墓群が見られ、南側の一部を甕棺墓により欠損する。

規模は、長軸は 4.90㎝、短軸は 4.86㎝、深さは 0.44㎝、床面積は約 23.81㎡を測る。壁の残存高は約 0.25 m～ 0.35 mになる。平面形は方形で、主柱穴が P1 ～ P4 まであり、P1 ～ P2 までの距離は 2.2 m、P2 ～ P3 は 2.0m、P3 ～ P4 は 2.2 m、P4 ～ P1 は 2.0 mとなっている。西壁からは竈の跡が見つかっている。

遺物は、土師器、須恵器が出土している。

ＳＨ１３２１２

Ｓ・Ｔ -45 区画に位置する。13 区の北側にあり、北東側には SH13158 がある。

規模は、長軸は 3.76m、短軸は 3.14m、深さは 0.30m、床面積は約 11.81㎡を測る。壁の残存高は約 0.3 mになる。平面形は長方形で、主柱穴が P1 ～ P4 まであり、P1 ～ P2 までの距離は 1.5 m、P2 ～ P3 までは 1.3 m、P3 ～ P4 までは 0.9 m、P4 ～ P1 までは 1.6 mとなっている。

遺物は、弥生土器、土師器が出土している。

ＳＨ１３２１６

Ｔ・Ｕ -44 区画に位置する。13 区の中央付近にあり、北東は SH13157、南東は SH13115、南西には SH13154 がある。南西側は撹乱によって切られている。

規模は、長軸は 4.26m、短軸は（3.00）m、深さは 0.20m、床面積は約 12.78㎡を測る。壁の残存高は約 0.1 mになる。平面形は方形と思われ、主柱穴と思われる小穴は不明瞭。

遺物は、土器片が出土している。

ＳＨ１３２４６

Ｘ -47・48 区画に位置する。13 区の南西側にあり、北側に SH13375 がある。

規模は、長軸は 4.40m、短軸は 4.12m、深さは 0.40m、床面積は約 18.13㎡を測る。壁の残存高は、約 0.25 m～ 0.45 mになる。平面形は方形で、主柱穴と思われる小穴は不明瞭。

遺物は、弥生土器、土師器が出土している。

ＳＨ１３３４５

Ｘ -46 区画に位置する。13 区の南側にあり、北側には甕棺墓群が見られる。東側は撹乱によって切られ、北東側を SK13258 によって切られている。

規模は、長軸は（3.92）m、短軸は（2.50）m、深さは 0.22m、床面積は約 9.8㎡を測る。壁の残存高は約 0.1 mになる。平面形は方形で、主柱穴と見られる小穴は不明瞭。

遺物は土師器、土製紡錘車が出土している。

ＳＨ１３３７５

Ｗ -48 区画に位置する。13 区の南西にあり、北西部を近世の SB13208 により切られる。南東側には SH 13246 がある。

規模は確認できる範囲で、長軸は 4.30m、短軸は（4.16）m、深さは 0.30m、床面積は 17.89㎡を測

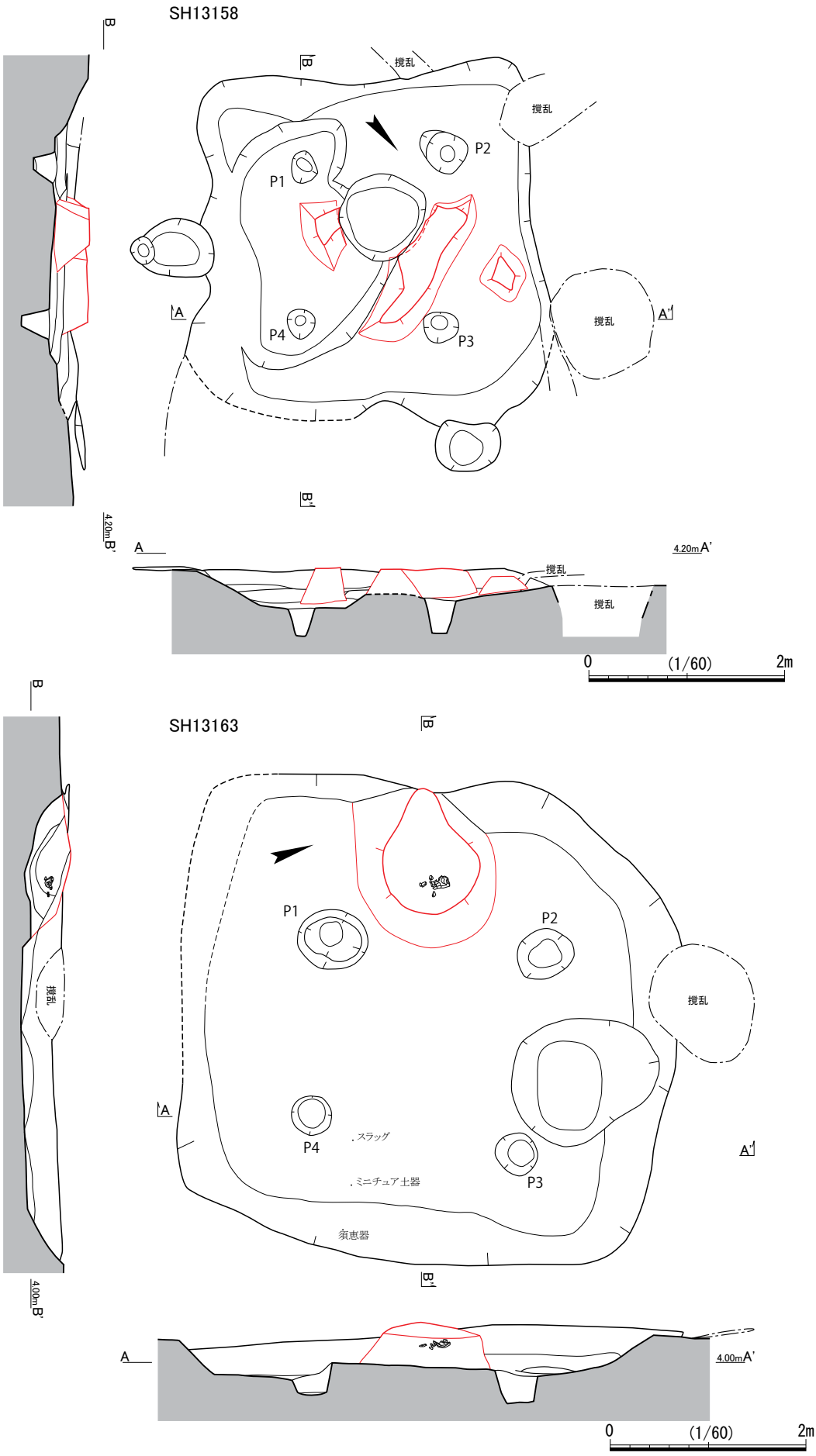
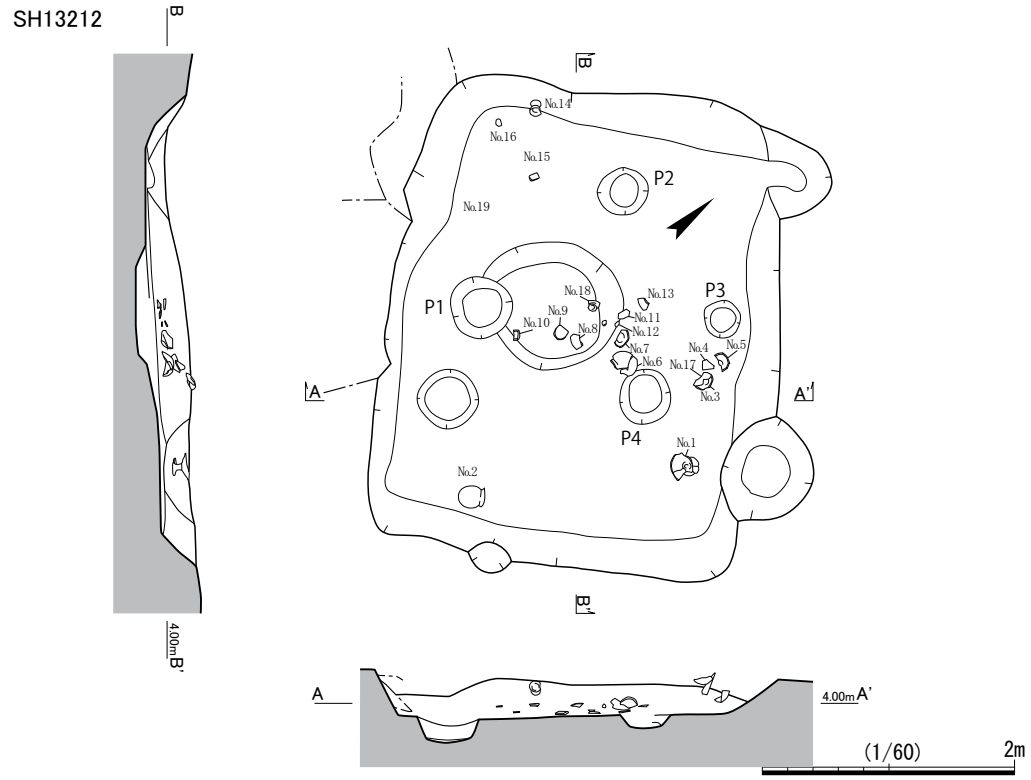


図 83　SH13158・13163 竪穴住居跡（1/60）



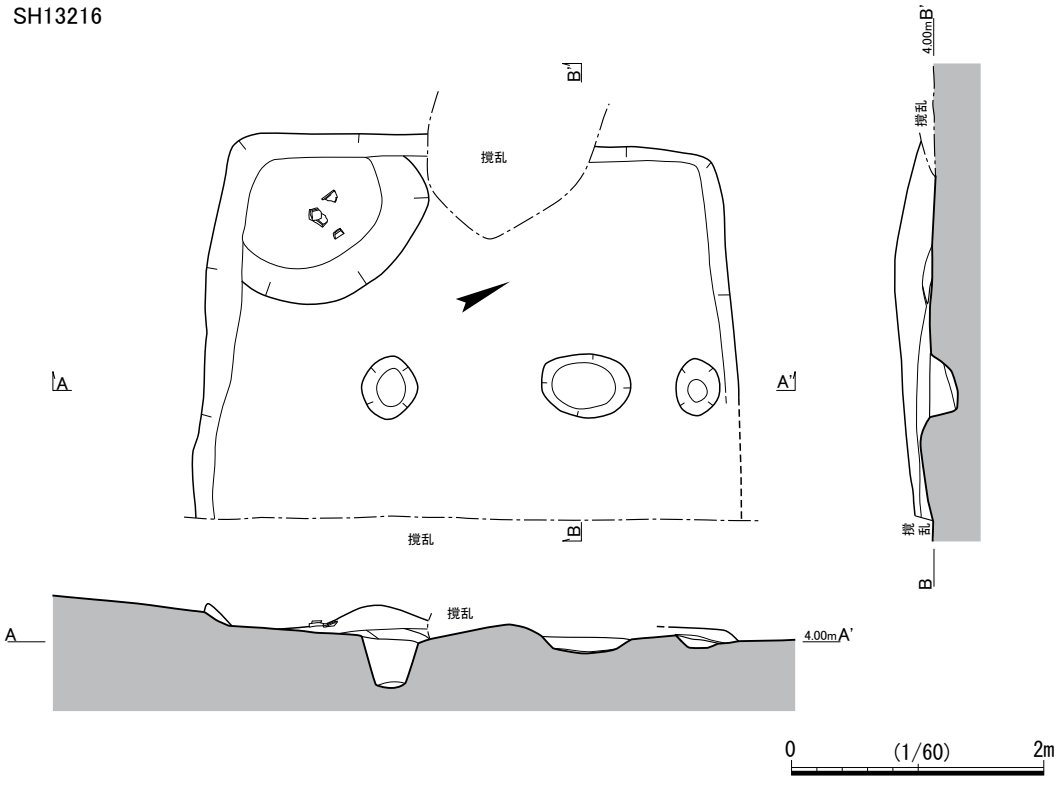
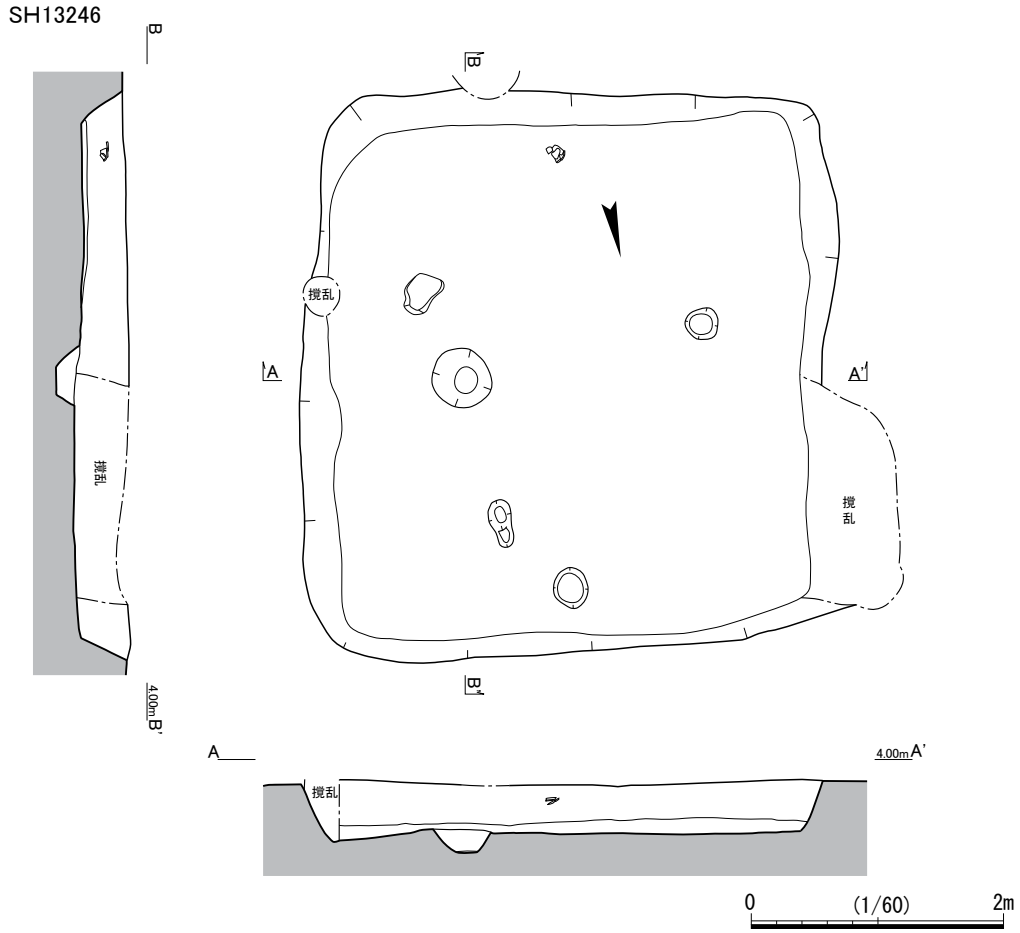


図 84　SH13212・13216 竪穴住居跡（1/60）



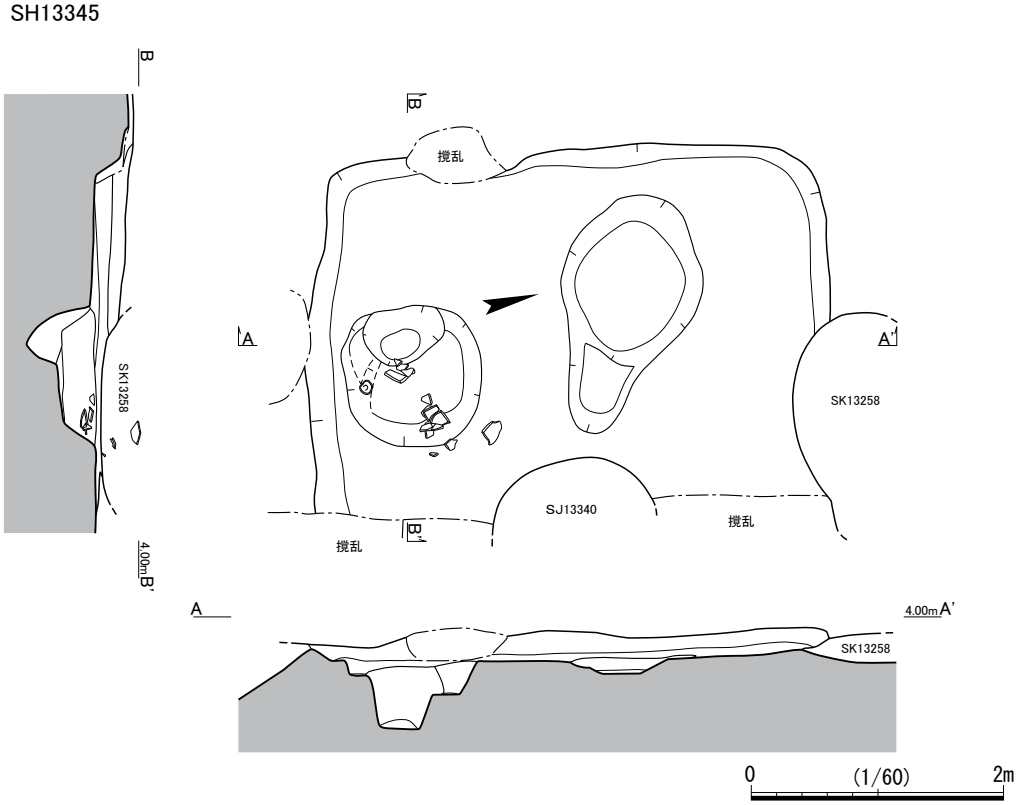
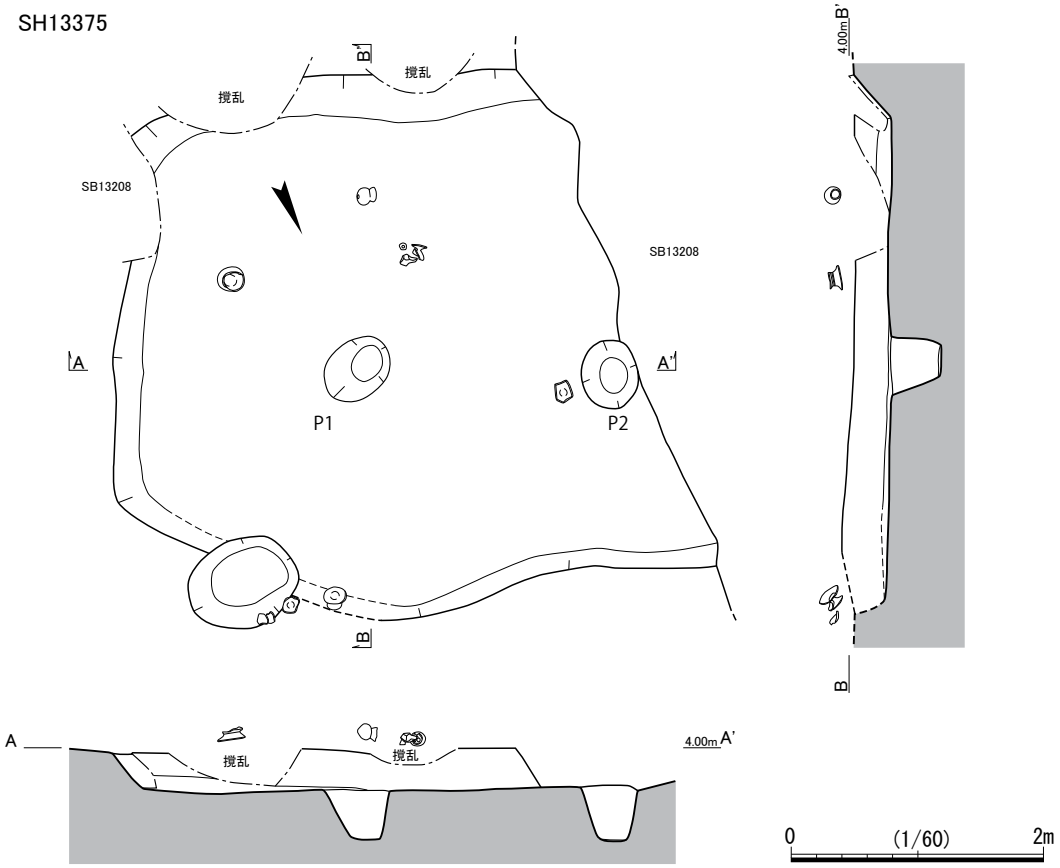


図 85　SH13246・13345 竪穴住居跡（1/60）



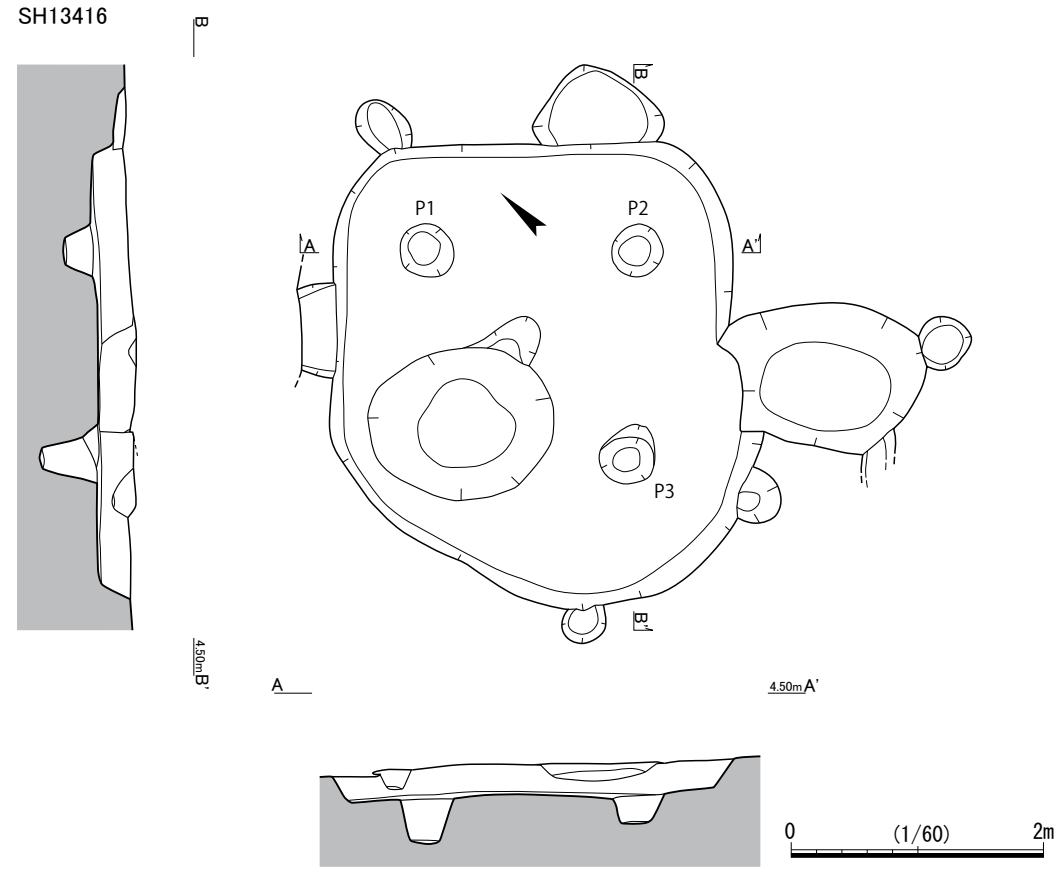


図 86　SH13375・13416 竪穴住居跡（1/60）

る。壁の残存高は約 0.1 m～ 0.3 mになる。平面形は方形で、主柱穴が 2 穴見られる。柱穴間は 2.0 m。

遺物は弥生土器、土師器が出土している。

ＳＨ１３４１６

S-48 区画に位置する。13 区の北西側にあり、南東部には SP13420 がある。

規模は、長軸は 3.62m、短軸は 3.18m、深さは 0.22m、床面積は約 11.51㎡を測る。壁の残存高は約 0.15 ～ 0.25 mになる。平面形は不整方形で、主柱穴が P1 ～ P3 まで残る。P1 から P2、P2 から P3 までの距離はいずれも 1.7 m。

遺物は須恵器が出土している。

（2）掘立柱建物跡

ＳＢ１１００９

O-34 区画に位置する遺構である。南側では SB11011 と重なり、西から南側に竪穴住居群がある。

規模は桁梁が 1 × 1。桁全長が 360㎝。梁全長が 360㎝。柱穴の平面形は楕円形で、径 50 ～ 80㎝、深さ 10 ～ 20㎝である。桁主軸は北から西へ 28°ふれている。

出土遺物はなし。

ＳＢ１１０１１

O-34 区画に位置する遺構である。北側では SB11009 が重なり、北西側から南側にかけて竪穴住居群がある。

規模は桁梁が 2 × 1。桁全長が 770㎝で、柱間は 350 ～ 420㎝。梁全長が 340㎝である。柱穴の平面形は楕円形で、径 30 ～ 80㎝、深さ 10 ～ 40㎝である。桁主軸は北から西へ 55°ふれている。

出土遺物はなし。

ＳＢ１１０３２

P-35 区画に位置する遺構である。周囲には竪穴住居群がある。

規模は桁梁が 1 × 1。桁全長が 290㎝。梁全長が 250㎝。柱穴の平面形は楕円形で、径 30 ～ 50㎝、深さ 20 ～ 30㎝である。桁主軸は北から東へ 51°ふれている。

出土遺物はなし。

ＳＢ１１０３３

O -35・36 区画に位置する遺構である。周囲には竪穴住居、土坑がある。

規模は桁梁が 1 × 1。桁全長が 240㎝。梁全長が 220㎝。柱穴の平面形は楕円形で、径 20 ～ 60㎝、深さ 30 ～ 50㎝である。桁主軸を北から西へ 40°ふれている。

出土遺物はなし。

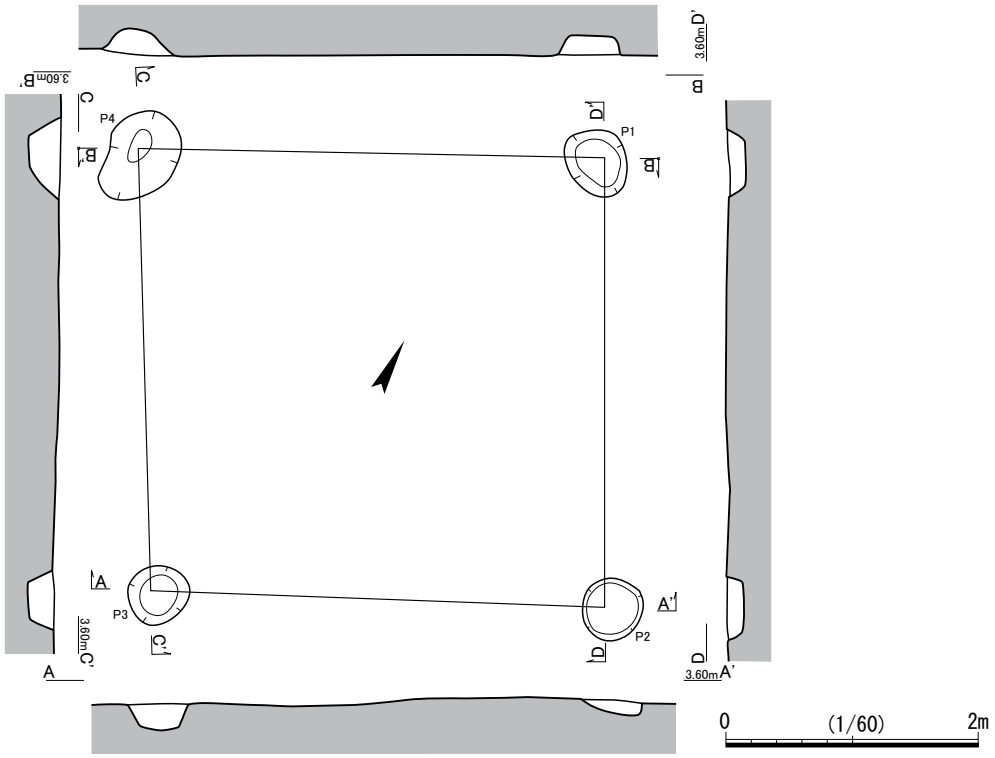
ＳＢ１１０３８

Q・R -33 区画に位置する遺構である。北側では SH11013 に切られ、南側では SB11044 と重なる。周囲には竪穴住居群がある。

規模は桁梁が 5 × 3。桁全長が 680㎝、柱間は 90 ～ 130㎝。梁全長が 500㎝、柱間は狭いので 110 ～ 130cm、広くて 250㎝。柱穴の平面形は楕円形で、径 50 ～ 150㎝、深さ 40 ～ 90㎝である。桁主軸を北から東へ 5°ふれている。

出土遺物は弥生中期の甕が出土している。

SB11009



SB11011

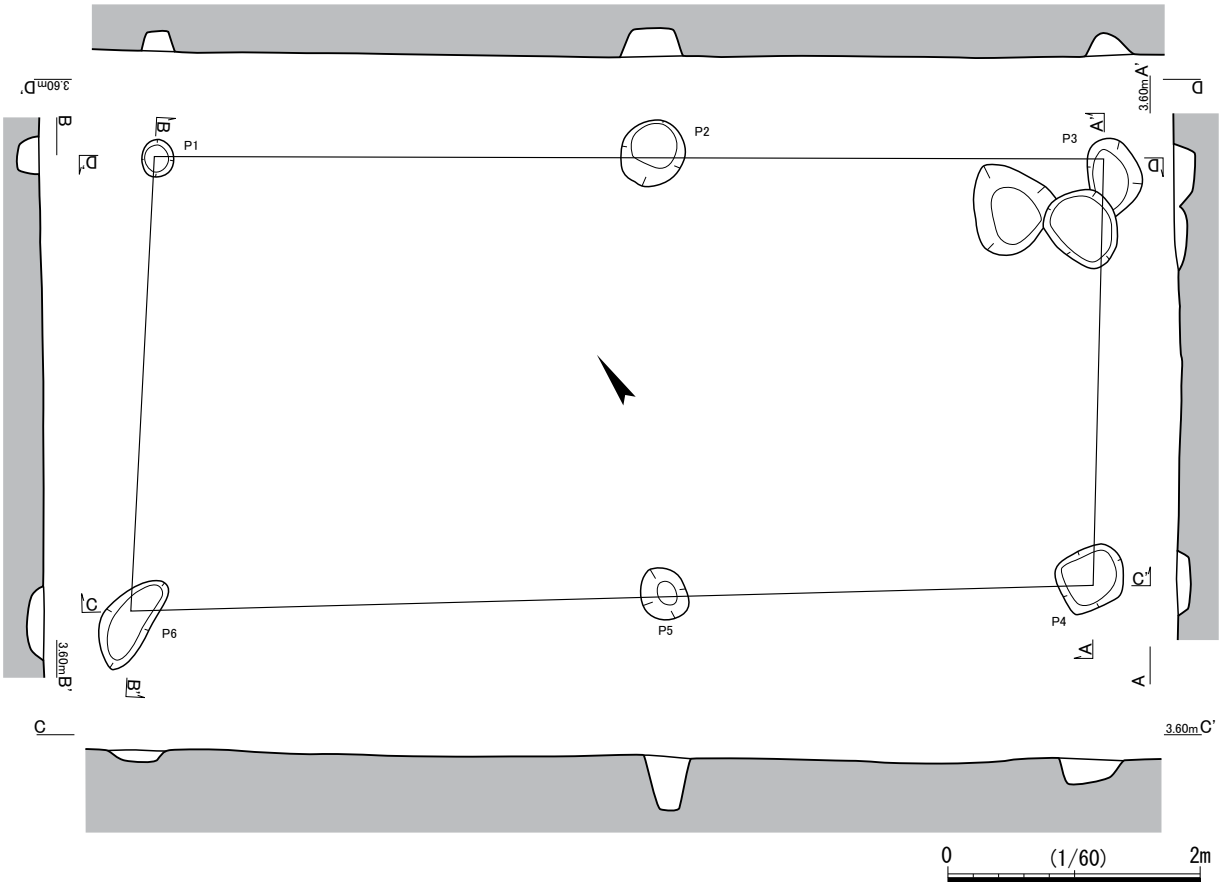
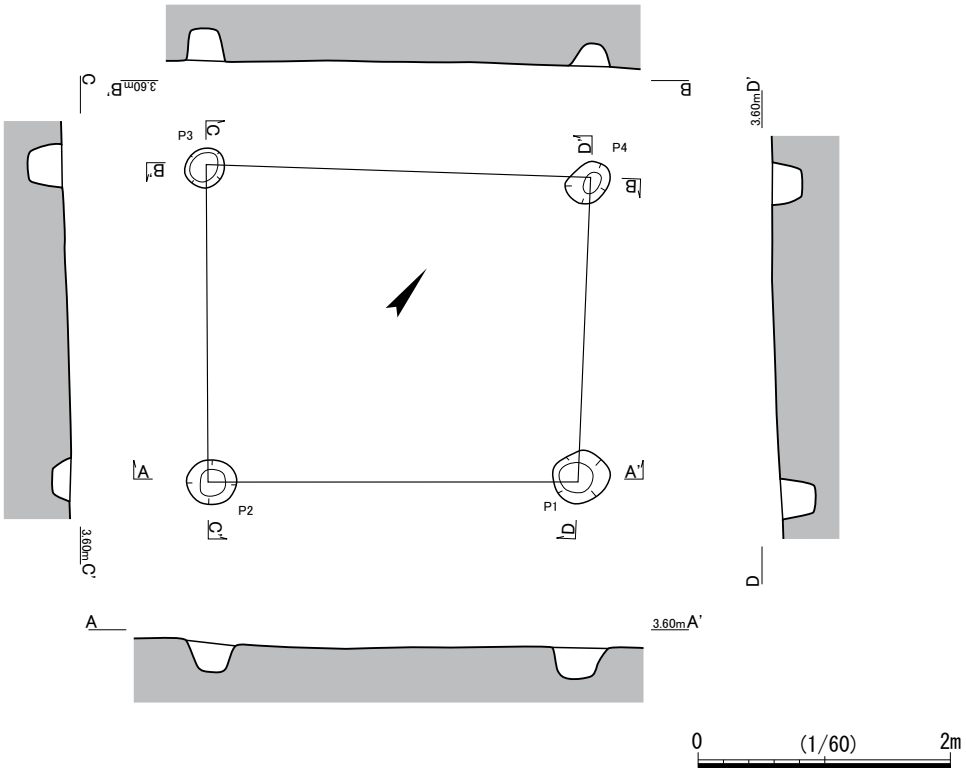


図 87　SB11009・11011 掘立柱建物跡（1/60）

SB11032



SB11033

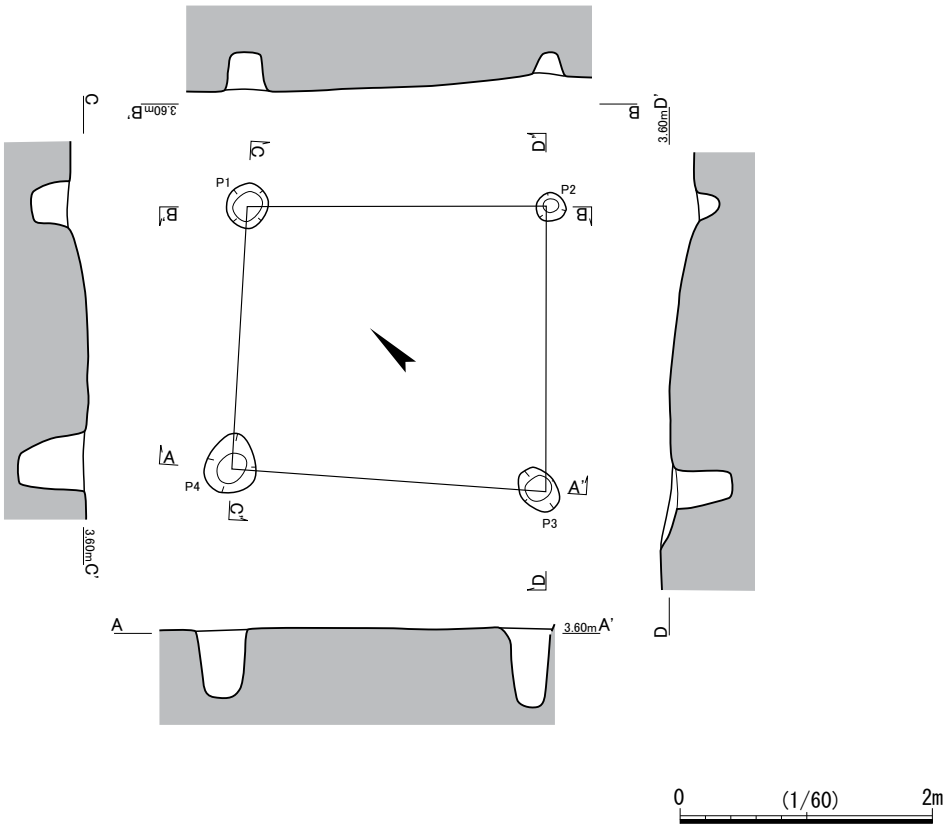


図 88　SB11032・11033 掘立柱建物跡（1/60）

SB11038

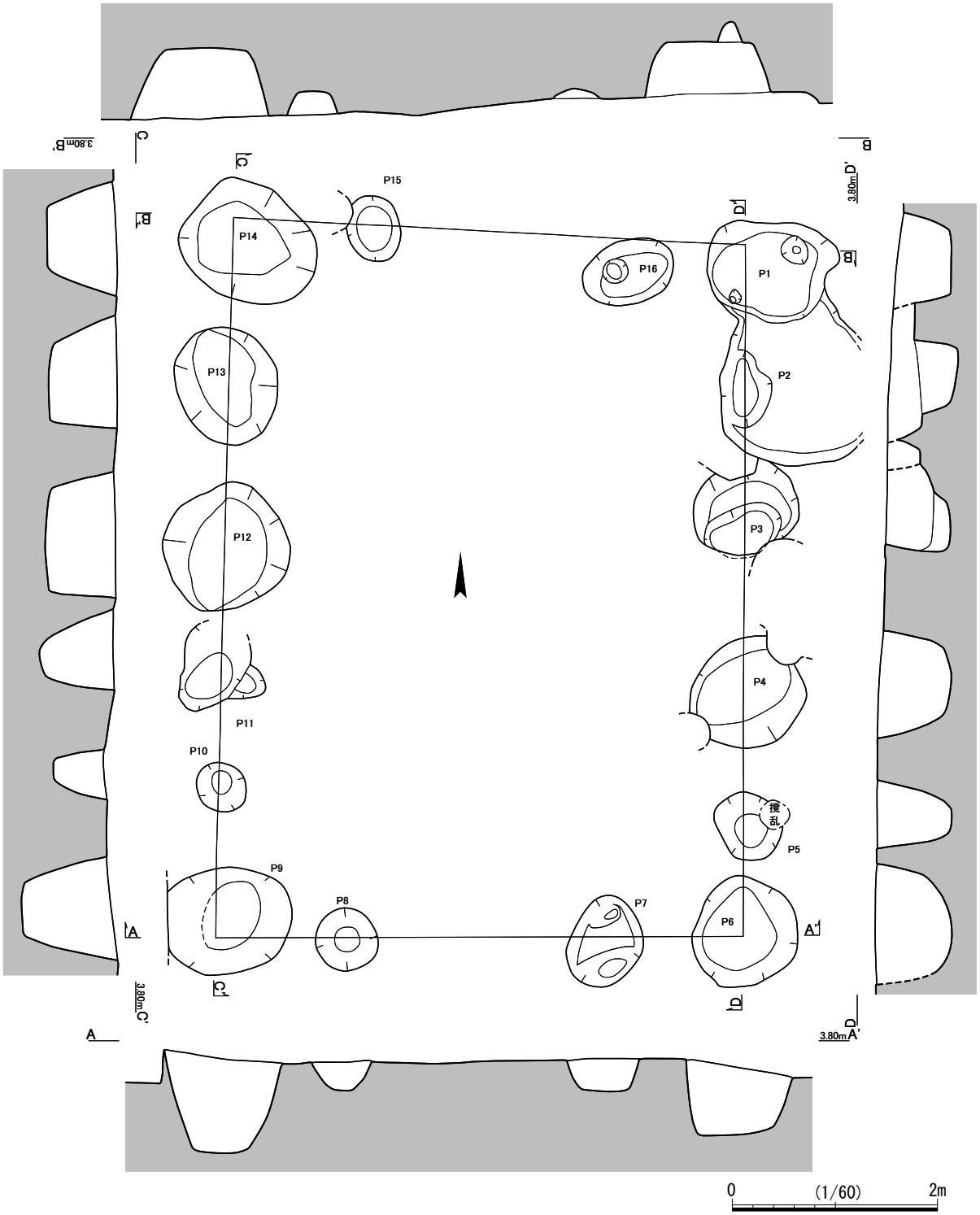


図 89　SB11038 掘立柱建物跡（1/60）

ＳＢ１１０４４

R-33・34 区画に位置する遺構である。北側では SB11038 と重なる。周囲には竪穴住居群がある。

規模は桁梁が２×1。桁全長が350㎝。柱間は 170 ～ 180㎝。梁全長が220㎝。柱穴の平面形は楕円形で、径 50 ～ 100㎝、深さ 30 ～ 60㎝である。桁主軸を北から東へ 47°ふれている。

出土遺物は P3、P5 から弥生土器の土器片が出土している。

ＳＢ１１０４６

R・S-33 区画に位置する遺構である。北西側では SB11058 と重なる。北側から西側にかけて竪穴住居群が見られ、東側は SK11105、SD11065 がある。

規模は桁梁が 1 × 1。桁全長が 400㎝。梁全長が 250㎝。柱穴の平面形は楕円形で、径 40 ～ 60㎝、深さ 20 ～ 40㎝である。桁主軸を北から西へ 45°ふれている。

出土遺物は P2 から弥生土器と思われる土器片が出土している。

ＳＢ１１０５８

R・S-33 区画に位置する遺構である。南東側では SB11046 と重なる。北側から西側にかけて竪穴住居群、東側には SD11065 がある。

規模は桁梁が 1 × 1 で、桁全長が 310㎝。梁全長が 290㎝。柱穴の平面形は楕円形で、径 40 ～ 80㎝、深さ 30 ～ 60㎝である。桁主軸を北から東へ 1°ふれている。

土師器鉢の破片が出土している。

ＳＢ１１０５９

Q-36 区画に位置する遺構である。南側では SB11060 と重なり、西側は SH11204 を切る。

規模は桁梁が３×1。桁全長が520㎝、柱間は 150 ～ 180㎝。梁全長が340㎝。柱穴の平面形は楕円形で、径 30 ～ 60㎝、深さ 30 ～ 50㎝である。桁主軸を北から西へ 71°ふれている。

出土遺物は P1、P2、P3 からは弥生土器の土器片が出土している。

ＳＢ１１０６０

Q-36 区画に位置する遺構である。北側では SB11059 と重なり、さらに北側では竪穴住居群、南側には SB11077 がある。

規模は桁梁が１×1。桁全長が300㎝。柱穴の平面形は楕円形で、径30 ～ 50㎝、深さ 20 ～ 50㎝である。梁全長が 180㎝。桁主軸を北から西へ 9°ふれている。

出土遺物はなし。

ＳＢ１１０７７

Q-35・36 区画に位置する遺構である。北側は SB11059・SB11060、西側は SD11001、東側には竪穴住居群がある。

規模は桁梁が 2 × 1。桁全長が 570㎝、柱間は 270 ～ 290㎝。梁全長が 380cm。柱穴の平面形は楕円形で、径 30 ～ 80㎝、深さ 20 ～ 50㎝である。桁主軸を北から東へ 83°ふれている。

出土遺物は P6 から弥生土器の土器片が出土している。

ＳＢ１１０７９

S-38・39 区画に位置する遺構である。北東側には ST11002 周溝墓が、南西側には ST11141 周溝墓が見られる。南東部には掘立柱建物や、弥生時代中期から古墳時代前期前半までの竪穴住居が見られる。規模は桁梁が 2 × 1。桁全長が 360㎝、柱間は 150 ～ 200㎝。梁全長が 260㎝。桁主軸を北から西へ 63°ふれている。柱穴の平面形は楕円形で、径 30 ～ 80㎝、深さ 10 ～ 30㎝である。

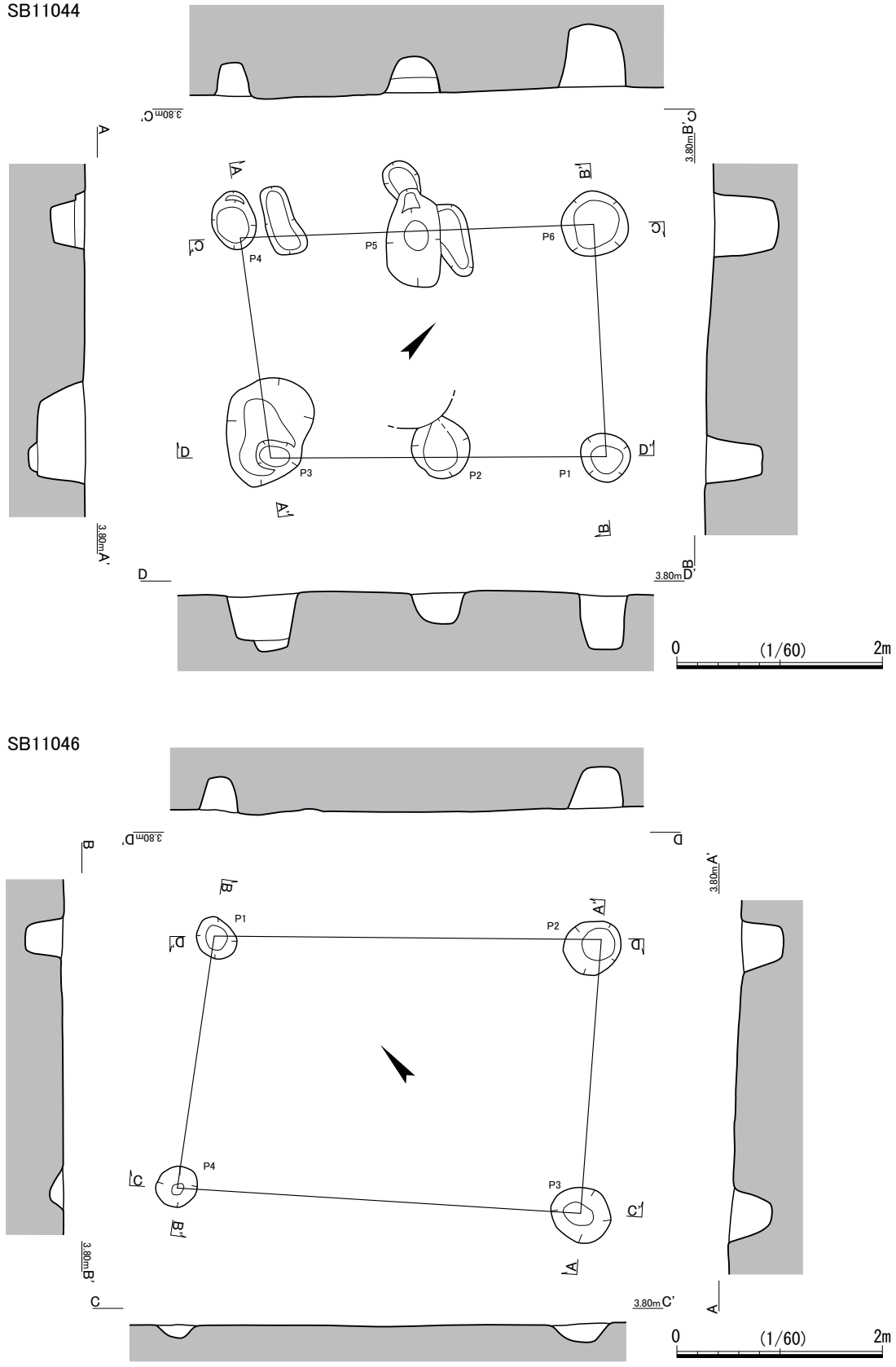


図 90　SB11044・11046 掘立柱建物跡（1/60）

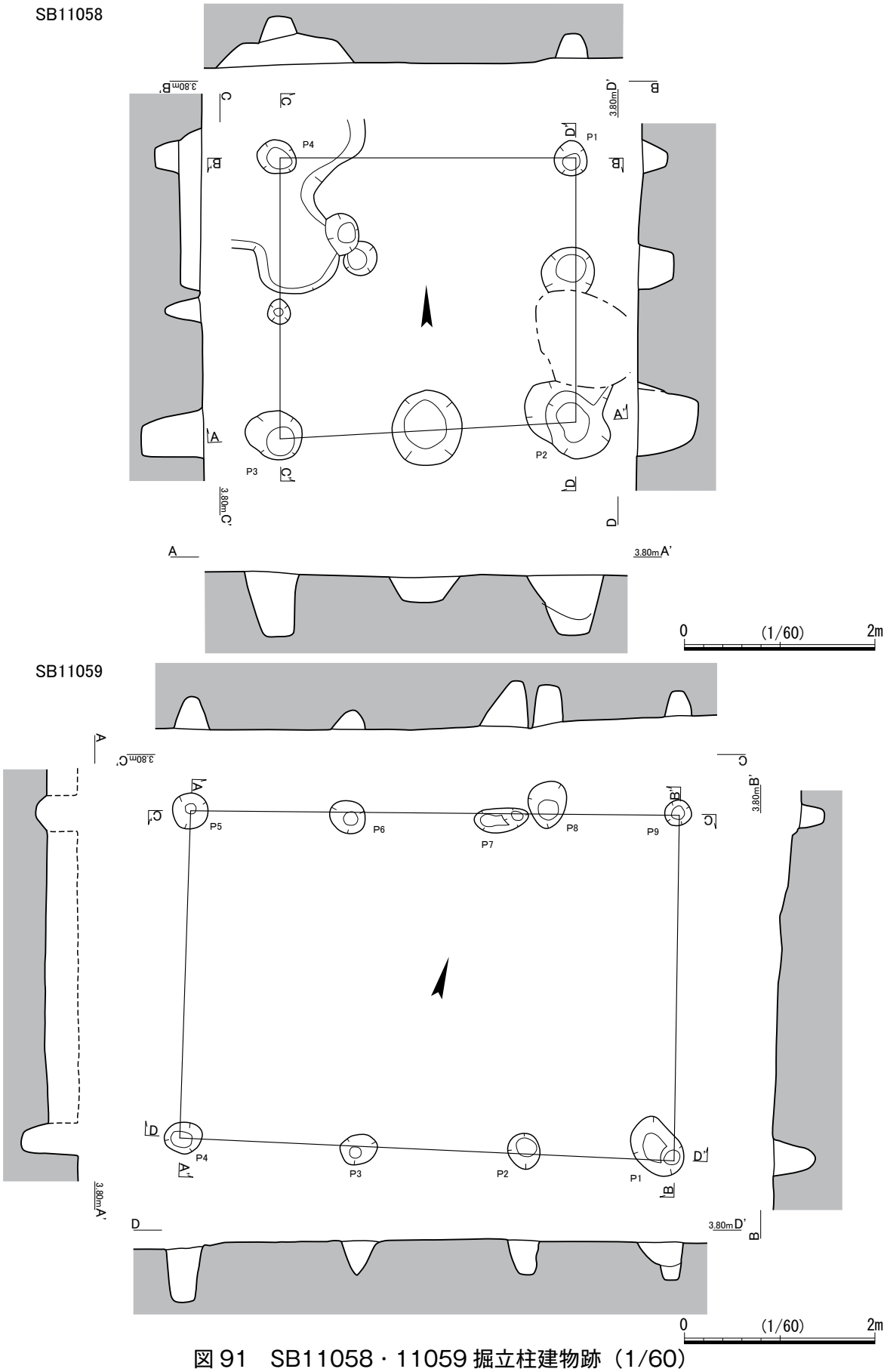
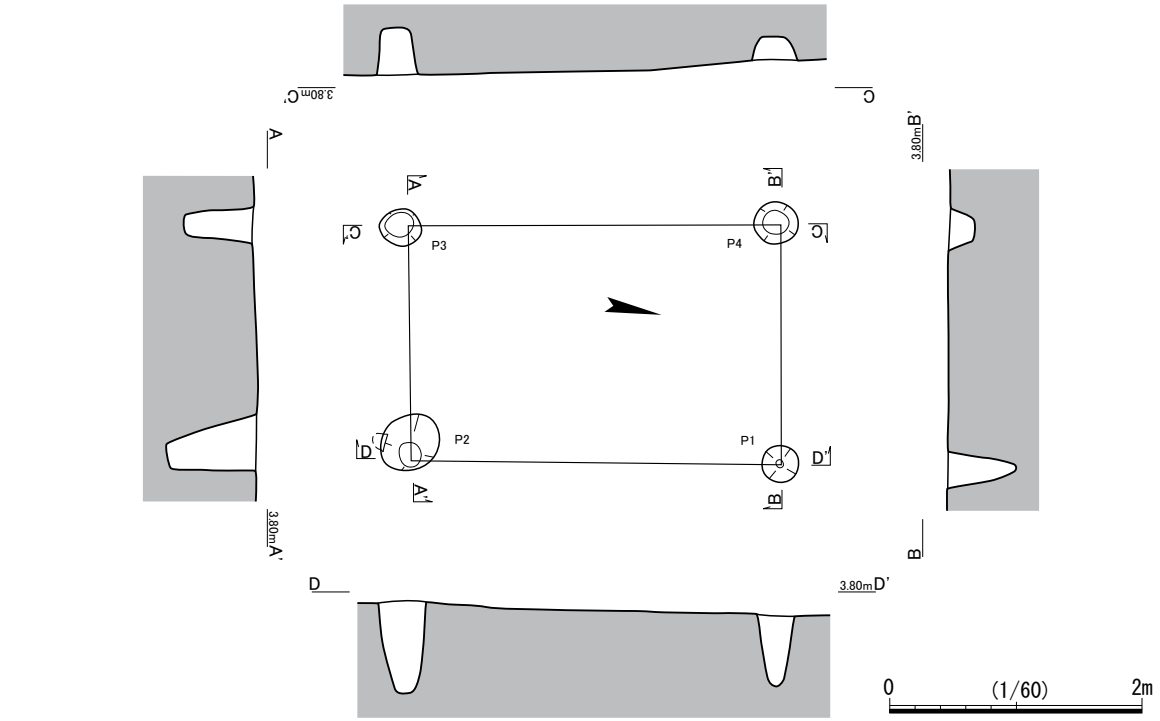


図 91　SB11058・11059 掘立柱建物跡（1/60）

SB11060



SB11077

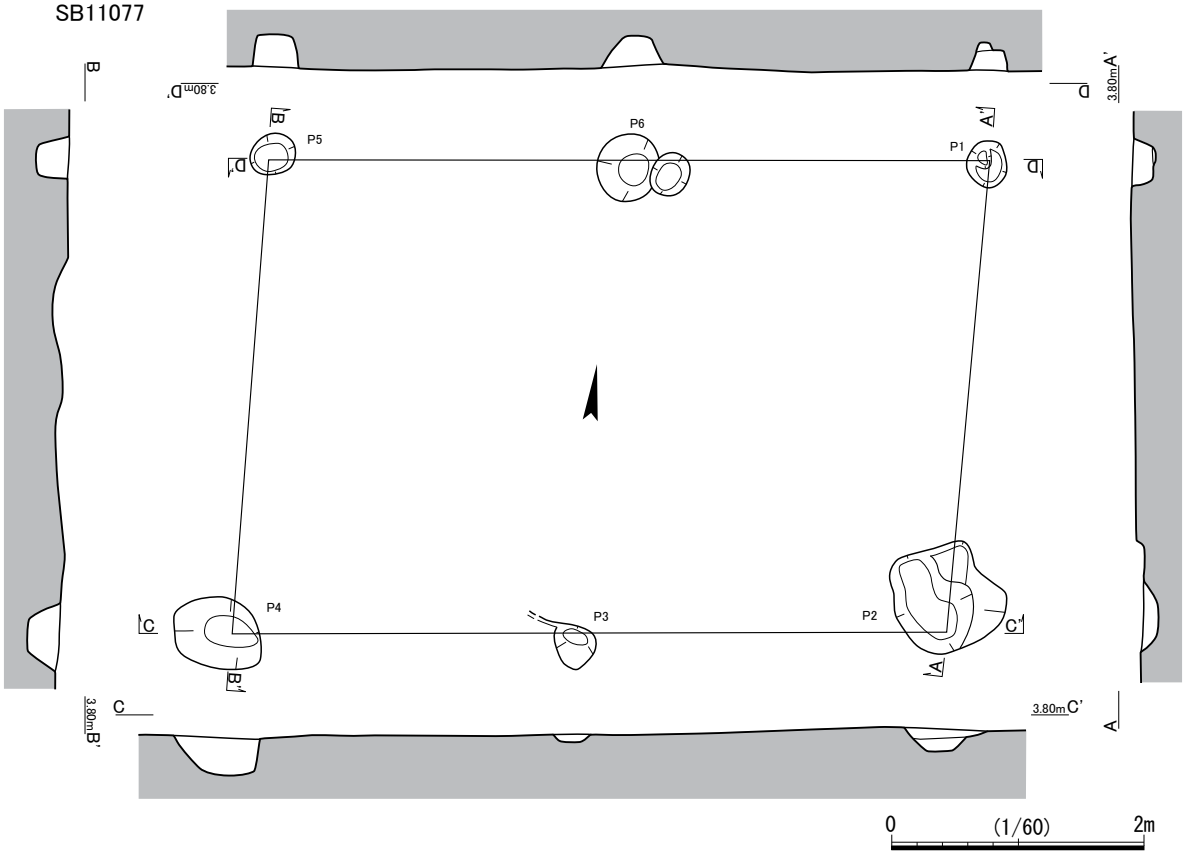
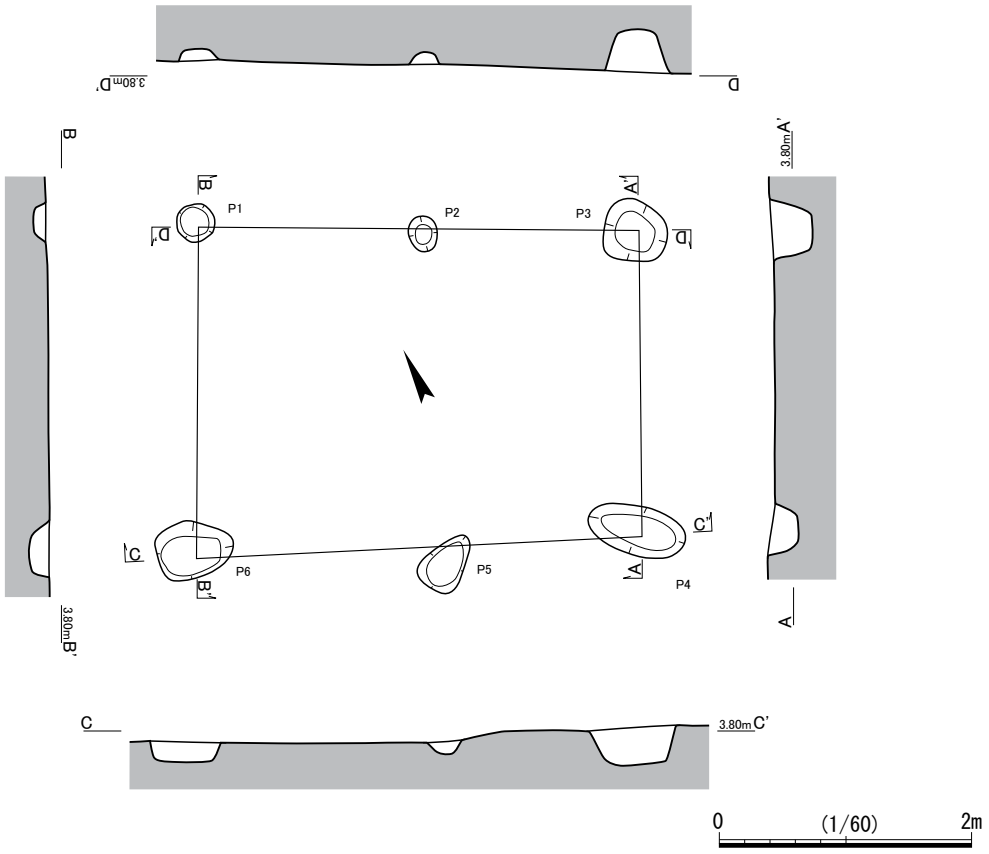


図 92　SB11060・11077 掘立柱建物跡（1/60）

SB11079



SB11084

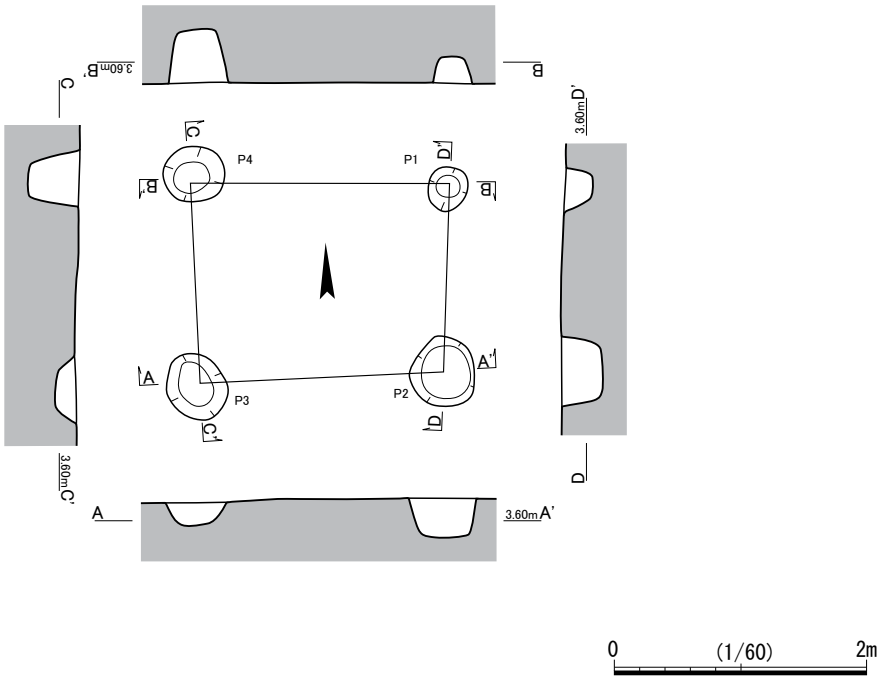


図 93　SB11079・11084 掘立柱建物跡（1/60）

出土遺物は P1、P4、P6 から弥生土器の土器片。P4 は弥生土器。P5 は古代の土師器鉢が出土している。

ＳＢ１１０８４

T-34･35 区画に位置する遺構である。西側は SH11111 を切る。また、北側から西側には竪穴住居が、東側には SD11065 が見られる。

規模は桁梁が 1 × 1。桁全長が 200㎝。梁全長が 160㎝。柱穴の平面形は楕円形で、径 30 ～ 60㎝、深さ 20 ～ 30㎝である。桁主軸を北から西へ 88°ふれている。

出土遺物は、P4 から弥生土器と思われる土器片が出土している。

ＳＢ１１０８５

U-36 区画に位置する遺構である。東側と西側に竪穴住居群がある。

規模は桁梁が 1 × 1。桁全長が 350㎝。梁全長が 270㎝。柱穴の平面形は楕円形で、径 50 ～ 90㎝、深さ 30 ～ 50㎝である。桁主軸を北から東へ 51°ふれている。

出土遺物は P2、P3 からは弥生土器の土器片が出土している。

ＳＢ１１０８８

V-36 区画に位置する遺構である。北東側、北西側に竪穴住居がある。

規模は桁梁が 2 × 1。西側の桁は撹乱により間の柱穴は消滅か。桁全長が 390㎝、柱間は 180 ～ 210㎝。梁全長が 250㎝。柱穴の平面形は楕円形で、径 40 ～ 60㎝、深さ 10 ～ 30㎝である。桁主軸を北から西へ 12°ふれている。

出土遺物は P1 から土器片。P5 から弥生土器の土器片が出土している。

ＳＢ１１０８９

T-37・38 区画に位置する遺構である。東側は SB11256、南側は SB11091 と重なる。また、北側には ST11002 周溝墓が、南側には竪穴住居群が見られる。

規模は桁梁が 1 × 1。桁全長が 320㎝。梁全長が 300㎝。柱穴の平面形は楕円形で、径 30 ～ 80㎝、深さ 10 ～ 20㎝である。桁主軸を北から西へ 27°ふれている。

出土遺物は P4 から弥生土器の土器片が出土している。

ＳＢ１１０９１

Ｔ -37・38 区画に位置する。北側を SB11089 と重なり、更に SB11256 と ST11002 周溝墓がある。南側には竪穴住居が見られる。

規模は桁梁が 1 × 1。桁全長が 330㎝。梁全長が 260㎝。柱穴の平面形は楕円形で、径 30 ～ 80㎝、深さ 20 ～ 30㎝である。桁主軸を北から東へ 35°ふれている。

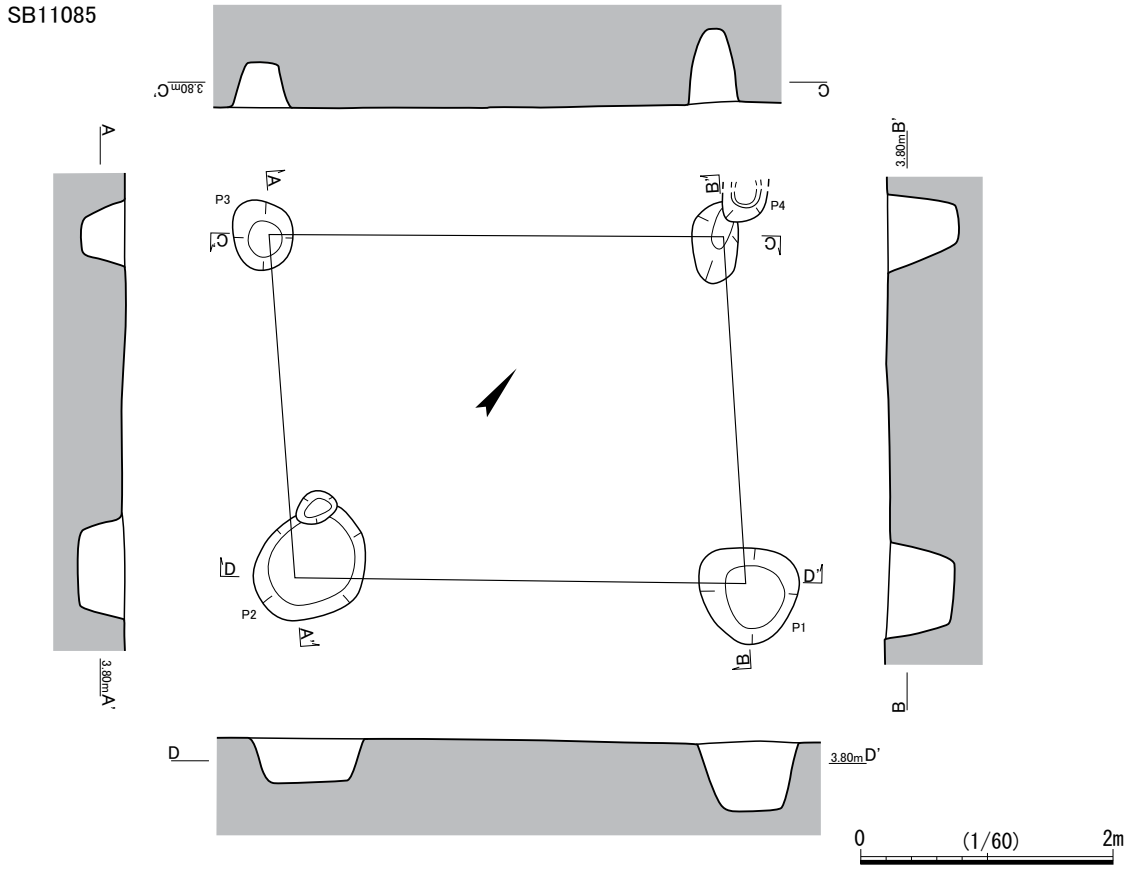
出土遺物は P1、P3 からは弥生土器の土器片が出土している。

ＳＢ１１１００

Ｕ -38 区画に位置する。北西側を SH11166・11188、SK11186 と重なる。また、周囲には竪穴住居群が見られる。

規模は桁梁が 1 × 1。P1 は SH11188 、SK11186 に、P4 は SH11166 に切られる。桁全長が 300㎝。梁全長が 240㎝。柱穴の平面形は楕円形で、径 30 ～ 50㎝、深さ 20 ～ 30㎝である。桁主軸を北から西へ 52°ふれている。

出土遺物は P2、P3 から弥生土器の土器片が出土している。



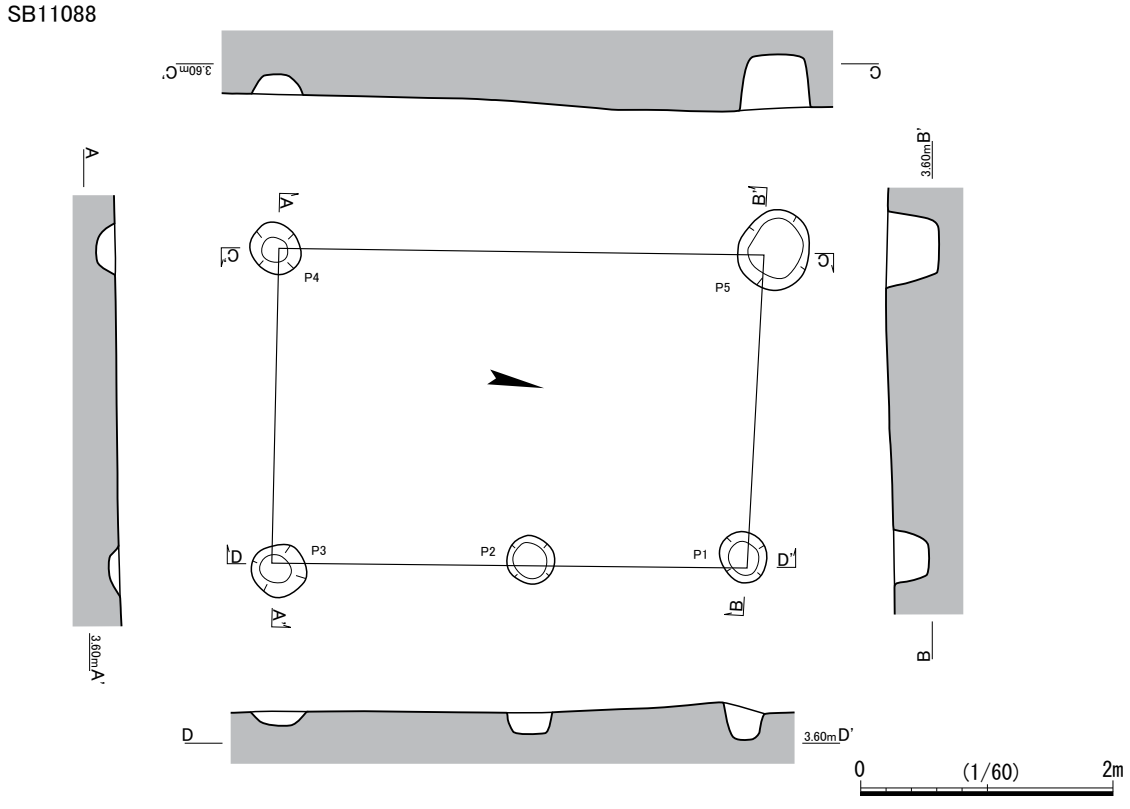
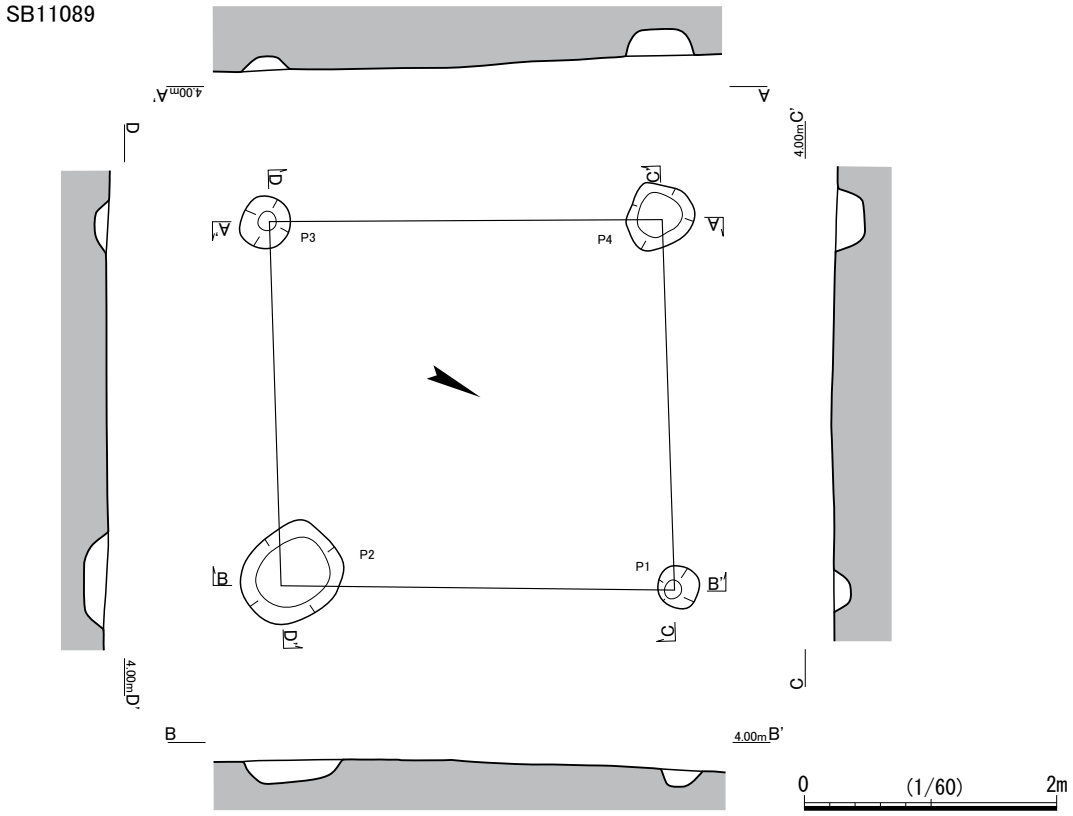


図 94　SB11085・11088 掘立柱建物跡（1/60）



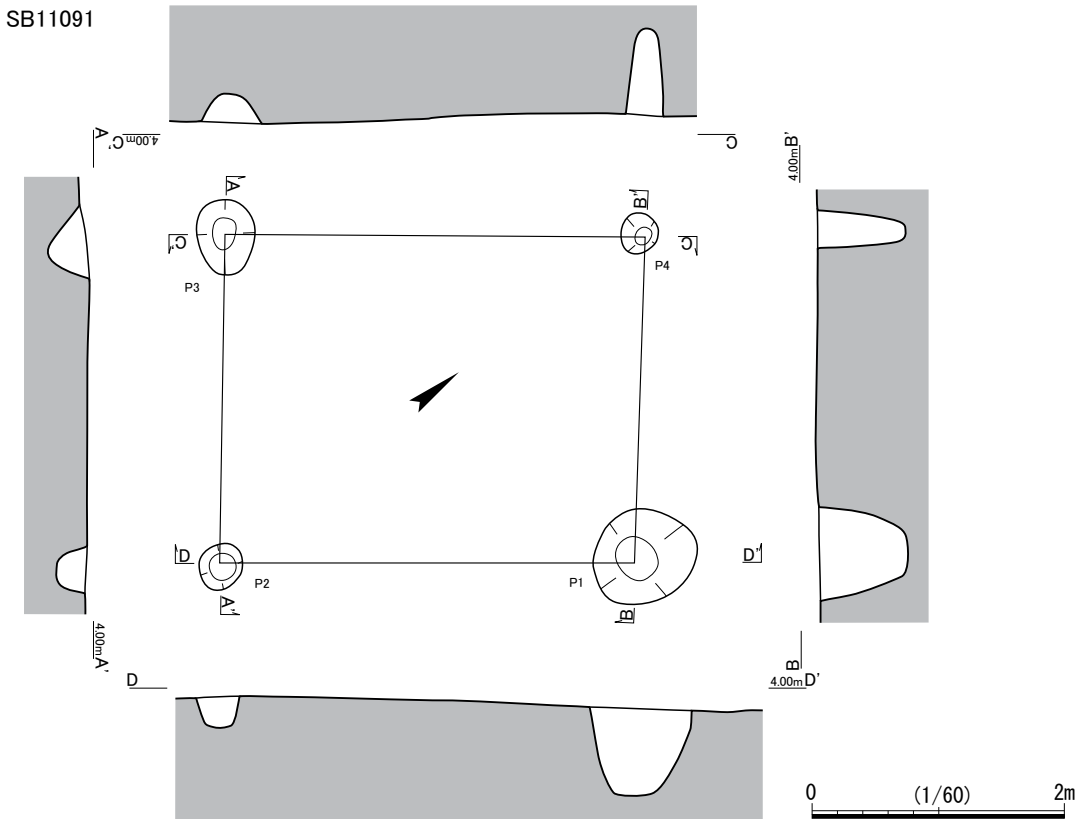
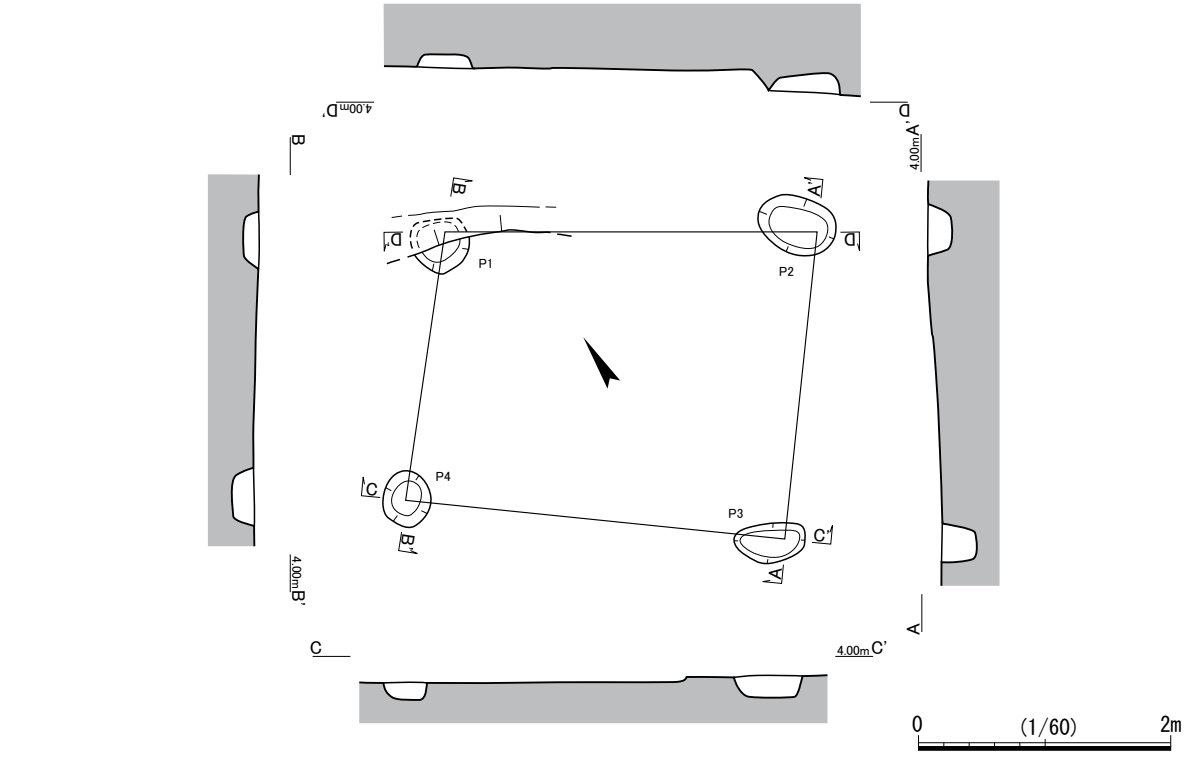


図 95　SB11089・11091 掘立柱建物跡（1/60）

SB11100



SB11101

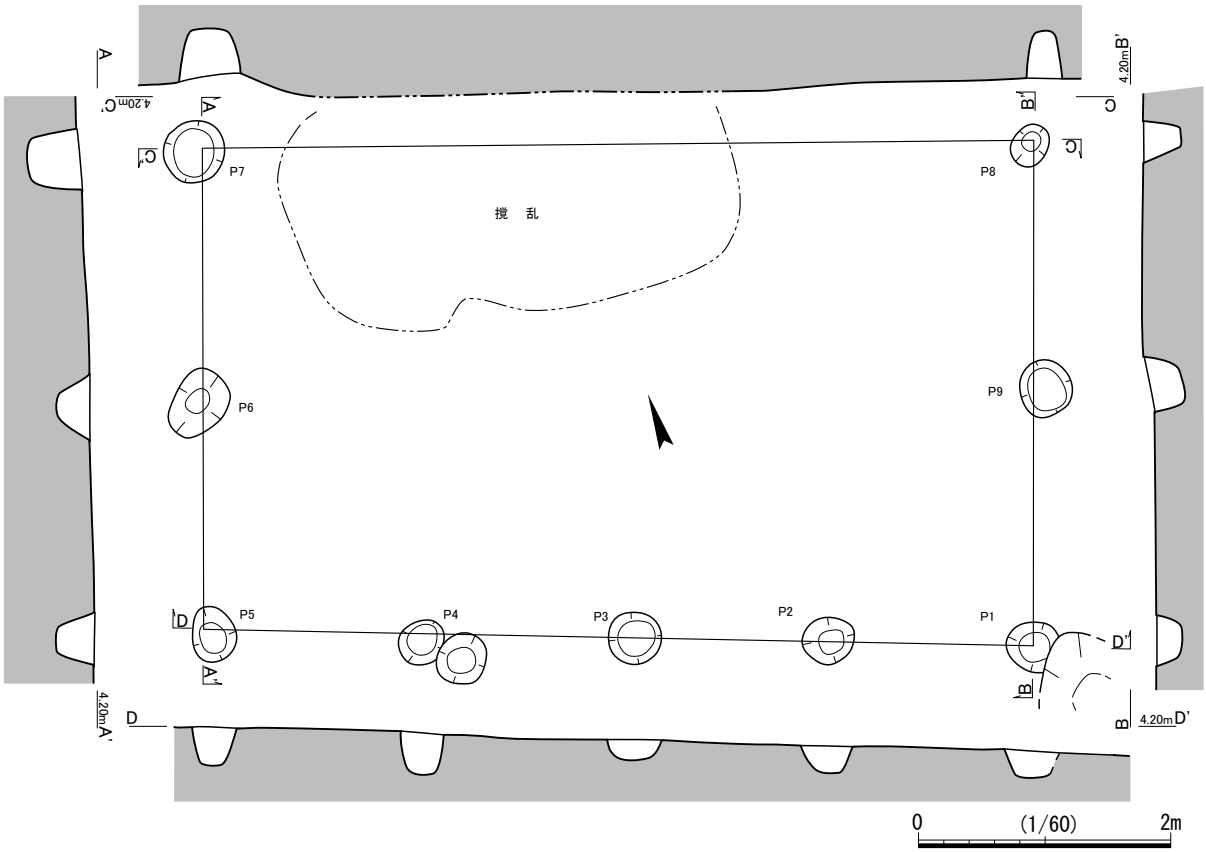


図 96　SB11100・11101 掘立柱建物跡（1/60）

ＳＢ１１１０１

U･V-40区画に位置する遺構である。東側はSH11169、北側はST11141、南側はSH11159に切られる。南東側では竪穴住居群が見られる。

規模は桁梁が4 × 2。北側の柱穴は撹乱とSH11169により消滅か。桁全長が650㎝、柱間は160 ～ 170㎝。梁全長が400㎝、柱間は200㎝。柱穴の平面形は楕円形で、径40 ～ 60㎝、深さ20 ～ 30㎝である。桁主軸を北から西へ72°ふれている。

出土遺物は無し。

ＳＢ１１１０２

W-39区画に位置する遺構である。北側ではSH11165を切っている。北側には竪穴住居群が見られる。

規模は桁梁が1 × 1。桁全長が380㎝。梁全長が300㎝。柱穴の平面形は楕円形で、径30 ～ 40㎝、深さ20 ～ 30㎝である。桁主軸を北から東へ72°ふれている。

出土遺物は無し。

ＳＢ１１２０２

U・V-34区画に位置する遺構である。西側にはSD11065があり、東側は調査区外になる。

規模は桁梁が2 × 1。桁全長が530㎝、柱間は265㎝。梁全長が230㎝。柱穴の平面形は楕円形で、径80 ～ 200㎝、深さ30 ～ 60㎝である。桁主軸を北から東へ25°ふれている。

出土遺物はP1、P2、P6からは弥生土器の土器片。P3からは弥生土器と土師器の土器片が出土している。

ＳＢ１１２５６

T-37区画に位置する遺構である。西側はSB11089、南西側はSB11091と重なる。北側はST11002、南側には竪穴住居群がある。

規模は桁梁が2 × 2。桁全長が145㎝、柱間は290㎝。梁全長が290㎝、柱間は130 ～ 160㎝。柱穴の平面形は楕円形で、径60 ～ 100㎝、深さ30 ～ 50㎝である。桁主軸を北から西へ5°ふれている。

出土遺物はP6に柱根が残っており、P1、P4、P6からは弥生土器の土器片。P2、P3からは土器片。P5からは土師器が出土している。

（3）土坑

ＳＫ１１００６

Ｐ -34区画に位置し、SB11011と重なる。南側には竪穴住居群が見られる。

平面形態は正方形に近く、坑底は東から西へ傾く台形状である。規模は長軸1.26 m、短軸1.12 m、深さ0.35mを測る。

出土遺物は弥生土器が出土している。

ＳＫ１１００８

Ｐ -35区画に位置し、南側にSH11209などの竪穴住居群が、北側にはSB11032が見られる。

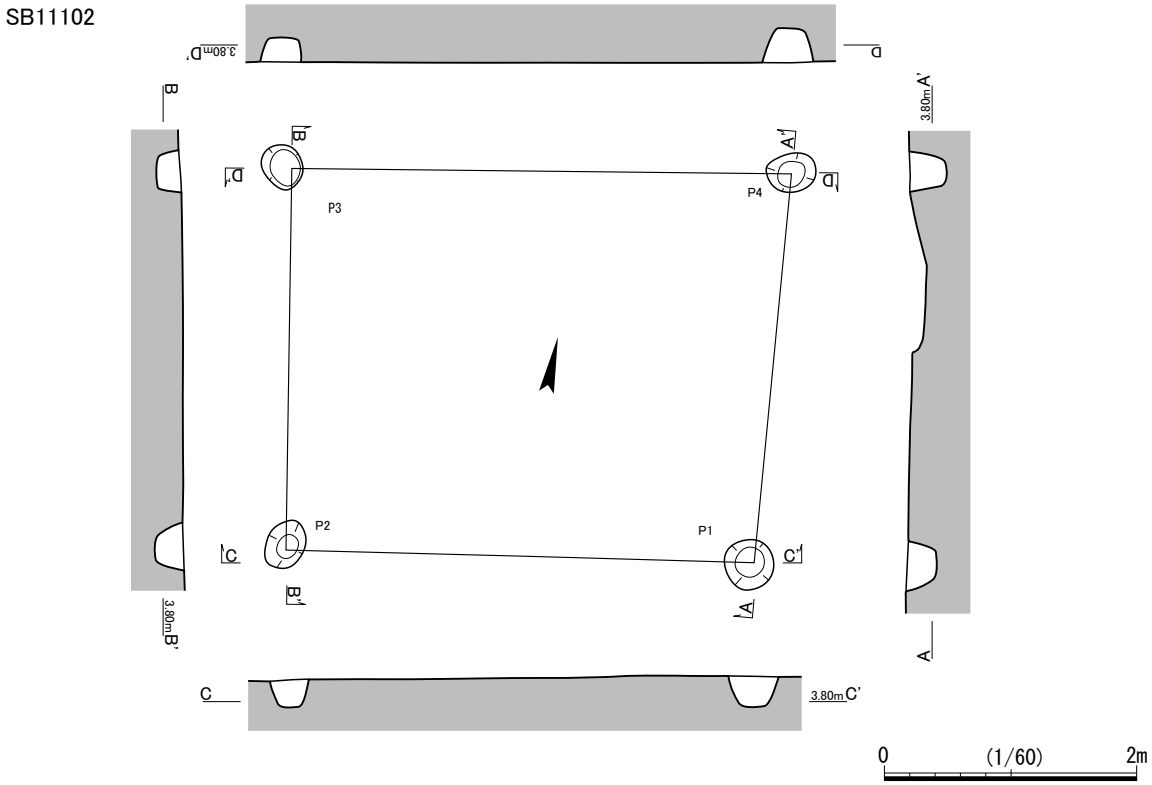
平面形態は不整円形で、坑底は椀状で、二段掘りになっている。規模は長軸2.00 m、短軸1.70 m、深さ0.70 mを測る。

出土遺物は須玖Ⅰ式からⅡ式の弥生土器が出土している。

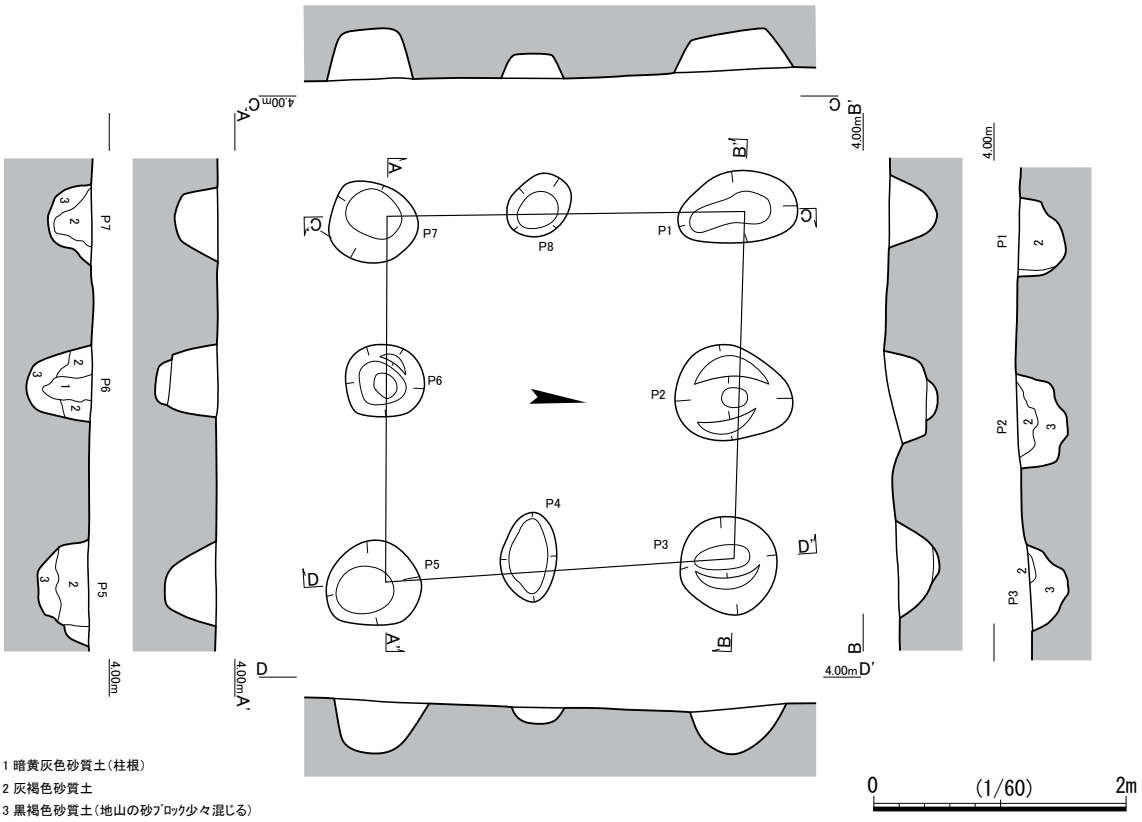
ＳＫ１１０１０

Ｏ -35・36区画に位置し、11区では最北端にある。東側にはSH11003・11004が見られる。

SB11102



SB11256



1 暗黄灰色砂質土（柱根）
2 灰褐色砂質土
3 黒褐色砂質土（地山の砂ﾌﾞﾛｯｸ少々混じる）

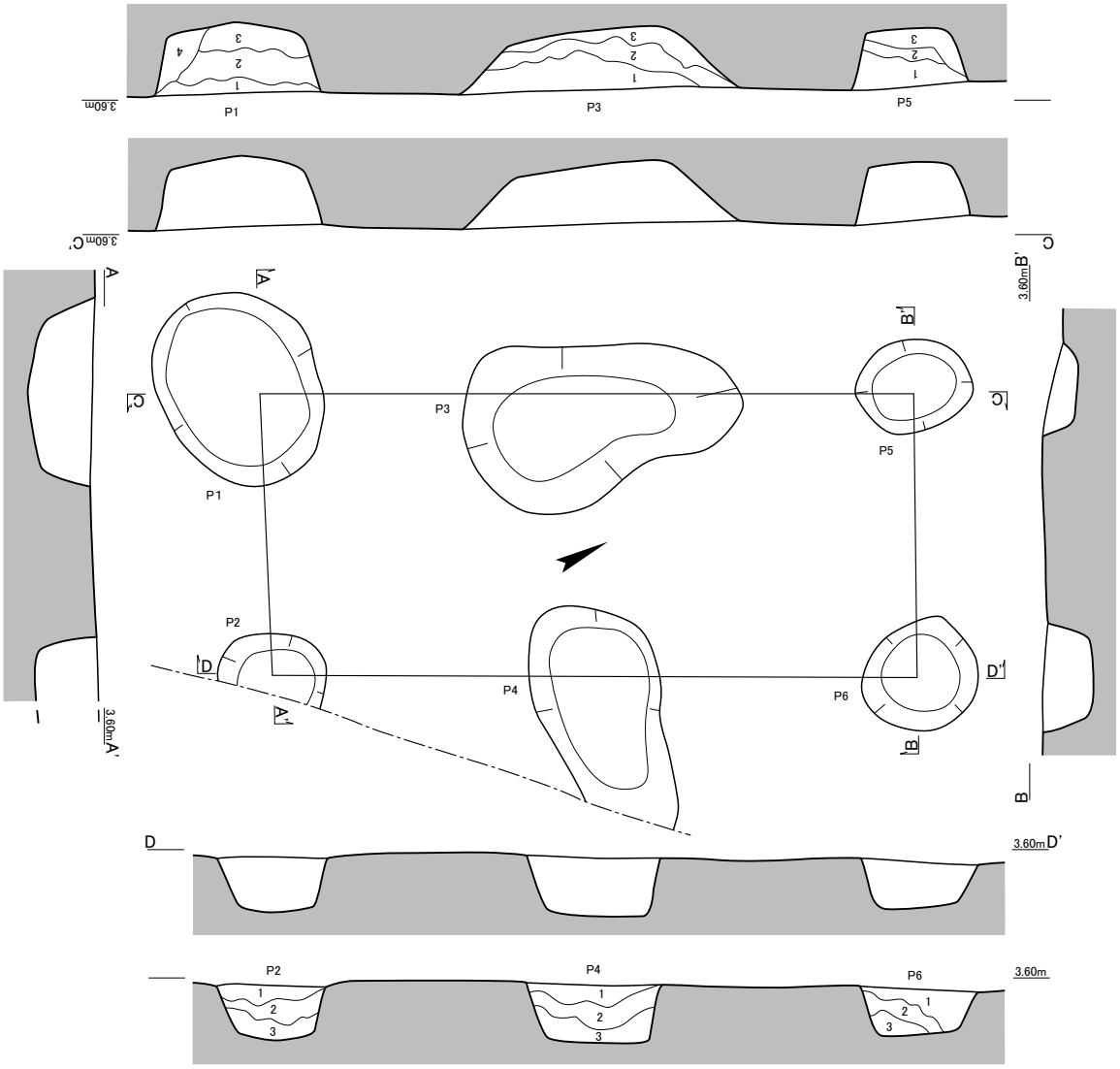
図 97　SB11102・11256 掘立柱建物跡（1/60）

SB11202

1.暗灰黄色砂質土(2.5Y 4/2)
2.1と黄褐色砂質土(10YR 5/8)のまじり
3.1に黒色砂質土(10YR 5/8)と明緑灰白色砂質土(地山)のまじり
4.黒色砂質土(2.5Y 2/1))[硬い]が明黄褐色砂質土(2.5YR 7/6)にまじる

1.暗灰黄色砂質土(2.5Y 4/2)
2.1に黄褐色砂質土(10YR 5/8)
3.オリーブ黒色砂質土(5Y 2/2)と明緑灰白砂質土(地山)のまじり

1.暗灰黄色砂質土(2.5Y 4/2)に黒色(2.5Y 2/1)がまじる
2.暗灰黄色砂質土(2.5Y 4/2)
3.2と明緑灰色砂質土と明褐色砂質土(地山)のまじり



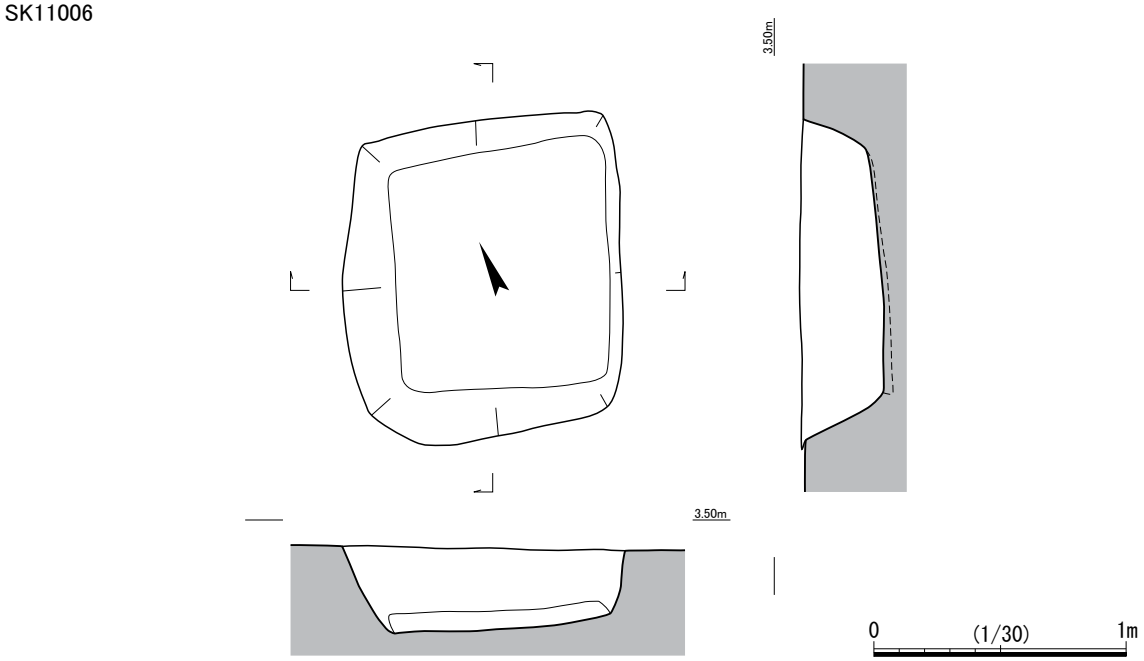
1.暗灰黄色砂質土(2.5Y 4/2)に黒褐色砂質土(2.5Y 3/2)が粒状にまじる
2.黒褐色砂質土(2.5Y 3/2)
3.黒色(粘性)砂質土(2.5Y 2/1)と灰白色砂質土(地山)のまじり

1.灰黄褐色砂質土(10YR 4/2)
2.黒褐色砂質土(10YR 3/2)
3.黒褐色砂質土(2.5Y 3/2)と明緑灰砂質土

1.灰黄褐色砂質土(10YR 4/2)
2.1と明黄褐色砂質土(2.5Y 7/6)
3.オリーブ黒色砂質土(5Y 2/2)

図 98　SB11202 掘立柱建物跡（1/60）

SK11006



SK11008

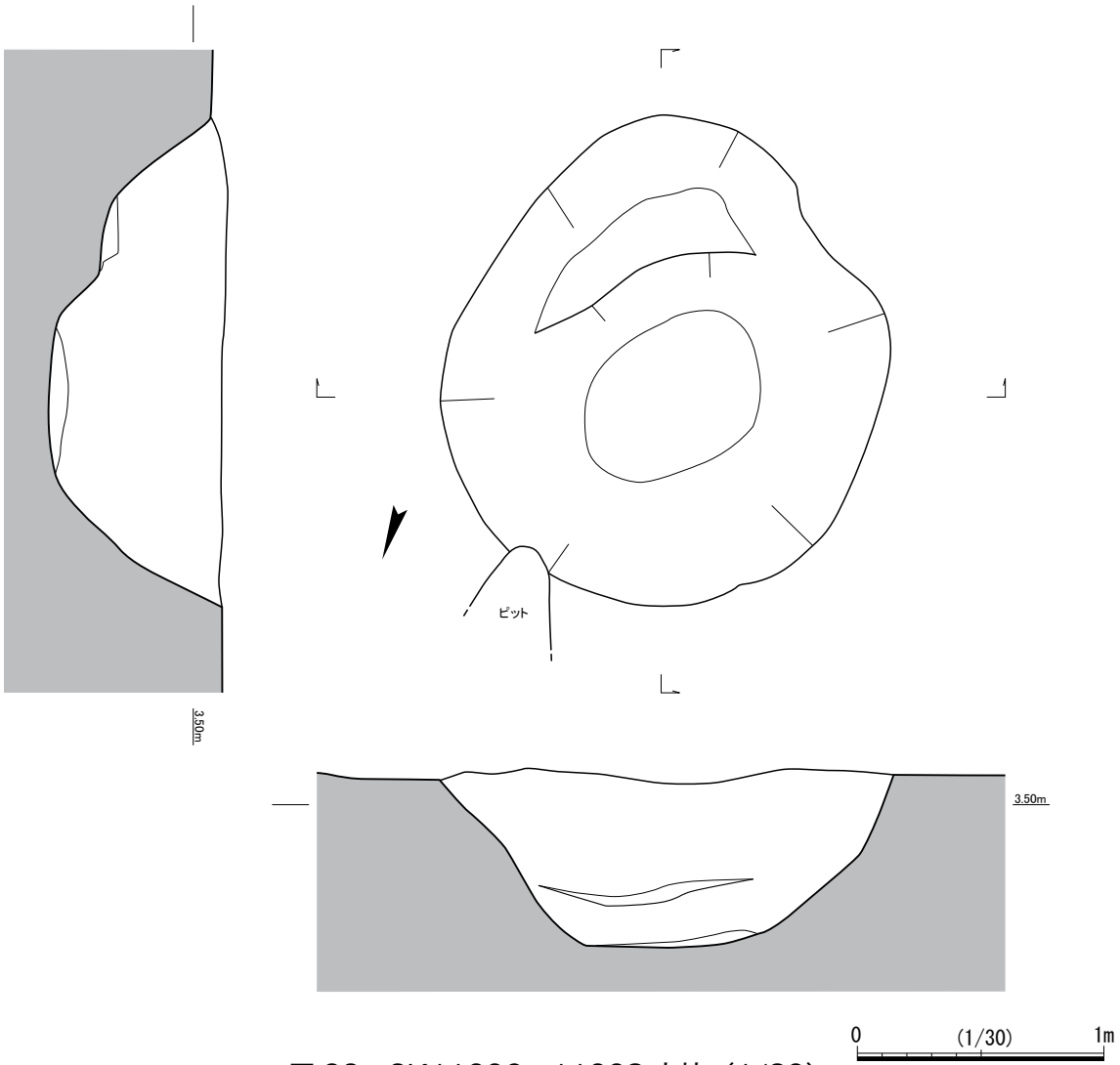


図 99　SK11006・11008 土坑（1/30）

SK11010

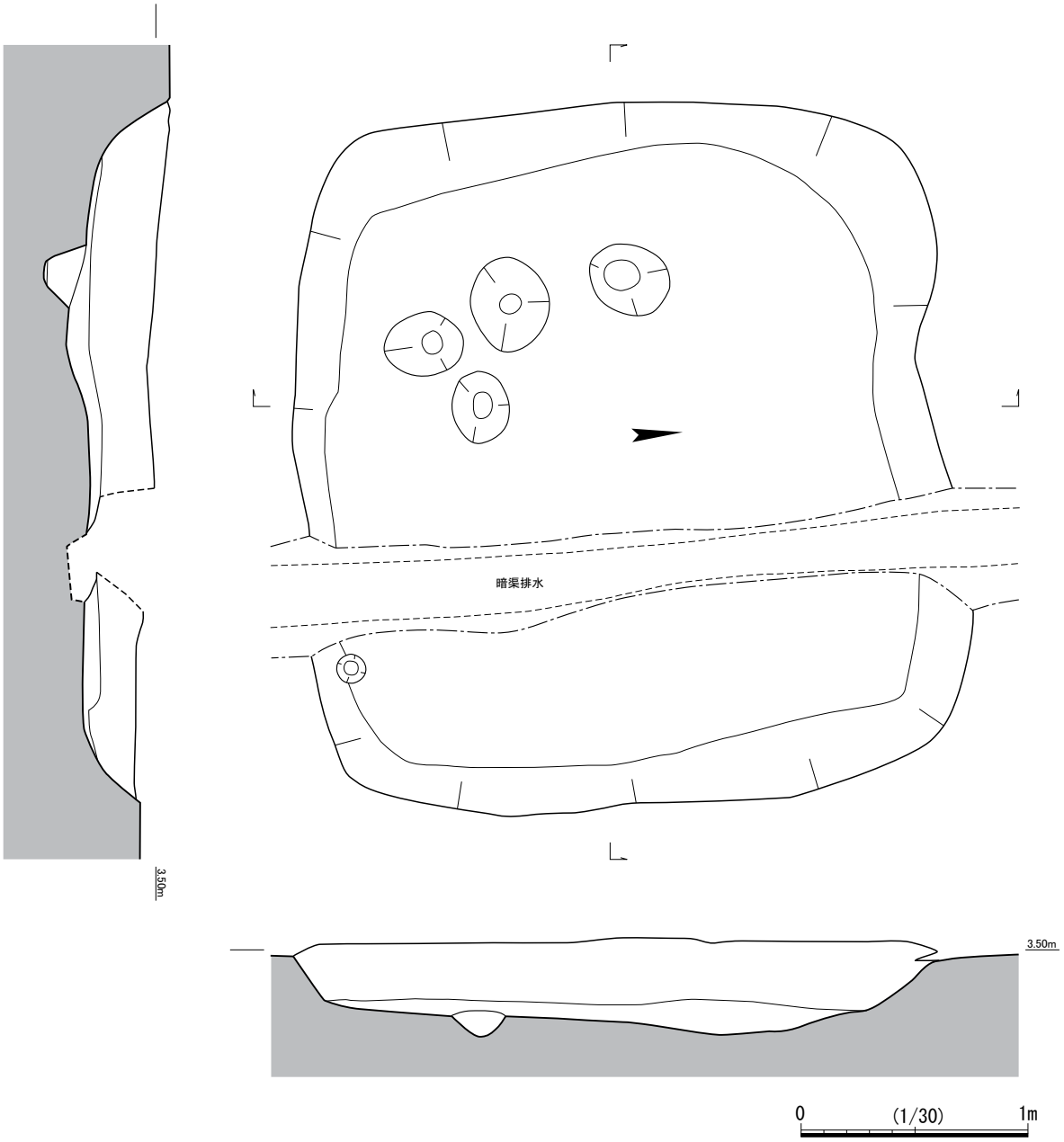


図 100　SK11010 土坑（1/30）

平面形態は正方形に近く、一部暗渠により切られる。坑底は西から東に傾く台形状になっている。規模は長軸 3.10 m、短軸 2.80 m、深さ 0.32 mを測る。

出土遺物は、弥生中期の土器が出土している。

ＳＫ１１０３７

O-34 区画に位置する遺構である。SB11009 と重なる。西側に SH11004 等、南側には竪穴住居群がある。

平面形態は不整楕円形で、西側に一段掘り込みがある。坑底は台形状である。規模は長軸 1.34 m、短軸 0.78 m、深さ 0.31 mを測る。

出土遺物は弥生土器が出土している。

ＳＫ１１０５１

Q-34 区画に位置する遺構である。SH11052、SH11252 に切られる。周囲には竪穴住居が多く作られる。

平面形態は不整長方形で、坑底は皿状になっており、南側に掘り込みが見られる。規模は長軸 2.32 m、短軸 1.50 m、深さ 0.20 mを測る。

出土遺物は、須玖Ⅰ式から須玖Ⅱ式の土器が出土している。

ＳＫ１１０５７

R-35 区画に位置する遺構である。北側で SH11028 に切られる。南側は SH11095 を切る。他に東側から南側にかけて竪穴住居群が有り、北西側には SB11077 等の掘立柱建物が見つかっている。

平面形態は北西側と東側を撹乱によって切られて不明だが、正方形か長方形になる。坑底はほぼ水平になる。規模は確認できる範囲で長軸（2.90）m、短軸（2.70）m、深さ 0.24 mを測る。

出土遺物は弥生土器、鉄製品等が東側に集中して出土している。

弥生時代の竪穴住居の可能性有り。

ＳＫ１１０７２

P-33 区画に位置する遺構である。西側から南側にかけて竪穴住居が見られ、南側には SK11075 がある。北東側は別の土坑によって切られる。

平面形態は不整楕円形。坑底は北側が深くなる。規模は長軸 1.26 m、短軸（1.04）m、深さ 0.14 mを測る。

出土遺物は、弥生土器が出土している。

ＳＫ１１０７５

P・Q-33 区画に位置する遺構である。南側は SH11012、SH11013 に切られる。北側に SK11072 がある。

平面形態は不整方形である。坑底は水平で、断面形は台形状である。規模は確認できる範囲で長軸 3.66 m、短軸（1.97）m、深さ 0.14 mを測る。

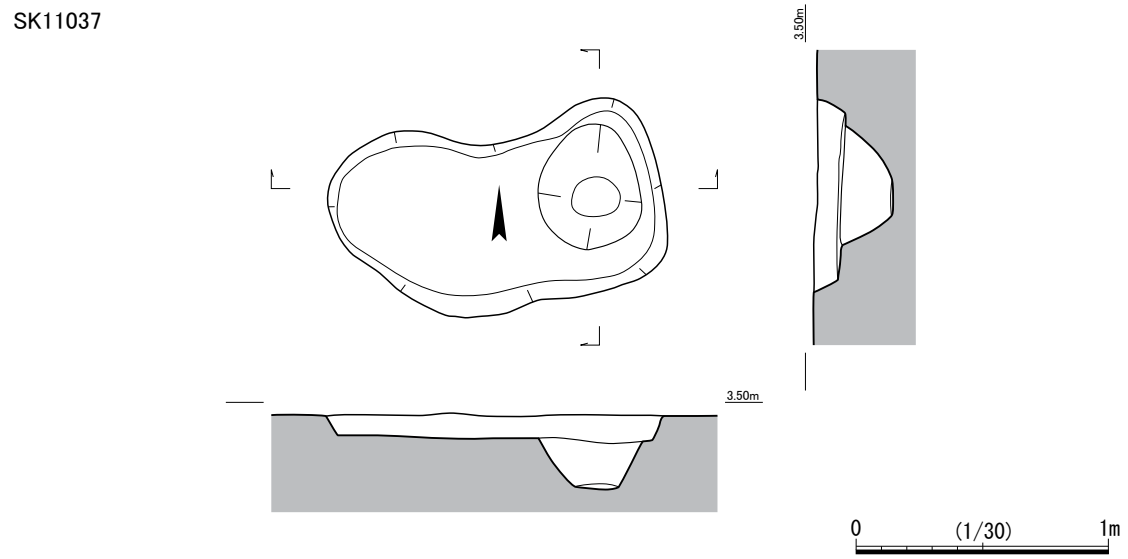
出土遺物は須玖 1 式の土器が出土している。

ＳＫ１１１０５

S-33 区画に位置する遺構である。西側は SB11046、南側には SH11068 がある。

平面形態は不整楕円形で、遺構中央が二段掘りとなる。規模は長軸 1.54 m、短軸 0.76 m、深さ 0.77 mを測る。

出土遺物は弥生土器が出土している。



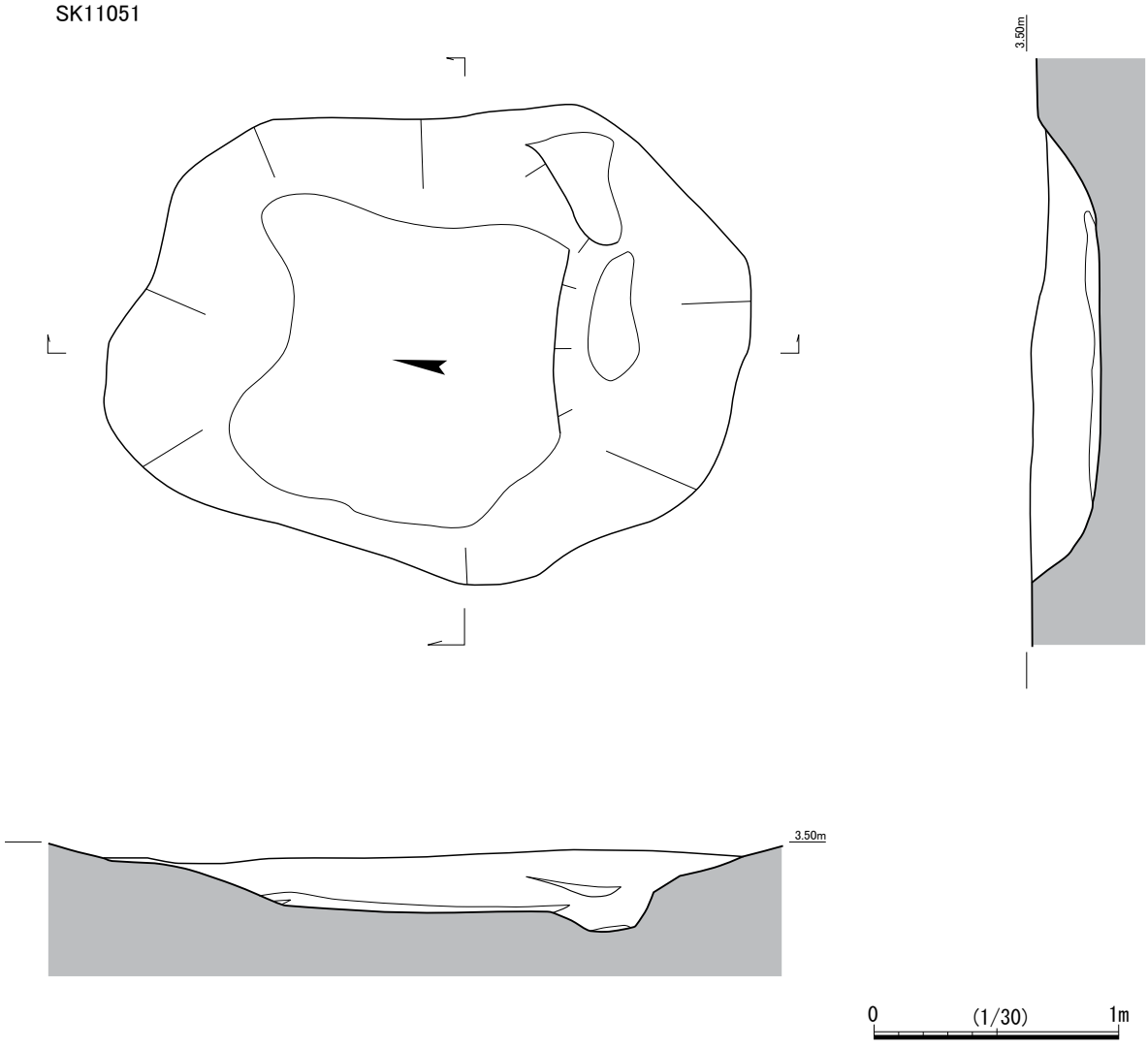
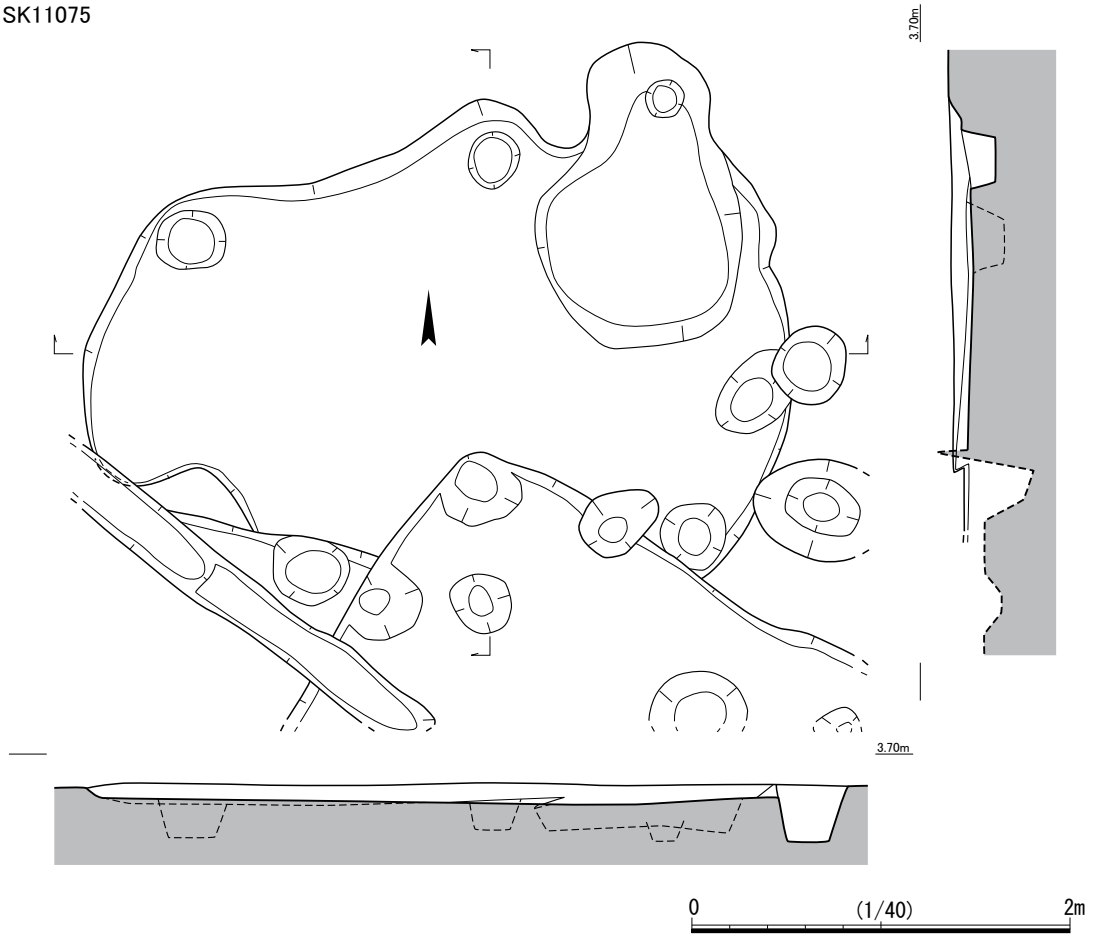


図 101　SK11037・11051 土坑（1/30）

図 102　SK11057・11072 土坑（1/30）



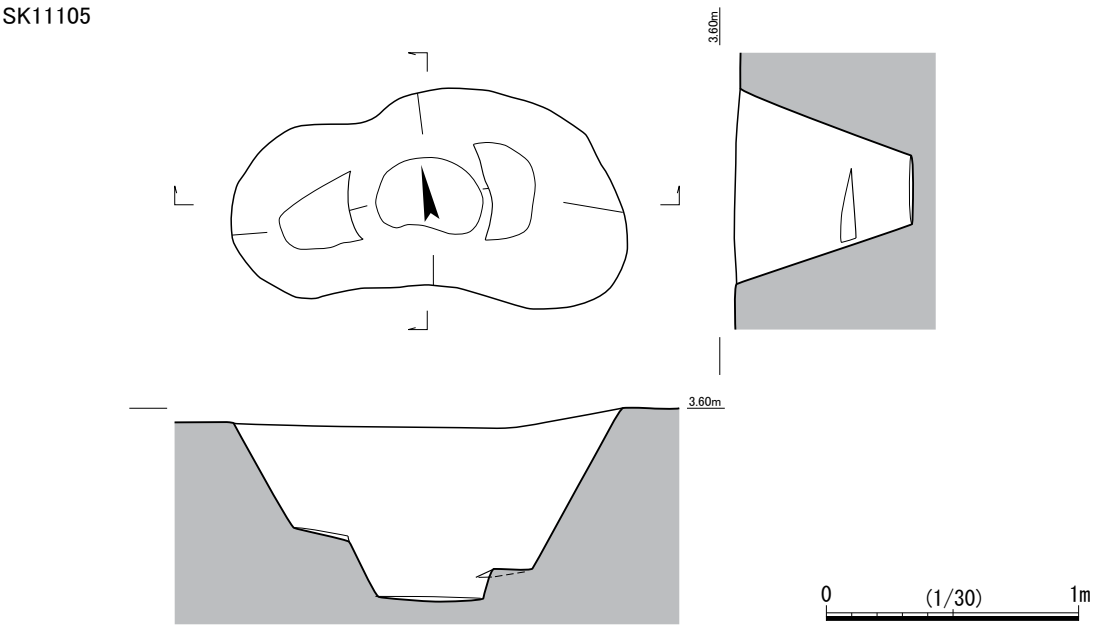


図 103　SK11075・11105 土坑（1/40、1/30）

ＳＫ１１１１４

U-35・36 区画に位置する遺構である。南側は SH11121、北側には SH11140 がある。

平面形態はＴ字のような不定形。規模は長軸 2.50 m、短軸 1.50 m、深さ 0.42 mを測る。

出土遺物は弥生土器が出土している。

ＳＫ１１１１８

U-33・34 区画に位置する遺構である。北東側は SD11108 を切る。また、西側には竪穴住居が密集しており、北側には SB11084 がある。

平面形態は楕円形で、東側に掘りこみが 2 箇所見られる。規模は長軸 2.14 m、短軸 0.84 m、深さ 0.38 mを測る。

出土遺物は弥生土器が出土している。

ＳＫ１１１２０

V-34・35 区画に位置する遺構である。北東側には SB11202 がある。

平面形態は楕円形で、土層が 3 層に分かれる。規模は長軸 1.80 m、短軸 1.24 m、深さ 0.62 mを測る。

出土遺物は弥生土器が出土している。

ＳＫ１１１２３

W-35 区画に位置する遺構である。これより東側は調査区外になっている。

平面形態は楕円形で、規模は長軸 2.64 m、短軸 1.44 m、深さ 0.20 mを測る。

出土遺物はなし。

ＳＫ１１１２４

X-36 区画に位置する遺構である。SX11137 の内側に有り、これを切る。

平面形態は楕円形で、規模は長軸 1.15 m、短軸 0.84 m、深さ 0.51 mを測る。

出土遺物は須玖Ⅰ式の土器が出土している。

ＳＫ１１１２８

P-35・36 区画に位置する遺構である。東側は SH11209、南側は撹乱によって大きく切られている。

正確な平面や規模は不明。西側に SH11205 等の竪穴住居、南側には SB11059 等の掘立柱建物がある。規模は確認できる範囲で長軸（2.52）m、短軸（2.22）m、深さ 0.12 mを測る。

出土遺物は弥生中期から後期の弥生土器が出土している。

竪穴住居の可能性有り。

ＳＫ１１１３５

T-35・36 区画に位置する遺構である。SH11133 に切られる。南側には SH11112 がある。

平面形態はフラスコ状の不定形で、規模は長軸 3.16 m、短軸 1.92 m、深さ 0.16 mを測る。

出土遺物は弥生土器が出土している。

ＳＫ１１１４８

W-39 区画に位置する遺構である。西側は SH11149、東側は SH11165 をる。その他に、南側は SB11102、北側には SH11150 等の竪穴住居が密集している。

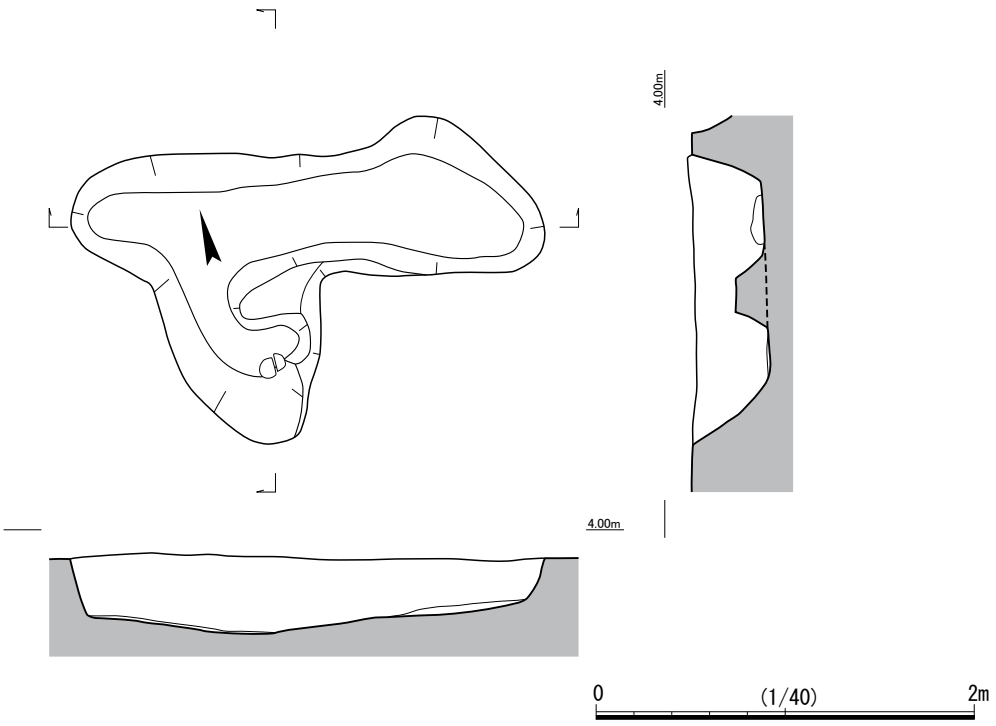
平面形態は長方形で、規模は長軸 2.32 m、短軸 1.50 m、深さ 0.32 mを測る。

出土遺物は弥生後期土器と土師器が出土している。

ＳＫ１１１５７

W -40 区画に位置する遺構である。北側は SH11153、SH11154 を切る。南西側には ST11158 がある。

SK11114



SK11118

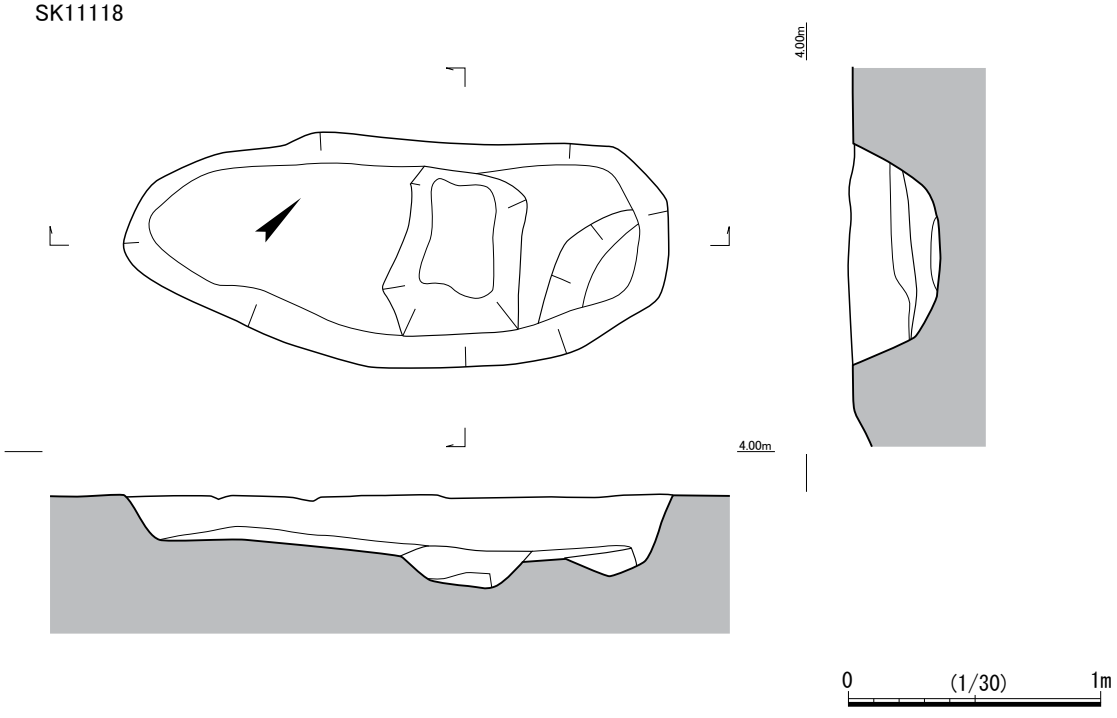


図 104　SK11114・11118 土坑（1/40、1/30）

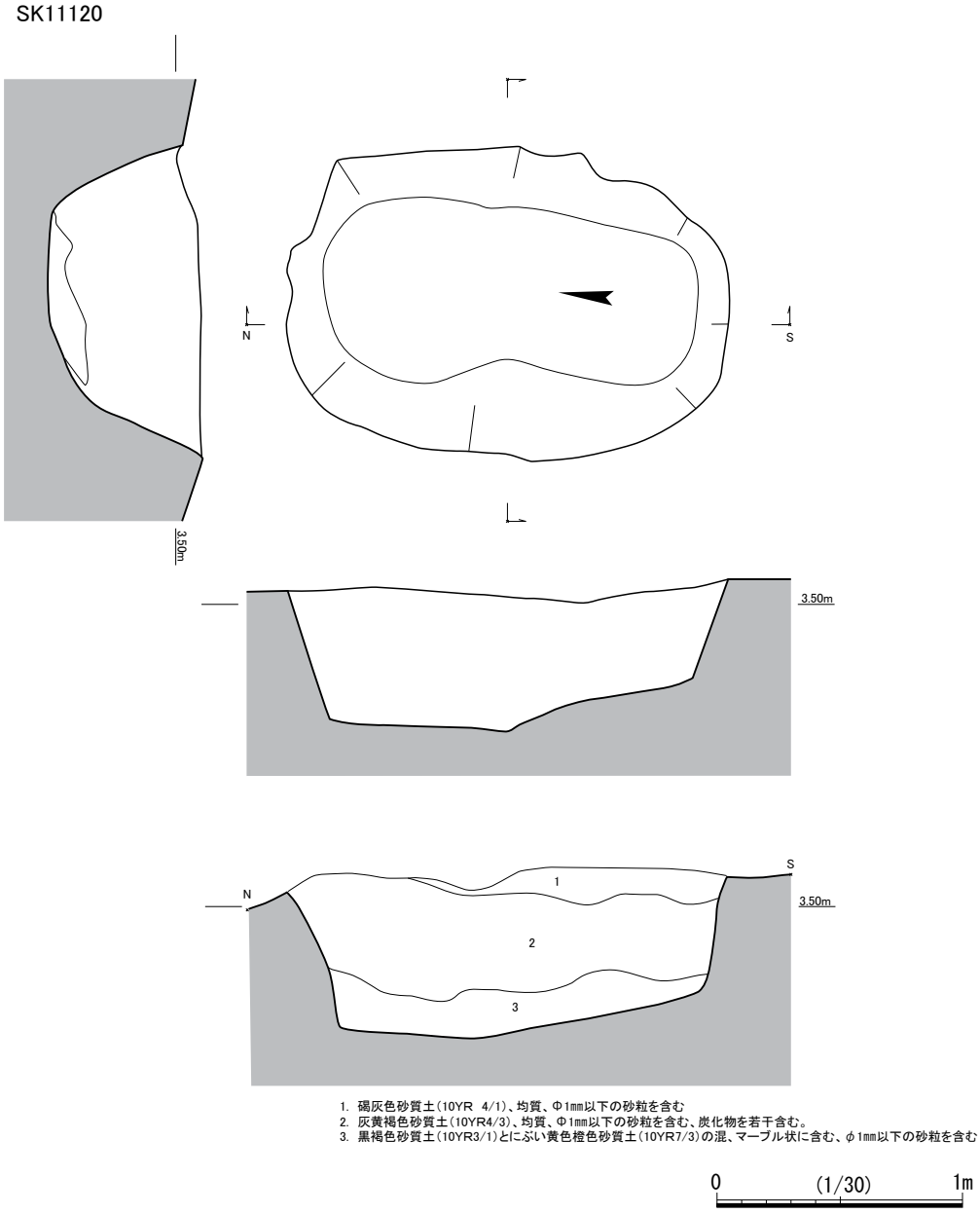
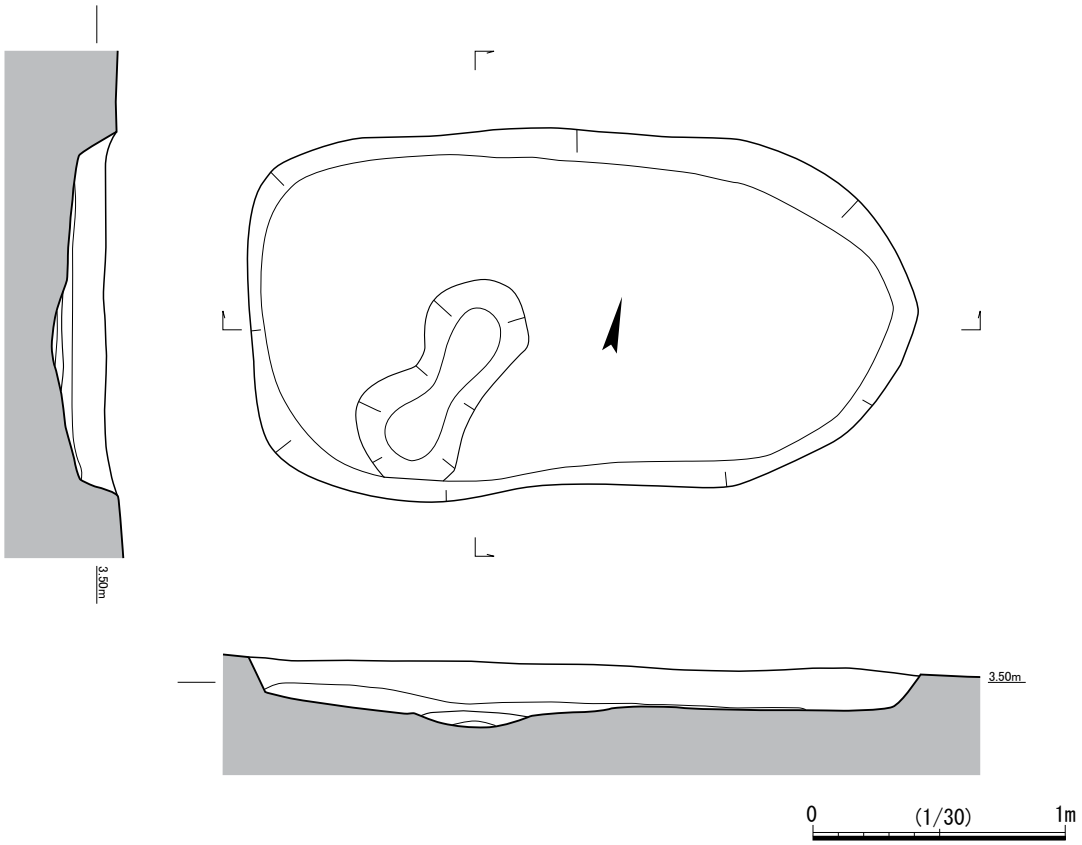


図 105　SK11120 土坑（1/30）

SK11123



SK11124

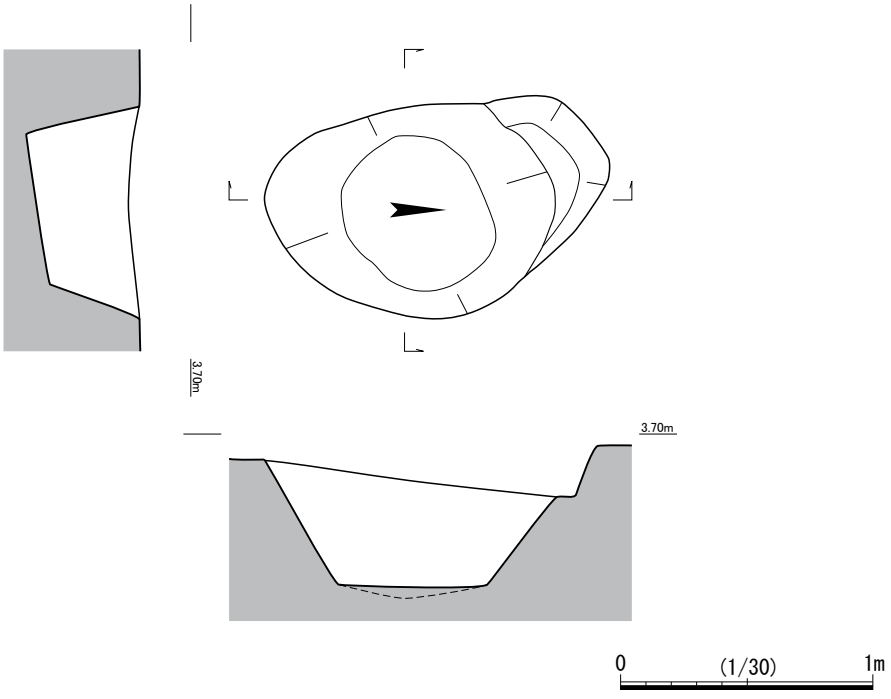
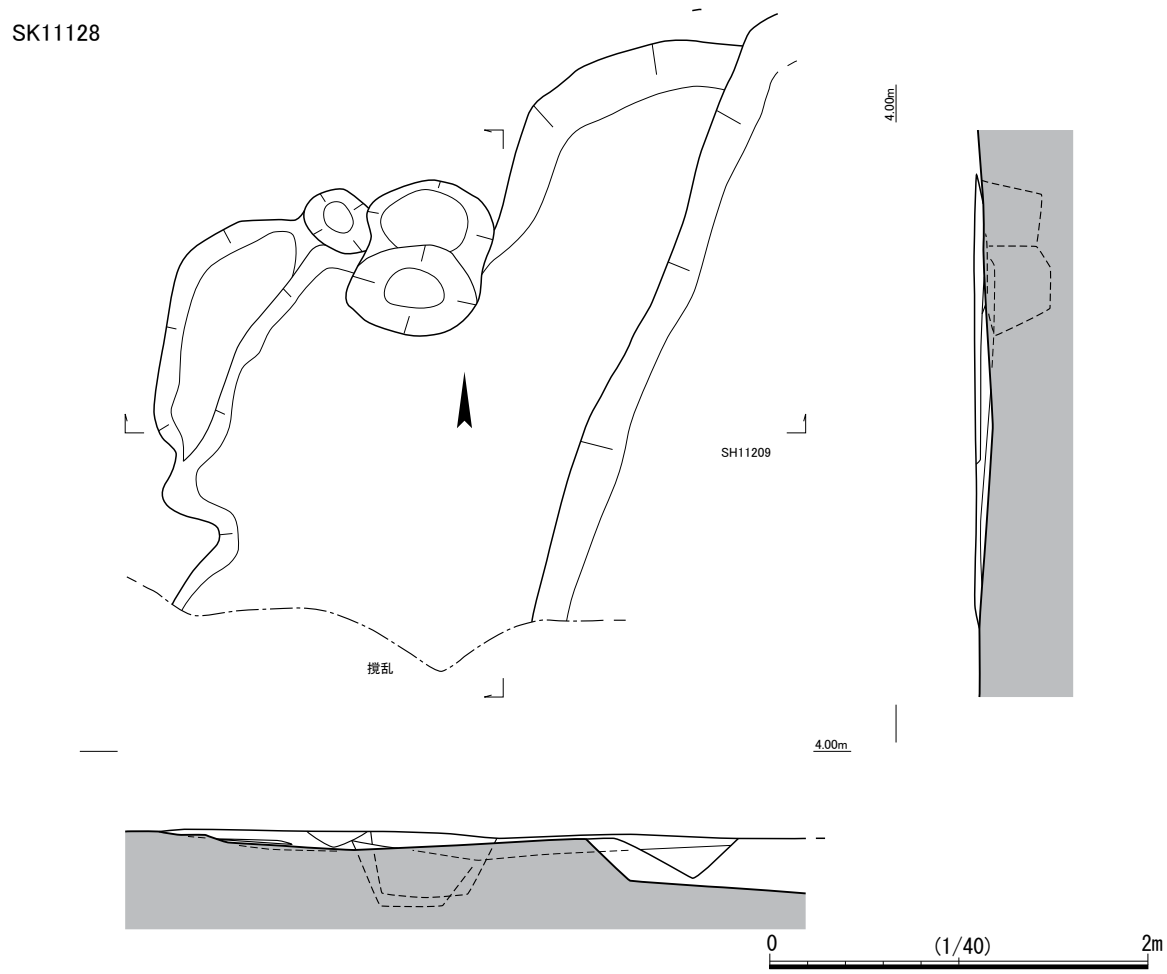


図 106　SK11123・11124 土坑（1/30）



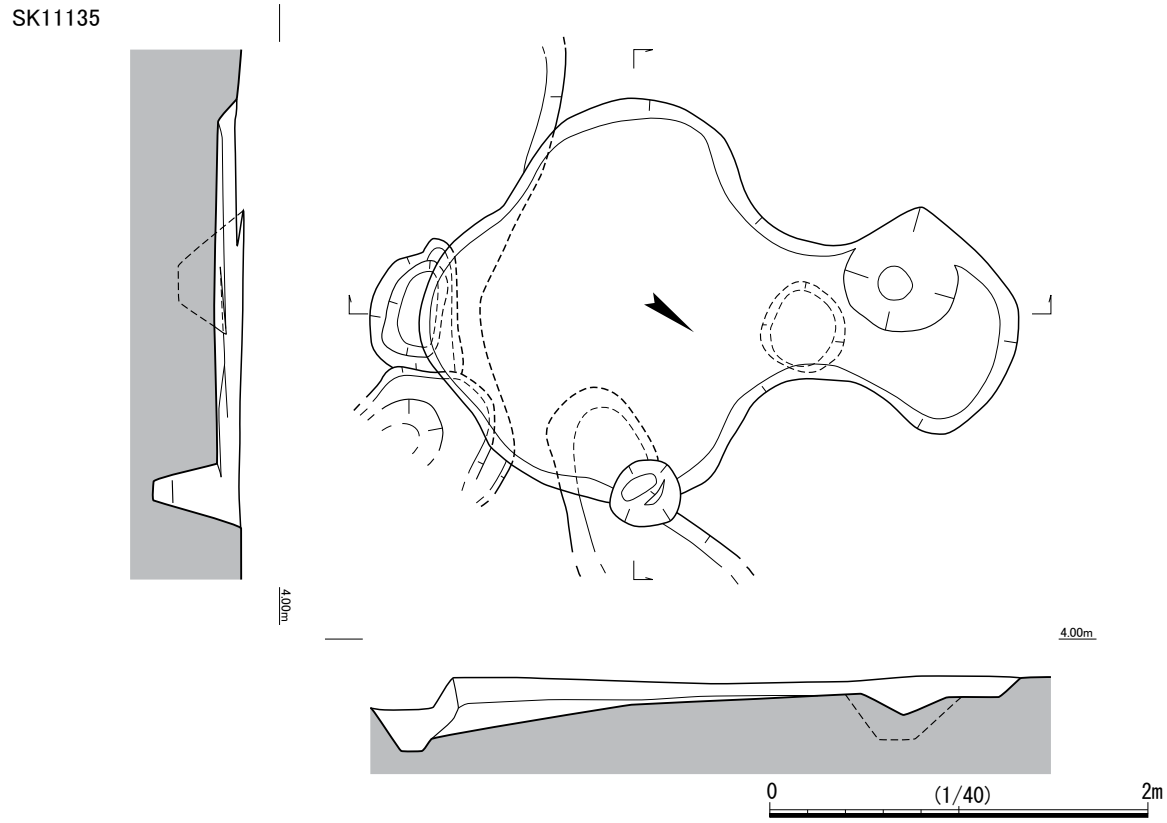
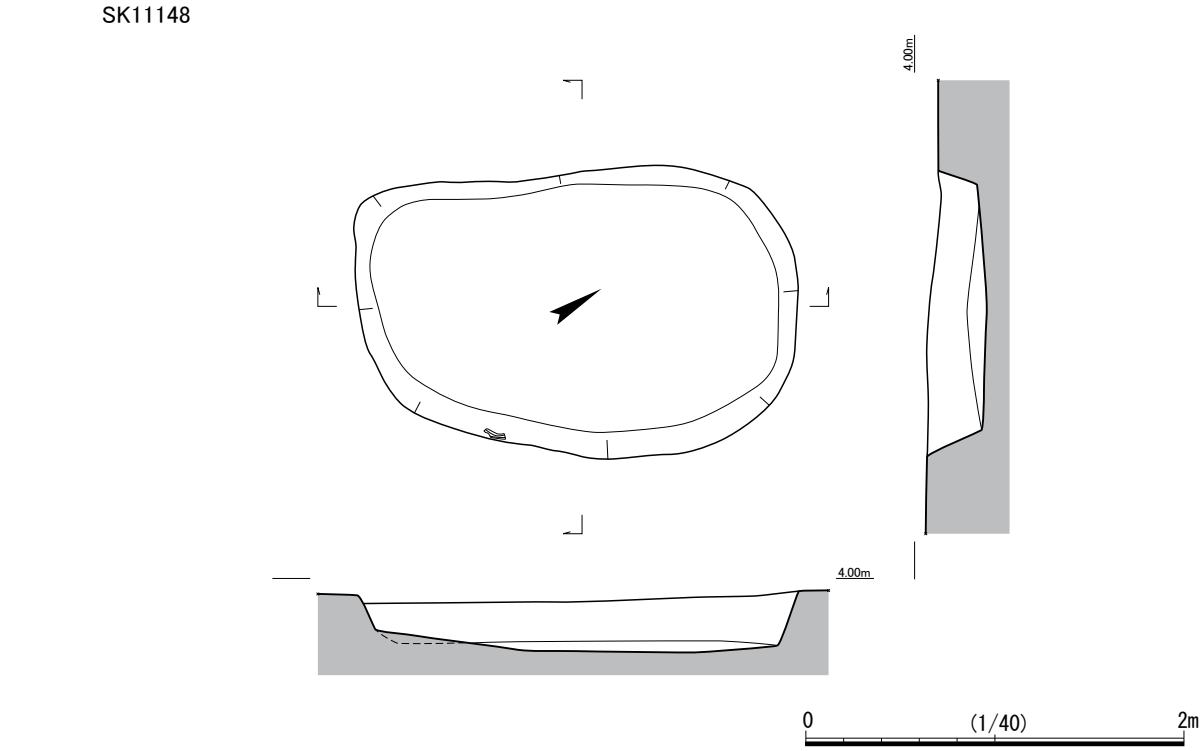


図 107　SK11128・11135 土坑（1/40）



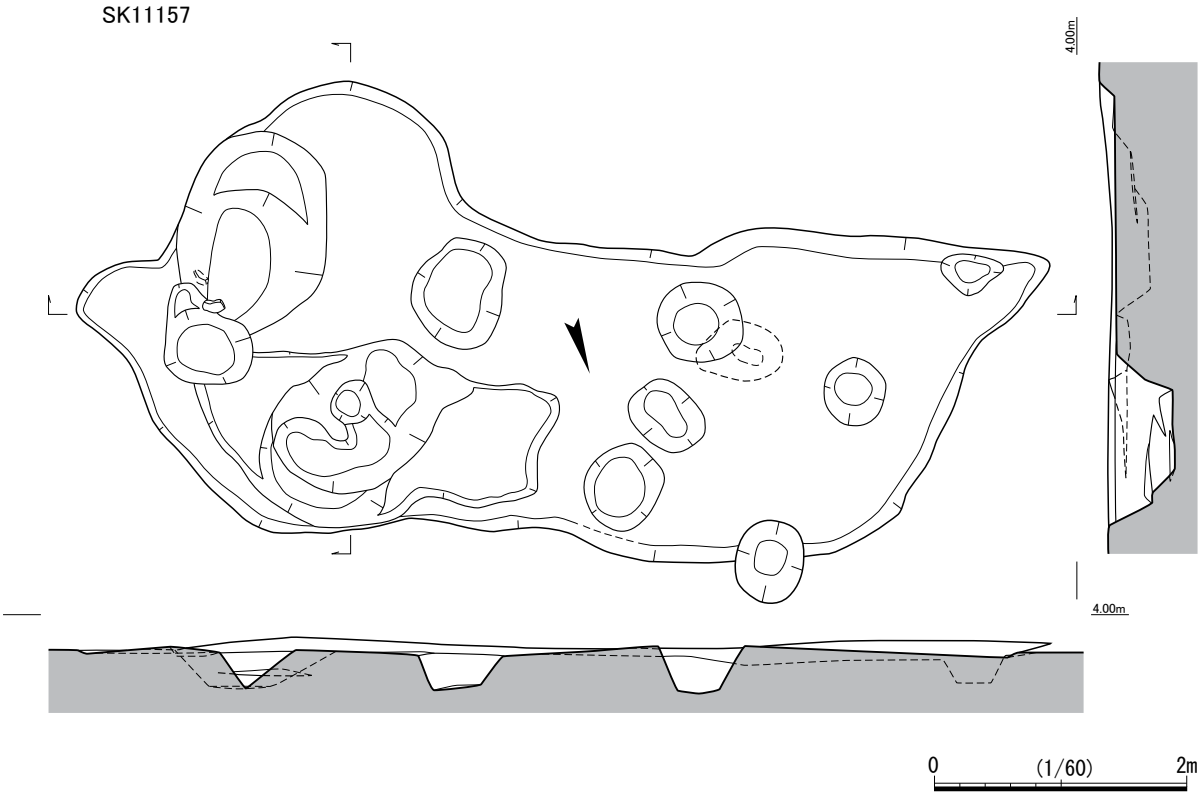


図 108　SK11148・11157 土坑（1/40、1/60）

平面形態は不正長方形で、規模は長軸 7.46 m、短軸 3.54 m、深さ 0.12 mを測る。
出土遺物は弥生土器、土師器が出土している。

ＳＫ１１１７４

R・S-38 区画に位置する遺構である。古墳の ST11002 の中に含まれ、南側から西側は SD11172、北側は SH11217 に切られる。
平面形態は長方形で、規模は長軸 5.02 m、短径 3.66 m、深さ 0.36 mを測る。
出土遺物は弥生土器、土師器が出土している。

ＳＫ１１１８６

U-38 区画に位置する遺構である。北側は SB11100、SH11189、SH11187、南側は SH11169 に切られる。
平面形態は不明で、規模は確認できる範囲で長軸 5.50 m、短軸（1.42）m、深さ 0.22 mを測る。
出土遺物は須玖Ⅰ式の土器が出土している。

ＳＤ１１２０１

Q・R-39 区画に位置する溝状遺構である。１１区の西側に位置し、東側には SX11001 がある。
規模は確認できる範囲で、長軸 11.0m、短軸 1.90m、深さ 0.61m を測る。
出土遺物は弥生土器、石鍋が出土している。個別遺構図は掲載していない。

ＳＫ１１２１４

O-36・37 区画に位置する遺構である。SH11212 内に含まれ、東側、南側、西側に竪穴住居群が見られる。
平面形態は不整円形で、規模は長軸 1.50 m、短軸 1.42 m、深さ 0.68 mを測る。
出土遺物は弥生土器、鉄製品が出土している。

ＳＫ１１２１５

O-37 区画に位置する遺構である。SH11212 内に含まれ、東側、南側、西側に竪穴住居群が見られる。
平面形態は不正円形で、規模は長軸 1.53 m、短軸 1.12 m、深さ 0.60 mを測る。
出土遺物は弥生土器が出土している。

ＳＤ１１２１８

Q-39 区画に位置する遺構である。西側が 11 区と 12 区の境界線になる。西側には SK12001 があるが、切り合い関係は不明。溝状遺構になる。
出土遺物は須玖Ⅰ式から須玖Ⅱ式の土器が出土している。

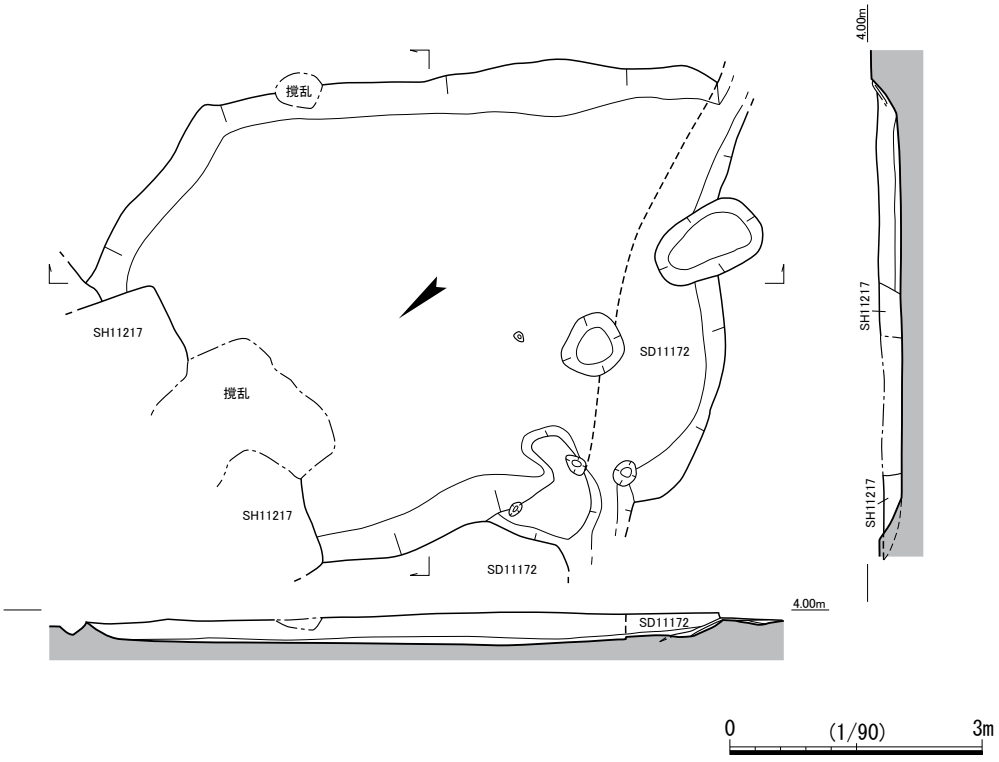
ＳＫ１１２３２

Ｐ -33 区画に位置し、西側から南側にかけて竪穴住居群が見られ、北側から東側にかけて SK11233 等の土坑が見られる。
平面形態は円形で、規模は長軸 0.70 m、短軸 0.60 m、深さ 0.27 mを測る。
出土遺物は、須玖Ⅰ式、ヒスイ製勾玉や弥生後期の土器が出土している。

ＳＫ１１２３３

Ｐ -33 区画に位置し、西側から南側にかけて竪穴住居群が、南側には SK11232 等の土坑が見られる。
平面形態は円形で、規模は長軸 0.72 m、短軸 0.72 m、深さ 0.30 mを測る。
出土遺物は須玖Ⅰ式から須玖Ⅱ式の土器が出土している。

SK11174



SK11186

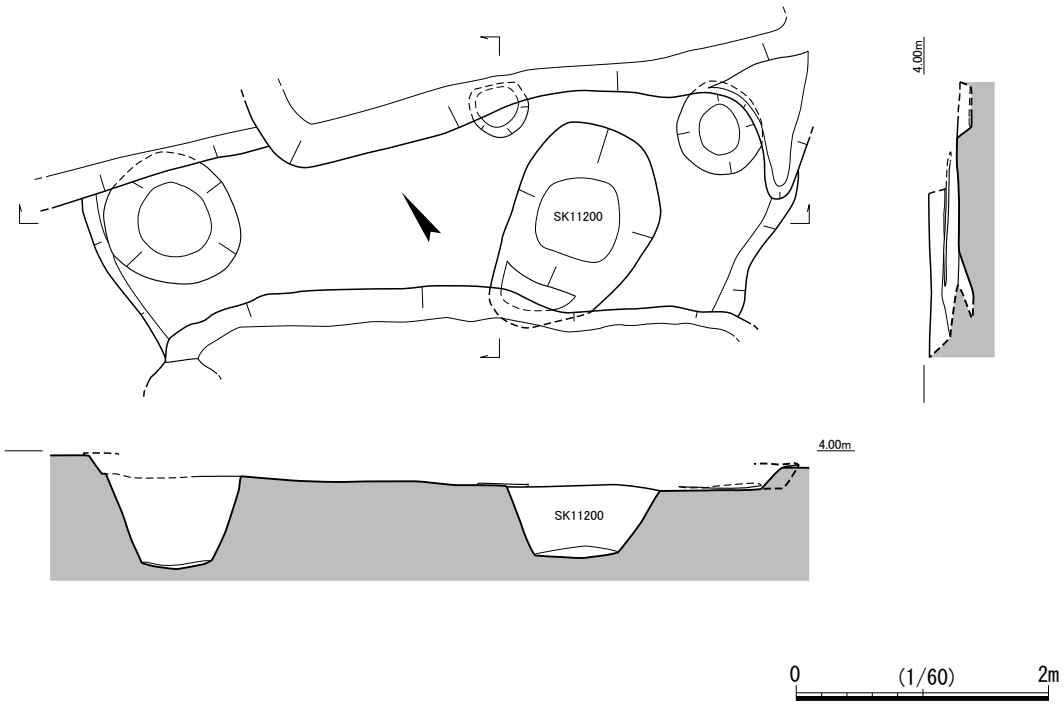


図 109　SK11174・11186 土坑（1/90、1/60）

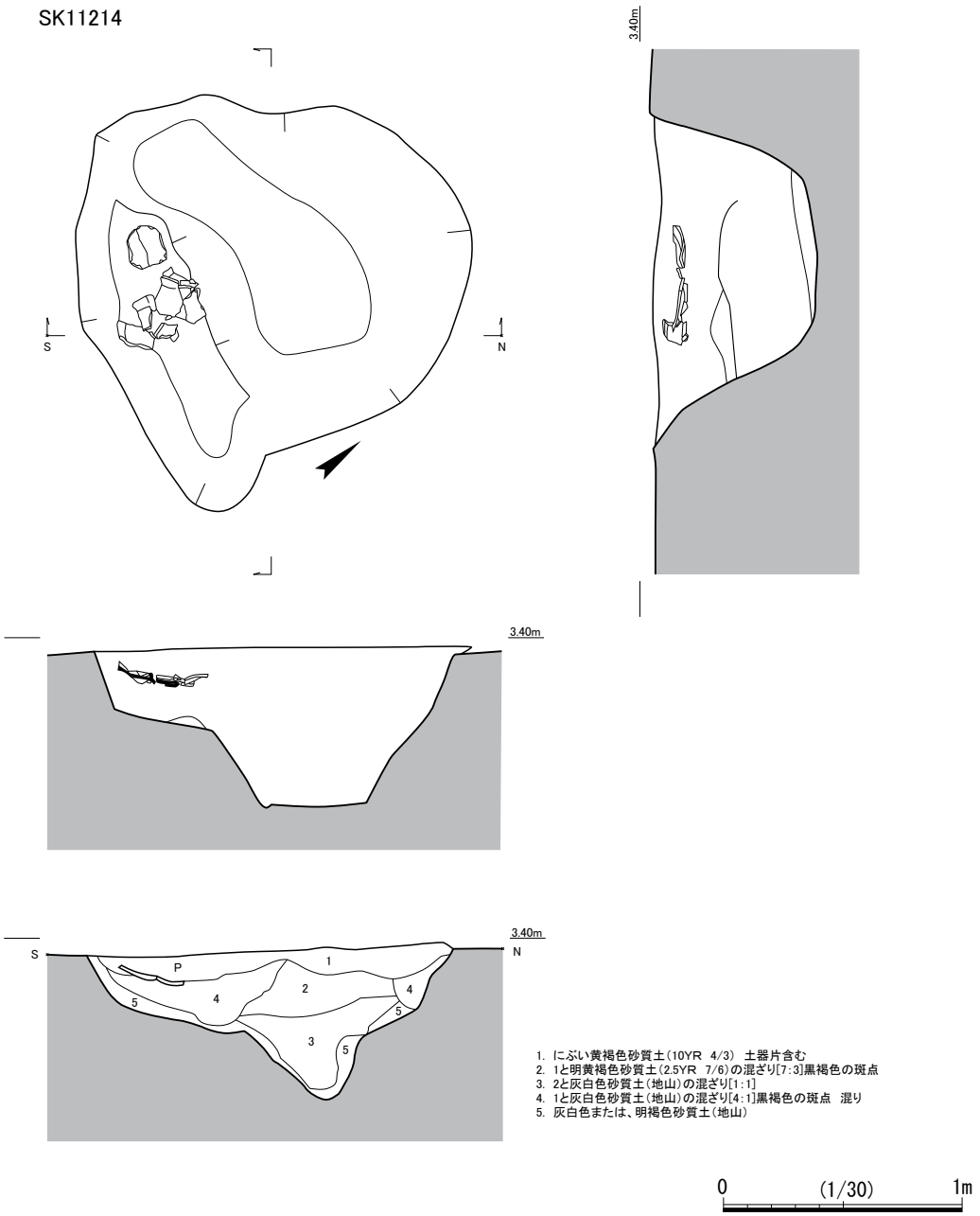
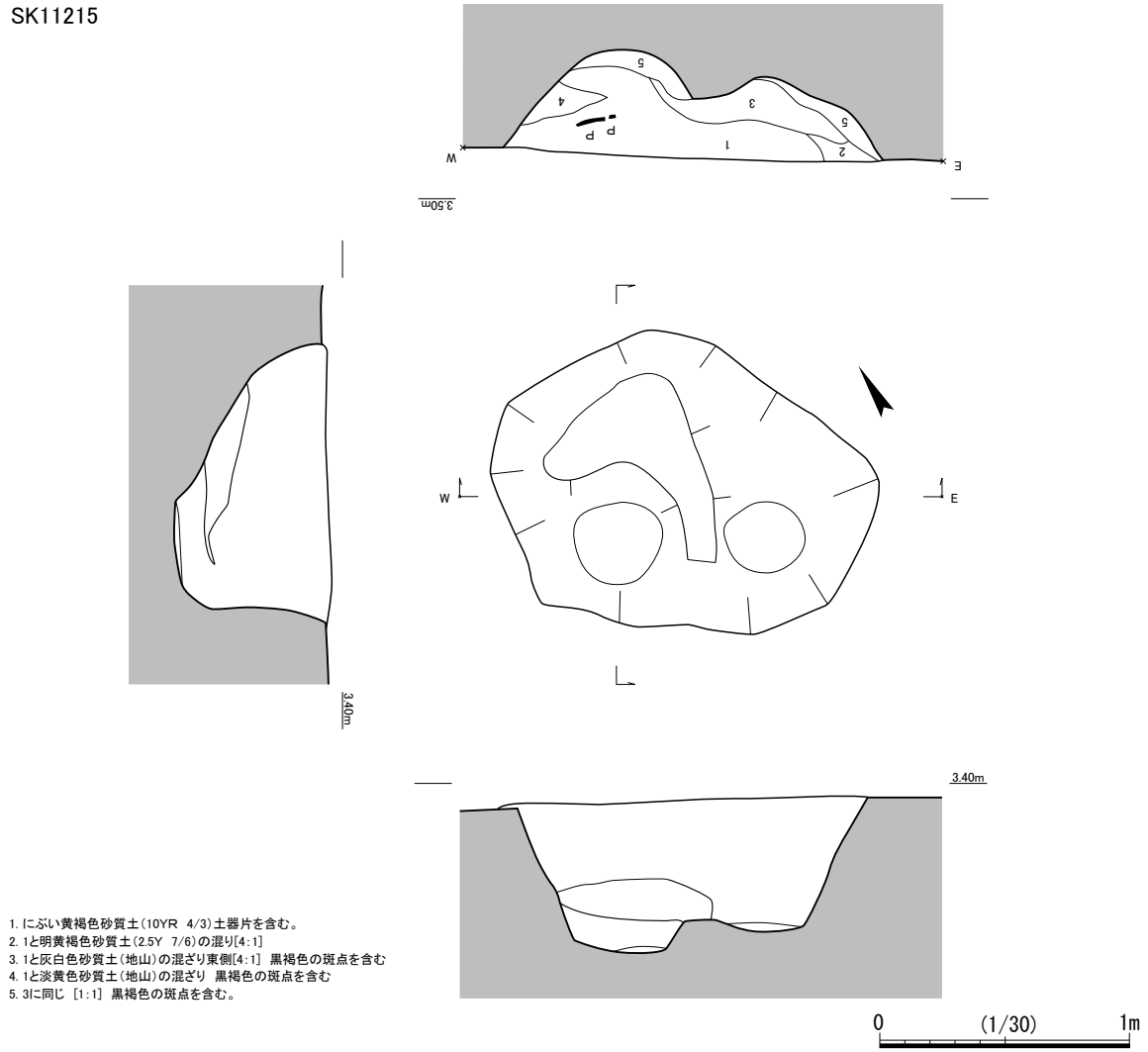


図 110　SK11214 土坑（1/30）

SK11215



SD11218

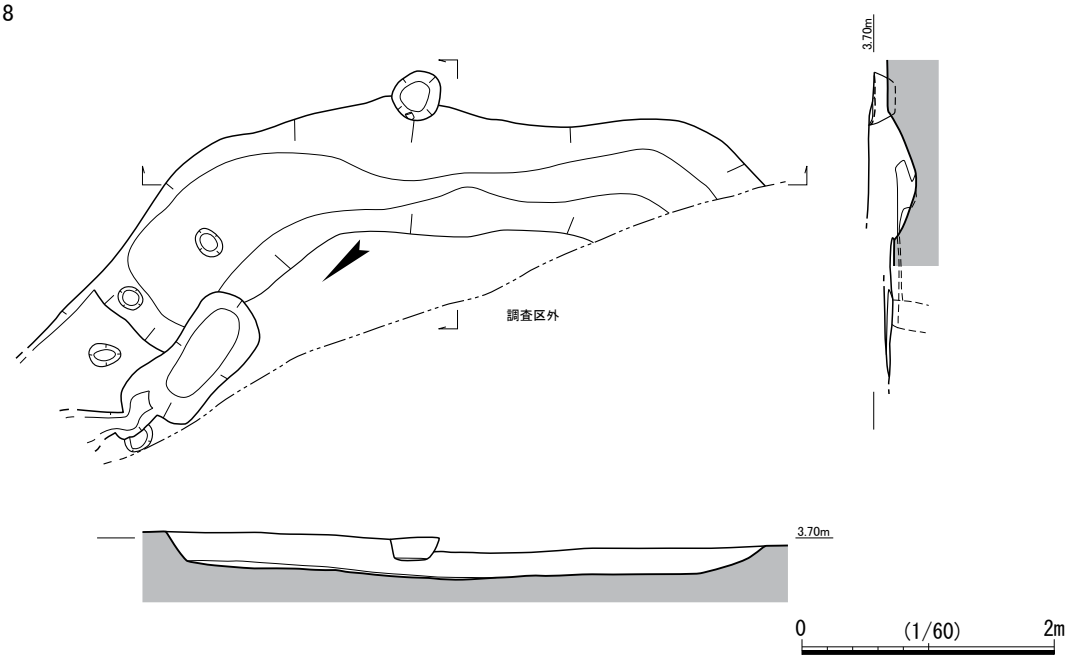
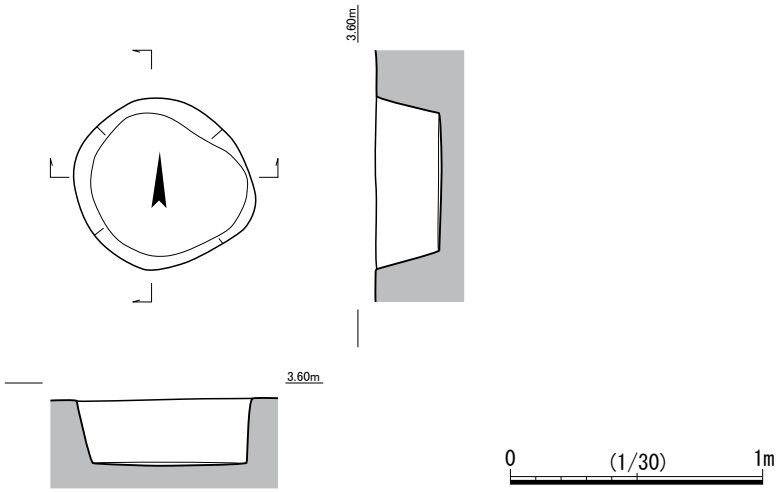


図 111　SK11215 土坑・SD11218 溝状遺構（1/30、1/60）

SK11232



SK11233

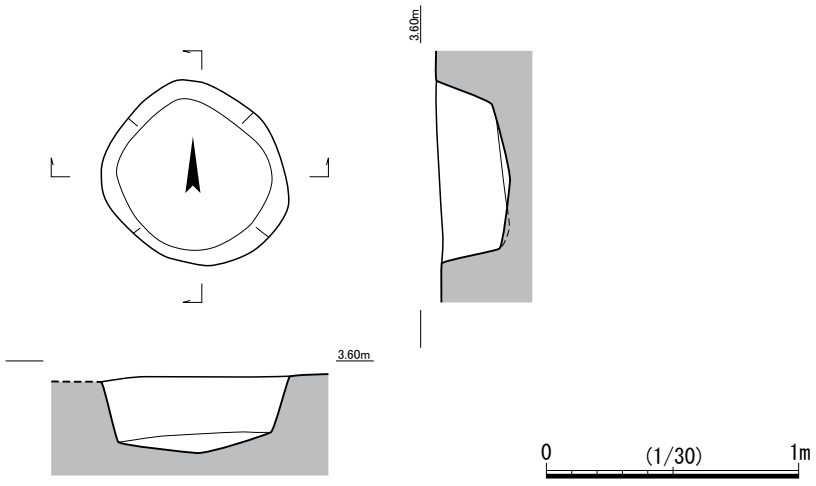


図 112　SK11232・11233 土坑（1/30）

ＳＫ１１２３８

P-36 区画に位置する遺構である。西側は SH11206、北側は SH11207 に切られる。東側から南側にかけて竪穴住居群がある。

平面形態は不整楕円形で、規模は確認できる範囲で長軸（1.70）m、短軸（0.68）m、深さ 0.19m を測る。

出土遺物は弥生土器が出土している。

ＳＫ１１２４４

Q-34 区画に位置する遺構である。SB11038 内に含まれ、南側にかけて土坑と掘立柱建物の遺構群が、東側、西側、北側にかけて竪穴住居群が見られる。

平面形態は不整円形で、規模は南東側に未掘部分があるが、確認できる範囲で長軸（1.56）m、短軸 1.00 m、深さ 0.67 mを測る。

出土遺物は須玖Ⅱ式の土器が出土している。

ＳＫ１１２４６

R-33 区画に位置する遺構である。周囲は土坑の遺構群が見られ、東側、西側、北側にかけて竪穴住居群が、南側には SB11044 等の掘立柱建物がある。

平面形態は不整楕円形で、規模は長軸 0.86 m、短軸 0.70m、深さ 0.62 mを測る。

出土遺物は須玖Ⅰ式の土器が出土している。

ＳＫ１１２４８

R-33 区画に位置する遺構である。周囲は土坑の遺構群が見られ、東側では SH11039 が隣接する。

平面形態は不整楕円形で、規模は 1.11 m、0.88 m、0.62 mを測る。

出土遺物は須玖Ⅱ式の土器が出土している。

ＳＫ１１２５０

R-33 区画に位置する遺構である。SB11038 内に含まれ、周囲は土坑の遺構群が見られ、南側は SK11254 に切られる。東側、西側、北側にかけて竪穴住居群が、南側には SB11044 等の掘立柱建物が見られる。

平面形態は不整円形で、規模は長軸 1.02 m、短軸 1.00 m、深さ 0.68 mを測る。

出土遺物は須玖Ⅰ式土器が出土している。

ＳＫ１１２６０

U-37 区画に位置する遺構である。南西側に竪穴住居群があり、西側は SH11190 に切られる。

平面形態は不整楕円形で、規模は長軸 6.10 m、短軸 2.68 m、深さ 0.19 mを測る。

出土遺物は須玖Ⅰ式土器が出土している。

ＳＫ１１２８２

V-41 区画に位置する遺構である。東側には SH11150 等の竪穴住居群が、西側には甕棺墓の墓域が広がる。

平面形態は不整長方形で、規模は長軸 4.06 m、短軸 2.70 m、深さ 0.22 mである。

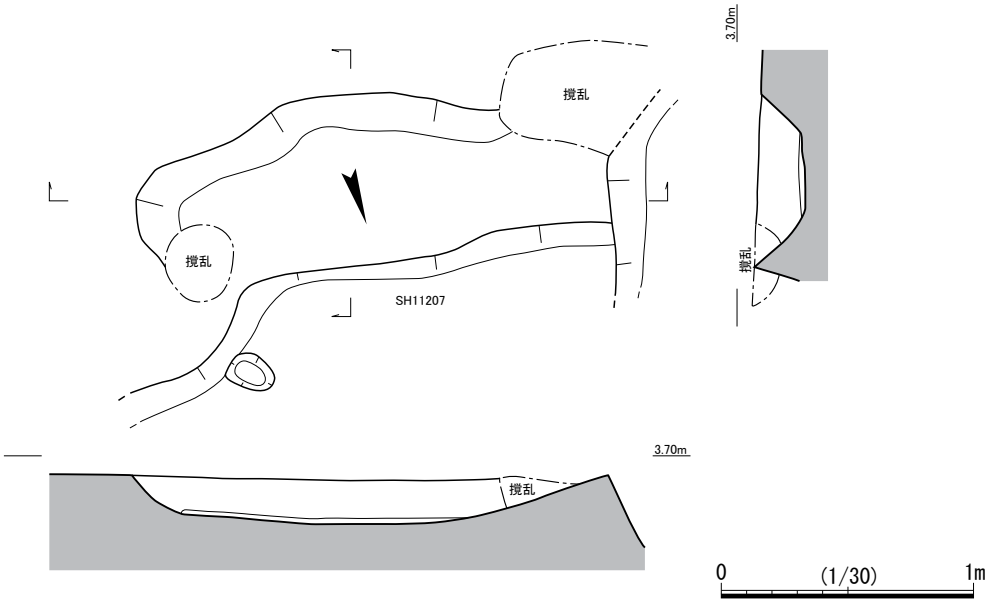
出土遺物は須玖Ⅱ式の土器が出土している。

ＳＫ１１２９７

W-41 区画に位置する遺構である。ST11156 の周溝内に含まれ、北西部には甕棺墓群が広がる。また、遺構西側は日仏合同トレンチによって一部調査されている。

平面形態は楕円形で、規模は確認できる範囲で長軸 1.73 m、短軸 1.40 m、深さ 0.37 mを測る。

SK11238



SK11244

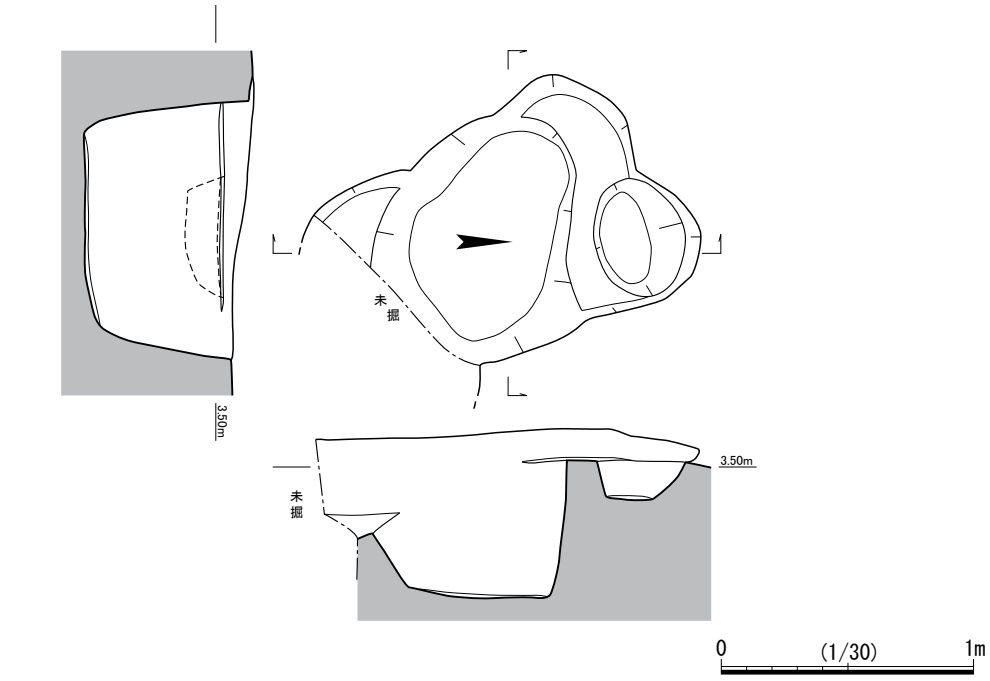
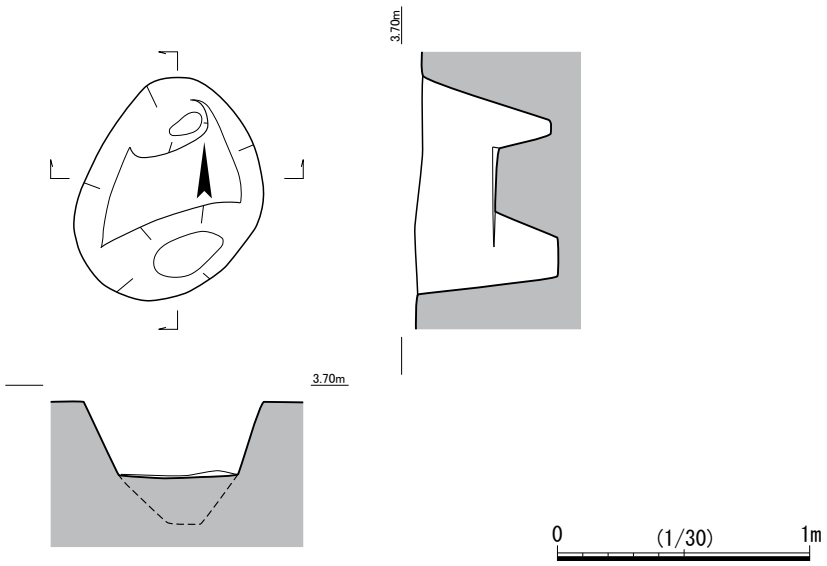


図 113　SK11238・11244 土坑（1/30）

SK11246



SK11248

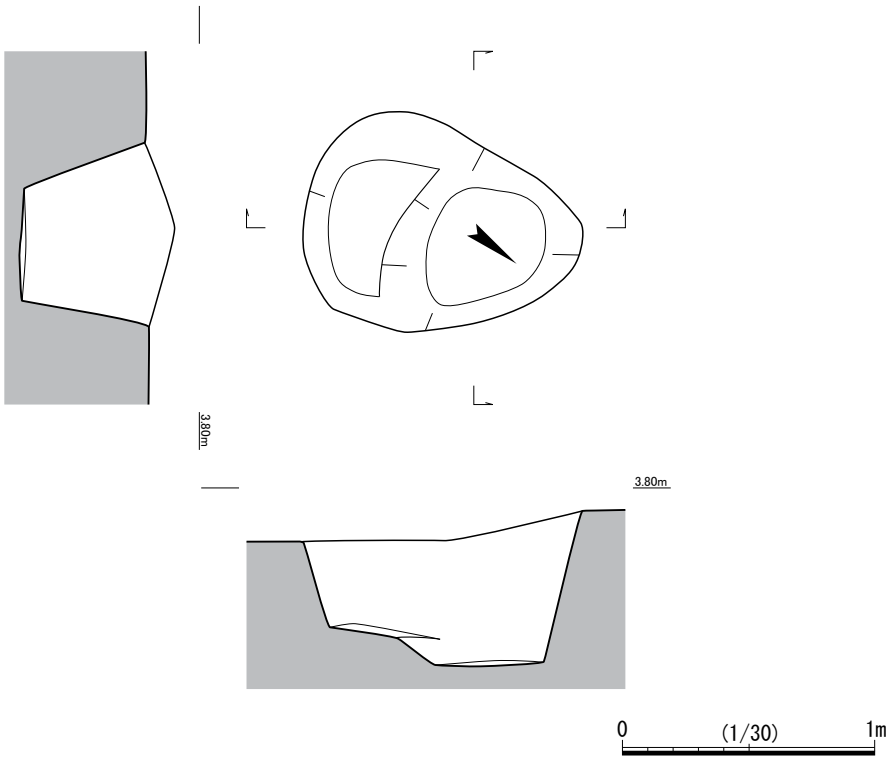
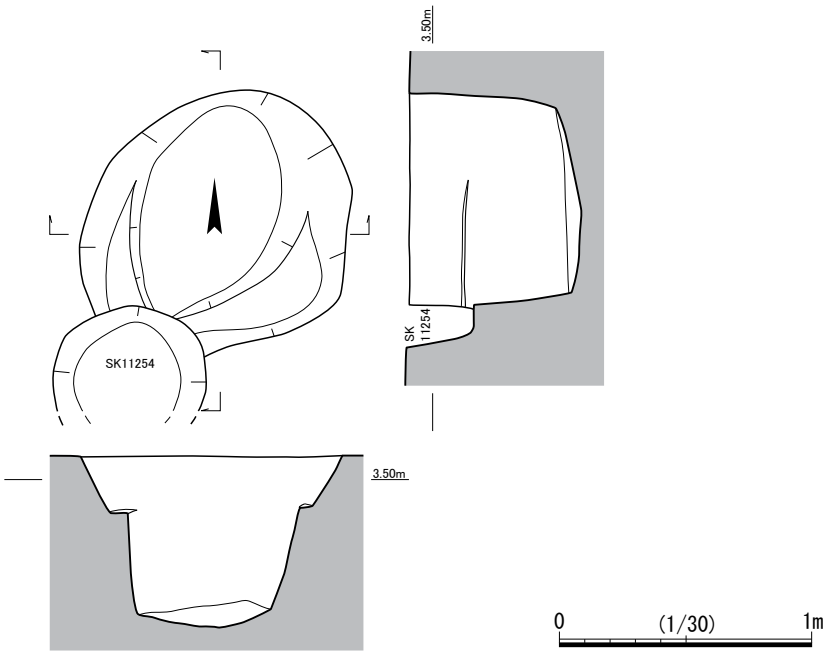


図 114　SK11246・11248 土坑（1/30）

SK11250



SK11260

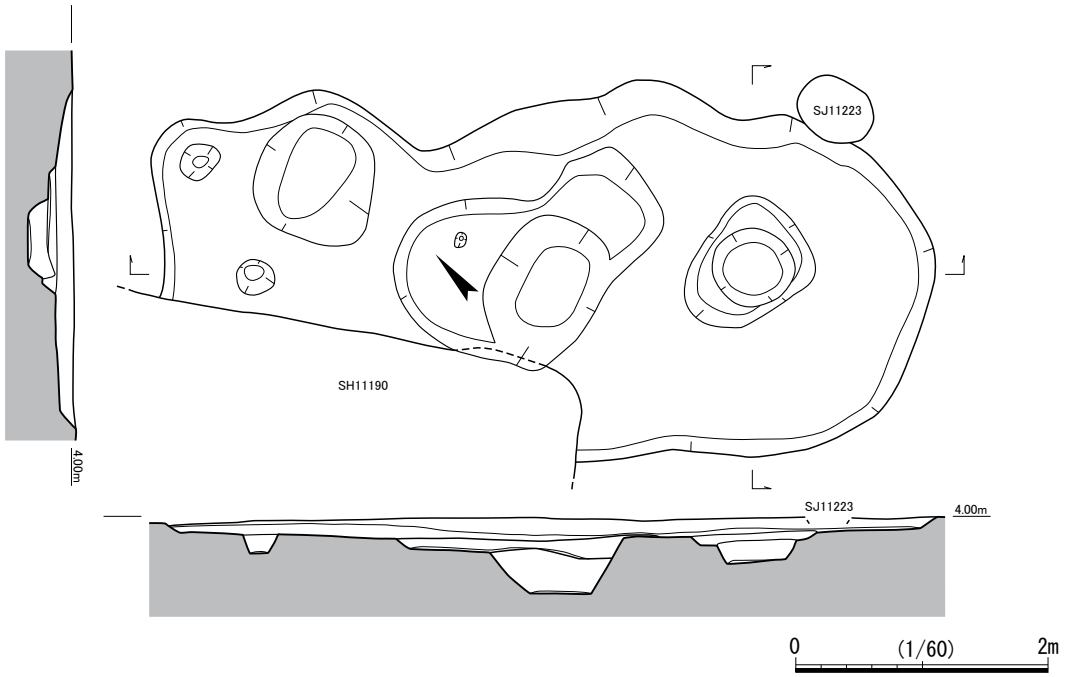
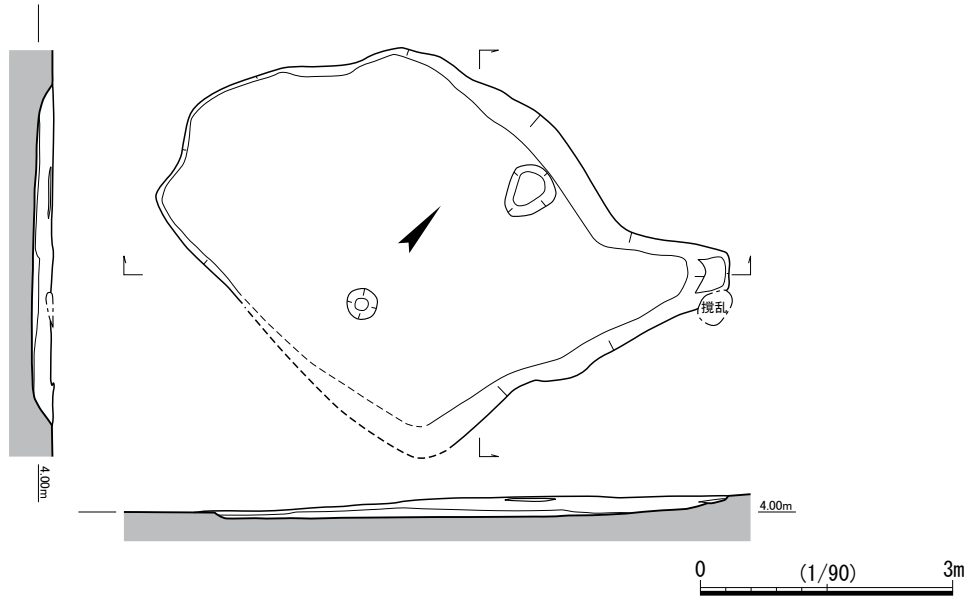


図 115　SK11250・11260 土坑（1/30、1/60）

SK11282



SK11297

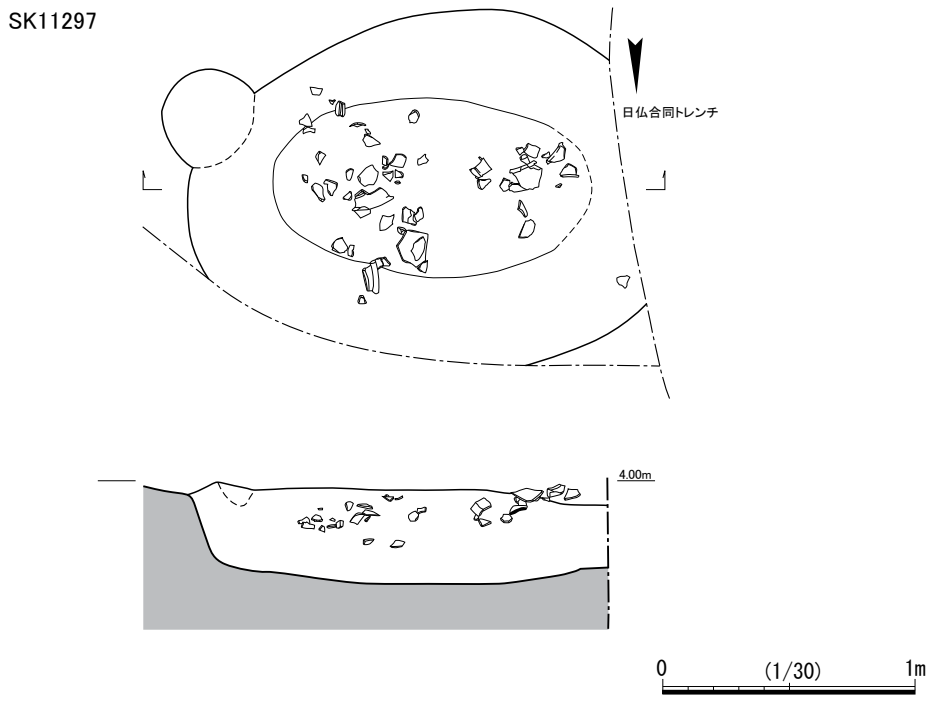


図 116　SK11282・11297 土坑（1/90、1/30）

出土遺物は弥生土器が出土している。

ＳＫ１２００５

P-40 区画に位置する遺構である。ST12032 の周溝内に含まれる。南側は SK12004、SK12024、北側には SK12040 が見られる。

平面形態は円形で、規模は長軸 0.84 m、短軸 0.79 m、深さ 0.16 mを測る。

出土遺物は弥生土器が北側の床面から約 10cm の所に集中して出土している。

ＳＫ１２０１８

N-43 区画に位置する遺構である。南西側は SK12034 に切られる。東側には SK12015 等の土坑が見られる。

平面形態は楕円形で、規模は長軸 2.72 m、短軸 1.75 m、深さ 0.48 mである。

出土遺物は弥生土器が北西側では底面上に、南東側では底面より約 20cm 浮いた状態で出土している。北西側では他に、火を受けた石が出土する。

ＳＫ１２０２５

P-41 区画に位置する遺構である。ST12032 の周溝内側に含まれる。また、SD12007・SD12022 の間に挟まれ、北東側には SH12027 等の竪穴住居が見られる。

平面形態は不整楕円形で、規模は長軸 1.40 m、短軸 1.28 m、深さ 0.12 mを測る。

出土遺物は弥生土器が出土している。

ＳＫ１２０４２

P-41 区画に位置する遺構である。ST12032 の周溝内側に含まれ、北側は SD12022 に切られる。

平面形態は楕円形で、規模は確認できる範囲で長軸（1.11）m、短軸（0.75）m、深さ 0.45 mを測る。

出土遺物は弥生土器が底面より 15cm 浮いた状態で出土している。

ＳＫ１２０４４

O-39 区画に位置する遺構である。SX12081 の周溝内に含まれる。南側に SK12050 があり、これを切る。平面形態は楕円形で、規模は長軸 2.22 m、短軸 1.02 m、深さ 0.61 mを測る。

土層が二層に分けれ、上層からは須恵器片が、下層は弥生土器が出土している。

ＳＫ１２０５０

O-39 区画に位置する遺構である。SX12081 の周溝内に含まれる。また、北側に SK12044 があり、これに切られている。

平面形態は楕円形で、規模は確認できる範囲で長軸（0.90）m、短軸 0.78 m、深さ 0.35 mである。

検出面付近を中心に弥生土器、鉄が出土している。

ＳＫ１２０５１

R-42 区画に位置する遺構である。西側には SK12076 があり、周囲に周溝墓が作られている。

平面形態は楕円形で、規模は長軸 1.55 m、短軸 0.92 m、深さ 0.62 mを測る。

土層が 2 層に分かれ、弥生土器が 1 層と 2 層の間で出土している。

ＳＫ１２０７０

R・S-41・42 区画に位置する遺構である。東側は撹乱に大きく削られ、南側は SX12057、周溝墓に切られる。平面形態は正方形か。規模は確認できる範囲で長軸（4.70）m、短軸（4.30）m、深さ 0.25 mを測る。

出土遺物は弥生土器が出土している。

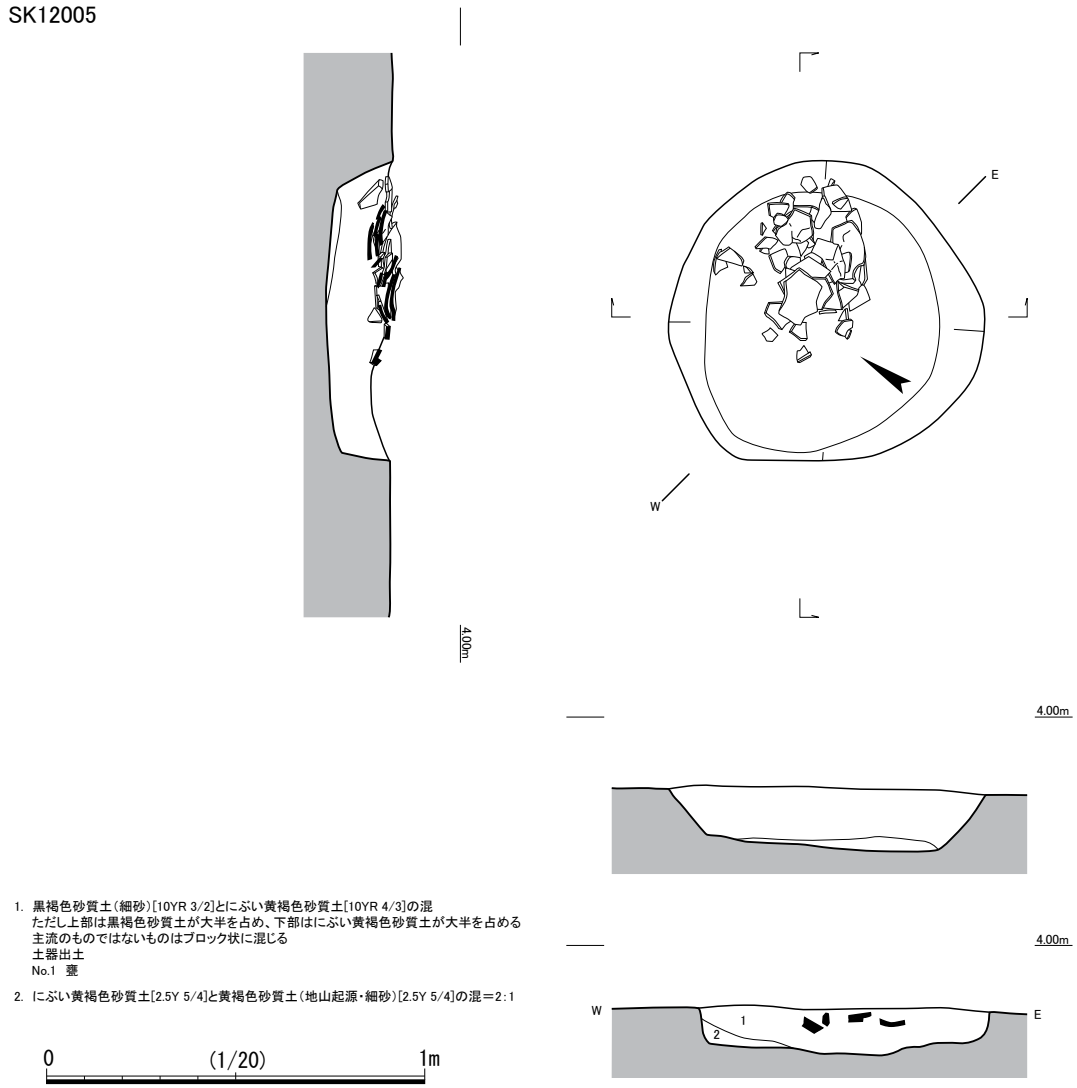
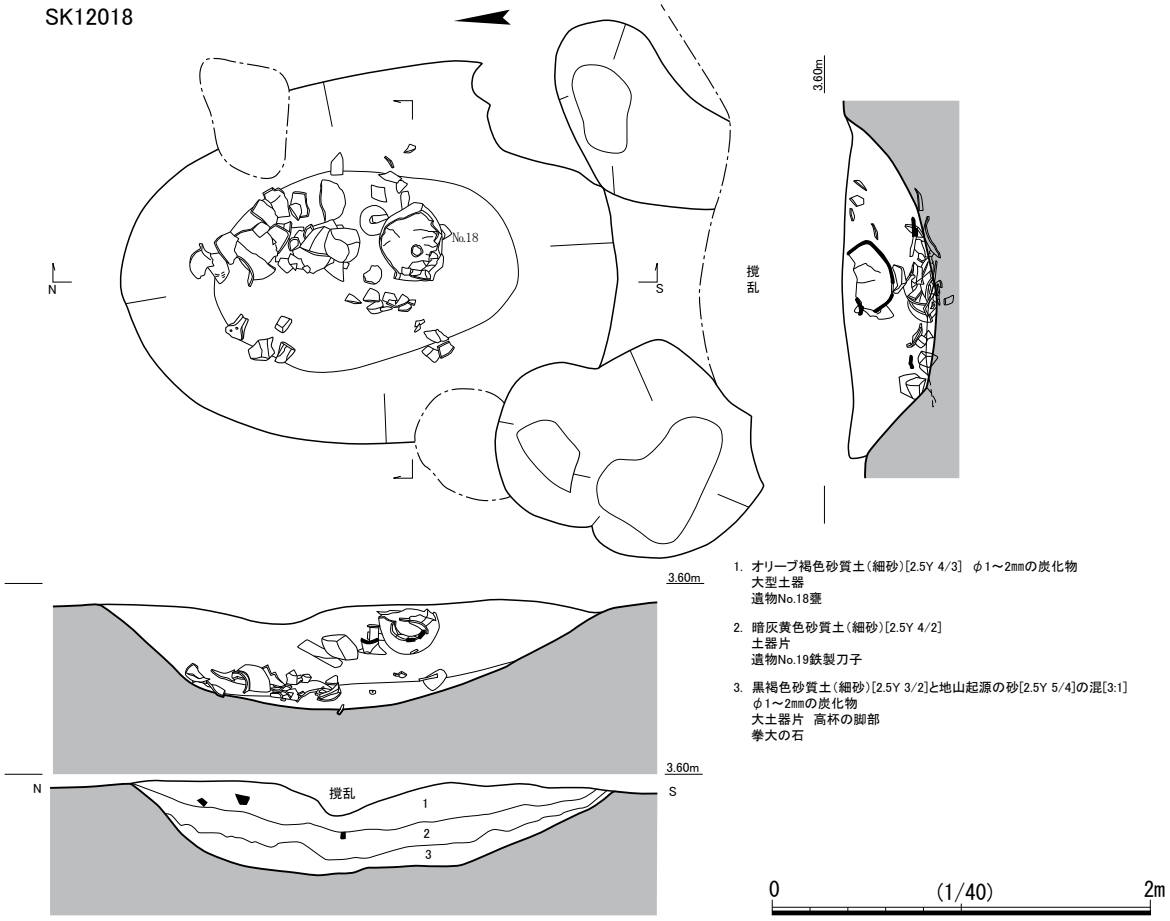


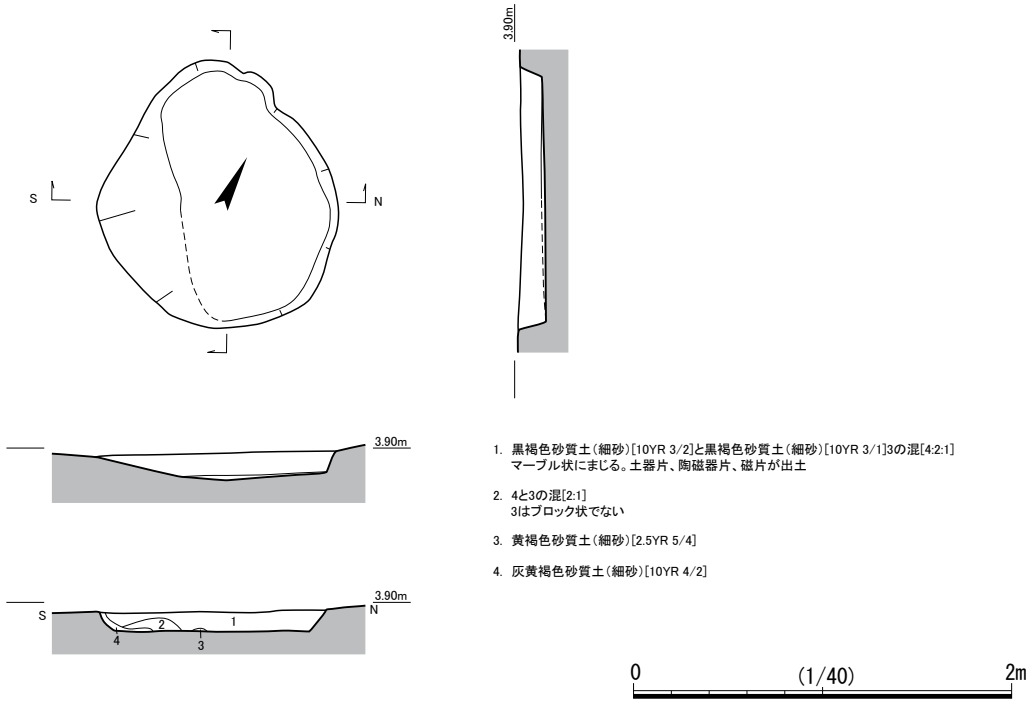
図 117　SK12005 土坑（1/20）

SK12018



1. オリーブ褐色砂質土(細砂)[2.5Y 4/3] φ1～2mmの炭化物
   大型土器
   遺物No.18甕
2. 暗灰黄色砂質土(細砂)[2.5Y 4/2]
   土器片
   遺物No.19鉄製刀子
3. 黒褐色砂質土(細砂)[2.5Y 3/2]と地山起源の砂[2.5Y 5/4]の混[3:1]
   φ1～2mmの炭化物
   大土器片 高杯の脚部
   拳大の石

SK12025



1. 黒褐色砂質土(細砂)[10YR 3/2]と黒褐色砂質土(細砂)[10YR 3/1]3の混[4:2:1]
   マーブル状にまじる。土器片、陶磁器片、磁片が出土
2. 4と3の混[2:1]
   3はブロック状でない
3. 黄褐色砂質土(細砂)[2.5YR 5/4]
4. 灰黄褐色砂質土(細砂)[10YR 4/2]

図 118　SK12018・12025 土坑（1/40）

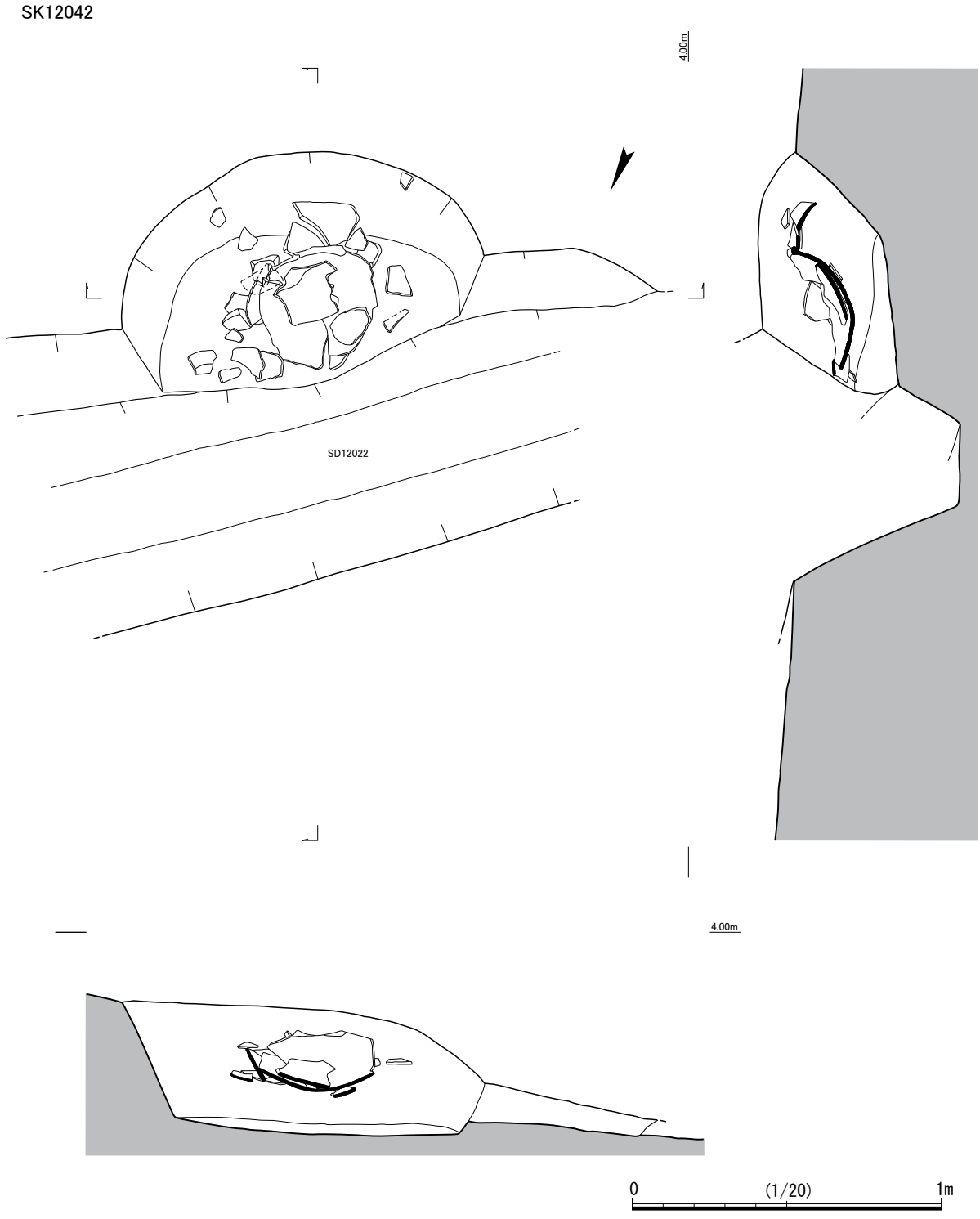
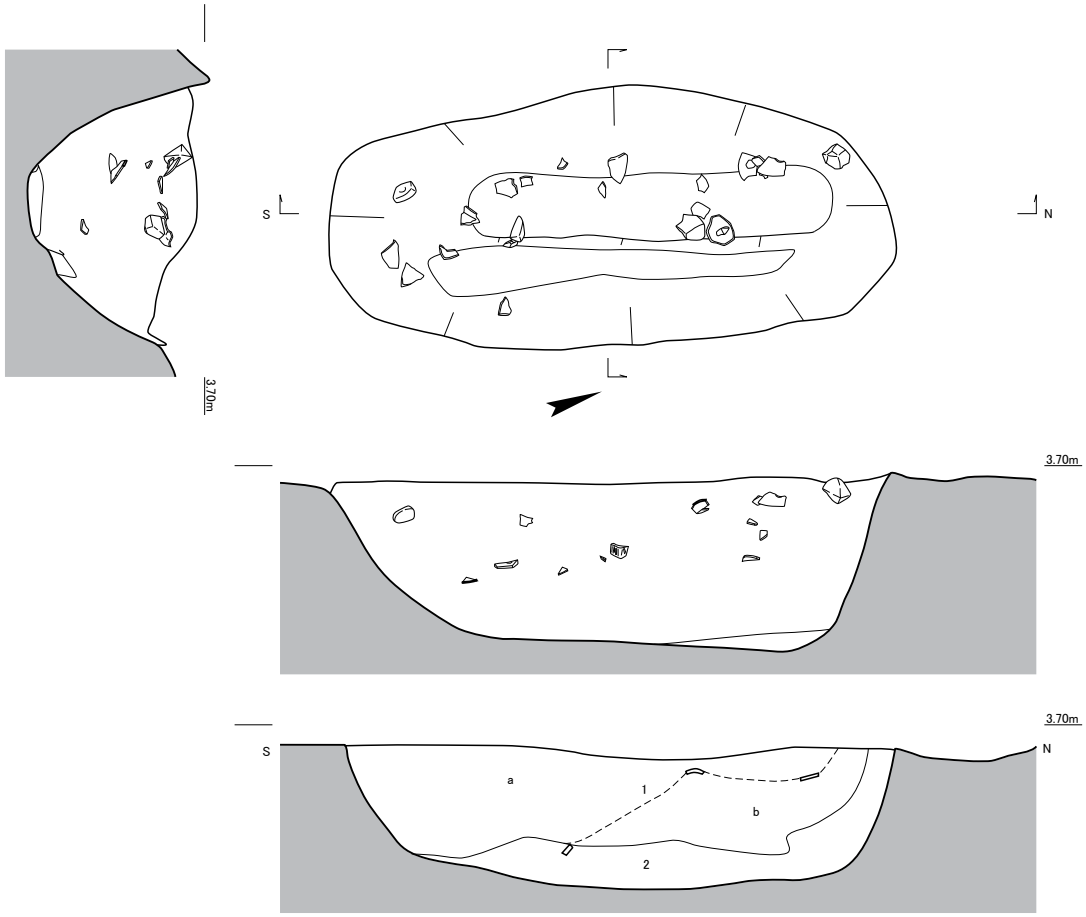


図 119　SK12042 土坑（1/20）



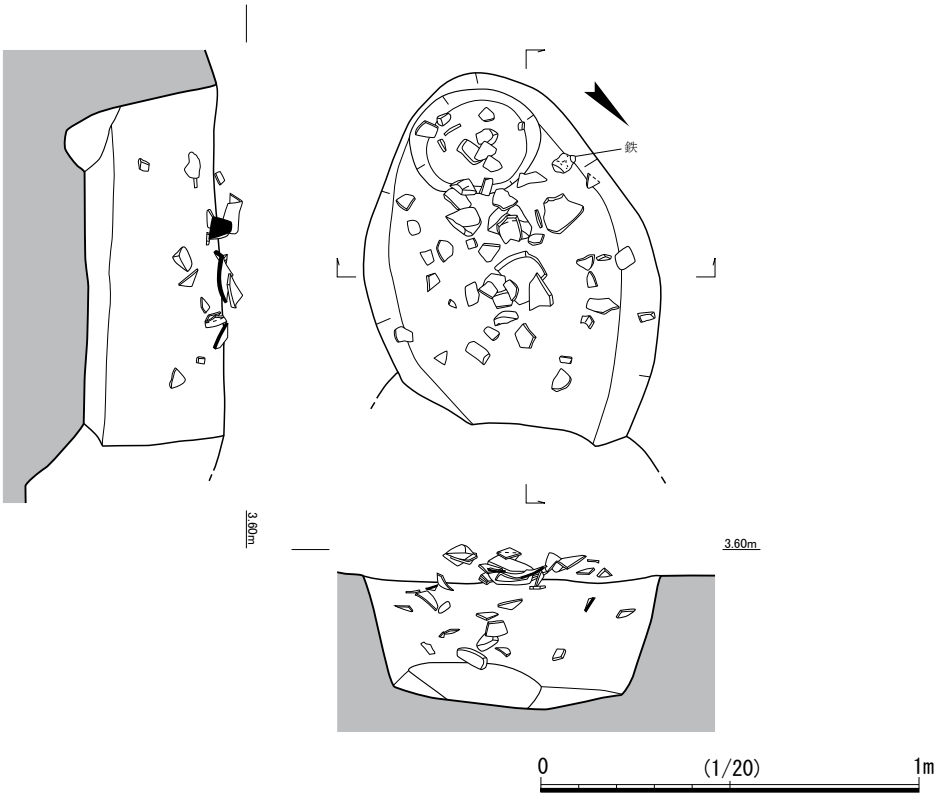
1. 黒褐色砂質土(細)[7.5YR 3/1] φ2～10㎜の炭化物を含む―a
2とaの混[1:1]カナケ(斑点に混じる)が多く混じり、一見すると暗褐色[10YR 3/3]―bに混じる
a→bの変化は漸次的
土器片、石出土、須恵器(6c)出土

2. 灰黄褐色砂質土[10YR 3/2] φ2～3㎜の黒色の植物遺骸の破片を含む
北側はカナケが多く、一見すると黒褐色[10YR 2/3]に見える
土器片、鉄器出土

0 (1/30) 1m

図 120　SK12044 土坑（1/30）

SK12050



SK12051

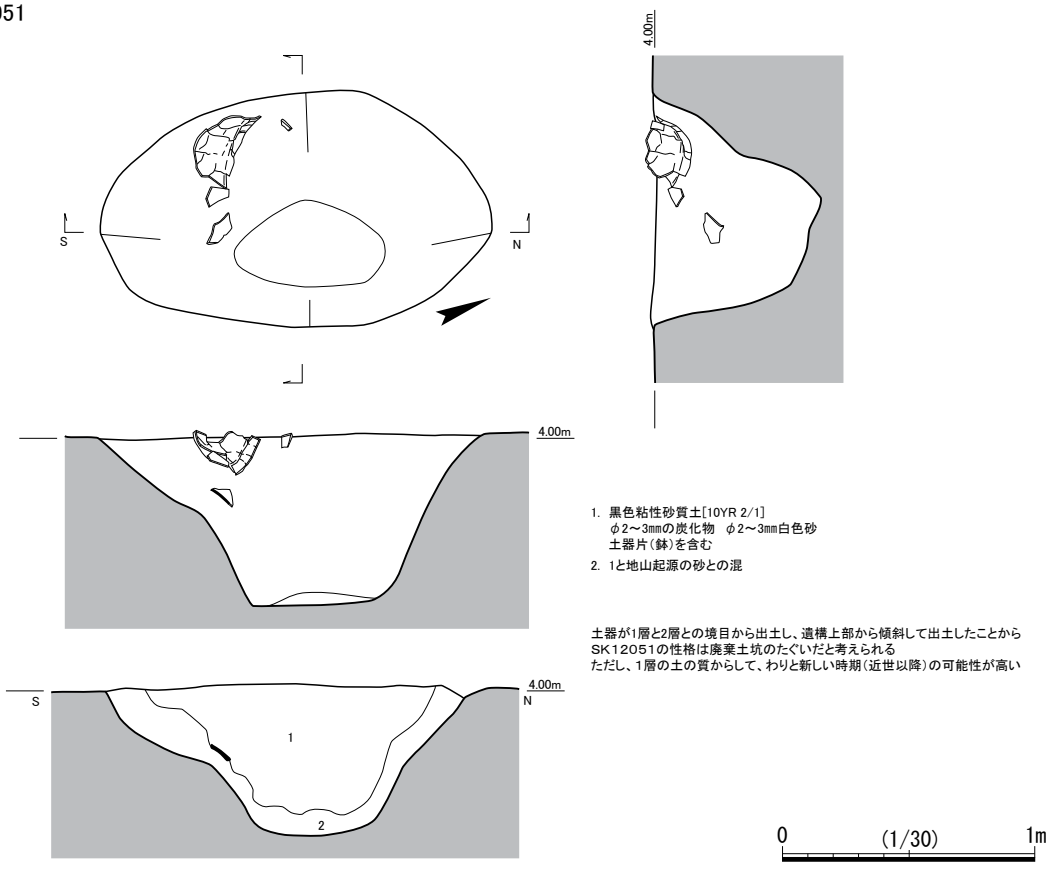
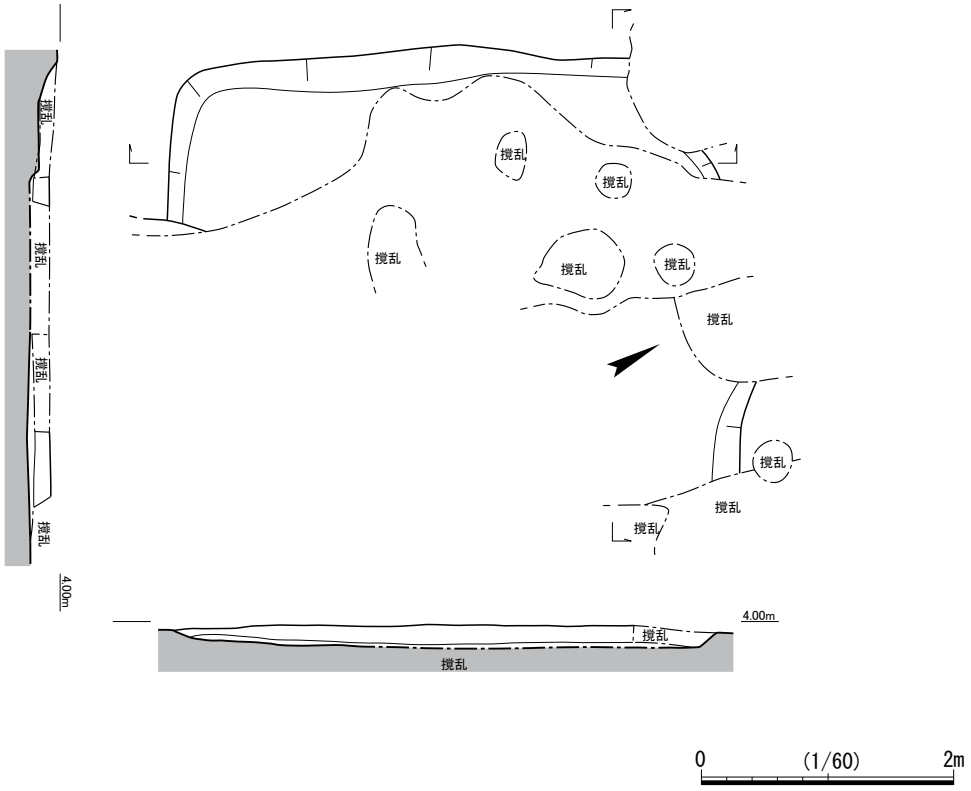


図 121　SK12050・12051 土坑（1/20、1/30）

SK12070



SK12080

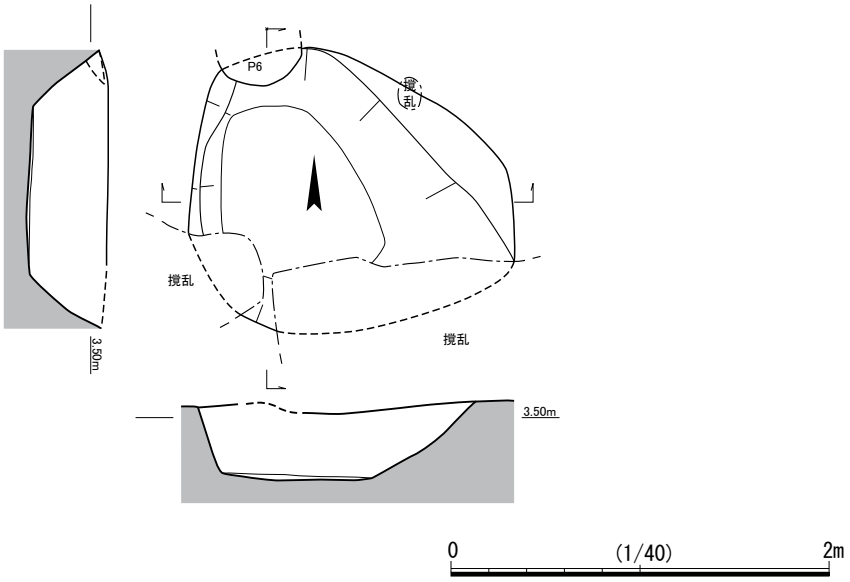


図 122　SK12070・12080 土坑（1/60、1/40）

ＳＫ１２０８０

O-42 区画に位置する遺構である。南西側の一部を撹乱によって切られる。また、周囲に土坑の遺構が多く見られ、南東側には SX12082 周溝墓がある。

平面形態は不正楕円形で、規模は確認できる範囲で長軸 1.70m、短軸（1.44）m、深さ 0.42m を測る。

出土遺物は弥生土器が出土している。

ＳＫ１２０８３

N-44 区画に位置する遺構である。12 区では最西端にあり、西側の一部は確認調査範囲外で、東側には土坑の遺構が多く見られる。

平面形態は楕円形と思われる。規模は確認できる範囲で長軸（3.68）m、短軸（3.20）m、深さ 0.54 mを測る。

弥生の高杯（図 205-1,2）が同じ層から並んで出土し、土師器の高杯が北側に離れて出土する。

ＳＫ１３０１０

T-41 区画に位置する遺構である。西側は SK13033 に切られる。北側は SX13377 を切る。また、南側には SH11279 等の竪穴住居があり、周囲には土坑が多く見つかっている。

平面形態は不整円形で、規模は長軸 1.94 m、短軸 1.80 m、深さ 0.13 mを測る。

出土遺物は坑底から 13cm 浮いた状態で弥生土器と土師器が出土している。

ＳＫ１３０３３

T-41・42 区画に位置する遺構である。東側は SK13010、北側は SX13377 を切る。また、南側には SH11279 等の竪穴住居があり、周囲には土坑が多く見つかっている。

平面形態は不整楕円形で、規模は確認できる範囲で長軸 1.97 m、短軸（1.04）m、深さ 0.30 mを測る。

出土遺物は坑底から浮いた状態で土師器が出土している。

ＳＫ１３１４０

W-43・44 区画に位置する遺構である。東側は SX13100、北側は大半を溝状の遺構に切られる。坑底は不明。西側には甕棺墓が集中して見つかっている。

平面形態は円形になると思われ、規模は確認できる範囲で長軸（1.72）m、短軸（0.60）m、深さ 0.41 mを測る。

出土遺物は弥生土器が出土している。

ＳＫ１３１９６

S-43 区画に位置する遺構である。東側は SX13219 に切られる。また、北側には SX12064 周溝墓が見られる。

平面形態は楕円形である。規模は長軸 3.30 m、短軸 1.46 m、深さ 0.10 mである。

図 207-9、図 208-1、図 208-3 ～ 6、図 208-8 は遺構を切る周溝に伴う遺物の可能性がある。

出土遺物は弥生土器、土師器、陶質土器が見つかっている。

ＳＫ１３２１８

T -44 区画に位置する遺構である。西側は SX13217 や撹乱によって切られ、東側から南側に甕棺墓群が見られる。

平面形態は楕円形で、規模は確認できる範囲で長軸 2.90 m、短軸（1.20）m、深さ 0.13 mである。

出土遺物は弥生土器・土師器が出土している。

ＳＫ１３３６８

Ｚ -43 区画に位置する遺構である。13 区の最南端にあり、本遺構南側の一部は調査区外になっている。

平面形態は不整長方形で、規模は確認できる範囲で長軸 2.45 m、短軸（1.55）m、深さ 0.13 mである。

出土遺物は遺構中心部の坑底から 10cm ほど浮いた状態で弥生後期の土器、古墳前期の土師器が集中して出土している。

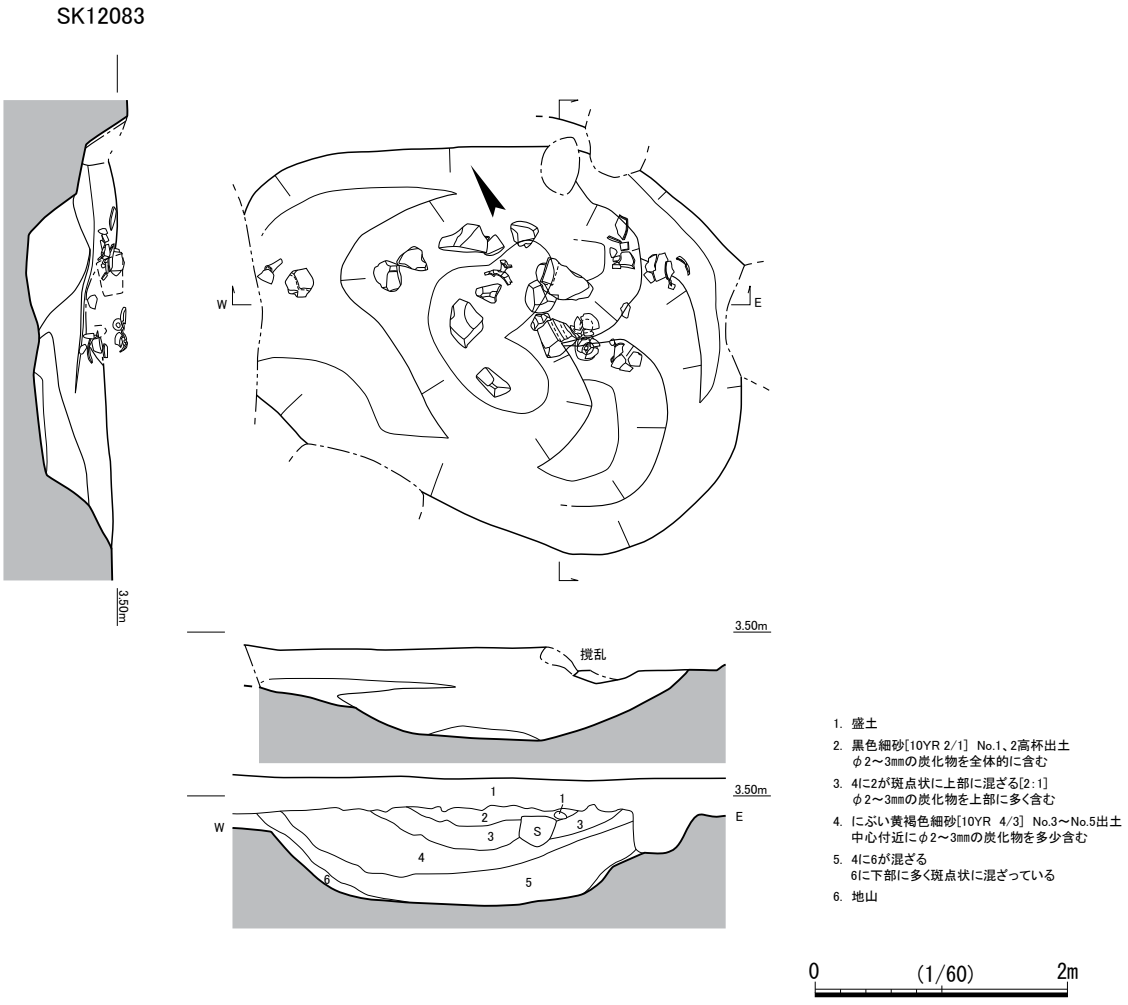


図 123　SK12083 土坑（1/60）

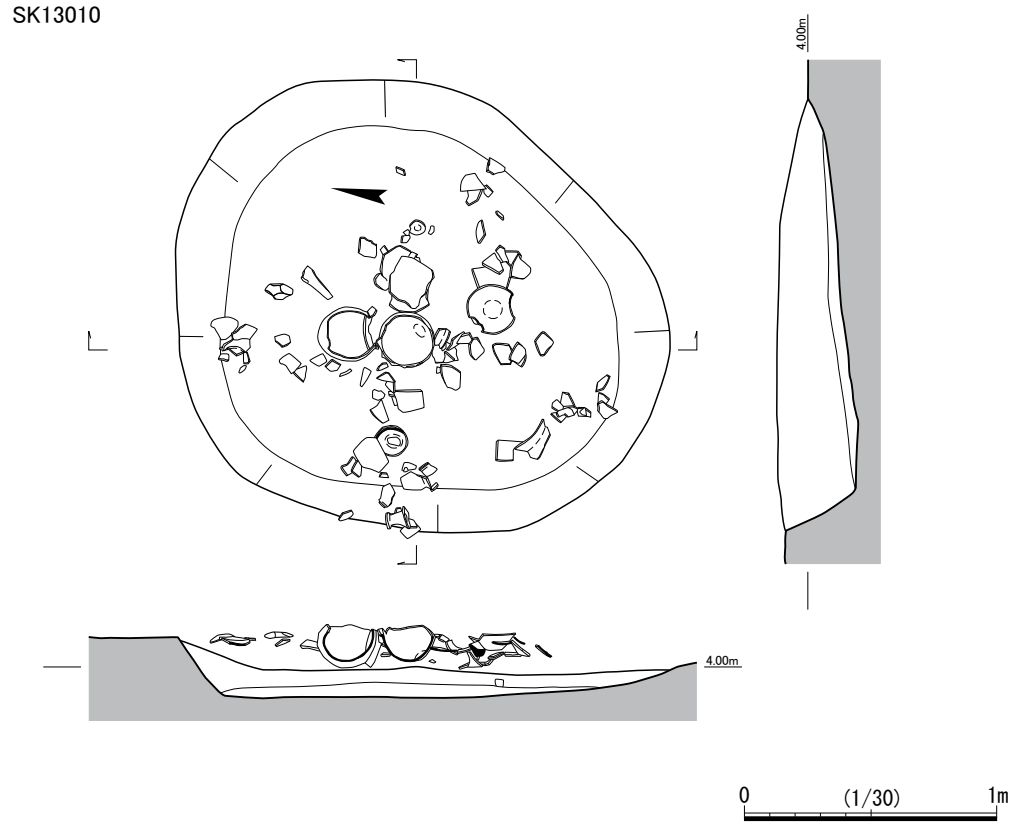
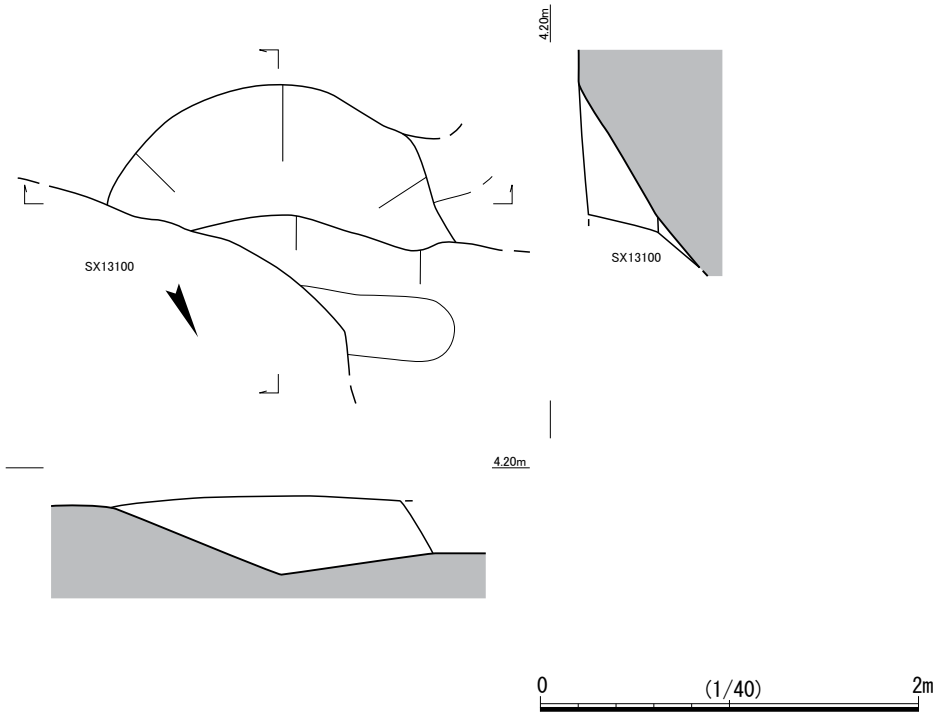


図 124　SK13010・13033 土坑（1/30）

SK13140



SK13196

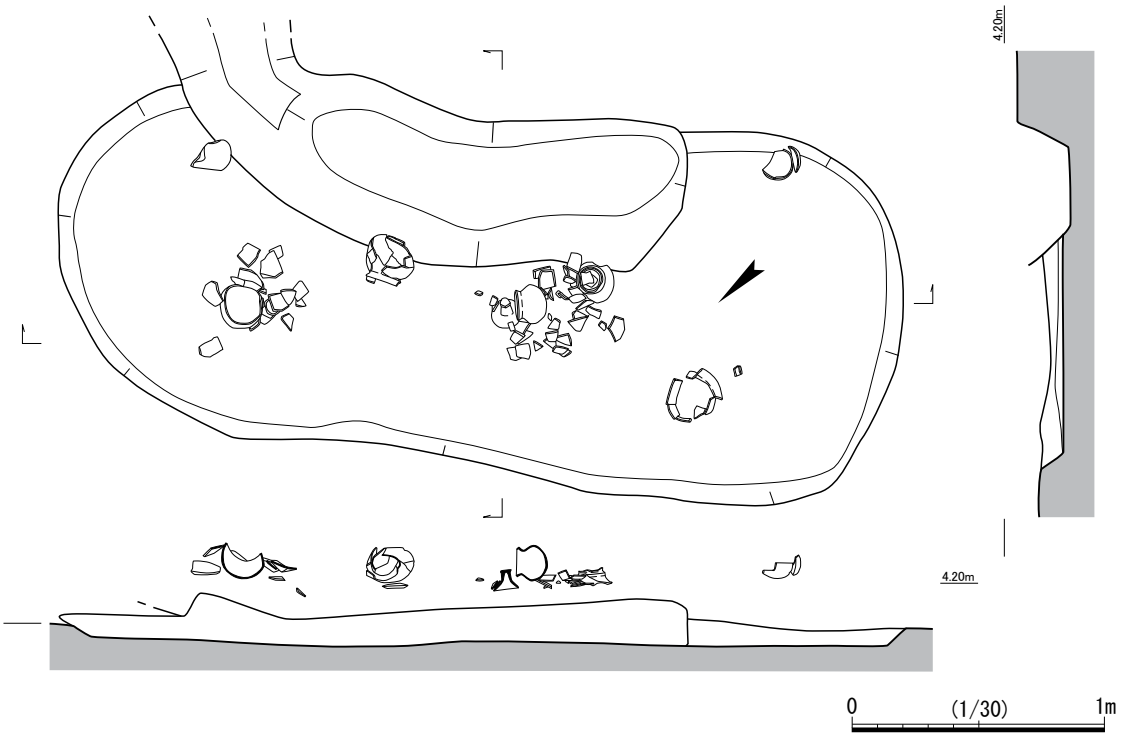
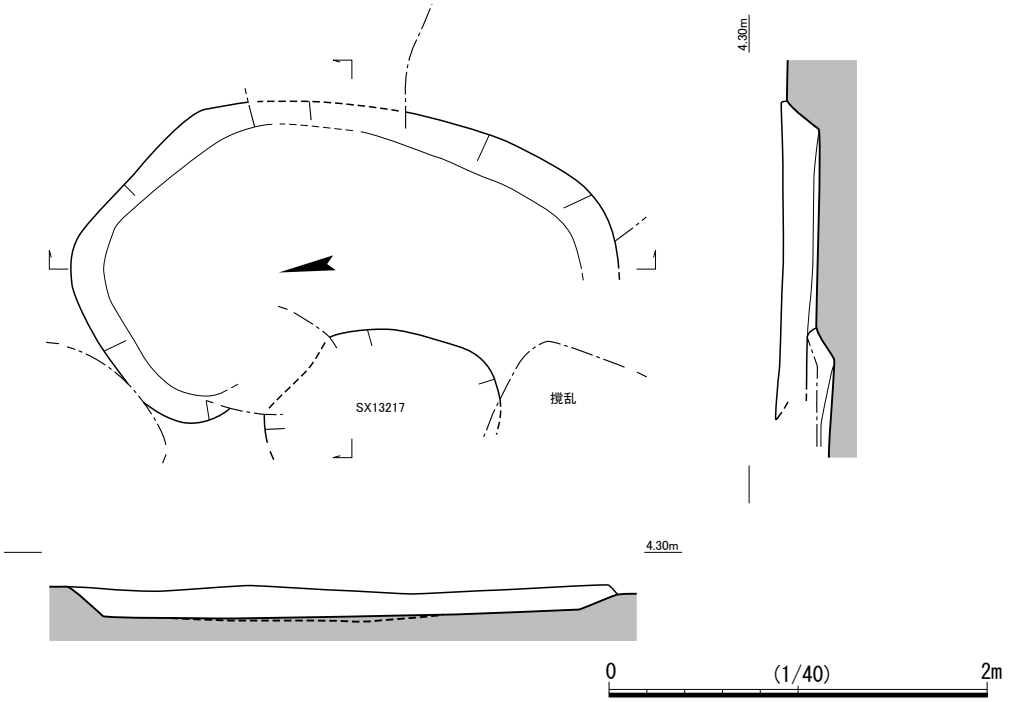


図 125　SK13140・13196 土坑（1/40、1/30）

SK13218



SK13368

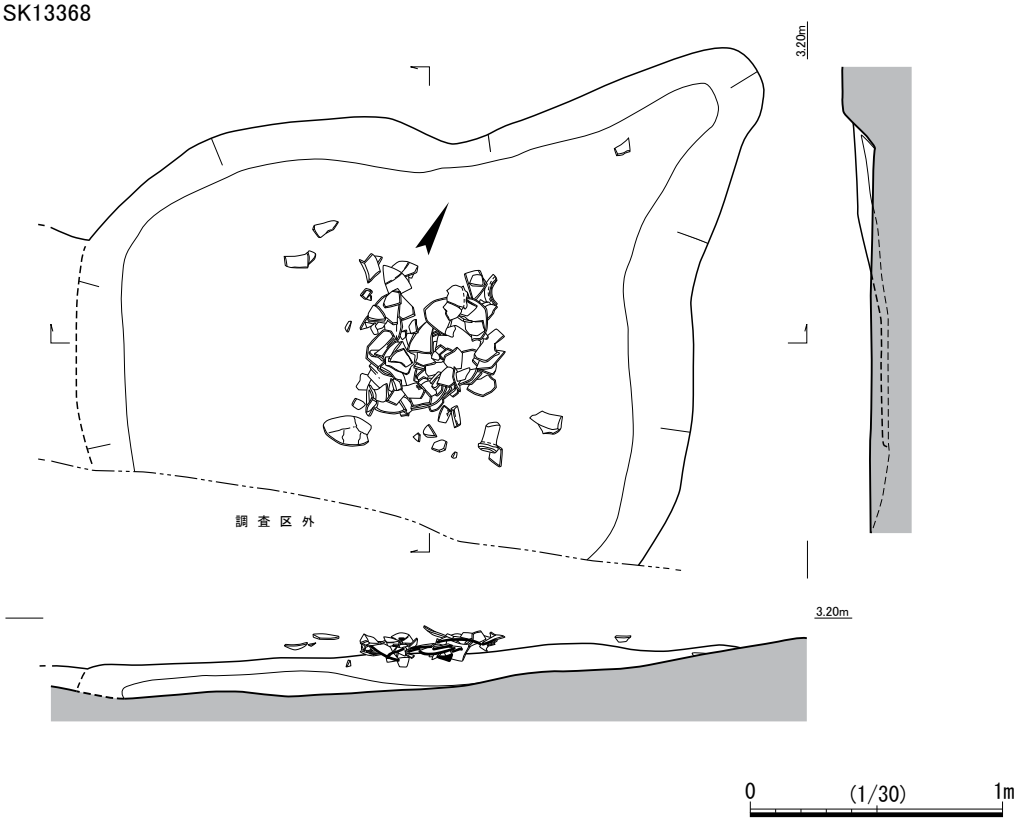


図 126　SK13218・13368 土坑（1/40、1/30）

３．遺物

（1）土器

弥生土器、土師器、須恵器がある。本文は須恵器以外、器種から記述している。弥生土器、土師器の区別は一覧表に記す。挿図は遺構ごとに掲載した。砂丘上に立地するため、遺構出土の土器群には混入と考えられる土器も多く見られた。そこで、遺構の時期は形態、分布、出土遺物から決定した。挿図では遺構の時期を示す土器群を最初に掲載するよう心掛けた。

以下、遺構種別、遺構ごとに掲載する。

①竪穴住居跡出土土器

ＳＨ１１００３出土土器

図 127-1 ～ 4 は甕である。口縁部はくの字形で､口唇部は面取りされる。口縁部長は約 3cm ～ 3.5cm である。口縁部から体部内外面は斜めハケが施される。3 は体部外面下半は板状工具によるカキ削りを施す。以下カキ削りと記す。4 は口縁部がやや直立気味である。

図 128-1 ～ 4 は甕底部である。丸底化が進行している。1、4 は底部外面ハケ、2、3 は底部外面カキ削りである。

図 128-5 は広口壺。口縁部は短く外反する。体部外面下半はカキ削り。底部外面、ハケ。

図 128-6 は甕棺、肩部は張らない。口縁部直下と胴部上位に断面台形の突帯を回す。口唇部と突帯端部に山形文を施文する。

ＳＨ１１００５出土土器

図 129-1 ～ 5 は甕である。2 は口頸部でくびれる。壺の可能性あり。体部内面上半部は指頭圧痕あり、下半部ハケ。3 は体部外面下半にカキ削りを施す。5 は体部外面下半にハケ状工具によるカキ削りで、縦にハケ目が残る。4 の口縁部はくの字形でも直立気味であり、口縁部長は約 4cm である。　図 129-7、8 は高杯である。7 は杯部下半内外面に暗文を施す。8 は脚裾部に三方透かしあり。孔は径約 4mm と小さい。

ＳＨ１１０１２出土土器

図 129-9 は甕口縁部片、逆 L 字形である。

ＳＨ１１０１３出土土器

図 130-1 ～ 4 は甕、1 は口縁部片、口縁端部にかけて斜めに下がる。2 ～ 3 は底部、平底である。

ＳＨ１１０２７出土土器

図 130-7、8 は甕口縁部片、7 は口縁部は内側上方に跳ね上げる。外面に 4 条の凹線文を施す。吉備系か？ 8 はくの字形。

図 130-9、10 は透かしのある器台、10 はくびれた胴部中央にヘラ状工具による沈線を施す。

図 130-14 は壺の肩部か？断面三角形の突帯を回す。

ＳＨ１１０２８出土土器

図 131-1 ～ 5 は甕である。1、2 は短く外反する口縁部に球形の体部がつく。器壁は厚く、内面ヘラケズリである。3 の口縁部は緩やかに外反する。下膨れの体部下半で大きく屈曲する。体部下半の内外面は黒斑がみられる。内外面ハケ。形態的に特徴があり、在地にはみられない型式である。4 は底部にわずかな平坦面がある。5 は丸底で内外面ハケ。

図 131-6、7 は鉢、6 は素口縁で、7 は屈曲口縁である。

図 131-8、9 は高杯、素口縁の杯部に大きく下外方に開く脚部がつく。裾部に円形四方透かしあり。

SH11003

図 127　SH11003 出土土器 1（1/4）

SH11003

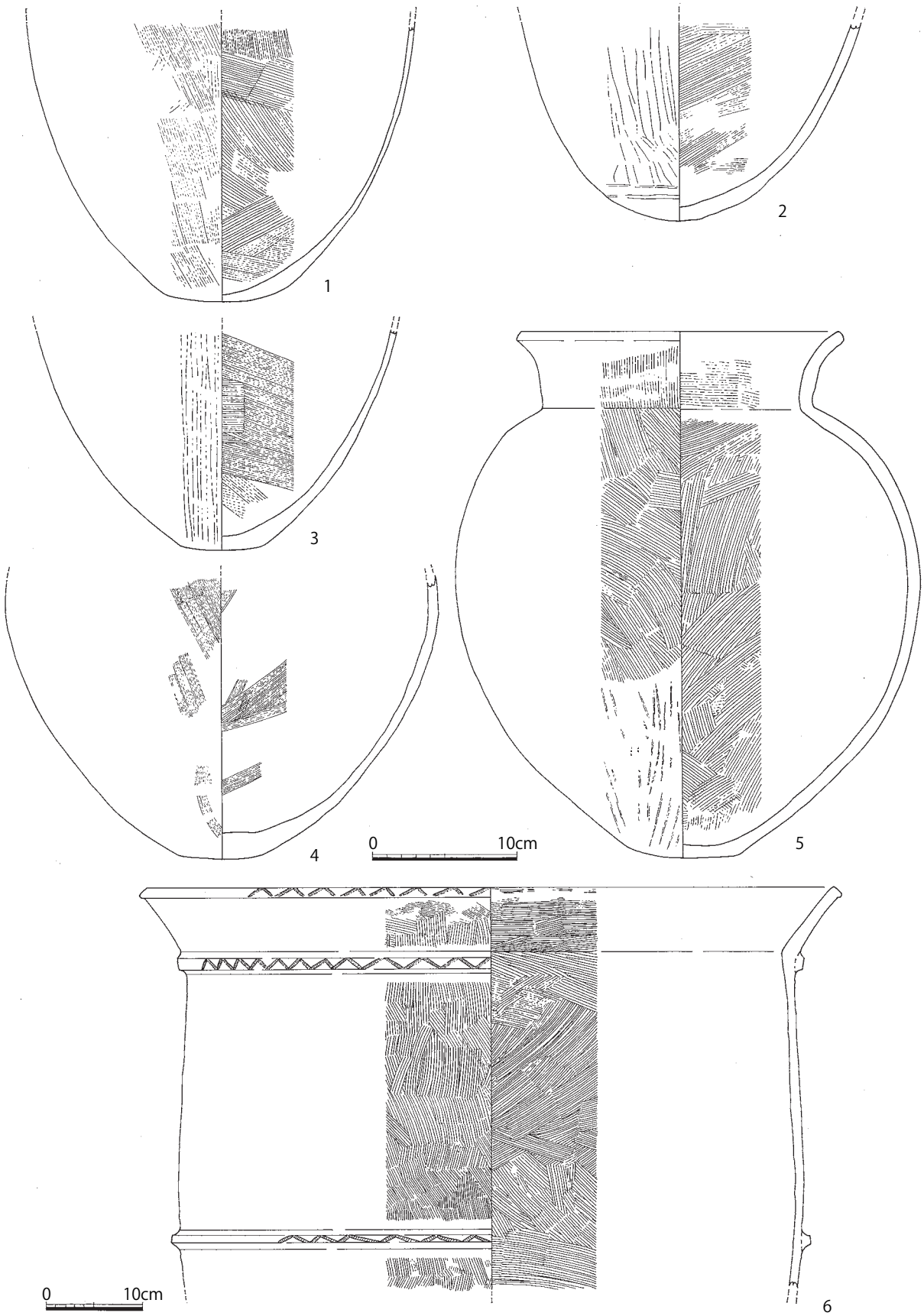


図 128　SH11003 出土土器 2（1/4、1/6）　6 は 1/6、他は 1/4

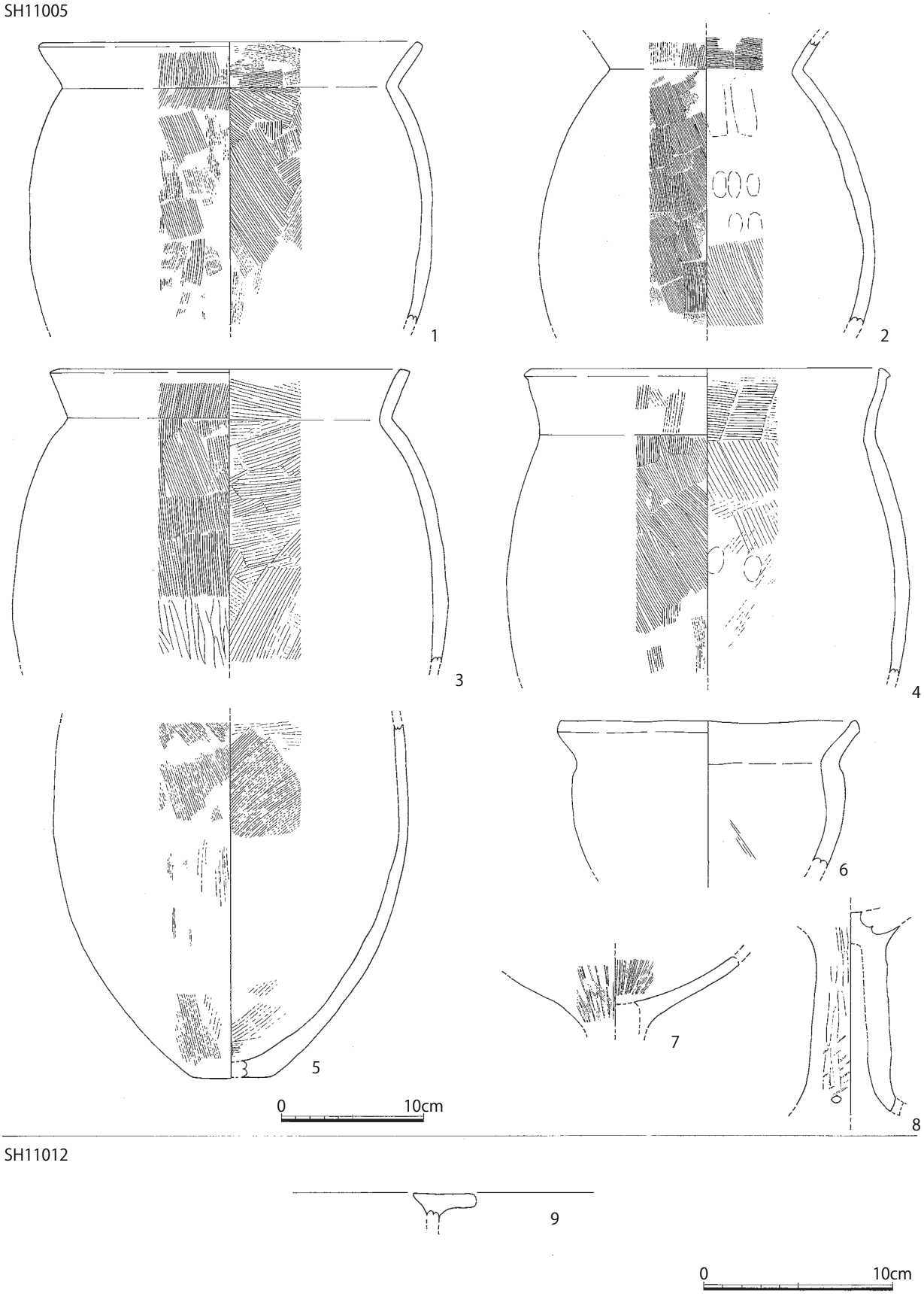


図 129　SH11005・11012 出土土器（1/3、1/4）　1 ～ 5 は 1/4、6 ～ 9 は 1/3

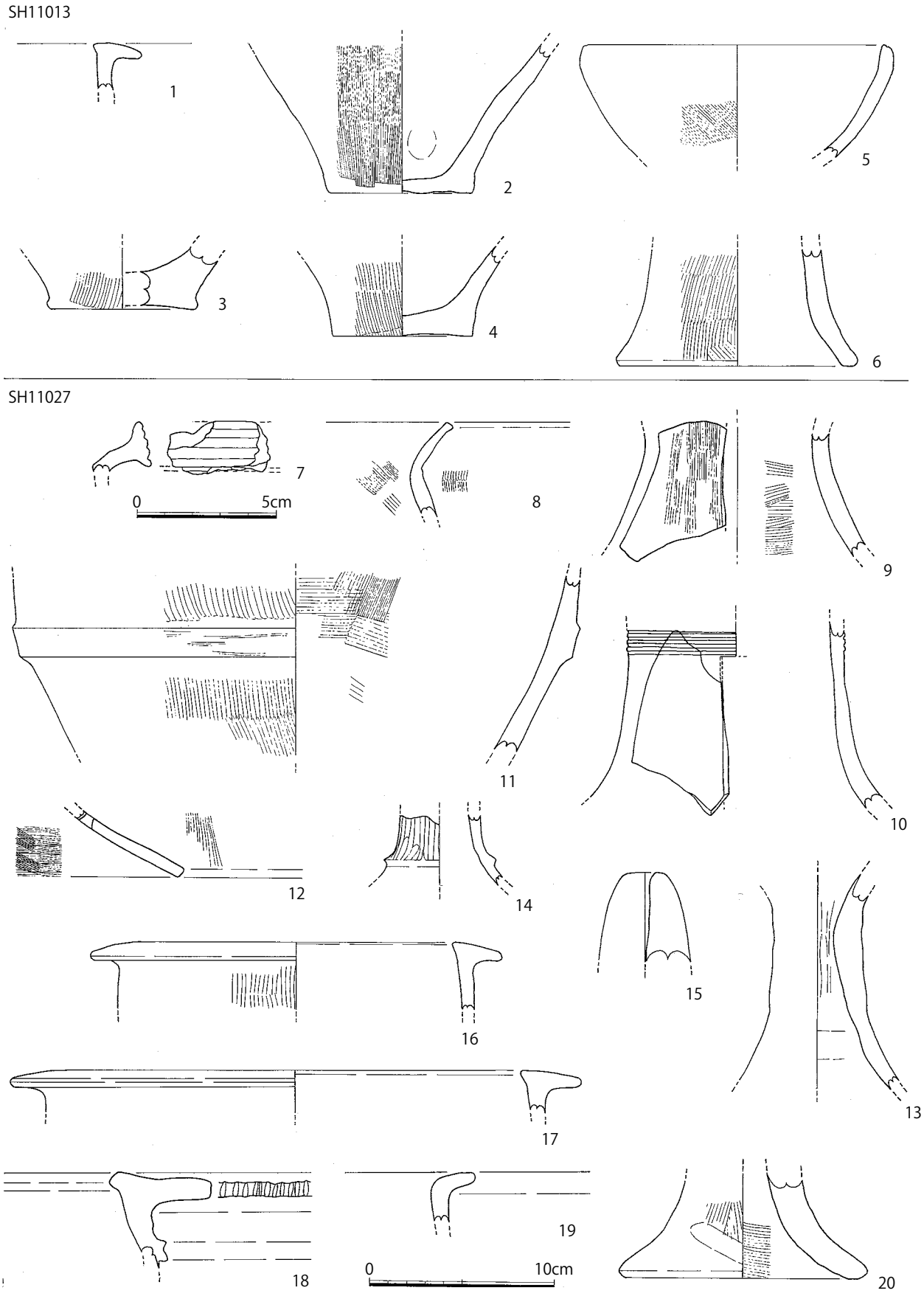


図 130　SH11013・11027 出土土器（1/2、1/3）　7 は 1/2、他は 1/3

SH11028

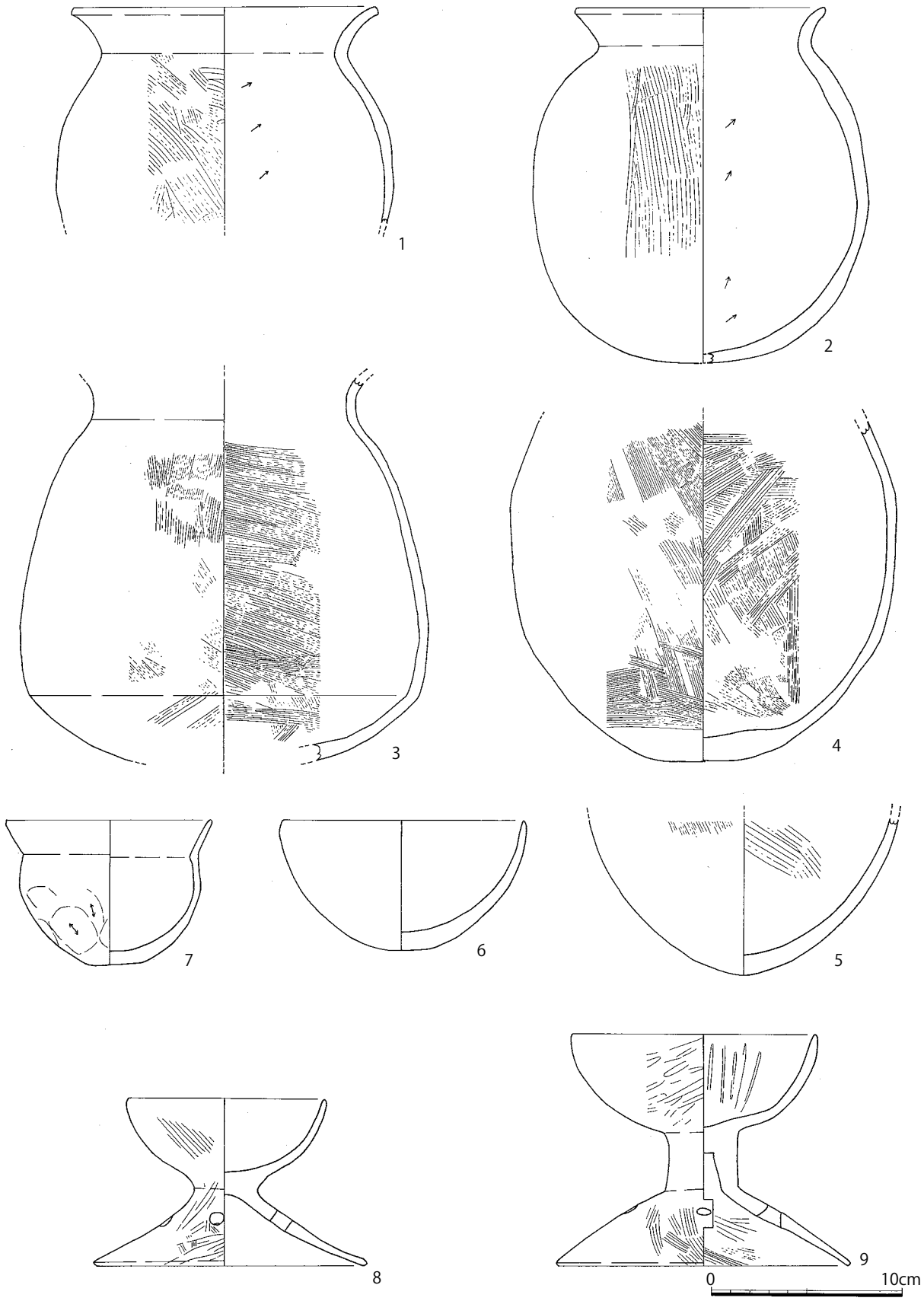


図 131　SH11028 出土土器（1/3）

9 は脚中部がつき、杯部内面は暗文を施す。

ＳＨ１１０２９出土土器

図 132-1 ～ 4 は甕である。1 は口唇部が面取りされ、肩部内面はヘラ削り、器壁は厚い。2、3 は口唇部に丸味をもつ。4 は甕棺、口縁基部に断面台形の突帯を回す。口唇部と突帯に連続三角文を施文する。

図 132-5 は壺の体部、外面磨き、内面ハケ。

図 132-8 ～ 10 は高杯、8 は杯部のみ、9 は脚部、裾部に円形三方透かしあり。10 は素口縁の杯部にハの字形に開く脚部がつく。円形三方透かしあり。

図 132-12 は支脚、受部は傾斜し、上方先端が嘴状に突出する。外面の一部に叩き痕が残る。

ＳＨ１１０３９出土土器

図 133-1 ～ 3 は甕である。1 は肩部内面ヘラケズリ。図 132-1 と形態、調整、胎土などが酷似する。同一個体の可能性あり。3 は甕底部である。

図 133-4 は短頸の広口壺、内外面ハケ。図 133-5 は壺の底部。

ＳＨ１１０４７出土土器

図 133-7、8 は甕である。1 は最大径が胴部下半にあり、口縁部は短く外反する。器壁は厚く、体部内面は粗雑なヘラ削りを施す。

図 133-9 は甑の口縁部である。体部内面は縦方向のヘラ削り。

図 133-10 は壺の口縁部片、混入品と考える。

ＳＨ１１０５２出土土器

図 134-1 ～ 4 は甕口縁部片である。逆 L 字形である。

図 134-5 は鋤先口縁の広口壺の口縁部片である。

図 134-6 ～ 9 は甕底部片である。

図 134-10 は器台片である。

ＳＨ１１０５５出土土器

図 134-11 ～ 13 は甕口縁部片である。11 は直線的に外方に開く。12 は口唇部を上方に摘み上げる。13 は内湾気味で、口唇部は面取りされる。

ＳＨ１１０６１出土土器

図 135-1､2 は甕口縁部片である。1 は口唇部面取り。2 の口唇部は丸味をもつ。3 は甕の胴部片である。内外面ハケ。

図 135-4、5 は高杯の杯部である。4 は杯上半部を欠失する。

ＳＨ１１０６４出土土器

図 135-8、9 は甕底部片である。8 は平底で、9 は丸底化している。

図 135-10、11 は甕、口縁部から胴部まで遺存する。10 は短いくの字形の口縁部で、体部外面ハケ、内面ナデ。11 はくの字形の口縁で、10 より若干長い。

図 135-12 は甕の底部、外面、指頭圧痕が残る。

図 135-13 は素口縁の鉢、口縁部片。

本遺構は平面円形の竪穴住居であり、遺構の形態から推定される時期と出土土器が照合できない。平面円形の竪穴住居とすると、その時期を示す土器は図 135-8、12 であり、弥生中期前半である。但し、遺物の遺存状態は図 135-10、11 が良好であり、弥生中期後半である。

SH11029

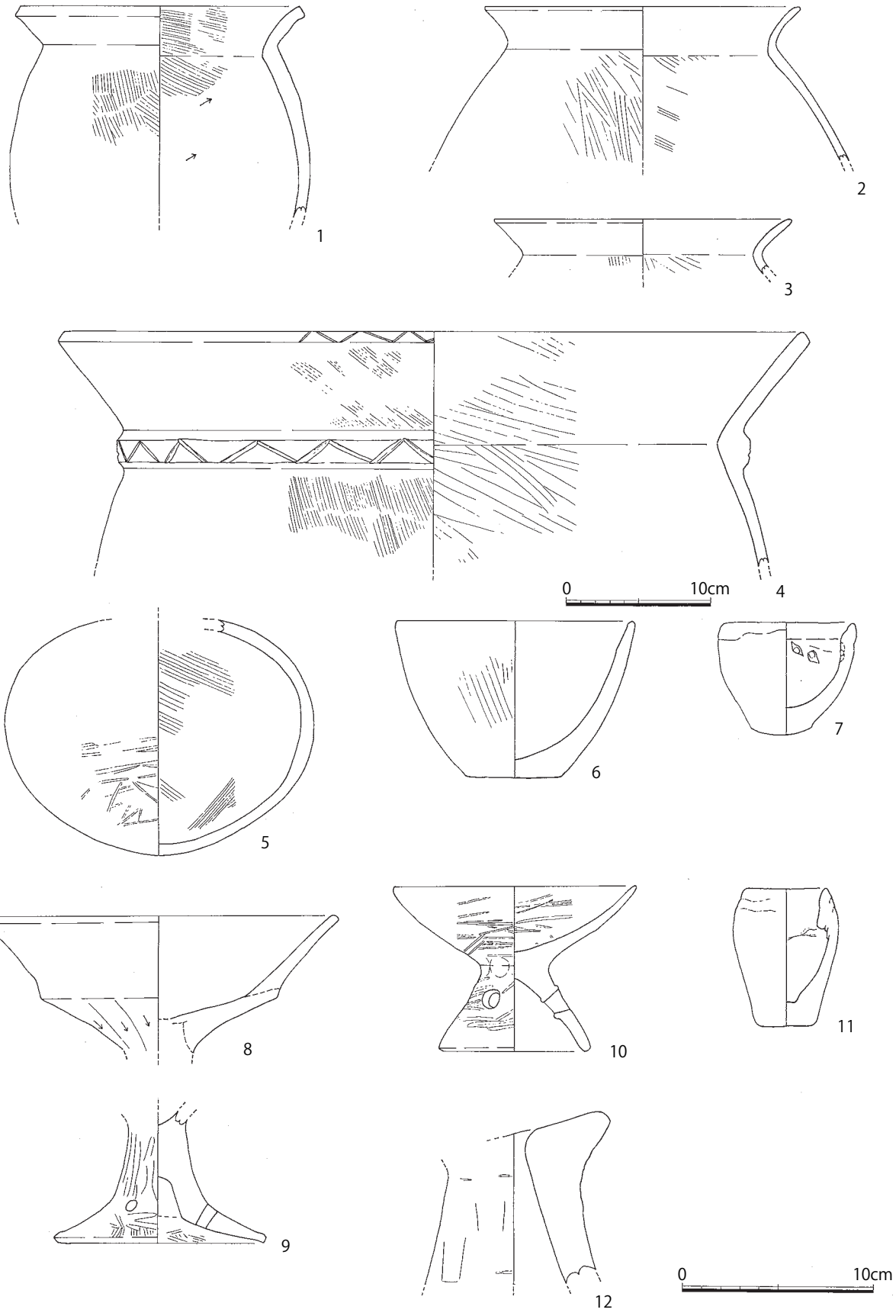
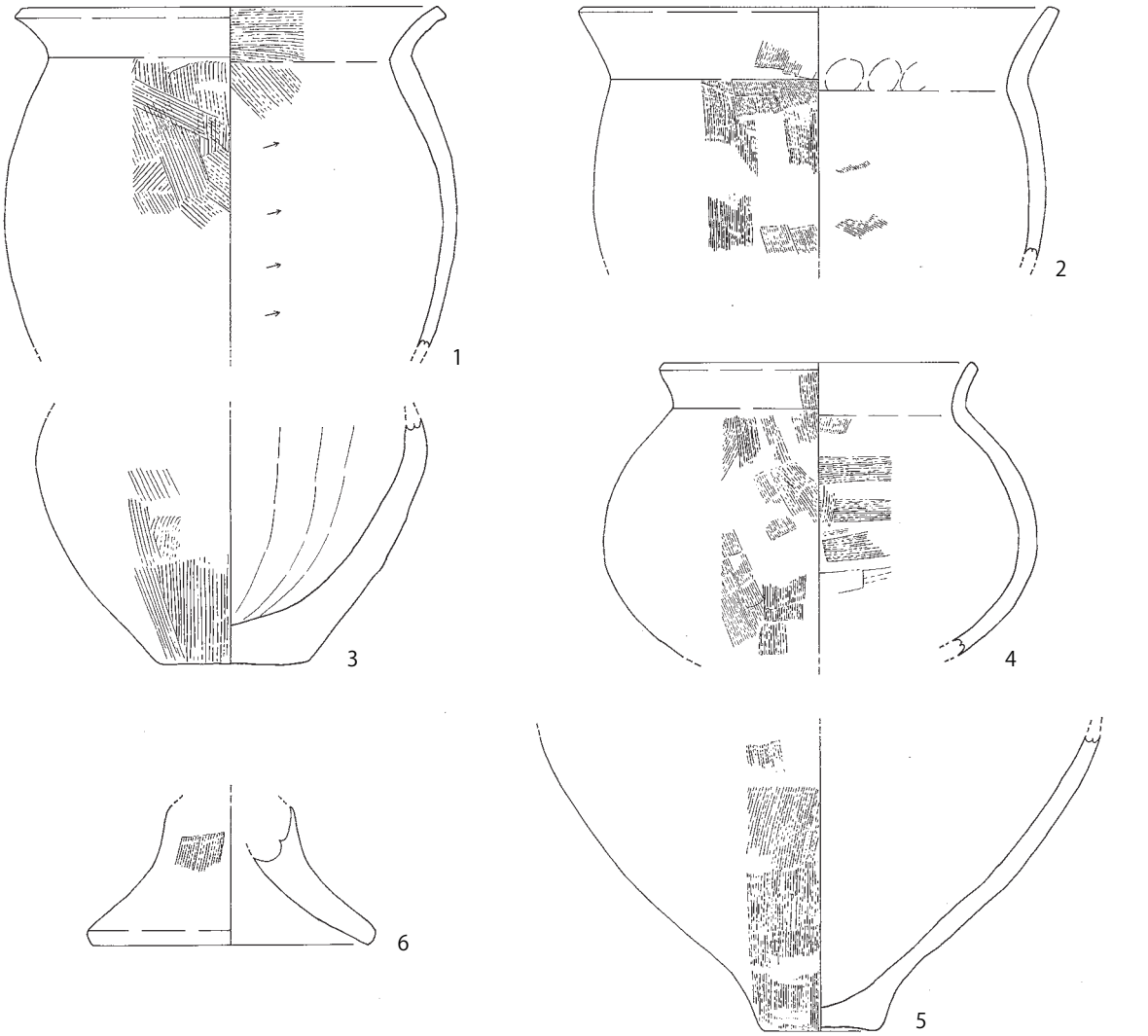


図 132　SH11029 出土土器（1/3、1/4）　4 は 1/4、他は 1/3

SH11039



SH11047

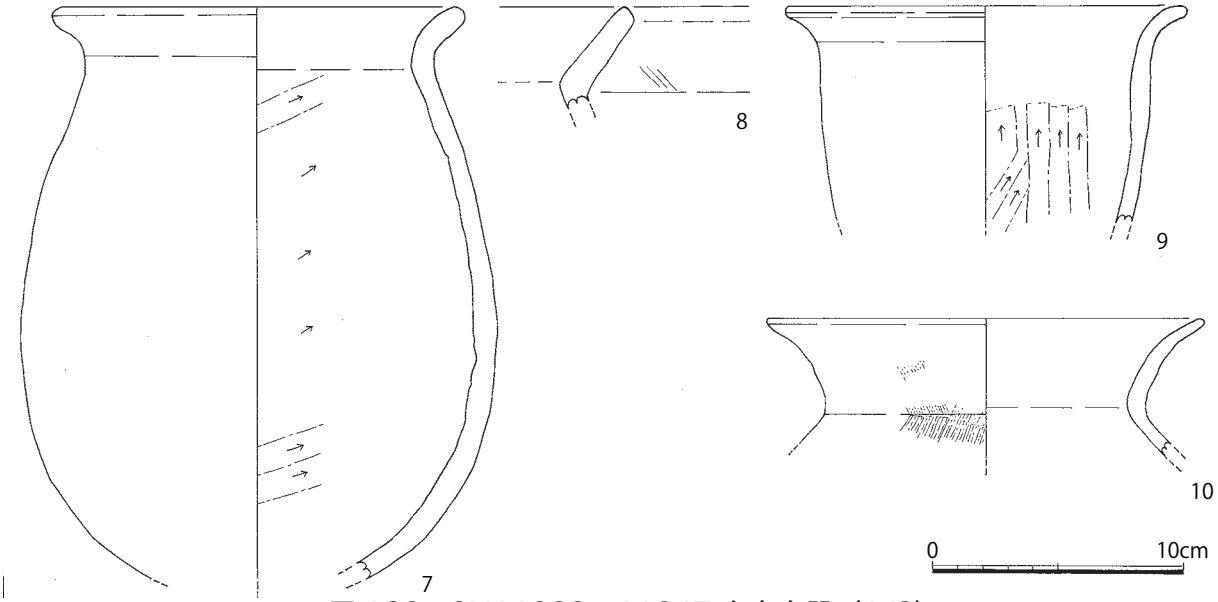


図 133　SH11039・11047 出土土器（1/3）

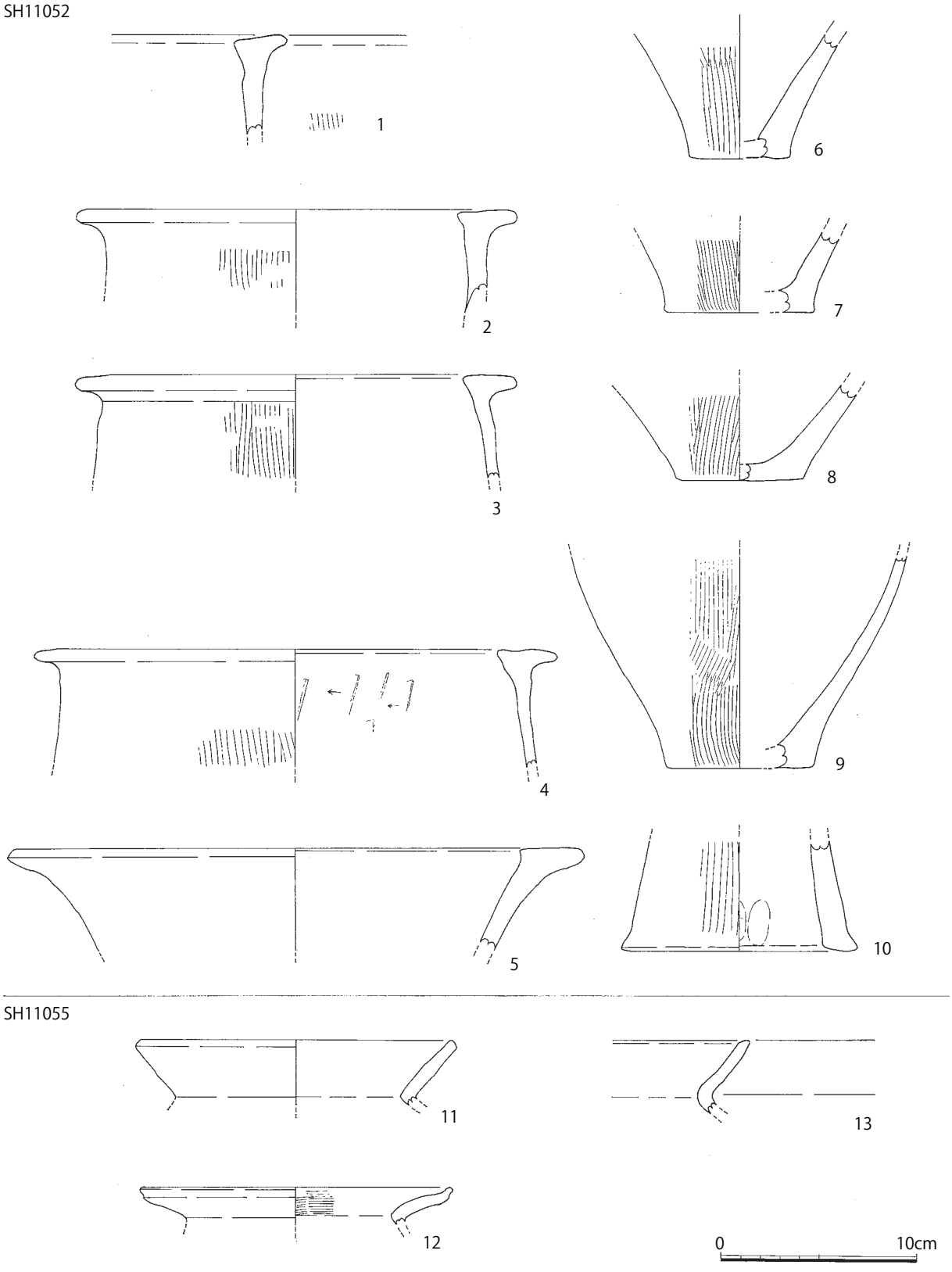


図 134　SH11052・11055 出土土器（1/3）

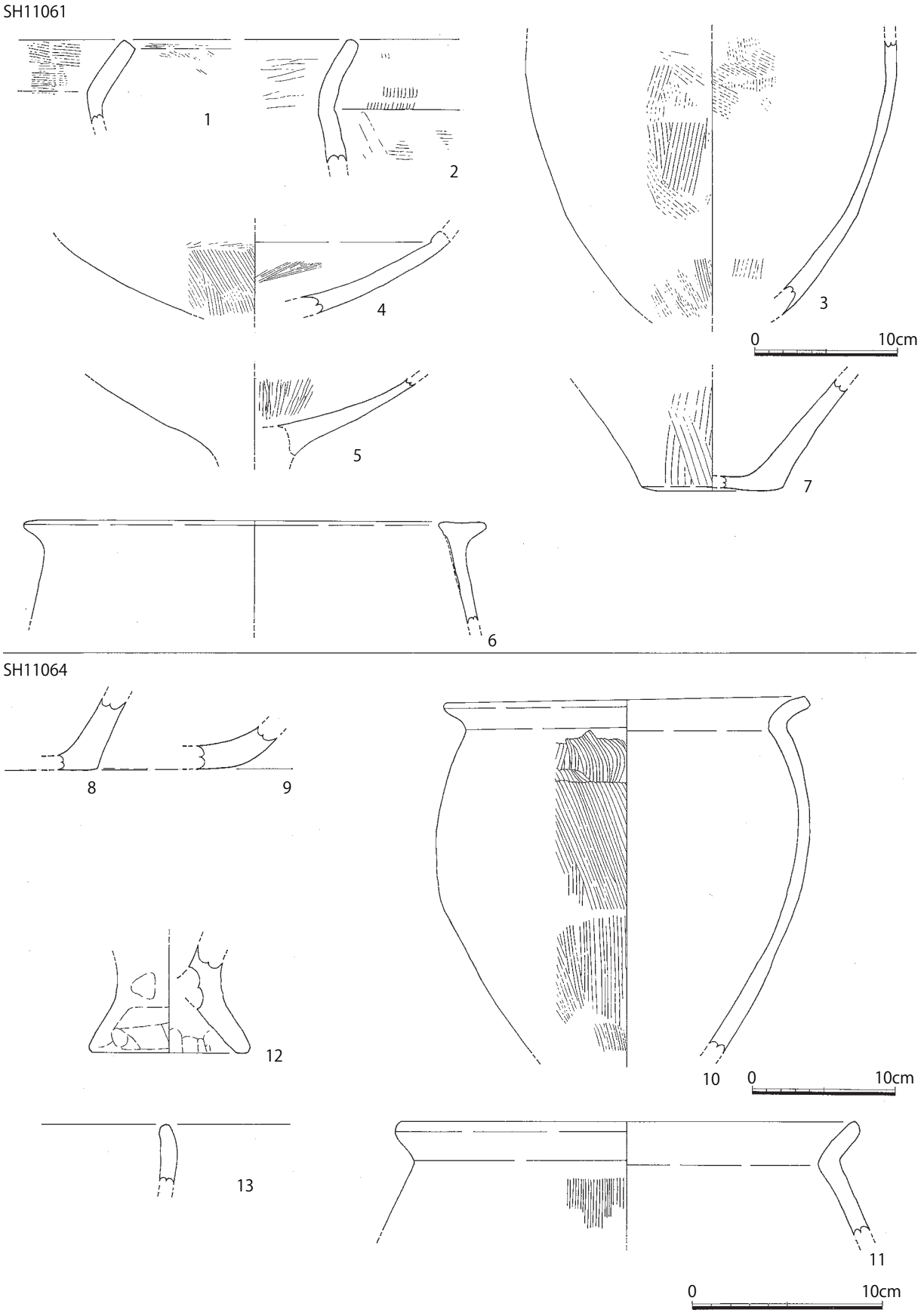


図 135　SH11061・11064 出土土器（1/3、1/4）　3・10 は 1/4、他は 1/3

ＳＨ１１０６６出土土器

図 136-1 ～ 3 は甕口縁部片である。1 は器壁が比較的薄く、内外ハケ。2、3 は器壁が厚く、肩部内面ヘラケズリ。

図 136-4 は高杯杯部片である。杯部中位で屈曲する。

図 136-5 は素口縁の鉢。

図 136-6 は甕の底部である。器壁が厚く内面粗雑なヘラ削り。

本遺構は平面方形で四本主柱穴の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 136-1、4 と考える。

ＳＨ１１０６８出土土器

図 136-7 ～ 9 は甕口縁部片である。7、8 の口縁部は外反気味、直線的である。肩部内面ヘラ削り。9 は口唇部内側を肥厚させる布留型甕である。

図 136-10 ～ 12 は甕の底部である。10、12 の平坦面はあるが丸底化が進む。11 は丸底である。

図 136-13、14 は二重口縁壺である。13 の二次口縁は直立し、二次口縁基部外面に断面方形の突帯を回す。14 の二次口縁は内傾のち大きく屈曲し、外方に開く。

図 136-15、16 は屈曲口縁の鉢である。16 は精製で底部外面ヘラ削り。

図 136-17、18 は高杯脚部。18 は裾部に円形透かしが入る。

図 136-19 は小型器台、脚部中位に四方の円形透かしがはいる。透かしの間隔は不統一である。脚部外面タテハケを施す。

ＳＨ１１０６９出土土器

図 137-1 は甕、口唇部内側はわずかに肥厚する。肩部内面ヘラ削り。

図 137-2、3 は屈曲口縁の鉢である。2 の口縁部は短く内湾する。

図 137-4 ～ 6 は高杯である。4 は完形、杯部は中位で屈曲し直立し、口縁部は外方に開く。脚裾部は大きく開き、四方の円形透かしがはいる。5、6 は高杯脚部、5 は三方の円形透かし、6 は四方の円形透かしがはいる。

ＳＨ１１０８１出土土器

図 137-7 ～ 11 は甕口縁部、7、8、10 は口縁部内側にやや突出する。11 は逆 L 字形に曲げる。口唇部はわずかに上方に跳ね上げる。

図 138-1、2 は甕の底部片、平底である。

図 138-3、4 は甕棺の胴部片、図⑫ -3 は胴部下半に断面台形の二条突帯を回す。4 は胴部中位に断面台形の一条突帯を回す。突帯には斜めの沈線を施文する。内外ハケ。3、4 は混入。

ＳＨ１１０８２出土土器

図 138-5 ～ 7 は甑の口縁部片、口縁部は外反する。器壁は薄く、胴部内面は丁寧なヘラ削りを施す。

図 138-8 は甕の底部、丸底である。内面ハケ。

図 138-9 は高杯の杯部、杯部中位で屈曲し、口縁部は外反気味に外上方に開く。

図 138-10 は壺の口縁部。

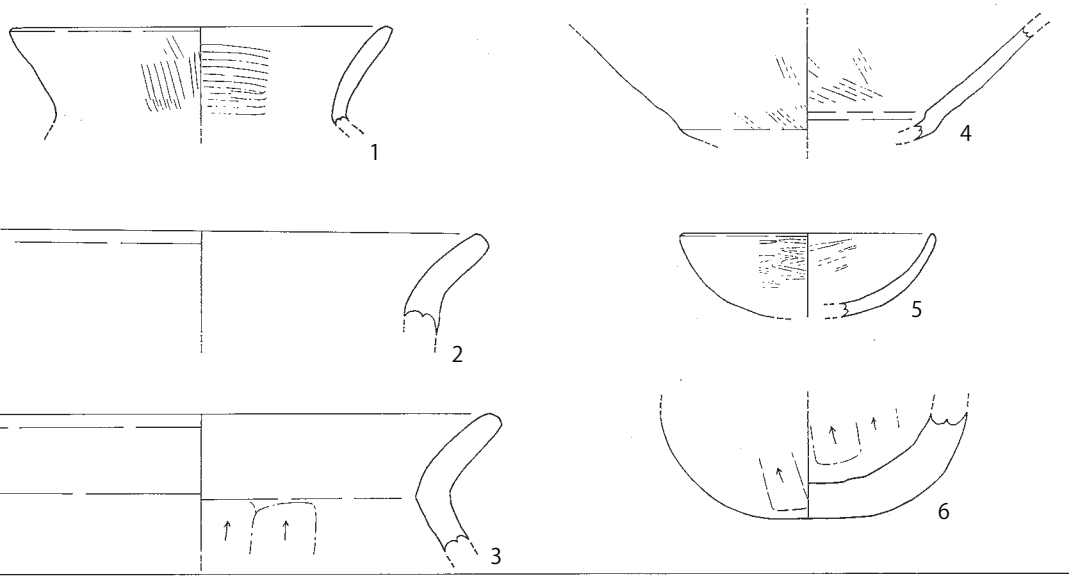
図 138-11 は甕の口縁部。

本遺構は平面方形で四本主柱穴の竈付き竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 138-5 ～ 7、9 と考える。

ＳＨ１１０９４出土土器

図 139-1、2 は甕の口縁部片、水平近くに折げた口縁部で、口縁部内外面はナデ、体部はハケ、口縁

SH11066



SH11068

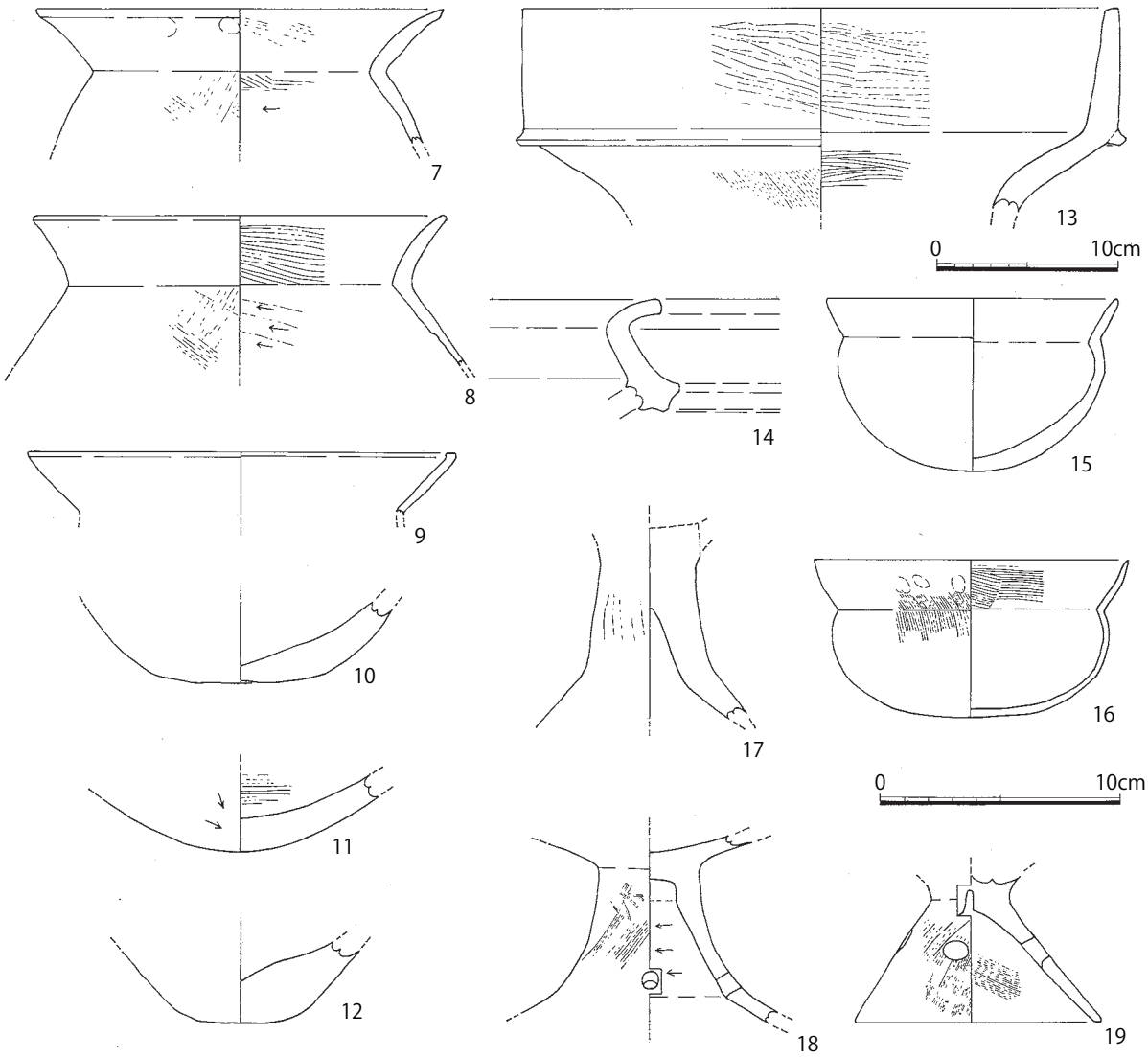
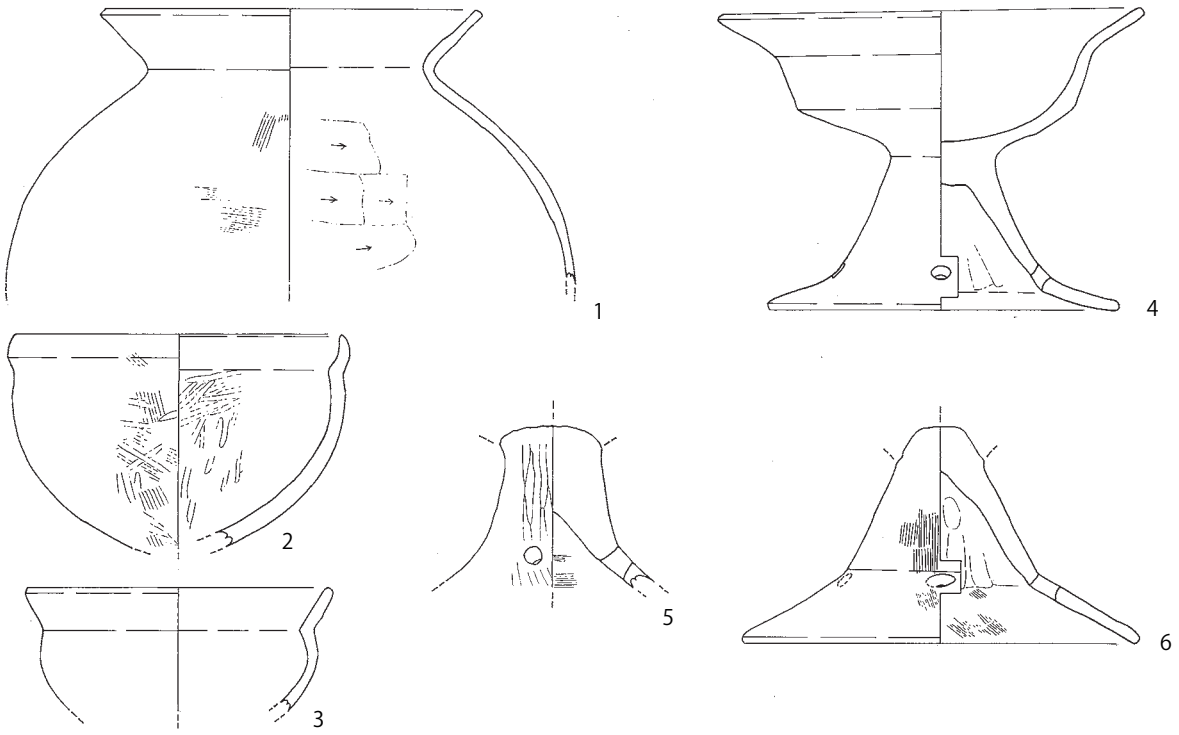


図 136　SH11066・11068 出土土器（1/3、1/4）　13 は 1/4、他は 1/3

SH11069



SH11081

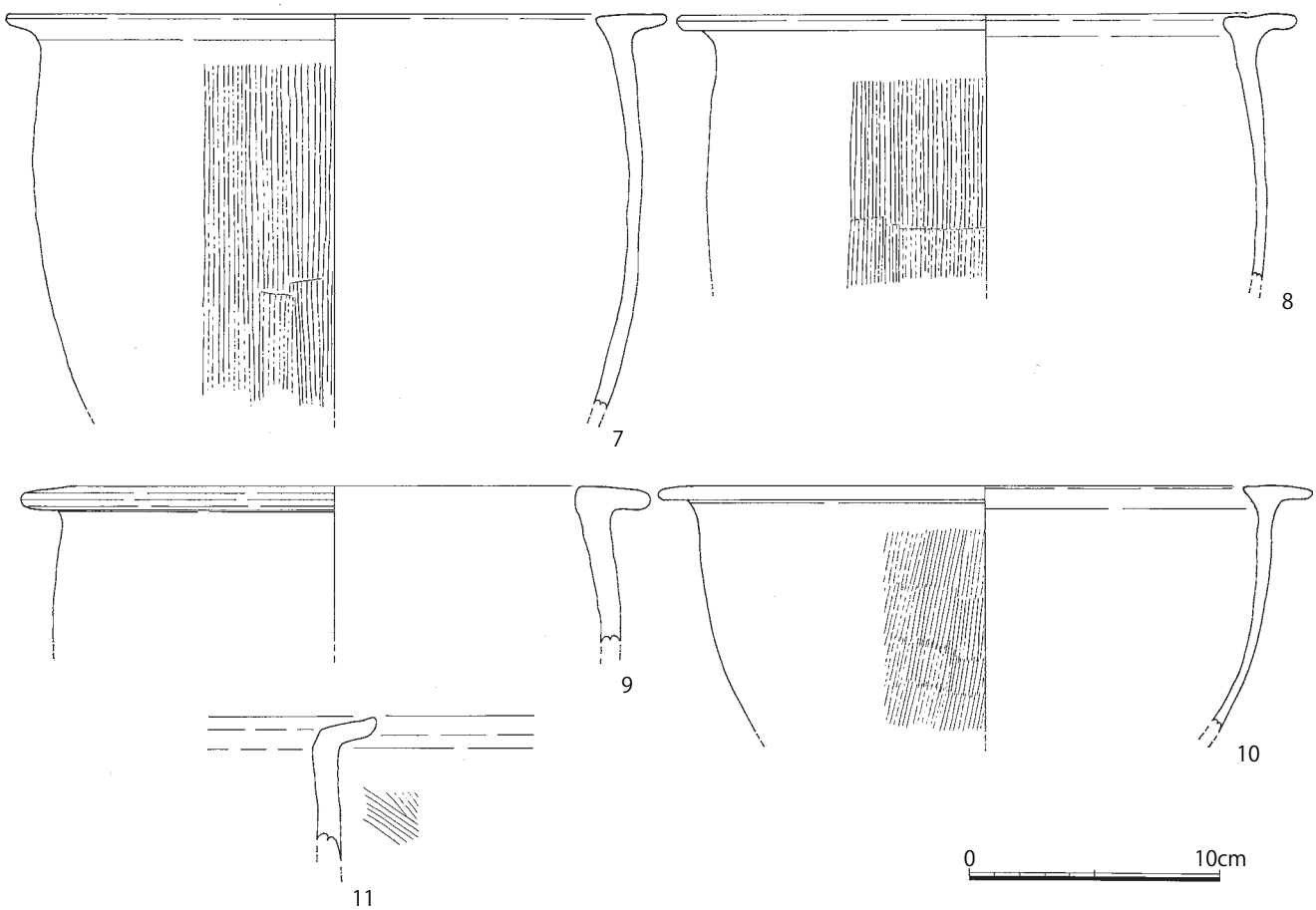


図 137　SH11069・11081 出土土器（1/3）

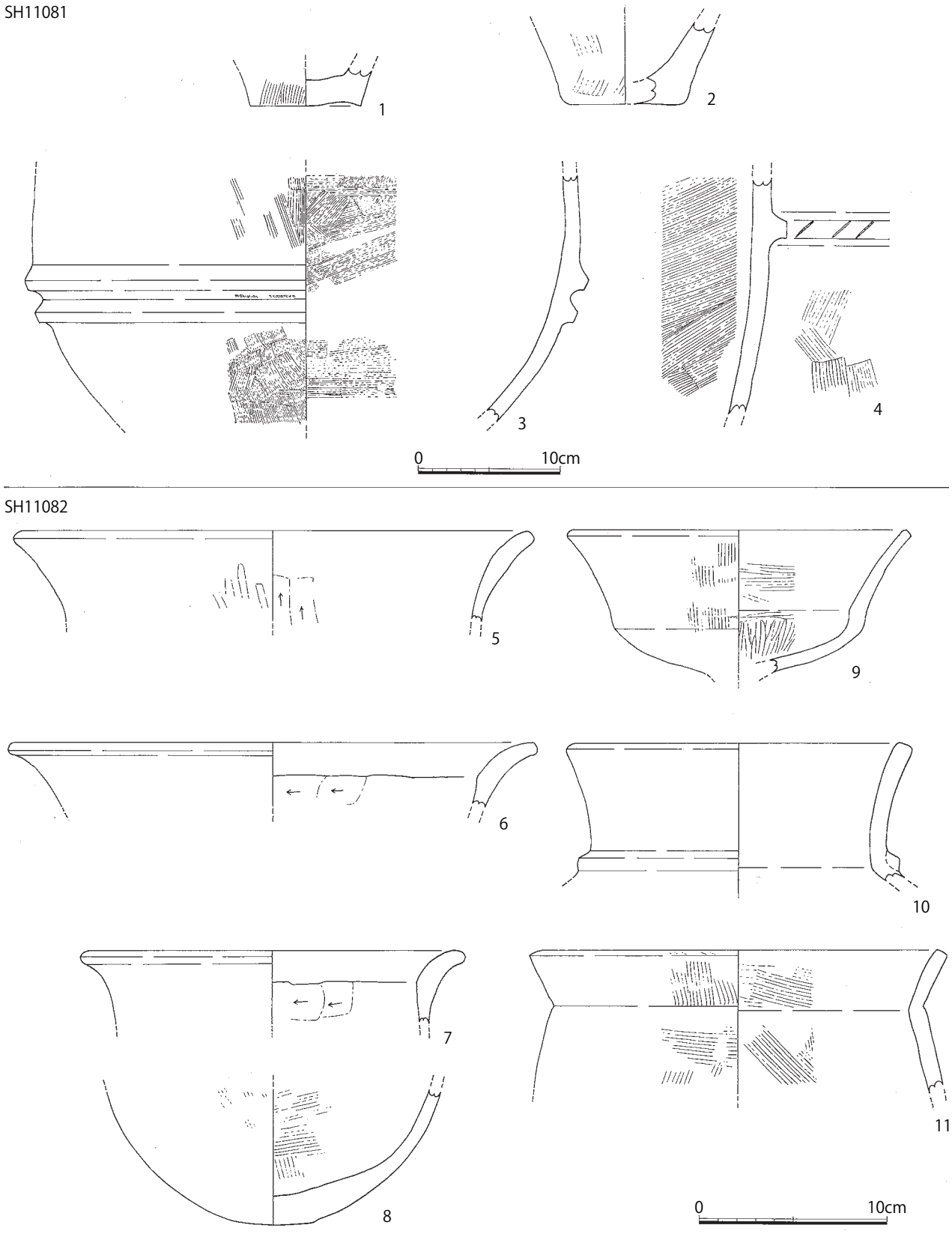


図 138　SH11081・11082 出土土器（1/3、1/4）　3 は 1/4、他は 1/3

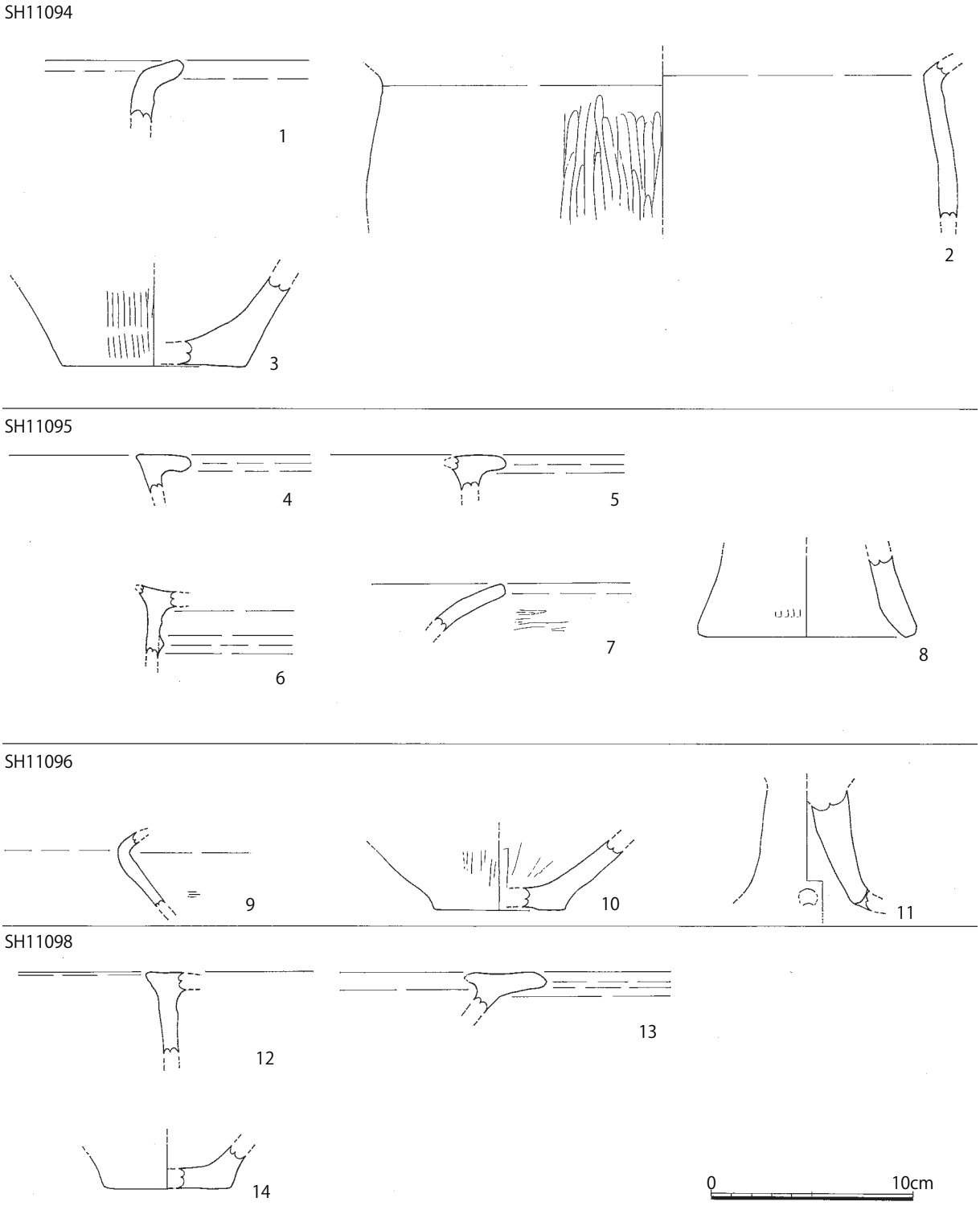


図 139　SH11094・11095・11096・11098 出土土器（1/3）

下外面にはナデによる段がつく。

図 139-3 は甕の底部片、平底である。

ＳＨ１１０９５出土土器

図 139-4 ～ 6 は甕の口縁部片、6 は口縁下に突帯を回す。

図 139-7 は広口壺の口縁部片、内外面赤色顔料塗布。図 139-8 は器台片。

ＳＨ１１０９６出土土器

図 139-9 は甕の口縁部片、肩部内面ヘラ削り。

図 139-10 は壺の底部片。

図 139-11 は高杯脚部、円形の透かしあり。

ＳＨ１１０９８出土土器

図 139-12 は甕の口縁部片。

図 139-13 は広口壺の鋤先状口縁部片。

図 139-14 は甕の底部片、平底である。

ＳＨ１１１１０出土土器

図 140-1 は高杯脚部片。

図 140-2 は甑口縁部片、口縁部外面はヨコナデ、胴部外面は粗い縦ハケ、内面はヘラ削り。

図 140-3、4 は甕の口縁部片、3 は逆Ｌ字形、4 は外反するくの字形で断面三角形の突帯を回す。

図 140-5 は甕の底部、丸底で外面ハケを施す。

本遺構は平面方形で四本主柱穴の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 140-1、5 と考える。

ＳＨ１１１１１出土土器

図 140-6 は高杯杯部である。杯部中位で屈曲し､外反気味に外方に開く。口縁部外面ヨコ方向磨き状、内面横ハケを施す。

図 140-7 は甕の底部、若干の平坦面をもつ。体部外面ハケ。

図 140-8 は甕口縁部片、口縁先端が下方に向く。

図 140-9 は甕の底部、体部外面ナデ、内面ハケ。底部の粘土接合帯で段をもつ。

ＳＨ１１１１２出土土器

図 140-10、11 は甕。口縁部は緩やかに外反する。胴部内面ヘラケズリ。

図 140-12 は甕の底部。丸底で、内面は比較的丁寧なヘラ削り。

図 140-13、14 は甑の口縁部。13 の口縁部は外反し、14 はわずかに屈曲し、短く外方に開く。体部内面粗いヘラ削り。

図 141-1 は須恵器無蓋高杯である。直脚二段三方透かしで、上段の透かしは貫通していない。杯部中位に三条の沈線、杯部中位に二条の沈線と底部に連続した櫛描列点文と一条の沈線を回す。

図 141-2 は土師器高杯脚部、中実、低脚である。

図 141-3 は弥生土器、器台である。

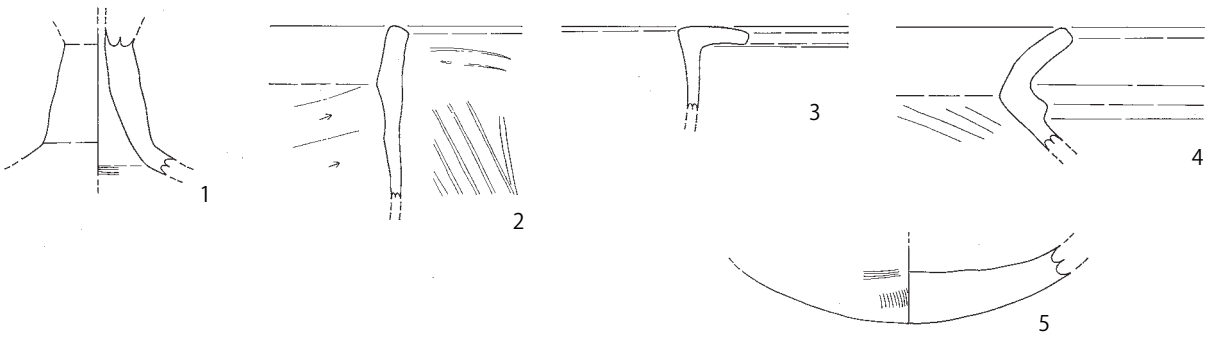
本遺構は平面方形で四本主柱穴の竈付き竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 140-10、11、13、14、図 141-1、2 と考える。

ＳＨ１１１１３出土土器

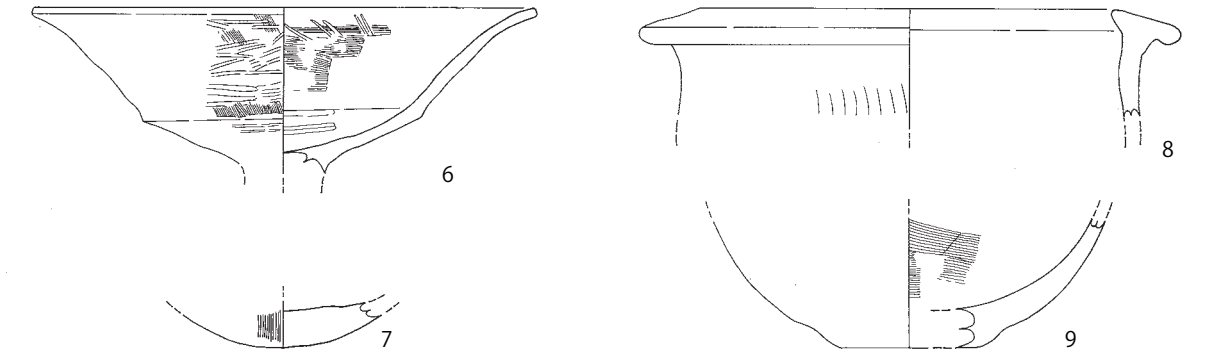
図 141-4、5 は甕口縁部片、逆Ｌ字形である。

図 141-6、7 は甕底部片、平底である。

SH11110



SH11111



SH11112

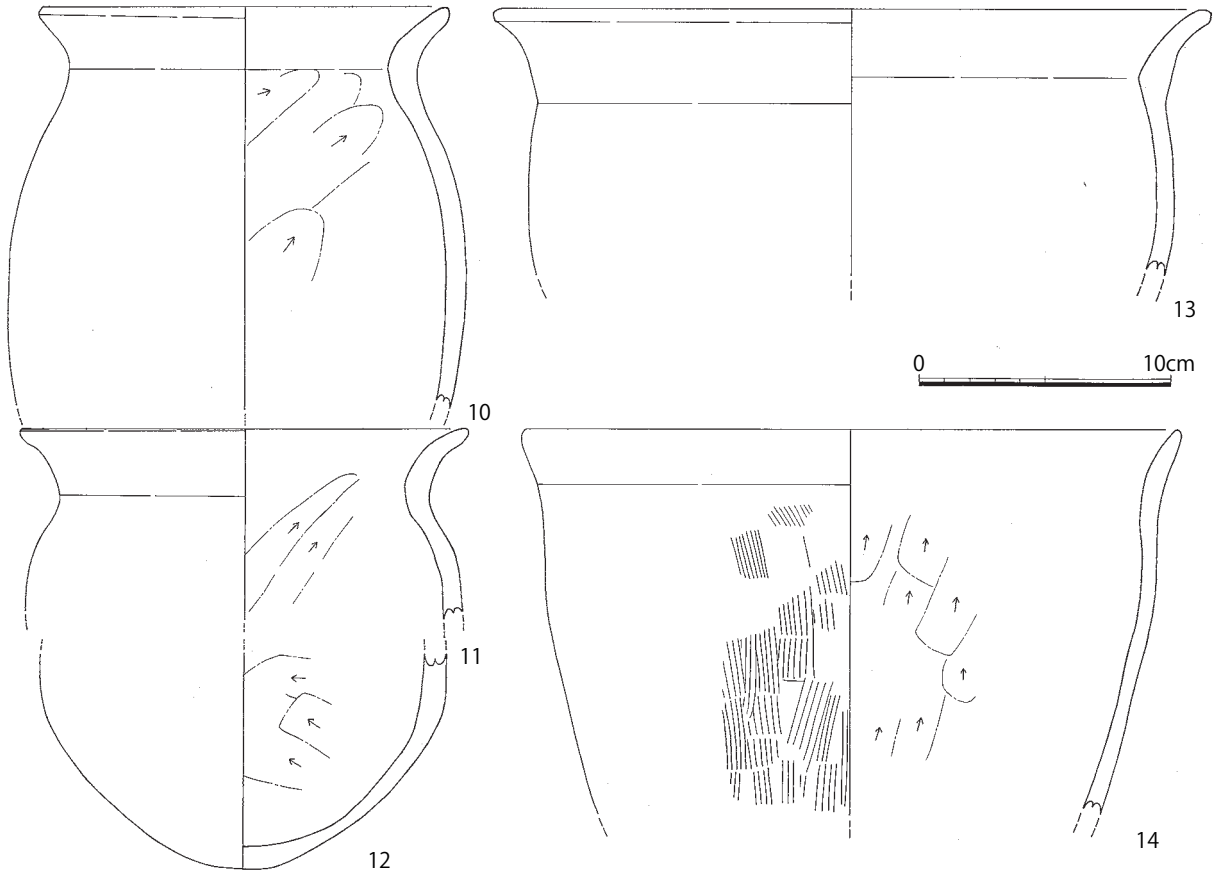


図 140　SH11110・11111・11112 出土土器（1/3）

図 141-8 は壺の底部である。

図 141-9、10 は甕底部片、丸底～丸底気味である。

図 141-11 は器台、くびれは体部上位にある。

本遺構は平面円形で、遺構の時期を示す土器は図 141-4 ～ 8 と考える。

ＳＨ１１１２１出土土器

図 141-12 は甕口縁部片、逆Ｌ字形である。

図 141-13、14 は壺胴部片、13 は胴部中位に二条の断面三角形突帯、14 は胴部中位に一条の断面Ｍ字形突帯を回す。

図 141-15 は土師器広口壺の口縁部か？器壁が薄く、口唇部は面取りされ、頸部にわずかな屈曲がみられる。器形も類例がなく、全体的なつくりは須恵器に似る。

図 142-1 ～ 3 は甕の底部。

図 142-4 は土師器の小型の甕、丸底で器高 12.7cm と小型である。胴部内面ヘラケズリ。

ＳＨ１１１２２出土土器

図 142-5 は器台、小形であり、内外面に指頭圧痕あり。

ＳＨ１１１２７出土土器

図 142-6 ～ 11 は甕口縁部片、6、7、9、11 は逆Ｌ字形である。8、10 は口縁部直下に断面三角突帯を回し、8 は口唇部に板状木口の刻みを入れる。

図 142-12 ～ 14 は甕底部片、外面縦ハケ。

ＳＨ１１１２９出土土器

図 143-1 ～ 3 は甕、1 はくの字形口縁で、口縁部長は短い。口縁部外面ヨコナデ、内面ハケ、肩部内外面ハケ。2 の体部は球形で、外面上半部ハケ、下半部縦方向のカキケズリ、内面ハケ。3 は小形の甕、体部上半部内外面ハケ。

図 143-4 は台杯鉢、図 143-5、6 は鉢、5 は体部中位で屈曲する。外面全面ハケ、内面ナデ。6 は丸底。

図 143-7 は甕、口縁部上端面は内傾する。混入品である。

ＳＨ１１１３０出土土器

図 143-8 は甕口縁部、器壁は厚く、短く外反する。口唇部は丸くおさめる。肩部外面粗いハケ、内面ヘラケズリ。

図 143-9 は高杯脚部、ラッパ状に開き、裾端部を上にはねる。

図 143-10 は直口壺の口縁部、器壁は薄く外面ヘラミガキ。

本遺構は平面不整方形で竈付き竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 143-8、9 と考える。

ＳＨ１１１３１出土土器

図 143-11 は甕口縁部、逆Ｌ字形。図 143-12 は土師器の底部、内面指頭圧痕あり。壺か？古代の杯の可能性もあり。

図 143-13 は甕の底部、平底で体部外面粗いハケ。

図 143-14、15 は支脚、断面円形。

図 143-16 は甕の肩部片、断面台形の突帯を回す。内外面ハケ。

本遺構は平面不整円形の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 143-11、14、15 と考える。

ＳＨ１１１３８出土土器

図 144-1 ～ 7 は甕、1 ～ 3 は口縁部が内湾する布留形甕の口縁部。1 は肩部に波状文を施す。色調

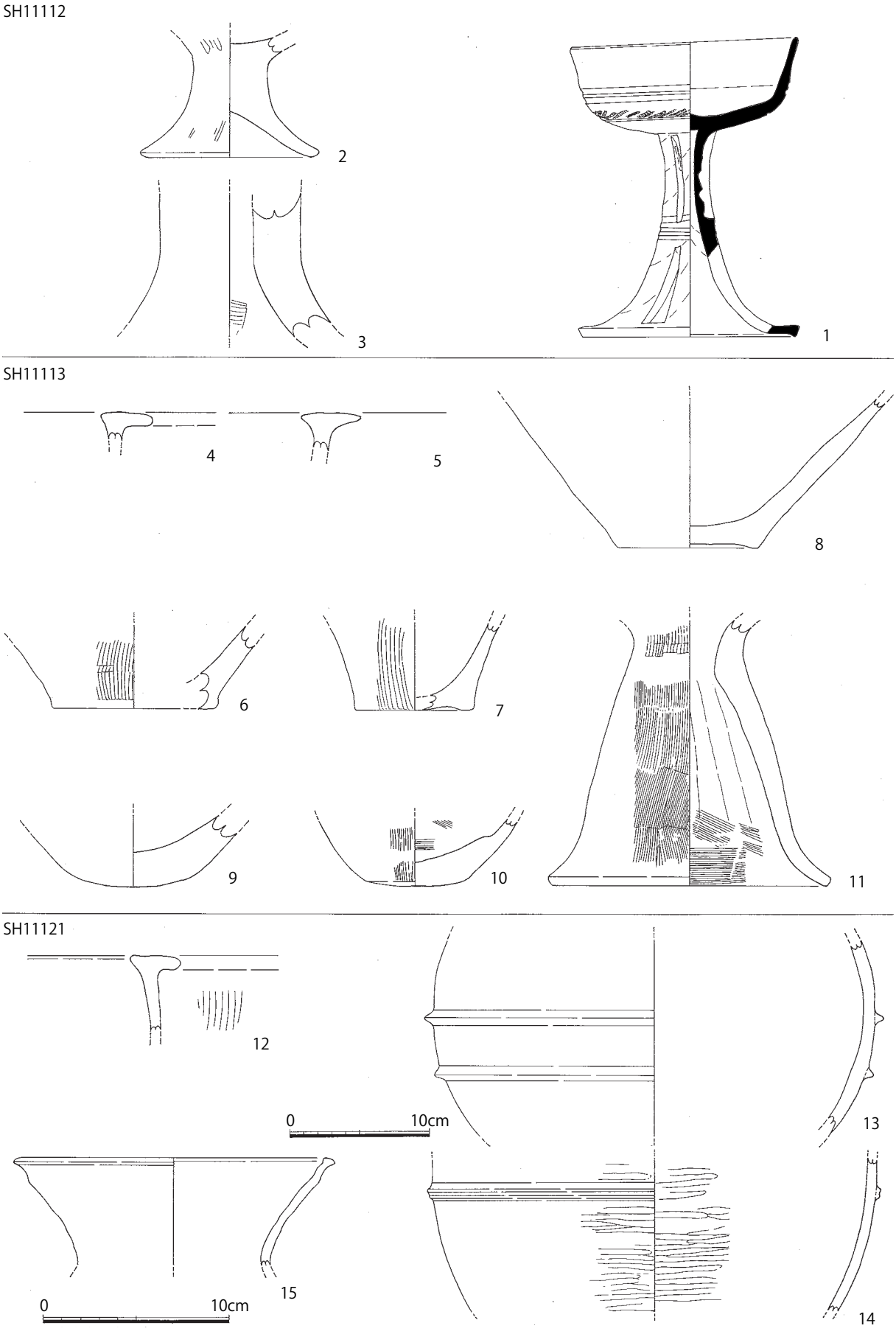
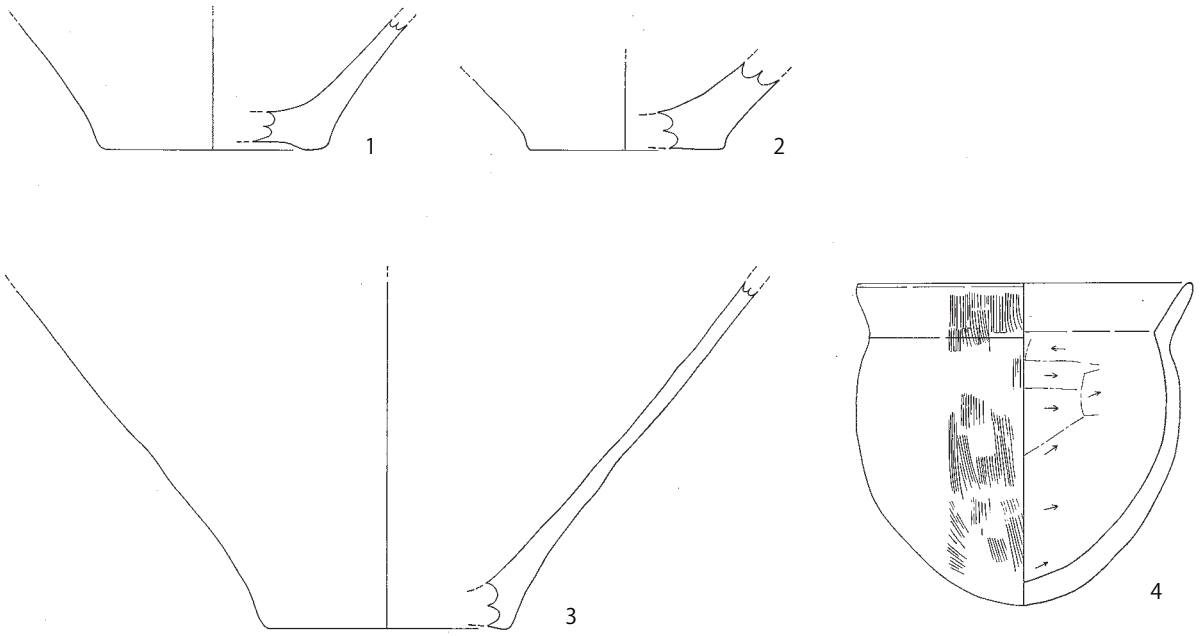
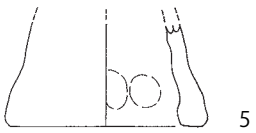


図 141　SH11112・11113・11121 出土土器（1/3、1/4）　13 は 1/4、他は 1/3

SH11121



SH11122



SH11127

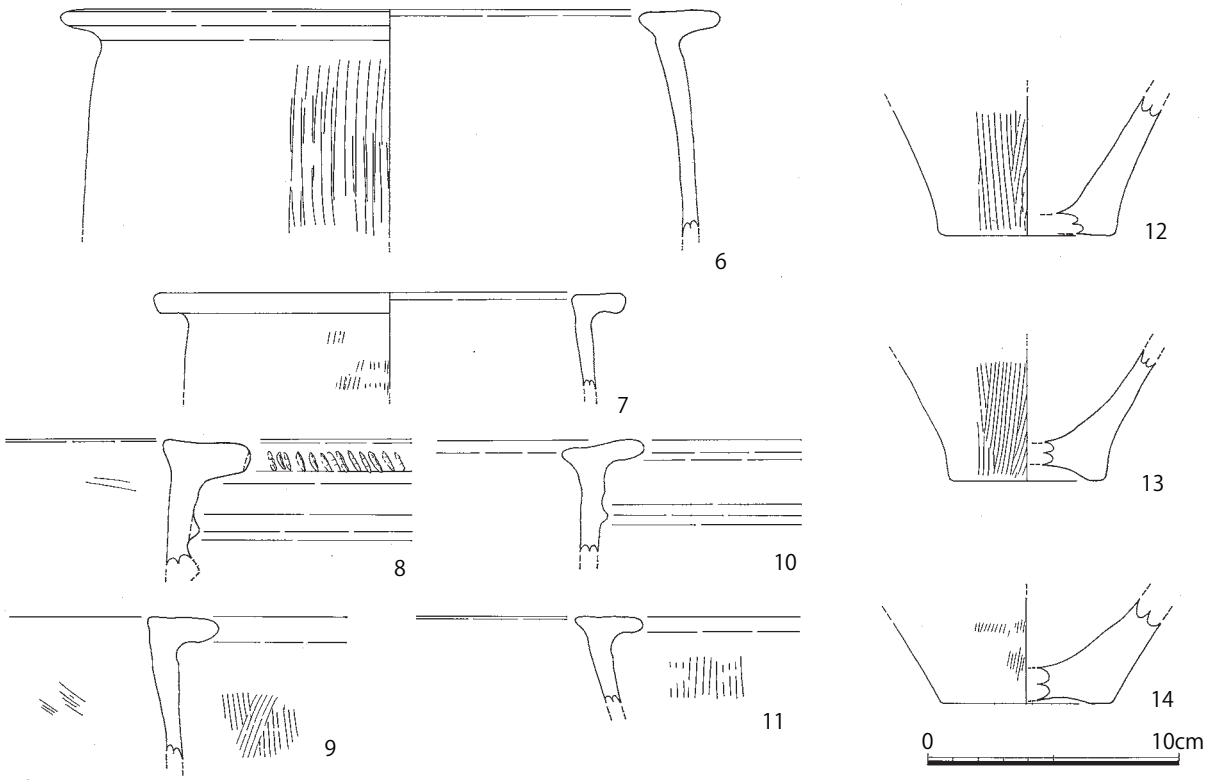


図 142　SH11121・11122・11127 出土土器（1/3）

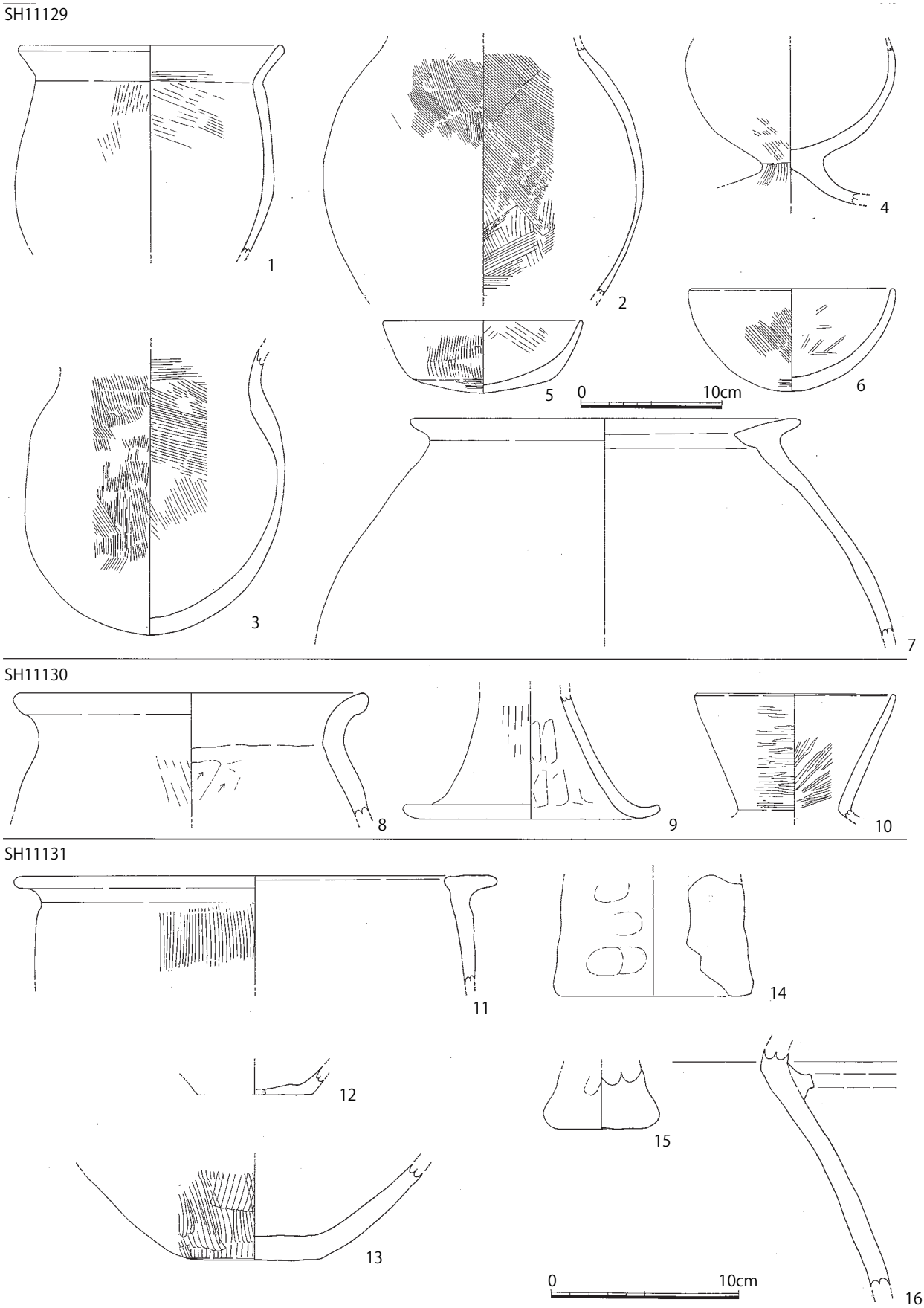


図 143　SH11129・11130・11131 出土土器（1/3、1/4）　2・7 は 1/4、他は 1/3

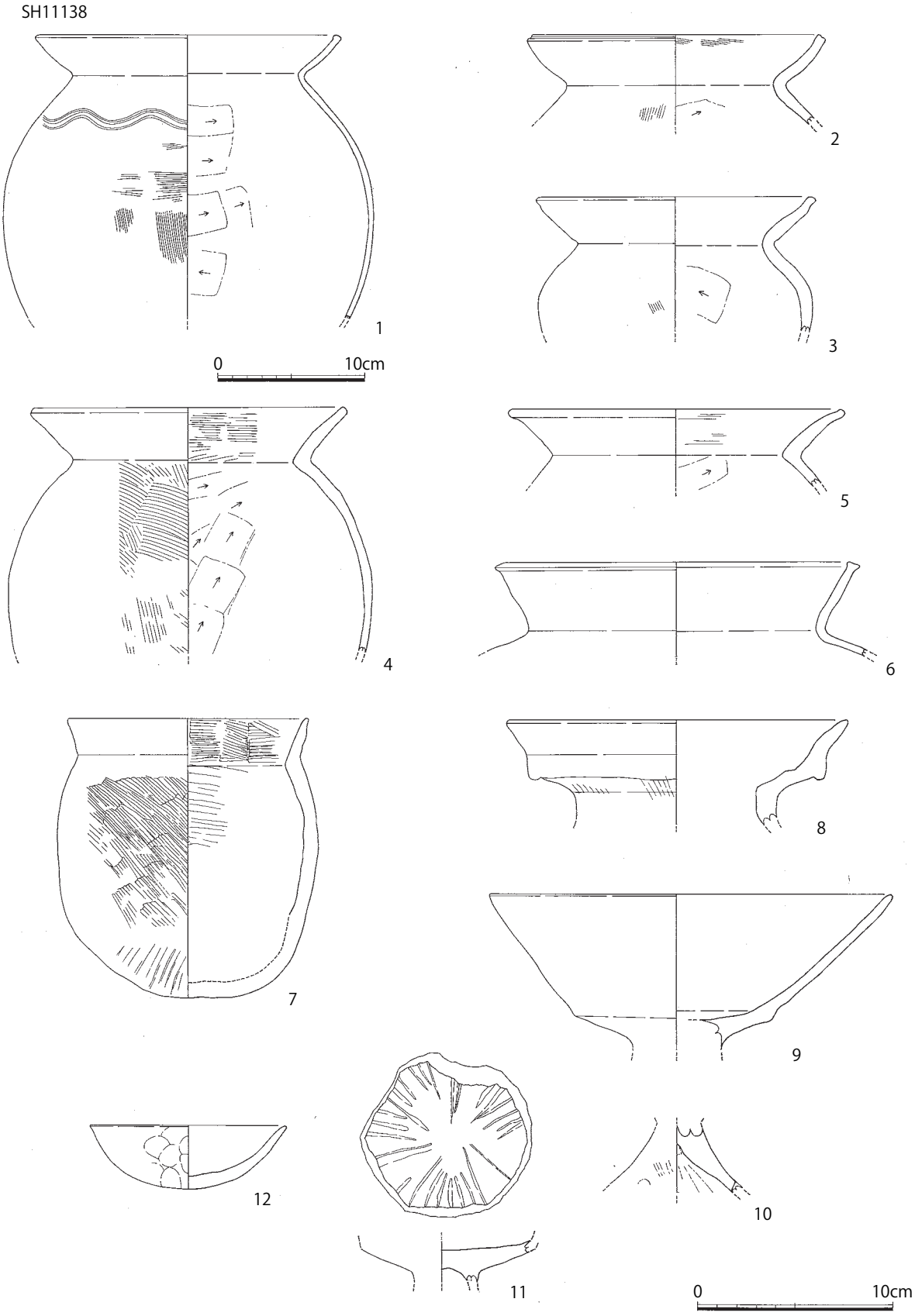


図 144　SH11138 出土土器（1/3、1/4）　1 は 1/4、他は 1/3

は灰黄色で他の土器群と異質である。4、5 の口縁部は直線的で、肩部内面は稜をなす。6 の口唇端部は面取りされ、若干内外に肥厚する。7 は小形の甕、丸底である。胴部上半内外面はハケ、底部外面はカキケズリ状。

図 144-8 は二重口縁壺の口縁部、二次口縁中位で屈曲し、外方に開く。

図 144-9 は高杯杯部、口縁部は大きく外方に開く。

図 144-10、11 は精製小型器台、10 の脚部は大きく外方に開く。11 は受部口縁を欠失するが、短く屈曲すると思われる。受け部面中央にタール状付着物あり。

図 144-12 は鉢、丸底で外面に指頭圧痕が残る。

ＳＨ１１１３９出土土器

図 145-1 ～ 3 は甕口縁部片、1 の口縁部は外反し、口唇部は面取りする。肩部内外面はハケ。2、3 は布留形甕、口縁部は若干内湾し、口唇部は内側に肥厚する。

図 145-4 ～ 6 は壺口縁部片、4 は外反し、口唇部外側を肥厚する。5、6 は袋状口縁壺、内外面赤色顔料塗布。

図 145-7 は甕の底部、丸底である。内面、指頭圧痕、外面、ハケが施される。

図 145-8、9 は高杯、8 は有段高杯、9 は高杯あるいは台付き鉢の脚部。裾部内面ハケ。

図 145-10 は鉢、口縁部は緩やかに屈曲する。

ＳＨ１１１４０出土土器

図 145-11、12 は甕、11 は胴部内外面ハケ、底部外面タタキ。丸底。12 は平底。

図 145-13 は広口壺、口縁部から肩部内外面ハケ。

図 145-14、15 は鉢、14 は口縁部が若干屈曲し、内面に稜をもつ。口縁部内外面ハケ。15 は素口縁で丸底。

本遺構は平面方形で四本主柱穴の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 145-1 ～ 3、8、11、13 と考える。

ＳＨ１１１４２出土土器

図 146-1 は須恵器杯蓋。

図 146-2 は甑の口縁部、外面粗いハケ、内面ヘラケズリ。

図 146-3 は甕の口縁部、肩部内面ヘラ削り。

図 146-4 は直口壺、口頸部内外面にハケのち暗文。

図 146-5 は屈曲口縁の鉢か？

本遺構は平面方形で四本主柱穴の竈付き竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 146-1、2 と考える。

ＳＨ１１１４３出土土器

図 146-6 は甕、逆Ｌ字形口縁である。

図 146-7 ～ 9 は器台、7、8 は胴部外面ハケ、9 は粗製で胴部外面に指頭圧痕が残る。

ＳＨ１１１４４出土土器

図 146-10 ～ 16、図 147-1、2 は甕、図 146-10 ～ 14 はくの字形口縁で体部内外面ハケ、図 146-15 は精製甕、体部外面ハケ、内面ヘラ削り。口唇部を上方につまみ上げる。図 146-16 は口縁基部に断面三角形の突帯を回す。図 147-1 の口縁部は外反し、口縁部～肩部内外面ハケ。図 147-2 は肩部外面タタキ、内面ヘラケズリを施すが器壁は厚い。

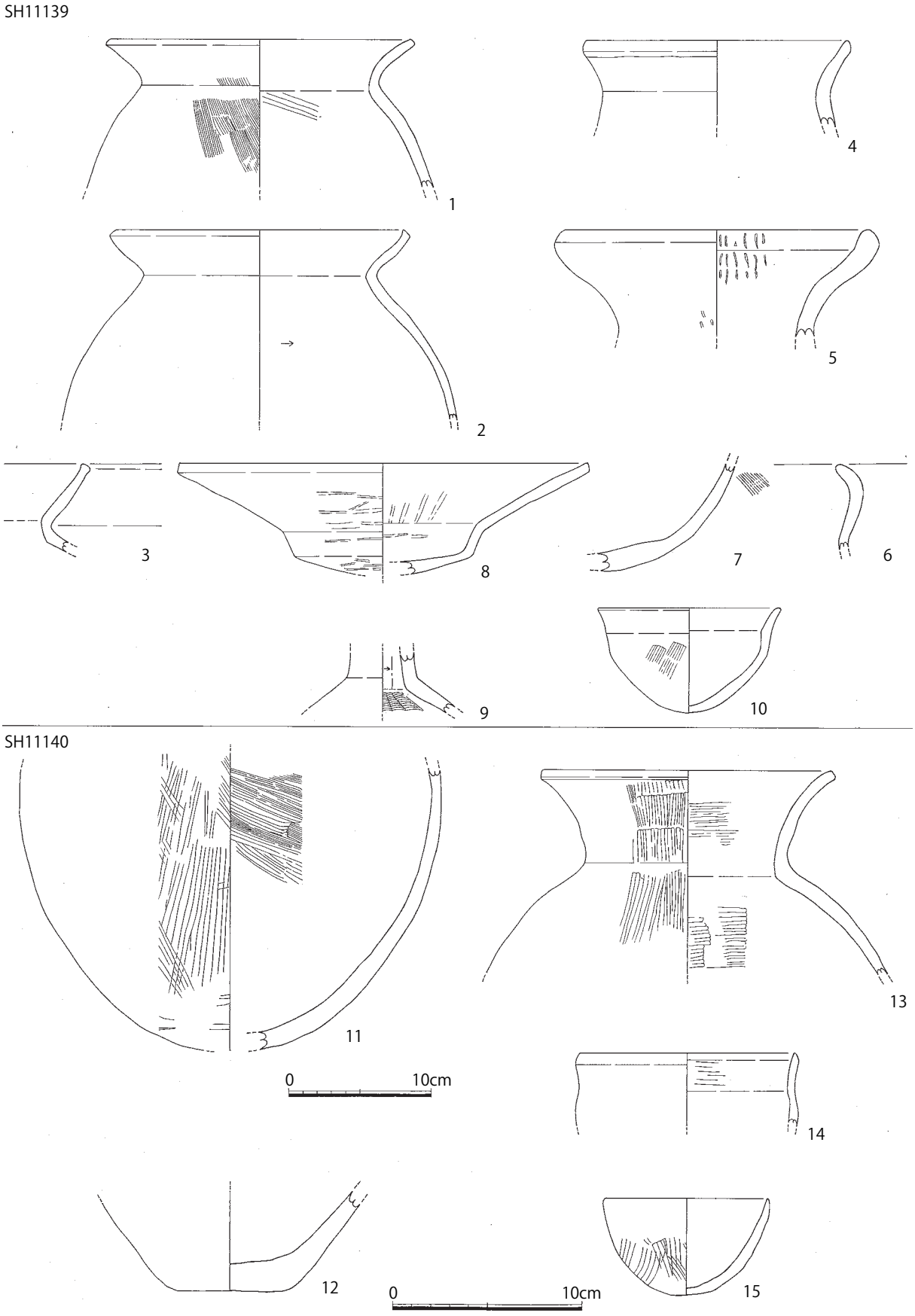


図 145　SH11139・11140 出土土器（1/3、1/4）　11 は 1/4、他は 1/3

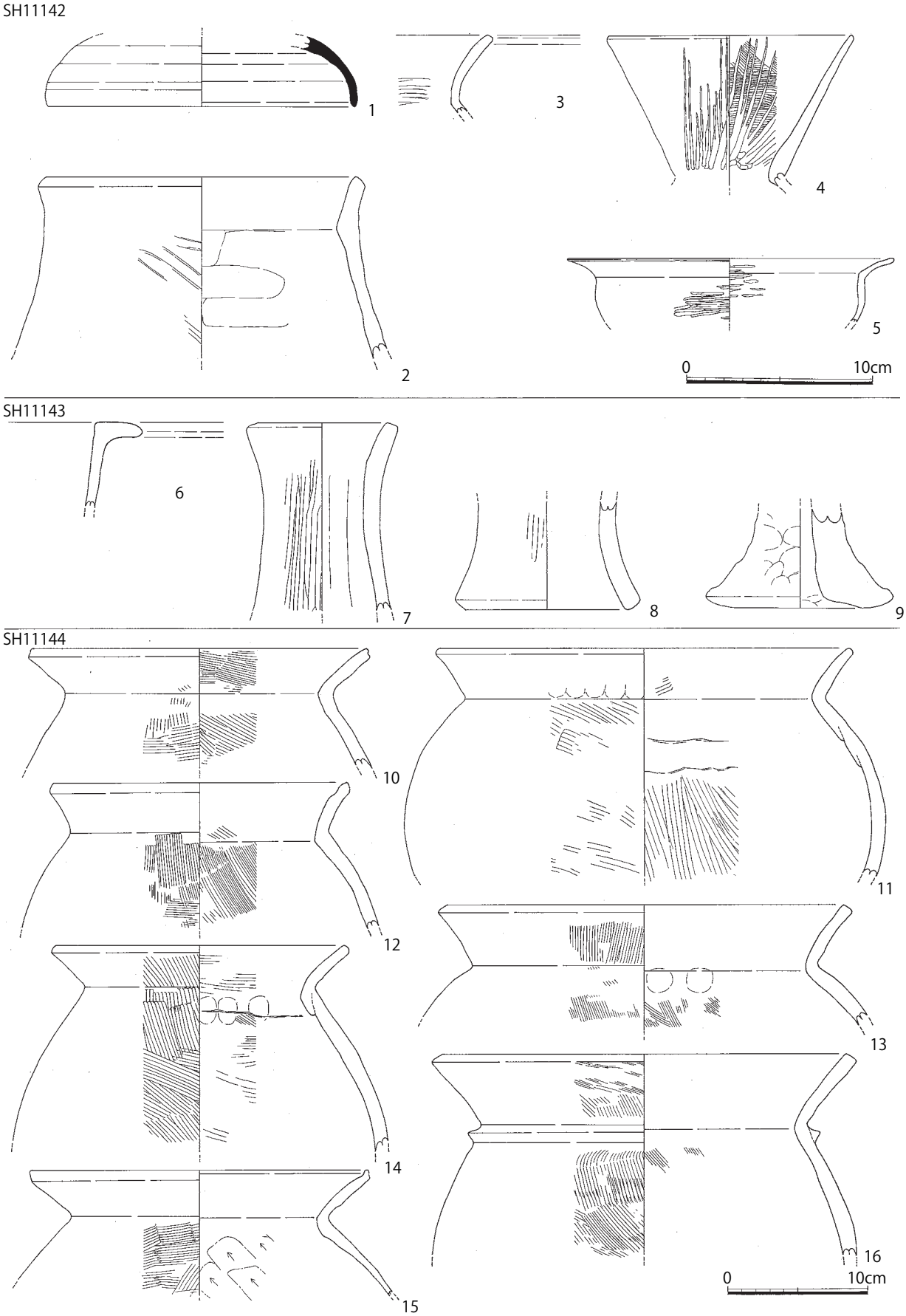


図 146　SH11142・11143・11144 出土土器（1/3、1/4）　16 は 1/4、他は 1/3

SH11144

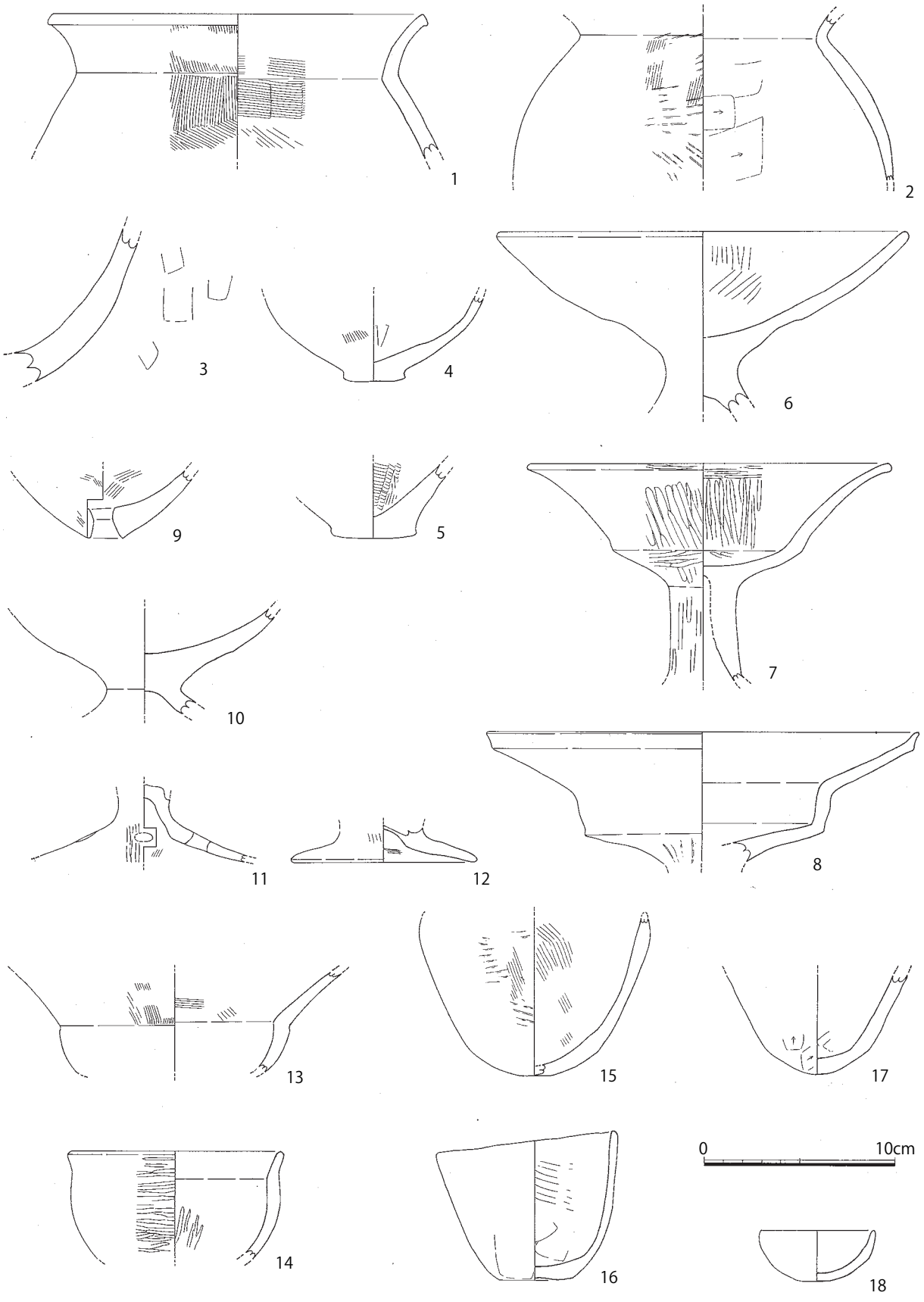


図 147　SH11144 出土土器（1/3）

図 147-3 は甕の底部。

図 147-4 は壺の底部、平底である。

図 147-5 は甕の底部、平底で内面ハケ。

図 147-6 ～ 8 は高杯、6 は杯部上半と下半の接合による稜線が外面に回る。7 は杯下半外面に稜をもつ。杯上半は外反する。8 は有段高杯、口唇部を上方につまみ上げる。

図 147-9 は鉢形の甑、底部に円形の孔を穿つ。

図 147-10 ～ 12 は台付鉢、11 は脚裾部に四方円形透かしあり。

図 147-13 ～ 18 は鉢、13、14 は屈曲口縁鉢、16、18 は素口縁鉢。

ＳＨ１１１４７出土土器

図 148-1、2 は甕口縁部、1 の口縁部は内湾する布留型甕である。

図 148-3 は甕底部、平底。

図 148-4 は畿内系二重口縁壺の口縁部、口頸部内面はミガキ状。

図 148-5、6 は台付鉢の脚台部。

ＳＨ１１１４９出土土器

図 148-7 は甕口縁部、くの字口縁。

図 148-8 は直口壺口縁部片、口縁部は直立気味、内外面ハケ。

図 148-9 は甕底部、丸底化が進行する。外面カキケズリ状。

図 148-10 は長頸の広口壺、丸底、外面ハケ。

図 148-11、12、図 149-1 ～ 3 は鉢、11 は屈曲口縁で平底、12 は深鉢、素口縁で体部下半部はカキケズリ状、内面ハケ。図 149-1 ～ 3 は素口縁で、2 は底面まで調整を施さず、底部と体部の境に稜をつくる。3 は SH11150 出土破片と接合する。

ＳＨ１１１５０出土土器

図 149-4 は広口壺の口縁部片、短く外反する。

図 149-5 は精製小型器台、受部口縁部は短く直立し、端部は外反する。

図 149-6、7 は高杯、7 は脚部中実で、三方円形の透かしあり。

ＳＨ１１１５１出土土器

図 149-8、9 は甕口縁部片、8 は肩部内外面ハケ、9 は肩部外面タタキか？

図 149-10 は器台裾部片。

図 149-11 は台付甕、底部内面は黒色である。台付鉢の可能性あり。

ＳＨ１１１５２出土土器

図 149-12 は精製甕、口唇部は内側上方に肥厚する。肩部外面タタキ、内面ハケとヘラ削り。

図 149-13 は素口縁の鉢、内外面ハケ。

ＳＨ１１１５４出土土器

図 150-1 は甕口縁部、逆Ｌ字形に折り返す。口唇部にヘラによる刻み目あり。内外面赤色顔料塗布。

図 150-2 は鉢口縁部片、鋤先口縁である。

図 150-3 は壺頸部片、二重口縁壺か？

図 150-4 は有段高杯の杯部片、逆Ｌ字形に屈曲する。内外面ナデ。

図 150-5、6 は屈曲口縁の鉢口縁部、口縁部は長めである。

本遺構は平面方形の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 150-3 ～ 6 と考える。

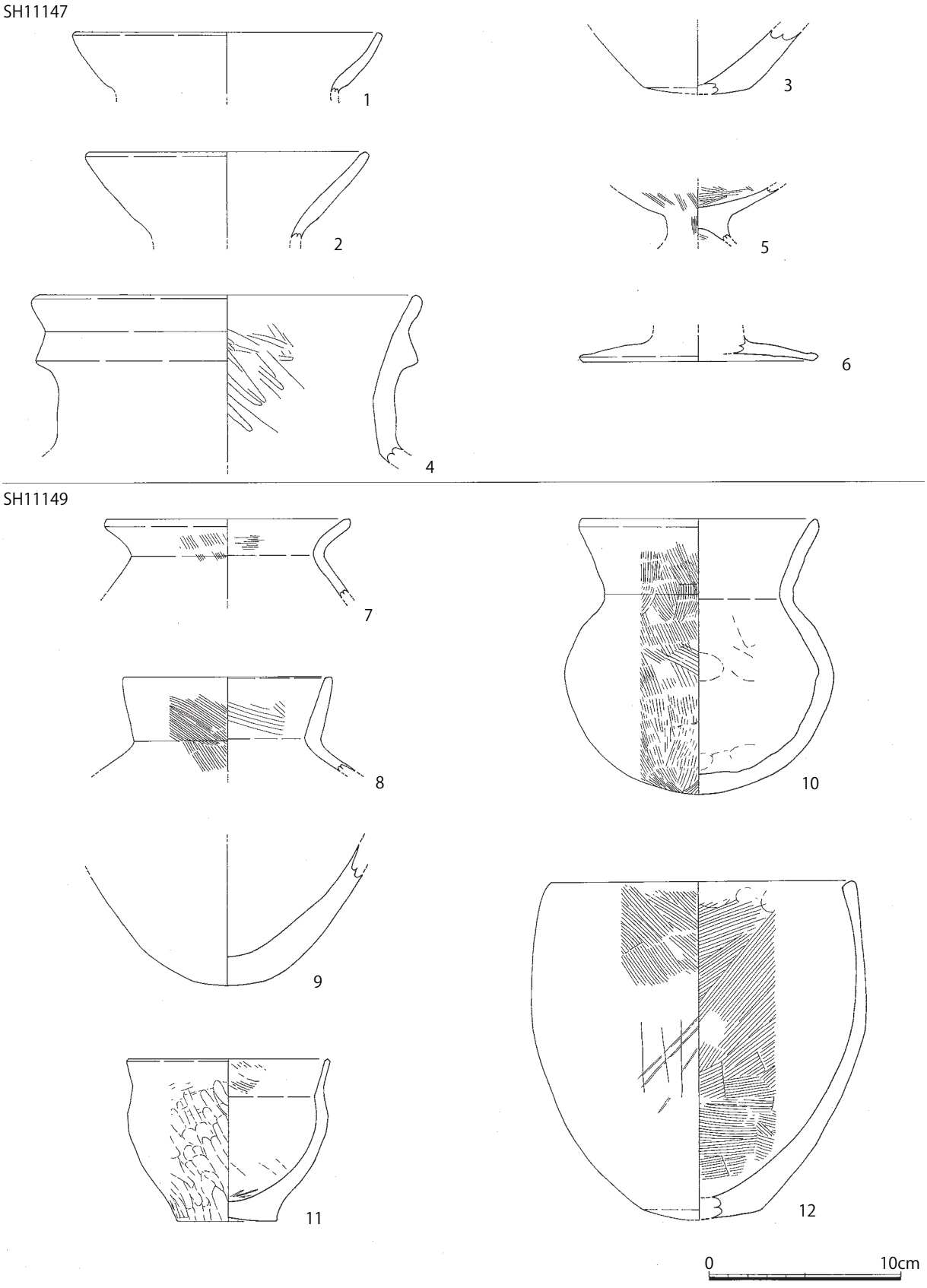


図 148　SH11147・11149 出土土器（1/3）

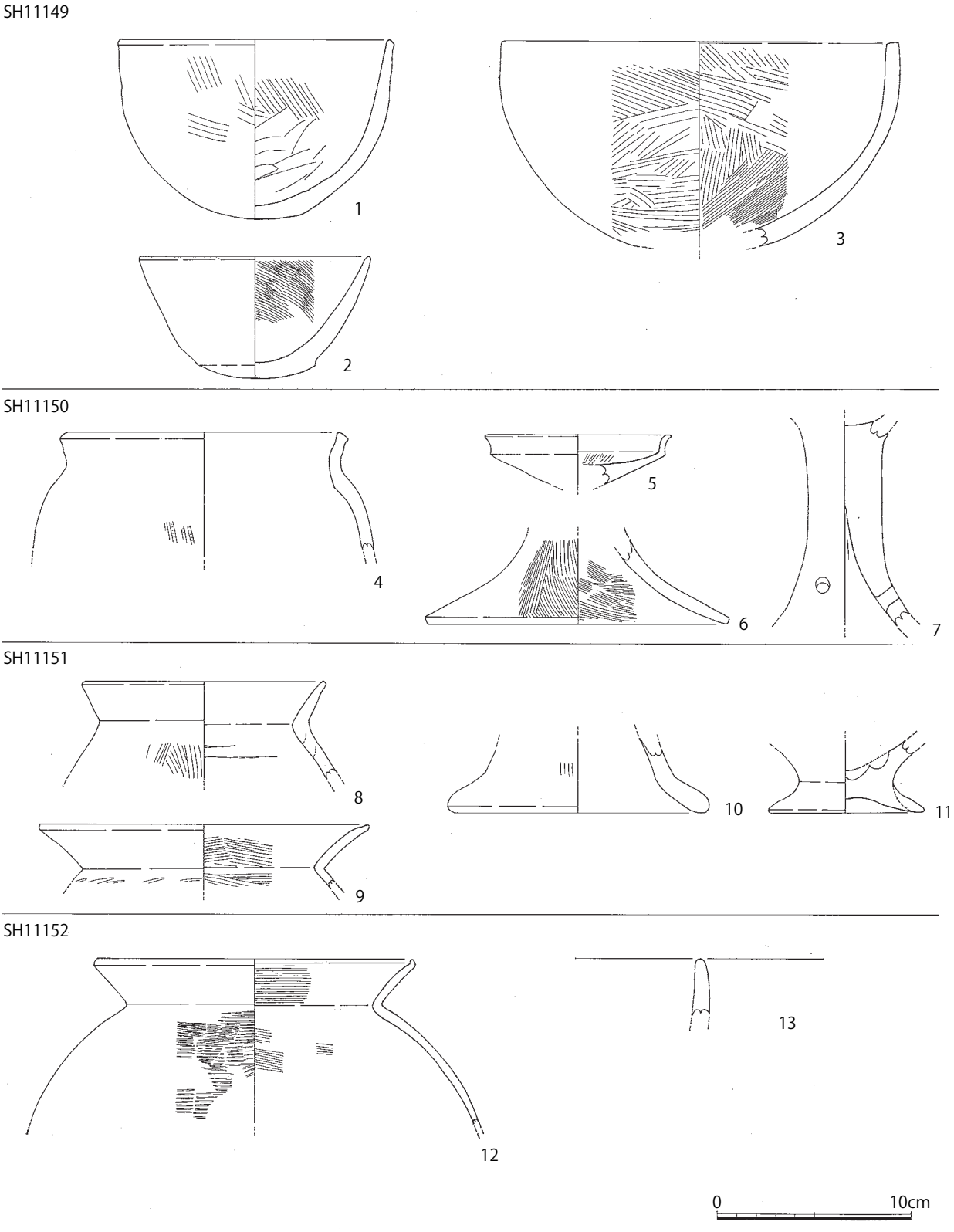


図 149　SH11149・11150・11151・11152 出土土器（1/3）

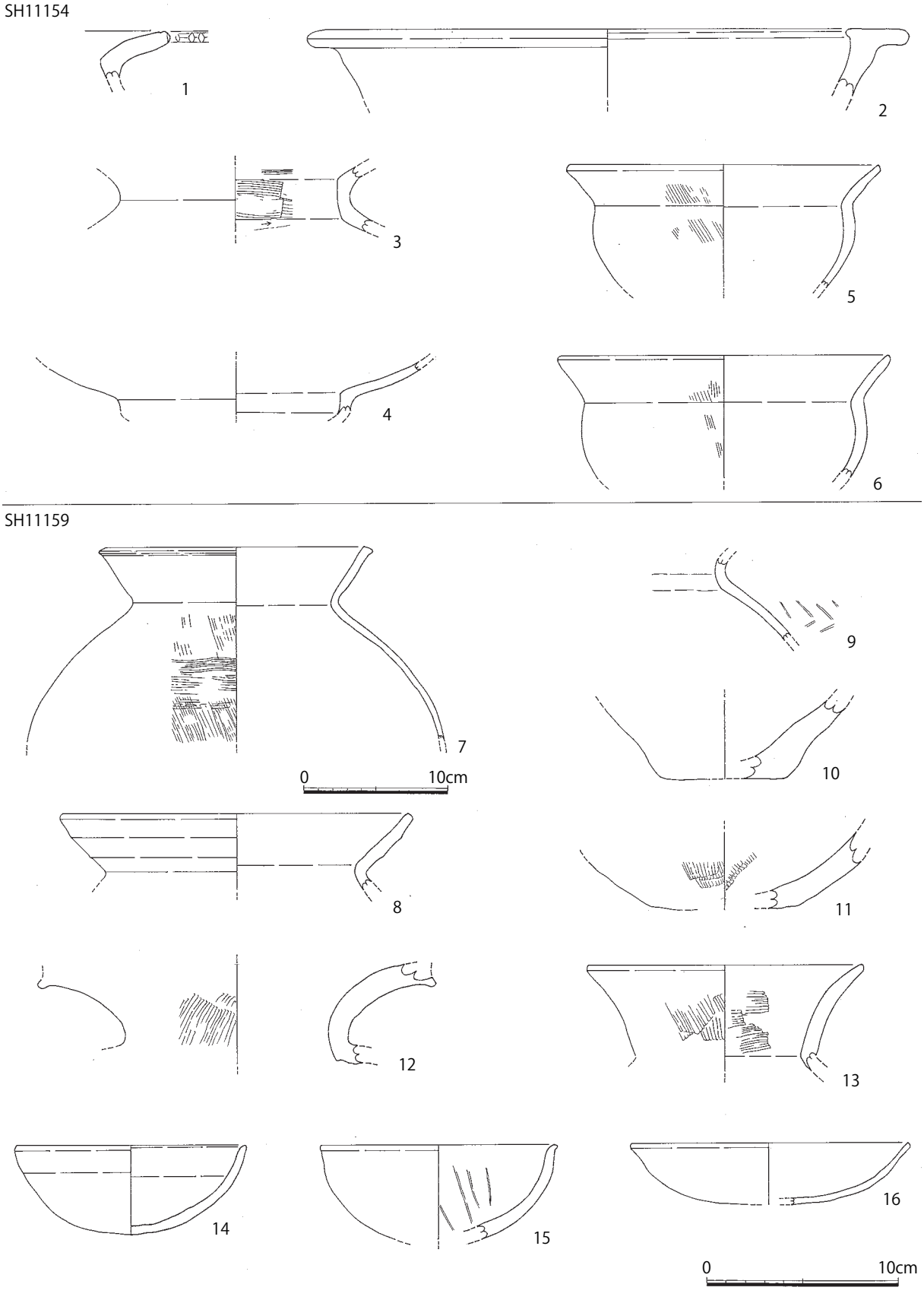


図 150　SH11154・11159 出土土器（1/3、1/4）　7 は 1/4、他は 1/3

ＳＨ１１１５９出土土器

図 150-7 ～ 9 は甕口縁部片、口縁部が内湾する布留型甕である。7 は肩部外面ハケで一条の沈線を回す。内面ヘラケズリ。9 は肩部外面に矢羽文を施す。内面ヘラケズリ。

図 150-10、11 は底部、10 は壺底部の可能性あり。

図 150-12、13 は壺口縁部、12 は二重口縁壺、13 は広口壺である。

図 150-14 ～ 16 は素口縁の鉢、底部は丸底。15 は口唇部をわずかに外反させる。16 は器壁が薄い精製土器である。

ＳＨ１１１６０出土土器

図 151-1、2 は甕口縁部片、精製甕である。

図 151-3 は有段高杯の杯部である。

図 151-4 ～ 6 は鉢、4 は口縁部は短く直立する。体部外面は粗ハケ。5、6 は屈曲口縁。

図 151-7 は台付鉢の脚部。

図 151-8 は精製小型器台の脚裾部片か？円形透かしが 1 孔のみ見られる。

ＳＨ１１１６５出土土器

図 151-9 は甕口縁部、逆 L 字形に折り曲げる。

図 151-10、11 は甕底部、10 は平底、11 は丸底気味、外面カキケズリ。

ＳＨ１１１６６出土土器

図 151-12、13 は甕口縁部片、くの字形口縁で肩部内外面ハケ。

図 151-14 は直口壺、精製、口頸部は直線的にやや外方に開く。

図 151-15 ～ 17、19 は鉢、15 は大形の素口縁、丸底で内外面ハケ。16、19 は口縁部が緩やかに屈曲する。

図 151-18 は高杯、器壁が厚く粗製である。

図 151-20 は器台、粗製。

図 151-21 は支脚、外面タタキ、平坦な受け部から棒状工具を穿ち約 7cm 中空にする。

ＳＨ１１１６９出土土器

図 152-1 ～図 153-2 は甕、図 152-1 ～ 4 は緩やかなくの字口縁で、肩部内外面ハケ。図 152-3 は体部球形の折衷系の甕、器壁は薄い、体部外面下半はカキケズリ状。図 152-5 は丸底気味、底部平坦面が若干ある。図 152-6 は体部球形で尖底、折衷系の甕、体部内面ハケ、外面ナデ。図 153-1 は小形の甕、丸底気味、底部平坦面が若干ある。体部上半内外ハケ、外面下半カキケズリ。図 153-2 は体部球形、外面ハケ、内面は粗雑なヘラ削り。

図 153-3 ～ 6 は壺、図 153-3 は口頸部が直立する。丸底気味、底部平坦面が若干ある。体部上半内外ハケ、体部外面下半カキケズリ。図 153-4 は口頸部が若干外方に開く。図 153-6 は広口壺、口頸部が外反する。

図 154-1 は片口のついた鉢、類例を知らない。粗製である。全体的な造りや調整は在地の小形甕の体部である。口唇部は面取りし、片口をつくる。

図 154-2 は小型広口壺、口頸部は直線的に外方に開く。

図 154-3 ～ 6 は屈曲口縁の丸底鉢、4、5 は完形、体部外面上半ハケ、下半カキケズリ状。

図 154-7 は精製小型器台、受け部は皿状に内湾し、脚裾部はハの字状に開く。受け部は放射状に暗文を施し、脚部中位には四方円形透かしあり。受け部から脚部にかけて径約 3mm の孔を貫通させる。

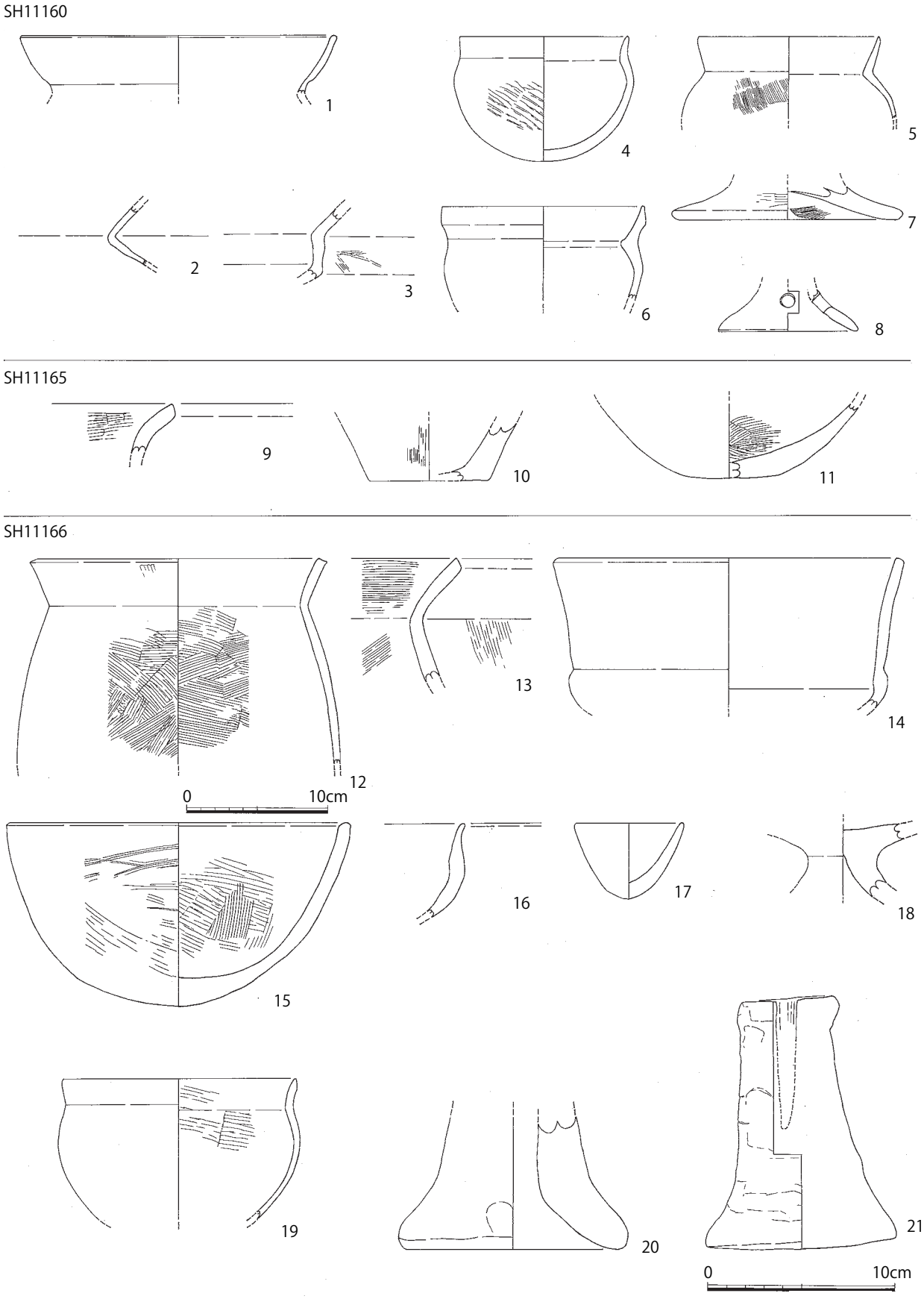


図 151　SH11160・11165・11166 出土土器（1/3、1/4）　12 は 1/4、他は 1/3

SH11169

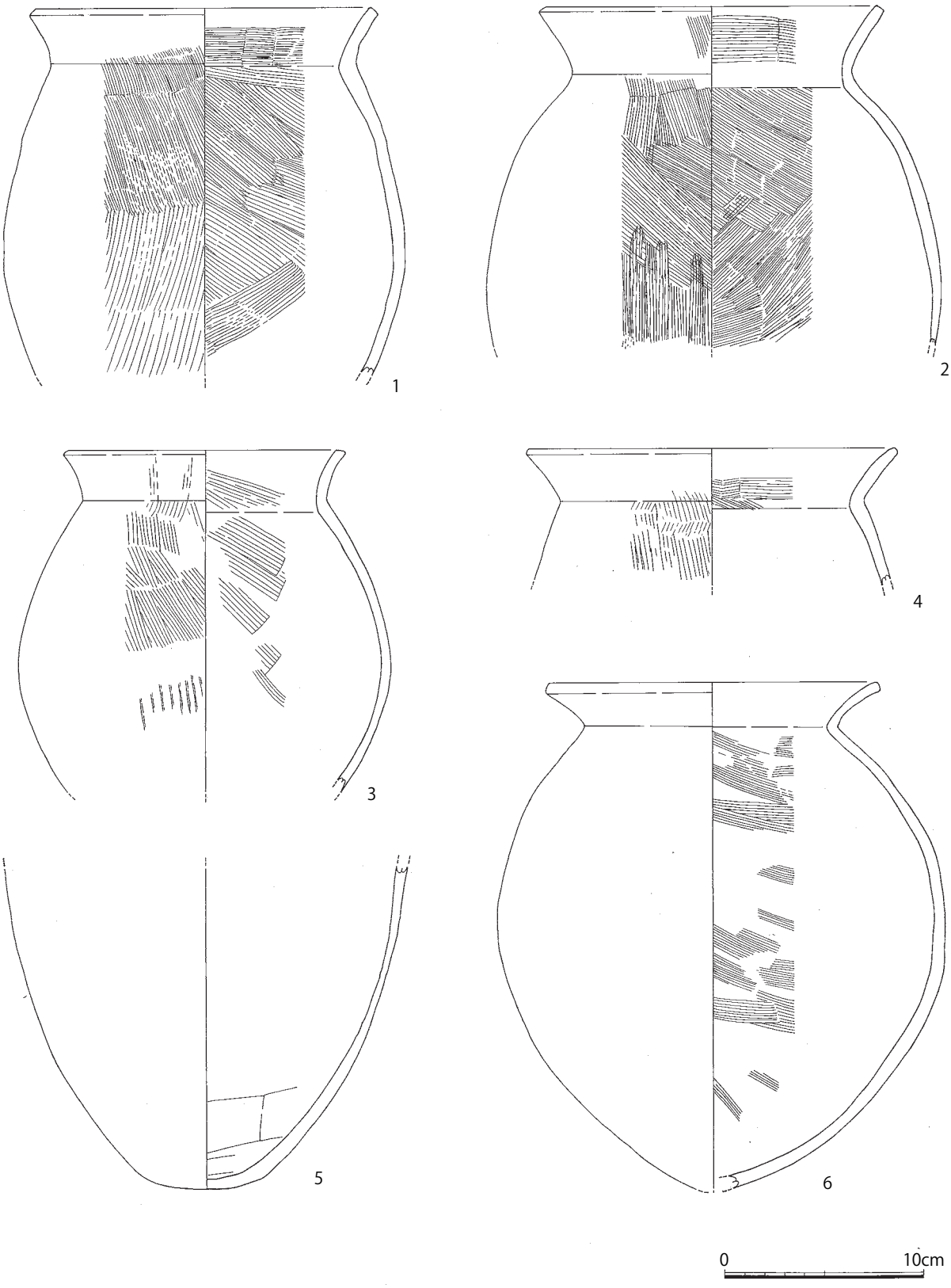


図 152　SH11169 出土土器 1（1/3）

SH11169

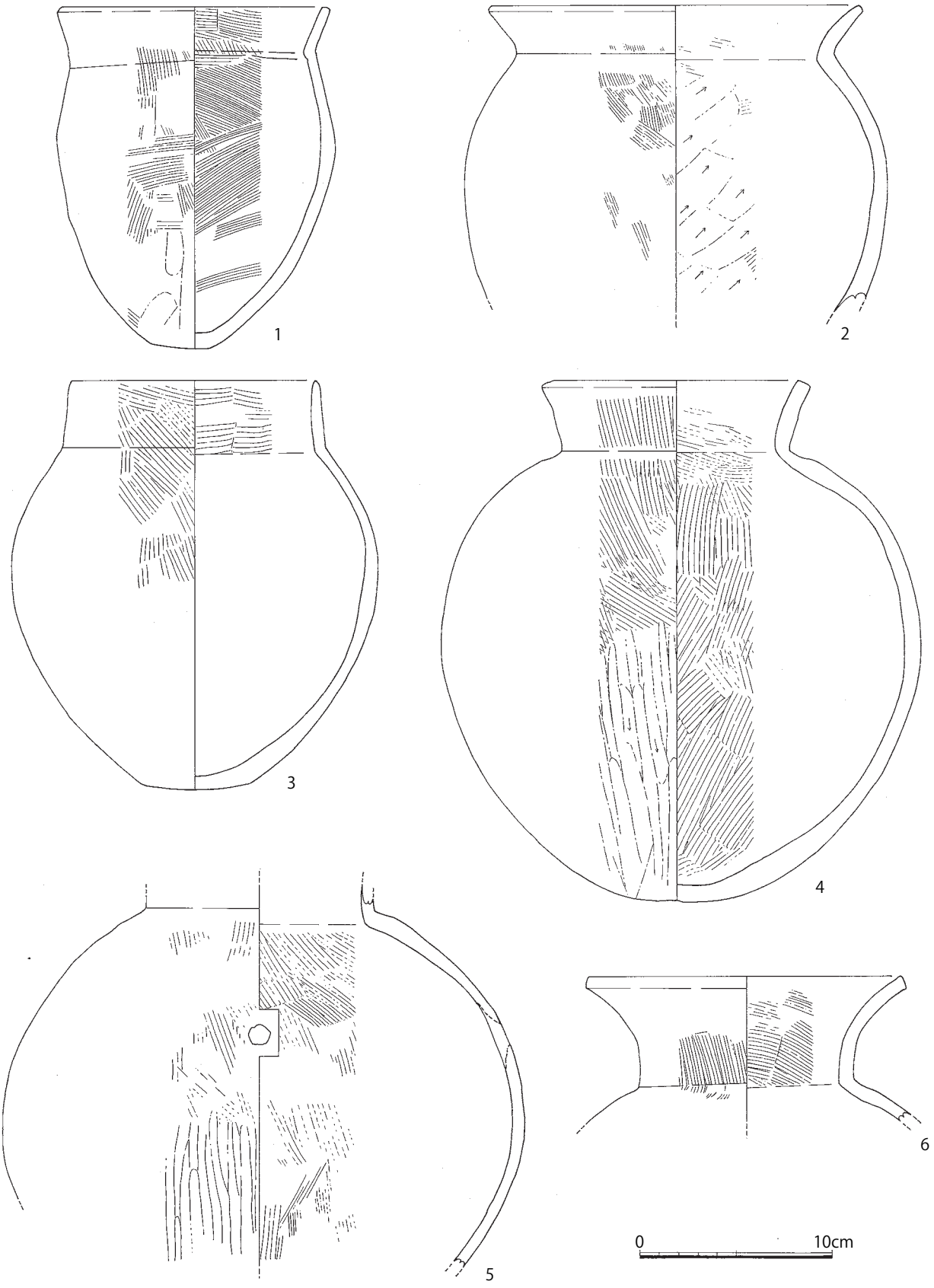


図 153　SH11169 出土土器 2（1/3）

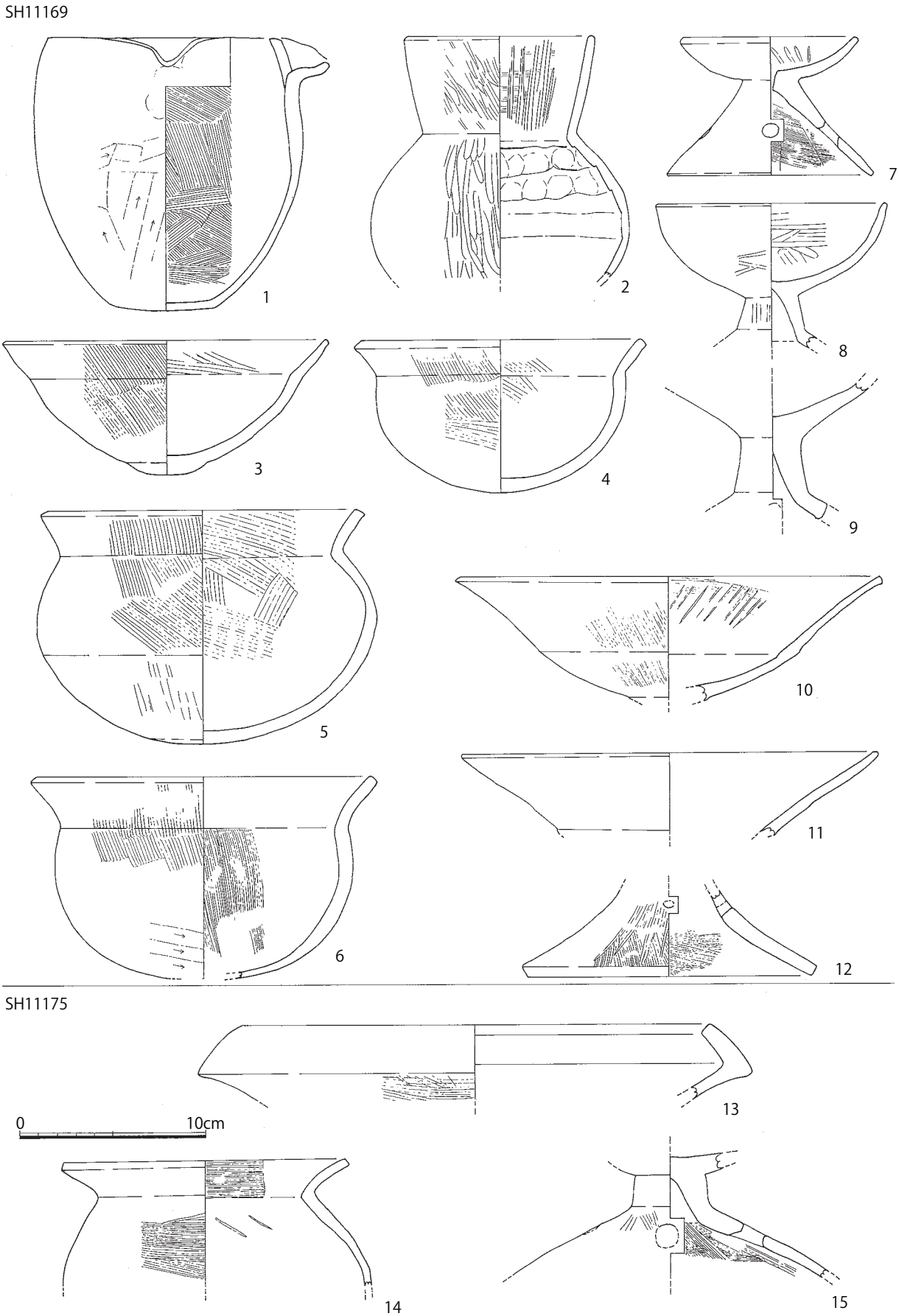


図 154　SH11169・11175 出土土器（1/3）

図 154-8 ～ 12 は高杯。8 は素口縁の杯部に裾部が大きく開く脚部が付く。9 は杯上半部を欠損する。脚裾部は大きく開き、円形の透かしあり。10 ～ 12 は在地系高杯、10、11 は杯部のみ残存、杯部上半は長く、外反気味に開く。12 は脚裾部片、円形透かしがはいる。

ＳＨ１１１７５出土土器

図 154-13 は袋状口縁壺の口縁部片、口縁上半部がわずかに内湾する。

図 154-14 は甕、肩部外面はハケ、内面はナデ。

図 154-15 は高杯脚部、脚裾部が外方に大きく開く。裾部中位に四方円形透かしあり。

図 154-13 と図 154-14、15 では様式差が見られる。遺構の平面形態や遺物の残存部などから 13 は混入か？

ＳＨ１１１８１出土土器

図 155-1 ～ 4 は甕口縁部片。2 は口縁部外面タテハケ、内面ヨコハケ。3 は肩部外面タテハケ、内面ヘラケズリのちナデ。4 は混入である。

ＳＨ１１１８２出土土器

図 155-5、6 は甕口縁部片。6 は頸部に断面三角突帯を回す。

図 155-7 は器台受け部片。

図 155-8 ～ 13 はすべて小片であり、10 は土師器高杯であるなど時期差のある土器が混入する。

本遺構は平面不整円形の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 155-5 ～ 7 と考える。

ＳＨ１１１８３出土土器

図 155-14 ～ 16 は甕口縁部片。逆Ｌ字形で、16 は口縁先端部を下方に向ける。

図 155-17、18 は甕底部片。

図 155-19 は支脚片。

ＳＨ１１１８７出土土器

図 156-1、2 は甕口縁部片。1 は甕棺か？内面ハケ。2 は土師器、内外面ヨコナデ。

図 156-3 は甕底部、平底。

図 156-4 は在地系の二重口縁壺、頸部ハケ。

図 156-5 は素口縁の鉢、底部を欠くが、平底か？

図 156-6、7 は器台、粗製である。

図 156-8 は素口縁の鉢、丸底で、内面ハケ、外面カキケズリ状。

図 156-9 は支脚、脚部は中空で、受け部の一部を斜方に作りだす。

本遺構は平面長方形の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 156-1、3、5 ～ 7 と考える。

ＳＨ１１１８８出土土器

図 156-10 ～図 157-6 は甕である。図 156-10 は口縁部が内湾し、口唇部が若干外側に肥厚する布留型甕である。図 156-11 ～ 13 は口縁部は緩やかに外反し､体部は球形である。体部外面ハケ､内面ナデ。

図 157-1 ～ 3 は口縁部がくの字形に直線的に開き、体部は球形である。体部内面ヘラケズリ。　図 157-4、5 は在地系の甕口縁部片、内外面ハケ。

図 157-7 は台付鉢か？

図 157-9 は高杯、完形。杯部は下半よりに稜をもち、外方に大きく開く。脚部は短く中実で、裾部はハの字形に大きく開く。

図 157-10 ～ 12 は器台、粗製。

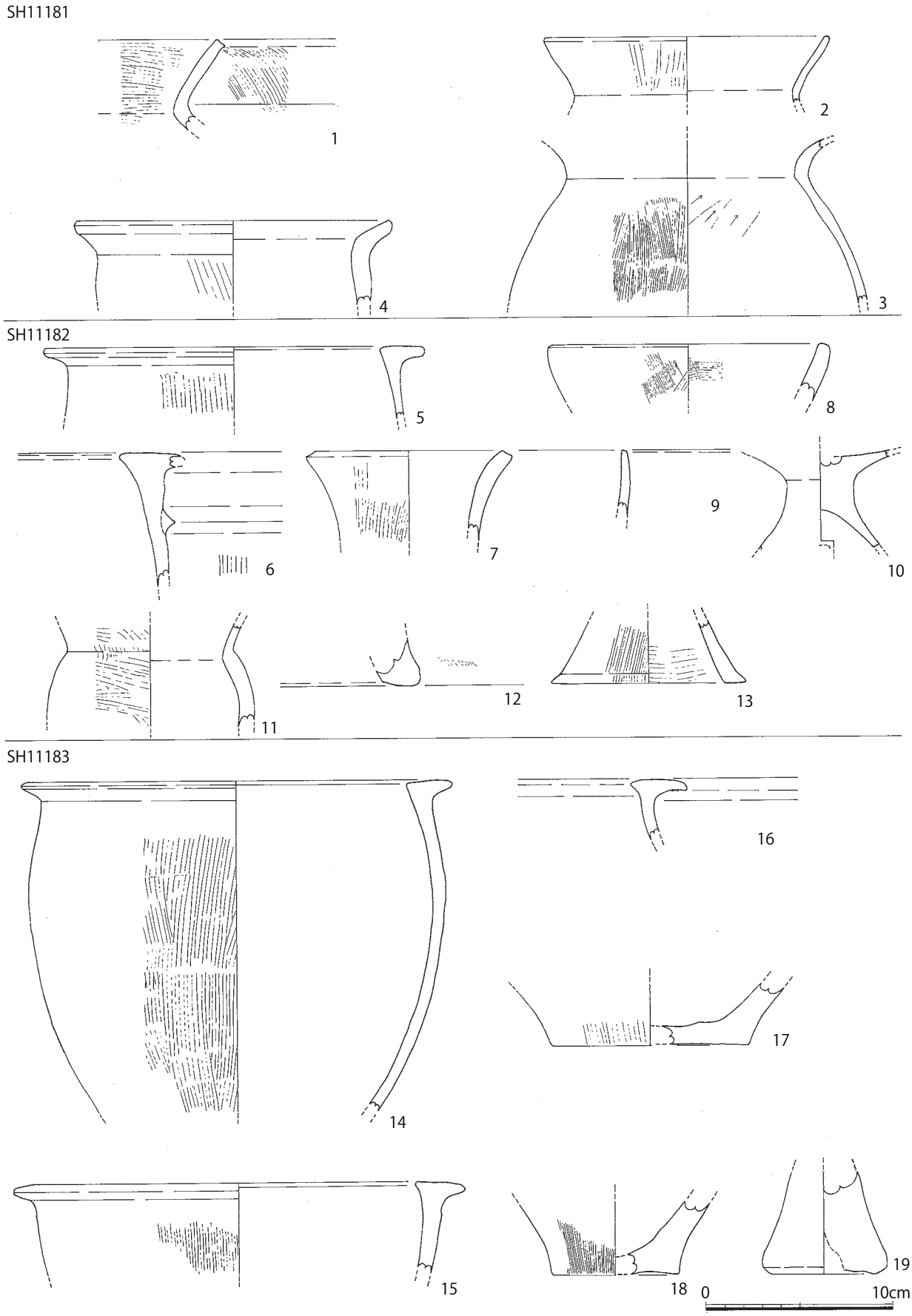


図 155　SH11181・11182・11183 出土土器（1/3）

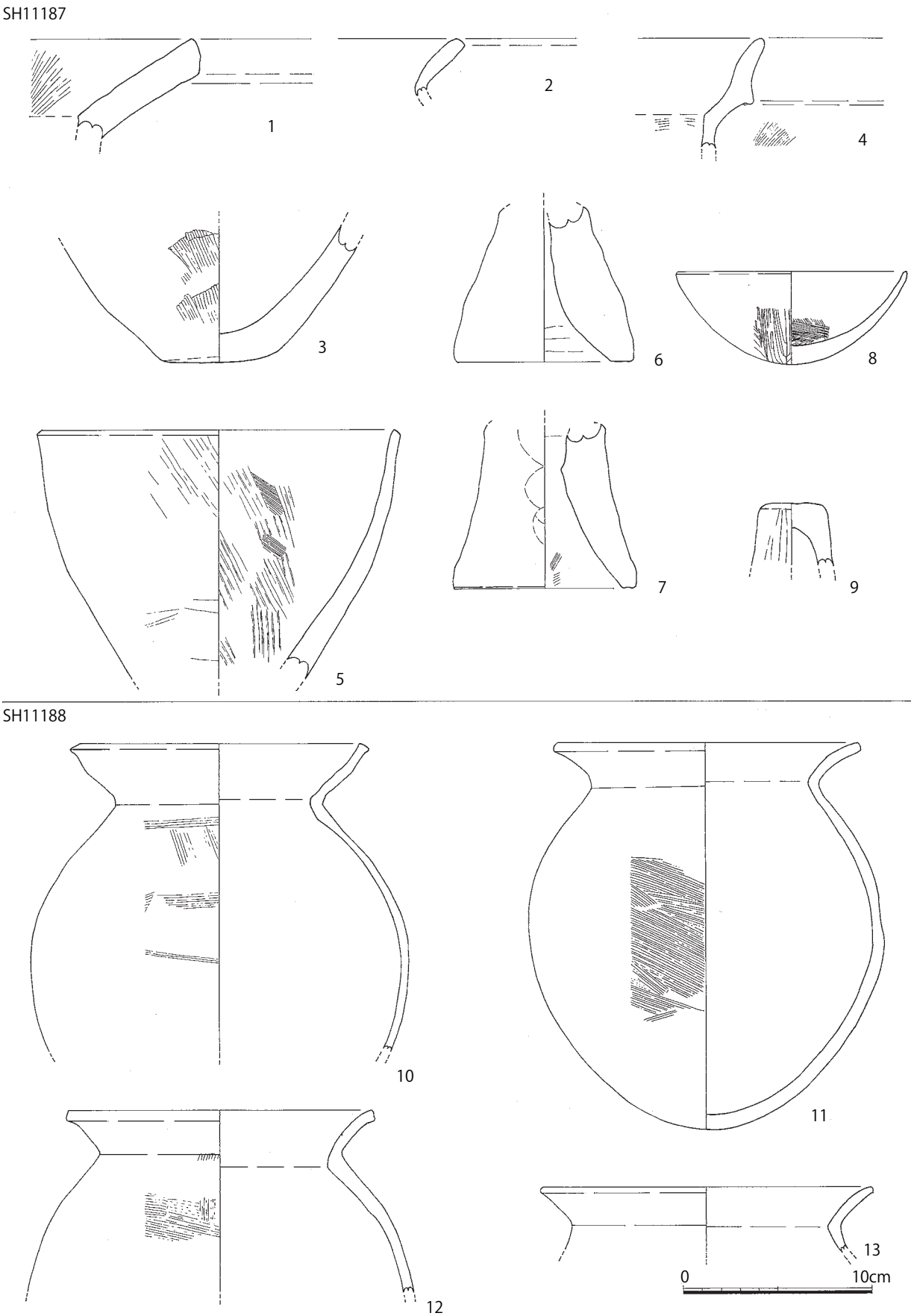


図 156　SH11187・11188 出土土器（1/3）

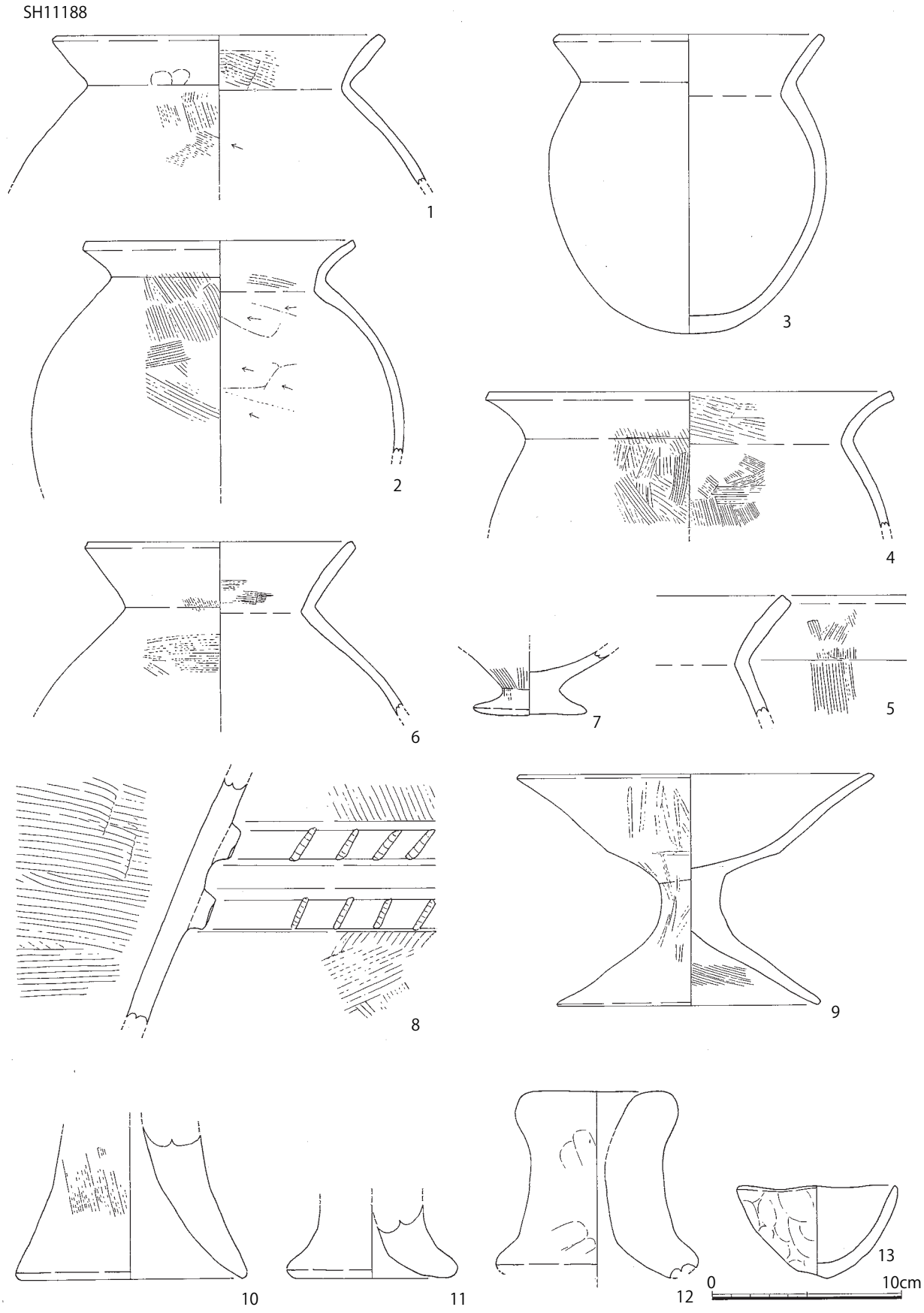


図 157　SH11188 出土土器（1/3）

図 157-13 は鉢。

本遺構は平面方形の竪穴住居であり、図示した土器のほぼすべては遺構の時期を示すと考える。

ＳＨ１１１８９出土土器

図 158-1、2 は甕口縁部片。

図 158-3 は鋤先口縁の広口壺口縁部片。

図 158-4 ～ 6 は甕底部片。

図 158-7 は高杯脚部片。

本遺構は平面方形で四本主柱穴の竪穴住居である。図示した土器はすべて弥生土器片であり、混入と考える。

ＳＨ１１１９０出土土器

図 158-8 ～ 11、14、15 は甕口縁部片、8 は口縁部が内湾する布留型甕の口縁部片。

図 158-12 は精製小型器台の脚部、四方円形透かしあり。受け部から脚部にかけて径約 3mm の孔を貫通させる。

図 158-13 は高杯脚部片。

本遺構は平面方形で四本主柱穴の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 158-8、12、13 と考える。

ＳＨ１１２０４出土土器

図 158-16 は広口壺、内外面ハケ、

図 158-17 は袋状口縁壺の口縁部片、口縁上半は内湾する。

図 158-18、19 は甕口縁部片、口唇部は丸味をもつ。肩部内面ヨコナデ、土師器か？

本遺構は平面方形の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器の判断に迷う。

ＳＨ１１２０５出土土器

図 159-1 は山陰系甕の頸部片、色調は灰白色～淡黄色で搬入土器と考えられる。肩部内面ヘラ削り。

図 159-2 は大形甕の底部片、丸底で外面タタキ、内面ハケ。

図 159-3、4 は屈曲口縁の鉢、丸底。3 は体部内外面ミガキ状、4 は体部外面粗いハケ。

図 159-5、6 は素口縁の鉢、丸底。同一個体の可能性あり。体部外面タテ方向の細かなミガキ、内面ヨコ方向のヘラケズリ。体部下半に最大径があり、類例を知らない。

図 159-7 は甑、丸底鉢の底に単孔を穿つ。

ＳＨ１１２０６出土土器

図 159-8 ～図 161-1 は甕、図 159-8 ～図 160-2 は在地系甕。図 159-8、9 は口縁部が緩やかにくの字形に曲がる。口縁部～胴部外面上半ハケ、下半はカキケズリ。内面ハケ。図 160-1、2 は小型の甕、図 160-1 の調整は図 159-8、9 と同じ。図 160-2 は小さな平底、口縁部はくの字形。図 160-3、4 は折衷系、口縁部は外反し、体部は卵形で、肩部外面にタタキ痕あり。図 160-4 は胴部と底部の接合痕が残る。図 160-5、6 は肩部外面にタタキ痕あり。図 160-7 ～ 9 は肩部外面ハケ。図 161-1 は山陰系の甕、肩部外面ヨコハケ、内面ヘラケズリ。色調は灰白色～浅黄橙色で搬入土器と思われる。

図 161-2 は山陰系の直口壺、肩部外面ハケ、内面ヘラケズリ。色調は灰白色で搬入土器と思われる。

図 161-3 は在地系甕の底部、外面カキケズリ状。

図 161-4、5、7 は鉢、4、5 は平底。5 は体部表面が部分的に剥離する。焼成時の剥離痕か？

図 161-6 は広口壺、体部上半は粗いタタキ痕が残る。

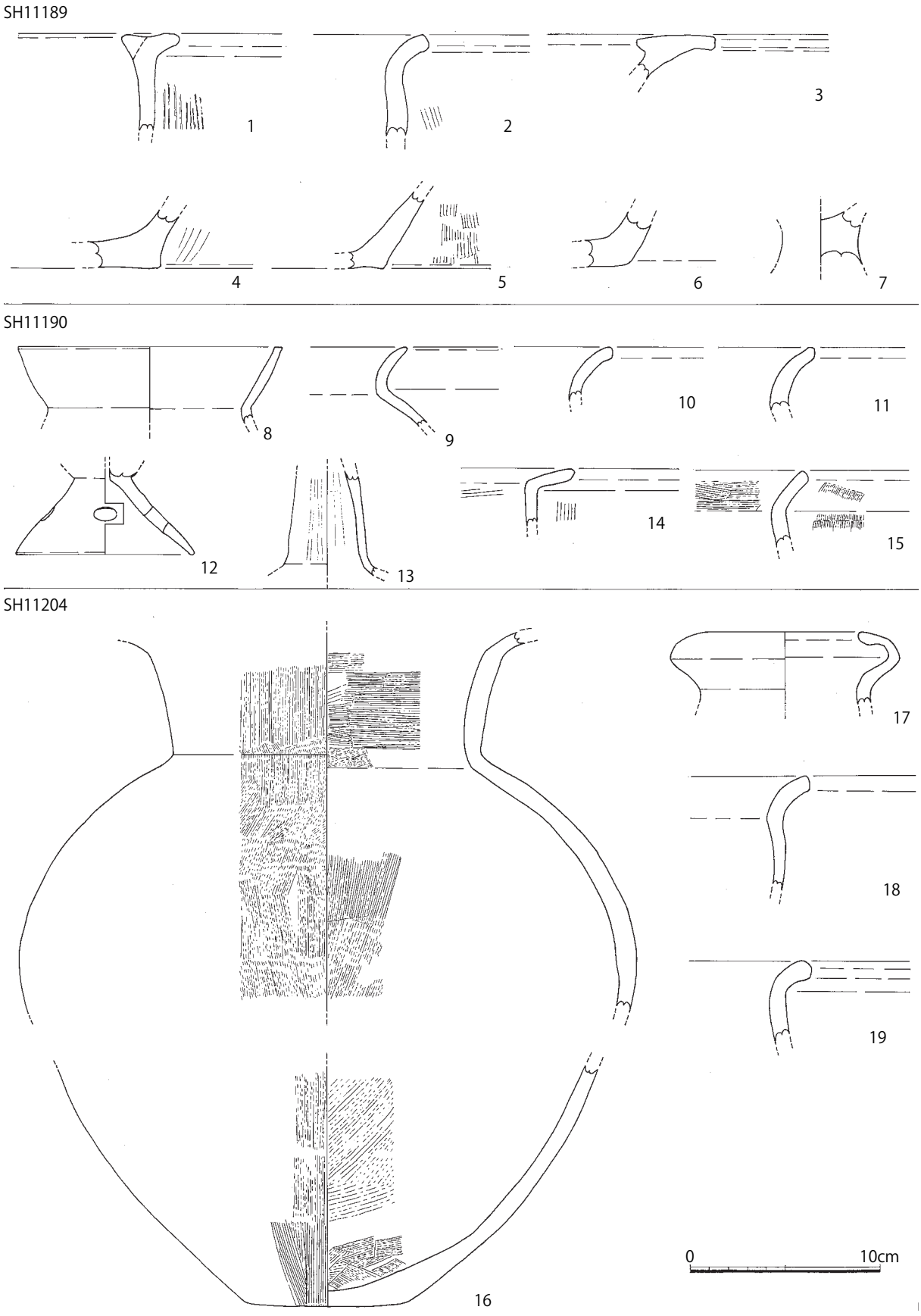


図 158　SH11189・11190・11204 出土土器（1/3）

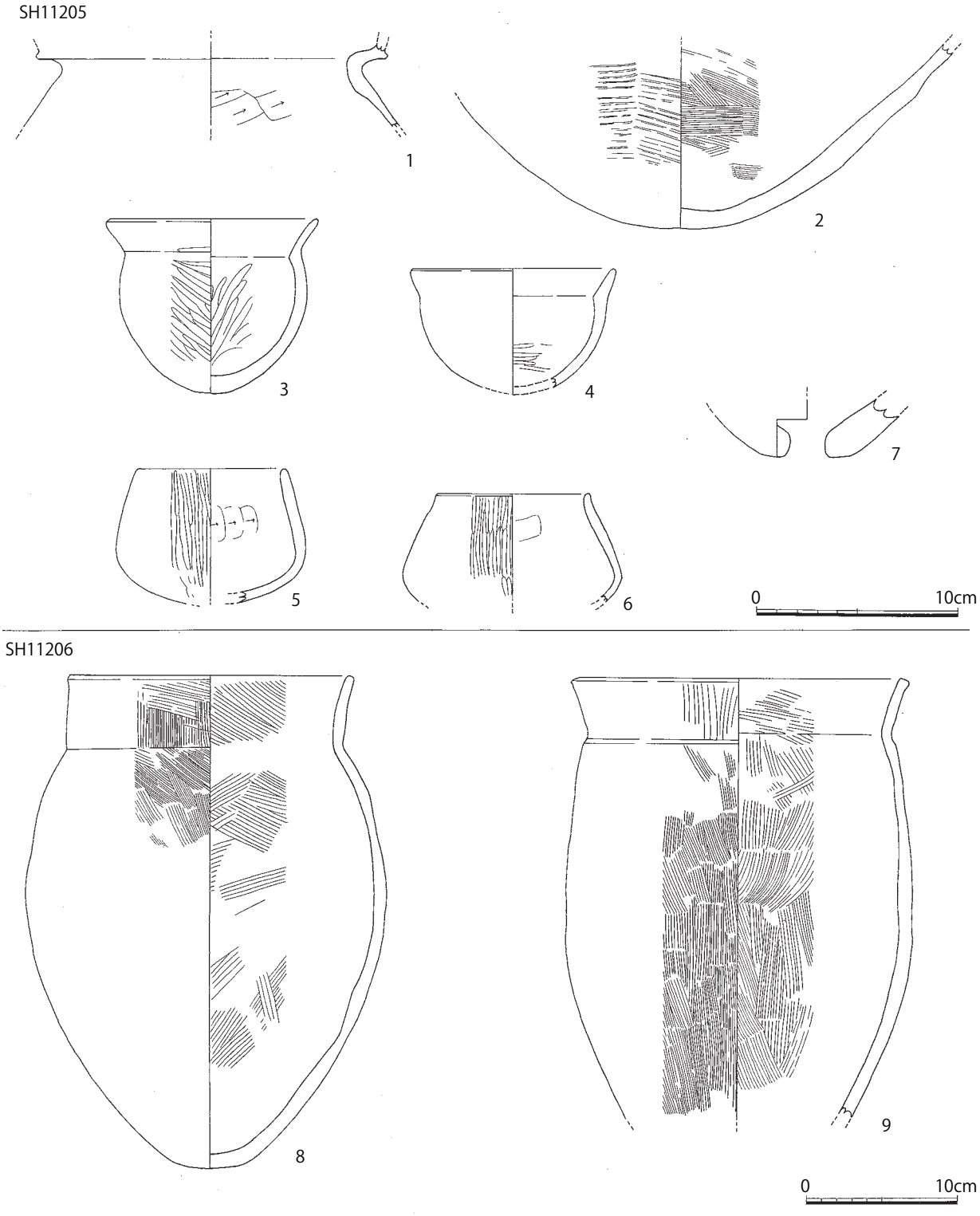


図 159　SH11205・11206 出土土器（1/3、1/4）　8・9 は 1/4、他は 1/3

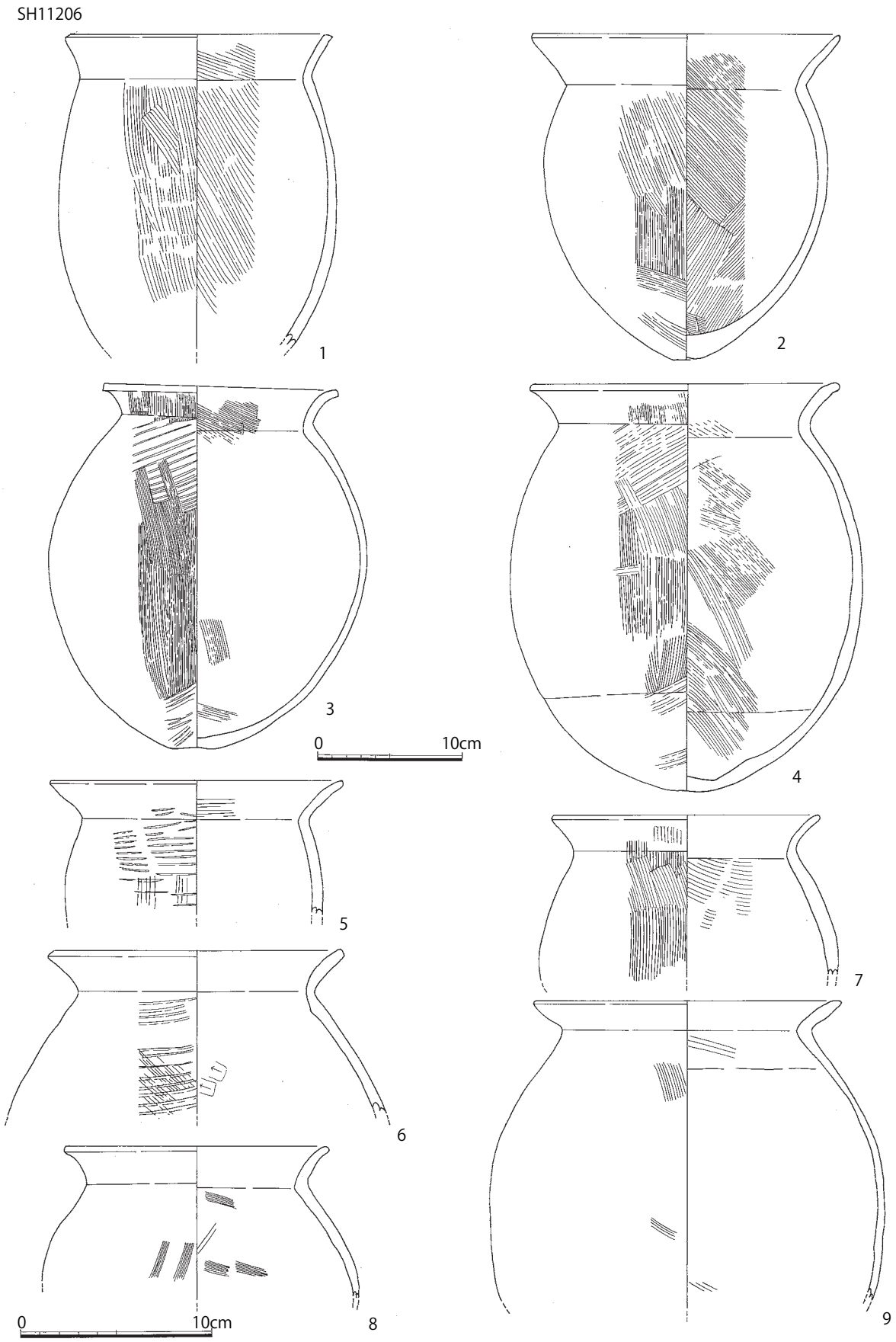


図 160　SH11206 出土土器 1（1/3、1/4）　3 は 1/4、他は 1/3

SH11206

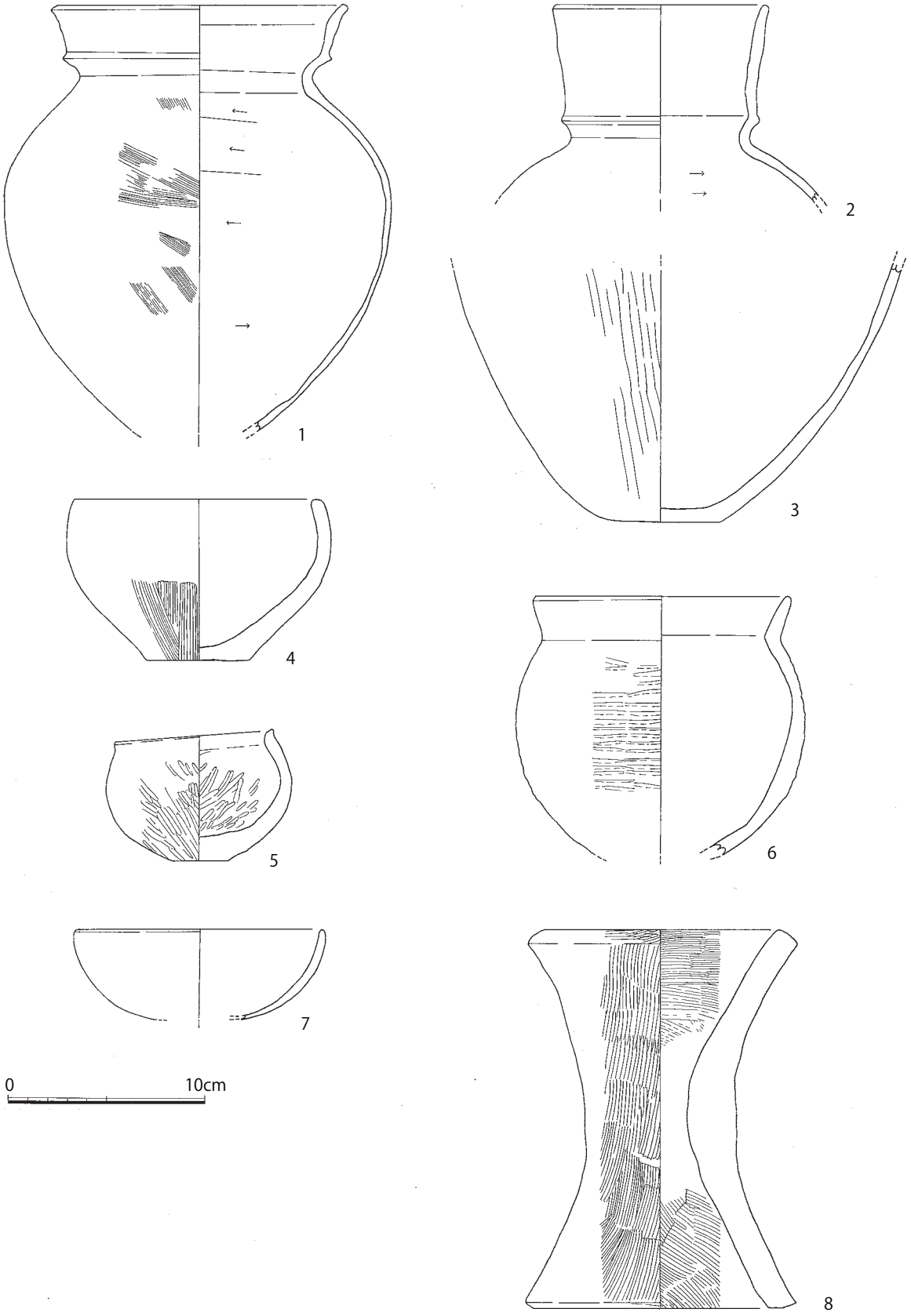


図 161　SH11206 出土土器 2（1/3）

ＳＨ１１２０７出土土器

図 162-1 ～ 4 は甕の口縁部、くの字形で、口唇部は面取りされる。4 は口縁部長が 4cm と長い。

図 162-5 は甕底部、平底。

図 162-6 は袋状口縁壺の口縁部片、口縁上半は内湾気味である。

図 162-7、8 は台付甕底部、台裾部は欠損する。

図 162-9 は壺、袋状口縁壺の上半に短い、くの字形口縁を付ける。袋状口縁の上半部形態から図 162-6 と同時期と思われる。

図 162-10、11、13 は鉢、丸底で 10 は素口縁、11 は口頸部が短く直立する。

図 162-12 は広口壺の口縁部片。

図 162-14、15 は高杯、15 は脚裾部に円形の孔あり。

図 162-16、17 は器台、16 は裾部に三方円形透かしあり。杯部から脚部にかけて径 5mm の孔が貫通する。焼成前穿孔である。脚部の形態、調整は高杯と同じである。17 は長方形の透かしが二段四方に入る。筒部文様は 4 条のヘラ描き沈線を施す。外面ハケ、胎土は砂粒を多く含むが色調などは在地系土器と変わらない。

図 163-1、2 は器台、完形。ともに粗製である。

図 163-3、4 は支脚、ともに上面は塞ぎ、傾斜する。

図 163-5 は甕口縁部片、混入か？

本遺構は平面不整な長方形の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器の判断は難しいが図 162-1 ～ 3、6、9、図 163-1、2 と考える。

ＳＨ１１２０９出土土器

図 163-6、7 は甕口縁部片、逆 L 字形。

図 163-8 は壺？の底部片。

ＳＨ１１２１０出土土器

図 163-9 ～ 13 は甕。9、11 の口縁部は直立気味に外反する。12 は口唇部に連続山形文の沈線を施文する。

図 164-1 は広口壺、鋤先口縁で内外に赤色顔料塗布。

図 164-2 は袋状口縁壺の口縁部片、上半部は内湾する。外面赤色顔料塗布。

図 164-3 は鉢の口縁部片。

本遺構は平面方形の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 163-9、11、12 と考える。

ＳＨ１１２１２出土土器

図 164-4 は壺、口縁部が短く外反する。

図 164-5 は甕口縁部片、口唇部は平坦面が若干残る。外面ハケ。

図 164-6 は広口壺、口頸部は外方に大きく開き、口縁部でさらに屈曲する。

図 164-7 は壺の底部片、底部は凸レンズ状に突出する。内面ハケ。

図 164-8 は鉢、素口縁で丸底、外面縦方向のミガキ、内面ハケ。精製土器。

図 164-9 は椀形高杯、外面丁寧なヨコハケ。胎土、色調は在地系とは異なる。

ＳＨ１１２１６出土土器

図 164-10 ～ 12 は甕口縁部片、くの字形で、10 の口唇部は丸味をもつ。11、12 は面取りされる。12 は口縁端部にかけて肥厚し、端部は跳ね上げ気味。

SH11207

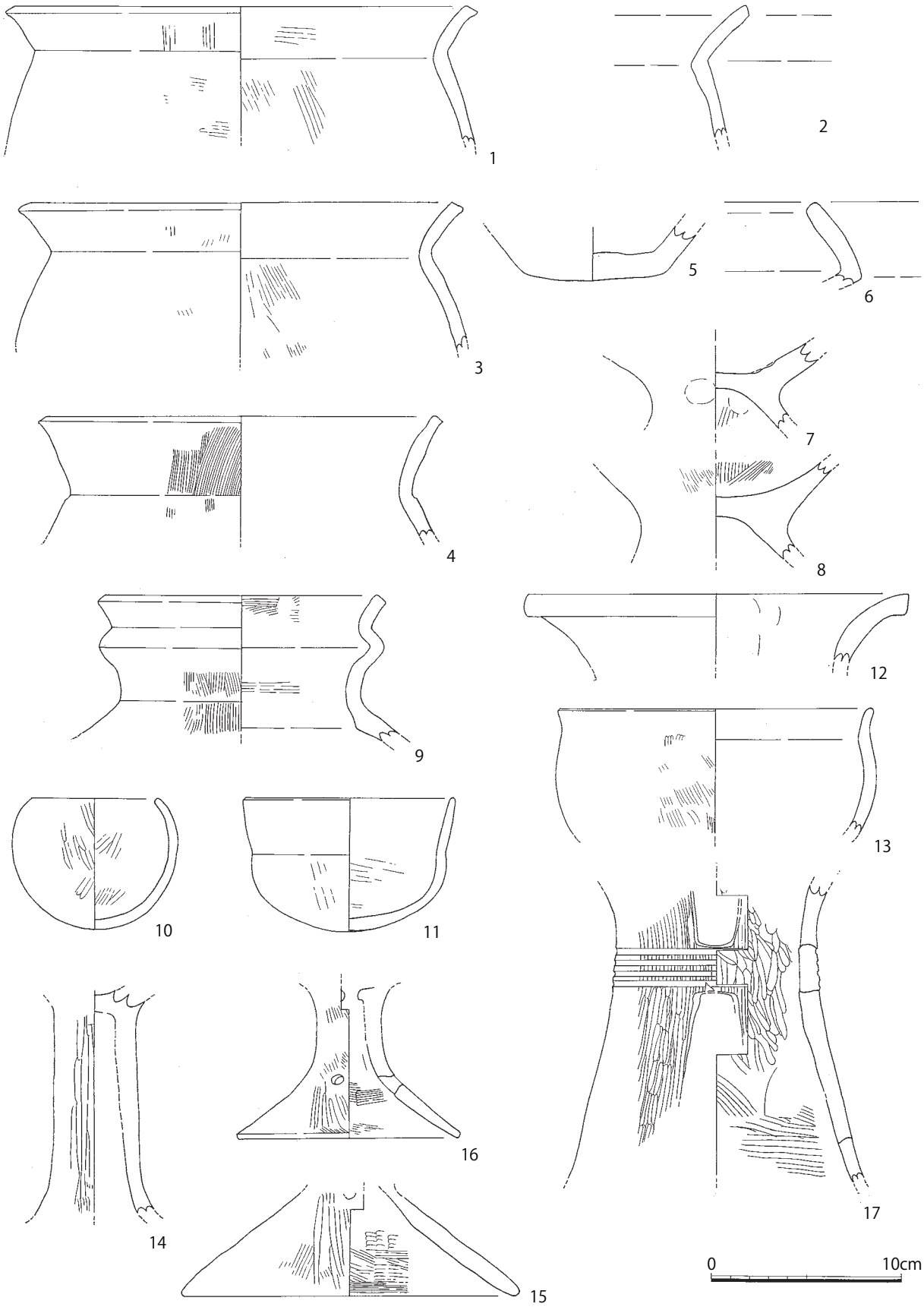


図 162　SH11207 出土土器（1/3）

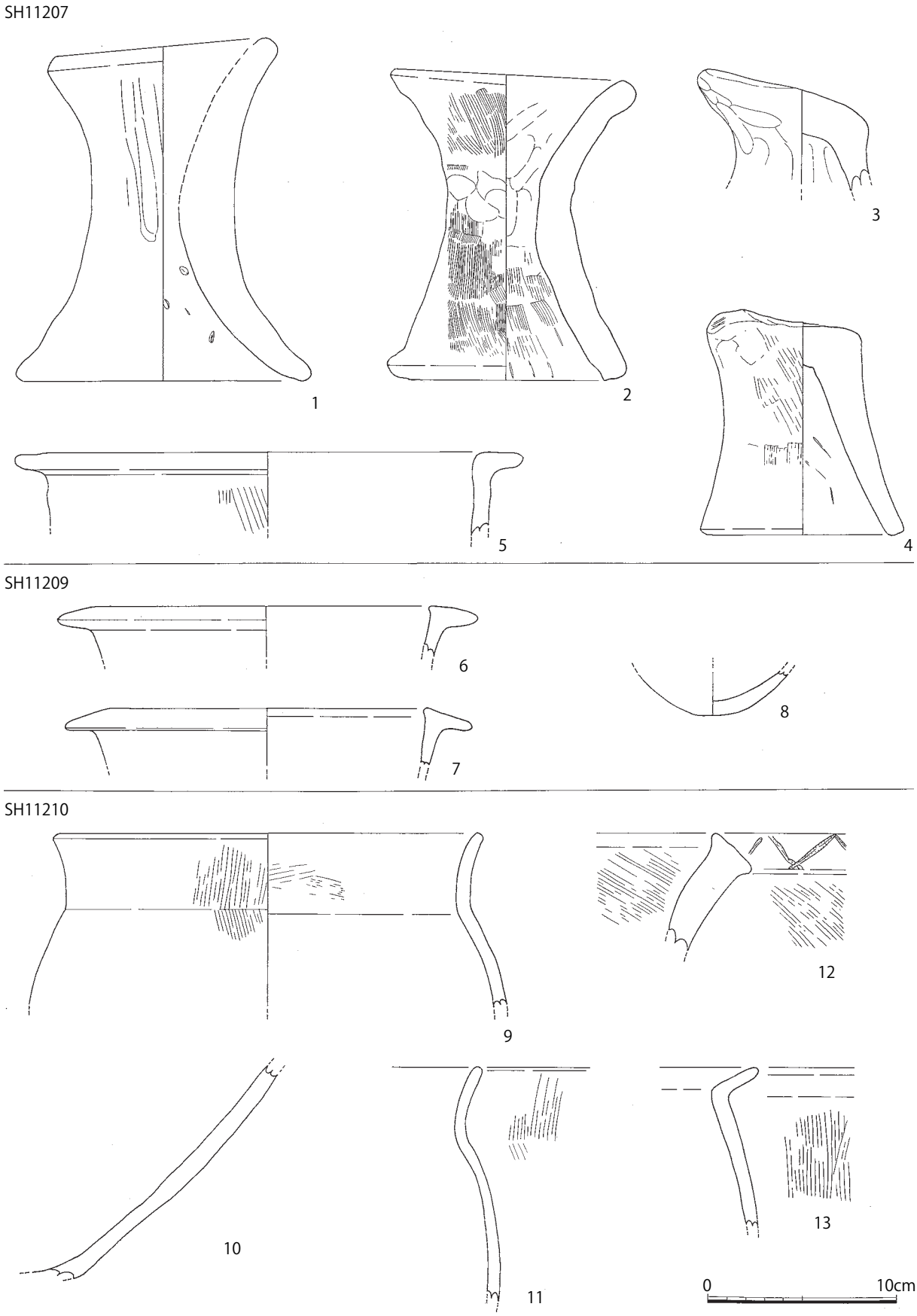


図 163　SH11207・11209・11210 出土土器（1/3）

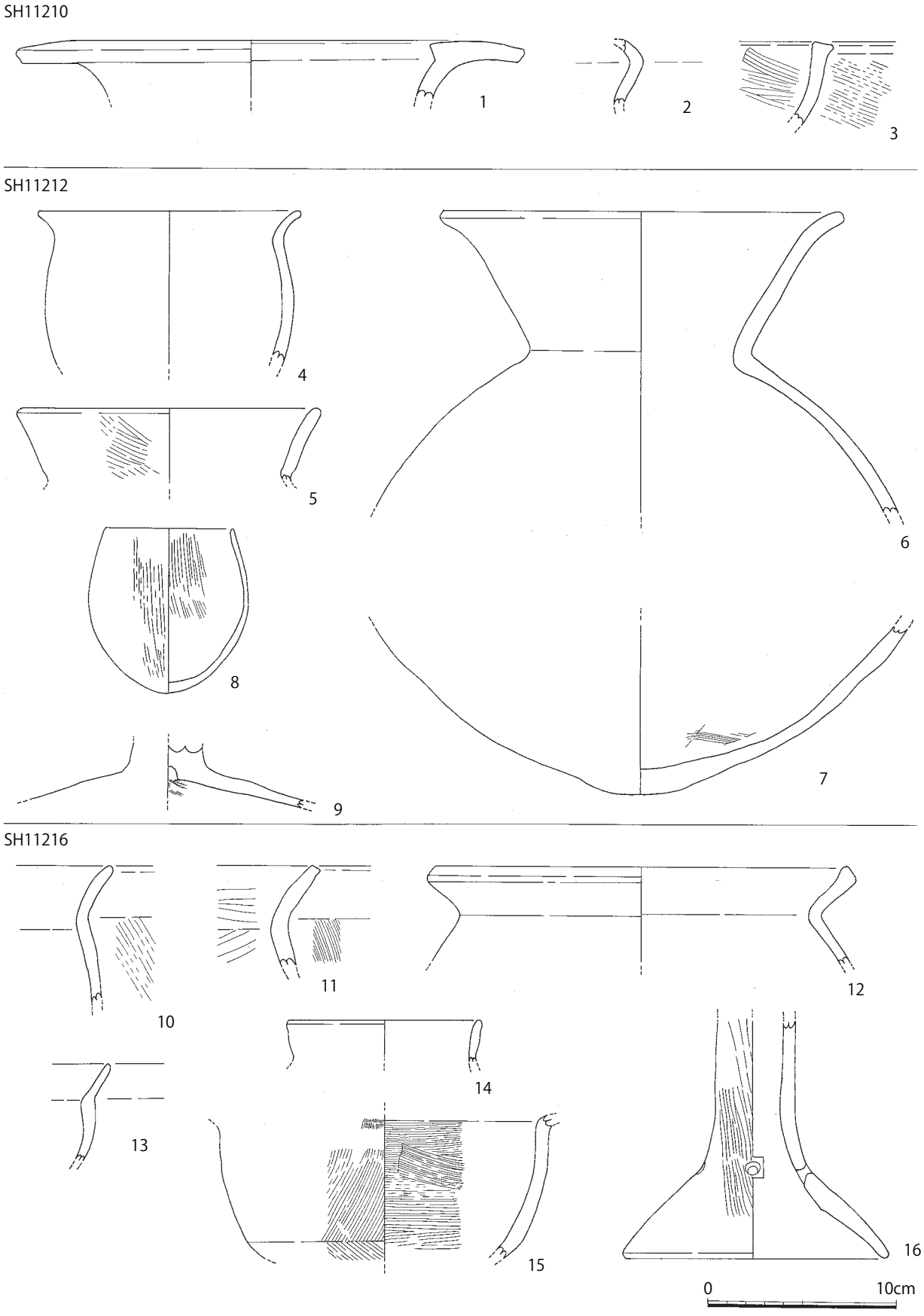


図 164　SH11210・11212・11216 出土土器（1/3）

図 164-13 ～ 15 は鉢、13、15 は屈曲口縁で、14 は素口縁である。

図 164-16 は高杯脚部、裾部に円形透かしあり。

ＳＨ１１２１７出土土器

図 165-1、2 は甕、口唇部は面取りする、胴部最大径は中位。図 165-3 は甕棺の口縁部、口唇部に連続山形文の沈線を施文する。

図 165-4 ～ 6 は長頸壺の胴部か？ 4 は丸底で、底部外面は黒色。内面はヘラケズリ。5 は二重口縁壺か広口壺。肩部基部に断面三角突帯を回す。6 は広口壺、肩部外面に櫛描文を二段に施す。

図 165-7 は高杯口縁部片、杯部上半部は短い。

図 165-8 は小型丸底壺、完形であるが混入と考える。

本遺構は平面方形の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 165-1 ～ 7 と考える。

ＳＨ１１２１９出土土器

図 165-9、10 は甕底部、平底。10 は外面ヘラケズリ状で類例をみない。内面ハケ。

ＳＨ１１２２８出土土器

図 166-1 ～ 7 は甕、1 は胴部最大径が上位にあり、体部外面上半はタテハケ、下半はカキケズリ状である。2 は胴部最大径が中位にあり、体部外面はタテハケである。底径は 1 より大きい。3 の口縁部は緩やかに屈曲し、丸底である。体部外面タテハケ。4 は口縁部は長く、緩やかにくの字形に屈曲する。外面ハケ。4 の口縁部は長く、くの字形に屈曲する。外面ハケ。口唇部は面取りされる。6 は口縁部、底部を欠失する。胴部外面細ハケ。7 は底部片、底部は厚く丸底である。

図 167-1 は甕棺、口縁部は外反し、丸底である。口頸基部と胴部中位、下位に断面台形の突帯を回す。

図 167-2 ～ 5 は広口壺、口縁部は外反する。図 167-2、6 は二重口縁壺の口縁部片、口縁上半部は内湾気味に直立する。

図 167-7 ～ 9 は高杯、7、8 は杯上半部は長く外反気味。9 は脚部。 4 箇所の径の小さな円形透かしを施すが、2 箇所は貫通しない。

ＳＨ１１２２９出土土器

図 168-1 は甕口縁部、口唇部面取り、胴部内外面ハケ。

図 168-2 は甕底部。

図 168-3 は壺口縁部、口縁部は若干外反する。

図 168-4 は鉢、丸底、精製土器である。

図 168-5 は袋状口縁壺の口縁部である。口縁上半はわずかに丸味をもつ。口唇部面取り。

ＳＨ１１２３０出土土器

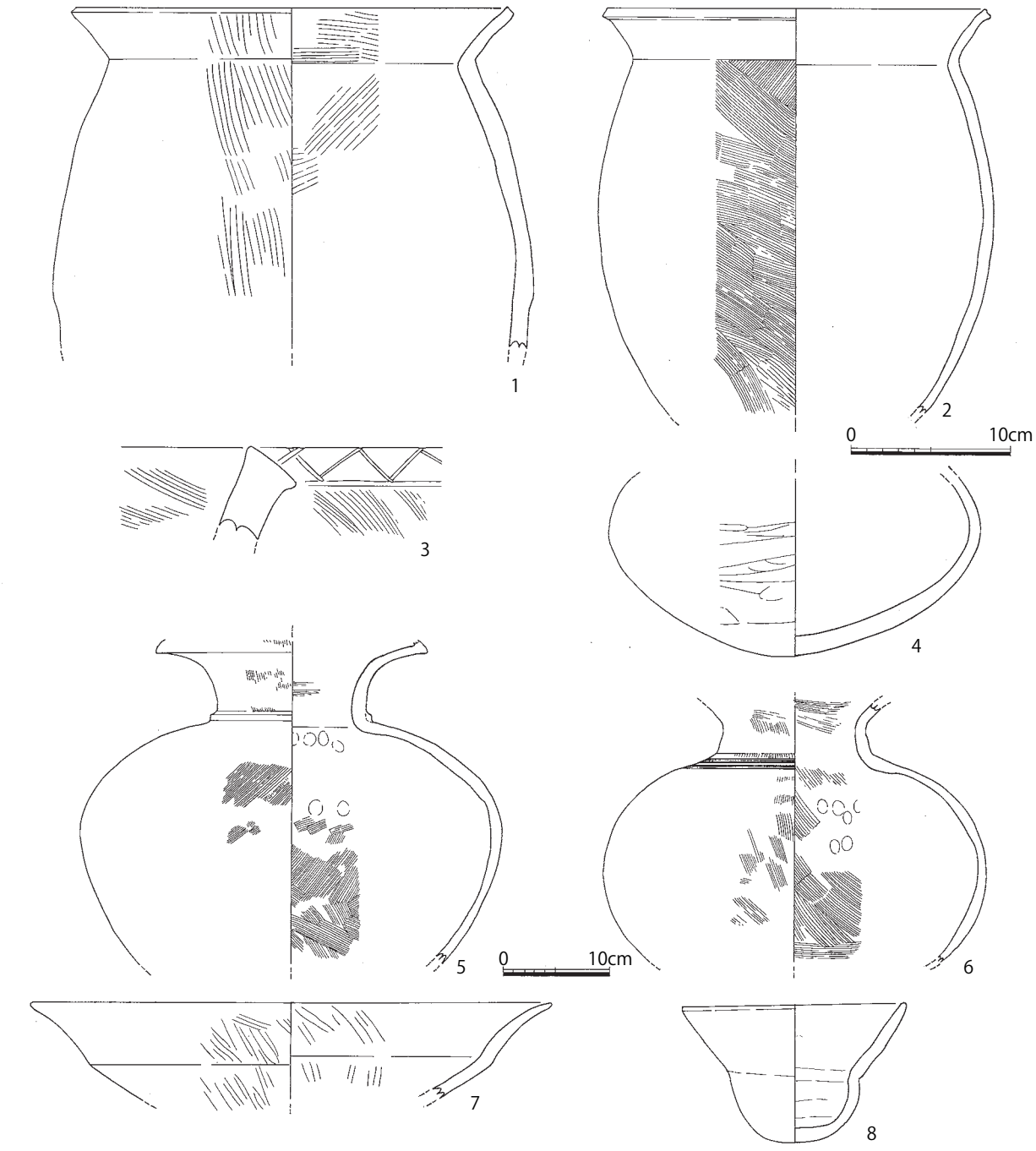
図 168-6 ～ 11 は甕である。6 は口縁部がわずかに内湾する布留型甕である。肩部外面に一条の沈線を施し、胴部内面ヘラケズリ。7 はくの字形口縁で口唇部は面取りされる。8 は口縁先端にかけて先細りする。9 は口縁部外反し、胴部内面ヘラケズリ、外面斜めハケ。10 は甕底部。11 は小形の甕口縁部、口縁部はくの字形で短い。

図 169-1 は鉢、口縁部で屈曲し、内湾する。外面赤色。

図 169-2 は羽口である。先端部は青灰色を呈する。断面円形の棒状品に粘土を巻いて器台類似の作り方である。器壁は厚い。

本遺構は不整方形の竪穴住居であり、時期決定は困難であるが、土器の遺存状態から遺構の時期を示す土器は図 168-6、9、と考える。

SH11217



SH11219

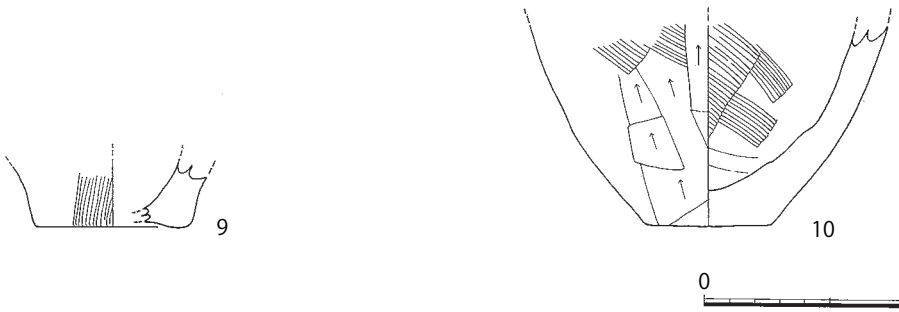


図 165　SH11217・11219 出土土器（1/3、1/4、1/6）　2 は 1/4、5・6 は 1/6、他は 1/3

SH11228

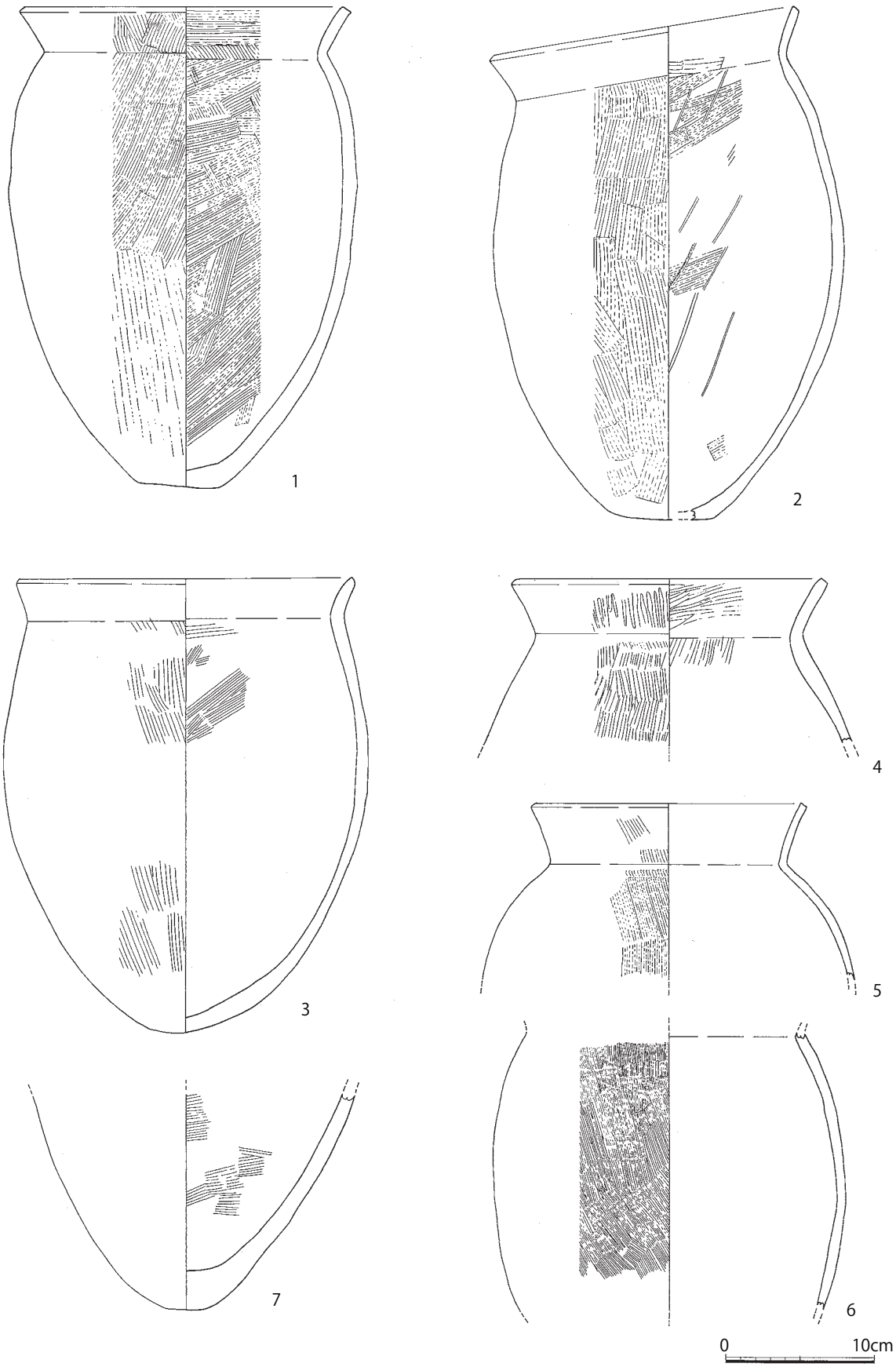


図 166　SH11228 出土土器 1（1/4）

SH11228

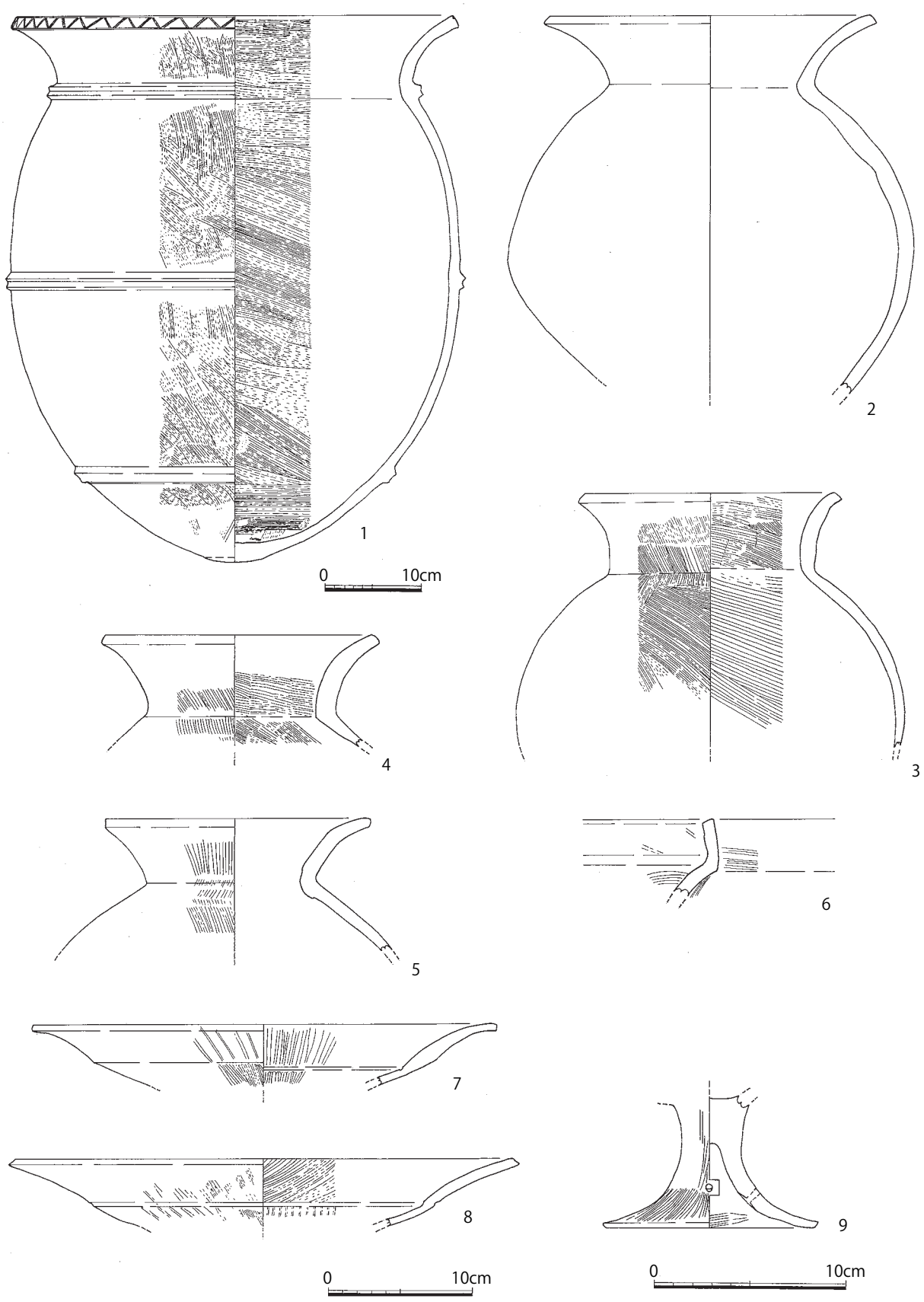


図 167　SH11228 出土土器 2（1/3、1/4、1/6）　1 は 1/6、6・9 は 1/3、他は 1/4

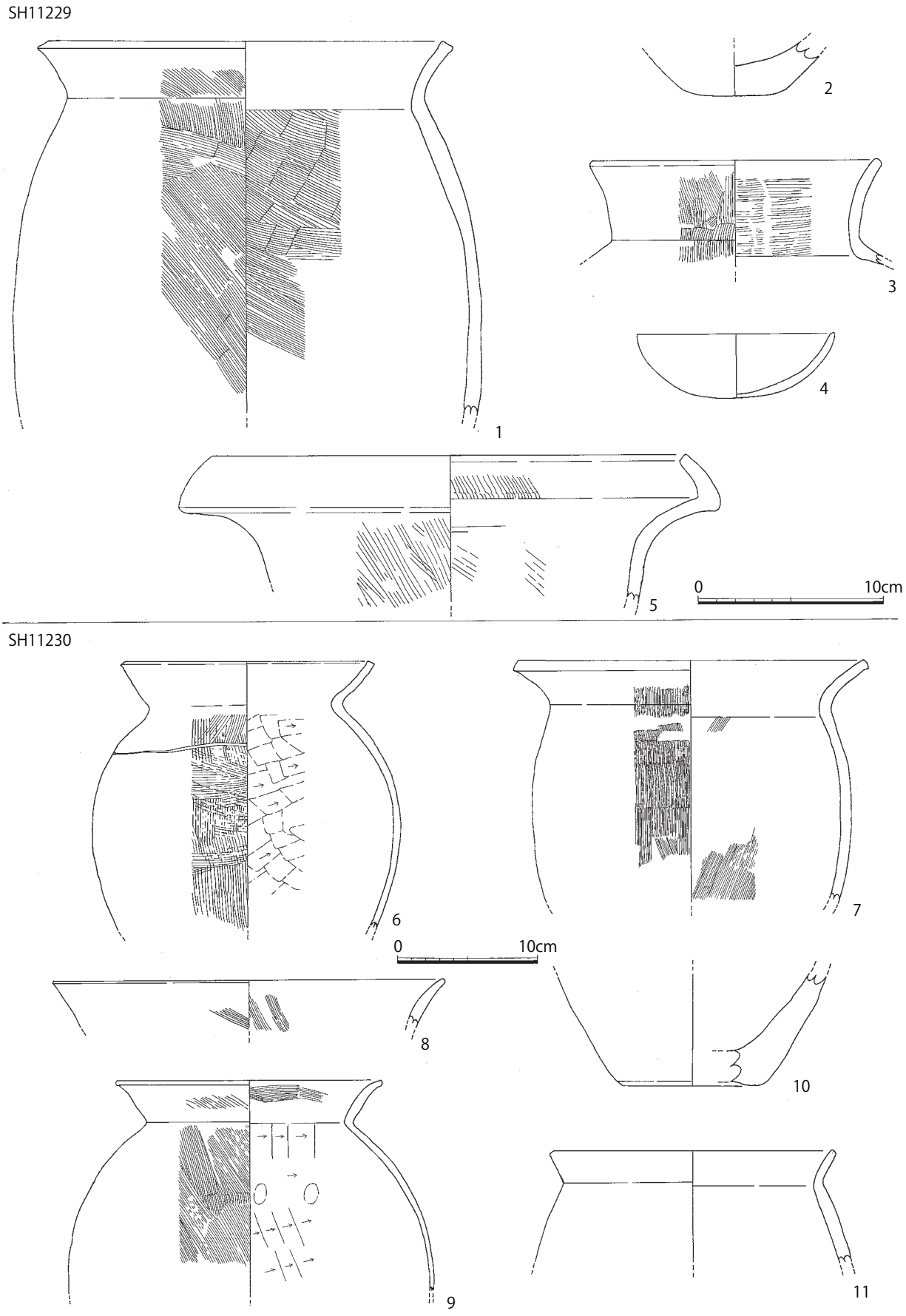
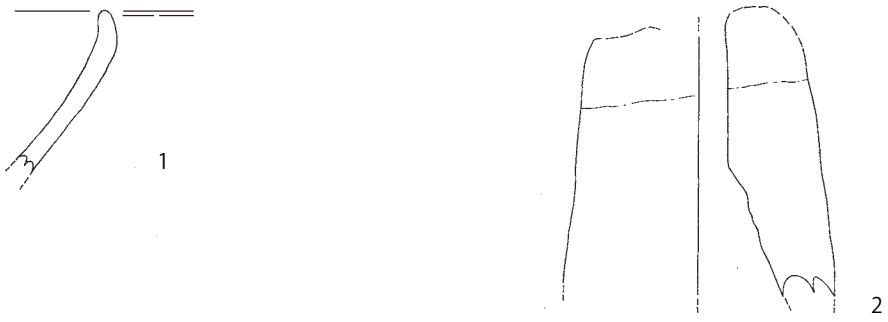


図 168　SH11229・11230 出土土器（1/3、1/4）　6 ～ 9 は 1/4、他は 1/3

SH11230



SH11231

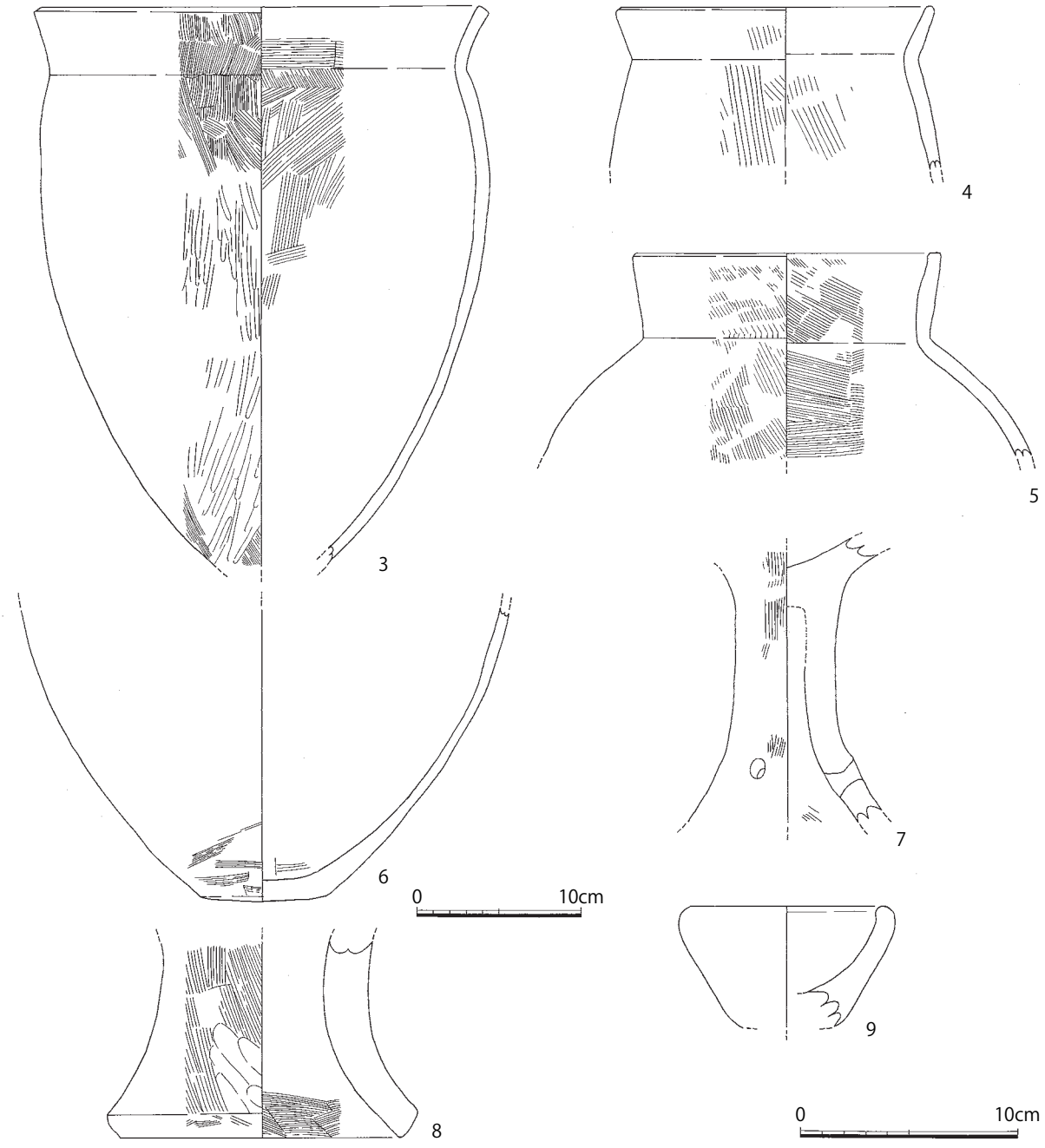


図 169　SH11230・11231 出土土器（1/3、1/4）　3・6 は 1/4、他は 1/3

ＳＨ１１２３１出土土器

図 169-3、4、6 は甕である。3 は緩やかなくの字形で、胴部上位に最大径がある。胴部外面下半は粗いタテハケ。4 は小形の甕の口縁部である。6 は甕底部である。底部側面は内湾気味で底径は小さい。

図 169-5 は直口壺の口縁部片、内外面ハケ。

図 169-7 は高杯脚部、円形三方透かしがはいる。

図 169-8 は器台底部、内外面ハケ。

図 169-9 は鉢、口縁部はわずかに内湾する。

図 170-1 は器台、外面は粗いタテハケのち、くびれた胴部中位に二条の沈線とその間に櫛描波状文を施す。上半と下半に長方形～台形の四方透かしが入る。胎土に白色砂粒が多く、搬入土器と思われる。

図 170-2 ～ 4 は甕口縁部片、逆Ｌ字形。

図 170-5 ～ 7 は甕底部片、平底。

図 170-8 は広口壺、鋤先口縁部片。

図 170-9 は甕、器壁も厚く丸底である。

図 170-10 は須恵器踞の口縁部片である。

本遺構は長方形あるいは方形の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 170-3、6 と考える。

ＳＨ１１２５３出土土器

図 171-1、2 は甕口縁部片である。1 の口縁部長は短くヨコナデ、2 の口縁部長やや長くハケを施す。

図 171-3 ～ 5 は甕底部片である。3 の底部側面はわずかに内湾気味、粗いタテハケ、4、5 は平底。

図 171-6 は鉢、外面タテ方向のミガキ、精製土器である。

図 171-7 は支脚、中実、断面円形で若干上げ底である。

本遺構は長方形の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 171-2 ～ 5 と考える。

ＳＨ１１２５４出土土器

図 171-8 ～ 12 は甕口縁部片である。逆Ｌ字形で、12 は先端部が厚く、下方をむく。

図 171-13 は甕底部である。

図 171-14 は器台胴部片である。

本遺構は不整円形の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 171-8 ～ 11 と考える。

ＳＨ１１２５８出土土器

図 172-1 ～ 5 は甕口縁部片である。1 ～ 3 は口縁部が内湾する布留型甕である。1 ～ 4 は内面ヘラケズリで、色調は淡黄色と類似する。

図 172-6 は器種不明、天地も不明である。端部は面取りされ外面ハケのちナデのち部分的ハケ、内面ハケである。高杯の脚裾部にしては径が大きい。

図 172-7 は大形の甕である。口縁部は短く袋状をなし、外面に板状小口による連続山形文、口唇部には斜線を施文する。頸基部には断面台形の突帯を回す。

図 172-8 は高杯杯部である。杯部は内湾する。

図 172-9 は鉢、精製土器である。

図 172-10 は二重口縁壺の口縁部片である。

図 172-11、12 は高杯脚部片である。11 は脚裾部に円形透かしがはいる。12 は短脚高杯である。

図 172-13 は台付鉢の台部か？

本遺構は方形、四本主柱穴の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 172-1 ～ 5、7、8、12 と

SH11231

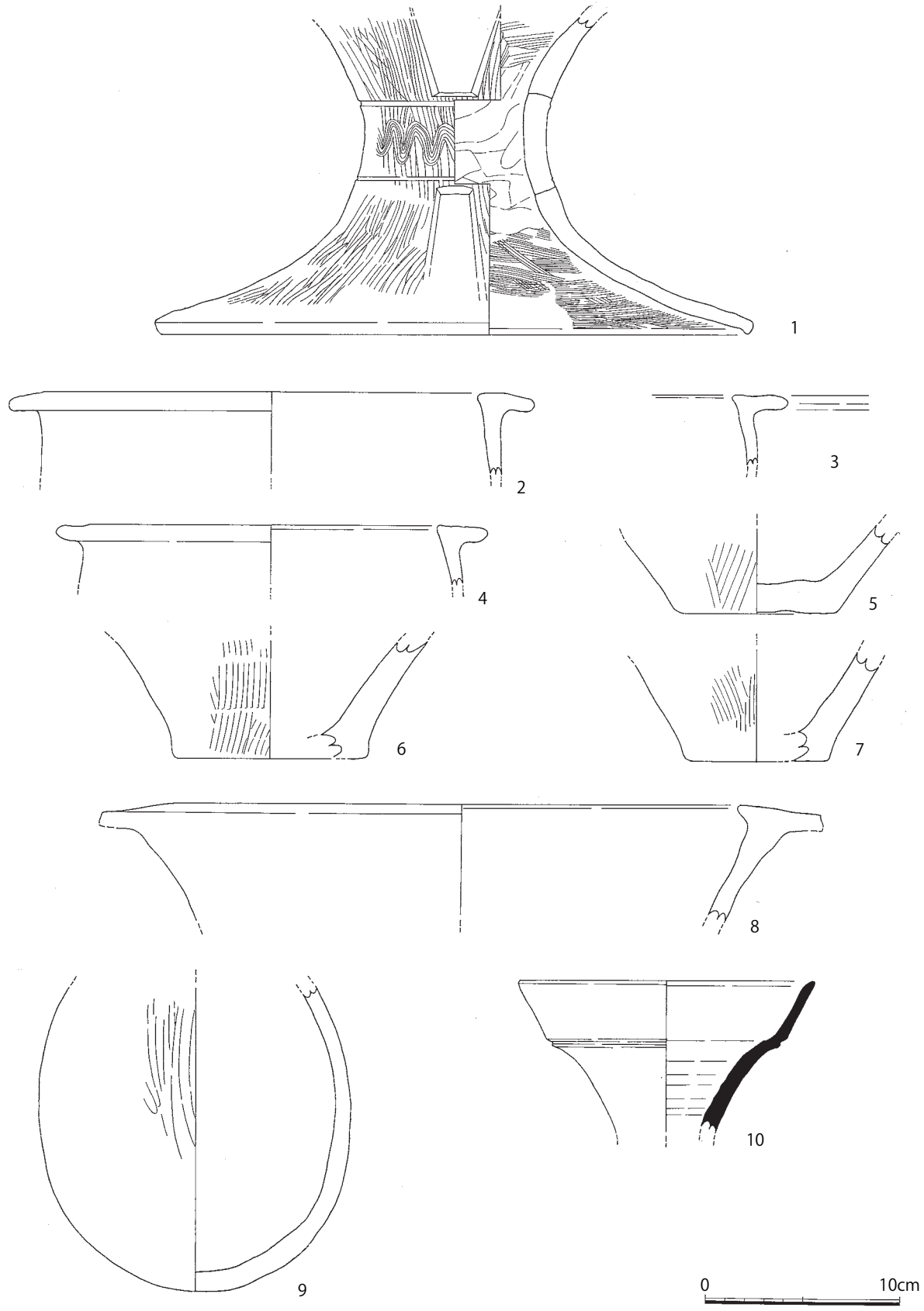


図 170　SH11231 出土土器（1/3）

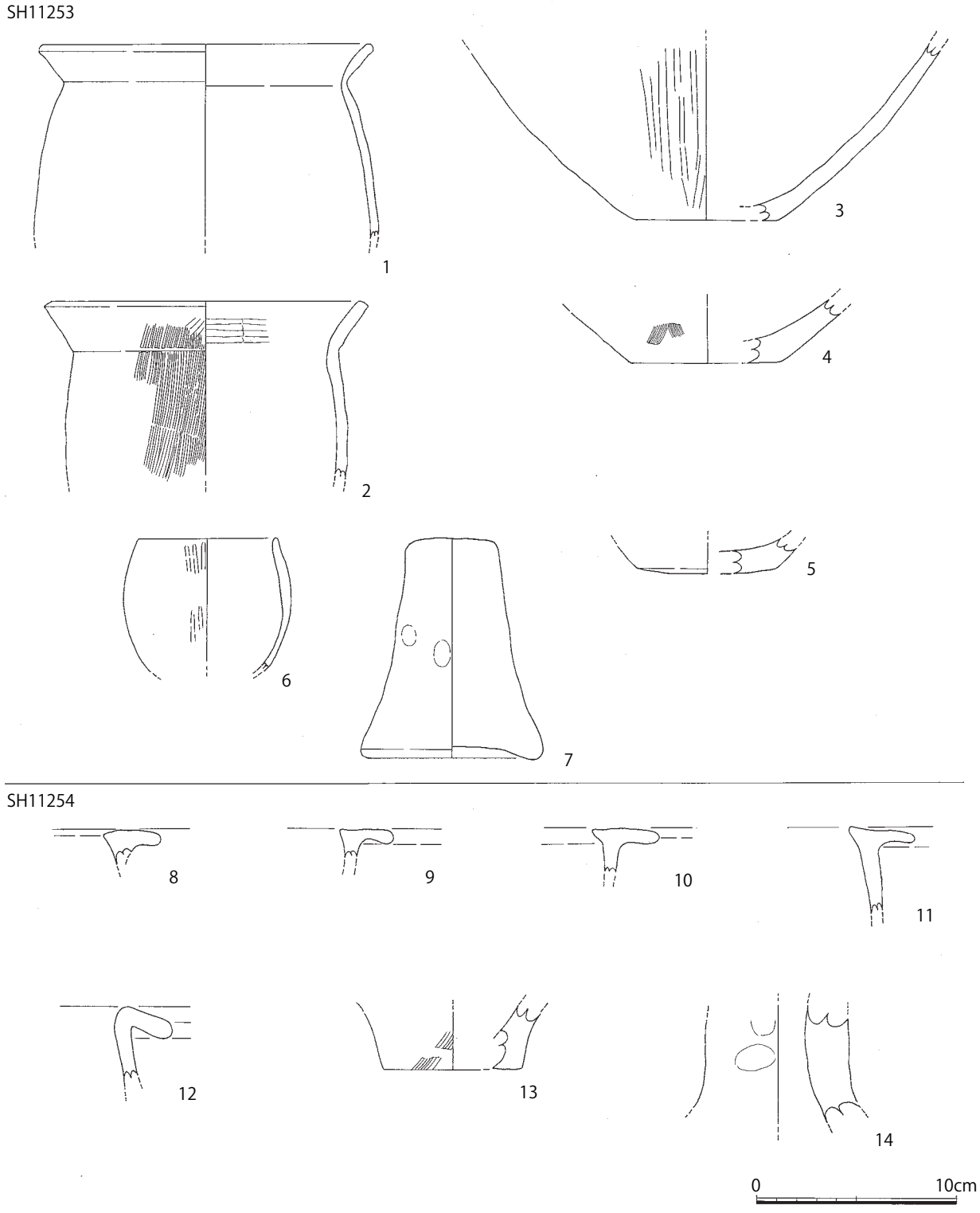


図 171　SH11253・11254 出土土器（1/3）

SH11258

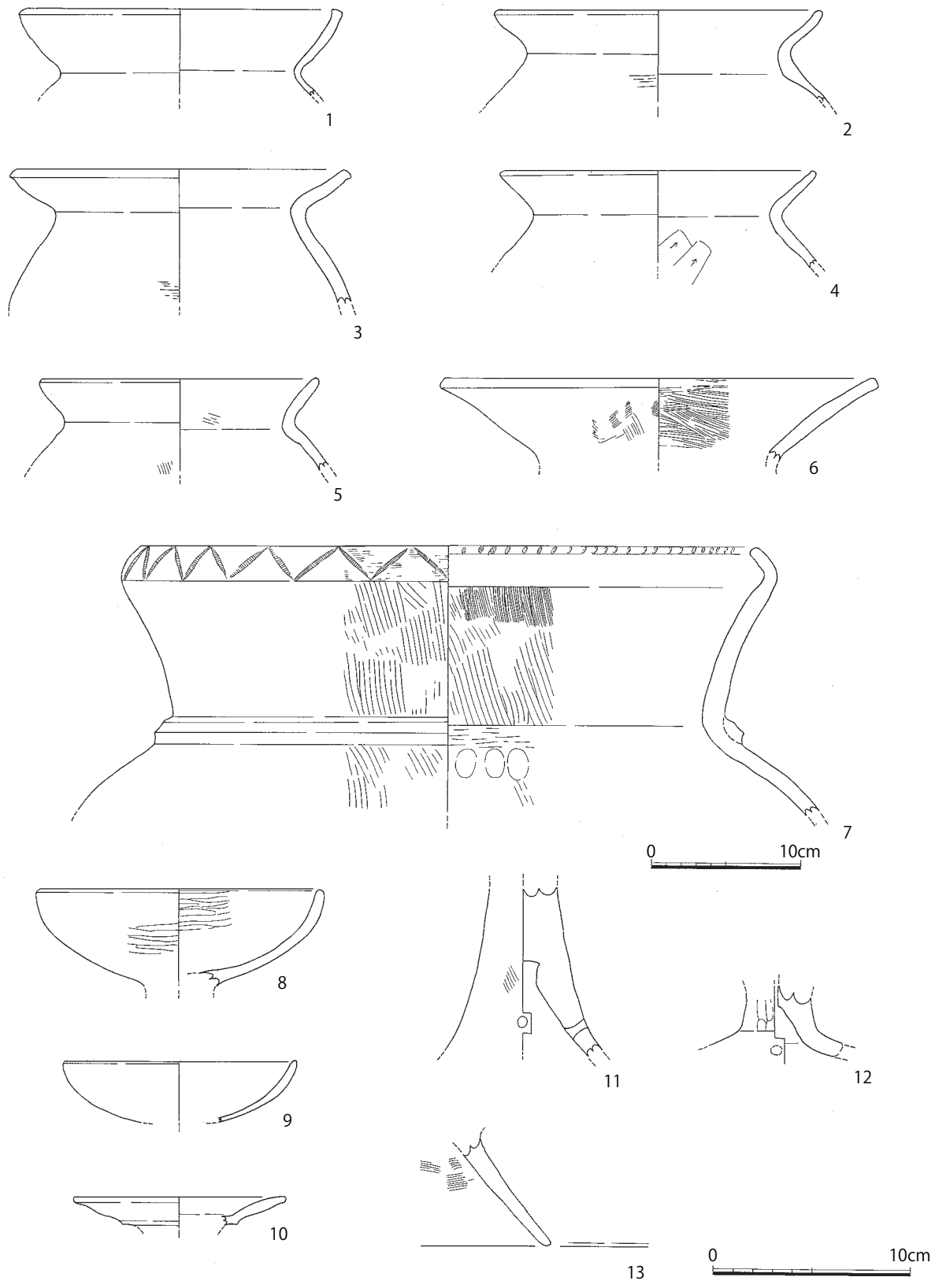


図 172　SH11258 出土土器（1/3、1/4）　7 は 1/4、他は 1/3

考える。

ＳＨ１１２６１出土土器

図 173-1 ～ 4 は甕口縁部片である。1 の口唇部は丸味をもち、2 は面取りする。3、4 は口縁部が内湾する布留型甕である。

図 173-5 は壺？の底部、底部側面と底部の境は丸味をもつ。

本遺構は方形、四本主柱穴の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 173-3、4 と考える。

ＳＨ１１２６４出土土器

図 173-6 ～ 11 は甕口縁部片である。逆Ｌ字形である。

図 173-12 は甕底部片、外面ハケ。

図 173-13 は器台の口縁部片である。

本遺構は円形の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 173-6 ～ 13 と考える。

ＳＨ１１２６７出土土器

図 174-1 ～ 3 は甕口縁部片である。逆Ｌ字形で、2 の端部は下方をむく。

図 174-4 は広口壺の鋤先口縁部片である。

図 174-5、6 は甕の底部片である。

本遺構は不整形の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 174-1 ～ 5 と考える。

ＳＨ１１２７９出土土器

図 174-7 ～ 12 は甕口縁部片である。7 は口縁部が内湾し、9 は口縁端部が内面に肥厚する布留型甕である。10 は口縁端部を短く屈曲させる。色調は灰白色である。12 は口縁部が長く、口唇部は面取りされる。

図 174-13 は甕。肩部外面は叩き、内面は粗いハケである。

図 174-14 は頸基部に断面台形の突帯を回す。

図 174-15、16 は壺の底部である。

図 174-18、19 は甕口縁部片である。逆Ｌ字形である。

図 175-1 は広口壺口縁部片。

図 175-2 は甕口縁部片

図 175-3 ～ 5 は甕底部片である。

図 175-6 は小型精製器台である。受け部内面放射状の暗文を施す。

図 175-7 ～ 9 は鉢である。7 は素口縁の平底である。8 は体部内面ヘラケズリ。9 は手ずくね鉢である。

本遺構は長方形の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 174-7 ～ 14、図 175-6 と考える。

ＳＨ１１２９１出土土器

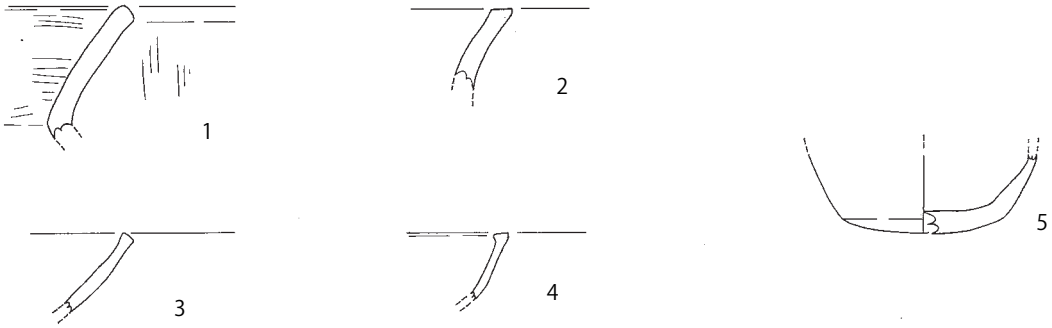
図 175-10 ～ 13 は甕である。10 は折衷甕、体部外面粗いハケ、体部内面ハケ、丸底。11 は折衷甕、尖底気味、体部外面ハケ、体部内面ナデ。12、13 は甕口縁部片である。

図 176-1、2 は甕である。1 は折衷甕で体部は球形で内外面ハケ。2 は体部外面ハケ、胴部内面ヘラケズリ、肩部内面ナデ。

図 176-3 は甑（有孔鉢）である。素口縁で丸味をもつ胴部で、底部に径 1.5cm の正円の孔を穿つ。

図 176-4 ～ 10 は鉢である。4 ～ 9 は素口縁で丸底、尖底の鉢である。6 は形が歪である。10 は屈曲口縁の鉢口縁部片か？

SH11261



SH11264

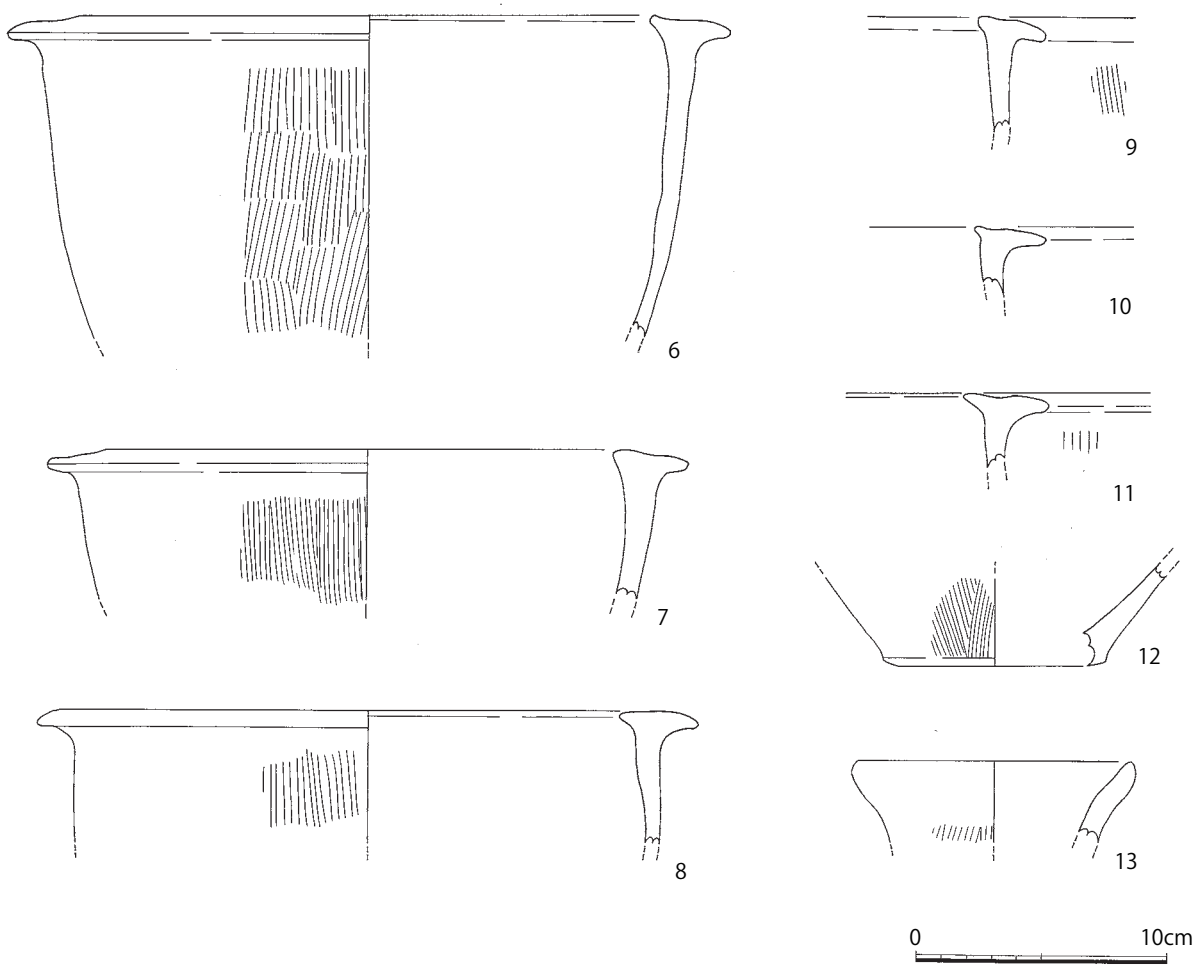


図 173　SH11261・11264 出土土器（1/3）

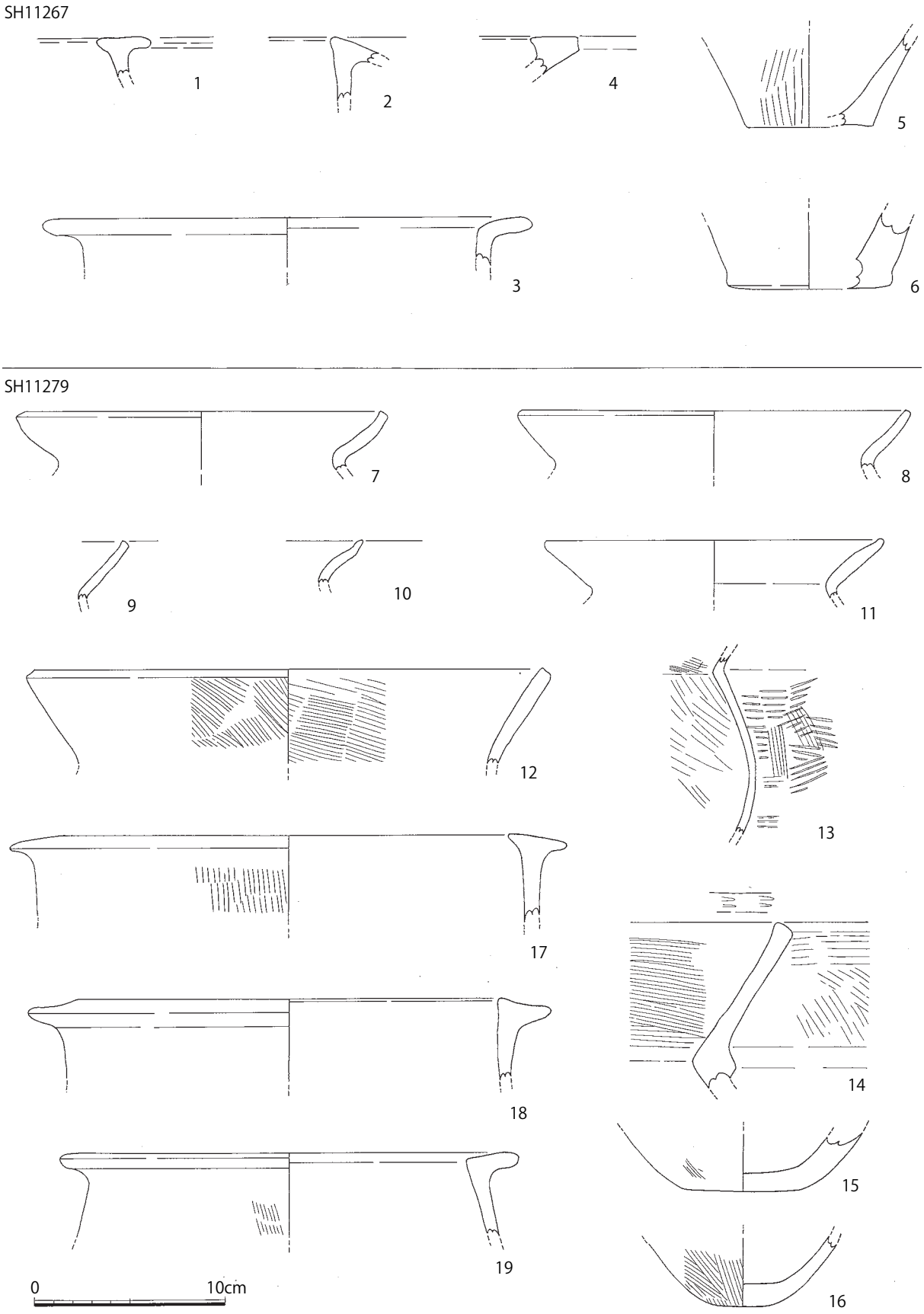


図 174　SH11267・11279 出土土器（1/3）

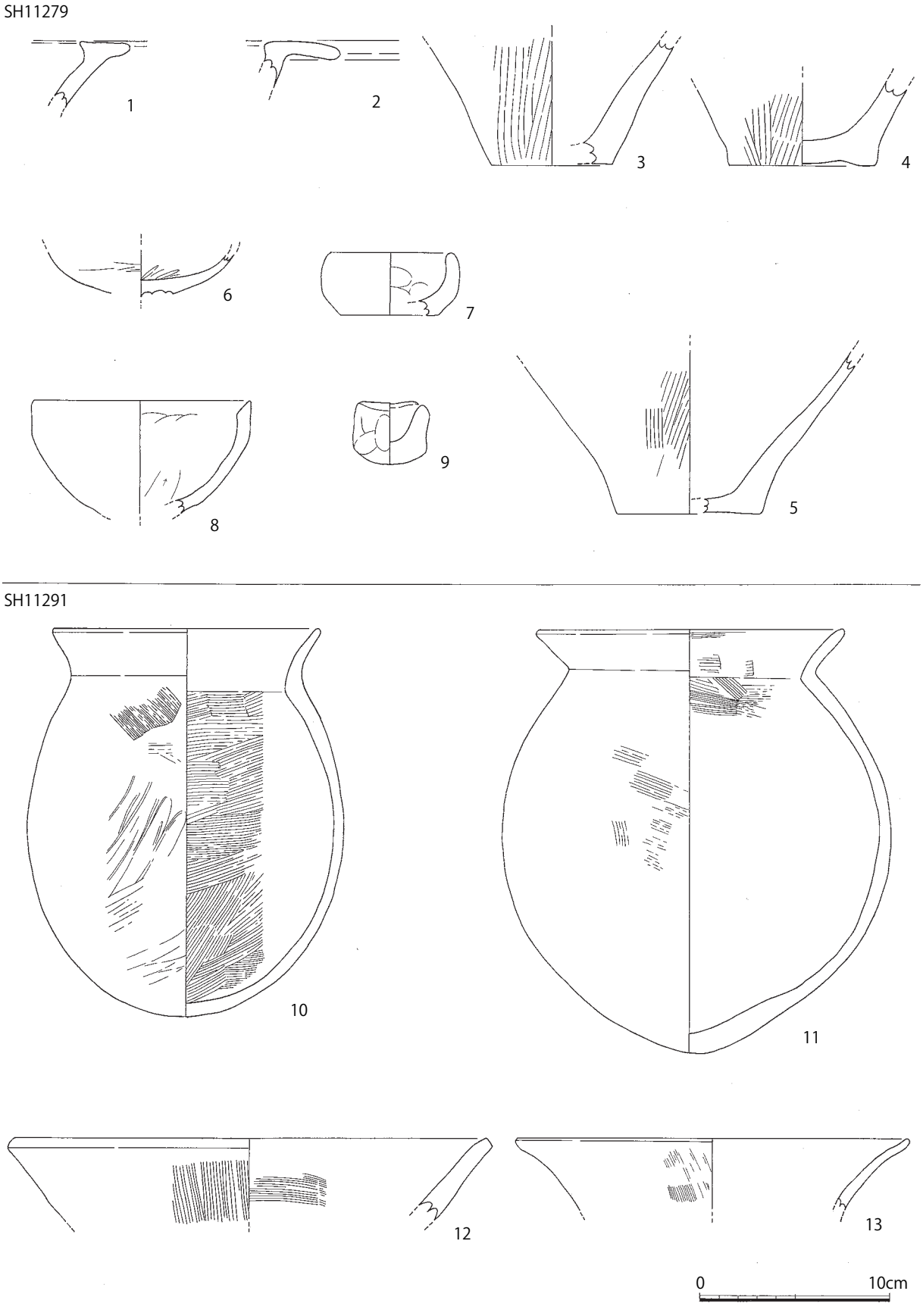


図 175　SH11279・11291 出土土器（1/3）

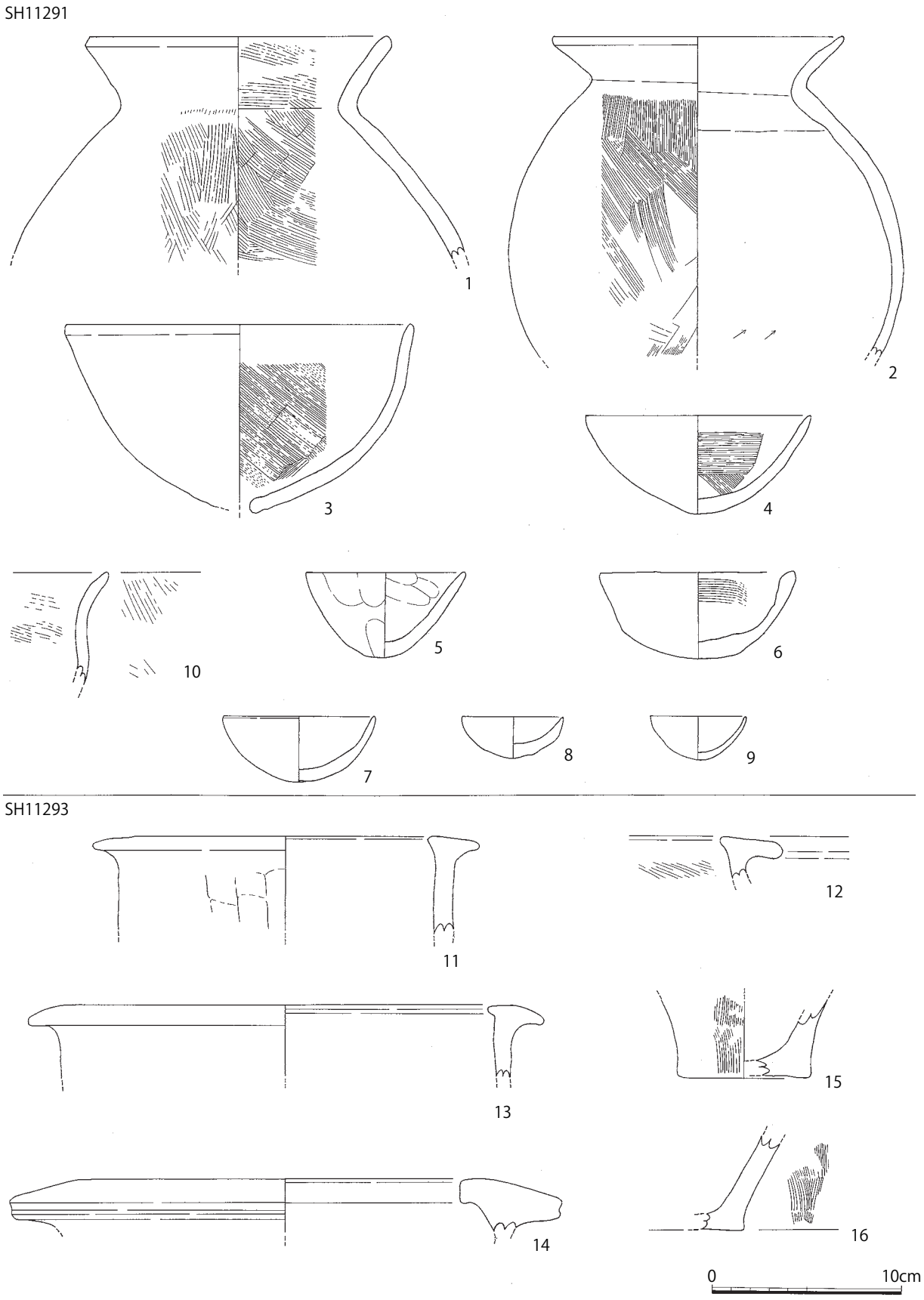


図 176　SH11291・11293 出土土器（1/3）

ＳＨ１１２９３出土土器

図 176-11 ～ 16 は甕である。11 ～ 13 は逆Ｌ字形の甕口縁部片、14 は甕棺口縁部片、Ｔ字形である。15、16 は甕底部片である。

本遺構は円形の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 176-11 ～ 13、15、16 と考える。

ＳＨ１２０２７出土土器

図 177-1 ～ 4 は甕である。1 ～ 3 は胴部上位に最大径がある。1、2 の胴部外面下半は粗いタテハケで、体部内面はハケを施す。は体部内外面タテハケ。4 の底部側面は内湾気味で、外面粗いタテハケ。

図 177-5 ～ 10 は壺である。5 は体部球胴で、口縁部を欠損する。短頸壺か？体部外面タテハケ。6 は口縁部上端に剥離面があり、袋状口縁の上半が欠失したと思われる。頸基部に断面三角突帯を回す。頸部は短く直立気味である。7 は頸基部に二条の断面三角突帯を回す。8 は頸基部に一条の断面三角突帯を回す。9 は長頸壺の頸部、内外面ハケ。10 は口頸部と底部を欠損する。短頸壺か。内外面ハケ。

図 178-1 は甕の底部、底面は突レンズ状でハケを施す。

図 178-2 ～ 4 は高杯、杯上半部は長く外反する。

図 178-5 ～ 7 は鉢、5 は小形鉢で胴部は内湾し、丸底である、精製土器。6、7 は大形鉢、口縁部は内湾し、丸底である。ともに口唇部は面とりされる。

本遺構は長方形の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 177-1 ～ 4、6 ～ 8、図 178-1 と考える。

ＳＨ１２０２８出土土器

図 178-8、9 は甕口縁部片、8 は短く、くの字形に屈曲する。ともに口唇部は面とりされる。

図 178-10 は甕棺の口縁部片、口唇部に沈線の連続山形文施文。

図 178-11 は甕の底部、底面は突レンズ状で、底部側面に粗いタテハケを施す。

図 178-12 は器台片である。

本遺構は方形の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は小片で時期決定が困難である。

ＳＨ１２０３５出土土器

図 178-13 ～ 15、図 179-1 ～ 10 は甕である。図 178-13、14 は完形、図 178-15 は底部を欠損する。いずれも胴部最大径は中位にあり、底部側面は内湾気味で細かなタテハケを施す。口唇部は面とりされる。胴部内面は 13、15 はハケが残り、14 はハケのちナデ消し。図 179-1 ～ 5 は甕口縁部である。2 ～ 4 は口縁部長がやや長く、1 ～ 3 は口縁部外面ナデ、4、5 はハケである。口唇部は面とりされる。

図 179-6 は口頸基部に断面三角形の突帯を回す長胴の大形甕である。胴部最大径は上位にあり、底部外面はわずかに内湾する。体部外面ハケ、内面ハケのちナデ。図 179-7 ～ 10 は甕底部である。底部側面は 7 が直線的で、8 ～ 10 は内湾する。8、9 の底面は突レンズ状である。

図 180-1 ～ 4 は広口壺である。1 は口頸部は直線的に外方に広がる。2 の口頸部は外反して外方に広がる。3 は球形の体部で、口頸基部に断面三角形の突帯を回す。底部と側面境にはかろうじて稜がある。4 は球形の体部で、口縁部は外反する。

図 180-5 は袋状口縁壺、短頸で口縁部上半は内湾する。口縁部の稜に連続刻みを入れる。口頸基部に断面三角形の突帯を回す。

図 180-6 は口縁部を欠損する。長胴の短頸壺であると思われる。底面は突レンズ状である。

図 180-7、8 は口頸部が開く短頸壺である。7 は小形短頸壺で丸底である。8 は大形短頸壺で、口頸基 部に退化した突帯を回す。口唇部に連続刻みを入れる。

SH12027

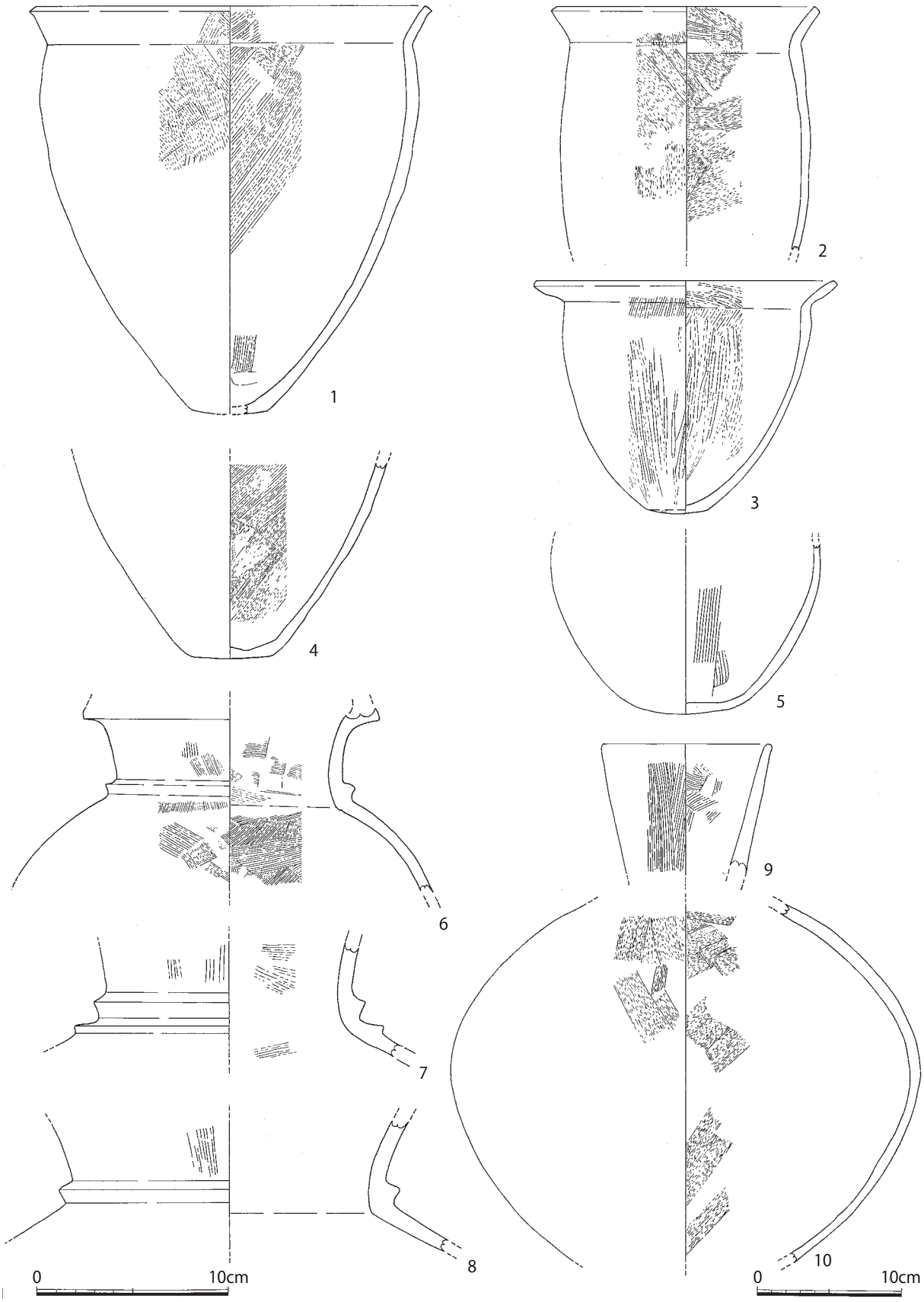


図 177　SH12027 出土土器（1/3、1/4）　7 ～ 9 は 1/3、他は 1/4

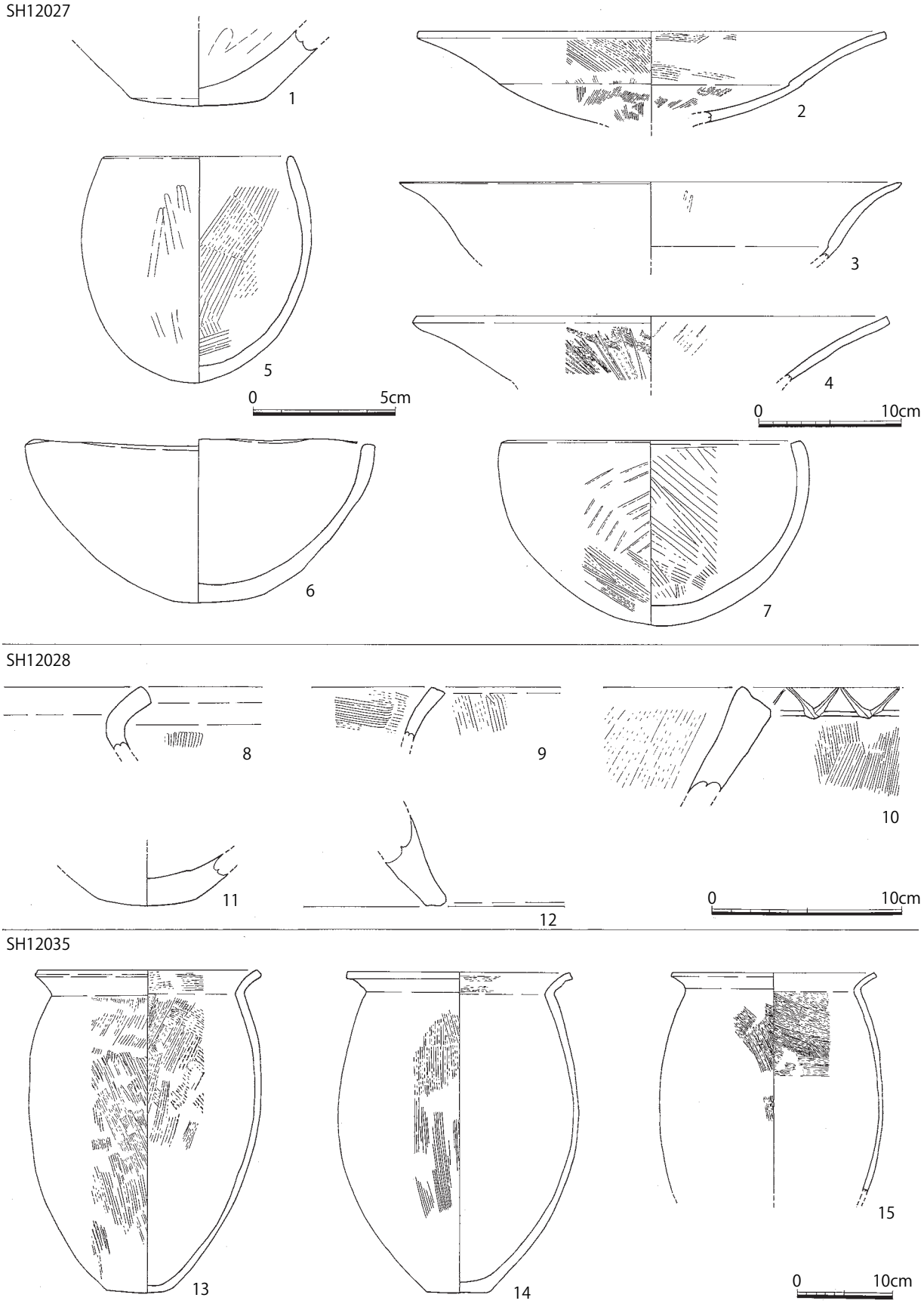


図 178　SH12027・12028・12035 出土土器（1/2、1/3、1/4、1/6）

5 は 1/2、2 ～ 4 は 1/4、13 ～ 15 は 1/6、他は 1/3

SH12035

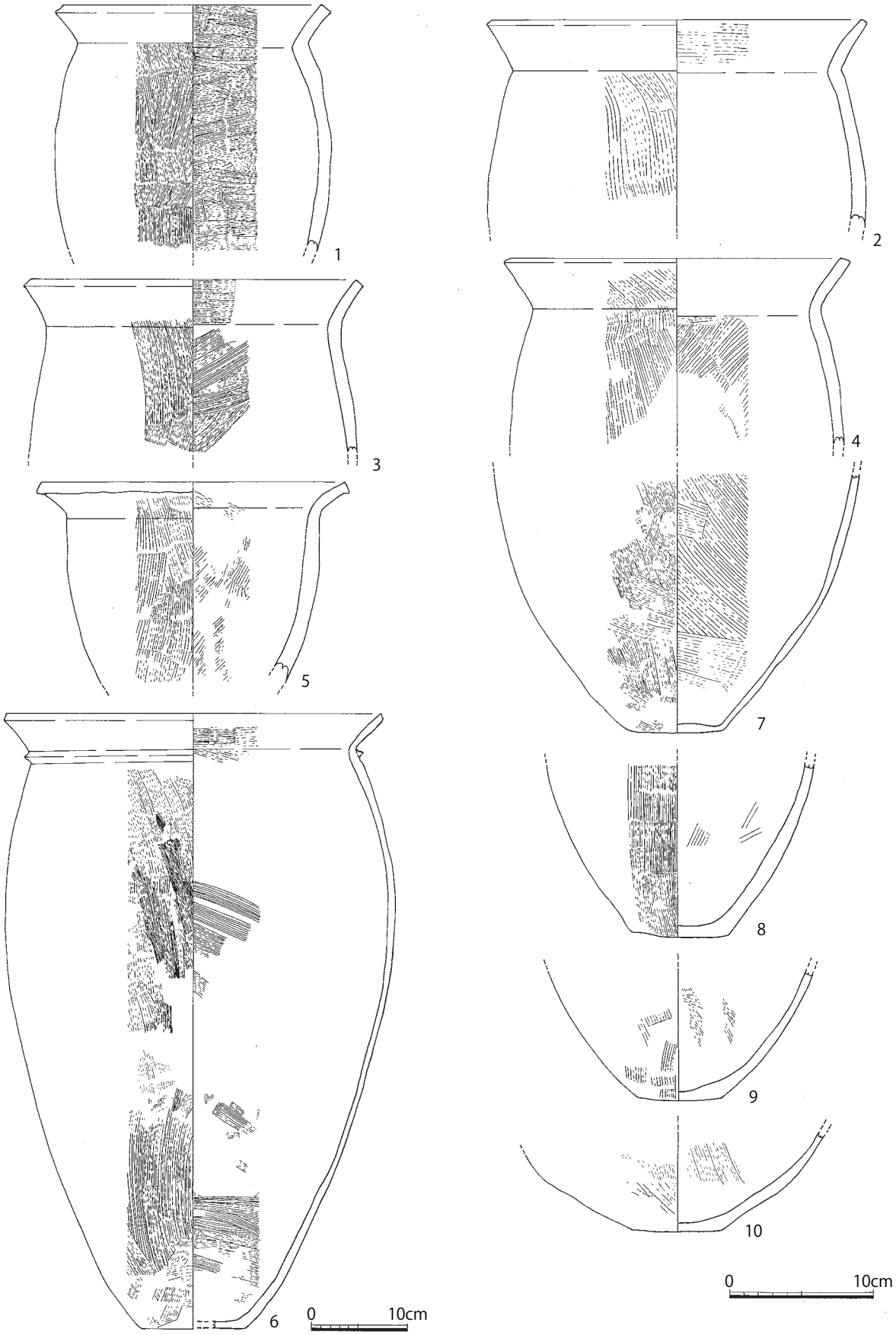


図 179　SH12035 出土土器 1（1/4、1/6）　6 は 1/6、他は 1/4

SH12035

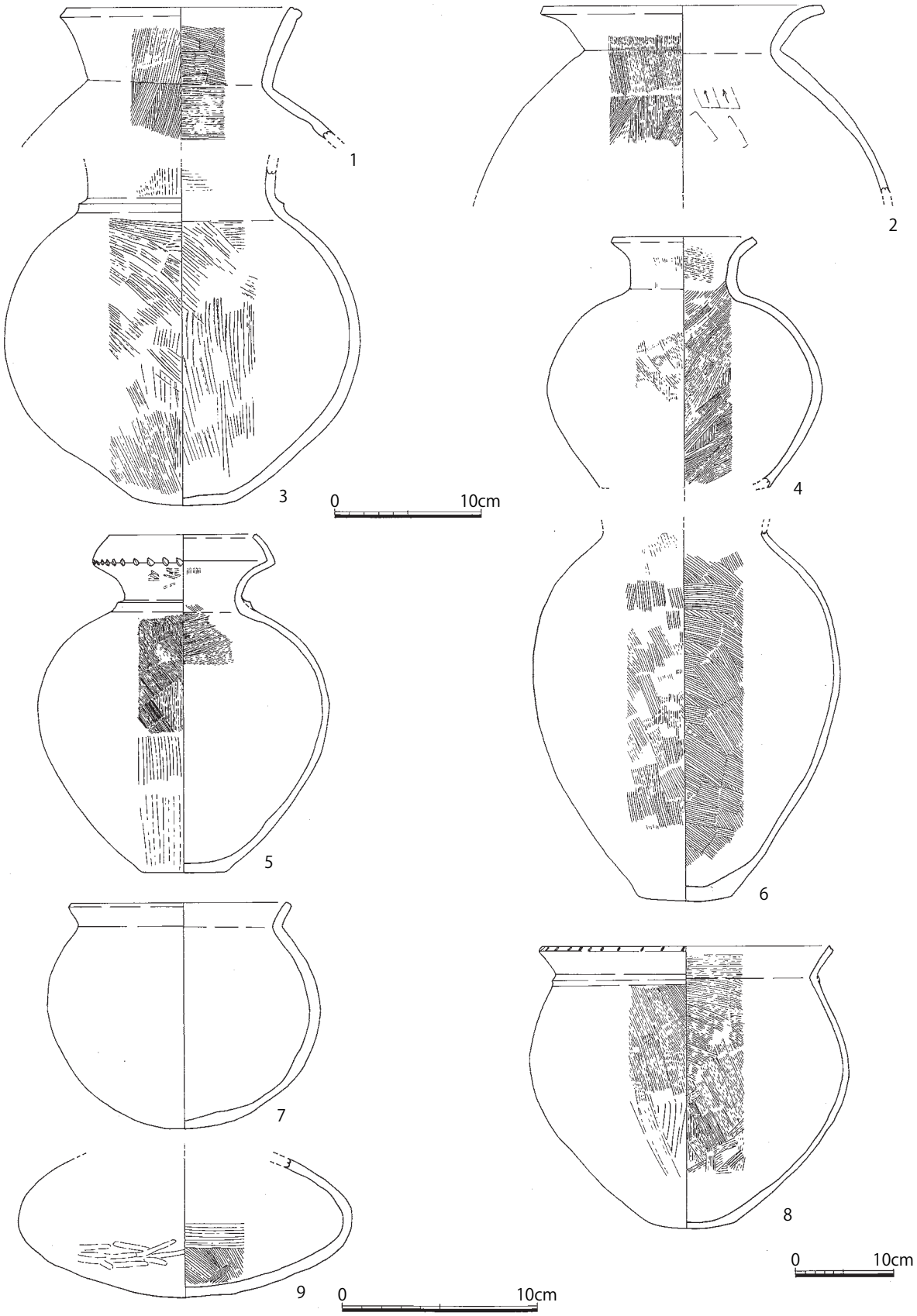


図 180　SH12035 出土土器 2（1/3、1/4、1/6）　1 ～ 3 は 1/4、7・9 は 1/3、他は 1/6

図 180-9 は長頸壺の体部である。体部は偏球形で底面はヘラミガキ状に仕上げる。

図 181-1 ～ 5 は高杯である。1 は完形、杯上半は短く外反する。脚部に円形三方透かしあり。2 は杯部片、杯上半は短く直線的に外方に開く。3 ～ 5 は脚部に円形三方透かしあり。

図 181-6 は土師器の甕か？器壁は厚く、体部は粗い横ハケを施す。内面に輪積み痕を残し、部分的にナデを施す。

図 181-7 は鉢、口唇部は面とりされる。

図 181-8 は甕口縁部片、口頸基部に断面三角形の突帯を回す。

図 181-9 は甕棺、体部下位に断面三角形の二条突帯を回す。

図 181-10 は器台底部片、

図 181-11 は直口鉢、丸底である。

本遺構は長方形の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 178-13 ～ 15、図 179-6、図 181-1、2 と考える。

ＳＨ１２０３６出土土器

図 182-1 ～ 6、8、9 は甕である。1 の口頸基部内面は稜をもち、肩部内面はナデ。2 の口唇部は面取りされ、口頸基部内面は稜をもち、肩部内面は部分的にハケを残す。3 は最大径が胴部中位より、口唇部は面取りされ、口頸基部内面は、稜にはならず、平底である。4 は小型の甕、底径は小さく、底部側面は丸味をもつ。5 は最大径が胴部下位にある。丸底。6 の口縁端部はわずかに内湾する。9 は丸底気味で、底部側面は丸味をもつ。

図 182-7 は袋状口縁壺である。口縁部上半は短く内傾し、端部は上方に跳ね上げる。

図 183-1 は甕の底部である。底部側面内面ハケ。

図 183-2 は屈曲口縁の鉢である。

図 183-3 は高杯である。杯部上半は直線的に外上方に開く。杯下半は内湾する。肥後系の高杯と思われる。

図 183-4 は長頸壺の胴部、胴部算盤玉形。

本遺構は長方形の竪穴住居であり、甕に型式差がみられるが、図 182-3、7 が遺存状態もよく、遺構の時期を示すと考える。

ＳＨ１２０４１出土土器

図 183-5 は甕、口唇部は面取りされる。

図 183-6、7 は高杯、6 は杯上半部片。長く外反気味である。7 は脚部片、裾部に円形四方透かしが入る。

図 183-8 は器台、粗製である。

ＳＨ１２０４３出土土器

図 183-9 は甕、肩部が張り、口縁部長は短く、口唇部は面取りされる。

本遺構は方形の竪穴住居で四本主柱穴であり、出土土器は遺構の時期を示さないと考える。

ＳＨ１２０５２出土土器

図 183-10 ～ 12 は甕、10 は逆 L 字形に折り曲げる。11 は逆 L 字形の口縁部片。12 は底部片、平底。

ＳＨ１２０５３出土土器

図 184-1 は甕、肩部外面タタキ、内面ヘラケズリ。

図 184-2 は小型器台、裾部は外下方に開く。

SH12035

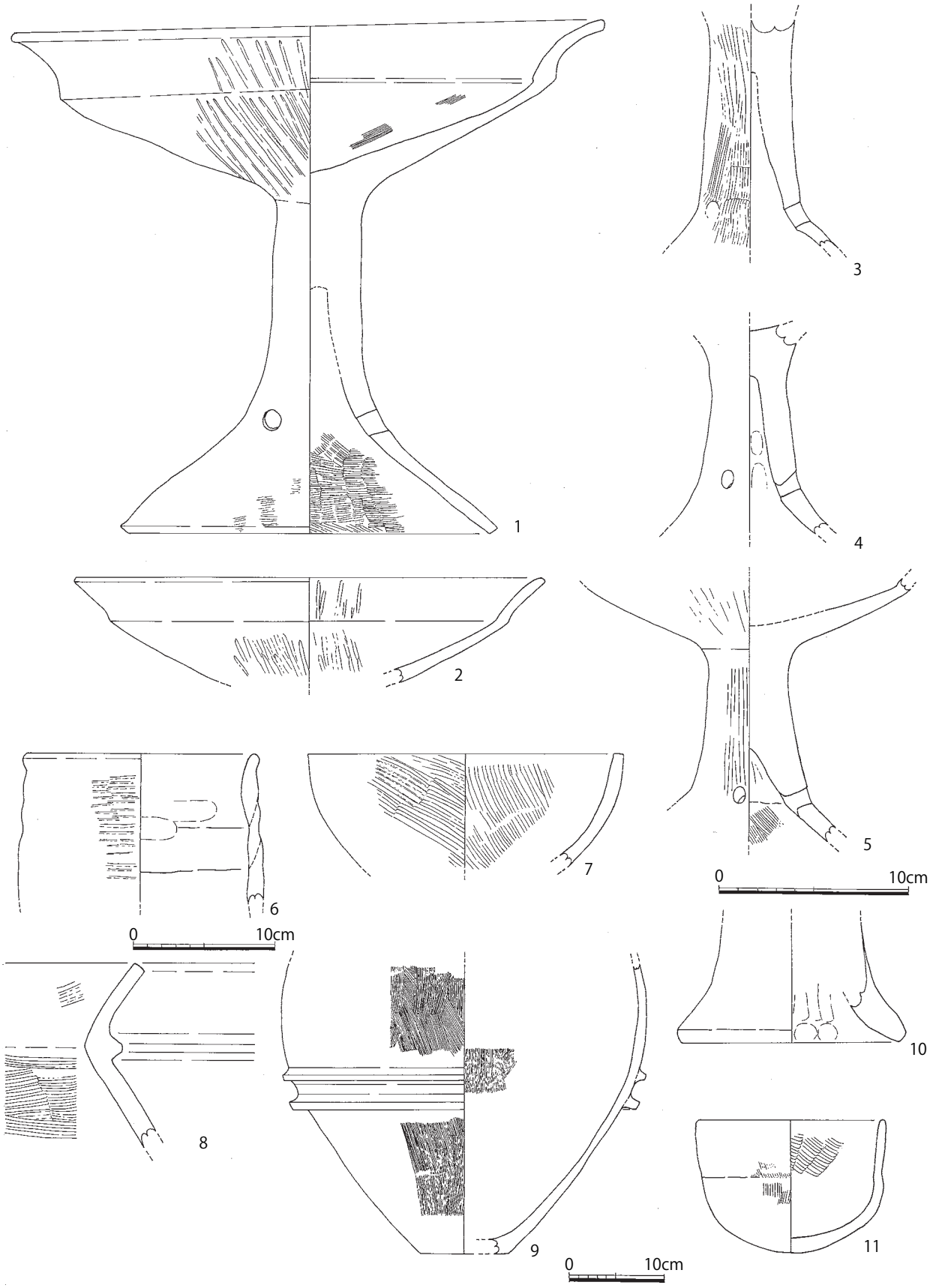


図 181　SH12035 出土土器 3（1/3、1/4、1/6）　6 は 1/4、9 は 1/6、他は 1/3

SH12036

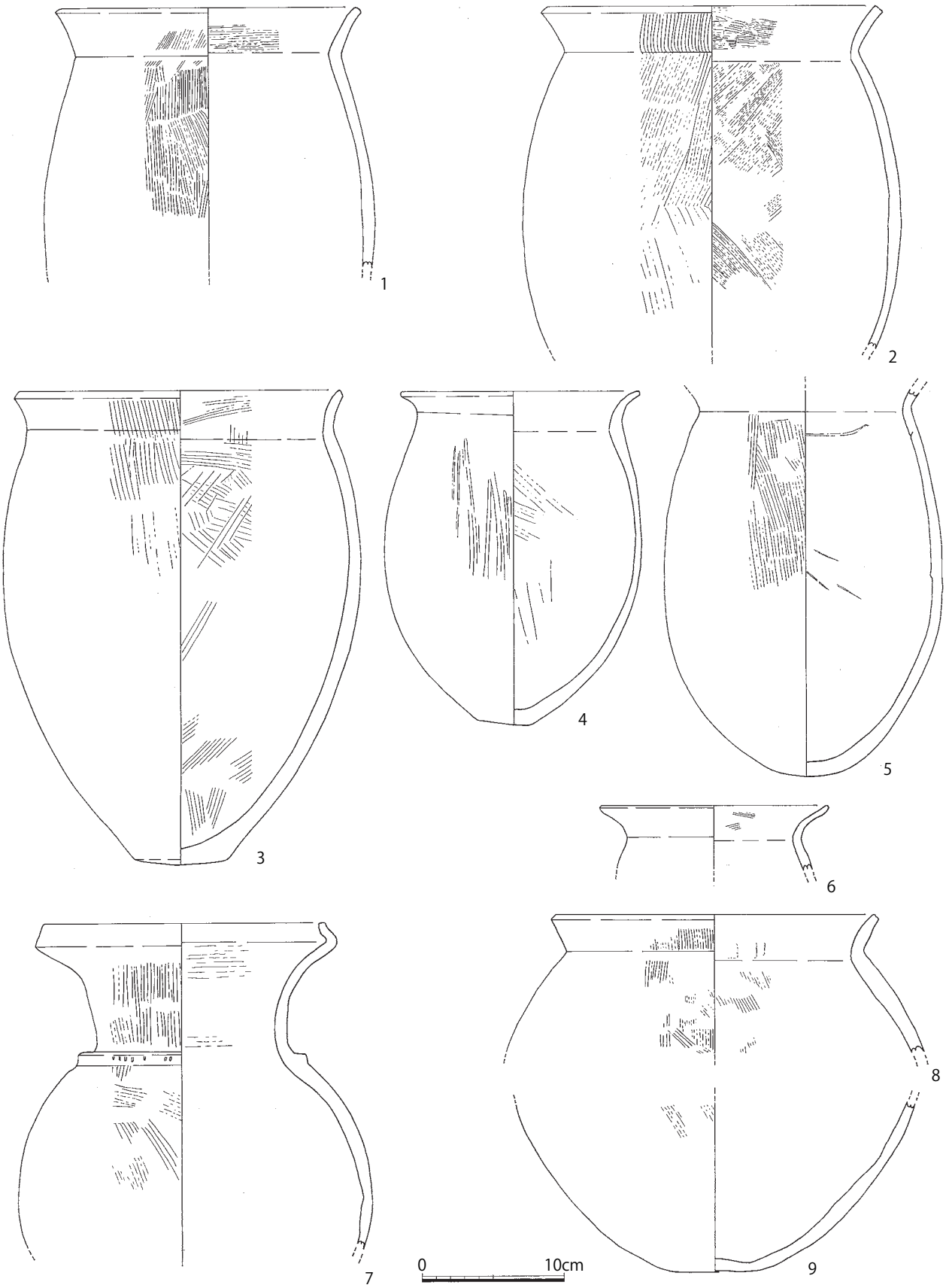


図 182　SH12036 出土土器（1/4）

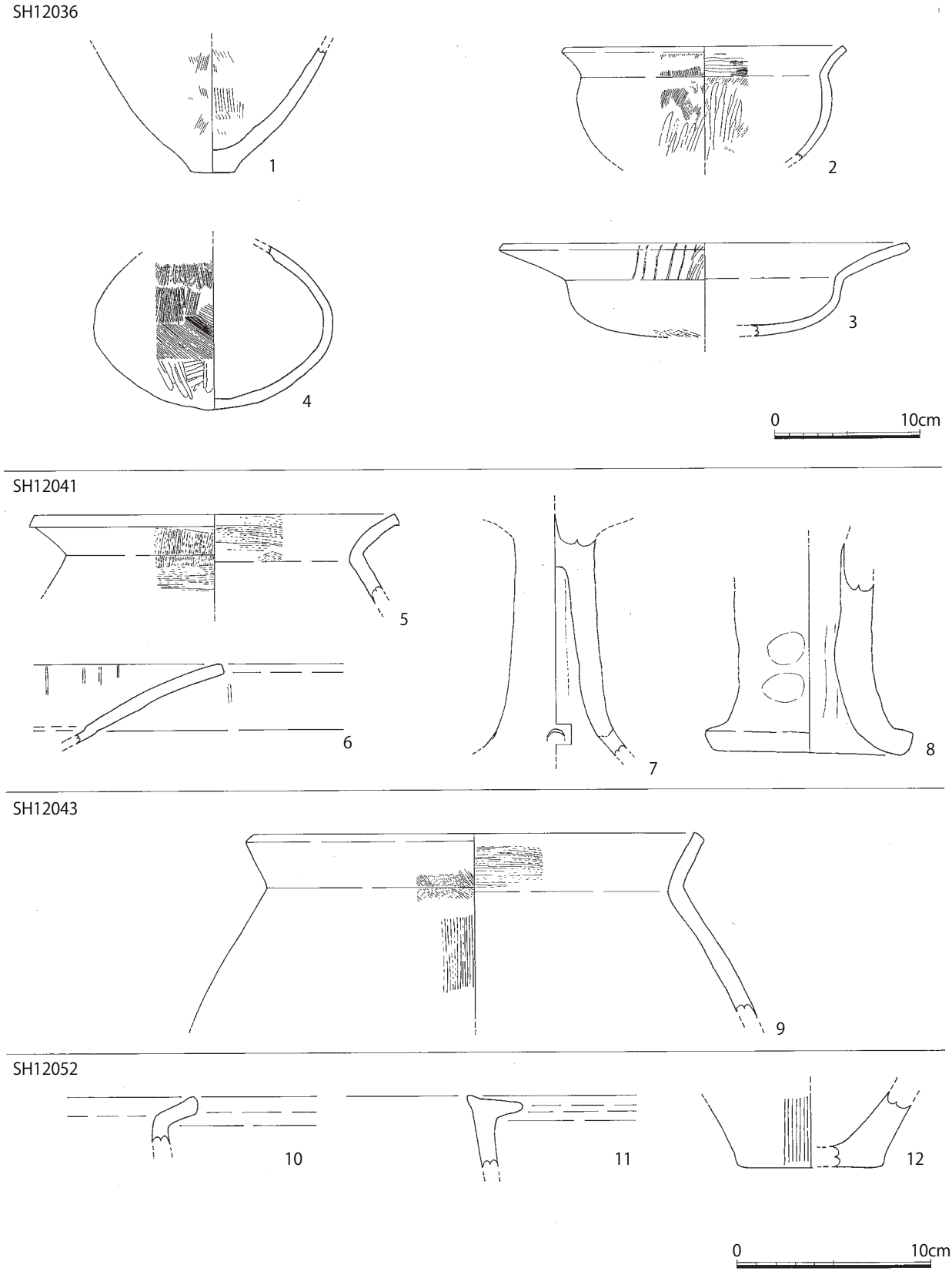


図 183　SH12036・12041・12043・12052 出土土器（1/3、1/4）　1 ～ 4 は 1/4、他は 1/3

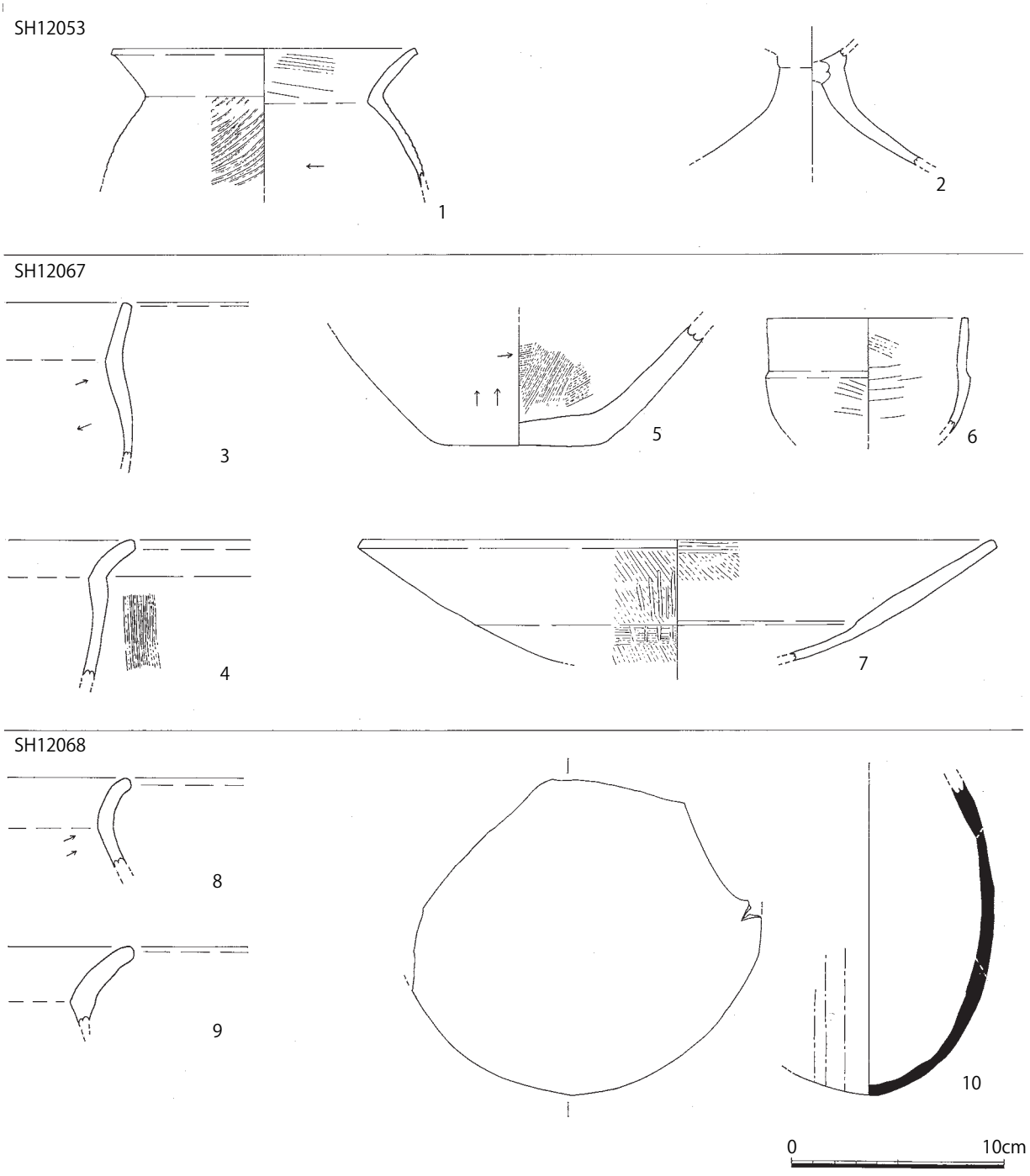


図 184　SH12053・12067・12068 出土土器（1/3）

本遺構は方形の竪穴住居で、遺構の時期を示す土器は図 184-1、2 と考える。

ＳＨ１２０６７出土土器

図 184-3 ～ 5 は甕、図 184-3 は口縁部は緩やかに屈曲、肩部内面ヘラケズリ。図 184-4 は口縁部はくの字形に屈曲する。図 184-5 は底部側外面は雑なカキケズリを施す。

図 184-6 は鉢、口縁部は直立し、胴部との境は稜をつくる。

図 184-7 は高杯、杯上半部は長く、下半部との境は内面で段をなす。

本遺構は長方形の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 184-5 ～ 7 と考える。

ＳＨ１２０６８出土土器

図 184-8、9 は甕口縁部片、口唇部は丸くおさめる。

図 184-10 は須恵器瓶の胴部片、提瓶か平瓶であろう。

本遺構は方形の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 184-8 ～ 10 と考える。

ＳＨ１３０８６出土土器

図 185-1 は甕、口縁部は逆Ｌ字形で胴部中位に断面三角突帯を回す。

本遺構は方形のカマド付き竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は出土していない。

ＳＨ１３１１５出土土器

図 185-2、3 は甕、2 は口縁部片、外反し、口唇部は丸くおさめる。3 は底部、内面ヘラケズリ。

図 185-4 ～ 6 は高杯、4、5 は杯部中位で屈曲する。4 の内面は螺旋状の暗文、外面はミガキ仕上げ。6 は脚裾部片。

図 185-7 は支脚、断面円形の中実である。粘土がはずれ中空になる。

本遺構は方形のカマド付き、四本主柱穴の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 185-2 ～ 6 である。

ＳＨ１３１５４出土土器

図 186-1 ～ 3 は甕、1 はナデ肩で、胴部内面は粗い縦方向のヘラケズリ。2、3 は小形甕、2 は内面、口縁部境に稜をもつ。3 は器壁が 2 に比べ薄い。

本遺構は方形のカマド付き、四本主柱穴の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 186-1 ～ 3 である。

ＳＨ１３１５７出土土器

図 186-4、5 は甕、4 は小形甕、球形、丸底の胴部に外反気味の口縁部がつく。胴部内面ハケのちナデ。5 は平底。底部側面上位に粘土帯接合痕あり。

図 186-6 は台付鉢、素口縁。

本遺構は長方形の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 186-4 である。

ＳＨ１３１５８出土土器

図 186-7 は甑の口縁部片である。内面ヘラケズリ。

図 186-8、9 はミニチュア鉢である。

ＳＨ１３１６３出土土器

図 187-1 は小形甕、口縁部でわずかに屈曲する、粗製。

図 187-2 は須恵器鉢、胴部中位に一条の沈線を回す。底部回転ヘラケズリ。

図 187-3 はミニチュア鉢である。

図 187-4 は須恵器杯身、たちあがりは短く内傾する。底部回転ヘラケズリ。

ＳＨ１３２１２出土土器

図 187-5 ～図 188-2 は甕である。5 は球形の胴部に緩やかに外反する口縁部がつく。体部内面ヘラケズリ。外面ヨコハケ。6 は卵形の胴部、肩部外面に矢羽根状施文。体部内面ヘラケズリ。外面ヨコハケ。色調は明黄橙色で、搬入品か？ 7、8 は体部内面ヘラケズリ。8 は胴部と底部は同一個体である。図 188-1 は底部、側面は粗いタテハケ。2 は台付甕底部である。台部はハの字形に開く。

図 188-3 は有段高杯である。口唇部は短く上方に摘みあげる。脚裾部に三方円形透かしあり。外面ミガキ、内面ハケで丁寧に仕上げられる。

図 188-4 は台付鉢、口縁部はわずかに屈曲する。

本遺構は方形の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 187-5 ～ 8、図 188-3 である。

ＳＨ１３２４６出土土器

図 188-5 ～ 8 は甕である。5 は在地系甕口縁部片。6 ～ 8 は精製甕、6 は内湾口縁、7、8 は肩部外面ヨコハケである。

図 188-9 は壺？底部。上げ底である。内面ハケ。

本遺構は方形の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 188-5 ～ 8 である。

ＳＨ１３３４５出土土器

図 189-1 は甕である。口縁部は外反気味、肩部外面ヨコハケ、内面指頭圧痕あり。

図 189-2 は鉢である。底部丸底でヘラケズリ。

図 189-3 は土製紡錘車、土器片を円形に加工し、中央に円形孔を穿つ。

ＳＨ１３３７５出土土器

図 189-4 ～ 6 は壺、4 は胴部球形で口縁部を欠く。広口壺か。胴部外面ハケ、内面ナデ。5 は小型広口壺、球形の胴部に内湾気味の口縁壺がつく。底部は小さな平底。6 は広口壺、口縁部を欠失する、丸底。

図 189-7 は台付鉢、素口縁。

図 189-8、9 は高杯、8 の杯部上半は長く直線的に上外方に開く。杯部下半に稜あり。精製。9 は脚部片、裾部を欠失する。

図 189-10 は鼓形器台、胴部中央はコの字形に窪み、上半部及び外反気味に開く。山陰系器台である。

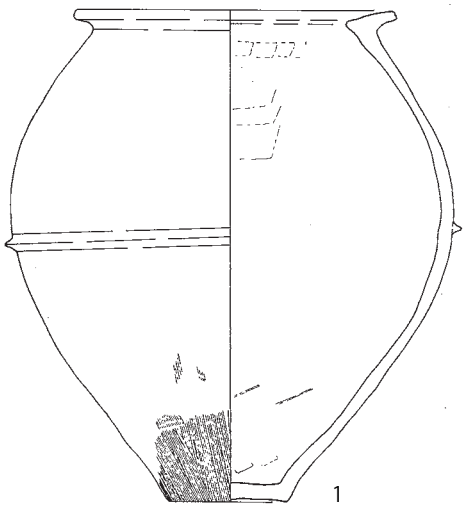
本遺構は長方形の竪穴住居であり、遺構の時期を示す土器は図 189-4 ～ 10 である。

ＳＨ１３４１６出土土器

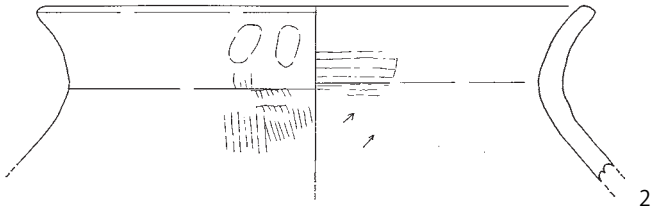
図 189-11 は須恵器杯蓋である。天井部回転ヘラケズリ。

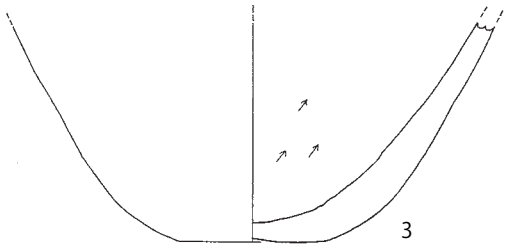
本遺構は方形の四本主柱穴の竪穴住居であり、図 189-11 が遺構の時期を示す土器か不明である。

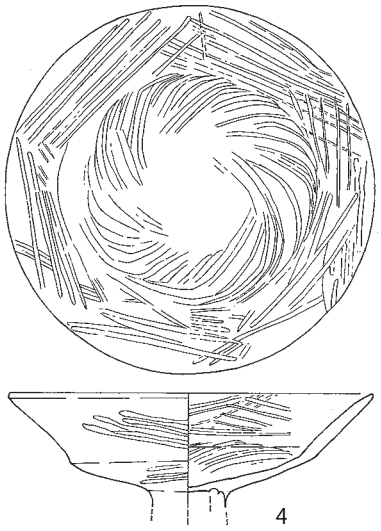
SH13086

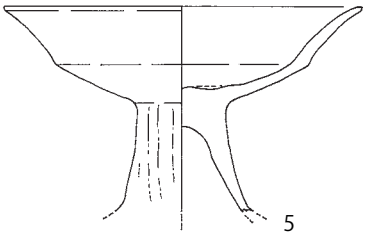


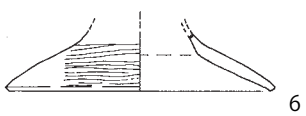
SH13115











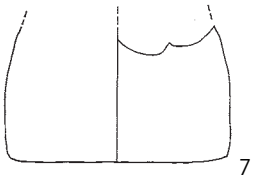


図 185　SH13086・13115 出土土器（1/3、1/6）　1 は 1/6、他は 1/3

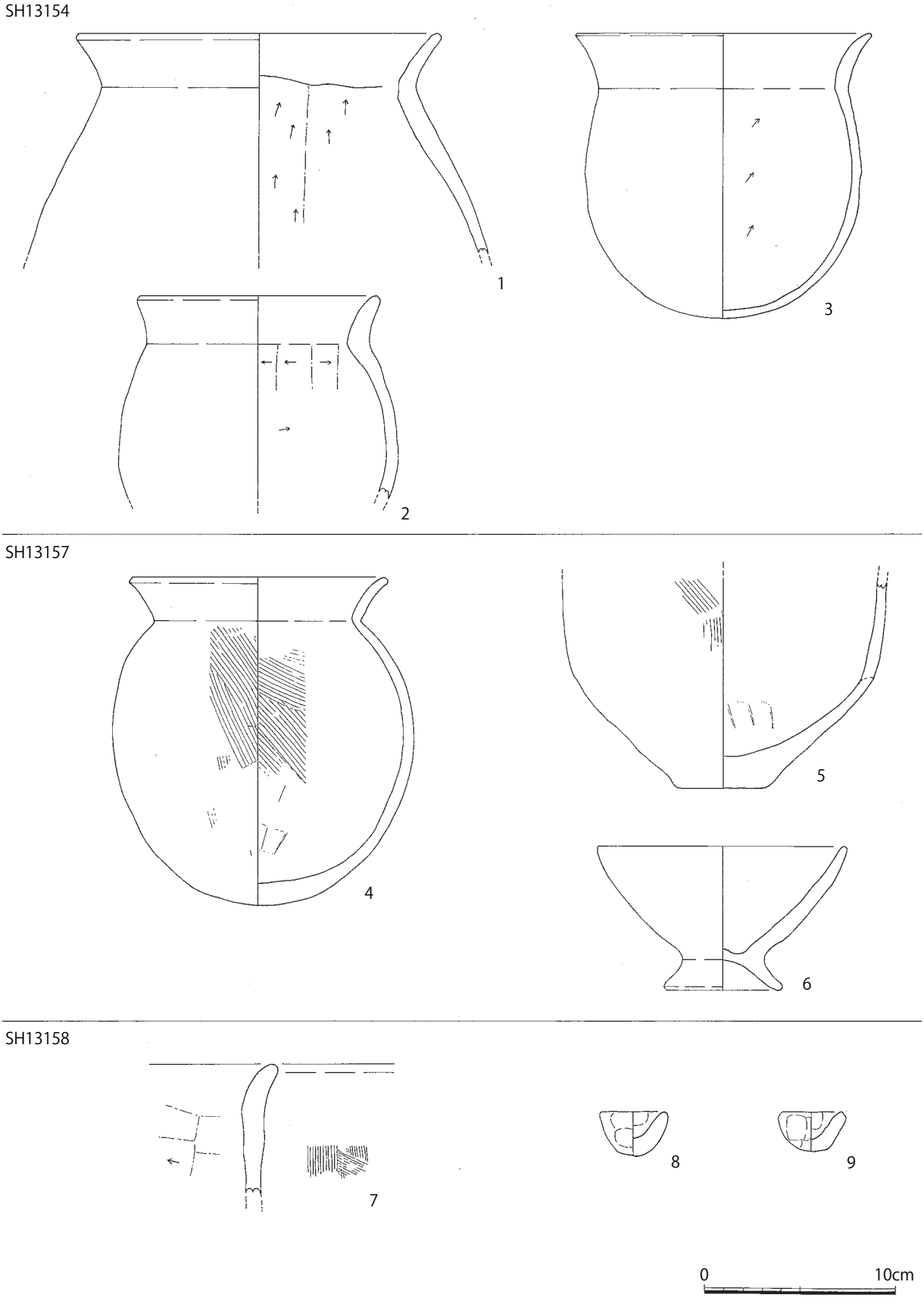
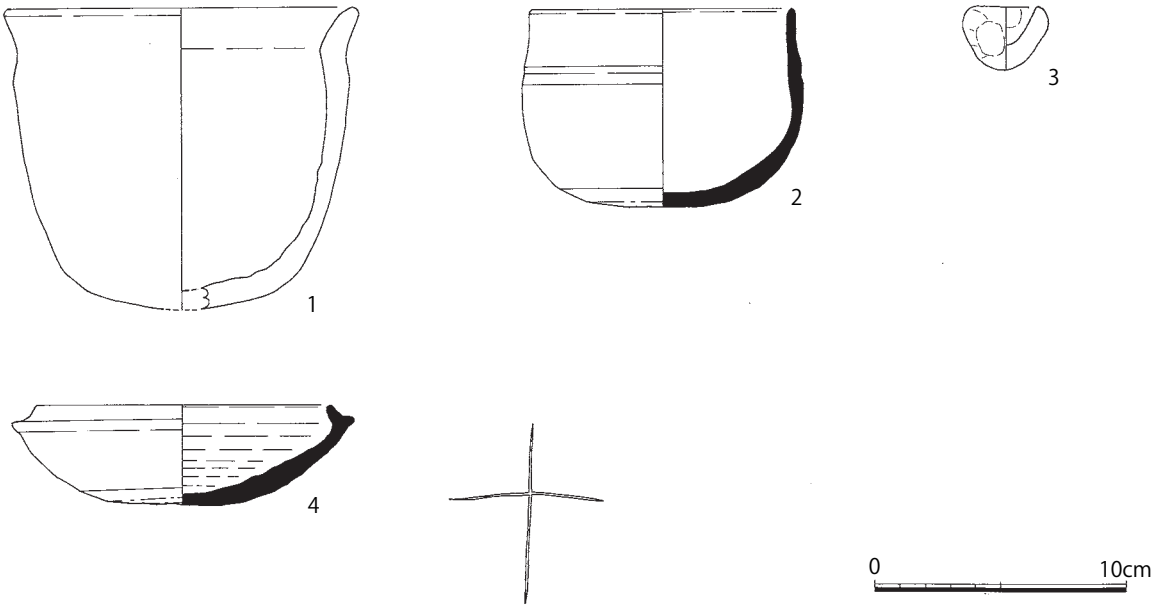


図 186　SH13154・13157・13158 出土土器（1/3）

SH13163



SH13212

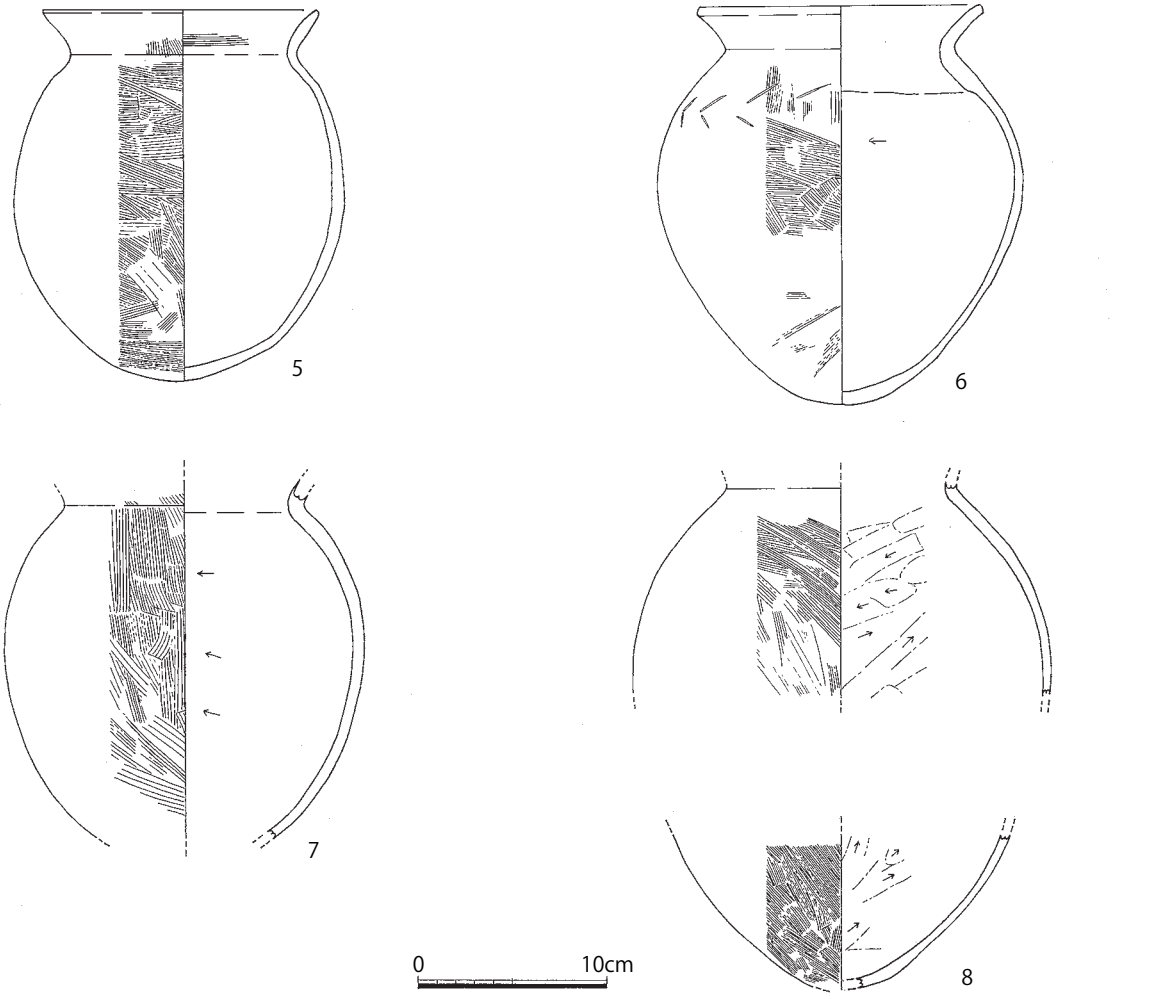


図 187　SH13163・13212 出土土器（1/3、1/4）　1 ～ 4 は 1/3、5 ～ 8 は 1/4

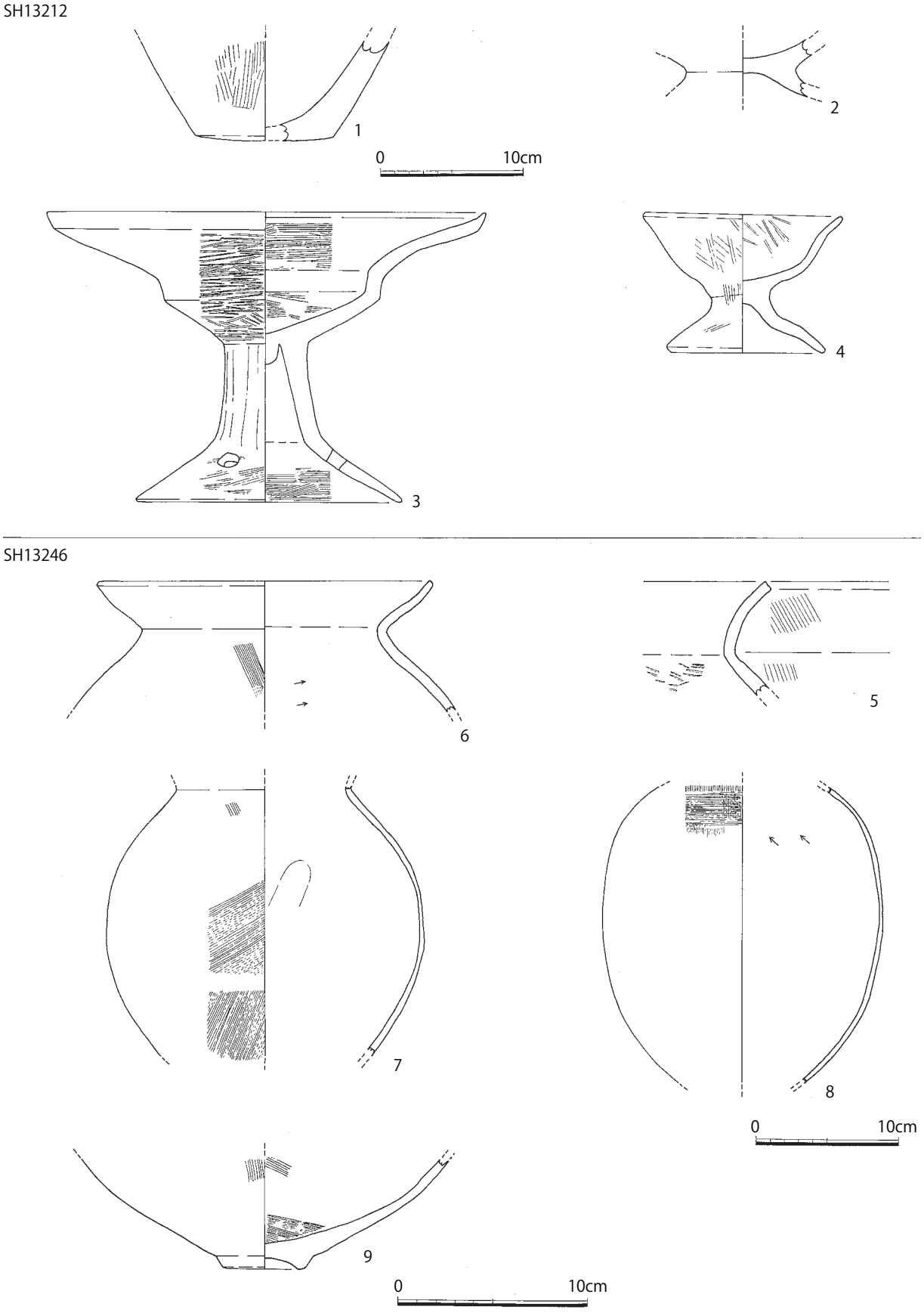


図 188　SH13212・13246 出土土器（1/3、1/4）　1・8 は 1/4、他は 1/3

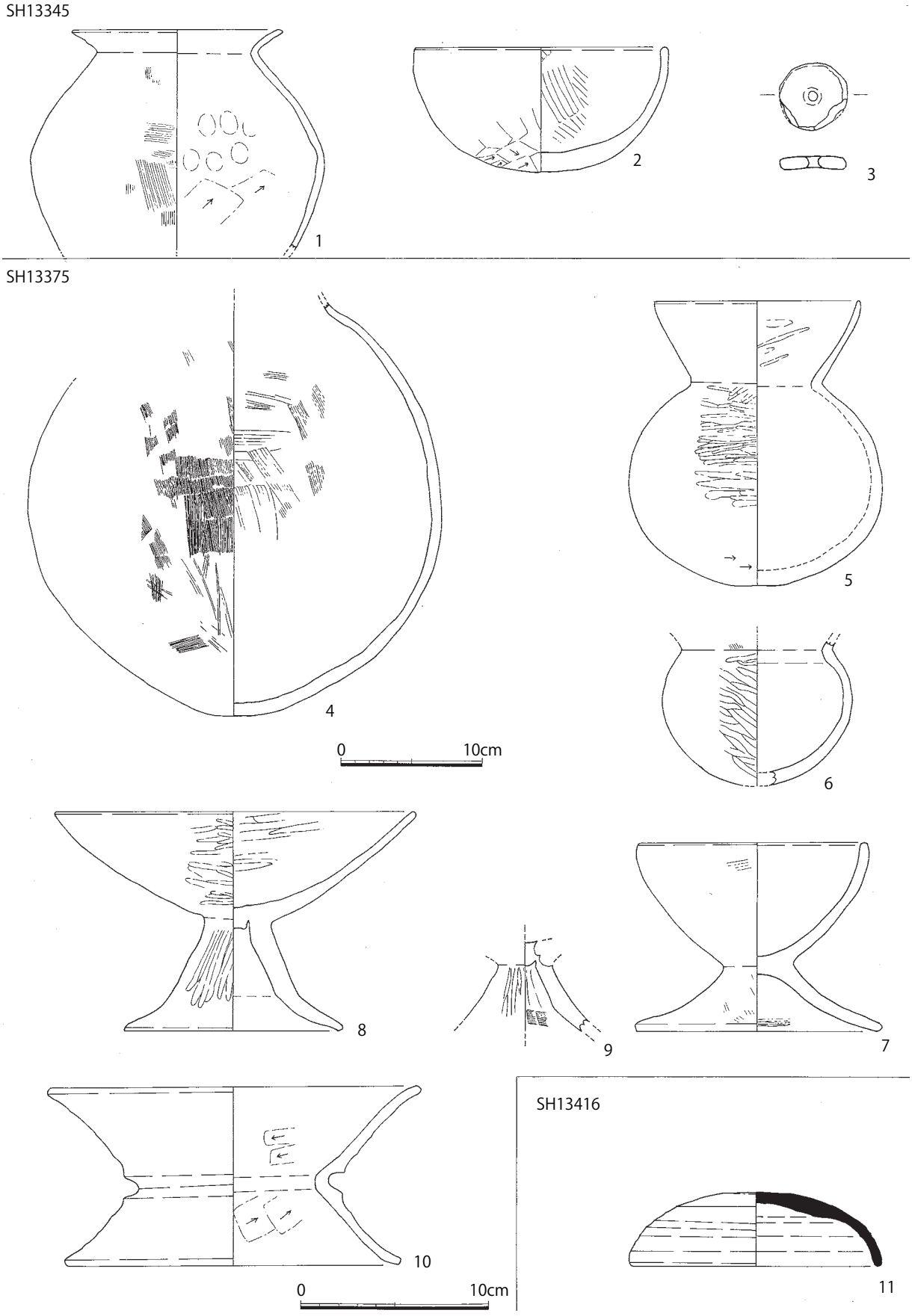


図 189　SH13345・13375・13416 出土土器（1/3、1/4）　1・4 は 1/4、他は 1/3

②掘立柱建物跡出土土器

SB11038、11044、11046、11058、11059、11077、11079、11084、11085、11088、11089、11091、11100、11202、11256 の柱穴から土器片が出土した。細片が多く図化していない。以下、柱穴出土土器片について記す。

SB11038 は P2 から弥生中期の口縁部、胴部片が約 10 点出土した。P4 から弥生中期の底部片 2 点、ほか頸部片、胴部片 3 点が出土した。P5 から弥生中期の底部片 1 点が出土した。P6 から弥生中期の胴部片 2 点が出土した。P9 から須玖Ⅱ式の口縁部片 1 点、胴部片 2 点が出土した。P10 から弥生中期の口縁部片 2 点、胴部片 4 点が出土した。P13 から弥生中期の口縁部片 4 点、胴部片約 10 点が出土した。P14 から弥生中期の口縁部片及び胴部片約 30 点が出土した。P18 は弥生中期の口縁部片 2 点、胴部片 4 点が出土した。

SB11044 は P3 から弥生中期の口縁部片、底部片、胴部片 6 点が出土した。P6 から惣座式の甕口縁部片 1 点、弥生中期の底部片、胴部片 2 点が出土した。

SB11046 は P2 から惣座式？の高杯杯部片 1 点と鉢口縁部片 1 点が出土した。

SB11058 は P4 から惣座式～夕ヶ里式の屈曲口縁の鉢口縁部片 1 点が出土した。

SB11059 は P1 から弥生中期の底部片、胴部片 7 点が出土した。P2 から胴部片 3 点が出土した。P3 から須玖Ⅱ式の甕口縁部片、胴部片 7 点が出土した。

SB11077 は P6 から須玖Ⅰ式の甕口縁部片 1 点が出土した。

SB11079 は P1 から弥生中期の胴部片約 20 点、惣座式の甕底部片 1 点が出土した。P4 から弥生中期の口縁部片 1 点、胴部片 3 点が出土した。P5 から底部糸切の土師器杯が出土した。約 1/4 残存であるが混入と考える。P6 から千住式の甕口縁部片 1 点、胴部細片 13 点が出土した。

SB11084 は P4 から底部片、胴部片 3 点が出土した。胎土から弥生後期か？

SB11085 は P2 から弥生中期の甕口縁部片 1 点、胴部片十数点が出土した。P3 は弥生中期の甕口縁部片、胴部片、粘土棒 7 点が出土した。

SB11088 は P1 から胴部片 1 点が出土した。P5 から弥生中期の胴部片 8 点が出土した。

SB11089 は P4 から弥生中期の胴部片 2 点が出土した。

SB11091 は P1 から惣座式の甕口縁部片 1 点、底部片 1 点、胴部片約 20 点が出土した。P3 から弥生中期の甕口縁部片 1 点、胴部片 1 点が出土した。

SB11100 は P2 から胴部片 4 点が出土した。P3 から千住式～惣座式の壺か鉢の胴部片が出土した。

SB11202 は P1 から弥生中期の広口壺口縁部片 1 点、胴部片 4 点が出土した。P2 から弥生中期の甕口縁部片 1 点、胴部片 4 点が出土した。P3 から胴部片 7 点が出土した。P4 から弥生中期甕口縁部片、底部片、胴部片約 10 点が出土した。P6 から胴部片 3 点が出土した。

SB11256 は、P1 から弥生中期口縁部片、胴部片十数点が出土した。P2 は胴部片約 20 点が出土した。P3 は胴部片 6 点が出土した。P4 は千住式～惣座式の高杯杯部片 1 点、胴部片約 20 点が出土した。P5 は夕ヶ里式甕口縁部片 2 点、胴部片約 25 点が出土した。P6 は惣座式の甕口縁部片 1 点、胴部片約 20 点が出土した。

③土坑出土土器

ＳＫ 11006 出土土器

図 190-1 は甕底部である。底部内面は黒く変色する。

ＳＫ 11008 出土土器

図 190-2 ～ 5 は甕口縁部である。2、3、5 は逆Ｌ字形で、2、3 は口縁端部が僅かに下がる。

図 190-6 は広口壺口縁である。口縁部は鋤先口縁で、口縁端部は面取りされる。

図 190-7 は袋状口縁壺の口縁である。袋状口縁の下は平たく、上は丸く整形される。赤色が施されている。

図 190-8 ～ 11 は甕底部である。10、11 の内面は黒く変色する。

ＳＫ 11010 出土土器

図 190-12、13 は広口壺口縁で、12 は素口縁、13 は鋤先口縁になる。どちらも口縁端部は面取りされている。

図 190-14 は壺の胴部と思われる破片で、外面に断面三角形の突帯と、赤色と暗文が施されている。内面は丁寧にナデが行われ、胎土も緻密である。

図 190-15 ～ 17 は甕底部で、15 は上げ底、16、17 は平底である。15 の内面は黒く変色する。16 は磨耗が激しいが、いずれの調整も底部内外はナデ、胴部外面はハケ目。

ＳＫ 11037 出土土器

図 190-18 は胴部のみの残存で壺になると思われる。断面三角形の突帯を施され、内面はナデ。

ＳＫ 11051 出土土器

図 191-1 ～ 3 は甕口縁部から肩部にかけての残存である。1、2 の口縁部は逆Ｌ字形、3 はＴ字形。1 の外面は磨耗により不明、内面はナデ。内外共に黒く変色する。2 の内外共に黒く変色する。

図 191-4 は甕底部で、平底である。内外共に一部黒く変色し、内面には工具痕有り。

図 191-5 は支脚である。上面には窪みが作られている。

ＳＫ 11057 出土土器

図 191-6 はほぼ完形の甕である。口縁部はやや括れるくの字形で、口縁端部は丸みを持っている。胴部最大径はほぼ中央にある。底部はやや丸底化が見られる。胴部外面の真ん中から上に煤などが見られる。

図 191-7、8 は口縁部から底部付近にかけて残存する甕である。口縁部はくの字形で、7 の胴部は樽形で、胴部最大径は中央かやや上になると思われる。胴部外面の真ん中より上が黒く変色する。8 は口縁部のくびれが強い。口縁端部は面取りされる。胴部はやや球状に近くなると思われ、胴部最大径は中央よりやや上になる。口縁部付近に煤が付着する。

図 191-9 ～図 192-5 は甕の口縁部から肩部までの残存である。図 191-9、図 192-1、2、4 は口縁部がくの字形で、口縁端部は面取りされる。いずれも内外ハケ目で、9、2、4 の外面は煤等が付着する。3 は頚部がＳ字形で口縁端部は面取りされる。外面はハケ目、内面はナデとなる。5 は口縁部が屈折する。

図 192-6 ～ 10 は底部で、6 は甕、7 ～ 10 は壺になる。6 は平底。底部外面に工具痕と煤が付着する。7 は外面に煤が付着する。8 は全面ナデ。9 は外面に煤が付着。10 は丸底になり、外面に黒班が見られる。

図 192-11、12 は壺の口縁部で、11 は広口壺、12 は袋状口縁壺である。11 の口縁端部は面取りされ、口縁は外反する。12 の口縁端部は面取りされ、袋部は菱形。

図 192-13 は壺の胴部上部のみの残存である。

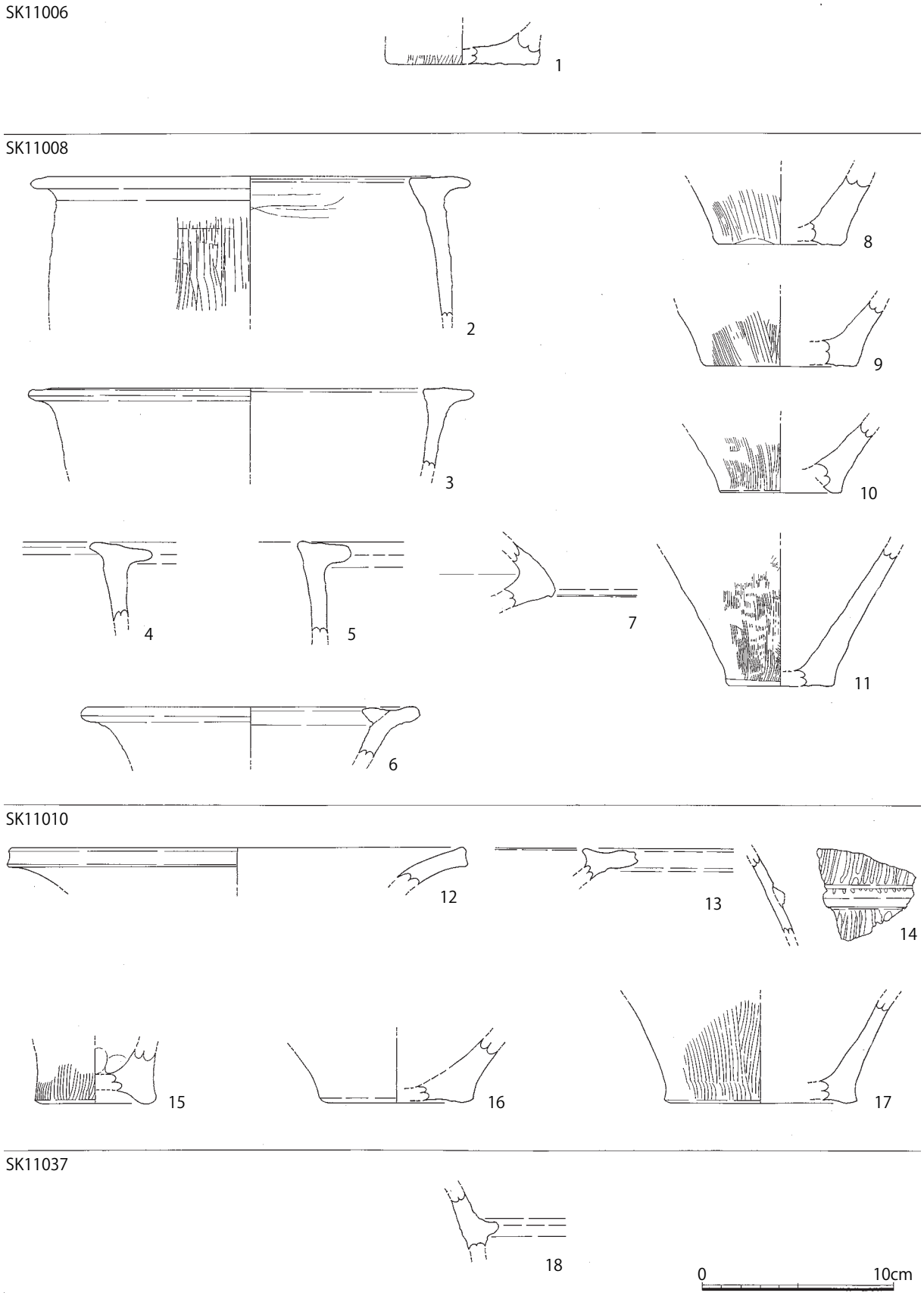


図 190　SK11006・11008・11010・11037 出土土器（1/3）

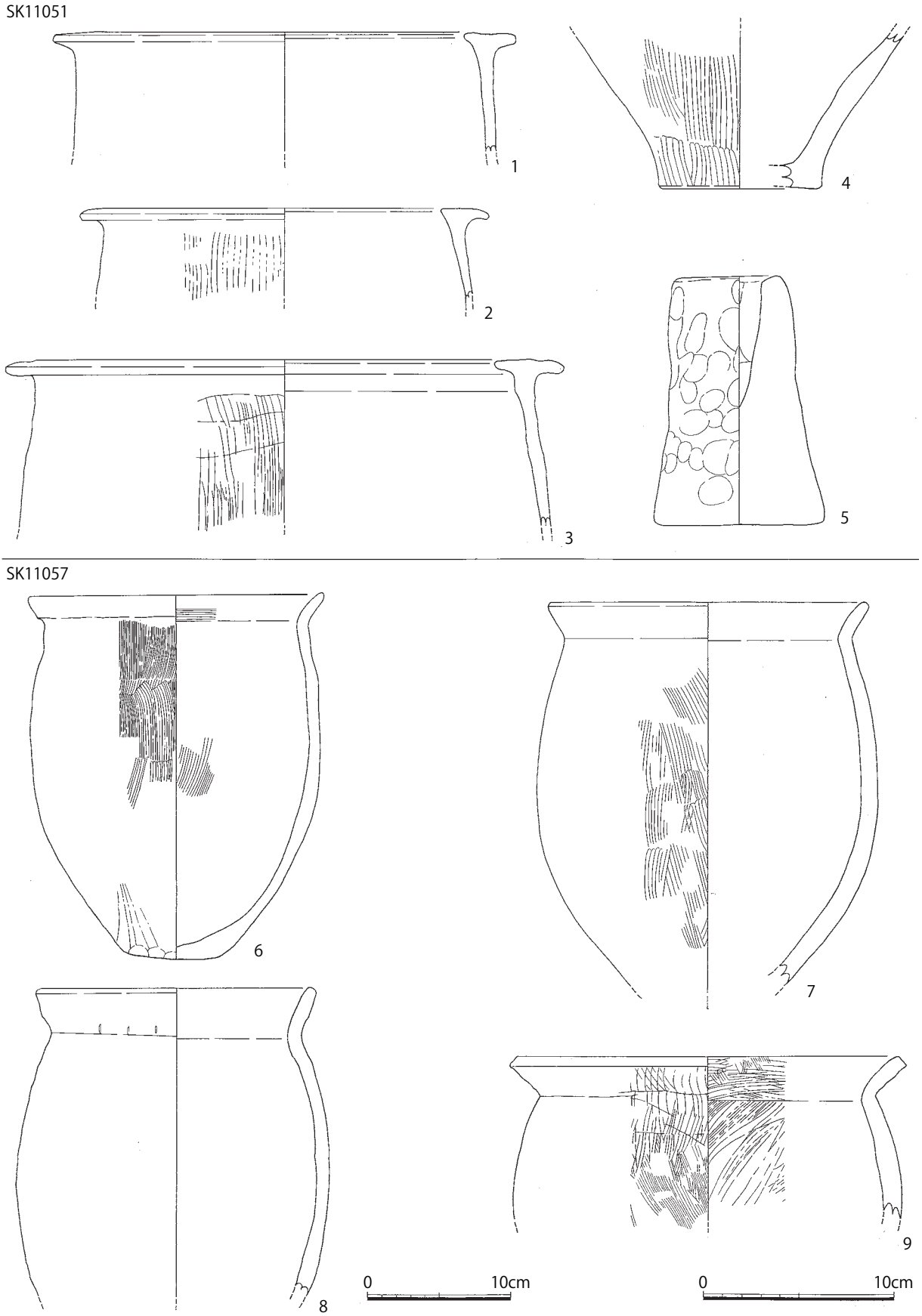


図 191　SK11051・11057 出土土器（1/3、1/4）　6・8 は 1/4、他は 1/3

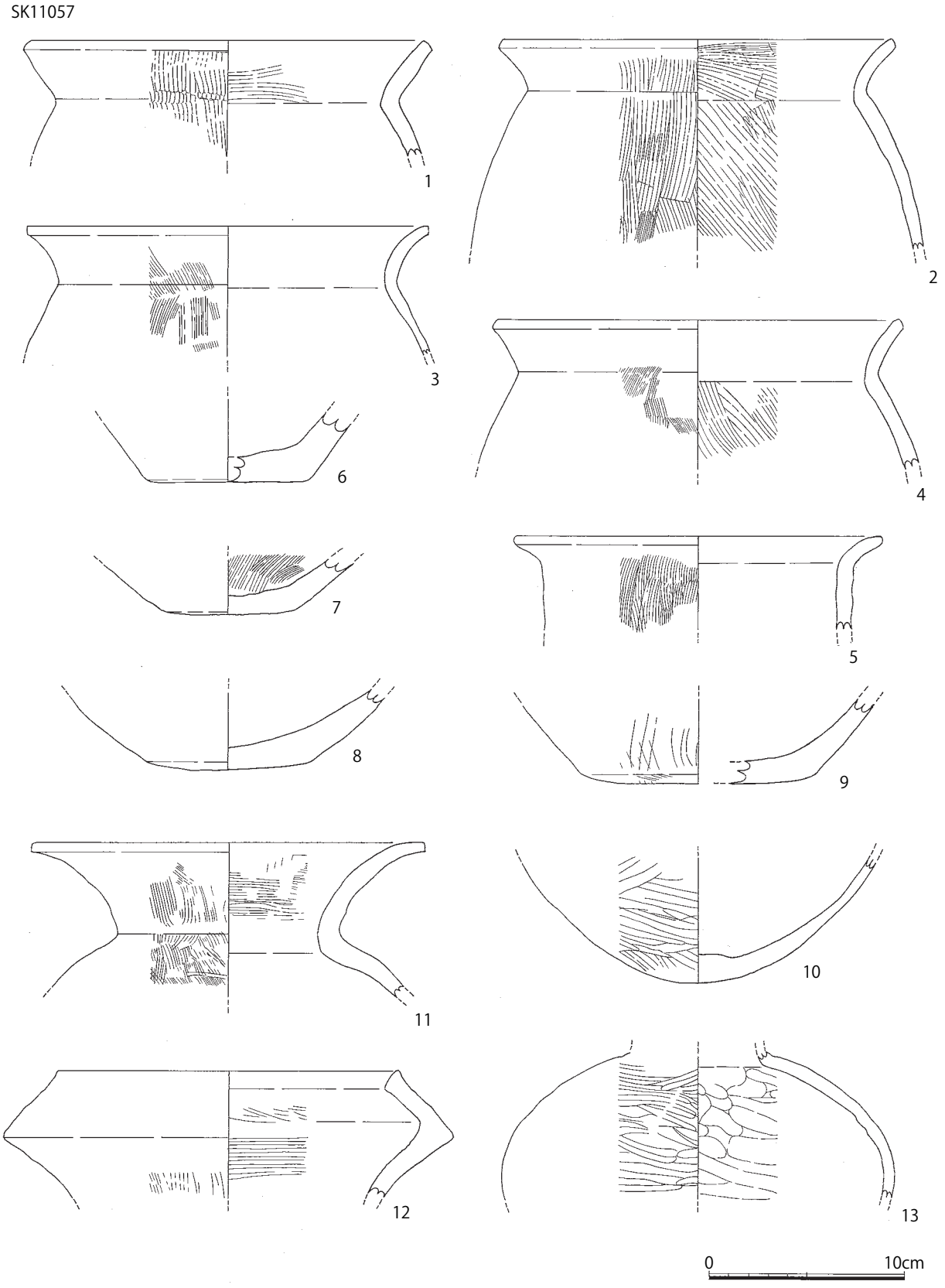


図 192　SK11057 出土土器 1（1/3）

SK11057

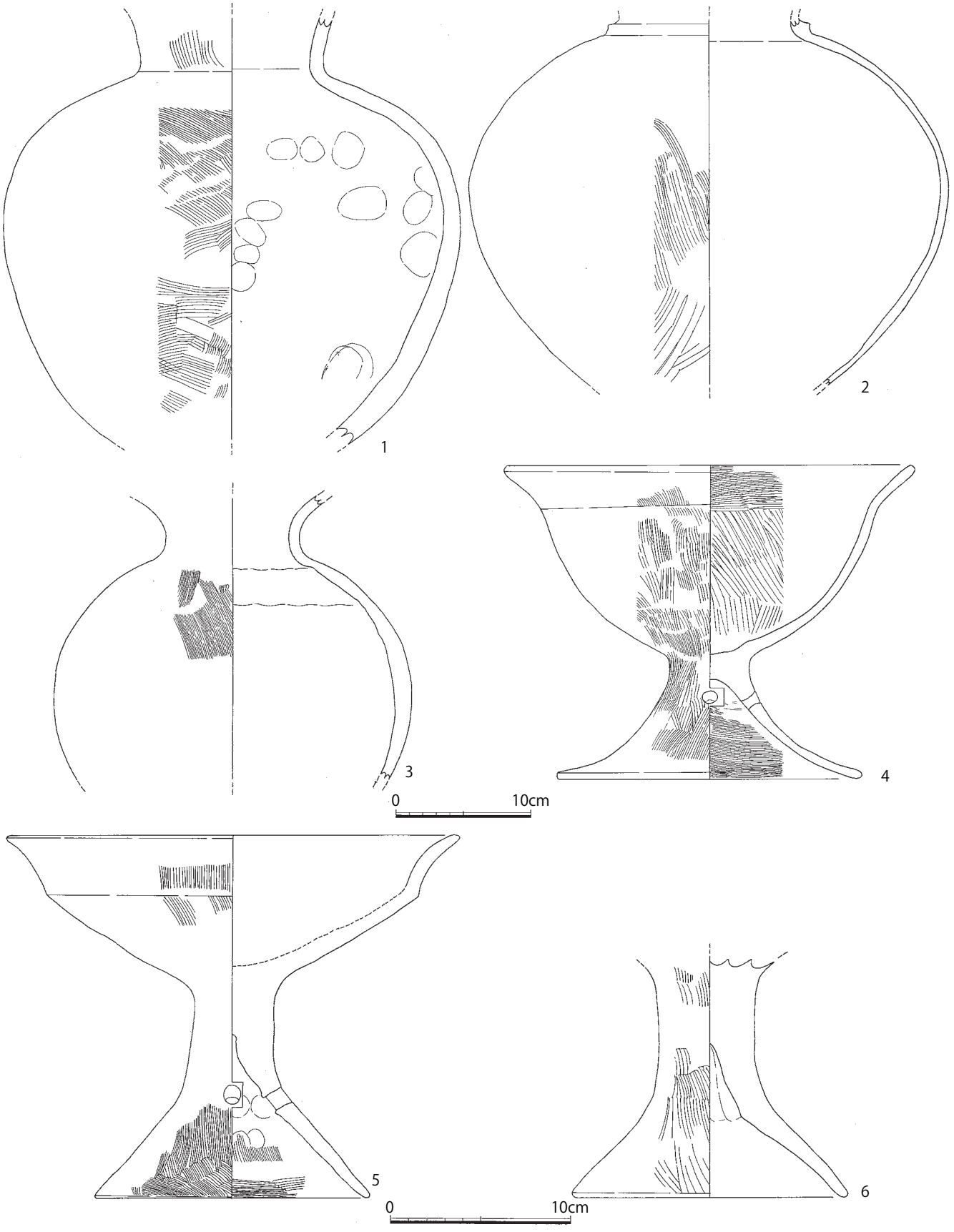


図 193　SK11057 出土土器 2（1/3、1/4）　　2・3 は 1/4、他は 1/3

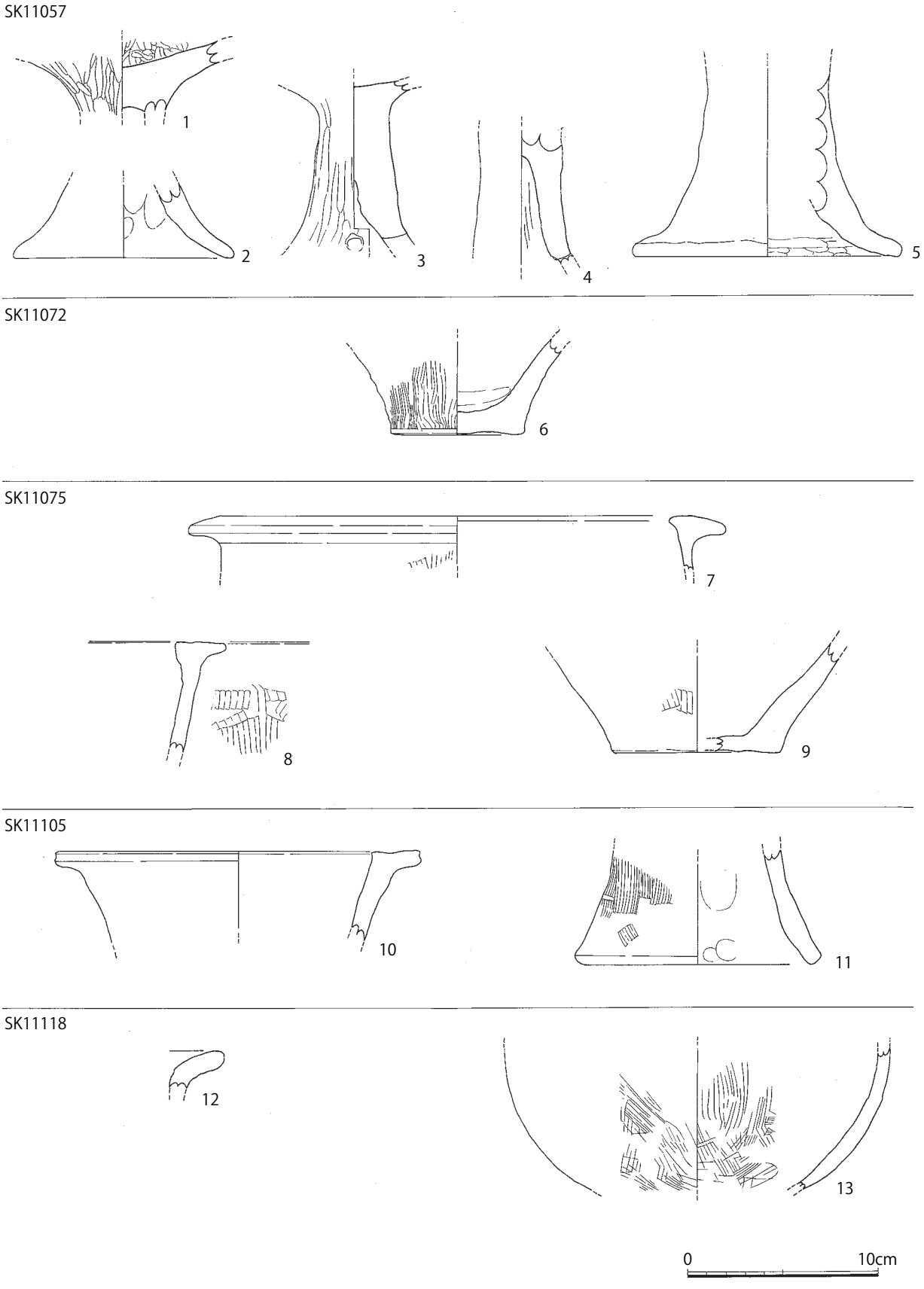


図 194　SK11057・11072・11075・11105・11118 出土土器（1/3）

図 193-1 ～ 3 は壺で、頚部から胴部までの残存である。1 は胴部最大径が肩部にあり、口縁部は外反し、立ち上がりは直角に近い。2 は胴部最大径が中位よりやや上にあり、口縁部の下に断面三角形の突帯が施される。胴部外面には煤が付着する。3 は胴部最大径が中位かやや上に有り、口縁部は大きく外反し、頚部が S 字形になる。胴部外面には煤が付着する。

図 193-4 は台付鉢で、口縁部は僅かに外反し、口縁端部は面取りされる。裾部は大きく開き、裾部端部も面取りされる。裾部には穿孔が 3 ヶ所に施される。

図 193-5 ～図 194-4 は高杯で、図 193-5 はほぼ完形である。口縁部は外反する。杯部は深く、脚部は直線で屈曲部は高め。裾部は直線である。穿孔が 3 箇所に施される。6 は脚部から裾部までの残存。脚部は直線的で屈曲部は高め。裾部は直線的である。図 194-1 は杯受部のみの残存。2 は裾部のみの残存。裾端部付近で屈折する。3、4 は脚部のみ。整形は、3 の脚部はやや円錐気味の直線である。4 の脚物は直線的で屈曲部が見られる。3、4 共に穿孔の痕が見られるが、数は不明。

図 194-5 は器台。中空と見られ、調整は内外面共にナデ。

ＳＫ 11072 出土土器

図 194-6 は甕の底部である。平底で、調整は外面をハケ目、底部外面と内面はナデ。底部内外に指頭痕有り。

ＳＫ 11075 出土土器

図 194-7、8 は甕の口縁部である。どちらも逆Ｌ字状をしており、8 は口縁部内側が厚い。

図 194-9 は甕の底部である。外面に煤が付着する。

ＳＫ 11105 出土土器

図 194-10 は広口壺の口縁部である。口縁は逆Ｌ字形の鋤先口縁。頚部は直線。口縁端部は面取りされる。

図 194-11 は器台の裾部である。裾の端部は面取りされ、調整は端部がヨコナデ、胴部外面がハケ目、内面がナデ。

ＳＫ 11118 出土土器

図 194-12 は素口縁の甕で、口縁部のみである。

図 194-13 は壺の胴部である。外面に煤が付着する。

ＳＫ 11120 出土土器

図 195-1 は甕の底部である。

ＳＫ 11124 出土土器

図 195-2 は甕の口縁部である。口縁は逆Ｌ字形。口縁部内側の突出部の接合面がはっきりと残る。外面に煤が付着する。

ＳＫ 11128 出土土器

図 195-3 ～ 5 は甕の口縁部で、3、4 は口縁部が逆Ｌ字形になる。5 は素口縁の屈折口縁で、90 度に屈折する。

図 195-6 は支脚の破片。外側は工具によるナデと指頭圧痕が見られる。

ＳＫ 11135 出土土器

図 195-7 は甕の口縁から肩部にかけての残存である。口縁は素口縁である。

図 195-8 は甕の底部で、丸底に近い。外面は工具で削るように調整したと思われる。外面に黒班が見られる。

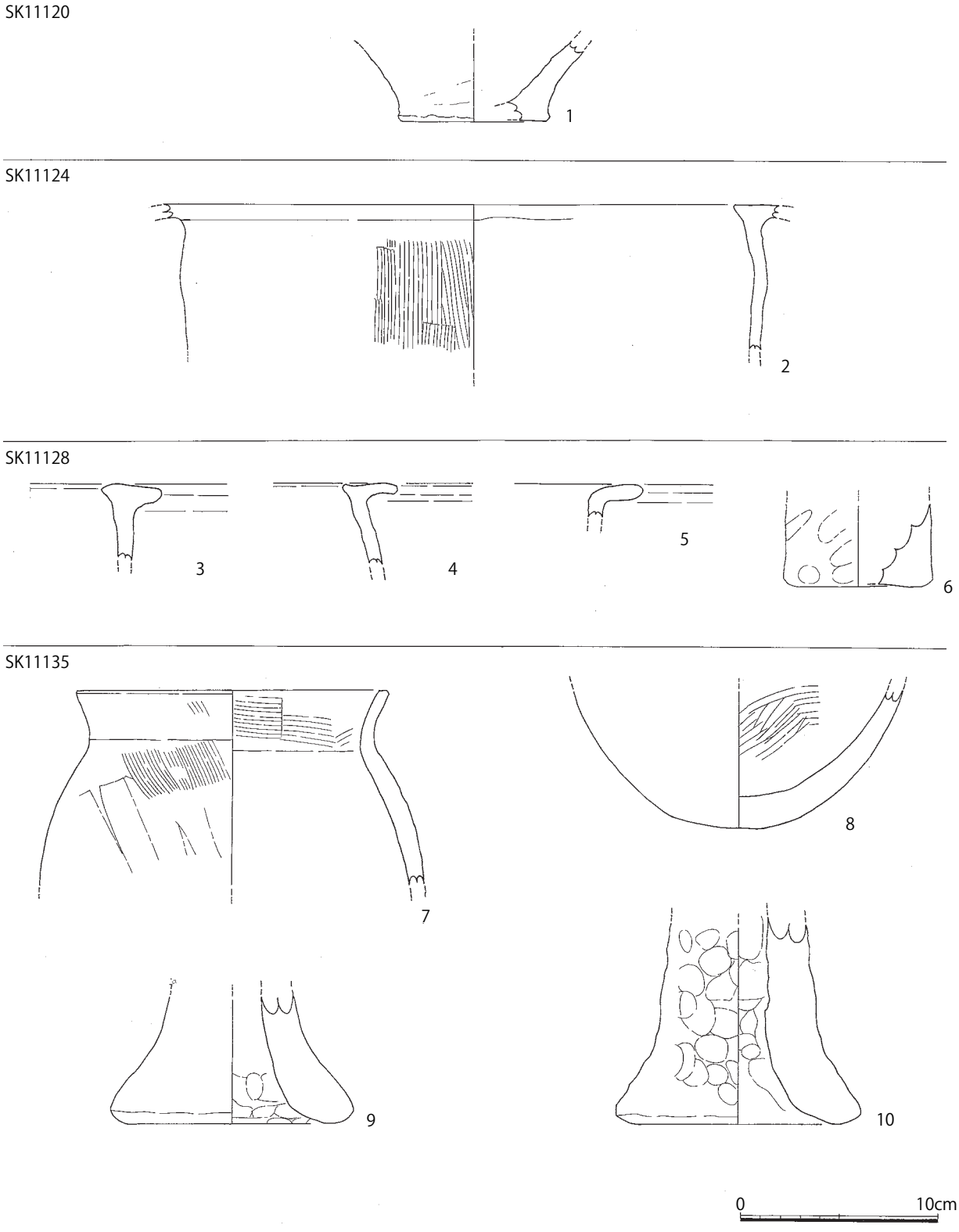


図 195　SK11120・11124・11128・11135 出土土器（1/3）

図 195-9、10 は器台。調整は、9 の外面はハケ目、内面は指抑えとナデ。

ＳＫ 11148 出土土器

図 196-1 ～ 3 は壺で、1 は口縁部のみの残存。2 は短頸壺で、口縁部が 90 度近く外反し、口縁端部は面取りされ、端部付近は摘んだように括れを持つ。図 196-3 は複合口縁壺で、頚部は筒状で、二次口縁は直線で、外側に開く。

図 196-4 ～ 6 は鉢である。4 は口縁部が屈折する。5 は素口縁の深鉢である。6 は素口縁の大型の鉢である。

図 196-7 は高杯の脚部のみの残存である。脚部はやや短めで、括れが見られる。

ＳＫ 11157 出土土器

図 196-8、9 は壺である。8 は口縁部のみの残存で、口縁端部は面取りされる。9 は頚部から肩部のみの残存である。胴部内面には煤が全面に見られる。

図 196-10、11 は鉢である。10 は素口縁の鉢で、口縁から底部までの残存である。底部の内外に黒班が見られる。11 は口縁部が屈折する。内面に煤が付着する。

ＳＫ 11174 出土土器

図 197-1、2 は壺である。1 は口縁部から胴部中腹で、最大径は胴部中央からやや上にあり、ハケ目が横方向に施される。口縁部は直線口縁で、口縁端部は面取りされる。2 は肩部付近の残存である。頚部には貝殻条痕が施される。

図 197-3 は屈折口縁の鉢である。内面は前面に煤が付着する。

図 197-4 は器台である。調整は、外面がハケ目、内面は裾部がハケ目、中腹部はナデ。

ＳＫ 11186 出土土器

図 197-5、6 は甕の口縁部である。5、6 とも逆Ｌ字状の口縁部である。

ＳＫ 11201 出土土器

図 197-7 ～ 9 は甕の口縁部である。7 は口縁部が逆Ｌ字形で､口縁下に断面三角形の突帯を施される。8 は口縁部が逆Ｌ字形で、口縁先が伸び、やや垂れる。9 は口縁部が 90 度に屈折する。

図 197-10、11 は壺の底部である。10、11 は平底で、10 の外面には赤色が施される。調整は、共に外面ハケ目、内面ナデ、底部外面ナデ。

ＳＫ 11214 出土土器

図 198-1、2 は甕の口縁部から胴部までである。1 は口縁部がくの字形で括れがあり、口縁端部は面取りされる。胴部最大径は中位よりやや上で、長胴形になる。2 は口縁部から肩部まで残存する。口縁部はくの字形で括れがあり、口縁端部は面取りされる。

図 198-3 は壺である。口縁端部は面取りされる。

ＳＫ 11215 出土土器

図 198-4 は壺の口縁部から肩部までである。口縁部はやや外反し、口縁端部は面取りされる。外面には煤が付着。

図 198-5 は大型の屈折口縁の鉢で口縁部から胴部までのである。口縁端部は面取りされる。

ＳＤ 11218 出土土器

図 198-6 ～ 10 は甕の口縁から肩部までである。6 の口縁外面に一部煤が付着する。7 は口縁端部を摘み、跳ね上げて薄くなっている。外面に丸い沈線文様か。8 ～ 10 はいずれも逆Ｌ字形の口縁である。9 の内面には煤が付着。

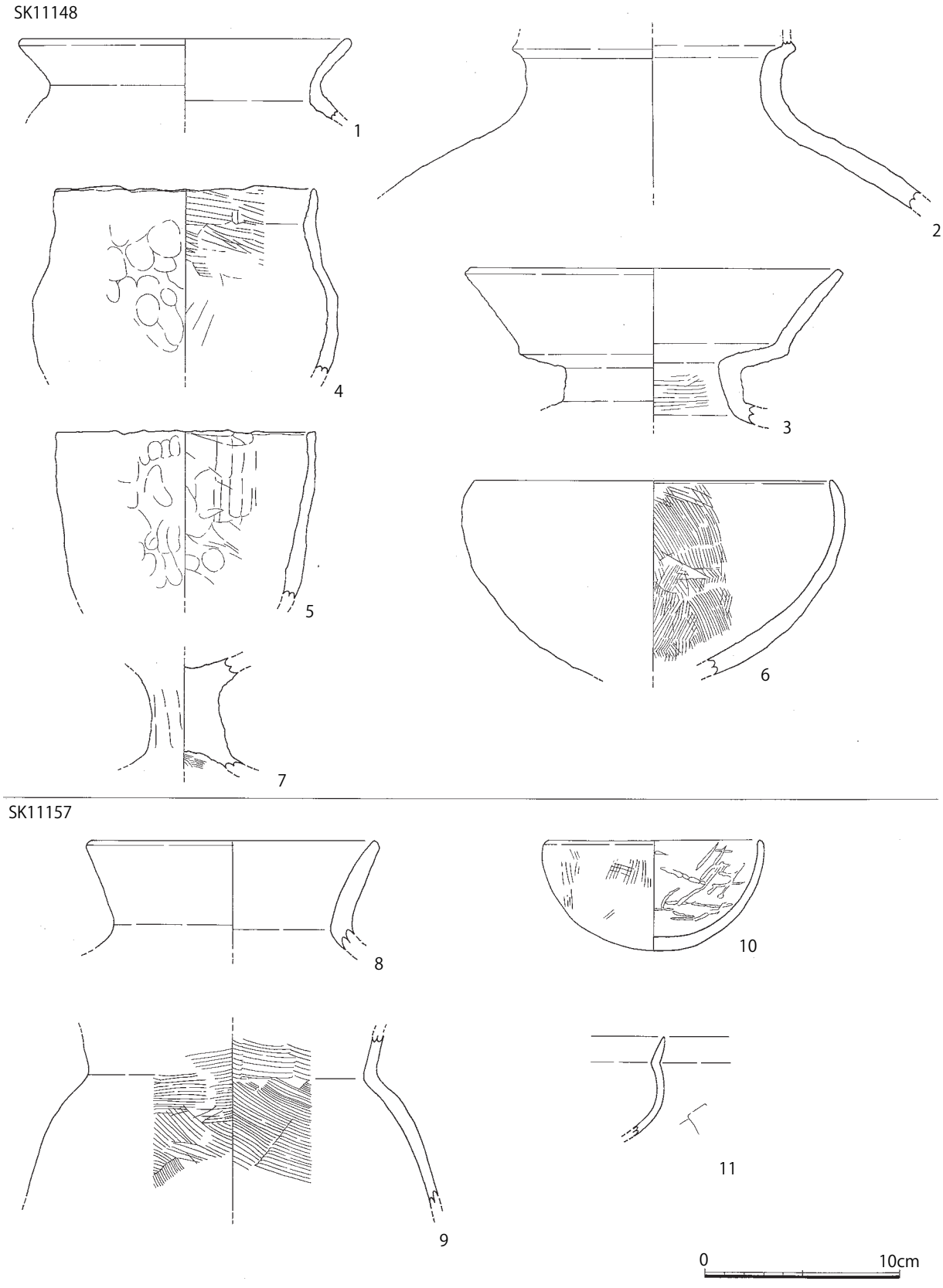


図 196　SK11148・11157 出土土器（1/3）

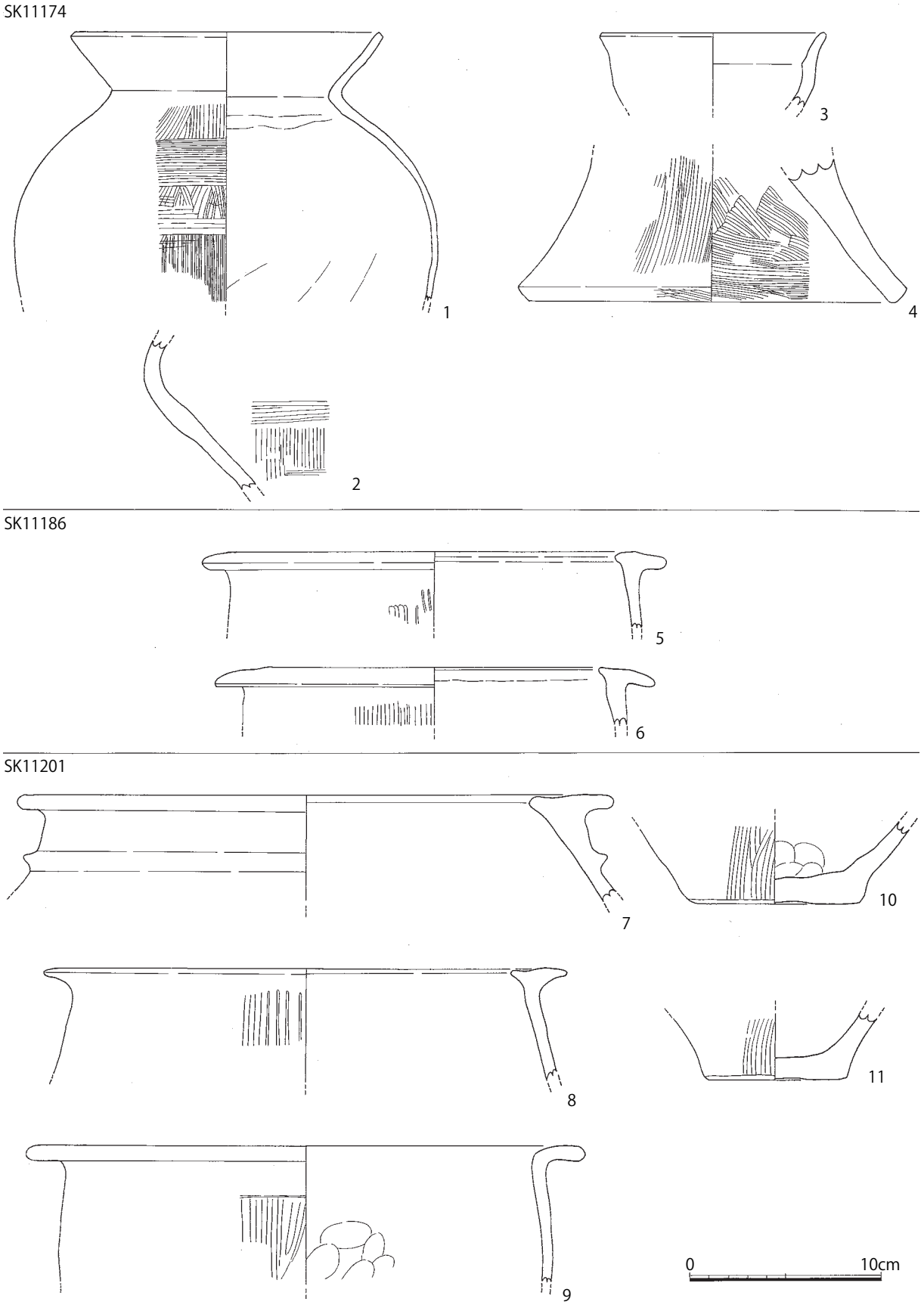


図 197　SK11174・11186・11201 出土土器（1/3）

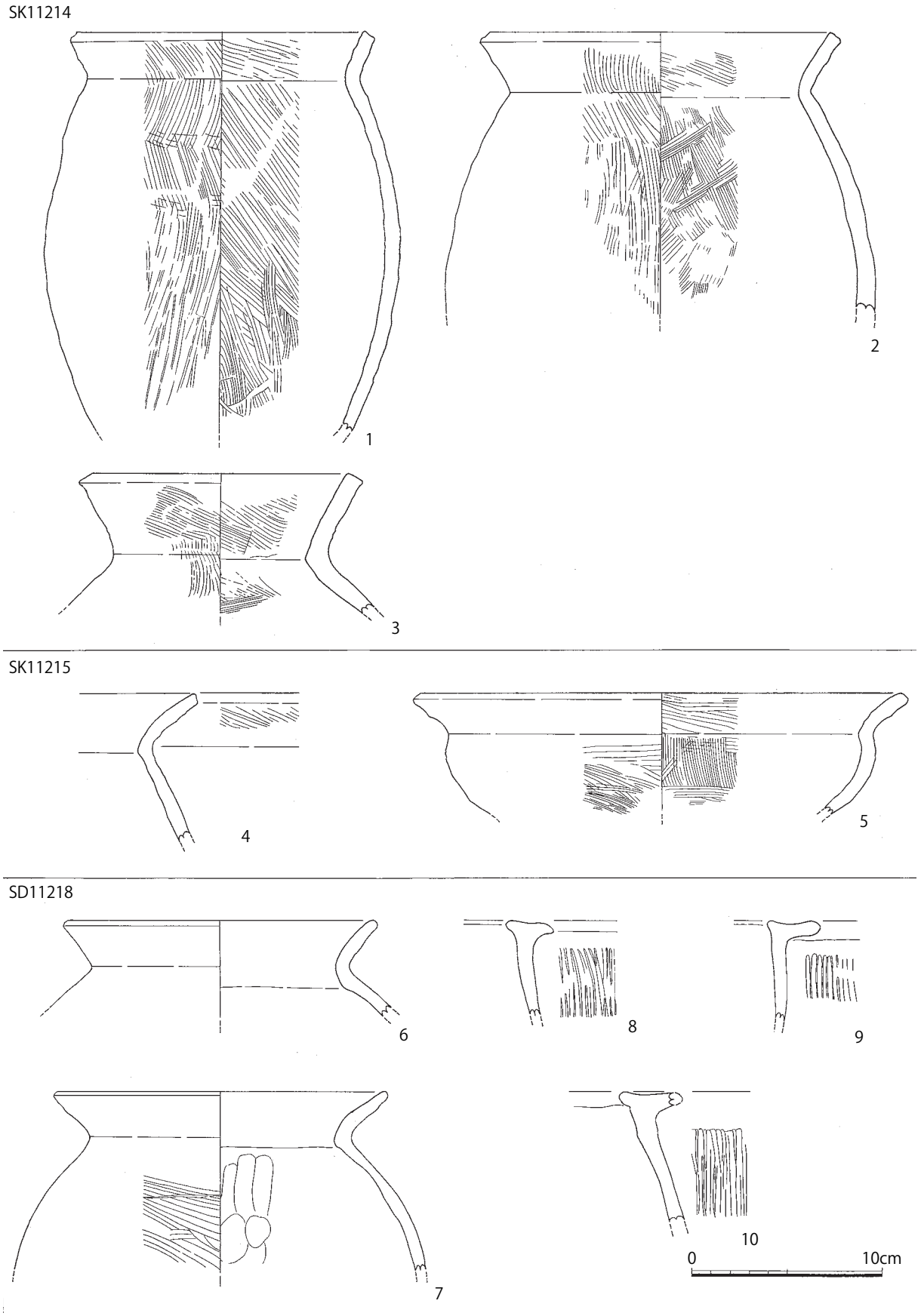


図 198　SK11214・11215・SD11218 出土土器（1/3）

ＳＫ 11232 出土土器

図 199-1 ～ 6 は甕の口縁部で、1 ～ 3、5、6 は逆Ｌ字形、4 は屈折口縁になる。1 の口縁端部は下に強く曲げられている。3 は、口縁部下に断面三角形の突帯が施される。

図 199-7、8 は壺で、7 は広口壺の口縁部である。口縁部は鋤先口縁で、口縁端部は面取りされる。8 は肩部のみの残存で、断面三角形の突帯を持つ。

図 199-9 は大型器台の突帯部である。突帯先端は面取りされている。

ＳＫ 11233 出土土器

図 199-10 ～ 13、図 200-1 は甕の口縁部である。図 199-10 ～ 13 はいずれも口縁部が逆Ｌ字形で、10 は口縁端部が面取りされる。図 200-1 は甕の口縁部で、口縁部が屈折する。11、13 の外面に煤が付着する。

図 200-2 ～ 4 は甕棺の口縁部である。2 は内側へ大きく突出する逆Ｌ字形。3、4 はＴ字形の口縁で、4 の口縁部は外側へ大きく伸び、口縁端部は下がる。

図 200-5 は中世のすり鉢で、口縁部のみである。口縁部は内側に返しが有り、内面にすり目が見られる。

図 200-6、7 は甕の底部である。7 の内外は黒く変色する。

200-8 は壺の底部である。

ＳＫ 11238 出土土器

図 200-9 は甕の口縁部である。口縁部は逆Ｌ字形になる。

図 200-10 は壺の底部である。底部内面を指ナデによって調整する。

ＳＫ 11244 出土土器

図 200-11 ～ 13 は甕の口縁部である。11､12 共に口縁部は逆Ｌ字形。11 の口縁端部は面取りされる。13 は素口縁で、口縁端部は面取りされる。

図 200-14 は甕の底部である。底部は平底である、外面の一部が黒く変色し、内面に指頭圧痕有り。

ＳＫ 11246 出土土器

図 200-15 ～ 17 は甕の口縁部である。15 ～ 17 はいずれも口縁部が逆Ｌ字形。17 の外面には煤が付着する。

ＳＫ 11248 出土土器

図 201-1､2 は甕の口縁部である。1､2 共に口縁部は逆Ｌ字形で､2 の口縁部はヨコナデにより薄くなり、口縁端部が丸く、垂れる。

ＳＫ 11250 出土土器

図 201-3 は甕の口縁部である。口縁部は逆Ｌ字形になる。

ＳＫ 11260 出土土器

図 201-4、5 は甕の口縁部である。4、5 共に口縁部は逆Ｌ字形になる。

図 201-6 は壺の底部である。底部は平底になる。内外面に煤が一部付着する。

ＳＫ 11282 出土土器

図 201-7、8 は甕の口縁部である。口縁部は 7 がＴ字形、8 は逆Ｌ字形である。7 の外面には煤が、8 の内側には赤色が施される。

図 201-9 は甕棺の口縁部である。口縁部の形は、内側に大きく突出し、外側へはあまり伸びない。

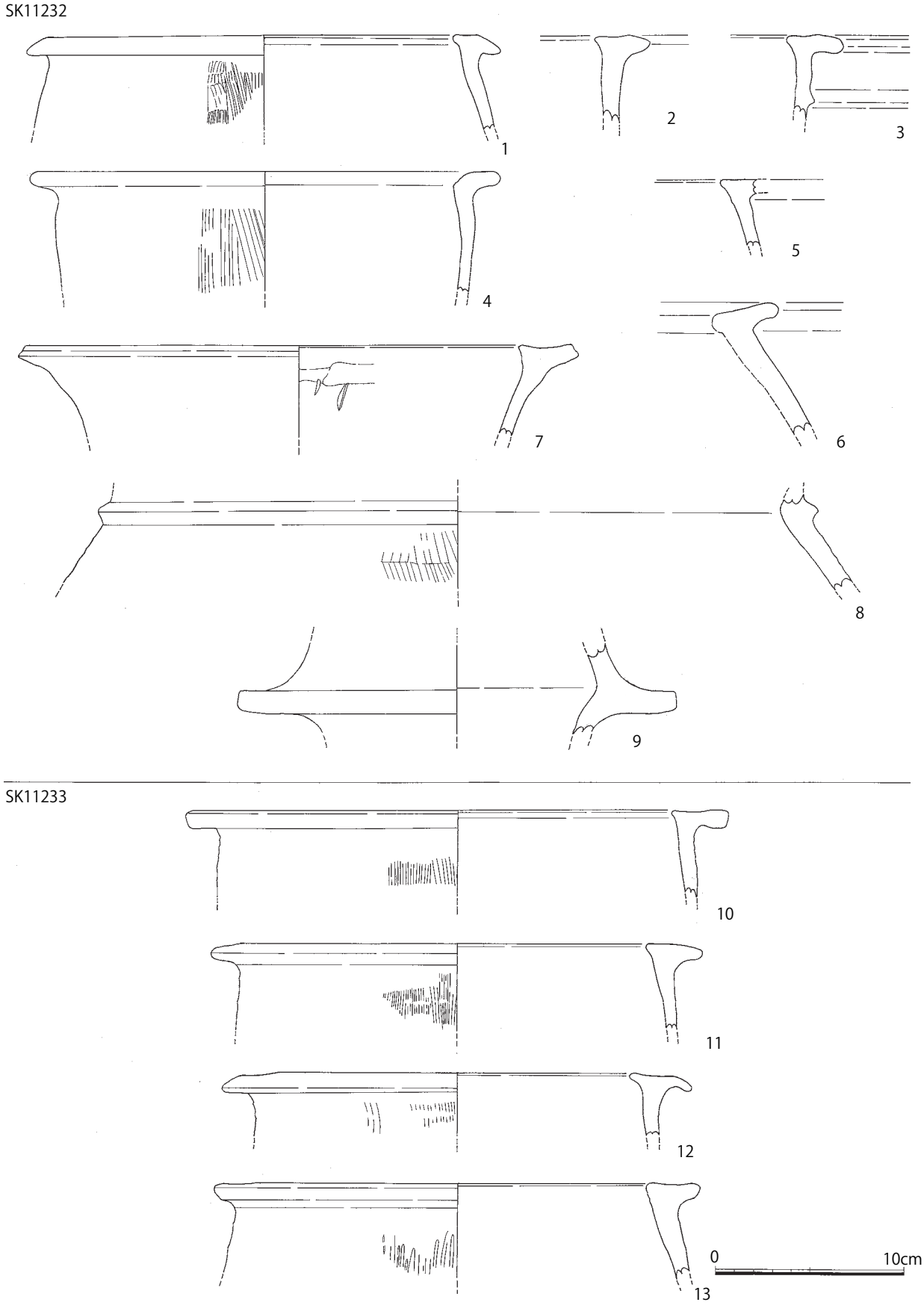


図 199　SK11232・11233 出土土器（1/3）

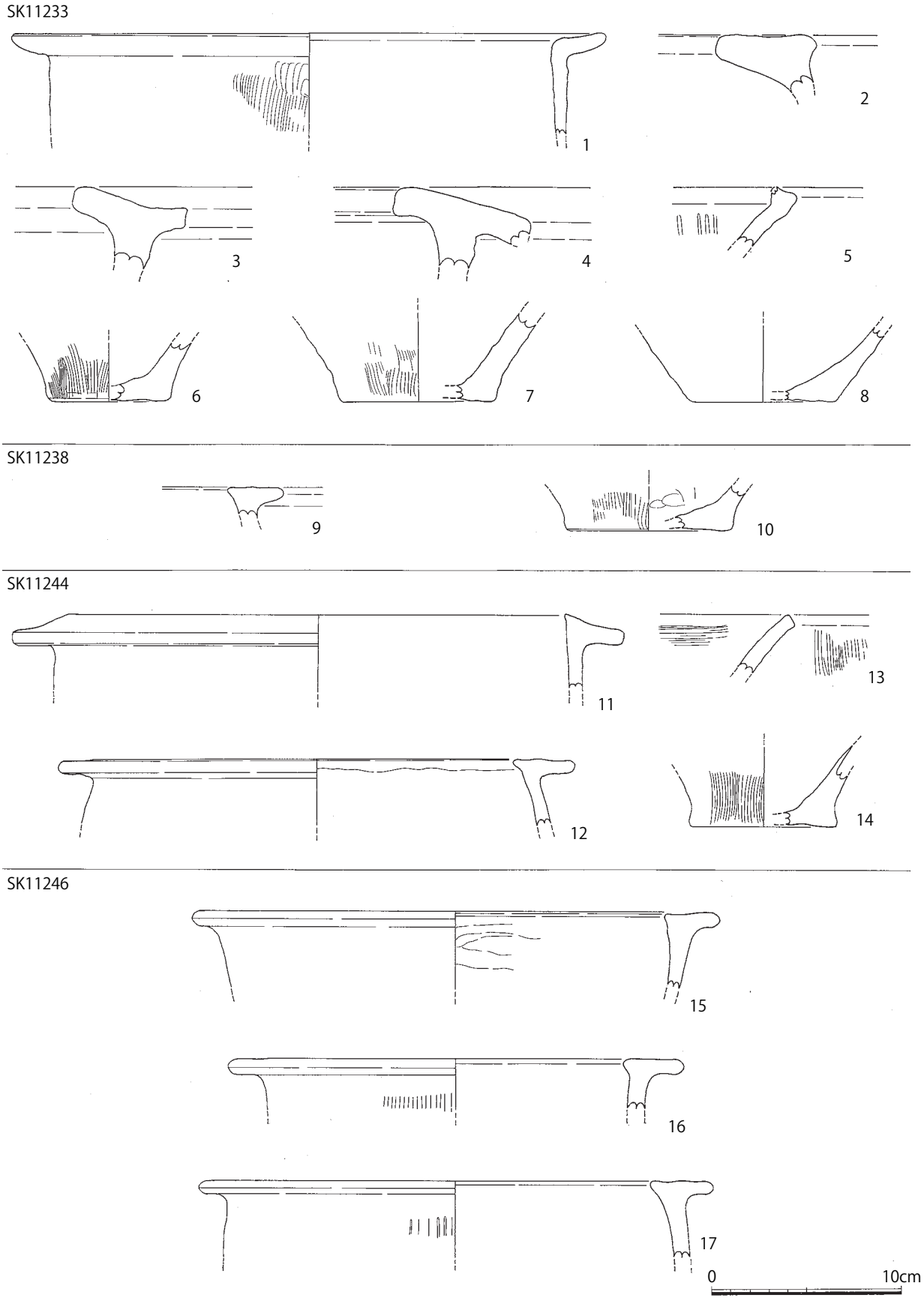


図 200　SK11233・11238・11244・11246 出土土器（1/3）

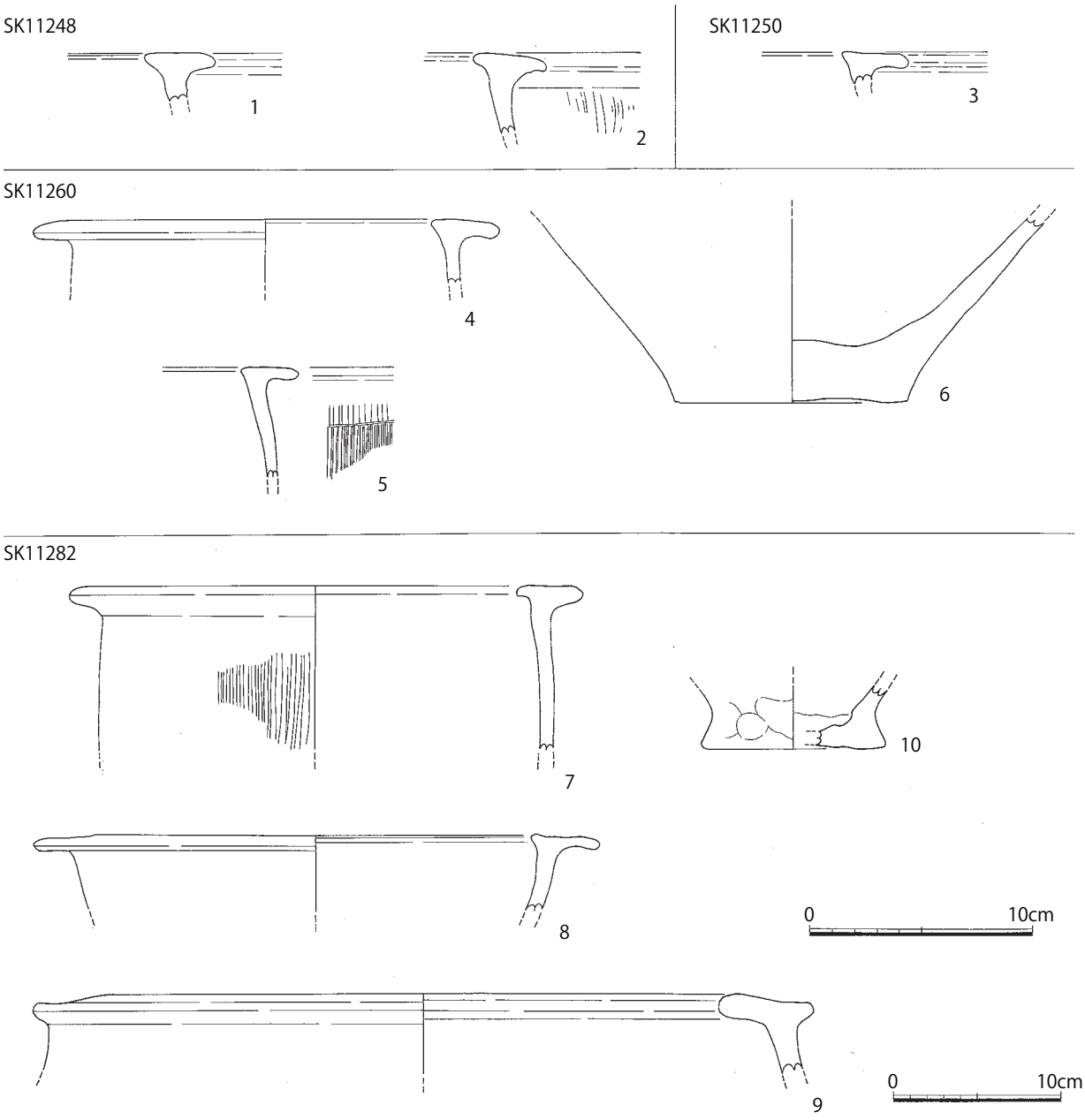


図 201　SK11248・11250・11260・11282 出土土器（1/3、1/4）　9 は 1/4、他は 1/3

図 201-10 は深鉢の底部である。調整は指頭圧痕が見られる。底部内側に煤が付着し、全体に光沢が見られる。

ＳＫ 12005 出土土器

図 202-1 は甕の底部である。底部はカキケズリによる丸底化がややみられる。外面に一部煤付着。

ＳＫ 12018 出土土器

図 202-2 はほぼ完形の甕である。口縁部はほぼ直立する。口縁端部は面取りされる。底部はカキケズリによる丸底化がやや見られる。胴部最大径は中位よりやや上にある。胴部内面には全面に煤が、外面にも一部煤が付着する。

図 202-3 はほぼ完形の壺である。口縁部はくびれが強いくの字形、口縁端部を面取りされる。底部は凸レンズ状の丸底。調整は、口縁部がハケ目後ヨコナデ、胴部外面下がナデ、外面上はハケ目、内面下はハケ目､内面上は工具によるナデ。胴部最大径は中位よりやや上にある。外面には黒班が見られる。

図 202-4 はほぼ完形の壺である。口縁部が外反し、口縁端部は面取りされ、口縁部下には断面三角形の突帯が施される。底部はカキケズリが見られ、凸レンズ状。胴部最大径は中位よりやや上にある。

図 203-1 ～ 3 は高杯である。1 は脚部と裾部のみの残存である。脚部が長く、脚部から裾部にかけてヘラミガキと、裾部に穿孔を施す。2 は脚部が短く、外面をハケ目調整する。3 は高杯の杯底部から裾部までの残存である。脚部は長く、裾は大きく開き、穿孔が 3 ヶ所施される。

図 203-4 は高杯の裾部か。

ＳＫ 12025 出土土器

図 203-5 は高杯の杯部下から脚部である。脚部は長めで、外面はヘラミガキを施す

ＳＫ 12042 出土土器

図 203-6 は、甕の口縁部で、頚部はくの字形、口縁部はやや外反し、口縁端部は面取りされる。

図 203-7 は、口縁部から胴部までの広口壺で、口縁部は面取りされ、条痕文が施される。頚部は朝顔状に開き、頚部下に断面台形の突帯が、胴部下部に断面三角形の突帯が施される。胴部最大径は中位よりやや上。調整は、口縁部がヨコナデ、頚部から胴部下部までがハケ目、下部から底面付近までが粗いハケ目ご一部ナデ、内面はハケ目。

図 203-8 は器台である。下半部のみの残存で、外面の調整は工具によるナデ、内面はナデ。

ＳＫ 12044 出土土器

図 204-1 は壺の底部で、底部はやや丸底化が見られる。調整は、内外面ナデ。

ＳＫ 12050 出土土器

図 204-2 は鉢で、口縁部から底部まで残る。口縁部は屈折する。調整は口縁部がヨコナデ、外面はハケ目後、底部付近はナデ、内面はナデ。外面には煤が付着する。

図 204-3 は器台である。裾部のみの残存である。中空で､調整は内外面ナデ。内部上部には絞り痕有り。裾端部は薄くなる。

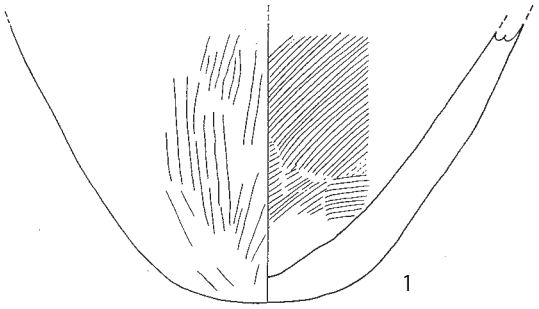
ＳＫ 12051 出土土器

図 204-4 は鉢で、口縁部が屈折する。調整は口縁部がヨコナデ、外面はタタキ後ヘラケズリ、内面はナデ。外面には丹と煤が付着する。

ＳＫ 12070 出土土器

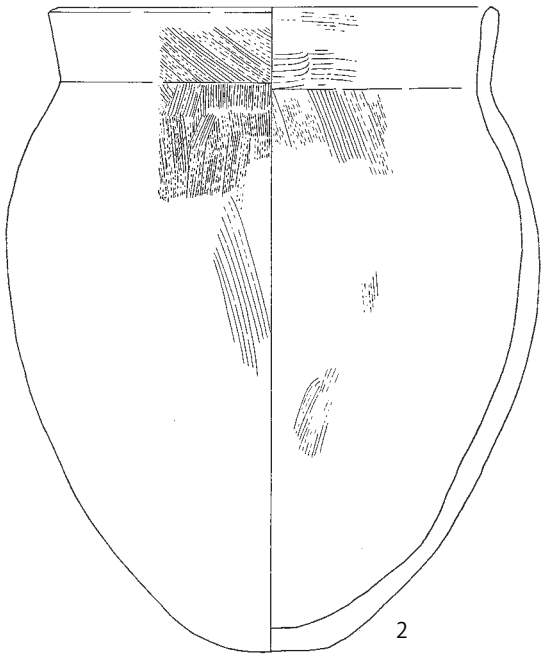
図 204-5 は高杯で、ほぼ完形である。杯部は底が深く、上半部と下半部の間に稜を持つ。調整は内外面ハケ目後ナデ。脚部には穿孔が 3 ヶ所施される。裾部に煤付着。

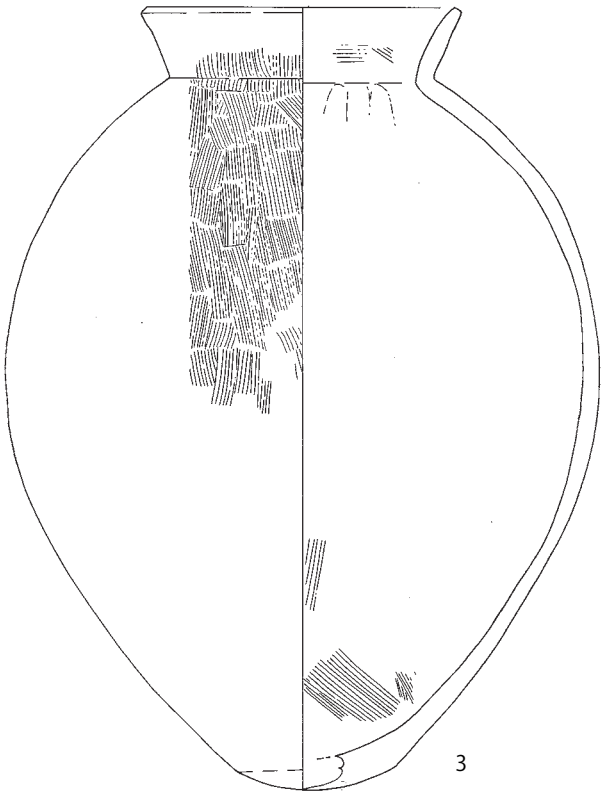
SK12005

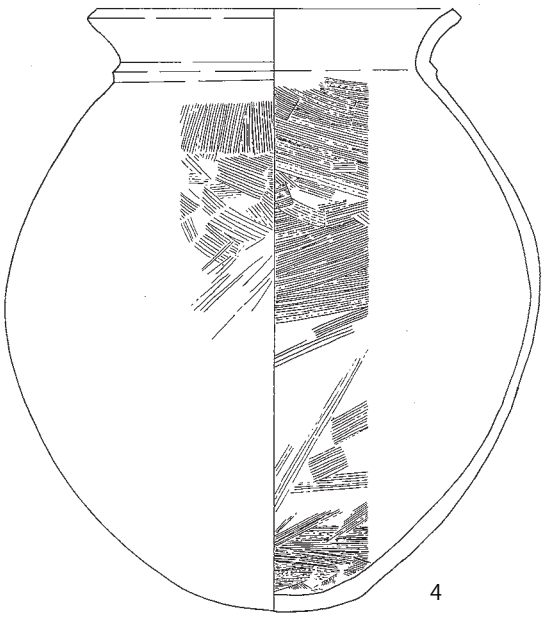


0 10cm

SK12018



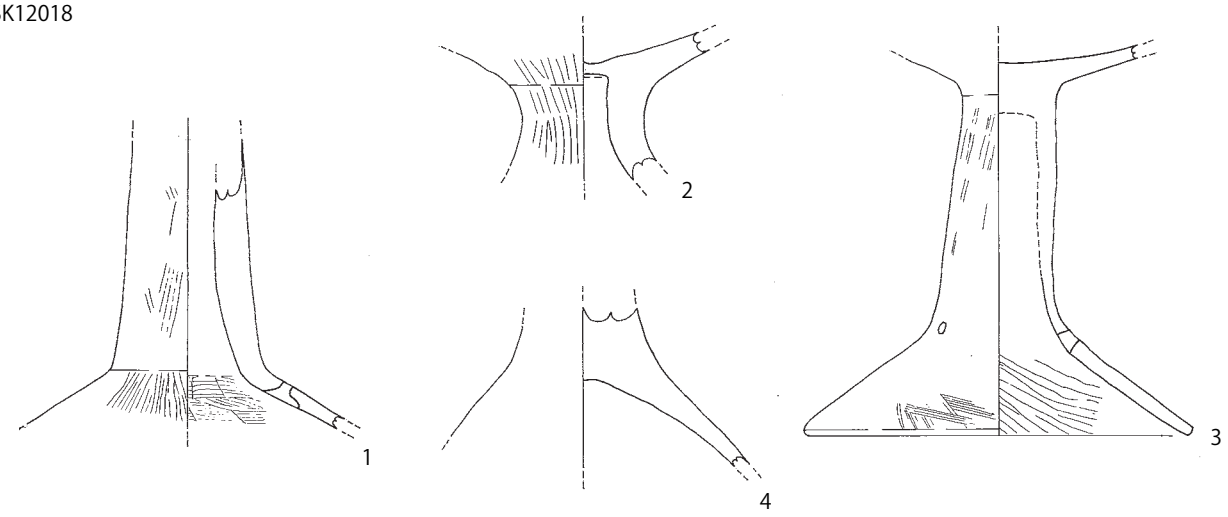




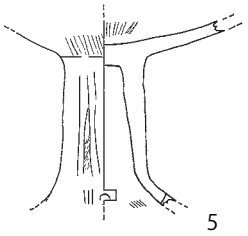
0 10cm

図 202　SK12005・12018 出土土器（1/3、1/4）　1 は 1/3、他は 1/4

SK12018



SK12025



SK12042

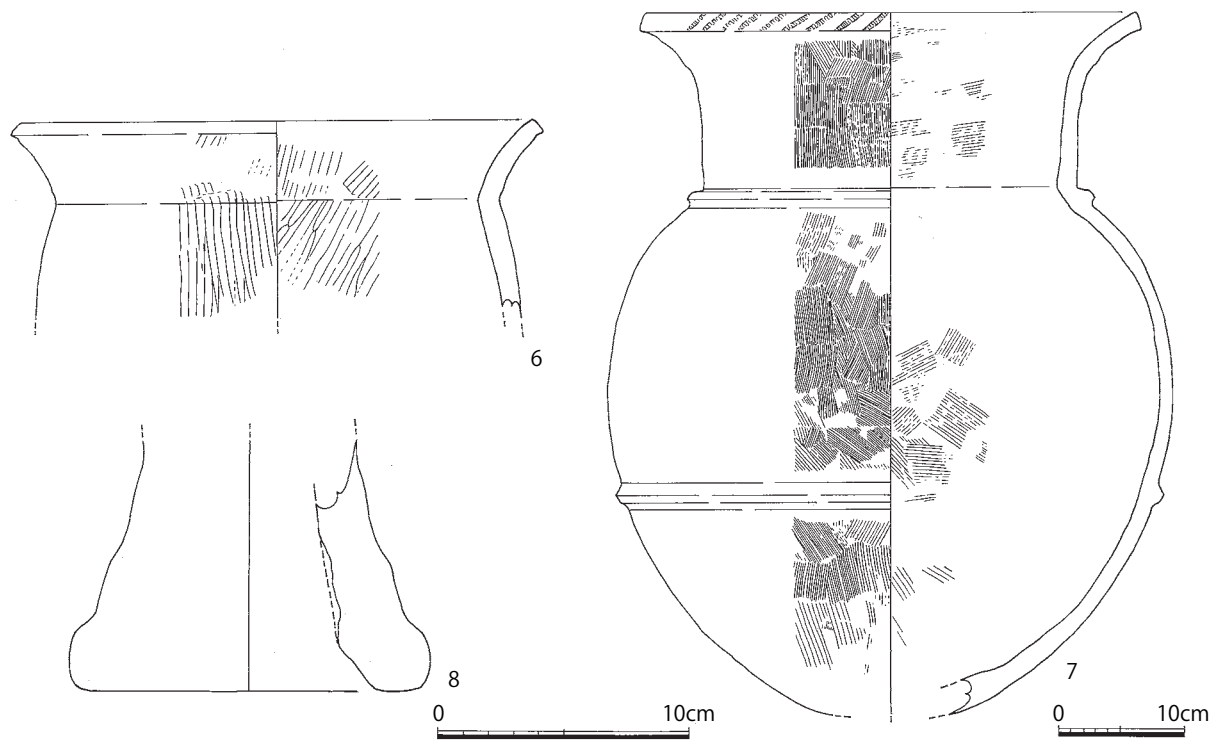
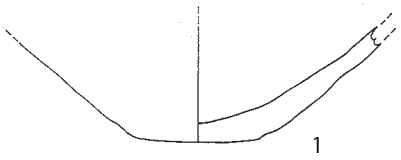
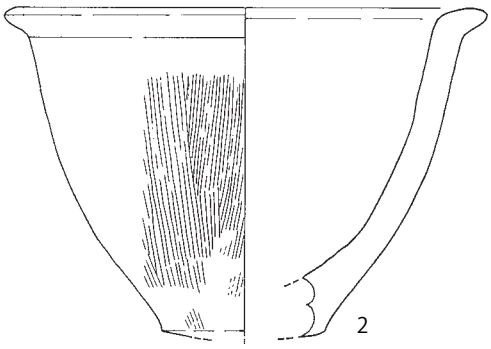


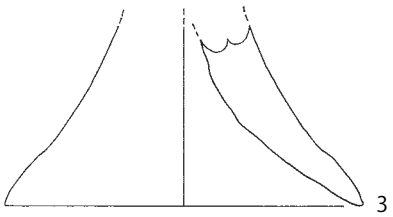
図 203　SK12018・12025・12042 出土土器（1/3、1/6）　7 は 1/6、他は 1/3

SK12044

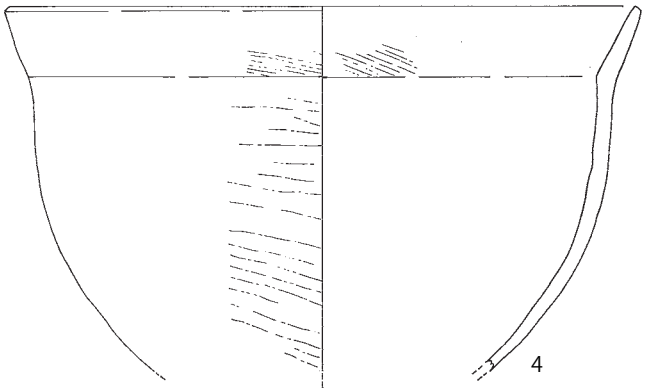


SK12050

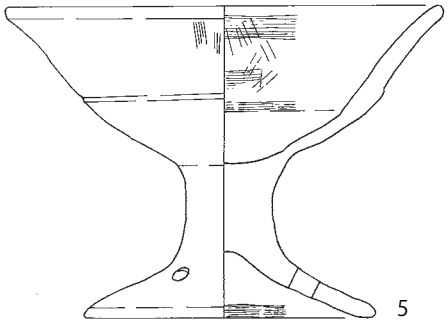




SK12051



SK12070



SK12080

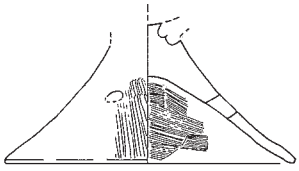


図 204　SK12044・12050・12051・12070・12080 出土土器（1/3、1/4）

4 は 1/4、他は 1/3

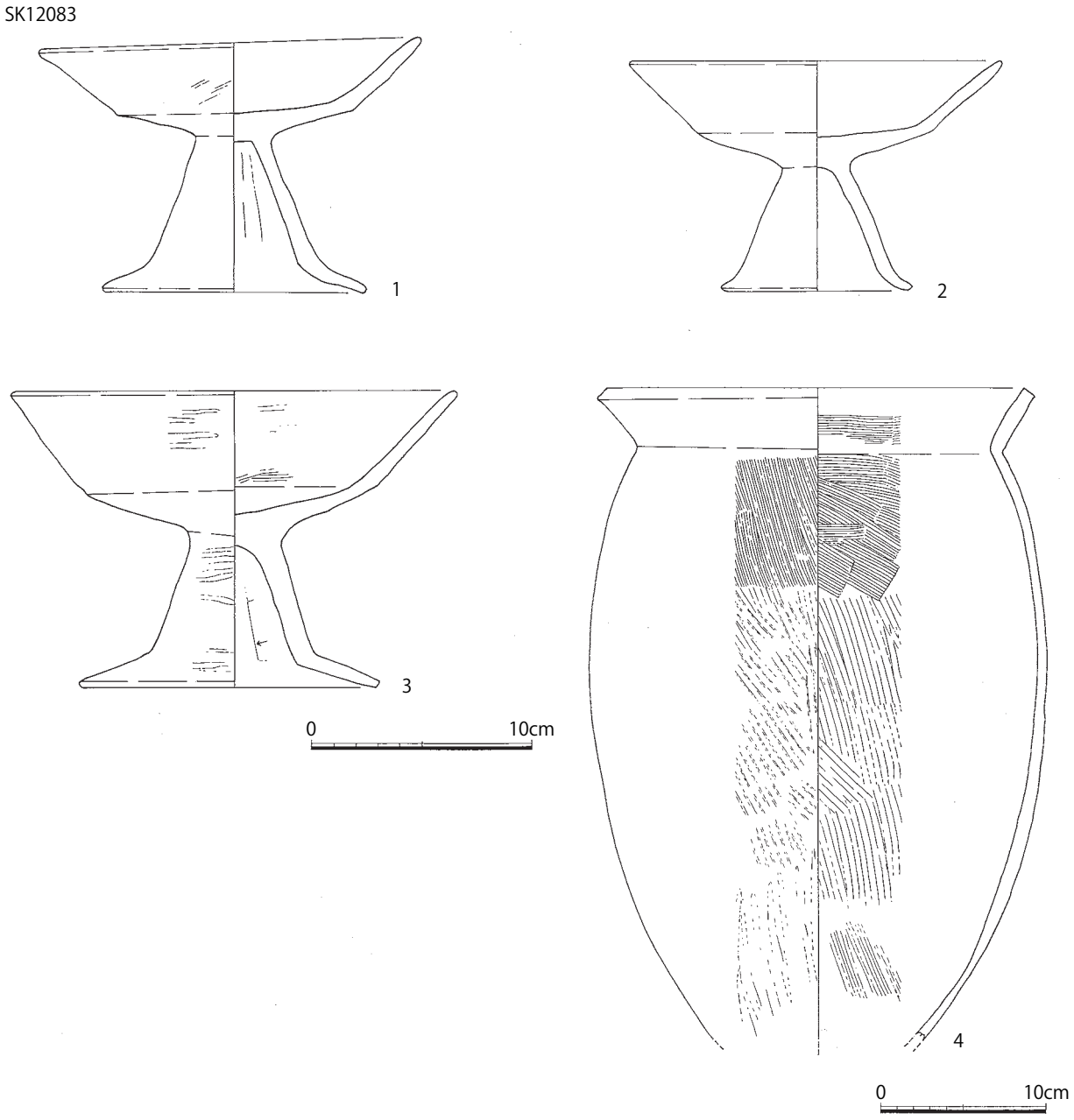


図 205　SK12083 出土土器（1/3、1/4）　4 は 1/4、他は 1/3

ＳＫ 12080 出土土器

図 204-6 は高坏の脚部である。脚部中位がやや膨らむ。調整は内外面ハケ目。穿孔が 3 ヶ所施されると思われる。別機種の可能性もあり。

ＳＫ 12083 出土土器

図 205-1 ～ 3 は高杯で、ほぼ完形である。1 は杯部がやや浅く、上半部と下半部の間に稜が見られる。裾部は大きく屈折し開く。調整は、杯部、脚部の外面がハケ目後ナデ、杯部内面はナデ、脚部内面は工具ナデ。2 は 1 より杯部が深い。裾部は端部付近が屈折するが、あまり開かない。調整は、内外面ナデ。3 は杯部が深く、上半部と下半部の間に稜が見られる。裾部は屈折し開く。調整は、外面がミガキ、杯部の底面はハケ目後ナデ、上半部はナデ、脚部内面は工具ナデ。裾部外面に煤が付着。

図 205-4 は甕で、口縁部から底部付近までの残存である。頚部はくの字形で、口縁部は直線で、口縁端部は面取りされる。胴部は長胴化が見られ、胴部最大径は中位付近にある。調整は、口縁部がハケ目、胴部上はハケ目、胴部中腹はタタキ、胴部下はタタキ後ヘラケズリ。内面には丹が付着する。

ＳＫ 13010 出土土器

図 206-1、2 は甕の口縁部である。1 は頚部がくの字形で、口縁部はやや外反し、口縁端部は面取りされる。調整は、口縁部がヨコナデ、胴部外面はタタキ、胴部内面はナデ、一部工具ナデ。外面には煤が付着する。2 は頚部が S 字に近くなる。口縁部はやや長く、外反し、口縁端部は面取りされる。調整は、全面ハケ目。

図 206-3 はほぼ完形の甕である。頚部はくの字形で、口縁部は直線し、口縁端部は面取りされる。底部は丸底で、カキケズリが見られる。外面と底部内面に煤が付着する。

図 206-4 は壺である。頚部から底部までの残存である。底部は丸底気味の平底。底部付近の外面にヘラケズリが見られる。胴部最大径は中位よりやや上にある。内外面の一部に煤が付着。底部内面には指頭圧痕有り。図 206-5 は甕である。頚部がくの字形で、口縁端部は面取りされ、わずかに内側に突出する。底部は丸底で、調整は口縁部がヨコナデ、外面がハケ目、内面はヘラケズリとなる。胴部最大径は胴部中位よりやや上。内外面の一部に煤が付着する。

図 206-6 ～ 9 は高杯である。6 は杯部から脚部にかけての残存で、底面が深く、口縁端部は面取りされる。上半分と下半分の接合部は内外共に陵が見られる。脚部の穿孔は 4 箇所に施されると思われる。調整はヘラミガキが施され、丹塗りが施される。杯部底部には煤が付着する。7、8 は杯部部のみの残存である。7 は口縁端部が面取りされる。杯部は深く、屈折部は外側に稜が見られる。調整は杯部の底部外側のみにヘラミガキが施され、上半部はハケ目とヨコナデ。丹塗りが施されている。8 は口縁端部が丸く、外側に稜が見られる。杯部は深く、屈折部の外側に突帯が施されている。杯上半は外反しながら大きく開く。調整は、外面をヘラミガキ、内面をナデ。9 は杯部底部と脚部のみの残存。調整は磨耗の為不明瞭。穿孔は 4 箇所施される。

図 207-1 は屈折口縁の鉢で、ほぼ完形である。口縁部付近でわずかに屈折し、外面と口縁部内面にヘラミガキが施される。底部は丸底。

図 207-2、4 は台付鉢である。2 は鉢部のみの残存で素口縁である。調整は外面をヘラミガキ、内面はナデか。4 は脚部のみの残存である。脚部の外面をヘラミガキ。

図 207-3 は素口縁の鉢で、口縁部から底部まで残存する。底部は平底で、底部付近の外面はヘラケズリ後ナデ。

SK13010

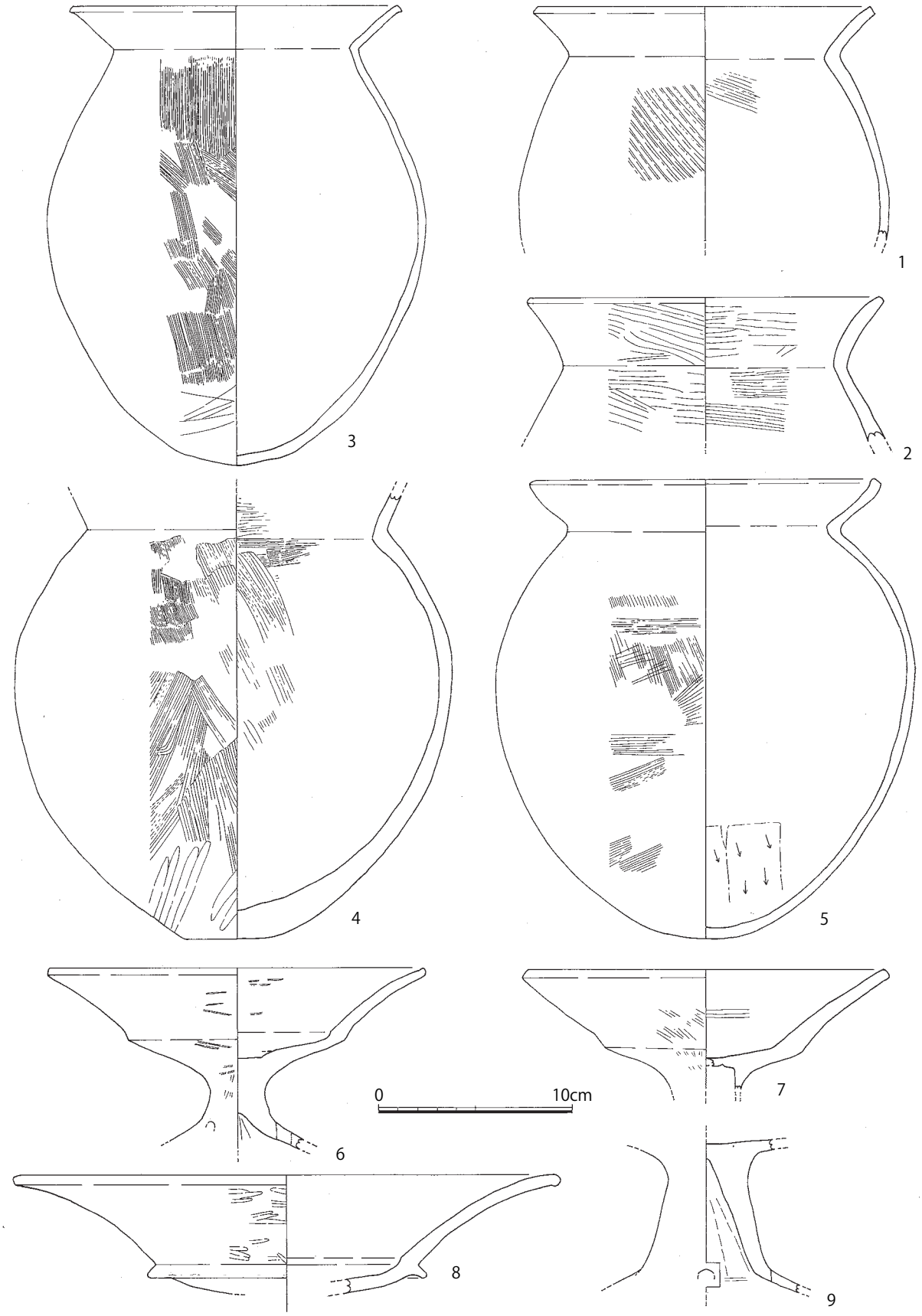


図 206　SK13010 出土土器（1/3）

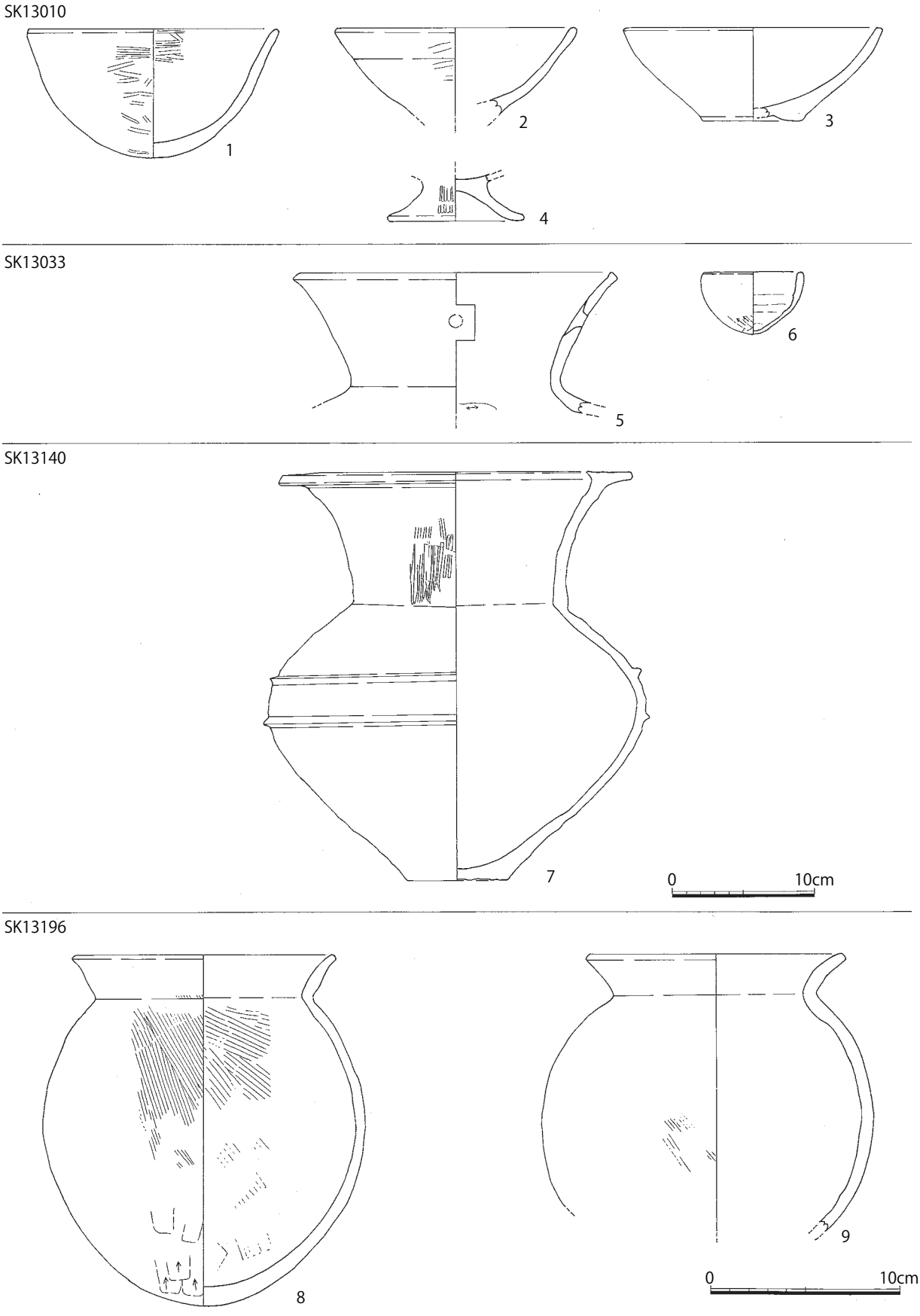


図 207　SK13010・13033・13140・13196 出土土器（1/3、1/4）　7 は 1/4、他は 1/3

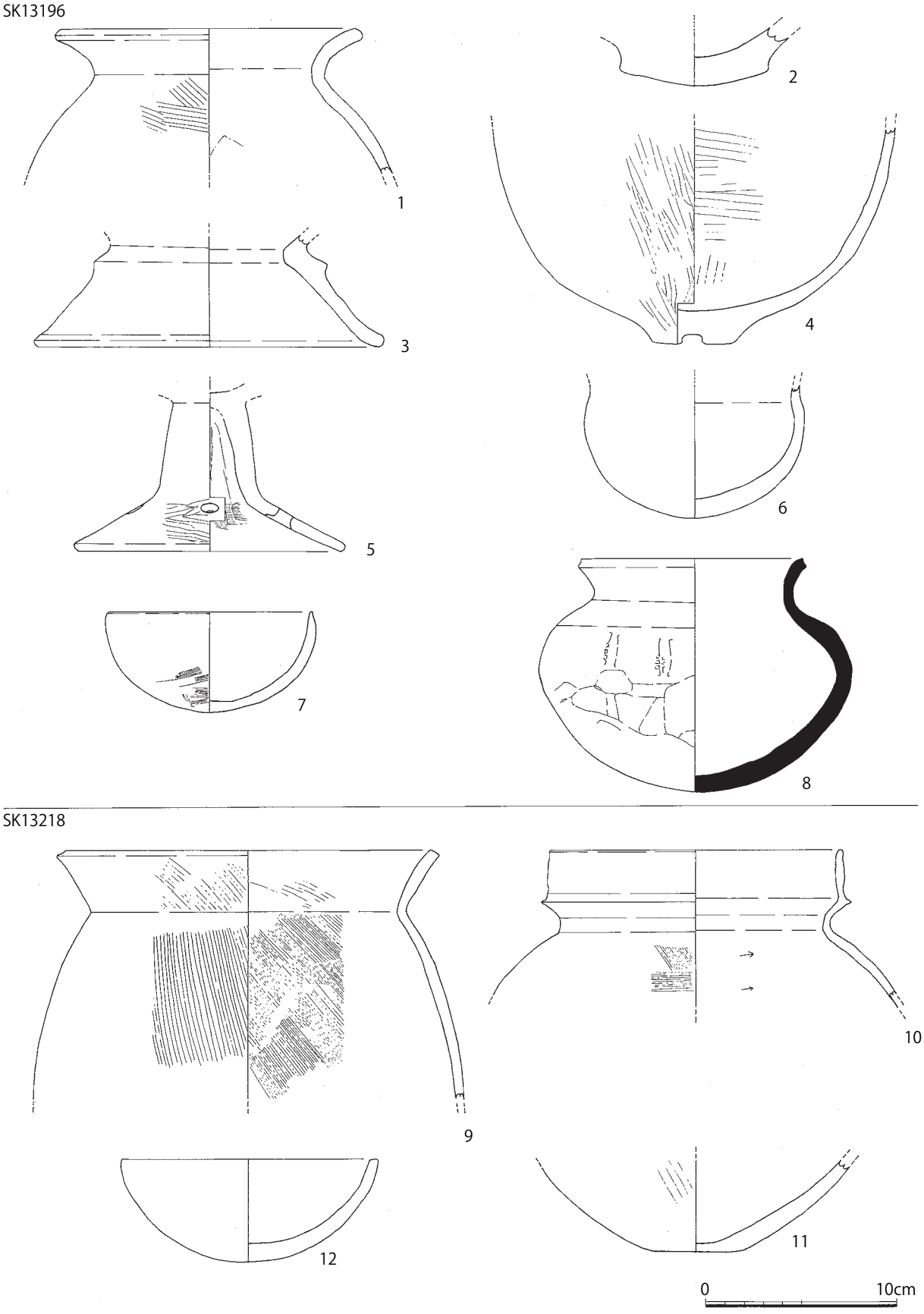


図 208　SK13196・13218 出土土器（1/3）

SK13368

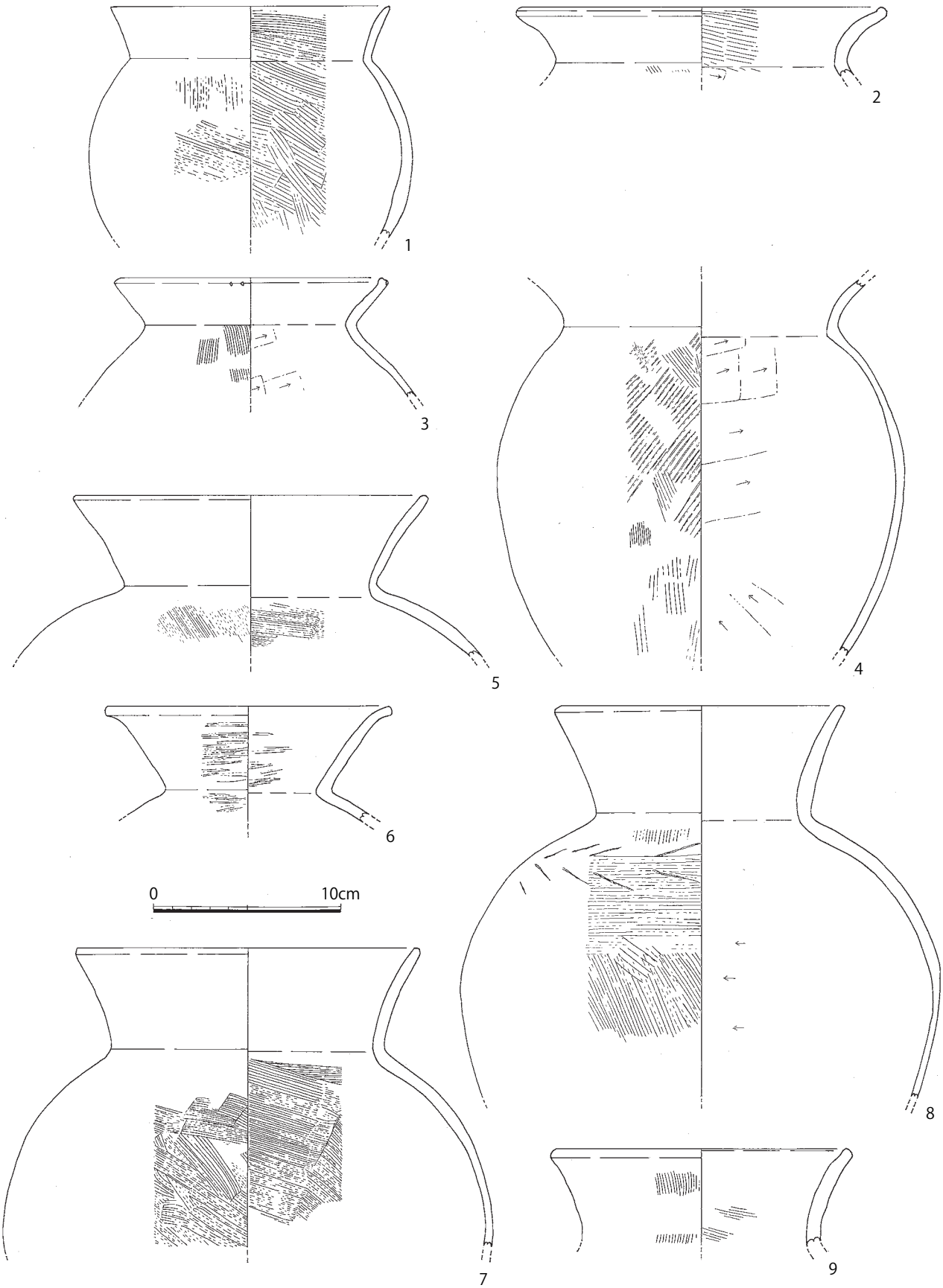


図 209　SK13368 出土土器 1（1/3）

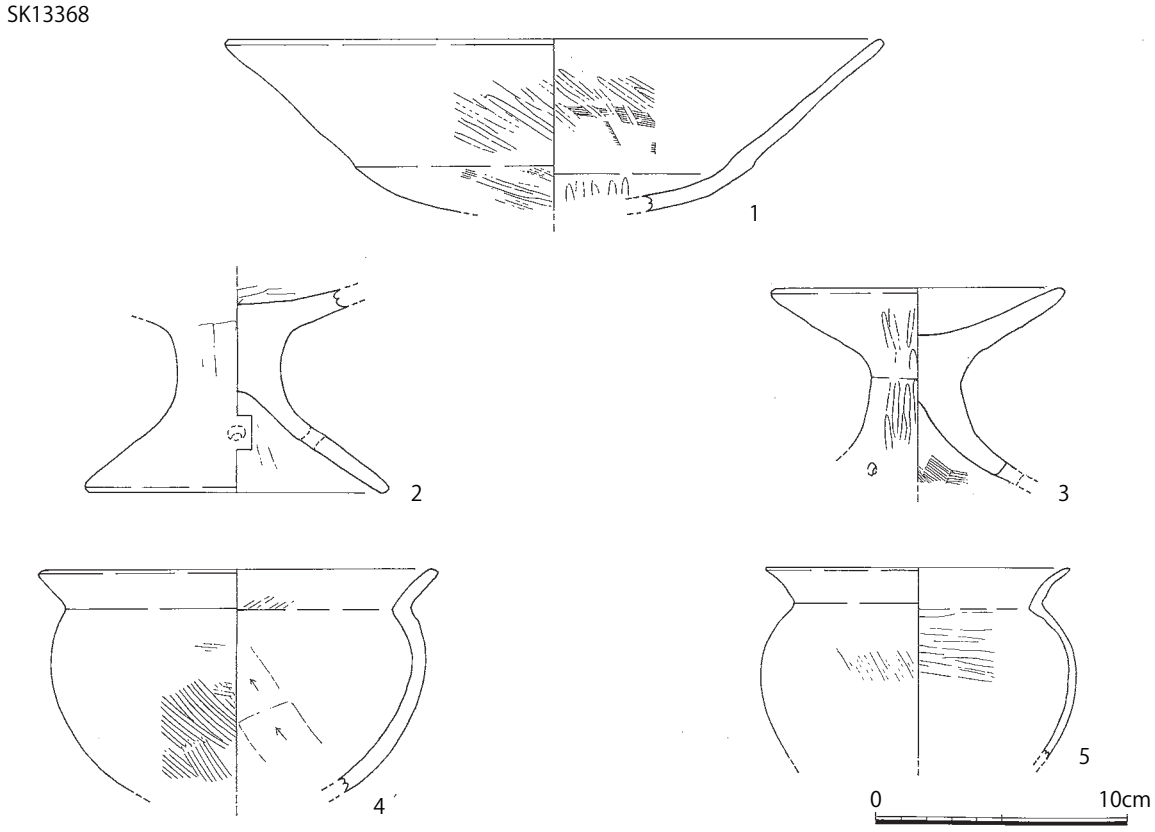


図 210　SK13368 出土土器 2（1/3）

ＳＫ 13033 出土土器

図 207-5 は広口壺の口縁部である。口縁端部は面取りされ、胴部内面にヘラケズリが施される。口縁部には外側から穿孔が施される。

図 207-6 はミニチュア土器の鉢である。

ＳＫ 13140 出土土器

図 207-7 は完形の広口壺である。口縁部は鋤先口縁。頸部の立ち始めは直立で、朝顔状に開く。胴部最大径は中位より上に有り、最大径上と肩部付近に断面三角形の突帯が 2 条施される。底部は平底である。外面片側に煤が付着する。

ＳＫ 13196 出土土器

図 207-8、9 は甕である。図 207-8 は口縁部から底部にかけて残存する。底部外面はヘラケズリ後ナデ。外面に煤が付着する。9 は口縁部から底部付近までの残存である。胴部は歪んだ球形。調整は外面をハケ目後ナデ、内面上部は指ナデ、内面下部は工具によるナデ。胴部外面に煤が付着する。

図 208-1 は短頸壺の口縁部から頸部にかけての残存である。口縁端部は面取りされる。外面には煤が付着。

図 208-2 は壺の底部である。凸レンズ状の丸底。

図 208-3 は山陰系の鼓形器台の下半部である。内面は横方向の粗いヘラケズリ、外面胴部はヨコナデを施す。SH13375（図 189-10）で類例出土。底径はほぼ同じである。

図 208-4 は壺の胴部から底部にかけての残存である。底部の中央を窪ませる。胴部外面は上から下に、底部付近は右から左にミガキが施される。底部外面に黒斑あり。

図 208-5 は高杯の脚部から裾部にかけての残存である。調整は裾部外面をヘラミガキ、脚部はナデ。穿孔を 4 箇所に施す。

図 208-6 は屈折口縁の鉢である。底部内外に煤が付着する。

図 208-7 は素口縁の鉢である。内外に煤が付着する。

図 208-8 は小型短頸壺で、陶質土器である。口縁端部は面取りされ、胴部最大径は肩部にあり、肩が張る。調整は口縁部から肩部までヨコナデ、胴部中位はタタキのちナデ、胴部中位から底面付近までがヘラケズリ後ナデ、底面付近はナデである。

韓国金海大成洞 29 号墳（慶星大学校博物館 2000『金海大成洞古墳群Ⅱ』）、釜山老圃洞 33 号墳（釜山老圃洞遺跡 1988『釜山大学校博物館』、福岡市西新町遺跡 13 次 67 号竪穴住居跡出土、14 次 3 号竪穴住居跡出土に類例があり、伽耶系の古式陶質土器である。

ＳＫ 13218 出土土器

図 208-9 は甕の口縁部から胴部までの残存である。頚部はくの字形で、口縁端部は面取りされる。外面の肩部より上に煤が付着する。

図 208-10 は二重口縁壺の口縁部のみの残存である。二重口縁は直立で、屈折部の外面には断面三角形の突帯が施される。調整は胴部外面がハケ目後ナデ、胴部内面はヘラケズリ。

図 208-11 は甕の底部である。底部はやや丸底化が見られ、調整は外面がカキケズリ。

図 208-12 は素口縁の鉢である。底面付近の外面はヘラケズリ後ナデ。

ＳＫ 13368 出土土器

図 209-1 ～ 4 は甕である。1 は口縁部から胴部までの残存で、調整は内外面ハケ目。外面に煤が付着する。2、3 は口縁部のみの残存である。2 の口縁部は強く外反し、頚部の内面にはヘラ傷が見られる。3 は口縁部がくの字形で、口縁端部は面取りされ、内側にわずかに跳ねる。調整は胴部内面がヘラケズリ。4 は口縁部から胴部までの残存である。胴部最大径は中位よりやや上に有り、頚部はくびれの強く、口縁部は外反する。胴部外側に煤が付着する。

図 209-5 ～ 9 は素口縁の壺である。5、6、9 は口縁部のみの残存である。5 は口縁部がやや長く、直線に開く。6 は口縁部がやや長く、直線に開くが、口縁端部が面取りされ、外側に屈折する。外面をハケ目で丁寧に調整する。9 は口縁部がやや長く、外反する。口縁端部が面取りされ、外側へ僅かに膨らむ。外面に煤が付着する。7、8 は口縁部から胴部まで残存する。7 は口縁部がやや長く、僅かに外反する。胴部最大径は肩部にある。8 は口縁部がやや長く、僅かに外反する。口縁端部は面取りされる。胴部最大径は中位よりやや上にあり、肩部付近にヘラによる羽状文有り。調整は、胴部外面はハケ目、胴部内面はヘラケズリ。胴部内部に指頭圧痕、外面に煤付着。

図 210-1 ～ 3 は高杯である。1 は杯部のみの残存で、上半部は直線で、下半部は浅く、外面の接合部に陵がある。2 は杯部底面から裾部にかけての残存である。短い脚部を持つ。全体に煤付着。3 は杯部と脚部のみの残存である。杯部は素口縁で小さい。脚部は外面にヘラミガキが施され、穿孔が見られる。

図 210-4、5 は屈折口縁の鉢である。4 は口縁部が短く、外面に煤が付着する。5 は口縁部が短く、屈折部のくびれが強い。外面に煤が付着する。

（2）石器

①石包丁・大型直縁刃石器

図 211-1 ～ 3 は石包丁の破片である。1 は大型ないし中型の半月状の石包丁で、刃部は両刃の磨製で作られる。2 は石包丁の未製品と思われる。刃部は打ち欠いているが磨かれていない。3 は中型の杏仁形の石包丁か。

図 211-4 は大型直縁刃石器と思われる。刃部は片刃で、打ち欠いて作られている。

図 211-5 は石包丁の背縁か。厚さが 10mm と厚みがある。

②石斧

図 211-6 ～ 8 は磨製石斧で 6、7 は両刃である。6 は重量が 160g と小型で、基端部が刃部に比べて横幅が狭く、刃部は摩耗により刃が擦れている。7 は基端部と刃部の幅がほぼ同じ。身の中程に抉りが見られる。8 は刃部が欠損する。

図 211-9 は磨製石斧の未製品か。

図 212-1 は柱状片刃石斧か。刃部が欠損し、全長は 11cm を超える

図 212-2 は扁平片刃石斧である。刃部が欠損する。

③敲石

図 212-3 ～ 6 は敲石である。3 は平坦になっている側面と、残存する端部に使用痕がみられる。4 は花崗岩製で、片側の端部が欠損する。使用痕が見当たらないので、欠損部をしようしていたか。5 は平らになっている側面に使用痕が見られる。6 は断面系が台形で、使用痕は一番広い平坦面に見られる。

④石杵

図 212-7 は花崗岩製で、断面形は三角形に近く、全面を使用し、平坦部には敲痕が見られる。

⑤磨石

図 212-8 ～図 213-6 は磨石である。図 212-8 は楕円形の円礫を使用する。両面の 2 面を摩面に使用か。断面系は楕円形で摩面は凸形になる。9 は楕円形の円礫を使用する。一番細い先端部を除く 4 面を摩面に利用したと思われる。図 213-1 は球形の円礫で、断面は楕円形。花崗岩製で、風化が激しく使用面不明。2 は、摩面は 1 面で、断面は楕円形になる。3、4 は安山岩製である。3 は円礫を使用する。使用面は 4 面で、一面は広範囲の凹面、他は平らないし凸面になる。断面は楕円形。4 は欠損により使用面は不明。5 は用途不明の石器で、平面形は長方形に整えられ、全面が磨かれている。断面は長方形。6 は風化が激しく使用面不明。断面は楕円形。

⑥凹石

図 214-1 ～ 5 は凹石である。1 ～ 4 までは円礫を、5 は角礫を用いる。1 は 4 面を使用し、うち一面が凹み、他 3 面は凸面となる。片側の先端も敲きに使用か。2 は安山岩製。全面を使用する。平面及び側面は敲きによる凹面に、端部は摩り石に使用。3 は目の粗い砂岩製。2 面を使用し、片面は凹石、反対側は磨石として使用する。4 は 5 面を使用。平面の片面は狭い凹面、もう片方が広い凹面。側面は片側を敲きに使用か。端部は摩石に、もう片方は敲きに使用か。5 は片側側面は欠損する。 1 面のみを使用する。

⑦台石

図 214-6 ～図 215-2 は台石である。図 214-6、7 は円礫を用いる。6 は花崗岩製。両平面を摩面に使用し、片面は凹面、もう片方は凸面になる。7 は 3 面を使用。平面片側は、やや広めに敲きに使用か。反対面の平面と側面 1 面は磨石に使用か。図 215-1、2 は角礫を用いる。1 は目の粗い砂岩製。7 面体の多角形で、

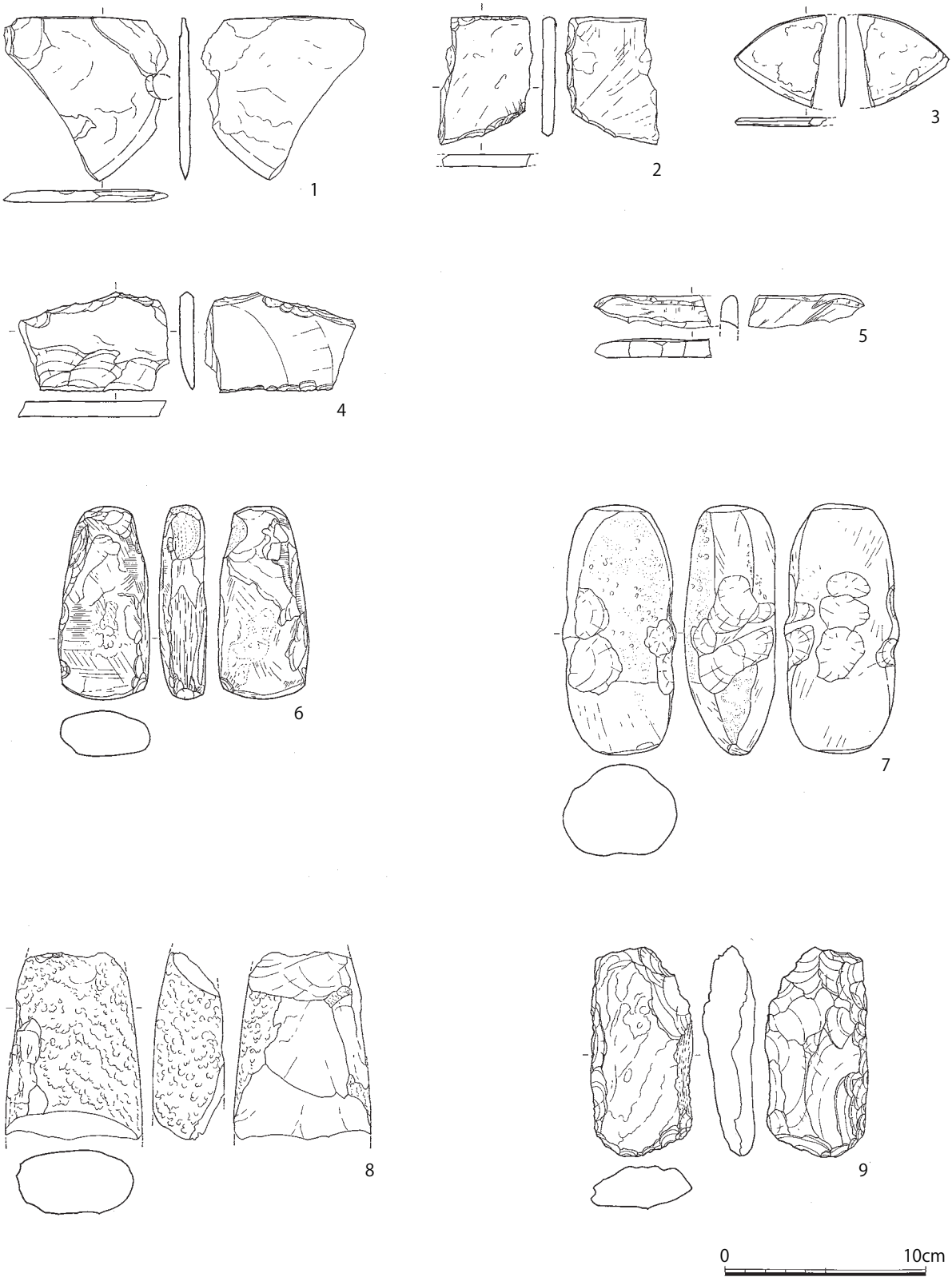


図 211　11 ～ 13 区出土石器 1（1/3）

図 212　11 ～ 13 区出土石器 2（1/3）

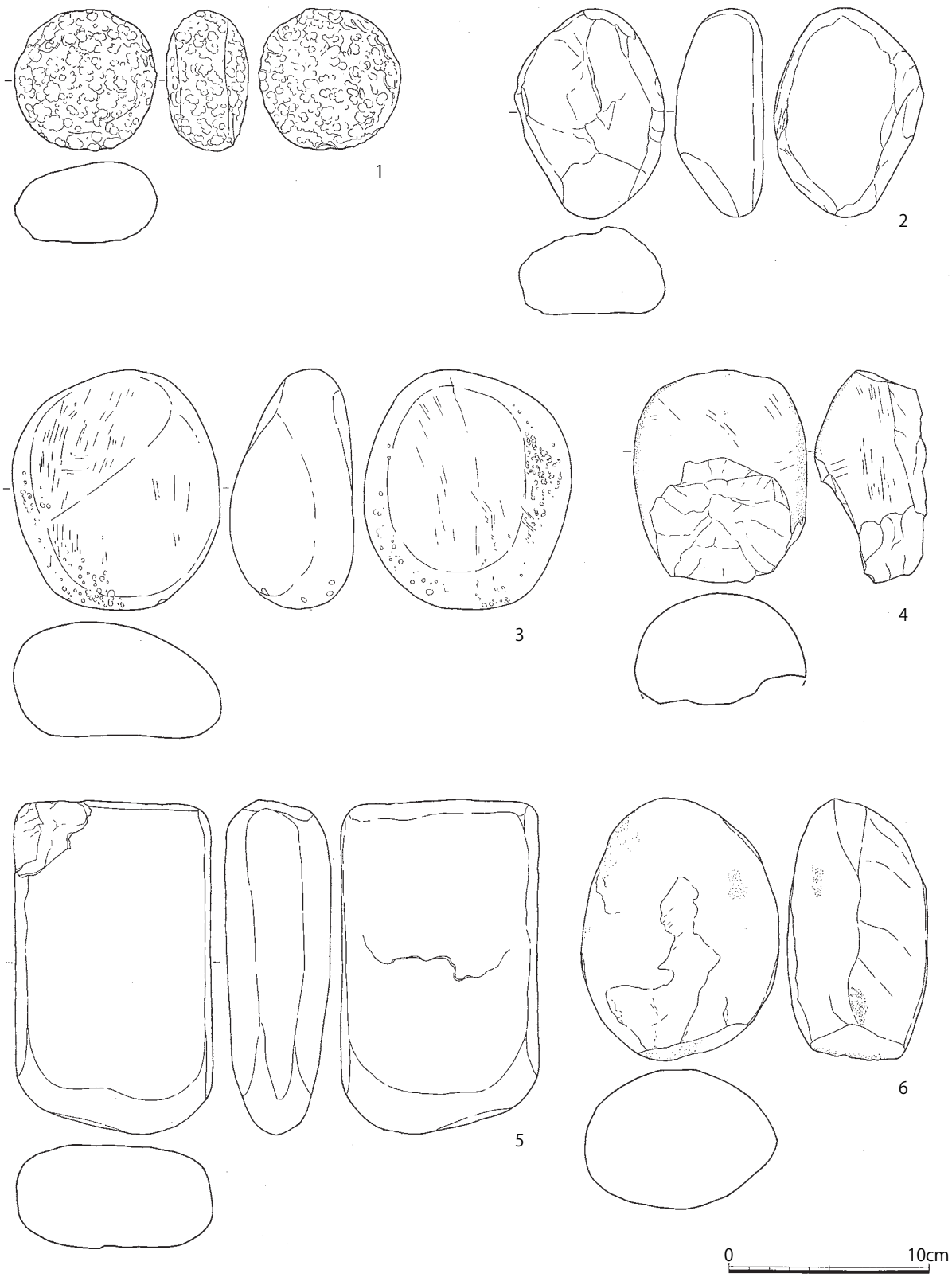


図 213　11 ～ 13 区出土石器 3（1/3）

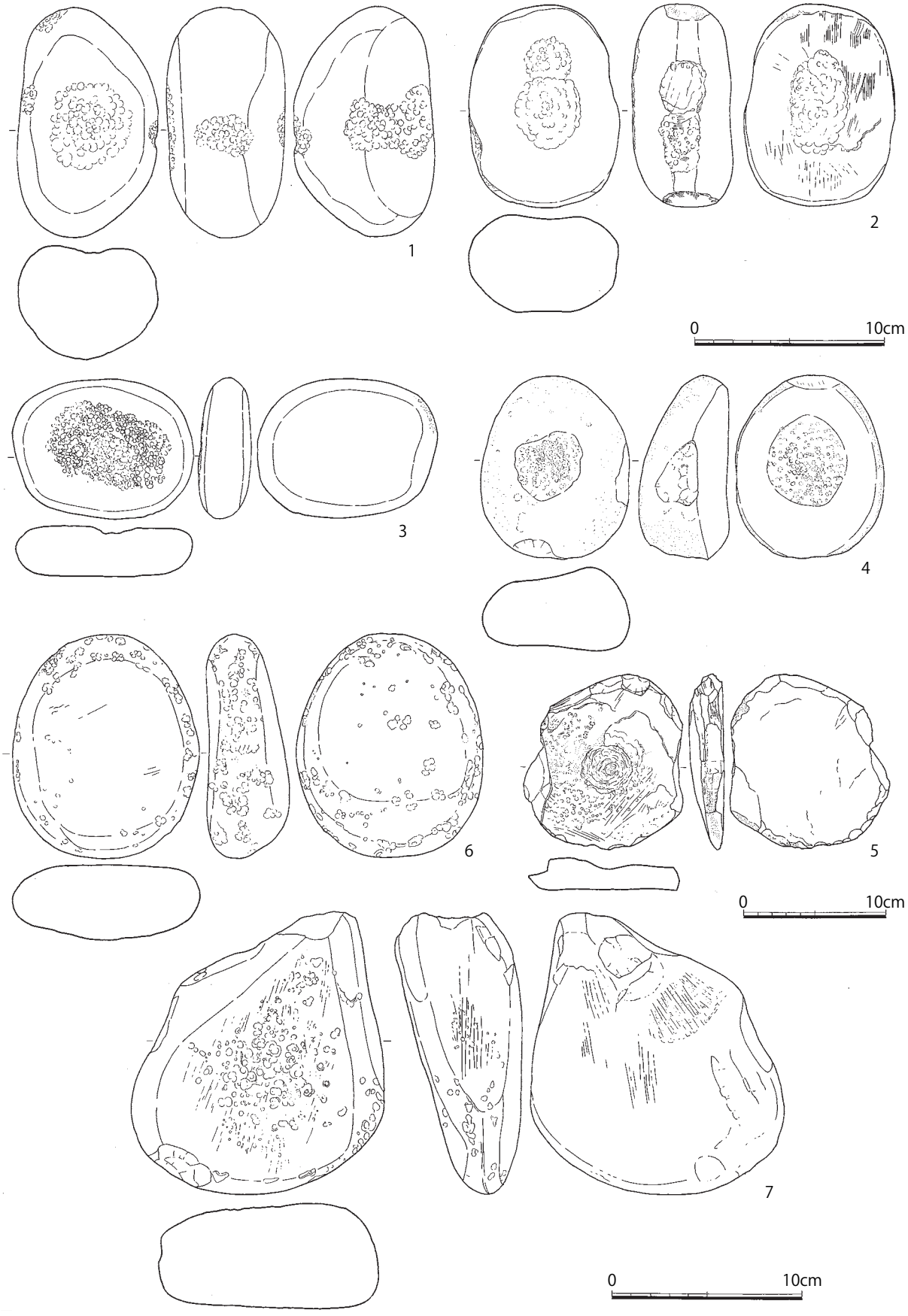


図 214　11 ～ 13 区出土石器 4（1/3、1/4）　3 ～ 6 は 1/4、他は 1/3

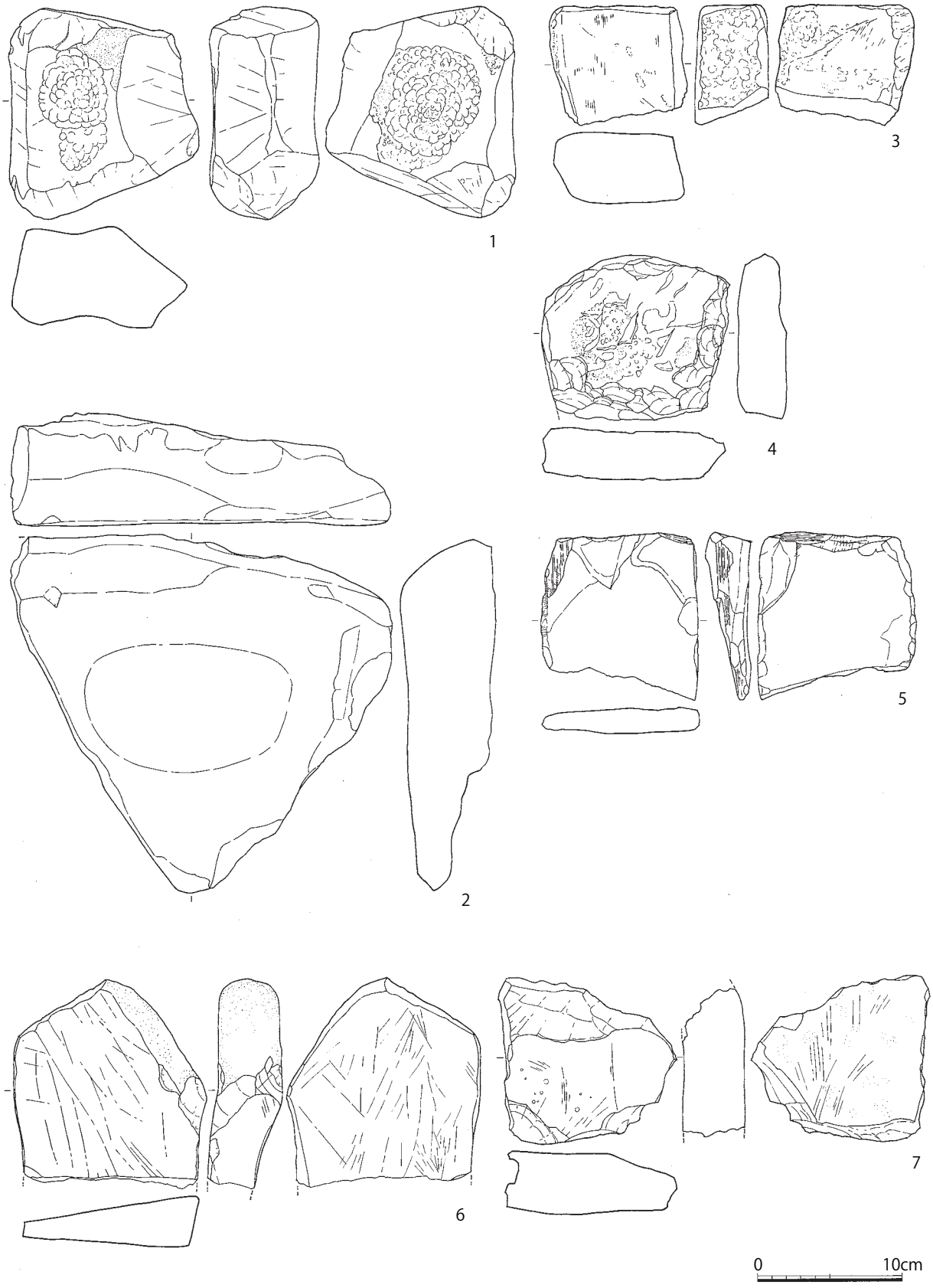


図 215　11 ～ 13 区出土石器 5（1/4）

6 面を使用する。平面は 2 面とも敲きによる凹面に、側面は摩面になる。2 は摩面が片側のみ残る。摩面は平面に対して楕円形に大きく使用される。

⑧砥石

図 215-3 ～図 216-2 までは置砥石であると思われる。図 215-3 は花崗岩製。側面は欠損して、使用状況は不明。研面は一面。4 は目の細かい頁岩製。側面は欠損する。砥面は 1 面。5 は頁岩製。側面 2 箇所に砥面が残る。残りの面はすべて欠損し、使用状況不明。6 は砂岩製。研面は平面と側面の 4 面が使用される。7 は側面が欠損していて不明。砥面は 3 面で、不定方向に研ぎ筋が見られる。図 216-1 は砂岩製である。平面は両面とも研痕が見られ、側面は 1 面研面が残る。2 は目の細かい砂岩製である。平面は両面とも砥面として使用され、側面も 1 面使用される。3 は砂岩製である。側面は打ち欠いて長方形に整える。使用している研面は 1 面のみ。鉄分が付着する？ 4 の平面は台形で、6 面のうち 6 面が研面と思われる。5 は砂岩製である。側面が 2 箇所欠損する。4 面を研面に利用する。6 は砥面が 1 箇所のみである。7 は欠損部以外の 4 面を砥面で使用する。平面では、剥離して段差ができた場所も研面として利用する。図 217-1､2 は砂岩製である。1 と 2 は平面と側面の 4 面を研面として使用する。どちらも、1 面に溝状の研痕が見られる。

図 217-3 ～ 8 までは小型の砥石である。図 217-3 は砂岩製である。平面と側面 1 箇所の 3 面を砥面として使用する。4 は安山岩製である。4 面を砥面に使用する。5 は目の粗い砂岩製である。2 面を砥面として使用し､残り 2 面は不明。不明の 1 面は熱を受けたか。6 は砂岩製。平面と側面 2 面が残るが、平面と側面 1 面の 3 面を砥面に使用する。7 は砂岩製である。3 面を砥面に使用する。平面 1 面は幅の広い溝状の研痕を持つ。8 は目の粗い砂岩製である。2 面を砥面に使用する。側面は整形か。9 は砂岩製である。板状に剥離する。1 面を砥面に使用する。10 は砂岩製である。2 面を砥面として使用する。11 は砂岩製である。3 面を砥面として使用する。側面には一定方向への細い研筋が残る。12 は目の粗い砂岩製である。平面と側面の 2 面を砥面として使用する。13 は砂岩製である。4 面を砥面として使用する。そのうち端部に整形時に出来たと思われる細い溝状の整形痕が残る。14 は荒い砂岩製である。平面形態は縦長で､4 面を砥面として使用する。図 218-1 は砂岩製である。3 面を砥面として使用する。2 は砂岩製である。1 面と砥面として使用する。板状に剥離する。

図 218-3 ～ 8 は定形砥石になる。3 は目の細かい砂岩製か。定形砥石か。5 面を砥面として使用する。4 は板状に剥離し、断面も層状に見える。定形砥石か。3 面を砥面として使用する。5 は砂岩製の定形砥石である。風化がみられるが 4 面を砥面に使用したと思われる。6 は目の細かい砂岩製である。定形砥石か。2 面を砥面として使用する。7 は完形の定形砥石である。片側の端部は沓形になり、全体では台形状になる。5 面を砥面に使用し、うち 1 面には楕円形に大きく抉りが見られる。8 は完形の定形砥石である。片側の端部は沓形になり、縦の断面は台形状になる。5 面を砥面に使用する。

⑨施溝痕石器

図 218-9 ～ 12 は施溝痕が残る未製品である。9 の断面は扁平状。4 面を磨く。10 は板状に剥離する。残存面の両脇に施溝痕が見られる。11 は砥石からの転用。4 面を磨く。長軸方向の面中央に施溝痕が対になって見られる。12 は板状に剥離する。1 面が磨かれる。長辺の断面に施溝痕が見られる。また、裏側の剥離面にも施溝痕が明瞭なのが 1 条、不明瞭なのが 2 条重なるような状態で残る。

⑩石鏃

図 218-13、14 は打製石鏃で、13 はサヌカイト製、14 は黒曜石製である。13 は基部が凹基式で、浅く抉りが作られる。14 は基部が凸基式、大きく突出する。

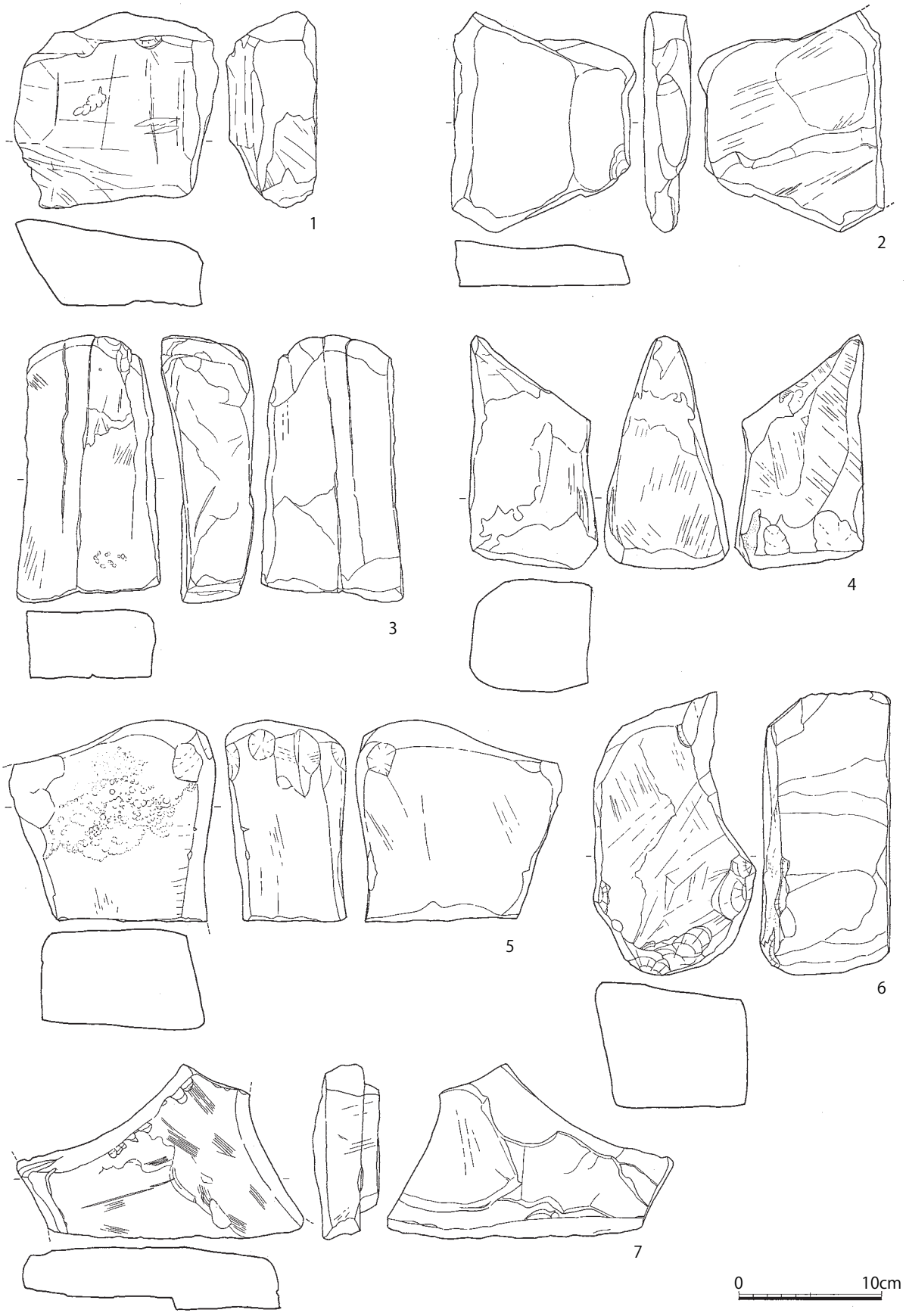


図 216　11 ～ 13 区出土石器 6（1/4）

図 217　11 ～ 13 区出土石器 7（1/4）

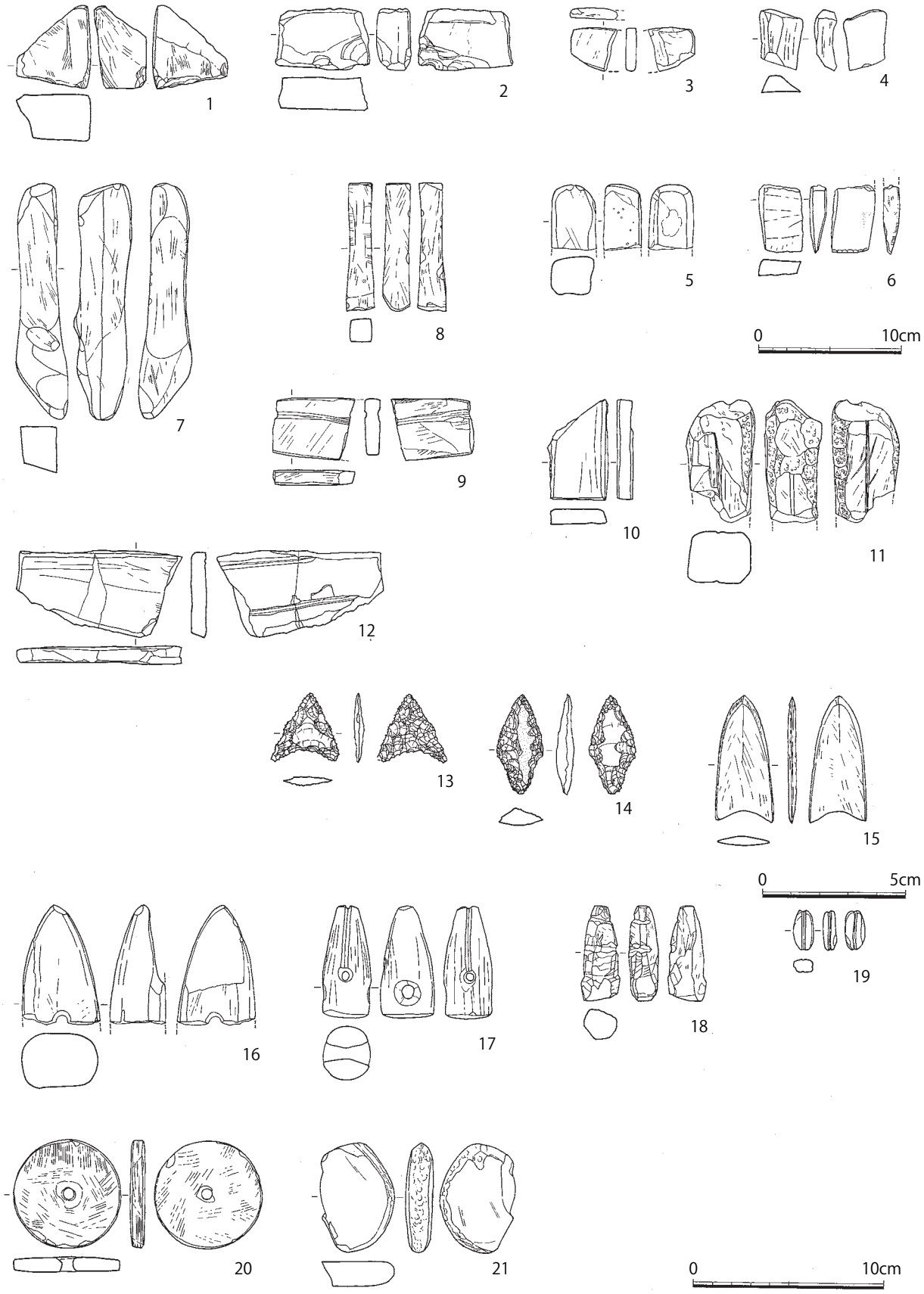


図 218　11 ～ 13 区出土石器 8（1/2、1/3、1/4）　1 ～ 8 は 1/4、13 ～ 15 は 1/2、他は 1/3

図 218-15 は磨製石鏃で、厚さは平均 2 ～ 3mm と薄く、先端から基部までが 45mm とやや長め。石鏃先端から中程までに刃が作られる。基部は凹基式で、浅い抉りが作られる。

⑪石錐

図 218-16 ～ 19 は石錘である。16 は砂岩製。円錘状で、断面はやや扁平する。平面には両側穿孔が施される。17、18 は滑石製。17 は完形品で円錐形になる。大小の穿孔が段違いに 2 箇所施され、小さい穿孔は先端を半周する溝が繋がる有溝穿孔。穿孔はいずれも両側穿孔。小さい穿孔には摩耗が見られる。18 は完形品で円錐形になる。横に一周する溝が 2 条、不明瞭なのが 1 条見られる。19 は楕円形の円礫で、両端部に一周する十文字の有溝が施される。

⑫石製紡錘車

図 218-20 は完形品で、中央に両側穿孔が見られる。断面はやや中央部が厚く、端部は面取りされる。21 は未製品である。平面は歪な円形で、穿孔は施されていない。断面は扁平で、端部は面取りされない。

表６　竪穴住居跡一覧表（1）

（　）の数値は残存値

遺構番号	区　画	平面形	主柱穴	内部施設	規模（m）			時　期	備　考
					長軸	短軸	深さ		
SH11003	O-35	不整方形	5	中央土坑	6.64	6.54	0.28	千住2式～惣座式古	柱材痕2有り
SH11004	O-34・35	円形？	5	中央土坑	5.59	5.48	0.19	？	土器実測図なし
SH11005	P-33・34	方形	5？		5.54	4.26	0.22	千住2式～惣座式	
SH11012	Q-33	方形	3＋1？		3.65	3.52	0.22	惣座式～古墳前期？	住居平面形で時期判断。
SH11013	Q-33・34	円形	6	中央土坑	6.27	5.34	0.20	須玖Ⅰ式	
SH11027	Q-35	円形	5＋1？		5.26	5.18	0.36	惣座式新	
SH11028	R・Q-35	長方形	3＋1？		8.61	6.84	0.24	惣座式	
SH11029	T・U-39	方形？			(4.84)	(3.74)	0.23	夕ヶ里式	
SH11039	R-33	方形	4		5.11	4.90	0.46	惣座式	
SH11047	R-34	方形	4	竈	4.65	4.53	0.29	5B期	甕で時期決定
SH11052	Q・R-34・35	長方形			7.16	6.32	0.43	須玖Ⅰ式	
SH11055	R-35	方形	4	竈	3.91	3.82	0.35	古墳中期～後期？	出土土器は夕ヶ里式
SH11061	P・Q-34	長方形			7.38	4.32	0.46	惣座式	
SH11064	Q-33	円形	2	中央土坑	6.80	3.94	0.21	須玖式	焼けた粘土痕あり 出土土器は村徳永式
SH11066	V-38	方形	4		5.72	5.22	0.27	夕ヶ里式	
SH11068	T-39・40	方形			4.51	4.15	0.38	夕ヶ里式	
SH11069	T-39	方形？			5.62	(2.20)	0.32	夕ヶ里式	
SH11081	R-34	円形	4？	溝	4.74	4.27	0.19	須玖Ⅰ式新～Ⅱ古	
SH11082	Q-34	方形	4	竈	4.93	4.73	0.20	5B期	
SH11094	R-35	円形	4？		5.62	(4.54)	0.21	不明	出土土器は村徳永古段階
SH11095	R-35	長方形			5.47	3.76	0.27	須玖Ⅰ式新	
SH11096	S-35	長方形		土坑	6.77	3.62	0.16	弥生後期～古墳前期？	出土土器は夕ヶ里式？
SH11098	R・S-34・35	長方形			8.26	5.44	0.27	須玖式	土器小片出土
SH11106	R・S-33	方形？			4.69	(3.00)	0.19	不明	実測土器なし
SH11110	T-35	方形	4		4.02	3.64	0.43	夕ヶ里式	
SH11111	T・U-35	長方形			5.50	4.14	0.11	夕ヶ里式	
SH11112	T・U-35	長方形	4	竈	4.58	4.22	0.47	6期	
SH11113	U-35	円形			6.12	5.87	0.23	須玖Ⅰ	
SH11121	U・V-35・36	方形？			5.81	(4.34)	0.22	須玖Ⅰ	
SH11122	W-37	方形？		土坑	6.92	5.67	0.23	須玖式	
SH11127	W・X-38	円形	3＋？	中央土坑	6.03	5.59	0.38	須玖Ⅰ	
SH11129	T・U-37・38	方形		土坑	5.05	4.66	0.25	惣座式	
SH11130	R-35・36	長方形	2＋？	竈	5.21	3.82	0.28	5B期	
SH11131	V-37・38	円形	3＋？		4.74	4.30	0.16	須玖Ⅰ式	
SH11133	T・U-35・36	長方形			5.75	3.80	0.10	不明	実測土器なし
SH11138	V-36・37	長方形		土坑	5.71	4.41	0.34	夕ヶ里式	
SH11139	V・W-37・38	方形	4	土坑・溝	5.69	5.18	0.24	夕ヶ里式	
SH11140	U-35・36	方形			3.30	(3.00)	0.16	惣座式	
SH11142	V・W-38・39	方形	4	竈・溝・土坑	5.54	5.49	0.38	5B期	
SH11143	V-38	長方形			(5.10)	(2.60)	0.16	須玖式	
SH11144	V-38・39	長方形		土坑	6.73	4.16	0.30	惣座式新	
SH11147	V-39・40	方形	4？	土坑	5.46	5.01	0.41	夕ヶ里式	
SH11149	V・W-39・40	方形	4？	土坑	5.83	4.75	0.23	惣座式	
SH11150	V-39	方形？			5.04	(4.70)	0.23	夕ヶ里式	
SH11151	V-39	方形？			4.88	(2.40)	0.22	惣座式	
SH11152	V-40	方形		土坑	5.13	4.10	0.10	惣座式	
SH11153	V・W-40	長方形			(5.21)	(3.85)	0.21	古墳前期前半？	年代は切り合い関係から 実測土器なし
SH11154	V・W-40	方形		土坑	6.16	5.25	0.21	夕ヶ里式	年代は切り合い関係から 土器は弥生中、後期、方形住居
SH11156	V-39	長方形		土坑	(6.70)	4.47	0.11	不明	実測土器なし
SH11159	V-40・41	方形	4？	土坑	6.54	5.72	0.33	夕ヶ里式	竈？遺構図には焼土、炭化物の記録なし。
SH11160	T・U-39	方形			4.48	4.10	0.36	夕ヶ里式	
SH11165	W-39	楕円形			4.95	3.16	0.15	弥生中期～後期	
SH11166	U・V-38	方形	4？		4.90	4.32	0.21	惣座式	
SH11169	U・V-40	方形？	3		5.03	(4.00)	0.22	惣座式新段階	
SH11175	V-37・38	方形			4.87	(4.83)	0.24	千住式～惣座式	

表７　竪穴住居跡一覧表（2）

（　）の数値は残存値

遺構番号	区　画	平面形	主柱穴	内部施設	規模（m）			時　期	備　　考
					長軸	短軸	深さ		
SH11181	X･Y-40	長方形			6.01	4.10	0.23	惣座式?	
SH11182	X･Y-40	楕円形		土坑	7.51	(4.70)	0.13	須玖Ⅰ式	ST11158に切られる
SH11183	V-37･38	楕円形	5?		7.69	(6.80)	0.26	須玖Ⅰ式	
SH11187	T･U-38	長方形	2＋?	土坑	6.11	4.45	0.22	惣座式	
SH11188	T･U-38	方形		土坑	4.78	4.26	0.36	夕ヶ里式	
SH11189	U-37	方形	3＋1?		4.24	3.68	0.30	古墳前期	出土土器片は弥生中期、 四本主柱穴から
SH11190	U-37	方形	4	土坑･溝	5.24	5.16	0.19	古墳前期	四本主柱穴
SH11204	Q-36	方形			4.02	3.75	0.38	千住式～惣座式	方形
SH11205	P･Q-36	方形			4.94	4.16	0.35	惣座式	二本主柱穴?
SH11206	P-36	方形			4.24	4.22	0.27	惣座式	方形
SH11207	O･P-36	長方形		土坑	7.24	3.66	0.22	千住式	
SH11209	P-35･36	長方形			4.43	3.30	0.30	不明	
SH11210	P･Q-36･37	方形			3.68	3.55	0.27	惣座式	方形
SH11211	P-36･37	長方形			(4.04)	3.56	0.24	不明	実測土器なし
SH11212	O-36･37	長方形	3＋?	土坑	7.24	6.15	0.20	千住式～惣座式	ST11067に切られる
SH11216	N-37･38	方形			4.77	(4.60)	0.24	千住式～惣座式	
SH11217	R-38	方形			4.61	4.22	0.28	惣座式	焼けた粘土痕あり
SH11219	X-38･39	楕円形			7.65	(5.80)	0.25	弥生中期	住居平面形態から
SH11228	Q-38･39	方形			(9.27)	6.21	0.09	惣座式	遺構図面なし
SH11229	P-38･39	長方形		土坑	6.81	5.21	0.27	村徳永3式	ST11067に切られる
SH11230	P-38	方形	6?	中央土坑	(8.10)	(6.80)	0.27	夕ヶ里式	羽口出土。 ST11067に切られる
SH11231	O-38	長方形			7.45	5.70	0.37	千住２式	鉄片11出土
SH11252	Q-34	円形	6	中央土坑	6.01	4.98	0.38	不明	実測土器なし
SH11253	O-37	長方形			6.13	(2.48)	0.43	千住２式～惣座０式	
SH11254	T-34･35	円形	3＋?		6.66	5.84	0.31	須玖Ⅱ式	
SH11257	T-36	円形	4?	溝	4.98	4.79	0.26	弥生中期前半?	実測土器なし
SH11258	U･V-36･37	方形	4		5.18	4.62	0.22	夕ヶ里式	四本主柱穴
SH11261	W･X-39	方形	4	土坑	3.83	3.74	0.15	夕ヶ里式	四本主柱穴
SH11262	Y-39	方形?			(4.40)	(1.80)	0.07	不明	実測土器なし
SH11264	U-37･38	円形			5.67	5.25	0.19	須玖Ⅰ	
SH11267	W･X-39	隅丸方形			6.29	5.80	0.12	須玖Ⅰ	
SH11276	S･T-35･36	方形	4	土坑･ベット	(3.83)	3.52	0.19	古墳前期?	四本主柱穴 実測土器なし
SH11279	U-41	方形?			4.91	(3.88)	0.33	夕ヶ里式	
SH11291	T-40	方形	4?		5.34	3.64	0.50	惣座２式	
SH11293	T-40	円形			3.82	(2.25)	0.42	須玖Ⅰ式	
SH12027	O･P-41･42	長方形	4?		7.23	4.50	0.39	村徳永３式～千住２式	鉄片72出土
SH12028	O･P-40	方形?	3		(5.81)	(5.40)	0.48	千住式～惣座式	鉄片27出土
SH12035	O･P-42	方形	7＋2?		5.78	5.76	0.36	惣座０式	鉄片35出土
SH12036	O-41	長方形?			6.86	(3.12)	0.18	惣座０式	鉄片33出土
SH12041	O-40･41	長方形	1＋?		6.52	2.81	0.28	惣座式	鉄片37出土
SH12043	O-39･40	長方形?			(7.28)	4.82	0.20	村徳永式新～千住式古	鉄片41出土
SH12052	Q･R-40	方形?			(5.40)	(5.10)	0.14	古墳前期?	４本主柱穴 出土土器は須玖Ⅱ
SH12053	R･S-40･41	方形?			4.65	3.98	0.14	惣座２式	
SH12067	Q･R-41	長方形			6.42	4.50	0.26	惣座０式～２式	
SH12068	R･S-41	方形?			(3.90)	(3.14)	0.15	5B期	
SH13086	U-42	方形		竈	(4.10)	4.02	0.18	古墳中期～後期	出土土器は弥生中期後半
SH13115	U-43･44	方形	4	竈	5.64	4.60	0.30	4B期～5A期	
SH13154	U-44･45	方形?	4	竈	4.61	(3.90)	0.32	5A期～5B期	
SH13157	T-43	方形			4.70	4.08	0.30	惣座式	
SH13158	S-44	方形	4		(3.50)	(3.30)	0.34	5B期	
SH13163	V-44･45	方形	4	竈	4.90	4.86	0.44	6期	
SH13212	S･T-45	長方形	4?		3.76	3.14	0.30	夕ヶ里式	
SH13216	T･U-44	方形?			4.26	(3.00)	0.20	不明	出土土器なし
SH13246	X-47･48	方形			4.40	4.12	0.40	夕ヶ里式	
SH13345	X-46	方形			(3.92)	(2.50)	0.22	夕ヶ里式	
SH13375	W-48	方形	2		4.30	(4.16)	0.30	惣座式	２本主柱穴
SH13416	S-48	方形?	4		3.62	3.18	0.22	5B期	

表８　11 区掘立柱建物一覧表

遺構番号	区　画	規模 (桁×梁)	桁 (m)		桁主軸 (°)	梁 (m)		柱穴 (m)		時　　期
			桁全長	柱　間		梁全長	柱間	径	深　さ	
SB11009	O－34	1×1	3.60	3.60	N28° W	3.60	3.60	0.50～0.80	0.10～0.20	
SB11011	O－34	2×1	7.70	3.50～4.20	N55° W	3.40	3.40	0.30～0.80	0.10～0.40	
SB11032	O－35	1×1	2.90	2.90	N51° E	2.50	2.50	0.30～0.50	0.20～0.30	
SB11033	O－35・36	1×1	2.40	2.40	N40° W	2.20	2.20	0.20～0.60	0.30～0.50	
SB11038	Q・R－33	5×3	6.80	0.90～1.30 2.50	N5° E	5.00	5.00	0.50～1.50	0.40～0.90	須玖Ⅱ
SB11044	R－33・34	2×1	3.50	1.70～1.80	N47° E	2.20	2.20	0.50～1.00	0.30～0.60	須玖
SB11046	R・S－33	1×1	4.00	4.00	N45° W	2.50	2.50	0.40～0.60	0.20～0.40	惣座式
SB11058	R・S－33	1×1	3.10	3.10	N1° E	2.90	2.90	0.40～0.80	0.30～0.60	夕ヶ里式
SB11059	Q－36	3×1	5.20	1.50～1.80	N71° W	3.40	3.40	0.30～0.60	0.30～0.50	須玖式
SB11060	Q－36	1×1	3.00	3.00	N9° W	1.80	1.80	0.30～0.50	0.20～0.50	
SB11077	Q－35・36	2×1	5.70	2.70～2.90	N83° E	3.80	3.80	0.30～0.80	0.20～0.50	須玖Ⅰ
SB11079	S－38・39	2×1	3.60	1.50～2.00	N63° W	2.60	2.60	0.30～0.80	0.10～0.30	中期～後期
SB11084	T－34・35	1×1	2.00	2.00	N88° W	1.60	1.60	0.30～0.60	0.20～0.30	千住式～惣座式
SB11085	U－36	1×1	3.50	3.50	N51° E	2.70	2.70	0.50～0.90	0.30～0.50	須玖Ⅰ
SB11088	V－36	1×1	3.90	1.70～2.10	N12° W	2.50	2.50	0.40～0.60	0.10～0.30	須玖式
SB11089	T－37・38	1×1	3.20	320	N27° W	3.00	3.00	0.30～0.80	0.10～0.20	須玖式
SB11091	T－37・38	1×1	3.30	3.30	N35° E	2.60	2.60	0.30～0.80	0.20～0.30	千住式～惣座式
SB11100	U－38	1×1	3.00	3.00	N52° W	2.40	2.40	0.30～0.50	0.20～0.30	惣座式
SB11101	U・V－40	4×1	6.50	1.60～1.70	N72° W	4.00	4.00	0.40～0.60	0.20～0.30	
SB11102	W－39	1×1	3.80	3.80	N72° E	3.00	3.00	0.30～0.40	0.20～0.30	
SB11202	U・V－34	2×1	5.30	2.65	N25° E	2.30	2.30	0.80～2.00	0.30～0.60	須玖式
SB11256	T－37	2×2	1.45	1.45	N5° W	2.90	1.30～1.60	0.60～1.00	0.30～0.50	惣座式

表９　土坑・溝状遺構一覧表（1）

(　　) の数値は残存値

遺構番号	区　画	規模（m）			平面形態	時　　期	備　　考
		長軸	短軸	深さ			
SK11006	P-34	1.26	1.12	0.35	正方形		
SK11008	P-35	2.00	1.70	0.70	不整円形	須玖Ⅰ～Ⅱ式	
SK11010	O-35・36	3.10	2.80	0.32	正方形	須玖Ⅰ～Ⅱ式	
SK11037	O-34	1.34	0.78	0.31	不整楕円形	千住式？	
SK11051	Q-34	2.32	1.50	0.20	不整長方形	須玖Ⅰ～Ⅱ式	
SK11057	R-35	(2.90)	(2.70)	0.24	正方形	千住式	竪穴住居の可能性あり
SK11072	P-33	1.26	(1.04)	0.14	不整楕円形	須玖Ⅱ式	
SK11075	P-33	3.66	(1.97)	0.14	不整方形	須玖Ⅰ式	SH11013に切られる
SK11105	S-33	1.54	0.76	0.77	不整楕円形	須玖Ⅰ式	
SK11114	U-35・36	2.50	1.50	0.42	不定形		
SK11118	U-33・34	2.14	0.88	0.38	楕円形	村徳永式	
SK11120	V-34・35	1.80	1.24	0.62	楕円形	須玖式	

表 10　土坑・溝状遺構一覧表（2）

（　）の数値は残存値

遺構番号	区　画	規模（m）			平面形態	時　　期	備　　考
		長軸	短軸	深さ			
SK11123	W-35	2.64	1.44	0.20	長方形		実測土器なし
SK11124	X-36	1.15	0.84	0.51	楕円形	須玖Ⅱ古式	
SK11128	P-35・36	(2.52)	(2.22)	0.12	不明	須玖Ⅱ古式	
SK11135	T-35・36	3.16	(1.92)	0.16	不定形	弥生後期	
SK11148	W-39	2.32	1.50	0.32	長方形	夕ヶ里	SH11149・165を切る
SK11157	W-40	7.46	3.54	0.12	不整長方形	古墳前期？	SH11153・154を切る出土遺物は惣座式時期は切り合いから
SK11174	R・S-38	5.02	3.66	0.36	長方形	土師本村	
SK11186	U-38	5.50	(1.42)	0.22	不明	須玖Ⅰ新～Ⅱ古	SH11166・187・188SB11100に切られる
SK11201	Q・R-39	(11.0)	1.90	0.61	不定形	須玖Ⅱ	遺構図なし
SK11214	O-36・37	1.50	1.42	0.68	不整円形	惣座	SH11212遺構内
SK11215	O-37	1.53	1.12	0.60	不整円形	惣座	SH11212遺構内
SD11218	Q-39	(4.74)	1.00	0.22	不整長方形	土師本村	須玖Ⅰ新も出土する
SK11232	P-33	0.70	0.60	0.27	円形	須玖Ⅰ新～Ⅱ古	
SK11233	P-33	0.72	0.72	0.30	円形	須玖Ⅰ新～Ⅱ古	
SK11238	P-36	(1.70)	(0.68)	0.19	不整楕円形	須玖Ⅰ新	
SK11244	Q-34	(1.56)	1.00	0.67	不整円形	須玖Ⅰ新～Ⅱ古	
SK11246	R-33	0.86	0.70	0.54	不整楕円形	須玖Ⅰ新	
SK11248	R-33	1.11	0.88	0.62	不整楕円形	須玖Ⅱ古	
SK11250	R-33	1.02	1.00	0.68	不整円形	須玖Ⅰ新	
SK11260	U-37	6.10	2.68	0.19	不整楕円形	須玖Ⅰ新	SH11190に切られる
SK11282	V-41	4.06	2.70	0.22	不整長方形	須玖Ⅱ古	縄文土器出土
SK11297	W-41	1.73	1.40	0.37	楕円形		実測土器なし
SK12005	P-40	0.84	0.79	0.16	円形	惣座式	
SK12018	N-43	2.72	1.75	0.48	楕円形	惣座式～夕ヶ里式	
SK12025	P-41	1.40	1.28	0.12	不整楕円形	弥生後期	
SK12042	P-41	(1.11)	(0.75)	0.45	楕円形	惣座式	
SK12044	O-39	2.22	1.02	0.61	楕円形	弥生後期	SK12050に切られる
SK12050	O-39	(0.90)	0.78	0.35	楕円形	弥生後期	SK12044を切る
SK12051	R-42	1.55	0.92	0.62	楕円形	弥生後期？	
SK12070	R・S-41・42	(4.70)	(4.30)	0.25	正方形？	夕ヶ里式？	
SK12080	O-42	1.70	(1.44)	0.42	不整楕円形	弥生後期	
SK12083	N-44	(3.68)	(3.20)	0.54	楕円形	弥生後期	
SK13010	T-41	1.94	1.80	0.13	不整円形	惣座式～土師本村	
SK13033	T-42	1.97	(1.04)	0.30	不整楕円形	土師本村	
SK13140	W-43	(1.72)	(0.60)	0.41	円形？	須玖Ⅱ古	
SK13196	S-43	3.30	1.46	0.10	楕円形	夕ヶ里式	古式陶質土器
SK13218	T-44	2.90	(1.20)	0.13	楕円形	惣座式～夕ヶ里式	
SK13368	Z-43	(2.45)	(1.55)	0.13	不整長方形	惣座式～土師本村	

表 11　竪穴住居出土土器一覧表（1）

＊法量の（　）は復元値

外＝外面、内＝内面、口＝口縁部、底＝底部、端＝端部、肩＝肩部突＝突帯、杯＝杯部脚＝脚部、裾＝裾部、上中下＝上部、中部、下部

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図127-1	SH11003	検出面	弥生土器	甕	23.7	24.2	にぶい赤褐色(5Y5/4)	胴内外:ハケ目	07002678
図127-2	SH11003	O-35 黒褐色砂層 遺構検出面	弥生土器	甕	23.5	22.9	にぶい褐色(7.5YR5/3)	口:ヨコナデ 胴内外:ハケ目	07002352
図127-3	SH11003	O-35 黒褐色砂質 土遺構検出面	弥生土器	甕	25.8	34.0	外:橙色(5YR 6/6) 内:にぶい橙色 (7.5YR 6/4)	外上:ハケ目 外下:カキケズリ 内上:ハケ目 内下:ナデ	07002679
図127-4	SH11003	覆土	弥生土器	甕	25.3	31.9	橙色(7.5YR 7/6)	口:不明瞭 胴外:ハケ目 胴内:ハケ後ナデ	07002680
図127-5	SH11003	検出面	弥生土器	甕	(20.0)	18.0	橙色(5YR 6/8)	胴内外:ハケ目	07002357
図127-6	SH11003	覆土	弥生土器	甕	-	14.7	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/3) 内:にぶい黄褐色 (10YR 5/3)	胴内外:ハケ目	07002355
図128-1	SH11003	覆土	弥生土器	甕底部	-	19.3	外:橙色(5YR 6/8) 内:褐灰色(7.5YR 5/1)	胴内外:ハケ目 底:ハケ目	07002353
図128-2	SH11003	O-35 覆土　褐色	弥生土器	甕底部	-	13.8	橙色(5YR 6/6)	胴外:工具ナデ 胴内:ハケ目	07002354
図128-3	SH11003	遺構検出面	弥生土器	甕底部	-	15.5	外:にぶい黄橙色 (10YR 6/3) 内:にぶい褐色 (7.5YR5/3)	胴外:ヘラナデ 胴内:ハケ目 底内外:ナデ	07002224
図128-4	SH11003	O-35 黒褐色砂層	弥生土器	甕底部	-	19.5	橙色(5YR 6/6)	外:ハケ後ナデ 内:ハケ目 底内外:ナデ	07002225
図128-5	SH11003	検出面	弥生土器	壺	22.4	36.4	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	胴外上:ハケ目 胴外下:カキケズリ 胴内:ハケ目 底外:ハケ目	07002682
図128-6	SH11003	O-35 覆土	弥生土器	甕棺	(73.3)	42.0	外:明赤褐色(2.5YR5/6) 内:にぶい褐色 (7.5YR 5/4)	胴内外:ハケ目	07002681
図129-1	SH11005	P-33･34 砂層 住居跡	弥生土器	甕	(26.9)	19.9	外:灰黄褐(10YR4/2) 内:橙色(5YR 6/6)	胴内外:ハケ目	07002683
図129-2	SH11005	P-33･34	弥生土器	甕	-	20.1	明赤褐色(5YR 5/6)	口内:ハケ目 胴外:ハケ目 胴内上:ナデ 胴内下:ハケ目	07002688
図129-3	SH11005	覆土	弥生土器	甕	(25.2)	20.6	外:橙色(5YR 6/8)内: 橙色(5YR 6/6)	胴外上:ハケ目 胴外下:ヘラ工具ナデ 胴内:ハケ目	07002687
図129-4	SH11005	-	弥生土器	甕	(25.6)	21.4	灰黄褐色(10YR 4/2)	胴外:ハケ目 胴内上:ハケ目 胴内下:ナデ	07002686
図129-5	SH11005	P-33･34	弥生土器	甕	25.0	24.9	橙色(2.5YR 6/6)	胴外上:ハケ目 胴外下:ハケ後工具ナデ 胴内:ハケ目(一部不明) 底外:ハケ後ナデ	07002690
図129-6	SH11005	P33･34 覆土	弥生土器	鉢	(15.8)	7.7	橙色(2.5YR 6/6)	口:ヨコナデ 胴内外:ナデ	07002689
図129-7	SH11005	覆土	弥生土器	高杯	-	3.6	橙色(5YR 6/6)	杯内外:ヘラミガキ	07002684
図129-8	SH11005	-	弥生土器	高杯	-	10.7	橙色(7.5YR 7/6)	脚外:ヘラミガキ	07002685
図129-9	S H11012	Q-38 覆土	弥生土器	甕	-	1.6	浅黄橙色(7.5YR 8/4)	口:ヨコナデ	07002244
図130-1	S H11013	覆土	弥生土器	甕	-	2.5	にぶい橙色(5YR 7/4)	口:ヨコナデ	07002232
図130-2	S H11013	覆土	弥生土器	甕	-	8.0	外:淡赤橙色(2.5YR7/4) 内:灰褐色(5YR 5/2)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	07002227
図130-3	S H11013	覆土	弥生土器	甕	-	3.4	灰褐色(7.5YR 5/2)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ	07002229

表 12　竪穴住居出土土器一覧表（2）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図130-4	S H11013	覆土	弥生土器	甕	-	4.8	にぶい橙色(7.5YR7/3)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	07002228
図130-5	S H11013	覆土	弥生土器	鉢	(15.8)	6.0	浅黄橙色(7.5YR 8/4)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	07002230
図130-6	S H11013	覆土	弥生土器	器台	-	6.2	にぶい黄橙色(10YR7/4)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ	07002231
図130-7	SH11027	覆土	弥生土器	甕	-	-	黄橙色	胴内:ナデ	04000036
図130-8	SH11027	覆土	弥生土器	甕	-	5.0	橙色(2.5YR 6/8)	口:ナデ 胴外:ハケ目 胴内:ハケ目	07002242
図130-9	SH11027	覆土	弥生土器	器台	-	6.4	にぶい橙色(7.5YR7/4)	胴外:ハケ目 胴内上;ナデ 胴内下:ハケ目	07002236
図130-10	SH11027	-	-	器台	-	10.0	橙色(7.5YR 7/6)	胴内外:ナデ	07002237
図130-11	SH11027	-	弥生土器	甕	-	9.3	にぶい黄橙色(10YR7/4)	胴内外:ハケ目 突:ヨコナデ	07002239
図130-12	SH11027	覆土	-	高杯	-	3.5	橙色(5YR 7/6)	裾外:ミガキ 裾内:ハケ目	07002238
図130-13	SH11027	覆土	弥生土器	高杯	-	11.5	外:橙色(2.5YR 6/6) 内:にぶい橙色 (5YR7/4)	胴外:不明瞭 胴内:ナデ	07002235
図130-14	SH11027	覆土	弥生土器	壺	-	3.7	外:灰黄褐色 内:黄灰色	胴外:ヘラミガキ 胴内:ナデ 突:ヨコナデ	08000608
図130-15	SH11027		弥生土器	支脚	-	4.9	にぶい橙色(7.5YR 7/4)	内外:ナデ	07002241
図130-16	SH11027	覆土	弥生土器	甕	(22.0)	3.8	外:灰黄褐色 内:にぶい黄橙色	胴外:ハケ後ヨコナデ 胴内:ナデ 口:ヨコナデ	08000610
図130-17	SH11027	覆土	弥生土器	甕	(30.4)	2.4	橙色	口:ヨコナデ	08000609
図130-18	SH11027	覆土	弥生土器	甕	-	5.0	浅黄橙色(7.5YR 8/4)	口:ヨコナデ	07002240
図130-19	SH11027	覆土	弥生土器	甕	-	2.7	にぶい橙色(5YR 6/3)	口:ヨコナデ	07002243
図130-20	SH11027	覆土	弥生土器	器台	-	5.6	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	裾外:ハケ目後ナデ 裾内上:ナデ 裾内下:ハケ目	07002233
図131-1	SH11028	覆土	弥生土器	甕	(15.9)	残存 11.2	外:褐灰色(10YR4/1) 内:にぶい褐色 (7.5YR5/4)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ヘラケズリ	07002362
図131-2	SH11028	覆土	弥生土器	甕	(12.9)	残存 18.5	外:にぶい赤褐色 (5YR 4/4) 内:黒褐色 (5YR 3/1)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ヘラケズリ	07002361
図131-3	SH11028	覆土	弥生土器	甕	-	残存 19.8	橙色(5YR6/6)	胴内外:ハケ目 頸内外:ヨコナデ	07002360
図131-4	SH11028	№1	弥生土器	甕底部	-	17.5	明赤褐色(5YR 5/6)	ハケ目	07002363
図131-5	SH11028	覆土	弥生土器	甕底部	-	残存 8.2	外:にぶい黄橙色 (10YR6/3) 内:黒褐色 (10YR3/1)	胴外:ハケ後 ナデ胴内:ハケ目 底内:ナデ	07002364
図131-6	SH11028	-	弥生土器	鉢	(12.5)	残存 6.7	外:橙色(5YR 7/6) 内:橙色(7.5YR 7/6)	全体:ナデ	07002134
図131-7	SH11028	-	弥生土器	鉢	10.6	7.5	外:にぶい橙色 (7.5YR 7/4) 内:橙色(5YR 6/6)	口内～肩外:ヨコナデ 胴内:ナデ 胴外:ケズリ 底外:ナデ	07002133
図131-8	SH11028	-	弥生土器	高杯	10.1	8.7	橙色(5YR6/6)	杯外:ハケ後ナデ 杯内:ナデ 杯端:ヨコナデ 裾外:ハケ後ミガキ 端外:ヨコナデ 裾内下:ハケ目 裾内奥:ナデ	07002131
図131-9	SH11028	-	弥生土器	高杯	12.5	12.0	外:橙色(5YR 7/6) 内:橙色(5YR 6/6)	杯内～脚外:ヘラミガキ 脚内:ナデ 裾内外:ハケ目	07002132

表 13　竪穴住居出土土器一覧表 (3)

＊法量の（ ）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図132-1	SH11029	覆土	土師器	甕	(15.0)	残存 10.9	外:明赤褐色(5YR5/6) 内:にぶい黄褐色 (10YR 5/3)	口外:ヨコナデ 口内:ハケ目 胴外上:ハケ目 胴外下:ナデ 胴内:ヘラケズリ	07002122
図132-2	SH11029	上包含層	弥生土器	甕	(16.3)	残存 8.0	外:灰黄褐色(10YR4/2) 内:にぶい黄褐色 (10YR 5/3)	口:ヨコナデ 胴外:工具ナデ 胴内:ハケ後ナデ	07002130
図132-3	SH11029	覆土	弥生土器	甕	(15.3)	残存 2.8	外:にぶい黄橙色 (10YR 6/3) 内:橙色(7.5YR 7/6)	口:ヨコナデ 胴内外:ハケ目	07002129
図132-4	SH11029	覆土	弥生土器	甕棺	(51.5)	残存 16.0	にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	口外:ハケ後ナデ 口内:ハケ目 胴外:ハケ目 胴内:工具ナデ 突:ヨコナデ	07002128
図132-5	SH11029	上包含層	土師器	壺	-	残存 12.2	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	胴外下:ミガキ 胴外上:ナデ 胴内上:ナデ 胴内下:ハケ目	07002127
図132-6	SH11029	覆土	土師器	鉢	(12.2)	残存 8.1	外:褐灰色(10YR 5/1) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	胴外:ハケ後ナデ胴内:ナデ 底外:ナデ	07002126
図132-7	SH11029	上包含層	土師器	手ずくね鉢	(6.7)	残存 5.9	外:にぶい褐色 (7.5YR 6/3) 内:にぶい橙色 (7.5YR 6/4)	全面:押圧	07002124
図132-8	SH11029	上包含層	弥生土器	高杯	18.5	残存 7.1	外:橙色(5YR 6/6) 内:にぶい褐色 (7.5YR 5/4)	杯内外上:ケズリ後 ヨコナデ 杯底内:ナデ 杯外下:ミガキ	07002121
図132-9	SH11029	上包含層	弥生土器	高杯	-	残存 6.8	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/3) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	脚外:ハケ後ヘラミガキ 裾外:ハケ 脚部内:ナデ	07002120
図132-10	SH11029	覆土	弥生土器	高杯	(12.6)	8.6	外:にぶい黄橙色 (7.5YR6/4) 内:橙色(5YR6/6)	杯内外、脚外:ヘラミガキ 脚内:ナデ	07002119
図132-11	SH11029	覆土	土師器	手ずくね鉢	(6.0)	7.1	外:にぶい黄橙色 (10YR 6/3) 内:橙色(7.5YR 7/6)	全面:押圧	07002125
図132-12	SH11029	覆土	土師器	支脚	-	残存 8.9	にぶい褐色(7.5YR5/4)	脚外上:ナデ 脚内下:工具ナデ 内:ナデ	07002123
図133-1	SH11039	覆土	土師器	甕	(16.8)	残存 14.1	外:橙色(5YR 6/6) 内:にぶい橙色 (5YR 6/4)	口外:ハケ後ナデ 口内、頸内:ハケ目 端:ヨコナデ 胴内:ハケ目、ケズリ	07002245
図133-2	SH11039	覆土	弥生土器	甕	(18.2)	残存 10.3	橙色(2.5YR 7/6)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ハケ後ナデ 頸内:指押え	07002251
図133-3	SH11039	覆土	弥生土器	甕底部	-	残存 10.0	橙色(5YR 7/6)	胴外上:ナデ 胴外下:ハケ目 胴内:ナデ 底部:ナデ	07002246
図133-4	SH11039	覆土	弥生土器	壺	(12.4)	残存 11.8	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/3) 内:褐灰色(10YR 4/1)	内口～端:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ハケ目 胴内下:ナデ	07002250
図133-5	SH11039	覆土　南西	弥生土器	壺	(4.8)	残存 12.0	にぶい橙色(5YR 7/4)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	07002247
図133-6	SH11039	覆土　北東	弥生土器	器台	-	残存 5.7	橙色(7.5YR 7/6)	端:ナデ　胴外:ハケ目 胴内:工具ナデ	07002248

表 14　竪穴住居出土土器一覧表（4）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図133-7	SH11047	竈一層 覆土 包含層	土師器	甕	16.2	残存 22.5	にぶい橙色(5YR 6/4)	口:ヨコナデ 胴外:工具ナデ 胴内:ケズリ	07002252
図133-8	SH11047	覆土	弥生土器	甕	-	残存 4.0	にぶい橙色(2.5YR 6/4)	口:ヨコナデ 頸外:ハケ後ヨコナデ 頸内:ナデ	07002255
図133-9	SH11047	覆土	土師器	甑	(15.8)	残存 8.5	灰褐色(5YR 5/2)	胴外:ナデ 胴内:ケズリ 胴内上:ナデ 口:ヨコナデ	07002254
図133-10	SH11047	覆土	土師器	壺	(17.2)	残存 5.5	淡橙色(5YR 8/4)	口外:ハケ後ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	07002253
図134-1	SH11052	-	弥生土器	甕	-	残存 5.0	にぶい褐色(7.5YR 6/3)	口:ヨコナデ胴外:ハケ目 胴内:ナデ	07002695
図134-2	S H11052	-	弥生土器	甕	(22.2)	残存 5.2	橙色(7.5YR 7/6)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ 胴内:ナデ	07002693
図134-3	SH11052	-	弥生土器	甕	(22.2)	残存 5.2	灰黄褐色(10YR 5/2)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ 胴内:ナデ	07002692
図134-4	SH11052	-	弥生土器	甕	(26.3)	残存 6.0	外:にぶい橙色(7.5YR7/4) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/2)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:工具ナデ	07002691
図134-5	SH11052	-	弥生土器	壺	(29.1)	残存 5.1	にぶい橙色(7.5YR 7/4)	口～胴外:ヨコナデ 胴内:ナデ	07002694
図134-6	SH11052	-	-	甕底部	-	残存 6.3	外:にぶい橙色(7.5YR6/4) 内:灰黄褐色(10YR 4/2)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	07002699
図134-7	SH11052	-	-	甕底部	-	残存 4.1	外:にぶい褐色(7.5YR5/3) 内:にぶい橙色(7.5YR6/4)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	07002698
図134-8	SH11052	覆土	弥生土器	甕底部	-	残存 4.8	外:橙色(7.5YR 7/6) 内:黄灰色(2.5Y 5/1)	胴外:ハケ目 胴内:工具 ナデ 底外:ナデ	07002697
図134-9	S H11052	-	弥生土器	甕底部	-	残存 10.6	外:にぶい褐色(7.5YR6/3) 内:灰黄褐色(10YR 4/2)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	07002696
図134-10	SH11052	-	弥生土器	器台	-	残存 5.5	外:にぶい褐色(7.5YR6/3) 内:にぶい橙色(7.5YR7/4)	外:ハケ目 内:ナデ裾端: ヨコナデ	07002700
図134-11	SH11055	-	土師器	甕	(16.2)	残存 3.3	浅黄橙色(7.5YR 8/4)	胴外:ヨコナデ	07002702
図134-12	SH11055	竈一括	土師器	甕	(15.7)	残存 1.9	外:灰白色(10YR 8/2) 内:にぶい黄橙色(10YR 7/2)	端～胴外:ヨコナデ 胴内:ハケ目	07002701
図134-13	S H11055	R－35	土師器	甕	-	残存 3.7	淡黄色(2.5Y 8/3)	口:ヨコナデ 頸内:ナデ	07002703
図135-1	SH11061	覆土	弥生土器	甕	-	残存 4.4	橙色(7.5YR 7/6)	胴内外:ナデ 口:ハケ目	07002707
図135-2	SH11061	覆土	弥生土器	甕	-	残存 6.4	外:にぶい橙色 (7.5YR7/4) 内:にぶい橙色(5YR6/4)	胴外:ハケ後ナデ 口内:ヘラナデ 肩内:工具ナデ	07002708
図135-3	SH11061	覆土	弥生土器	甕	-	残存 19.2	橙色(5YR6/6)	胴内外:ハケ目	07002709
図135-4	SH11061	覆土	弥生土器	高杯	-	残存 4.2	外:橙色(7.5YR 6/6) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	杯外:ハケ目 杯内:ナデ	07002704
図135-5	SH11061	覆土	弥生土器	高杯	-	残存 4.0	橙色(5YR 7/6)	杯外:ナデ 杯内:ヘラミガキ	07002706
図135-6	SH11061	覆土	弥生土器	甕	(24.1)	残存 5.3	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/2) 内:浅黄橙色 (10YR8/3)	胴内外:ナデ 口:ヨコナデ	07002705
図135-7	SH11061	覆土	弥生土器	底部	-	残存 5.8	外:橙色(7.5YR 7/6) 内:灰黄褐色(10YR 5/2)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ底外:ナデ	07002710
図135-8	SH11064	-	弥生土器	甕底部	-	残存 3.8	外:明赤褐色 内:黒褐色	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	08000493
図135-9	SH11064	-	弥生土器	甕底部	-	残存 2.2	外:にぶい赤褐色 (2.5YR) 内:にぶい黄褐色 (10YR)	胴内外:ナデ	08000494

表 15　竪穴住居出土土器一覧表（5）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図135-10	SH11064	-	弥生土器	甕	15.6	残存 25.0	橙色、一部黒色(ススか)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	08000496
図135-11	SH11064	-	弥生土器	甕	(24.2)	残存 6.0	灰黄褐色	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	08000492
図135-12	SH11064	-	弥生土器	甕底部	-	残存 5.65	にぶい橙色(7.5YR)	底内外:ナデ	08000495
図135-13	SH11064	№1	弥生土器	鉢	-	残存 3.1	灰黄褐色(10YR 4/2) 灰黄褐色(10YR 5/2)	口:ナデ	07002711
図136-1	SH11066	覆土	弥生土器	甕	(15.1)	残存 3.9	にぶい褐色(7.5YR 5/3)	口外:ハケ後ナデ 内口:ナデ　頸内:ナデ	07002714
図136-2	SH11066	覆土	弥生土器	甕	(22.6)	残存 4.0	にぶい橙色(7.5YR 6/4)	口:ヨコナデ	07002715
図136-3	SH11066	覆土	土師器	甕	(23.5)	残存 5.4	にぶい橙色(7.5YR 6/4)	口:ヨコナデ 胴外:ナデ胴内:ヘラケズリ	07002716
図136-4	SH11066	覆土	土師器	高杯	-	残存 4.5	外:褐色(10YR 4/4) 内:橙色(7.5YR 6/6)	胴内外:ハケ後ナデ	07002713
図136-5	SH11066	覆土	弥生土器	鉢	(10.0)	残存 3.3	黒色(2.5Y 2/1) にぶい黄褐色(10YR 3/5)	全面:ヘラミガキ	07002717
図136-6	SH11066	覆土	土師器	甕	-	残存 4.2	外:にぶい橙色(5YR6/4) 内:浅黄橙色(10YR8/4)	胴外:工具ナデ 胴内:ヘラケズリ	07002712
図136-7	SH11068	埋土中	土師器	甕	(16.7)	残存 5.5	橙色(7.5YR 6/6)	口外:ヨコナデ 口内:ハケ後ナデ 肩外:ハケ目 肩内:ヘラケズリ	07002367
図136-8	SH11068	埋土	土師器	甕	(17.0)	-	にぶい黄褐色(10YR5/3)	口内:ハケ目 内肩:ヘラケズリ 胴外:ハケ後ナデ	07002366
図136-9	SH11068	埋土	土師器	甕	(17.5)	2.6	褐灰色(10YR 4/1)	口:ヨコナデ	07002369
図136-10	SH11068	埋土中	弥生土器	甕底部	-	残存 3.3	にぶい黄橙色(10YR6/4)	胴内外:ナデ	07002376
図136-11	SH11068	埋土中	弥生土器	甕底部	-	残存 3.2	外:灰黄褐色(10YR5/2) 内:黒褐色(7.5YR 1/3)	胴外:ヘラケズリ 胴内:ハケ目	07002375
図136-12	SH11068	埋土中	弥生土器	甕底部	-	残存 3.3	にぶい褐色(7.5YR 5/4)	底外:ナデ 底内:指ナデ	07002374
図136-13	SH11068	埋土中	弥生土器	二重 口縁壺	(32.8)	残存 10.8	外:にぶい黄橙色 (10YR 6/3) 内:明黄褐色(10YR6/6)	口外上:ミガキ 口外下:ハケ目 口内:ハケ後ミガキ 端:ヨコナデ 突:ヨコナデ	07002365
図136-14	SH11068	埋土中	弥生土器	二重 口縁壺	-	残存 4.5	橙色(5YR 6/6)	口全面:ヨコナデ	07002377
図136-15	SH11068	埋土中	弥生土器	鉢	(12.0)	7.2	にぶい黄橙色(10YR7/4)	全面:ナデ	07002368
図136-16	SH11068	埋土中	土師器	鉢	(12.9)	6.5	橙色(7.5YR 6/8)	口外:ハケ後ナデ 肩外:ミガキ 胴外:ハケ後ミガキ 口内:ハケ目　胴内:ナデ	07002370
図136-17	SH11068	埋土	土師器	高杯	-	残存 7.8	外:明赤褐色(5YR 5/6) 内:灰褐色(7.5YR 5/2)	脚外:ミガキ 脚内:ナデ	07002373
図136-18	SH11068	埋土	土師器	高杯	-	残存 7.6	明赤褐色(5YR 5/6)	脚外:ハケ後ミガキ 杯内:ハケ目　裾下:ナデ	07002371
図136-19	SH11068	埋土中	土師器	小型 器台	-	残存 6.0	にぶい黄橙色(10YR7/4)	裾外:ハケ目 脚外:ヨコナデ 裾内:ハケ後ナデ 裾端:ナデ	07002372
図137-1	SH11069	上層	土師器	甕	(15.0)	残存 10.8	外:にぶい黄色(2.5Y6/3) 内:黄灰色(2.5Y 4/1)	口:ヨコナデ 胴内:ヘラミガキ 肩内:ナデ	07002723
図137-2	SH11069	上層	土師器	鉢	(12.8)	残存 8.3	黄褐色(10YR 5/6) 黒褐色(2.5Y 3/1)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ後ヘラミガキ 胴内:ヘラミガキ	07002721
図137-3	SH11069	上層	土師器	鉢	(12.1)	残存 4.9	淡黄色(2.5Y 8/3)	口外:ヨコナデ 胴内外:ナデ	07002722

表 16　竪穴住居出土土器一覧表（6）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図137-4	SH11069	-	土師器	高杯	16.8	11.9	橙色(5YR 7/6)	内外共に不明瞭 脚部内側:ヘラケズリ痕	07002718
図137-5	SH11069	上層	土師器	高杯	-	残存 6.4	外:橙色(7.5YR 7/6) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	外脚:ヘラミガキ 内脚:ナデ 内外裾:ハケ目	07002720
図137-6	SH11069	上層	土師器	高杯	-	残存 8.5	橙色(5YR 6/6)	裾内～脚外:ハケ後ナデ 脚内:指押さえ	07002719
図137-7	SH11081	覆土	弥生土器	甕	26.2	残存 15.6	橙色(5YR 6/6)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目　胴内:ナデ	07002256
図137-8	SH11081	覆土	弥生土器	甕	(24.4)	残存 10.5	橙色(5YR 6/6)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目　胴内:ナデ	07002257
図137-9	SH11081	覆土	弥生土器	甕	(24.8)	-	にぶい橙色(7.5YR 6/4)	口:ヨコナデ 胴内外:ナデ	07002261
図137-10	SH11081	覆土	弥生土器	甕	(25.8)	残存 9.8	橙色(5YR 6/6)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目　胴内:ナデ	07002260
図137-11	SH11081	覆土	弥生土器	甕	-	残存 5.7	にぶい橙色(5YR 7/4)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目　胴内:ナデ	07002262
図138-1	SH11081	覆土	弥生土器	甕底部	-	残存 2.0	淡赤橙色(2.5YR 7/4)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ底外:ナデ	07002259
図138-2	SH11081	覆土	弥生土器	甕底部	-	残存 4.3	橙色(5YR 6/6)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ底外:ナデ	07002258
図138-3	SH11081	覆土	弥生土器	甕	-	残存 17.4	にぶい橙色(5YR 6/4)	胴内外:ハケ目 突:ヨコナデ	07002263
図138-4	SH11081	覆土	弥生土器	甕	-	残存 12.5	にぶい橙色(5YR 7/4)	胴内外:ハケ目 突:ヨコナデ	07002264
図138-5	SH11082	竈	土師器	甑	(27.3)	残存 4.8	にぶい黄褐色(10YR5/3)	口:ヨコナデ 胴外:工具ナデ 胴内:ヘラケズリ	07002725
図138-6	SH11082	竈	土師器	甑	(27.8)	残存 3.3	にぶい黄橙色(10YR7/3)	口:ヨコナデ 胴内:ヘラケズリ	07002724
図138-7	SH11082	竈	土師器	甑	(20.1)	残存 3.9	外:にぶい橙色(5YR6/4) 内:にぶい橙色(7.5YR7/3)	口:ヨコナデ 胴内:ヘラケズリ	07002726
図138-8	SH11082	覆土	弥生土器	甕	-	残存 7.0	外:にぶい黄橙色 (10YR 6/3) 内:にぶい橙色 (7.5YR6/4)	胴内外:ハケ目 底外:ナデ	07002730
図138-9	SH11082	覆土	弥生土器	高杯	(18.1)	残存 7.5	外:にぶい赤褐色 (5YR5/4) 内:橙色(5YR 6/6)	口:ハケ後ナデ 杯外:ハケ後ナデ 底内:ヘラミガキ	07002728
図138-10	SH11082	覆土	弥生土器	壺	(18.1)	残存 7.2	浅黄橙色(7.5YR 8/4)	不明瞭	07002729
図138-11	SH11082	覆土	弥生土器	甕	(21.9)	残存 7.5	外:橙色(5YR 6/6) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	全面ハケ目	07002727
図139-1	SH11094	-	弥生土器	甕	-	残存 3.0	橙色(5YR 6/6)	口:ヨコナデ 体内外:ナデ	07002736
図139-2	SH11094	-	弥生土器	甕	-	残存 7.7	にぶい褐色(7.5YR 5/4)	頸内外:ヨコナデ 胴外:ヘラミガキ 胴内:工具ナデ	07002734
図139-3	SH11094	-	弥生土器	甕	-	残存 4.5	外:橙色(7.5YR 6/6) 内:にぶい橙色 (7.5YR6/4)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	07002735
図139-4	SH11095	覆土	弥生土器	甕	-	残存 1.9	にぶい褐色(7.5YR 5/4)	全面:ヨコナデ	07002738
図139-5	SH11095	覆土	弥生土器	甕	-	残存 1.7	にぶい橙色	全面:ナデ	07002740
図139-6	SH11095	覆土	弥生土器	甕	-	残存 3.6	にぶい橙色(7.5YR 7/4)	胴外:ヨコナデ 胴内:ナデ　口上端:ナデ	07002739
図139-7	SH11095	覆土	弥生土器	器台	-	残存 2.3	明赤褐色(2.5YR 5/6)	口:ヨコナデ 胴内外:ヘラミガキ	07002737
図139-8	SH11095	覆土	弥生土器	器台	-	残存 4.0	外:にぶい黄橙色(10YR7/3) 内:にぶい橙色(7.5YR7/4)	全面:ナデ	07002741

表 17　竪穴住居出土土器一覧表（7）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図139-9	SH11096	覆土	土師器	甕	-	残存 3.7	浅黄橙色(7.5YR 8/4)	頸:ヨコナデ 胴外:ハケ目胴内:ヘラケズリ	07002733
図139-10	SH11096	覆土	-	壺底部	-	残存 3.4	橙色(7.5YR 6/6)	胴外:ヘラナデ 胴内:工具ナデ 底外:ナデ	07002732
図139-11	SH11096	覆土	弥生土器	高杯(脚)	-	残存 6.0	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/3) 内:橙色(7.5YR 7/6)	脚内外:ナデ	07002731
図139-12	SH11098	覆土	弥生土器	甕	-	残存 4.0	外:浅黄橙色(7.5YR 8/4) 内:橙色(5YR7/6)	口:ヨコナデ 胴内外:ナデ	07002744
図139-13	SH11098	覆土	弥生土器	壺	-	残存 2.0	にぶい橙色(7.5YR 7/4)	全面:ヨコナデ	07002743
図139-14	SH11098	覆土	弥生土器	甕底部	-	残存 2.2	外:にぶい橙色(7.5YR7/4) 内:にぶい黄橙色 (10YR7/3)	底外:ナデ 底内:不明瞭	07002742
図140-1	SH11110	一括	土師器	高杯	-	残存 5.9	にぶい橙色(5YR 6/4)	脚外:ミガキ　脚内上:ナデ 脚内下:ハケ目	07002277
図140-2	SH11110	覆土	土師器	甑	-	残存 6.7	橙色(5YR 6/6)	口外:ハケ後ヨコナデ 口内～端:ヨコナデ 胴外:ハケ目？ 胴内:ケズリ	07002278
図140-3	SH11110	一括	弥生土器	甕	-	残存 3.3	外:灰黄褐色(10YR5/2) 内:にぶい橙色 (7.5YR7/4)	ヨコナデ	07002281
図140-4	SH11110	覆土	土師器	甕	-	残存 4.8	外:橙色(7.5YR 7/6) 内:にぶい橙色 (10YR7/4)	口内～外肩:ヨコナデ 胴内:ハケ目	07002279
図140-5	SH11110	一括	弥生土器?	甕底部	-	残存 3.0	外:橙色(7.5YR 7/6) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	底外:ハケ目 底内:ナデ	07002280
図140-6	SH11111	覆土	土師器	高杯	20.0	残存 6.5	橙色(5YR 6/6)	杯内外:ハケ後ミガキ 端:ヨコナデ	07002265
図140-7	SH11111	覆土	弥生土器?	甕底部	-	残存 1.8	外:にぶい褐色 (7.5YR 5/3) 内:にぶい橙色 (5YR 7/3)	胴内外:ハケ目 底外:ナデ	07002269
図140-8	SH11111	P-1	弥生土器	甕	(21.4)	残存 4.4	浅黄橙色(10YR 8/4)	口:ヨコナデ 胴内:ナデ　胴外:ハケ目	07002276
図140-9	SH11111	覆土	弥生土器	甕底部	-	残存 5.1	外:淡赤橙色(2.5YR 7/4) 内:にぶい黄橙色 (10YR 6/3)	胴外:ナデ 胴内:ハケ目	07002267
図140-10	SH11112	竈	土師器	甕	16.2	残存 15.8	外:橙色(5YR 6/6) 内:橙色(5YR 6/6)	口:ヨコナデ 胴外:ナデ胴内:ヘラケズリ	07002404
図140-11	SH11112	覆土	土師器	甕	(17.7)	残存 7.5	外:灰褐色(7.5YR5/2) 内:灰褐色(7.5YR4/2)	口:ヨコナデ 胴内:指ナデ　胴外:ナデ	07002406
図140-12	SH11112	覆土	土師器	甕底部	-	残存 8.5	外:にぶい赤褐色 (5YR 5/4) 内:橙色(5YR 6/6)	胴内外:ナデ	07002408
図140-13	SH11112		土師器	甑	(28.2)	残存 10.6	外:にぶい褐色 (7.5YR 6/3) 内:にぶい黄橙色 (10YR 6/3)	口:ヨコナデ 胴内外:ナデ	07002407
図140-14	SH11112	竈	土師器	甑	(26.0)	残存 15.2	外:にぶい橙色(7.5YR 6/4) 内:にぶい橙色(7.5YR 6/4)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ヘラケズリ ロクロ回転:右方向	07002405
図141-1	SH11112	覆土	須恵器	高杯	12.2	16.0	灰白色(10Y 7/1)	杯内外: 回転ケズリ後ヨコナデ 杯底:回転ケズリ後 ヨコナデ 脚外:ヨコナデ 櫛描列点文有	03000261

表 18　竪穴住居出土土器一覧表 (8)

＊法量の（ ）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図141-2	SH11112	覆土	土師器	高杯	-	残存 6.4	外:にぶい橙色 (7.5YR7/4) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	杯底内:ヘラミガキ？脚 ～裾外:ヘラミガキ 後ナデ 裾内:ナデ？	07002409
図141-3	SH11112	覆土	弥生土器	器台	-	残存 7.6	にぶい橙色(7.5YR 7/4)	内外:ナデ	07002410
図141-4	SH11113	-	弥生土器	甕	-	残存 1.5	橙色(7.5YR 7/6)	ヨコナデ	07002275
図141-5	SH11113	-	弥生土器	甕	-	残存 2.0	にぶい橙色(5YR 7/4)	ヨコナデ	07002274
図141-6	SH11113	-	弥生土器	甕底部	-	残存 4.2	橙色(5YR 6/6)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ底部:ナデ	07002273
図141-7	SH11113	-	弥生土器	甕底部	-	残存 4.7	にぶい橙色(5YR 6/4)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ底部:ナデ	07002272
図141-8	SH11113	-	弥生土器	壺底部	-	残存 8.0	浅黄橙色(10YR 8/3)	底内外:ナデ	07002266
図141-9	SH11113	-	弥生土器	甕底部	-	残存 3.8	外:灰黄褐色 (10YR6/2) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	胴外:ナデ 胴内:工具ナデ？	07002271
図141-10	SH11113	-	弥生土器	甕底部	-	残存 3.5	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	胴内外:ハケ目 底外:ナデ	07002268
図141-11	SH11113	-	弥生土器	器台	-	残存 14.2	橙色(5YR 6/6)	頸内:ナデ　裾内:指ナデ 裾内下:ハケ目 裾端:ナデ　裾外:ハケ目	07002270
図141-12	SH11121	覆土	弥生土器	甕	-	残存 4.1	橙色(5YR 6/6)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目　胴内:ナデ	07002751
図141-13	SH11121	覆土	弥生土器	壺	-	残存 14.0	橙色(5YR 6/6)	胴内外:ナデ 突:ヨコナデ	07002749
図141-14	SH11121	覆土	弥生土器	壺	-	残存 8.2	橙色(5YR 6/8)	胴内外:ヘラミガキ 突帯:ヨコナデ	07002750
図141-15	SH11121	覆土	弥生土器	甕	(17.2)	残存 5.7	外:浅黄橙色 (10YR8/3) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	全面:回転ナデ	07002746
図142-1	SH11121	覆土	弥生土器	甕	-	残存 5.2	灰白色(10YR 8/2)	胴外:ナデ 体内:不明 底部:ナデ	07002747
図142-2	SH11121	覆土	弥生土器	甕	-	残存 3.5	橙色(5YR 6/6)	全面:ナデ	07002748
図142-3	SH11121	覆土	土師器	甕	-	残存 13.7	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	全面:ナデ	07002745
図142-4	SH11121	-	土師器	甕	13.3	12.7	外:橙色(5YR 7/6) 内:橙色(5YR 6/8)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目(一部部ナデ) 胴内:ヘラケズリ 底部:ナデ	03000253
図142-5	SH11122	覆土	弥生土器	器台	-	残存 4.0	外:にぶい橙色(5YR 7/3) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	全面:ナデ	07002782
図142-6	SH11127	覆土	弥生土器	甕	(25.9)	残存 9.0	外:にぶい橙色(5YR 7/4) 内:橙色(5YR 6/6)	口:ヨコナデ 外:ハケ目　内:ナデ	07002752
図142-7	SH11127	覆土	弥生土器	甕	(18.6)	残存 3.8	にぶい橙色(5YR 7/4)	口:ヨコナデ 外:ハケ目　内:ナデ"	07002753
図142-8	SH11127	覆土	弥生土器	甕	-	残存 5.0	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	口～胴外:ヨコナデ 胴内:ナデ	07002757
図142-9	SH11127	覆土	弥生土器	甕	-	残存 5.6	にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	口:ヨコナデ 胴内外:ハケ目	07002754
図142-10	SH11127	覆土	弥生土器	甕	-	残存 4.4	外:にぶい橙色 (7.5Y R 7/4) 内:にぶい橙色(7.5YR6/4)	口～胴外:ヨコナデ 胴内:ナデ	07002756
図142-11	SH11127	覆土	弥生土器	甕	-	残存 3.4	橙色(5YR 7/6)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目　胴内:ナデ	07002755

表 19　竪穴住居出土土器一覧表 (9)

＊法量の（ ）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図142-12	SH11127	覆土	弥生土器	甕底部	-	残存 5.5	外:にぶい橙色 (7.5YR 7/3) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	胴外:ハケ目胴内:ナデ 底外:ナデ	07002760
図142-13	SH11127	覆土	弥生土器	甕底部	-	残存 5.2	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/3) 内:浅黄橙色 (10YR8/3)	胴外:ハケ目胴内:ナデ 底外:ナデ	07002758
図142-14	SH11127	覆土	弥生土器	甕底部	-	残存 4.2	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/3) 内:にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	07002759
図143-1	SH11129	覆土	弥生土器	甕	14.1	残存 11.0	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	口:ヨコナデ 胴内外:ハケ後ナデ	07002378
図143-2	SH11129	覆土	弥生土器	甕	-	残存 17.7	明赤褐色(2.5YR 5/6)	頸外:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴外下:ハケ後ナデ？ 胴内:ハケ目	07002383
図143-3	SH11129	覆土	弥生土器	甕	-	残存 15.2	褐色(7.5YR 4/4)	胴内外:ハケ目 底内外:ナデ	07002379
図143-4	SH11129	覆土	弥生土器	台付鉢	-	残存 8.4	橙色 (2.5YR 5/6) 脚部:黒褐色 (10YR 3/1)	杯外:ハケ後ナデ 杯内:ナデ 脚部:ハケ目 裾外:ヨコナデ 裾内:ナデ	07002382
図143-5	SH11129	覆土	弥生土器	鉢	(10.6)	3.9	明赤褐色(5YR 5/6)	胴外:ハケ目 胴内～口:ハケ後ナデ	07002380
図143-6	SH11129	覆土	弥生土器	鉢	(11.0)	5.5	橙色(5YR 7/6)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ミガキ	07002381
図143-7	SH11129	覆土	弥生土器	甕	(27.7)	残存 15.5	橙色(7.5YR 6/6)	口:ヨコナデ 胴内外:ナデ　内:ナデ	07002384
図143-8	SH11130	R－35・36	土師器	甕	(18.8)	残存 6.6	橙色(7.5YR 6/6)	口:ナデ　胴体:ハケ目？ 胴内:ヘラケズリ	07002783
図143-9	SH11130	R－35・36	土師器	高杯	-	残存 6.8	外:にぶい橙色 (5YR 7/6) 内:にぶい橙色 (5YR 7/4)	脚内外:工具ナデ 裾端:ナデ	07002785
図143-10	SH11130	R－35・36	土師器	壺	(10.7)	残存 6.6	橙色(7.5YR 7/6)	口内外:ヘラミガキ 端:ナデ	07002784
図143-11	SH11131	-	弥生土器	甕	(25.5)	-	橙色(5YR 7/6)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目　胴内:ナデ	07002385
図143-12	SH11131	-	土師器	壺？	-	残存 1.5	灰褐色(7.5YR 5/2)	胴外:ミガキ？ 胴内:ナデ 底外:ナデ	07002388
図143-13	SH11131	-	弥生土器	甕	-	残存 5.5	外:黄橙色 内:にぶい橙色	胴外:ハケ目　胴内:ナデ 底外:ナデ	08000655
図143-14	SH11131	-	弥生土器	支脚	-	残存 6.0	橙色(7.5YR 7/6)	ナデ	07002386
図143-15	SH11131	-	弥生土器	支脚	-	残存 3.2	橙色(7.5YR 7/6)	ナデ	07002387
図143-16	SH11131	-	弥生土器	甕	-	残存 14.0	外:にぶい橙色(7.5YR7/3) 内:にぶい黄橙色(7.5YR7/4) 内面一部:灰褐色(7.5YR5/2)	胴外:ハケ目 胴内:ハケ目 突:ヨコナデ	08000654
図144-1	SH11138	-	土師器	甕	(20.8)	残存 19.3	灰黄色(2.5Y 6/2)	口:ヨコナデ 肩内:ナデ 胴外:ハケ後ナデ？ 胴内:ヘラケズリ	07002770
図144-2	SH11138	-	土師器	甕	(15.1)	残存 4.6	外:にぶい黄橙色 (10YR 6/3) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	口:回転ナデ 肩外:ハケ目 肩内:ヘラケズリ 頸内:ナデ	07002771
図144-3	SH11138	-	土師器	甕	(14.2)	残存 6.9	外:浅黄橙色 (7.5YR 8/4) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	口:回転ナデ 胴外:ナデ 内体:ヘラケズリ 頸内:ナデ	07002772

表 20　竪穴住居出土土器一覧表（10）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図144-4	SH11138	-	土師器	甕	(16.0)	残存 12.5	橙色(5YR 6/6)	口内:ハケ目 端～口外:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ヘラケズリ	07002773
図144-5	SH11138	-	土師器	甕	(17.1)	残存 4.0	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	口内:ハケ目 端～外肩:回転ナデ 肩内:ヘラケズリ	07002774
図144-6	SH11138	-	土師器	甕	(17.3)	-	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	口外:ヨコナデ 端:ナデ外肩:ナデ 胴内:ヨコナデ	07002596
図144-7	SH11138	-	土師器	甕	12.2	14.3	明黄褐色(10YR 6/6)	端:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内～口内:ハケ目 底外:カキケズリ 底内:ケズリ	07002597
図144-8	SH11138	-	弥生土器	壺	(17.2)	-	浅黄橙色(7.5YR 8/3)	胴内外:ヨコナデ (外下にハケ後ナデ)	07002595
図144-9	SH11138	-	土師器	高杯	(20.55)	残存 7.95	外:橙色(5YR 7/6) 内:橙色(5YR 7/8) 褐灰色(10YR 6/1)	口:ヨコナデ 杯外:ナデ 杯内:不明瞭､杯底:ナデ 体稜:ヨコナデ 黒斑あり	03000235
図144-10	SH11138	-	土師器	器台	-	残存 3.4	橙色(5YR 7/6)	胴外:ヘラミガキ 胴内:ヘラケズリ痕	07002593
図144-11	SH11138	-	土師器	高坏	-	-	橙色(7.5YR 7/6)	杯外:ヨコナデ 杯内:ヘラミガキ	07002594
図144-12	SH11138	遺構検出時	土師器	鉢	4.9	3.3	外:にぶい橙色(7.5YR7/4) 内:にぶい黄橙色	胴外:指おさえ 胴内:ナデ	07002592
図145-1	SH11139	覆土	弥生土器	甕	(15.6)	残存 7.7	橙色(5YR 6/6)	口:ヨコナデ 肩内外:ハケ目	07002392
図145-2	SH11139	検出面 V･W-37･38	土師器	甕	(15.7)	残存 9.9	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	口:ヨコナデ　胴外:ナデ 頸内:ナデ 肩内:ケズリ？	07002396
図145-3	SH11139	覆土	土師器	甕	-	残存 4.6	橙色(7.5YR 7/6)	口～肩外:ヨコナデ 頸内:ナデ 肩内:ケズリ	07002391
図145-4	SH11139	覆土	弥生土器	壺	(13.6)	残存 4.5	橙色(7.5YR 6/6)	全面ヨコナデ？	07002389
図145-5	SH11139	検出面 V･W-37･38	弥生土器	壺	(15.8)	残存 5.6	明赤褐色(2.5YR 5/6)	胴外:ミガキ 胴内:ヨコナデ？	07002395
図145-6	SH11139	検出面 V･W-37･38	弥生土器	壺	-	残存 4.5	赤色顔料橙色 (2.5YR 6/6)	ミガキ？	07002399
図145-7	SH11139	P-1	弥生土器	甕底部	-	残存 5.7	にぶい褐色 (7.5YR 5/4)	胴外:ハケ後ナデ 胴内:ナデ	07002397
図145-8	SH11139	覆土	弥生土器	高杯	(21.4)	残存 5.8	橙色(5YR 6/6)	端:ヨコナデ 杯内外:ミガキ？	07002393
図145-9	SH11139	P-7	弥生土器	高杯	-	残存 3.2	にぶい褐色 (7.5YR 6/3)	脚外:ナデ 脚内:ケズリ 裾内:ハケ目	07002398
図145-10	SH11139	検出面 V･W-37･38	弥生土器	鉢	(9.6)	5.5	橙色(2.5YR 6/8)	胴内:ナデ　胴外:ハケ目 口:ヨコナデ 底外:ナデ	07002394
図145-11	SH11140		弥生土器	甕	-	残存 19.6	外:にぶい赤褐色 (5YR 5/4) 内:にぶい褐色(7.5YR5/3)	胴外:ハケ目 胴内下:ナデ 胴内上:ハケ目	07002565
図145-12	SH11140		弥生土器	甕	-	残存 5.3	外:にぶい橙色(7.5YR7/4) 内:にぶい黄橙色(10YR 6/4)	ナデ	07002557
図145-13	SH11140	覆土	弥生土器	壺	(15.4)	残存 10.65	橙色(5YR 7/6)	口内:ナデ 端:ヨコナデ 胴内外:ハケ目	07002556
図145-14	SH11140	覆土	弥生土器	鉢	(11.2)	残存 3.9	外:浅黄橙色(7.5YR 8/4) 内:橙色(7.5YR 7/6)	口内:ハケ目？ 胴内外:ナデ	07002558
図145-15	SH11140		弥生土器	鉢	8.8	5.1	外:橙色 内:橙色		08000660
図146-1	SH11142	覆土	須恵器	杯蓋	(16.6)	残存 3.7	灰オリーブ色(5Y 6/2)	回転ナデ	07002563
図146-2	SH11142		土師器	甑	(17.4)	残存 9.2	外:橙色(5YR 7/6) 内:にぶい橙色(7.5YR7/4)	口内:ヨコナデ 胴外:工具ナデ 胴内:指圧痕？	07002564

表 21　竪穴住居出土土器一覧表（11）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図146-3	SH11142		弥生土器	甕	-	残存 4.2	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	胴外:ヨコナデ 胴内:ハケ目	07002559
図146-4	SH11142	竈	土師器	壺	(13.0)	残存 7.5	橙色(7.5YR 6/6)	胴外:ミガキ 胴内:ハケ後ミガキ	07002561
図146-5	SH11142	P-8	土師器	鉢	(17.4)	残存 3.4	外:にぶい黄褐色 (10YR 5/3) 内:褐色(10YR 4/1)	端～肩外:ヨコナデ 胴内外:ミガキ	07002560
図146-6	SH11143		弥生土器	甕	-	残存 4.6	外:浅黄橙色(7.5YR 8/4) 内:にぶい橙色 (7.5YR7/4)	内:ナデ　外:ハケ？ 口縁部:ヨコナデ	07002058
図146-7	SH11143		弥生土器	器台	受部径 (8.1)	残存 10.0	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	端:ヨコナデ 外:ヘラミガキ 内:ナデ	07002056
図146-8	SH11143		弥生土器	器台	裾部径 (9.9)	残存 5.8	外:にぶい黄褐色(10YR 6/4) 内:にぶい橙色(7.5YR6/4)	端:ヨコナデ 外:ヘラケズリ 内:ナデ	07002057
図146-9	SH11143		弥生土器	器台	裾部径 (10.0)	残存 5.2	外:にぶい黄橙色(10YR 6/4) 内:にぶい橙色(7.5YR6/4)	ナデ	07002059
図146-10	SH11144		土師器	甕	(18.2)	残存 6.4	にぶい褐色 (7.5YR 5/4)	口外:ヨコナデ 口内:ハケ目 胴内外:ハケ目 頸内:ヨコナデ	07002607
図146-11	SH11144	包含層	土師器	甕	(22.2)	残存 12.2	外:橙色(7.5YR6/6) 内:明赤褐色(5YR5/6)	口:回転ナデ 頸外:指おさえ 胴外:ハケ目 体内上:ナデ 体内下:ハケ目	07002617
図146-12	SH11144		土師器	甕	(16.0)	残存 7.7	外:にぶい黄橙色(10YR 6/4) 内:明赤褐色(5YR 5/6)	口内外:ヨコナデ 体内外:ハケ目	07002608
図146-13	SH11144	包含層	土師器	壺	(22.1)	残存 5.9	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	口外:ハケ後回転ナデ 端:ナデ 体外:ハケ後ナデ 口内:ナデ 体内:ハケ目	07002610
図146-14	SH11144		土師器	甕	(15.9)	残存 11.0	外:にぶい黄橙色 (10YR 6/4) 内:橙色(7.5YR 6/6)	体外:ハケ目 体内:ハケ後ナデ 口縁部:ハケ後ナデ	07002618
図146-15	SH11144	包含層	土師器	甕	18.1		橙色(7.5YR 7/6)	口:回転ナデ 胴外:タタキ後ハケ目 胴内:ヘラケズリ 頸内:ナデ	07002616
図146-16	SH11144		弥生土器	甕	(30.3)	残存 14.4	橙色(5YR 7/6)	口外:ハケ後ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ヘラケズリ 突:ヨコナデ	07002609
図147-1	SH11144		土師器	甕	(19.7)	残存 7.5	外:にぶい黄橙色 内:黄灰色(2.5YR 4/1)	口:ハケ後ヨコナデ 胴内外:ハケ目	07002606
図147-2	SH11144		土師器	甕	-	残存 8.6	外:にぶい橙色 (7.5YR 6/4) 内:褐灰色(10YR 4/1)	口:回転ナデ 胴外:タタキ(ハケ目痕あり) 胴内:ヘラケズリ	07002611
図147-3	SH11144		弥生土器	甕底部	-	残存 8.0	外:橙色(7.5YR 6/6) 内:橙色(5YR 6/6)	胴外:工具ナデ 胴内:ナデ	07002613
図147-4	SH11144		-	壺底部	-	残存 4.4	にぶい褐色(7.5YR 5/4)	全面ナデ	07002605
図147-5	SH11144		弥生土器？	甕底部	-	残存 3.9	外:にぶい黄褐色(10YR 5/4) 内:灰褐色(7.5YR 4/2)	胴外:ナデ 胴内:ハケ目	07002604
図147-6	SH11144		弥生土器	高杯	21.4	残存 9.4	外:にぶい橙色 (7.5YR6/4) 内:明赤褐色(5YR5/6)	全面工具ナデ	07002598
図147-7	SH11144		土師器	高杯	18.6	残存 11.3	外:にぶい黄橙色 内:にぶい橙色 (7.5YR7/4)	脚内:ナデ その他:ミガキ	07002615
図147-8	SH11144		土師器	高杯	(22.4)	残存 7.0	明赤褐色(5YR 5/6)	全面ミガキ 端:ヨコナデ	07002614

表 22　竪穴住居出土土器一覧表（12）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図147-9	SH11144		弥生土器	甑	-	残存 3.5	外:にぶい橙色 (7.5YR6/4) 内:橙色(7.5YR 6/6)	全面ハケ目	07002601
図147-10	SH11144		弥生土器	台付杯	-	残存 5.4	外:にぶい橙色 (7.5YR6/4) 内:灰黄褐色(10YR 4/2)	全面ナデ	07002599
図147-11	SH11144		-	台付杯	-	残存 4.0	橙色(2.5YR 6/6)	外面:ヘラミガキ 内面:ナデ	07002603
図147-12	SH11144	包含層	弥生土器	台付杯	-	残存 1.8	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/3) 内:橙色(7.5YR 6/6)	全面ハケ目後ナデ	07002600
図147-13	SH11144		弥生土器	鉢	-	残存 5.1	橙色(5YR 6/8)	口:ハケ目 胴外:ナデ？ 胴内:ナデ	07002602
図147-14	SH11144		弥生土器	鉢	(11.2)	残存 5.6	明赤褐色(5YR 5/6)	口:回転ナデ 胴外:ヘラミガキ 胴内:ナデ	07002612
図147-15	SH11144		弥生土器	鉢	-	残存 8.2	外:橙色(5YR 6/6) 内:にぶい橙色 (7.5YR6/4)	胴外:タタキ後ナデ？ 胴内:ナデ	07002621
図147-16	SH11144		-	鉢	9.5	7.7	灰黄褐色(10YR 4/2)	胴外:ナデ 胴内:工具によるナデ	07002619
図147-17	SH11144		弥生土器	鉢	-	5.2	外:橙色(5YR 7/6) 内:暗灰黄色(2.5Y 4/2)	胴外:工具ナデ 胴内:ナデ	07002620
図147-18	SH11144	覆土	土師器	鉢	5.9	2.7	外:橙色(7.5YR 6/6) 内:にぶい褐色(7.5YR5/4)	全面ナデ	07002622
図148-1	SH11147	覆土	土師器	甕	(16.0)	残存 3.2	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/3) 内:橙色(5YR 7/6)	ヨコナデ	07001841
図148-2	SH11147	覆土	土師器	甕	(14.6)	残存 4.5	橙色(5YR 6/6)	ヨコナデ	07001840
図148-3	SH11147	覆土	土師器	甕底部	-	残存 3.3	外:浅黄橙色(10YR8/3) 内:にぶい黄橙色 (10YR 6/4)		07001845
図148-4	SH11147	覆土	弥生土器	二重口縁壺	-	-	外:橙色(5YR 6/6) 内:にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	口内～外突:ヨコナデ 外:ハケ後ナデ 内:ミガキ	07001842
図148-5	SH11147	覆土	土師器	台付鉢	-	残存 2.7	にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	杯内:ハケ後ヘラミガキ 脚～脚内:ハケ目	07001843
図148-6	SH11147	覆土	弥生土器	台付鉢	-	残存 1.4	橙色(7.5YR6/6) 内面の一部: にぶい黄橙色(10YR7/4)	ナデ	07001844
図148-7	SH11149		弥生土器	甕	(12.7)	残存 4.2	外:明褐色(7.5YR 5/6) 内:橙色(7.5YR 6/6)	端:ヨコナデ 外:ハケ後ヨコナデ 内口:ハケ後ヨコナデ 肩内:ナデ	07002063
図148-8	SH11149		弥生土器	壷	(10.9)	残存 4.8	外:黒褐色(10YR 3/2) 内:褐色(7.5YR 4/6)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ハケ後ナデ	07002062
図148-9	SH11149		弥生土器	甕底部	-	残存 7.3	外:にぶい黄褐色 (10YR 5/4) 内:橙色(5YR 6/6)	胴外:ミガキ？ 胴内:ナデ底外:ナデ	07002064
図148-10	SH11149		土師器	壺	(12.4)	14.2	外:にぶい橙色 (5YR 6/4) 内:橙色(5YR 6/6)	口端:ヨコナデ 胴外下:ハケ目後ナデ 胴外上:ハケ目 胴内:ナデ指頭圧痕	03000231
図148-11	SH11149		土師器	鉢	(10.6)	8.4	橙色(5YR 6/6)	口外:ヨコナデ 口内:ハケ後ヨコナデ 胴内外:ヘラミガキ	03000234
図148-12	SH11149	覆土	弥生土器	鉢	(16.0)	残存 17.5	外:灰黄褐色 (10YR 4/2) 内:にぶい黄褐色 (10YR 5/3)	口:ヨコナデ 胴外上:ハケ目 胴外体:タタキ後工具ナデ 胴内:ハケ目 底外:ナデ	07002065

表 23　竪穴住居出土土器一覧表（13）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図149-1	SH11149		弥生土器	鉢	(14.1)	残存 9.2	明赤褐色(5YR 5/6)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ後ナデ 胴内下:ナデ(指？) 胴内体:ハケ目	07002061
図149-2	SH11149		土師器	鉢	11.8	6.2	外:橙色(5YR 7/6) 内:橙色(7.5YR 7/6)	胴外:ナデ 胴内上:ハケ目 胴内下:ナデ	03000258
図149-3	SH11149		弥生土器	鉢	(20.3)	残存 10.5	外:明赤褐色(5YR 5/6) 内:橙色(7.5Y 6/6)	口:ヨコナデ 胴内外:ハケ目	07002060
図149-4	SH11150		土師器	壺	(14.7)	残存 7.0	橙色(7.5YR 6/6)	口:ヨコナデ 胴外:タタキ？後ナデ 胴内:ナデ	07002411
図149-5	SH11150		土師器	器台	(9.6)	残存 2.6	外:にぶい橙色(7.5YR7/4) 内:橙色(7.5YR 7/6)	杯外、口内外:ヨコナデ 杯底内:ミガキ	07002412
図149-6	SH11150	遺構検出面	土師器	高杯	-	残存 4.3	外:にぶい黄橙色(10YR7/4) 内:淡橙色(5YR 8/4)	裾内外:ハケ目	07002414
図149-7	SH11150		土師器	高杯	-	残存 10.5	灰白色(7.5YR 8/2)	脚外:不明瞭 脚内:ナデ	07002413
図149-8	SH11151		弥生土器	甕	(12.5)	残存 5.0	外:にぶい橙色(5YR 7/4) 内:にぶい橙色 (7.5YR6/4)	口外:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ハケ後ナデ	07002417
図149-9	SH11151		弥生土器	甕	(16.8)	残存 3.3	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/4) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	胴外:ヨコナデ 胴内:ハケ目	07002416
図149-10	SH11151		弥生土器	器台	-	残存 3.8	外:にぶい黄橙色 (10YR 6/3) 内:にぶい橙色 (7.5YR6/4)	端:ヨコナデ 脚外:ハケ後ナデ 脚内:ナデ	07002415
図149-11	SH11151		弥生土器	台付甕？	-	残存 3.7	外:にぶい橙色(5YR 6/4) 内:オリーブ黒色(5Y 3/1)	全面:ナデ	07002418
図149-12	SH11152		弥生土器	甕	(16.3)	残存 8.5	外:にぶい黄褐色 (10YR 5/3) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/2)	口外:ヨコナデ 口内:ハケ目 体外:タタキ 体内:ハケ後ナデ 端:ヨコナデ	07002544
図149-13	SH11152		弥生土器	鉢	-	-	にぶい褐色(7.5YR 6/3)	全面:ヨコナデ	07002545
図150-1	SH11154		弥生土器	甕	-	残存 2.5	橙色(2.5YR 6/6)	全面:ヨコナデ	07002423
図150-2	SH11154		弥生土器	鉢	(31.2)	残存 3.5	浅黄橙色(7.5YR 8/4)	全面:ヨコナデ	07002419
図150-3	SH11154		土師器	壺	-	残存 3.4	にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	頸内外:ヨコナデ 胴内:ケズリ	07002422
図150-4	SH11154		土師器	高杯	-	残存 2.8	外:橙色(7.5YR 7/6) 内:橙色(5YR 7/6)	外面:ヨコナデ 内面:ナデ 脚部内:ヨコナデ	07002424
図150-5	SH11154		土師器	鉢	(16.3)	残存 6.4	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/4) 内:にぶい黄橙色 (10YR 6/3)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ後ナデ 胴内:ナデ	07002420
図150-6	SH11154		土師器	鉢	(17.2)	残存 6.3	外:橙色(7.5YR 6/8) 内:灰黄褐色 (10YR 6/2)	口:ヨコナデ 頸外:ハケ後ナデ 胴外:ナデ？ 胴内:ナデ	07002421
図150-7	SH11159		土師器	甕	(19.0)	残存 13.5	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	口:ヨコナデ 頸外:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	07002575
図150-8	SH11159		土師器	甕	(18.2)	残存 4.0	外:暗灰色(2.5Y 4/3) 内:浅黄色(2.5Y 7/4)	口:ヨコナデ 頸内外:ナデ	07002573
図150-9	SH11159		土師器	甕	-	残存 3.6	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	胴外上:ヨコナデ 胴外下:ナデ　胴内:ナデ	07002574
図150-10	SH11159		弥生土器	甕底部	-	残存 4.2	にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	全面:ナデ	07002570
図150-11	SH11159		弥生土器	甕底部	-	残存 2.5	外:にぶい橙色 (7.5YR 6/4) 内:橙色(7.5YR 6/6)	胴内外:ハケ目後ナデ？ 底外:ナデ	07002569

表 24　竪穴住居出土土器一覧表（14）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図150-12	SH11159		弥生土器	壺	(20.6)	残存 5.2	橙色(5YR 6/6)	口縁:ヨコナデ 頸部外:ハケ目 頸部内:ナデ	07002571
図150-13	SH11159		弥生土器	壺	(16.2)	残存 4.7	にぶい黄橙色 (10YR 6/3)	口:ナデ 頸付根:ナデ 頸内外:ハケ目	07002566
図150-14	SH11159	焼土	弥生土器	鉢	12.0	4.6	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/3) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	口:ヨコナデ 胴内外:ナデ	07002568
図150-15	SH11159	検出面	土師器	鉢	(12.2)	残存 4.9	橙色(7.5YR 7/6)	口:ヨコナデ 胴外:ナデ 胴内:ヨコナデ 底内:ナデ	07002567
図150-16	SH11159		土師器	鉢	(14.4)	残存 3.2	外:にぶい橙色 (10YR6/4) 内:橙色(7.5YR 6/8)	胴外:ヨコナデ 胴内:ナデ	07002572
図151-1	SH11160		土師器	甕	(16.7)	残存 3.0	にぶい黄色 (2.5Y 6/4)	全面:ヨコナデ	07002321
図151-2	SH11160	覆土	土師器	甕	-	残存 3.2	橙色(7.5YR 7/6)	口内外:ヨコナデ 胴内外:ナデ	07002318
図151-3	SH11160	覆土	土師器	高杯 (杯部)	-	残存 3.8	明赤褐色(2.5YR 5/6)		07002322
図151-4	SH11160	覆土	弥生土器	鉢	(9.0)	6.6	橙色(5YR 6/6)	口:ヨコナデ 胴外:粗いハケ目後ナデ? 胴内:ナデ	07002315
図151-5	SH11160	覆土	土師器	鉢	(9.5)	残存 4.3	橙色(5YR 6/6)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ミガキ	07002320
図151-6	SH11160	覆土	土師器	鉢	(10.8)	残存 5.0	にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	口:ヨコナデ 胴内外:ナデ	07002317
図151-7	SH11160	覆土	土師器	台付鉢	-	残存 1.7	明赤褐色(2.5YR 5/6)	端:ナデ 裾外:ハケ目(不明瞭) 裾内:ハケ目(ナデ有り?)	07002319
図151-8	SH11160	覆土	土師器	器台	-	残存 2.2	橙色(5YR 6/6)	全体:ミガキ	07002316
図151-9	SH11165	検出面	弥生土器	甕	-	残存 2.7	にぶい黄橙色 (10YR 6/3)	口外:ヨコナデ 口内:ハケ目 内頸部:ナデ	07002331
図151-10	SH11165	検出面	弥生土器	甕 (底部)	-	残存 3.0	橙色(5YR 7/6)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ　底外:ナデ	07002330
図151-11	SH11165		弥生土器	甕 (底部)	-	残存 4.0	外:橙色 内:にぶい黄色(2.5Y 6/4)	胴外:ナデ 胴内:ハケ目 底外:工具ナデ?	07002329
図151-12	SH11166	覆土	弥生土器	甕	(21.1)	残存 14.6	にぶい黄橙色 (10YR 6/3)	口外:ハケ後ナデ 口内:ナデ? 端:ヨコナデ 体内外:ハケ目	07002337
図151-13	SH11166	覆土	弥生土器	甕	-	残存 6.6	橙色(5YR 7/6)	上端外側付近:ナデ 端:ヨコナデ 口内:ハケ目 頸内:ナデ 胴外:ハケ目(不明瞭) 胴内:ハケ目	07002339
図151-14	SH11166	覆土	土師器	壺	(18.5)	残存 7.9	橙色(7.5YR 7/6)	口:ナデ 頸上:ヨコナデ 頸外:ナデ 頸内:ヨコナデ	07002340
図151-15	SH11166	包含層	弥生土器	鉢	(18.2)	残存 9.7	明赤褐色(5YR 5/6)	口外:ハケ目 口内:ナデ 体外:ナデ 体内:ハケ目 底内:ナデ	07002338
図151-16	SH11166	覆土	弥生土器	鉢	-	残存 5.0	にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	口:ナデ 胴外:ナデ 体内:ケズリ	07002335
図151-17	SH11166	覆土	弥生土器	鉢	(5.8)	4.0	褐灰色(10YR 4/1)	全面:ナデ	07002334
図151-18	SH11166	覆土	土師器	高杯	-	残存 3.8	橙色(7.5YR 6/6)	杯､脚外:ナデ? 脚内:ナデ	07002336
図151-19	SH11166		弥生土器	鉢	12.4	残存 7.5	橙色(7.5YR 6/6)	口:ヨコナデ 胴外:ナデ 胴内:ハケ目	07002332
図151-20	SH11166	覆土	弥生土器	器台	-	残存 7.0	橙色(5YR 6/6)	端:指押さえ 胴外:ナデ 胴内:ナデ	07002333
図151-21	SH11166	覆土	弥生土器	支脚	4.8	13.3	橙色(7.5YR 6/6)	全面:ナデ工具痕あり	03000228

表 25　竪穴住居出土土器一覧表（15）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図152-1	SH11169		弥生土器	甕	(16.6)	-	橙色(7.5YR 7/6)	胴外:粗いハケ目 胴外上:ハケ目 内:ハケ目　端:ナデ	07001814
図152-2	SH11169		弥生土器	甕	(17.1)	-	灰褐色(7.5YR 4/2)	端:ナデ胴外:ハケ目 胴内:ハケ目	07001816
図152-3	SH11169	埋土中	弥生土器	甕	(14.0)	残存 17.1	外:にぶい黄褐色 (10YR 5/4) 内:褐色(7.5YR 4/3)	口外:ハケ後ヨコナデ 口端:ヨコナデ 胴外上:ハケ目 胴外下:タタキ後ナデ 胴内:ハケ目	07001806
図152-4	SH11169		弥生土器	甕	(18.5)	残存 6.9	橙色(5YR 6/6)	口内:ハケ目 胴外:ハケ目 端～外頸:ヨコナデ 胴内:ケズリ？	07001825
図152-5	SH11169		弥生土器	甕	-	残存 15.8	にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	内外:工具ナデ？	07001818
図152-6	SH11169		弥生土器	甕	(16.6)	残存 25.2	橙色(5YR 6/6)	口:ヨコナデ 胴外:ナデ 胴内:ハケ目	07001804
図153-1	SH11169	埋土中	弥生土器	甕	14.1	17.7	外:橙色(7.5YR 7/6) 内:にぶい橙色 (7.5YR7/4)	端～外頸:ナデ 胴外:ハケ一部ケズリ 胴内:ハケ目	07001805
図153-2	SH11169	検出面	土師器	壺	(19.3)	15.9	にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	口内:ハケ目 端～外頸:回転ナデ 胴外:ハケ目 胴外下:工具ナデ 胴内:ヘラケズリ(ハケ目)	07001811
図153-3	SH11169		弥生土器	壺	(12.6)	21.2	外:にぶい黄橙色 (10YR 5/3) 内:明褐色 (7.5YR 5/6)	口内～外体:ハケ目 胴外下:ハケ後ナデ 胴内:ハケ後ナデ 底:ナデ？	07001808
図153-4	SH11169	埋土中	弥生土器	壺	(13.9)	27.0	外:橙色(5YR 7/6) 内:橙色(5YR 6/6)	頸内～端:回転ナデ 胴外上:ハケ目 胴外下:ケズリ 胴内～頸内:ハケ目	07001809
図153-5	SH11169		弥生土器	壺	-	残存 18.3	橙色(7.5YR 6/6)	胴外下:工具ナデ 胴外上:ハケ目 胴内:ハケ目	07001810
図153-6	SH11169		弥生土器	壺	16.6	残存 7.5	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	口:ヨコナデ 肩外:ナデ 頸外:ハケ目 肩内:ナデ　頸内:ハケ目	07001803
図154-1	SH11169		弥生土器	片口 付鉢	-	14.6	外:.にぶい黄橙色 (10YR 6/3) 内:オリーブ黒色 (5Y3/1)	片口:ナデ 胴外:ヘラケズリ 胴内:ハケ目 底外:ナデ	07001807
図154-2	SH11169		土師器	壺	(10.2)	残存 13.0	外:橙色(7.5YR 7/6) 内:にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	口内:ハケ後ヘラミガキ 胴外:ヘラミガキ	07001802
図154-3	SH11169		弥生土器	鉢	(17.4)	-	橙色(7.5YR 7/6)	口:ハケ目　端:ナデ 外上:ハケ目 外下:ナデ？ 内底～内頸:ナデ	07001817
図154-4	SH11169		弥生土器	鉢	(15.6)	8.2	橙色(5YR 6/6)	端:ナデ 胴外上:ハケ目 胴外下:ナデ 内底～胴内:ナデ 胴内～口:ハケ目後ナデ	07001813
図154-5	SH11169	埋土中	弥生土器	鉢	(17.3)	12.5	外:橙色(5YR 6/6) 内:橙色(7.5YR 7/6)	外体下:ヘラミガキ 内体～外体:ハケ目 内底:ナデ　底部:ナデ	07001812
図154-6	SH11169	埋土中	弥生土器	鉢	(18.6)	-	橙色(7.5YR 6/6)	端:ケズリ 胴外上:ハケ目 胴外下:ケズリ 胴内下:ハケ目	07001815

表 26　竪穴住居出土土器一覧表（16）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図154-7	SH11169		弥生土器	小型器台	9.5	7.4	橙色(5YR 6/6)	杯端:ヨコナデ 杯内:ナデ後ハケ？ 外～裾端:ミガキ？ 裾内下:ハケ目 裾奥:ナデ	07001823
図154-8	SH11169		弥生土器	高杯	(12.4)	残存 7.7	外:明黄褐色(10YR6/6) 内:橙色(7.5YR6/6)	端:ヨコナデ 杯内:ミガキ 裾:ミガキ 裾:ナデ	07001819
図154-9	SH11169		弥生土器	高杯	-	残存 7.2	橙色(7.5YR 7/6)	外:ミガキ 杯内:ミガキ？ 裾しぼり部:ナデ	07001824
図154-10	SH11169	埋土中	弥生土器	高杯	22.9	残存 6.7	橙色(7.5YR 7/6)	杯外下:ハケ目？ 杯外上:ナデ後ハケ目 杯内底:ハケ目 端:ヨコナデ	07001820
図154-11	SH11169	埋土中 包含層	弥生土器	高杯	(22.3)	残存 4.4	橙色(7.5YR 7/6)	ヨコナデ	07001821
図154-12	SH11169	埋土	弥生土器	高杯	-	残存 4.6	橙色(7.5YR 7/6)	裾外:ハケ目 裾内しぼり部:ナデ 裾内下:ハケ目 裾端:ナデ	07001822
図154-13	SH11175	覆土	弥生土器	袋状口縁壺	(25.0)	-	にぶい黄褐色 (10YR 5/3)	外:ハケ目 内～口外:ヨコナデ	07002137
図154-14	SH11175	覆土	弥生土器	甕	15.0	残存 6.8	外:橙色(5YR 6/6) 内:にぶい橙色 (7.5YR 6/4)	胴外:ハケ目 内胴:工具ナデ？ 口外～頸:ヨコナデ 口内:ハケ目 端:ナデ	07002135
図154-15	SH11175	覆土	弥生土器	高杯	-	残存 6.7	橙色(5YR 7/6)	杯内外:ナデ 頸:ヨコナデ 裾内外:ハケ目 裾奥:ナデ	07002136
図155-1	SH11181		弥生土器	甕	-	残存 4.8	橙色(5YR 6/6)	胴外:ハケ後ヨコナデ 胴内:ハケ目 端:ヨコナデ	07002295
図155-2	SH11181		土師器	甕	(15.2)	残存 3.5	褐灰色(7.5YR 4/1)	口外:ハケ目 口内:ヨコナデ　端:ナデ	07002294
図155-3	SH11181		土師器	甕	-	残存 8.7	黒色(10YR 2/1)	頸外:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ケズリ後ナデ	07002293
図155-4	SH11181		弥生土器	甕	(16.9)	残存 4.5	にぶい黄褐色 (10YR 5/4)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	07002296
図155-5	SH11182		弥生土器	甕	(20.3)	残存 3.9	橙色(7.5YR 6/6)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	07002307
図155-6	SH11182		弥生土器	甕	-	残存 7.2	橙色(7.5YR 6/6)	胴外下:ハケ後ナデ 胴内下:ナデ 口～突外:ヨコナデ	07002309
図155-7	SH11182		弥生土器	器台	(11.0)	残存 4.8	橙色(7.5YR 6/6)	外:ハケ目 内:ナデ口:ヨコナデ	07002311
図155-8	SH11182		弥生土器	鉢	(15.0)	残存 3.1	外:にぶい褐色 (7.5Y R5/4) 内:褐灰色 (7.5YR 4/1)	口:ナデ 胴内外:ハケ目	07002314
図155-9	SH11182		土師器	鉢	-	残存 3.6	褐色(7.5YR 4/6)	胴内外:ナデ 口:ヨコナデ	07002310
図155-10	SH11182		土師器	高杯	-	残存 5.2	浅黄橙色(10YR 8/4)	杯内:ナデ	07002306
図155-11	SH11182		弥生土器	壺	-	残存 5.5	明赤褐色(2.5YR 5/6)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ	07002308
図155-12	SH11182		弥生土器	支脚	-	残存 2.6	橙色(5YR 6/6)	外:ハケ目 端外:ナデ	07002312
図155-13	SH11182		弥生土器	器台 (脚裾部)	-	残存 3.4	橙色(7.5YR 6/6)	ハケ目	07002313
図155-14	SH11183		弥生土器	甕	(22.9)	残存 17.6	橙色(7.5YR 6/6)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	07002282
図155-15	SH11183		弥生土器	甕	(24.1)	残存 4.9	外:黒褐色(10YR 3/2) 内:にぶい褐色(7.5YR5/4)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	07002286
図155-16	SH11183		弥生土器	甕	-	残存 3.3	橙色(7.5YR 6/6)	口～胴外:ヨコナデ 胴内:ナデ	07002290

表 27　竪穴住居出土土器一覧表（17）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図155-17	SH11183		弥生土器	甕（底部）	-	残存 3.3	にぶい黄橙色（10YR 6/4）	胴外:ハケ後ナデ 胴内:ナデ　底外:ナデ	07002285
図155-18	SH11183		弥生土器	甕（底部）	-	残存 3.9	橙色(2.5YR 6/6)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ底外:ナデ	07002284
図155-19	SH11183		弥生土器	支脚	-	残存 5.5	橙色(5YR 6/6)	ナデ	07002292
図156-1	SH11187	覆土	弥生土器	甕	-	残存 5.3	にぶい黄橙色（10YR 7/4）	口外:ナデ 口内:ハケ目 端:ヨコナデ	07002587
図156-2	SH11187		土師器	甕	-	残存 3.0	外:灰黄褐色（10YR5/2） 内:褐灰色(10YR 4/1)	ヨコナデ	07002585
図156-3	SH11187		弥生土器	甕（底部）	-	残存 6.1	外:にぶい橙色（10YR7/3） 内:浅黄橙色(10YR 8/3)	胴外:ハケ目 胴内:ハケ目？ 底外:ナデ	07002584
図156-4	SH11187		土師器	二重口縁壺	-	残存 5.8	外:にぶい褐色（7.5YR5/4） 内:にぶい黄褐色（10YR 5/3）	口:ヨコナデ 口内外下:ハケ目	07002586
図156-5	SH11187	覆土	土師器	鉢	(19.2)	残存 13.2	橙色(7.5YR 7/6)	端:ヨコナデ 胴外:工具ナデ 胴内:ハケ目	07002591
図156-6	SH11187		弥生土器	器台	-	残存 8.2	外:にぶい黄橙色(10YR 7/3) 内:にぶい橙色(7.5YR 7/4)	ナデor指なぞり	07002589
図156-7	SH11187		弥生土器？	器台	-	残存 8.7	橙色(7.5YR 6/6)	外:ナデ後指圧痕 内:ナデ裾端:ハケ目？	07002588
図156-8	SH11187		弥生土器	鉢	(12.2)	4.9		外:ミガキ？擦痕？ 内面下:ハケ目	08000673
図156-9	SH11187	覆土	弥生土器	支脚	-	残存 3.3	橙色(5YR 6/6)	外:ハケ目 内:ナデ受部:ナデ	07002590
図156-10	SH11188	覆土	土師器	甕	(15.8)	残存 16.3	外:明黄褐色(10YR6/6) 内:にぶい橙色(7.5YR6/4)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ後ナデ 胴内:ケズリ	07001836
図156-11	SH11188	包含層	土師器	甕	(16.2)	20.4	にぶい褐色（7.5YR 5/4）	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	07002051
図156-12	SH11188	上包含層	土師器	甕	(16.3)	残存 9.6	明赤褐色(5YR 5/6)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	07002550
図156-13	SH11188	覆土	土師器	甕	(17.6)	残存 3.4	橙色(5YR 6/6)	口:ヨコナデ 胴内外:ナデ	07002549
図157-1	SH11188	覆土	土師器	甕	(17.4)	残存 7.7	橙色(7.5YR 6/6)	頸内～胴外:ハケ目 胴内:ヘラケズリ	07002546
図157-2	SH11188	覆土	土師器	甕	(14.3)	残存 12.8	外:赤褐色(5YR 4/6) 内:橙色(5YR 6/6)	口:ヨコナデ 頸内:ハケ後ナデ 胴外:ハケ後ナデ 胴内:ケズリ	07002052
図157-3	SH11188	覆土	土師器	甕	14.2	15.7	外:灰黄褐色（10YR4/2） 内:橙色(5YR 6/6)	外体:工具ナデ 内:ケズリ後ナデ 口縁部:ヨコナデ	07002053
図157-4	SH11188	覆土	弥生土器	甕	(21.3)	残存 7.2	橙色(7.5YR 6/6)	口外:ハケ後ナデ 端:ヨコナデ 胴外:ハケ目胴内:ハケ目	07002548
図157-5	SH11188	覆土	弥生土器	甕	-	残存 6.4	外:黒褐色(7.5YR 3/2) 内:褐色(7.5YR 4/6)	口内:ハケ目 端:ヨコナデ 胴外:ハケ目	07002553
図157-6	SH11188	覆土	土師器	甕	(14.2)	残存 8.6	橙色(5YR 6/8)	端～外口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ 口内:ハケ目	07002547
図157-7	SH11188	覆土	弥生土器	台付鉢？	-	残存 3.4	外:明赤褐色（5YR5/6） 内:明褐色(7.5YR 5/6)	杯内外:ナデ 脚:ハケ目 裾:ヨコナデ 底外:ハケ目	07001839
図157-8	SH11188	覆土	弥生土器	甕	-	-	外:橙色(7.5YR 7/6) 内:にぶい黄橙色（10YR 6/3）	胴内外:ハケ目 突帯:工具ナデ	07002555

表 28　竪穴住居出土土器一覧表（18）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図157-9	SH11188	覆土	土師器	高杯	受部径 (18.7)	12.2	外:橙色(7.5YR 6/6) 内:にぶい橙色 (7.5YR6/4)	杯内～裾外:ミガキ 裾端:ヨコナデ 裾内:ハケ目	07001838
図157-10	SH11188	覆土	弥生土器	器台	-	残存 8.0	橙色(7.5YR 6/6)	裾内:ナデ 裾外:ハケ目 裾端:ヨコナデ	07002552
図157-11	SH11188	覆土	弥生土器	器台	-	残存 3.8	橙色(7.5YR 6/6)	外:ナデ 内:ヨコナデ	07002554
図157-12	SH11188	覆土	弥生土器	器台	受部径 (8.5)	残存 9.7	橙色(7.5YR 6/6)	ナデ(指押さえ) 指頭圧痕	07002551
図157-13	SH11188	覆土	弥生土器	鉢	8.5	4.9	外:橙色(7.5YR 7/6) 内:橙色(5YR 6/6)	内外:ナデ(指ナデ？)	07001837
図158-1	SH11189		弥生土器	甕	-	残存 5.0	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/4) 内:橙色(7.5YR 7/6)	口:ヨコナデ 外:ハケ目 内:ナデ	07002578
図158-2	SH11189		弥生土器	甕	-	残存 5.3	橙色(7.5YR 7/6)	胴外:ハケ目 胴内:ヨコナデ	07002576
図158-3	SH11189		弥生土器	広口壺	-	残存 2.4	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/3) 内:にぶい橙色(7.5YR7/6)	口外:ナデ口 内:ヨコナデ	07002577
図158-4	SH11189		弥生土器	甕 (底部)	-	残存 2.7	橙色(5YR 6/6)	胴外:ハケ目　胴内:ナデ 底外:ナデ	07002581
図158-5	SH11189	覆土	弥生土器	甕 (底部)	-	残存 3.6	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/3) 内:にぶい橙色(7.5YR7/4)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	07002579
図158-6	SH11189		弥生土器	甕 (底部)	-	残存 2.2	外:にぶい橙色(10YR7/4) 内:にぶい橙色(10YR7/3)	胴外上:ハケ目 胴内:ナデ 胴外下～底外:ナデ	07002580
図158-7	SH11189		弥生土器	高杯	-	残存 2.1	にぶい褐色 (7.5YR 6/3)	ナデ	07002582
図158-8	SH11190	覆土	土師器	甕	(13.9)	残存 4.0	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/3) 内:にぶい橙色(7.5YR7/4)	胴内:ナデ 口内～口外:ヨコナデ	07002165
図158-9	SH11190	覆土	弥生土器	甕	-	残存 4.2	にぶい橙色 (7.5YR 7/3)	ヨコナデ	07002159
図158-10	SH11190	覆土	弥生土器	甕	-	残存 2.8	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	ヨコナデ	07002163
図158-11	SH11190	覆土	弥生土器	甕	-	残存 3.3	橙色(5YR 6/6)	ヨコナデ	07002160
図158-12	SH11190	覆土 包含層	土師器	小型 器台	-	残存 4.6	橙色(2.5YR 6/6)	裾内:ナデ	07002157
図158-13	SH11190	覆土	弥生土器	高杯	-	残存 5.5	橙色(2.5YR 6/8)	脚外:ミガキ 脚内:ナデ	07002158
図158-14	SH11190	覆土	弥生土器	甕	-	残存 3.0	にぶい橙色(5YR 6/4)	口:ヨコナデ 外体:ハケ目 内体:ナデ 内頸:ハケ目	07002162
図158-15	SH11190	覆土	弥生土器	甕	-	残存 4.0	外:オリーブ黒色 (5Y 3/1) 内:にぶい黄橙色 (10YR 6/3)	口外～胴外:ハケ目口 内:ハケ目 口端:ヨコナデ 胴内:ナデ	07002161
図158-16	SH11204	覆土	弥生土器	広口壺	-		外:にぶい橙色 (5YR 7/4)(7.5YR 7/4) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/3)(10YR 7/4)	口端付近:ナデ 胴内外:ハケ目 底外:ナデ	07002166 07002169
図158-17	SH11204	覆土	弥生土器	袋状 口縁壺	(8.0)	残存 3.8	浅黄橙色(7.5YR 8/4)	口内外:ヨコナデ 口内下:ナデ	07002168
図158-18	SH11204	覆土	土師器	甕	-	残存 6.0	にぶい橙色(5YR 6/4)	ヨコナデ	07002167
図158-19	SH11204	覆土	土師器	甕	-	残存 4.4	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	胴外:ハケ目 内～頸外:ヨコナデ	07002164
図159-1	SH11205	覆土	土師器	甕	-	残存 4.2	淡黄色(2.5Y 8/3)	胴外上:回転ナデ 胴外下:ナデ 胴内上:回転ナデ 胴内下:ヘラケズリ	07002767

表 29　竪穴住居出土土器一覧表（19）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図159-2	SH11205	№1	弥生土器？	甕 （底部）	-	残存 9.1	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	外胴:タタキ 胴内:ハケ目 底外:工具ナデ	07002761
図159-3	SH11205	南壁	弥生土器	鉢	10.5	8.6	外:にぶい赤褐色 (5YR 4/3) 内:黒色(10YR 1.7/1)	口:回転ナデ 胴外:ヘラミガキ 胴内:工具ナデ後ヘラナデ 底外:工具ナデ	07002763
図159-4	SH11205	覆土	弥生土器	鉢	10.2	残存 5.9	黒色(2.5Y 2/1)	口:回転ナデ 胴外:工具ナデ （カキケズリ） 胴内:ナデ 胴内下:ヘラミガキ	07002762
図159-5	SH11205	覆土	土師器	鉢	(7.4)	残存 6.6	外:浅黄色(2.5Y7/3) 内:にぶい黄橙色 (10YR7/3)	口:ヨコナデ 胴外:ヘラミガキ 胴内:ヘラケズリ 底内:ナデ	07002764
図159-6	SH11205	覆土	土師器	鉢	(7.7)	残存 5.4	外:灰黄褐色(10YR5/2) 内:黒褐色(2.5Y 3/1) にぶい黄橙色(10YR7/3)	口:ヨコナデ 胴外:ヘラミガキ 胴内:ナデ	07002765
図159-7	SH11205	覆土	弥生土器	甑	穿孔径 1.7	残存 2.9	暗灰黄色(2.5Y 4/2)	ナデ	07002766
図159-8	SH11206	覆土　№2	弥生土器	甕	19.0	32.5	橙色(7.5YR 6/8)	口:ハケ目 口端:ヨコナデ 胴外:工具ナデ 胴内:ハケ後ナデ 底外:ナデ	07002067
図159-9	SH11206	覆土	弥生土器	甕	(22.3)	残存 29.1	外:褐色(10YR 4/4) 内:黒褐色(2.5Y 3/2)	口端:ヨコナデ 胴内外:ハケ目	07002066
図160-1	SH11206	O･P-37 遺構検出面 №5	弥生土器	甕	13.8	残存 16.3	にぶい橙色(5YR 6/4)	口:ヨコナデ 胴内外:ハケ目	07002175
図160-2	SH11206	№2	弥生土器	甕	(16.0)	10.8	外:橙色(7.5YR 7/6) 内:にぶい橙色 (7.5YR7/3)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ハケ目 底外:ナデ？	07002177
図160-3	SH11206	№3	弥生土器	甕	11.0	25.0	橙色(5YR 6/6)	口外:ハケ目 口内～端:ヨコナデ 胴外:ハケ目後タタキ 胴内:ハケ目 底外:ナデ	07002170
図160-4	SH11206	覆土	弥生土器	甕	(16.0)	21.1	橙色(5YR 6/6)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ後タタキ 胴内:ハケ目	07002173
図160-5	SH11206	覆土	弥生土器	甕	15.1	残存 7.0	外:にぶい橙色(5YR 6/4) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ後タタキ 胴内:ナデ"	07002171
図160-6	SH11206	P-37 検出時 №5	弥生土器	甕	(15.3)	残存 8.5	橙色(5YR 6/4)	口:ヨコナデ 胴外:タタキ後ハケ目 胴内:ナデ	07002176
図160-7	SH11206	覆土	弥生土器	甕	13.6	残存 8.3	にぶい褐色 (7.5YR6/3)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ハケ目	07002401
図160-8	SH11206	覆土	弥生土器	甕	13.6	残存 8.0	橙色(5YR 6/6)	口:ヨコナデ 肩外:ヨコナデ後ハケ目 胴内外:ハケ目	07002172
図160-9	SH11206	№5	弥生土器	甕	(15.8)	残存 15.5	外:橙色(5YR 6/6) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ハケ後ナデ	07002403
図161-1	SH11206	№5	土師器	甕	14.8	残存 21.4	浅黄橙色(7.5YR 8/4)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ケズリ	07002174
図161-2	SH11206	№1	土師器	壺	(10.8)	残存 10.0	灰白色(10YR 8/2)	頸内外:ヨコナデ？ 胴外:ハケ目 胴内:ケズリ	07002178
図161-3	SH11206	覆土	弥生土器	甕 （底部）	-	残存 13.0	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	胴外:カキケズリ 胴内:ナデ 底外:ナデ	07002400
図161-4	SH11206		弥生土器	鉢	-	8.1	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	胴外:ハケ目？ 胴内:ナデ 底外:ナデ	07002179

表 30　竪穴住居出土土器一覧表（20）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図161-5	SH11206	覆土　№2	土師器	鉢	8.05	6.6	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	口:ヨコナデ 胴外:ヘラミガキ 胴内:ナデ後ヘラミガキ	03000254
図161-6	SH11206	№4	弥生土器	壺	(12.7)	残存 13.0	橙色(5YR 7/6)	口外:ヨコナデ 胴内～口内:ナデ 胴外:タタキ	07002402
図161-7	SH11206	覆土	土師器	鉢	(12.3)	残存 4.5	外:にぶい橙色(5YR 7/4) 内:にぶい橙色 (7.5YR7/4)	口:ヨコナデ　胴外:ナデ? 胴内:ミガキ？	07002180
図161-8	SH11206	№6	弥生土器	器台	(13.5)	19.0	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/4) にぶい橙色(5YR 7/4) 内:にぶい橙色 (7.5YR7/4)	全面:ハケ目	03000240
図162-1	SH11207	覆土	弥生土器	甕	(24.4)	残存 8.2	外:にぶい褐色 (7.5YR5/3) 内:にぶい橙色 (7.5YR6/4)	口:ハケメ 端:ヨコナデ 胴内外:ハケ目	07002630
図162-2	SH11207	覆土	弥生土器	甕	-	残存 6.8	外:にぶい赤褐色 (5YR 5/3) 内:橙色(5YR 6/6)	口:ヨコナデ 胴外:ナデ 胴内:ナデ	07002635
図162-3	SH11207	覆土	弥生土器	甕	(23.0)	残存 8.0	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/3) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	胴内:ハケ目 口内～胴外:ハケ後ナデ	07002629
図162-4	SH11207	覆土	弥生土器	甕	20.9	残存 6.3	にぶい橙色 (7.5YR 6/4)	口外:ハケ目 口端:回転ナデ 胴外:ナデ胴内～口内:ナデ	07002636
図162-5	SH11207	覆土	弥生土器	甕 (底部)	-	残存 2.8	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	底内外:ナデ	07002641
図162-6	SH11207	覆土	弥生土器	袋状 口縁壺	-	残存 4.2	にぶい黄橙色 (10YR 6/3)	口端:ヨコナデ 頸外:ヨコナデ 胴外:ナデ 胴内:ハケ目？	07002634
図162-7	SH11207	覆土	弥生土器	台付甕	-	残存 4.4	橙色(2.5YR 6/8)	指頭圧痕	07002626
図162-8	SH11207	覆土	弥生土器	台付甕	-	残存 5.0	にぶい黄橙色 (10YR 6/3)	胴内外:ハケ目	07002627
図162-9	SH11207	覆土	弥生土器	袋状 口縁壺	(14.9)	残存 7.5	橙色(7.5YR 6/6)	口端～胴外上:回転ナデ 胴外下:ハケ目 胴内上:ハケ目 胴内下:ナデ	07002623
図162-10	SH11207	包含層	弥生土器	鉢	(6.6)	残存 7.0	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/4) 内:浅黄橙色(10YR 8/4)	胴外:ヘラミガキ 胴内～端:ナデ	07002640
図162-11	SH11207	覆土	土師器	鉢	(11.0)	6.9	橙色(2.6YR 6/8)	全面ナデ	07002625
図162-12	SH11207	覆土	土師器	壺	20.0	残存 3.6	橙色(5YR 6/8)	脚外:ナデ 脚内:工具ヨコナデ 端:回転ナデ	07002628
図162-13	SH11207	覆土	弥生土器	鉢	(16.4)	残存 6.5	外:橙色(7.5YR 6/6) 内:にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	口:回転ナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	07002631
図162-14	SH11207	覆土	弥生土器	高杯	-	残存 11.5	橙色(5YR 6/6)	脚外:ヘラミガキ 脚内:ナデ	07002638
図162-15	SH11207	覆土	弥生土器	高杯	-	残存 5.4	外:にぶい黄橙色(10YR7/3) 内:にぶい黄橙色(10YR7/4)	裾内:ハケ目 裾外:粗いヘラミガキ (ハケ目あり)	07002632
図162-16	SH11207	覆土	土師器	器台	-	残存 7.7	外:橙色(5YR 6/6) 内:にぶい橙色 (7.5YR6/4)	脚外:ハケ後ミガキ 裾外:ヘラミガキ 脚内:ナデ	07002633
図162-17	SH11207	覆土 P-36 包含層	弥生土器	器台	-	残存 15.5	外:明赤褐色～橙色～黄灰色内:橙色～にぶい黄橙色		09001286

表 31　竪穴住居出土土器一覧表（21）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図163-1	SH11207	上包含層	弥生土器	器台	受部径 12.1	17.9	橙色(7.5YR 6/6)	外:工具ナデ 受部:ナデ 裾端:ナデ	07002624
図163-2	SH11207	上包含層	土師器	器台	12.85	16.3	外:にぶい橙色 (7.5YR 7/4) 内:橙色(5YR 6/6)	外:ハケ目 (中央ハケ後ナデ) 端部:ナデ 内上:ナデ内下:ハケ後ナデ 指頭圧痕あり	03000214
図163-3	SH11207	覆土	弥生土器	支脚	-	残存 5.8	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	ナデ	07002639
図163-4	SH11207	上包含層	土師器	支脚	上面径 7× 8.15	11.75	外:にぶい橙色 (7.5YR6/4) 内:にぶい橙色 (5YR7/4) 橙色(5YR 7/6)	外:ハケ目後ナデ 内:ナデ(工具痕あり) 端:ヨコナデ	03000219
図163-5	SH11207	覆土	弥生土器	甕	(27.4)	残存 4.4	橙色(5YR 6/6)	口:回転ナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	07002637
図163-6	SH11209	覆土	弥生土器	甕	(21.9)	残存 2.2	橙色(5YR 6/6)	ヨコナデ	07002342
図163-7	SH11209	覆土	弥生土器	甕	(21.2)	残存 3.0	にぶい黄褐色 (10YR 5/3)	口～胴外:ヨコナデ 胴内:ナデ	07002341
図163-8	SH11209	覆土	弥生土器	壺 (底部)	-	残存 2.3	橙色(7.5YR 6/6)	底内外:ナデ	07002343
図163-9	SH11210	覆土	弥生土器	甕	(22.5)	残存 9.2	にぶい黄褐色 (10YR 7/3)	口外～口端:ハケ目 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	07002351
図163-10	SH11210	覆土	弥生土器	甕	-	残存 11.0	にぶい黄褐色 (10YR 6/3)	胴内:ナデ	07002348
図163-11	SH11210	覆土	弥生土器	甕	-	残存 12.3	外:にぶい黄橙色 (10YR 6/4) 内:にぶい橙色 (7.5YR6/4)	口端:ヨコナデ 胴外:ハケ目胴内:ナデ	07002347
図163-12	SH11210	覆土	弥生土器	甕	-	残存 6.2	橙色(5YR 7/6)	口:ヨコナデ後キザミ 胴内外:ハケ目	07002349
図163-13	SH11210	覆土	弥生土器	甕	-	残存 8.4	橙色(5YR 7/6)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	07002345
図164-1	SH11210	覆土	弥生土器	広口壺	(26.6)	残存 3.0	赤色(10YR 5/6)	口内外:ヨコナデ 口端:キザミ？	07002346
図164-2	SH11210	覆土	弥生土器	袋状 口縁壺			橙色(5YR 6/6)	口外:ナデ？ 口内:ナデ	07002350
図164-3	SH11210	覆土	弥生土器	鉢	-	残存 4.3	外:にぶい橙色 (5YR 6/4) 内:赤橙色(10YR 6/6)	口:ナデ 胴内外:ハケ目	07002344
図164-4	SH11212	覆土	弥生土器	壺			にぶい黄橙色(10YR 7/4)	摩耗の為不明瞭	07002071
図164-5	SH11212	覆土	弥生土器	甕	(16.0)	残存 3.8	橙色(5YR 6/6)	口内外:ハケのちナデ	07002070
図164-6	SH11212	覆土	土師器	広口壺	(21.2)	残存 15.4	明赤褐色(2.5YR 5/8)	口外上:ヨコナデ 口外中:ナデ 口外下:ヨコナデ 口内上:ヨコナデ 口内下:工具ナデ 胴外:ナデ 胴内:工具ナデ	07002068
図164-7	SH11212	覆土	土師器	壺 (底部)	-	残存 8.9	外:橙色(5YR 6/8) 内:にぶい橙色(7.5YR7/4)	胴外:ハケ目後工具ナデ？ 胴内:工具ナデ?底外:ナデ	07002072
図164-8	SH11212	覆土	弥生土器	鉢	(6.6)	8.6	橙色(5YR 6/8)	口内:ヨコナデ 胴外:ハケ目後ミガキ 胴内:ハケ目　底内:ナデ	07002073
図164-9	SH11212	覆土	土師器	高杯	-	残存 3.4	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/4) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	脚:ミガキ後ヨコナデ 裾外:ナデ 裾内:ハケ後ナデ	07002069
図164-10	SH11216	覆土	弥生土器	甕	-	残存 7.3	橙色(5YR 7/6)	端:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ？	07002192

表 32　竪穴住居出土土器一覧表（22）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図164-11	SH11216	覆土	弥生土器	甕	-	残存 5.2	橙色(2.5YR 6/6)	口外:ナデ　端:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:工具ナデ？	07002191
図164-12	SH11216	覆土	弥生土器	壺	(21.2)	残存 5.1	にぶい橙色 (7.5YR 7/3)	端:ヨコナデ 胴外:工具ナデ 胴内:ヨコナデ	07002194
図164-13	SH11216	覆土	弥生土器	鉢	-	残存 5.2	にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	口内:ヨコナデ 胴外:不明　胴内:ナデ	07002190
図164-14	SH11216		弥生土器	鉢	(10.3)	-	にぶい橙色(5YR 6/4)	胴内～端:ヨコナデ	07002188
図164-15	SH11216	覆土	弥生土器	鉢	-	残存 7.6	にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	胴内外:ハケ目	07002189
図164-16	SH11216		弥生土器	高杯	-	残存 12.5	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	頸外:ミガキ 裾外:ヨコナデ 裾内:ナデ	07002186
図165-1	SH11217	覆土	弥生土器	甕	(20.6)	残存 15.9	外:黒褐色(2.5Y 3/1) 内:橙色(7.5YR 6/6)	口内:ヨコハケ端:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ハケ後ナデ	07001848
図165-2	SH11217		弥生土器	甕	(24.4)	残存 25.4	橙色(5YR 7/6)	口内外:ナデ 端:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	07002185
図165-3	SH11217	覆土	弥生土器	甕棺	-	残存 4.4	橙色(5YR7/6)	口内外:ハケ 目端:ヨコナデ後刻み目	07001850
図165-4	SH11217	覆土	弥生土器	壺	-	残存 8.4	外:オリーブ黒色 (5Y3/1) 内:にぶい橙色 (7.5YR6/4)	肩外:ハケ目？ 胴外:ヘラミガキ 胴内:工具ナデ 外底:ナデ	07001847
図165-5	SH11217	覆土	弥生土器	壺	-	残存 30.5	橙色(5YR 6/6)	口外:ハケ目 口内:ハケ後ナデ 口端:ハケ後ヨコナデ 頸外:回転ナデ 肩外:ナデ　肩内:ナデ 胴外:ハケ後ナデ 胴内:ハケ目	07002768
図165-6	SH11217		弥生土器	壺	-	残存 24.4	外:橙色(7.5YR 7/6) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	口外:ハケ目 口内上:ハケ目 口内下:工具ナデ 胴外下:ハケ目 胴外上:ハケ目後ナデ 胴内:ハケ目	07002769
図165-7	SH11217	覆土	弥生土器	高杯	(24.4)	残存 4.5	浅黄橙色(10YR 8/4)	杯内外:ヘラミガキ 端:ヨコナデ	07001849
図165-8	SH11217	覆土　№45	土師器	小型 丸底壺	10.5	6.5	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/3) 内:にぶい橙色 (7.5YR7/4)	口:ヨコナデ指頭圧痕あり 胴内外:ナデ	03000256
図165-9	SH11219		弥生土器	甕 (底部)	-	残存 2.7	にぶい橙色(5YR 6/4)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ　底外:ナデ	07002193
図165-10	SH11219		弥生土器	甕 (底部)	-	残存 7.9	橙色(5YR 7/4)	胴外:ハケ目ケズリ 胴内:ハケ目　底外:ナデ	07002187
図166-1	SH11228		弥生土器	甕	(47.0)	57.4	赤橙色	胴外上:ハケ目 胴外下:カキケズリ 胴内:ハケメ 底内外:ナデ	08001623
図166-2	SH11228		弥生土器	甕	21.0	34.4	橙色	胴内外:ハケ目 底部:ナデ	08001625
図166-3	SH11228		弥生土器	甕	22.7	30.6	外:にぶい橙色 (7.5YR 7/4) 内:浅黄橙色(7.5YR 8/4)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:摩耗一部ハケ目	08001582
図166-4	SH11228		弥生土器	甕	(22.4)	残存 11.0	外:にぶい橙色 (7.5YR 4/4) 内:にぶい橙色(7.5YR 9/4)	胴内外:ハケ目	08001674
図166-5	SH11228		弥生土器	甕	(18.5)	残存 11.5	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	08001624
図166-6	SH11228		弥生土器	甕	胴部径 18.7	残存 18.7	外:にぶい赤褐色(5YR 5/4) 内:にぶい橙色(5YR5/4)	胴外:ハケ目 胴内:ハケ後ナデ	08001676

表 33　竪穴住居出土土器一覧表（23）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図166-7	SH11228	覆土	弥生土器	甕	底径 3.5	14.4	橙色(7.5YR 6/6)	胴外:ナデ 胴内:ハケ後ナデ	08001677
図167-1	SH11228		弥生土器	甕棺	(47.0)	57.4	赤褐色(5YR 4/8)	胴外:ハケ目 胴内:ハケ目後ナデ	04002243
図167-2	SH11228		弥生土器	広口壺	(23.0)	残存 26.2	外:橙色(2.5YR 6/6) 内:にぶい橙色 (7.5YR 7/3)	口:ヨコナデ 胴内外:ナデ	08001678
図167-3	SH11228		弥生土器	広口壺	18.2	残存 17.6	橙色(5YR 6/6)	ハケ目	08001759
図167-4	SH11228		弥生土器	広口壺	18.4	残存 7.7	外:浅黄橙色(10YR8/4) 内:浅黄橙色(7.5YR8/4)	ハケ目	08001681
図167-5	SH11228		弥生土器	広口壺	18.4	残存 9.1	橙色(7.5YR 6/8)	口内:ハケ後ナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	08001683
図167-6	SH11228		弥生土器	二重口縁壺	-	残存 4.0	外:橙色(5YR 6/8) 内:橙色(5YR 6/6)	ハケ目	08001685
図167-7	SH11228	覆土	弥生土器	高坏	(32.2)	残存 4.3	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/3) 内:浅黄橙色(10YR8/4)	内外面:ミガキ	08001684
図167-8	SH11228		弥生土器	高坏	(34.4)	残存 4.7	外:にぶい黄橙色 (7.5YR 7/6) 内:橙色(10YR 7/6)	杯外上:ハケ目 杯外下:ミガキ後ハケ目 杯内::ミガキ	08001680
図167-9	SH11228		弥生土器	高坏	裾径 (11.2)	残存 6.8	橙色(7.5YR 7/6)	脚外:ケズリ後ハケ目 脚内:ナデ 裾内:ハケ目	08001682
図168-1	SH11229	覆土	弥生土器	甕	(22.2)	残存 20.0	にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	口外:ハケ目 口内:ハケ目後ナデ? 胴内外:ハケ目端:ヨコナデ	07002181
図168-2	SH11229	覆土	弥生土器	甕 (底部)	-	残存 2.9	外:にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	全面ナデ	07002184
図168-3	SH11229	覆土	弥生土器	壺 口縁部	(15.2)	残存 5.6	橙色(2.5YR 6/6)	口内外:ハケ目 端:ヨコナデ 胴内:ナデ	07002182
図168-4	SH11229		弥生土器	鉢	10.6	3.4	橙色(7.5YR 7/6)	口:ヨコナデ 胴外:不明　胴内:ミガキ?	07002183
図168-5	SH11229	覆土	弥生土器	袋状口縁壺	25.3	残存 8.0	外:橙色(7.5YR 7/6) 内:にぶい橙色 (7.5YR7/4)	口内上:ハケ後ヨコナデ 口内下:ナデ 口端:ヨコナデ	07002583
図168-6	SH11230	№14	土師器	甕	(18.1)	残存 19.05	外:浅黄橙色(7.5YR8/4) 内:にぶい橙色 (7.5YR7/4)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目後ナデ 胴内:ヘラケズリ	03000226
図168-7	SH11230	覆土	弥生土器	甕	(24.6)	残存 17.2	外:橙色(7.5YR 7/6) 内:にぶい橙色 (7.5YR7/4)	口内外:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ハケ目後ナデ	07002200
図168-8	SH11230	覆土	弥生土器	甕	(27.6)	残存 3.5	にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	口内外:ナデ(不明瞭) 端:ヨコナデ	07002201
図168-9	SH11230		土師器	甕	(18.8)	残存 15.2	にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	口外:ハケ目後ヨコナデ 口内:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ケズリ(指押)	07002198
図168-10	SH11230	覆土	弥生土器	甕 (底部)	-	残存 6.0	外:にぶい橙色 (7.5YR7/4) 内:橙色(5YR 6/6)	胴外:不明　胴内:ナデ 底外:ナデ	07002196
図168-11	SH11230		弥生土器	甕	(15.2)	残存 6.1	にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	胴外:ナデ? 胴内端:ヨコナデ	07002195
図169-1	SH11230	覆土	弥生土器	鉢	-	残存 6.5	橙色(5YR 6/6)	胴外:ミガキ(不明) 胴内:ナデ	07002199
図169-2	SH11230		弥生土器	羽口	-	残存 10.2	にぶい橙色(5YR 6/4)	胴内外:ナデ	07002197
図169-3	SH11231	覆土	弥生土器	甕	27.5	残存 34.2	外:にぶい黄褐色 (10YR 5/3) 内:にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	口外～肩外:ハケ目 口内～端:ヨコナデ 胴外:ヘラミガキ 胴内上:ハケ目 胴内下:ナデ	07002077

表 34　竪穴住居出土土器一覧表（24）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図169-4	SH11231	覆土	弥生土器	甕	14.4	残存 7.4	明赤褐色(5YR 5/6)	口:ナデ 胴内外:ハケ目	07002644
図169-5	SH11231	覆土	弥生土器	壺	(14.0)	残存 9.2	明赤褐色(5YR 5/6)	口端～外頸:ハケ後 ヨコナデ 口内～胴内:ハケ目 胴外:ハケ後工具ナデ	07002643
図169-6	SH11231	上包含層	弥生土器	甕 (底部)	-	残存 17.9	外:にぶい黄橙色 (10YR 6/3) 内:黄灰色(2.5Y 5/1)	胴外:板ナデ 胴外下:ハケ胴内:ナデ 底外:ナデ 底内:ハケ目	07002076
図169-7	SH11231	覆土	弥生土器	高杯	-	残存 12.9	浅黄橙色(10YR 8/3)	杯内:工具ナデ 脚外:ハケ目？ 裾内下:工具ナデ 裾内奥:ナデ	07002645
図169-8	SH11231	覆土	弥生土器	器台	-	残存 9.0	外:にぶい橙色 (7.5YR7/4) 内:橙色(5YR 6/6)	外:ハケのちナデ 内:ナデ　端:ハケ目	07002074
図169-9	SH11231	覆土	弥生土器	鉢	(9.8)	残存 5.5	にぶい橙色 (7.5YR 6/4)	内～外:ナデ	07002654
図170-1	SH11231	O-38　覆土 ST11067 墳丘部 包含層	弥生土器	器台	-	残存 16.1	外:橙色～にぶい黄橙色 内:橙色～にぶい橙色		09001284
図170-2	SH11231	覆土	弥生土器	甕	(26.6)	残存 4.2	にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	口:ヨコナデ胴外:ナデ 胴内:ナデ	07002647
図170-3	SH11231	覆土	弥生土器	甕	-	残存 3.5	外:にぶい橙色(7.5YR7/4) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	口:ヨコナデ 胴内外:ナデ	07002649
図170-4	SH11231	覆土	弥生土器	甕	(22.0)	残存 3.0	外:灰黄褐色(10YR 4/2) 内:にぶい橙色(7.5YR6/4)	口:ヨコナデ 胴内:ナデ	07002648
図170-5	SH11231	覆土	弥生土器	甕	-	残存 4.5	にぶい赤褐色 (5YR 5/4)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	07002651
図170-6	SH11231	覆土	弥生土器	甕	-	残存 5.9	外:にぶい橙色(5YR6/4) 内:浅黄橙色(10YR 8/3)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	07002653
図170-7	SH11231	覆土	弥生土器	甕	-	残存 5.6	にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	内:ナデ　外:ハケ目 底部:ナデ	07002652
図170-8	SH11231	覆土	弥生土器	広口壺	(36.8)	残存 6.0	橙色(5YR 6/6)	口:ヨコナデ 胴外:ナデ 胴内:ナデ	07002646
図170-9	SH11231	覆土	土師器	甕	-	残存 15.5	外:橙色(5YR 6/6) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	胴外:ヘラミガキ 胴内:ナデ　底外:ナデ	07002075
図170-10	SH11231	覆土	須恵器	甑	(15.1)	残存 7.7	外:灰黄色(2.5Y 6/2) 内:暗灰黄色(2.5Y 5/2)	内外:回転ナデ	07002642
図171-1	SH11253	覆土	弥生土器	甕	(16.2)	残存 6.7	にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	口:ヨコナデ	07002202
図171-2	SH11253	覆土	弥生土器	甕	(16.0)	-	にぶい赤褐色 (5YR 5/4)	口外:ヨコナデ口内:ハケ目 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	07002208
図171-3	SH11253	覆土	弥生土器	甕 (底部)	-	残存 8.7	にぶい橙色 (7.5YR 6/4)	胴外:粗いハケ目 胴内:ナデ　底外:ナデ	07002207
図171-4	SH11253	覆土	弥生土器	甕 (底部)	-	残存 3.2	にぶい橙色(5YR 7/4)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ	07002206
図171-5	SH11253	覆土	弥生土器	甕 (底部)	-	残存 1.8	にぶい橙色(5YR 7/4)	ナデ	07002205
図171-6	SH11253		土師器	不明	(7.0)	残存 6.5	橙色(5YR 7/6)	口:ヨコナデ 胴外:ミガキ 胴内:ナデ	07002203
図171-7	SH11253	覆土	弥生土器	支脚	受部径 4.0	10.8	にぶい橙色(5YR 7/4)	ナデ	07002204
図171-8	SH11254	覆土	弥生土器	甕	-	残存 1.7	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	ヨコナデ	07002212
図171-9	SH11254	覆土	弥生土器	甕	-	残存 1.5	にぶい橙色 (5YR 6/4)	ヨコナデ	07002214

表 35　竪穴住居出土土器一覧表（25）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図171-10	SH11254	覆土	弥生土器	甕	-	残存 2.3	浅黄橙色(7.5YR 8/3)	口:ヨコナデ 胴内外:ナデ	07002210
図171-11	SH11254	覆土	弥生土器	甕	-	残存 4.3	にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	07002213
図171-12	SH11254	覆土	弥生土器	甕	-	残存 4.0	橙色(5YR 6/6)	口:ヨコナデ 頸外:ハケ目 胴内:ナデ	07002211
図171-13	SH11254	覆土	弥生土器	甕 (底部)	-	残存 3.1	にぶい橙色(5YR 6/4)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	07002209
図171-14	SH11254	覆土	弥生土器	器台	-	残存 5.9	橙色(7.5YR 7/6)	内外:ナデ	07002215
図172-1	SH11258	覆土	土師器	甕	(16.2)	残存 4.3	淡黄色(2.5Y 8/3)	口外 体内外:ナデ？ 口内:ヨコナデ	07002657
図172-2	SH11258	覆土	土師器	甕	(16.4)	残存 4.7	淡黄色(2.5Y 8/3)	口内外:回転ナデ 胴外:ナデ 胴内:ヘラケズリ	07002659
図172-3	SH11258	覆土	土師器	甕	(17.1)	残存 6.7	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	口:ヨコナデ 胴外:ヨコナデ 胴内:ナデ	07002658
図172-4	SH11258	覆土	土師器	甕	(15.8)	残存 4.8	淡黄色(2.5Y 8/3)	口上:ヨコナデ 口下:ナデ 胴外:不明瞭 胴内:ヘラケズリ	07002660
図172-5	SH11258	覆土	土師器	甕	(14.0)	残存 4.7	外:にぶい黄橙色 内:にぶい橙色 (7.5YR6/4)	口:回転ナデ 胴内外:ナデ	07002661
図172-6	SH11258	覆土	弥生土器	不明	(21.8)	残存 4.2	橙色(7.5YR 6/6)	外:ハケ目 内:ハケ目端:ヨコナデ	07002656
図172-7	SH11258	覆土	弥生土器	甕	(43.8)	残存 18.0	にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	口外端:ヨコハケ目 口内:ヨコナデ 頸部外:ハケ目 頸内上:ハケ目 頸内:粗いハケ目 胴外:ハケ目 胴内:ナデ突:ヨコナデ	07002655
図172-8	SH11258	覆土	土師器	高杯	(14.4)	残存 4.9	橙色(5YR 6/8)	全面:ヘラミガキ	07002662
図172-9	SH11258	覆土	弥生土器	杯	(11.7)	残存 3.0	橙色(5YR 7/8)	不明瞭	07002663
図172-10	SH11258	覆土	土師器	壺	(10.5)	残存 1.4	にぶい橙色(5YR7/6)	口外:ヨコナデ 口内:ナデ	07002665
図172-11	SH11258	覆土	弥生土器	高杯	-	残存 8.4	外:橙色(5YR 6/6) 内:橙色(7.5YR 7/6)	脚内外:ナデ	07002666
図172-12	SH11258	覆土	土師器	高杯	-	残存 3.6	外:灰黄褐色(10YR5/2) 内:にぶい褐色(7.5YR5/4)	裾内:ナデ 脚:ヘラミガキ	07002664
図172-13	SH11258	覆土	弥生土器	台付 杯？	-	残存 5.4	にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	裾外:工具ナデ 裾内:ハケ後ナデ 端付近:ヨコナデ	07002667
図173-1	SH11261	覆土	弥生土器	甕	-	残存 5.3	橙色(7.5YR 6/6)	口:ハケ目	07002096
図173-2	SH11261	覆土	弥生土器	甕	-	残存 3.3	外:橙色(7.5YR 7/6) 内:黄灰色(2.5Y 4/1)	口:ヨコナデ	07002094
図173-3	SH11261	覆土	土師器	甕	-	残存 3.3	外:にぶい黄橙色 (10YR 6/3) 内:にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	口:ヨコナデ	07002093
図173-4	SH11261	P1	土師器	甕	-	残存 2.6	外:褐灰色(10YR 4/1) 内:にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	口:ヨコナデ	07002095
図173-5	SH11261	覆土	土師器	壺？ (底部)	-	残存 3.0	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/4) 内:黄灰色(2.5Y 4/1)	全面:ナデ	07002092
図173-6	SH11264		弥生土器	甕	(28.4)	残存 12.7	外:にぶい橙色(7.5YR6/4) 内:橙色(7.5YR 7/6)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	07002078

表 36　竪穴住居出土土器一覧表（26）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図173-7	SH11264		弥生土器	甕	(25.2)	残存 5.9	にぶい黄褐色 (10YR 5/3)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	07002080
図173-8	SH11264		弥生土器	甕	(26.0)	残存 15.3	外:橙色(7.5YR 6/6) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ後ナデ 胴内:ナデ	07002079
図173-9	SH11264		弥生土器	甕	-	残存 4.5	外:にぶい橙色(7.5YR7/4) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ後ナデ 胴内:ナデ	07002083
図173-10	SH11264		弥生土器	甕	-	残存 2.8	外:にぶい橙色(7.5YR6/4) 内:橙色(5YR 6/6)	ヨコナデ	07002082
図173-11	SH11264		弥生土器	甕	-	残存 3.0	外:橙色(5YR 7/6) 内:にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	口:ヨコナデ 胴外:ハケのちヨコナデ 胴内:ナデ	07002081
図173-12	SH11264		弥生土器	甕 (底部)	-	残存 4.1	にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ	07002085
図173-13	SH11264		弥生土器	器台	(11.1)	残存 3.2	外:にぶい橙色(5YR 6/4) 内:橙色(5YR 6/6)	胴外:ハケ目 胴内～端外:ヨコナデ	07002084
図174-1	SH11267		弥生土器	甕	-	残存 2.0	外:灰褐色(7.5YR 5/2) 内:にぶい褐色(7.5YR6/3)	口:ヨコナデ 胴内:ナデ	07002087
図174-2	SH11267		弥生土器	甕	-	残存 3.3	橙色(7.5YR 7/6)	口:ヨコナデ 胴内:ナデ	07002091
図174-3	SH11267		弥生土器	甕	(25.3)	残存 2.5	外:にぶい橙色(7.5YR6/4) 内:橙色(5YR 6/6)	ヨコナデ	07002086
図174-4	SH11267		弥生土器	壺	-	残存 2.0	にぶい黄橙色 (10YR 6/3)	ヨコナデ	07002088
図174-5	SH11267		弥生土器	甕 (底部)	-	残存 4.8	外:灰黄褐色(10YR6/2) 内:にぶい黄褐色(10YR7/2)	胴外:ハケ 胴内:ナデ	07002089
図174-6	SH11267		弥生土器	甕 (底部)	-	残存 4.0	にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	胴内外:ナデ	07002090
図174-7	SH11279		土師器	甕	(19.2)	残存 3.1	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/3) 内:にぶい黄色(2.5Y6/3)	口:ヨコナデ	07002110
図174-8	SH11279		土師器	甕	(20.3)	残存 3.1	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/4) 内:にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	口:ヨコナデ	07002109
図174-9	SH11279		土師器	甕	-	残存 3.0	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	口:ヨコナデ	07002111
図174-10	SH11279		土師器	甕	-	残存 2.2	浅黄橙色(10YR 8/3)	口:ヨコナデ	07002113
図174-11	SH11279		土師器	甕	(17.5)	残存 3.1	外:にぶい橙色 (7.5YR7/4) 内:橙色(7.5YR 7/6)	口:ヨコナデ	07002112
図174-12	SH11279	埋土	弥生土器	甕	(27.1)	残存 4.9	にぶい橙色 (7.5YR 6/4)	口内～端:ヨコナデ 頸外:ヨコナデ 胴内外:ハケ目	07002108
図174-13	SH11279	埋土	土師器	甕	-	残存 9.3	外:にぶい橙色(7.5YR6/4) 内:にぶい黄橙色 (10YR6/4)	口内:ハケ目 胴外:タタキ後ハケ後ナデ 胴内:タタキ？	07002105
図174-14	SH11279	遺構検出	弥生土器	甕	-	残存 8.6	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	口外:ハケ後ヨコナデ 口内:ハケ目 端:ヨコナデ 頸内外:ヨコナデ	07002107
図174-15	SH11279	埋土	弥生土器	壺 (底部)	-	残存 3.1	にぶい橙色 (7.5YR 6/4)	胴外:ハケ後ナデ 胴内:ナデ 底外:ナデ	07002101
図174-16	SH11279	遺構検出	弥生土器	壺 (底部)	-	残存 3.7	外:黄褐色(2.5Y 5/3) 内:にぶい黄橙色 (10YR6/4)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ底外:ナデ	07002100
図174-17	SH11279		弥生土器	甕	(28.8)	残存 4.6	外:明赤褐色(5YR 5/6) 内:橙色(5YR 6/6)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	07002117
図174-18	SH11279		弥生土器	甕	(27.0)	残存 4.2	にぶい褐色 (7.5YR 6/3)	胴外:ハケ後ヨコナデ 胴内～口外:ヨコナデ	07002115

表 37　竪穴住居出土土器一覧表（27）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図174-19	SH11279		弥生土器	甕	(23.7)	残存 4.4	にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	07002116
図175-1	SH11279		弥生土器	広口壺	-	残存 3.6	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/3) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	口内～胴外:ヨコナデ 胴内:ナデ	07002118
図175-2	SH11279		弥生土器	甕	-	残存 2.3	にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	口:ヨコナデ	07002114
図175-3	SH11279			底部	-	残存 6.6	外:にぶい橙色 (7.5YR6/4) 内:にぶい黄褐色 (10YR 5/3)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ底外:ナデ	07002099
図175-4	SH11279		弥生土器	底部	-	残存 4.4	外:橙色(5YR 6/6) 内:橙色(7.5YR 7/6)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	07002098
図175-5	SH11279		弥生土器	底部	-	残存 8.5	外:にぶい橙色 (7.5YR6/4) 内:黄灰色(2.5Y 5/1)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	07002097
図175-6	SH11279	埋土	土師器	器台	-	残存 2.2	橙色(7.5YR 6/6)	内～外口:ヘラミガキ 外下:ヨコナデ	07002104
図175-7	SH11279		弥生土器	鉢	(6.2)	3.3	にぶい橙色(7.5YR 6/4)	胴内外:ナデ	07002102
図175-8	SH11279	埋土	土師器	鉢	(11.3)	残存 5.8	外:橙色(7.5YR 6/6) 内:にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	口:ヨコナデ 胴外:ナデ 胴内:ケズリ	07002106
図175-9	SH11279	埋土	弥生土器	ミニチュア 土器	内径3.2	残存 3.2	にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	全面ナデ	07002103
図175-10	SH11291	覆土	弥生土器	甕	(14.0)	残存 10.2	明赤褐色(2.5YR 5/6)	口内外:ヨコナデ 頸外:ハケ目 胴外:粗いハケ目 胴内:ハケ目	07002216
図175-11	SH11291	覆土	弥生土器	甕	(16.0)	22.1	橙色(5YR 6/8)	口内～肩外:ヨコナデ 頸内:ハケ目 胴外:ハケ後ナデ 胴内:ナデ 底外:ナデ	07002358
図175-12	SH11291	覆土	弥生土器	甕	(24.5)	残存 4.3	にぶい黄橙色 (10YR 6/3)	口内外:ハケ目 口端:ヨコナデ	07002669
図175-13	SH11291	覆土	土師器	甕	(20.5)	残存 3.7	にぶい黄褐色 (10YR 5/3)	口外:ハケ後ナデ 口内:ナデ	07002359
図176-1	SH11291	覆土	弥生土器	甕	(15.5)	残存 11.7	橙色(5YR 6/6)	口外:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内～口内:ハケ目	07002668
図176-2	SH11291	覆土	土師器	甕	15.2	残存 16.7	にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内下:ナデ 胴内下:ケズリ	07002217
図176-3	SH11291	覆土 ST11141 十字ベルト内	弥生土器	甑	18.2	9.8	明赤褐色(5YR 5/6)	口端:ヨコナデ 胴外:ケズリ 胴内:ハケ目 底端:ナデ	07002222
図176-4	SH11291	覆土	弥生土器	鉢	(11.8)	5.2	外:浅黄橙色(7.5YR8/3) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	胴外:ナデ 胴内:ハケ目 端:ヨコナデ 底外:ケズリ	07002223
図176-5	SH11291	覆土	弥生土器	鉢	(8.4)	4.4	にぶい橙色(7.5YR 6/4)	全面:ナデ	07002219
図176-6	SH11291	覆土	弥生土器	鉢	-	4.5	外:にぶい赤褐色(5YR 5/4) 内:橙色(5YR 6/6)	口端～胴外:ナデ 胴内:ハケ目	07002671
図176-7	SH11291	覆土	弥生土器	鉢	8.0	3.4	にぶい黄橙色(10YR7/4)	全面:ナデ	07002218
図176-8	SH11291	覆土	弥生土器	鉢	5.4	2.2	黒褐色(5YR3/1)	全面:ナデ	07002220
図176-9	SH11291	覆土	弥生土器	鉢	(5.0)	-	灰褐色(7.5YR4/2)	全面:ナデ	07002221
図176-10	SH11293	覆土	弥生土器	鉢	-	残存 5.8	明赤褐色(5YR 5/6)	口～端:ヨコナデ 胴内外:ハケ目	07002670
図176-11	SH11293		弥生土器	甕	(20.2)	残存 5.1	外:灰黄褐色 (10YR4/2) 内:にぶい橙色 (7.5YR6/4)	口:ヨコナデ 胴外:工具ナデ 胴内:ナデ	07002672

表 38　竪穴住居出土土器一覧表（28）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図176-12	SH11293		弥生土器	甕	-	残存 2.2	橙色(7.5YR 6/6)	口:ヨコナデ 胴内:ハケ目	07002675
図176-13	SH11293		弥生土器	甕	(27.0)	残存 3.8	橙色(5YR 6/6)	口:ヨコナデ 胴外:ナデ 胴内:ハケ後ナデ	07002674
図176-14	SH11293		弥生土器	甕	(28.8)	残存 2.7	にぶい褐色 (7.5YR5/3)	ヨコナデ	07002673
図176-15	SH11293		弥生土器	甕 (底部)	-	残存 4.1	外:にぶい橙色(5YR7/3) 内:灰黄色(2.5Y 7/2)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	07002677
図176-16	SH11293		弥生土器	甕 (底部)	-	残存 4.9	外:にぶい橙色 (7.5YR7/4) 内:にぶい黄橙色 (10YR 6/3)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	07002676
図177-1	SH12027	埋土　B群	弥生土器	甕	(27.0)	28.3	橙色(2.5YR 6/6)	口端:ナデ 外上:ハケ目 外下:カキケズリ 胴内:ハケ目 底内:ナデ	07003104
図177-2	SH12027	埋土　№13	弥生土器	甕	(18.6)	残存 17.0	橙色(5YR6/6)	口端:ナデ 胴外:ハケ目 胴内:ハケ目	07003105
図177-3	SH12027	№7	弥生土器	甕	21.0	16.1	外:にぶい橙色 (7.5YR 7/4) 内:橙色(5YR 6/6)	口:ヨコナデ 口内:ミガキ 胴外:ミガキ 頸外:ハケ目 肩外:ハケ目 胴内～底内:ハケ後ミガキ	07003179
図177-4	SH12027	O-40　埋土 №2	弥生土器	甕	-	残存 13.5	浅黄橙色(10YR 8/4)	胴外:カキケズリ 胴内:ハケ目 底外:ナデ 底内:ナデ	07003103
図177-5	SH12027	№7	弥生土器	壺	-	残存 11.7	外:橙色(5YR 7/6) 内:橙色(5YR 7/6)	胴外:ハケ後工具ナデ 胴内:工具ナデ	07003180
図177-6	SH12027	P-41　№8 P3　埋土	弥生土器	袋状 口縁壺	20.5	残存 11.7	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/3) 内:灰黄褐色 (10YR 5/2)	口外:ヨコナデ 頸内～口内:ハケ後ナデ 胴外:ハケ目 胴内:ハケ目 突:ヨコナデ	07003183
図177-7	SH12027		弥生土器	壺	-	残存 6.0	外:橙色(7.5YR 6/6) 内:橙色(7.5YR 6/6)	頸外:ヨコナデ 頸内:ナデ 内外:ハケ目	07003188
図177-8	SH12027	埋土	弥生土器	壺	-	残存 7.4	外:橙色(7.5YR 7/6) 内:にぶい橙色(7.5YR7/4)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 突:ヨコナデ	07003189
図177-9	SH12027	埋土　B群	弥生土器	長頸壺	(8.8)	残存 6.8	外:橙色(5YR 7/6) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	口:ヨコナデ 頸外:ハケ目 頸内:ハケ目	07003190
図177-10	SH12027	埋土　№7	弥生土器	壺	-	残存 24.8	橙色(5YR 6/6)	胴外:ハケ目(不明瞭) 胴内:ハケ目(不明瞭)	07003101
図178-1	SH12027	1層	弥生土器	甕 (底部)	-	0	外:にぶい橙色(7.5YR6/4) 内:にぶい黄橙色(10YR6/3)	胴内外:ナデ 底外:ハケ目	07003187
図178-2	SH12027	№3	弥生土器	高杯	(32.7)	残存 6.4	外:橙色(5YR 7/8) 内:橙色(5YR 7/8)	杯外上:工具ナデ 杯外下:ハケ目 杯底内:ハケ目 口:ヨコナデ	07003185
図178-3	SH12027	1層	弥生土器	高杯	(35.0)	残存 5.4	外:にぶい黄橙色(10YR7/3) 内:にぶい黄橙色(10YR7/3)	杯内:ヘラミガキ (全体的に摩耗)	07003186
図178-4	SH12027	埋土	弥生土器	高杯	(33.4)	残存 4.6	外:橙色(5YR 7/6) 内:橙色(5YR 7/6)	口端:ヨコナデ 杯外:ハケ後ヘラミガキ 杯内:ハケ後ヘラミガキ後 ナデ	07003184
図178-5	SH12027	埋土	弥生土器	鉢	(6.7)	7.9	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	口:ヨコナデ 胴外:ミガキ 胴内:ハケ目	07003102
図178-6	SH12027	O-40　埋土 №3	弥生土器	鉢	18.3	8.6	外:にぶい橙色(7.5YR6/4) 内:にぶい橙色(7.5YR7/4)	全面ナデ	07003182
図178-7	SH12027	O-40　埋土 №4 床面直上	弥生土器	鉢	15.7	9.7	外:橙色(5YR7/6) 内:橙色(5YR6/6)	口端:ヨコナデ 胴外上:タタキ 胴外下～底外:ハケ目 胴内:ハケ目	07003181

表 39　竪穴住居出土土器一覧表（29）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図178-8	SH12028	1層	弥生土器	甕	-	残存 3.3	外:褐灰色(10YR 5/1) 内:にぶい橙色(7.5YR6/4)	頸内外:ナデ 胴外:－	07003211
図178-9	SH12028	埋土	弥生土器	甕	-	残存 2.8	内:にぶい赤褐色 (5YR 5/4)	口端:ヨコナデ 口外:ハケ目 口内:ハケ目 頸外:ヨコナデ	07003213
図178-10	SH12028	埋土	弥生土器	甕棺	-	残存 5.5	橙色(2.5YR 6/6)	口端:ヨコナデ後刻み目 口外:ハケ目 口内:ハケ後ナデ	07003214
図178-11	SH12028	1層	弥生土器	甕 (底部)	-	残存 2.7	外:黒褐色(2.5Y 3/1) 内:灰黄色(2.5Y 7/2)	底外:ハケ目 底内:ナデ	07003212
図178-12	SH12028	下層	弥生土器	器台	-	残存 4.8	にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	ナデ	07003210
図178-13	SH12035	№1	弥生土器	甕	13.2	34.2	外:灰褐色(10YR4/2) 内:橙色(7.5YR6/6)	口外:ナデ 口内:ヨコハケ目 胴外:ハケ目 胴内上:ハケ目 胴内下:ナデ	07003253
図178-14	SH12035	№20・23・25	弥生土器	甕	(24.0)	34.0	外:にぶい褐色 (7.5YR5/3) 内:にぶい褐色 (7.5YR5/4)	口外:ヨコナデ 口内:ハケ後ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	07003191
図178-15	SH12035	№25	弥生土器	甕	21.8	-	明赤褐色 (5Y R 5/6)	胴外:ハケ目 胴内:ハケ目口内:ナデ	07003106
図179-1	SH12035	№16	弥生土器	甕	(19.1)	-	にぶい橙色(5YR6/4)	口端:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ハケ目	07003116
図179-2	SH12035	№6・7・11	弥生土器	甕	(26.3)	残存 14.4	外:黒褐色(7.5YR 3/1) 内:明褐色(7.5YR 3/1)	口外:ナデ 口内:ハケ目 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	07003218
図179-3	SH12035	№12	弥生土器	甕	(24.4)	残存 12.0	にぶい橙色(5YR 7/4)	口:ヨコナデ 胴内外:ハケ目	07003111
図179-4	SH12035	№19	弥生土器	甕	(23.0)	残存 13.0	橙色(5YR 6/6)	口内:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ハケ目	07003255
図179-5	SH12035	№19	弥生土器	甕	(21.0)	残存 14.0	外:橙色(5YR 6/6)内: にぶい黄橙色(10YR 6/4)	胴内外:ハケ目	07003256
図179-6	SH12035	№21	弥生土器	甕	(40.0)	64.6	橙色(5YR 7/8)	口:ヨコナデ 胴内外:ハケ目	07003216
図179-7	SH12035	№26	弥生土器	甕 (底部)	-	残存 18.0	灰黄褐色(10YR 4/2)	胴内外:ハケ目 底外:ハケ目 底内:ナデ	07003220
図179-8	SH12035	№25	弥生土器	甕 (底部)	-	残存 12.0	外:灰黄褐色(10YR 5/2) 内:橙色(7.5YR 6/6)	外体:ハケ目 外底:ハケ目 内下:ナデ 内体:ハケ目	07003117
図179-9	SH12035	№25	弥生土器	甕 (底部)	-	残存 9.2	外:黒褐色(5YR 2/1) 内:橙色(5YR 6/6)	胴内外:ハケ目 底内外:ナデ	07003115
図179-10	SH12035	№21	弥生土器	甕 (底部)	-	残存 7.0	外:黒褐色(7.5YR 5/6) 内:明褐色(7.5YR 3/1)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	07003219
図180-1	SH12035	D-3　1層 №31	弥生土器	広口壺	16.5	-	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	口:ヨコナデ 胴内外:ハケ目	07003110
図180-2	SH12035	№15	弥生土器	広口壺	(18.9)	-	橙色(7.5YR7/6)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:工具ナデ	07003114
図180-3	SH12035	№2	弥生土器	壺	最大幅 24.4		外:明黄褐色(10YR 6/6) 内:橙色(7.5YR 7/6)	胴内外:ハケ目 頸外:ハケ 突:ヨコナデ	07003257
図180-4	SH12035	№3	弥生土器	広口壺	(14.4)	残存 25.9	外:橙色(2.5YR 6/6) 内:橙色(2.5YR 6/6)	頸～体:ハケ目 口:ナデ 外下:ナデ 内:ハケ目	07003258
図180-5	SH12035	№20・21	弥生土器	袋状 口縁壺	15.0	残存 35.0	明赤褐色(5Y R 5/6)	口:ヨコナデ 頸外:ミガキ？ 頸内:ミガキ？ 肩内:ハケ目 胴外上:ハケ目？ 胴外～胴外下:カキケズリ 底外:ナデ 底内～胴内:ナデ 突:ヨコナデ	07003113

表 40　竪穴住居出土土器一覧表（30）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図180-6	SH12035	№24	弥生土器	壺	-	残存 38.3	外:橙色(2.5YR 6/6) 内:橙色(2.5YR 6/6)	胴内外:ハケ目 底外付近:ナデ	07003051
図180-7	SH12035	№25	弥生土器	壺	11.3	11.5	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/4) 内:橙色(5YR 6/6)	口外～底外:ナデ？ 口内:ミガキ？ 胴内:工具ナデ	07003108
図180-8	SH12035	№21	弥生土器	壺	30.3	29.2	外:にぶい黄橙色 (10YR 6/4) 内:黒褐色(5YR 3/1) 一部赤褐色(2.5YR 4/6)	口:ナデ 口端:キザミ目 胴外上:ハケ目 胴外下:カキケズリ 胴内:ハケ目 底外:ナデ	07003217
図180-9	SH12035	№25	弥生土器	壺	-	残存 7.0	橙色(7.5YR 7/6)	胴外:ミガキ 胴内上:ナデ胴内下:ハケ目	07003107
図181-1	SH12035	№23	弥生土器	高杯	6.9	27.0	橙色(7.5YR 6/6)	杯外:ミガキ 杯内:ナデ後ハケ目 脚外:ナデ 脚内:ハケ目	07003252
図181-2	SH12035	№20	弥生土器	高杯	(24.5)	残存 5.5	外:にぶい黄橙色(10YR 7/4) 内:にぶい黄橙色(10YR 7/4)	端:回転ナデ 胴内外:ヘラミガキ	07003054
図181-3	SH12035	№19	弥生土器	高杯	-	残存 12.0	橙色(5YR 6/6)	脚外:ハケ後ミガキ 脚内:ナデ	07003221
図181-4	SH12035	№13	弥生土器	高杯	-	残存 10.9	橙色(5YR 6/6)	不明瞭	07003053
図181-5	SH12035	№14	弥生土器	高杯	-	残存 14.0	橙色(5YR 6/6)	杯外:ヘラミガキ 脚外:ハケ目 裾:ナデ	07003052
図181-6	SH12035	一層下 №29・32	土師器	甕	(16.2)	残存 10.5	にぶい橙色(5YR6/4)	胴外:タタキ目 胴内:ナデ	07003109
図181-7	SH12035	№20	弥生土器	鉢	(16.6)	残存 6.0	橙色(7.5YR6/6)	胴内外:ハケ目 口端:ナデ	07003259
図181-8	SH12035	№18	土師器	甕	-	残存 9.0	橙色(2.5YR 6/8)	口～突:ヨコナデ 胴外:ナデ 頸内～胴外:ハケ目 胴内上:ハケ目後ナデ	07003118
図181-9	SH12035	№22	弥生土器	甕棺	-	残存 30.9	橙色(5YR 6/6)	外上:ハケ目 外下:ハケ目 内体:ハケ目後ナデ 突帯:ナデ 底部:ナデ 内底:ナデ	07003112
図181-10	SH12035	D-4　1層	弥生土器	器台	-	残存 6.3	外:明赤褐色(5YR 5/6) 内:褐色(7.5YR 4/3)	内外:ナデ	07003056
図181-11	SH12035	1層下　№31	弥生土器	鉢	(10.0)	7.0	明褐色(7.5YR 5/6)	胴外上:ハケ目 胴外下:工具によるナデ 胴内上:ハケ目	07003057
図182-1	SH12036	上層　№6	弥生土器	甕	(21.5)	残存 18.3	外:にぶい橙色(7.5YR6/4) 内:にぶい褐色(7.5YR5/4)	口外:ハケ後ヨコナデ 口内:ハケ目 胴外:ハケ目 胴内:工具ナデ	07003193
図182-2	SH12036	№5	弥生土器	甕	(24.0)	残存 24.0	橙色(2.5YR 6/8)	胴内外:ハケ目 口端:ナデ	07003223
図182-3	SH12036	上層　№8	弥生土器	甕	23.1	33.2	外:橙色(7.5YR 7/6) 内:橙色(7.5YR 6/6)	胴外上:ハケ目 胴内:ハケ目 底外:ナデ	07003192
図182-4	SH12036	№1	弥生土器	甕	16.9	23.5	橙色(2.5YR 6/8)	口:ヨコナデ 胴内外:カキケズリ 底部:ナデ	07003222
図182-5	SH12036	上層　№9	弥生土器	甕	-	残存 27.2	外:黒褐色(2.5Y 3/1)～ にぶい黄橙色 (10YR 6/4) 内:にぶい橙色 (7.5YR6/4)	頸外:ナデ 頸～胴外上:ハケ目 胴外下～底外:ナデ 胴内:ナデ	07003194
図182-6	SH12036	上層	弥生土器	甕	(16.1)	残存 4.5	橙色(7.5YR 7/6)	胴外:ナデ 胴内:ナデ	07003059
図182-7	SH12036	№9	弥生土器	袋状 口縁壺	19.2	残存 23.0	橙色(7.5YR 7/6)	－	07003263
図182-8	SH12036	№18	弥生土器	甕	(23.0)	残存 9.7	浅黄橙色(7.5YR 8/4)	口:ナデ 胴外:ハケ目 胴内:ハケ目後ナデ	07003058

表 41　竪穴住居出土土器一覧表（31）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図182-9	SH12036	№9	弥生土器	甕	-	残存 11.8	外:橙色（7.5YR 7/6） 内:浅黄橙色（10YR8/4）	胴外上:ハケ目 胴外下:ナデ 胴内:ナデ	07003262
図183-1	SH12036	上層	弥生土器	甕	-	残存 8.5	外:橙色(2.5YR 6/6) 内:にぶい褐色(7.5YR5/4)	胴外:工具によるナデ 胴内:ハケ目 底外:ナデ	07003060
図183-2	SH12036	上層　№7	弥生土器	鉢	(19.4)	残存 7.8	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	口:ハケ後ナデ 口端:ナデ 胴外上:ハケ 胴外下:ヘラミガキ 胴内:ハケ後ヘラミガキ	07003061
図183-3	SH12036	上層　№18	土師器	高杯	(27.8)	残存 6.4	外:橙色(7.5YR 7/6) 内:にぶい黄橙色(10YR7/4)	杯外下:ミガキ 杯内上:ミガキ	07003260
図183-4	SH12036	上層　№15	土師器	長頸壺	最大径 16.4	残存 11.3	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	胴外上:ハケ目 胴内:ナデ底外:ミガキ	07003261
図183-5	SH12041	上層	弥生土器	甕	(19.0)	-	にぶい橙色 (7.5YR 6/4)	口:ハケ目 端:ナデ 内肩:ナデ	07003119
図183-6	SH12041	埋土	弥生土器	高杯	-	残存 4.0	橙色(5YR 7/6)	杯上:ハケ後ミガキ？	07003120
図183-7	SH12041	P-5　埋土	弥生土器	高杯	-	残存 12.5	橙色(7.5YR 7/6)	脚外:ミガキ？ 脚内:ナデ	07003122
図183-8	SH12041	P-5　埋土	弥生土器	器台	-	残存 10.7	橙色(7.5YR 7/6)	脚内外:ナデ	07003121
図183-9	SH12043	埋土	弥生土器	甕	(23.5)	-	外:橙色（5YR 6/6） 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	端:ヨコナデ 肩内:ナデ 胴外:ハケ目 胴内:ハケ目	07003123
図183-10	SH12052	1層	弥生土器	甕	-	残存 2.4	にぶい橙色 (7.5YR 6/4)	口～胴外:ヨコナデ 胴内:ナデ	07003126
図183-11	SH12052	1層	弥生土器	甕	-	残存 3.7	橙色(5YR 6/6)	口～胴外:ヨコナデ 胴内:ナデ	07003125
図183-12	SH12052	3層	弥生土器	甕 (底部)	-	残存 3.9	橙色(2.5YR 6/6)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	07003124
図184-1	SH12053	2層	弥生土器	甕	(14.4)	-	橙色(7.5YR 7/6)	口外:ヨコナデ 口内:ハケ目 胴外:タタキ目 胴内:ケズリ	07003127
図184-2	SH12053	1層	弥生土器	器台	-	残存 5.5	橙色(7.5YR 7/6)	外:ミガキ？内:ナデ 受部:ナデ	07003128
図184-3	SH12067	埋土	土師器	甕	-	残存 7.3	橙色(7.5YR 6/6)	口:ナデ 胴内:ケズリ	07003133
図184-4	SH12067	埋土　北側	弥生土器	甕	-	残存 6.5	にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	07003131
図184-5	SH12067	埋土	弥生土器	甕 (底部)	-	残存 5.7	橙色(5YR 6/6)	胴外:ケズリ 胴内:ハケ目 底内:ナデ 底外:ナデ	07003129
図184-6	SH12067	埋土	弥生土器	鉢	(9.5)	-	橙色(5YR 6/6)	口:ヨコナデ 胴外:粗いハケ目 胴内下:工具ナデ 胴内上:ハケ目	07003132
図184-7	SH12067	埋土	弥生土器	高杯	(29.5)	残存 5.8	橙色(5YR 6/8)	杯外:ハケ目・ミガキ 杯内:ハケ目	07003130
図184-8	SH12068		土師器	口縁	-	残存 4.2	にぶい赤褐色 (5YR 5/4)	口:ヨコナデ 胴外:ナデ？ 胴内:ケズリ	07003136
図184-9	SH12068		土師器	口縁	-	残存 3.7	橙色(5YR 6/6)	口外:ヨコナデ 口内:ナデ	07003135
図184-10	SH12068	S-41　土坑 埋土　№1	須恵器	瓶	-	残存 14.8	黄灰色(2.5Y 4/1)	胴内:ナデ・回転ナデ 胴外:回転ナデ 回転ヘラケズリ	07003134
図185-1	SH13086		弥生土器	甕	(25.8)	残存 39.3	橙色(5YR 6/6)	口:ヨコナデ 胴外上:工具上下ナデ 胴内上:工具ヨコナデ 胴内下:工具ナデ 底外:ナデ 底内:ナデ 突帯:ヨコナデ	08001426

表 42　竪穴住居出土土器一覧表（32）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図185-2	SH13115		土師器	甕	(22.0)	残存 6.9	橙色(5YR 6/6)	口:ハケ後ナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	08000860
図185-3	SH13115		土師器	甕	-	残存 8.6	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	胴外:ハケ目 胴内:ケズリ	08000857
図185-4	SH13115	№3	土師器	高杯	(14.4)	残存 4.5	赤褐色(2.5YR 4/8)	杯内外:ヘラミガキ 脚内:ナデ	08000859
図185-5	SH13115	№2	土師器	高杯	(14.1)	残存 8.1	橙色(5YR 6/8)	口:ヨコナデ 脚内:ナデ	08000856
図185-6	SH13115	№4	土師器	高杯	-	残存 2.3	明赤褐色(2.5YR 5/6)	裾外:ヘラミガキ 脚内:ナデ	08000858
図185-7	SH13115	№5	弥生土器	支脚	-	残存 5.3	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	外:ナデ	08000861
図186-1	SH13154	№1	土師器	甕	(19.0)	残存 11.5	にぶい黄橙色 (10YR6 /4)	口:ヨコナデ 胴外:ナデ 胴内:ヘラケズリ	08000863
図186-2	SH13154	№2	土師器	甕	(12.8)	-	橙色(2.5YR 6/6)	口内:ヨコナデ 胴外:不明瞭 胴内:ケズリ	08000969
図186-3	SH13154	№2・4	土師器	甕	(15.4)	14.9	外:橙色(2.5YR) 内:明黄褐色(10YR 6/6)	口内:ナデ 胴外:ナデ？ 胴内:ケズリ	08000862
図186-4	SH13157	№1　埋土	土師器	甕	13.4	残存 17.1	明赤褐色	口:回転ナデ 胴外上:ハケ目 胴外下:工具ナデ 胴内上:ハケ目 胴内下:工具ナデ	08001428
図186-5	SH13157	№1	弥生土器	甕	-	残存 11.0	外:にぶい赤褐色 (5YR 5/4) 内:にぶい褐色 (7.5YR5/4)	胴外上:ハケ目 胴外下～底外:ナデ 胴内下:工具ナデ 胴内上:ナデ	08001427
図186-6	SH13157	№3	弥生土器	台付鉢	13.0	7.5	橙色(7.5YR 6/6)	口～脚:ナデ 胴内:不明瞭	08001430
図186-7	SH13158	焼土層	土師器	甑	-	残存 6.9	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	口:回転ナデ 胴外:ハケ目 胴内:ヘラケズリ	08001431
図186-8	SH13158	№1	土師器	鉢	3.5	2.3	外:橙色(5YR 7/6) 内:にぶ黄橙色(10YR7/4)	全面指ナデ	08001432
図186-9	SH13158	№2	土師器	鉢	3.5	2.1	橙色(7.5YR 6/6)	全面指ナデ	08001433
図187-1	SH13163		土師器	甕	(14.0)	残存 11.9	橙色(7.5YR 6/6)	不明瞭	08001429
図187-2	SH13163	V-44・45	須恵器	鉢	(10.5)	7.8	灰色(5Y4/1)	口～胴上:回転ナデ 胴下:ヘラケズリ 底内～体内:ナデ 底外:ナデ	08001437
図187-3	SH13163	№2	土師器	鉢	2.6	2.5	外:にぶい橙色(7.5YR6/4) 内:にぶい黄橙色 (10YR 6/3)	全面指ナデ	08001434
図187-4	SH13163	№1	須恵器	杯身	11.6	3.9	灰色(7.5Y6/1)	胴外～底内:回転ナデ 底外:ヘラケズリ	08001436
図187-5	SH13212	№2	土師器	甕	14.6	19.7	外:橙色(7.5YR7/6) 内:にぶい黄橙色 (10YR6/4)	口:ハケ後ヨコナデ 胴外～底外:ハケ目 胴内:ヘラケズリ	08001086
図187-6	SH13212	№6・13・17	土師器	甕	(15.1)	21.0	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	口:ヨコナデ 外上:ハケ目 外下:ハケ後ナデ 胴内:ヘラケズリ	08001087
図187-7	SH13212	№3・8	土師器	甕	-	残存 19.0	外:にぶい褐色(7.5YR5/4) 内:灰黄褐色(10YR5/2)	頸内:ナデ 胴外:ハケ目 胴内:ヘラケズリ？	08001090
図187-8	SH13212	埋土中	土師器	甕	-	残存 11.2	外:にぶい黄橙色 (10YR 6/4) 内:にぶい橙色(7.5YR6/4)	胴外:ハケ目 胴内:ヘラケズリ	08001088
	SH13212	№5	土師器	甕 (底部)	-	残存 8.0	外:にぶ黄橙色 (10YR6/4) 内:橙色(5YR 6/6)	胴外:ハケ目 胴内:ヘラケズリ	08001089
図188-1	SH13212	№4	弥生土器	甕 (底部)	-	残存 7.0	外:にぶい黄橙色 (10YR 6/3) 内:にぶい黄橙色(10YR 6/4)	胴外下:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	08001085

表 43　竪穴住居出土土器一覧表（33）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図188-2	SH13212	№18	弥生土器	台付甕 (底部)	-	残存 2.9	外:にぶ黄橙色 (10YR6/3) 内:橙色(7.5YR 6/6)	胴外:ヨコナデ 胴内:ナデ 裾内:ヨコナデ 底外:ナデ	08001084
図188-3	SH13212	№1・11・12	土師器	高杯	22.9	15.2	橙色(5YR 6/6)	口:ヨコナデ 杯外～裾:ヘラミガキ 杯内:ハケ目 裾内:ハケ目 裾奥:ヨコナデ	08001082
図188-4	SH13212	№15	土師器	台付鉢	10.4	7.3	外:にぶい黄橙色 (10YR 6/4) 内:橙色(5YR 6/6)	口～裾外:ミガキ？ 杯底:工具ナデ 裾内:ナデ	08001083
図188-5	SH13246	埋土	弥生土器	甕	-	残存 6.0	にぶい橙色 (7.5YR 6/4)	口外:ハケ目 口内:ヨコナデ 頸部:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:タタキ？	08000970
図188-6	SH13246	埋土	土師器	甕	(17.3)	残存 6.8	橙色(7.5YR 6/6)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ケズリ	08000971
図188-7	SH13246	№1	土師器	甕	-	残存 14.2	外:にぶい黄橙色 (10YR 6/4) 内:橙色(5YR 6/6)	胴外上:ヨコナデ 胴外下:ハケ目 胴内:ナデ	08000976
図188-8	SH13246		土師器	甕	-	残存 20.7	にぶい黄褐色 (10YR 5/3)	胴外上:ハケ目 胴外下:ナデ 胴内上:ケズリ 胴内下:ナデ	08000975
図188-9	SH13246	埋土	土師器	壺？	-	残存 5.8	橙色(7.5YR 7/6)	胴外:ハケ目 胴外下:ナデ？ 胴内～底内:ハケ目 底外:ケズリ？	08000972
図189-1	SH13345	№1	土師器	甕	(14.9)	残存 15.5	外:橙色(7.5YR 7/6) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	胴外上:ハケ後ナデ 胴外下:ハケ目 胴内上～口縁部:ナデ 胴内下:ヘラケズリ	08001438
図189-2	SH13345	№2	土師器	鉢	(13.4)	6.6	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/3) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	口:ナデ 胴外:工具ナデ 底外:ヘラナデ	08001439
図189-3	SH13345	埋土中	土製品	紡錘車	最大径 3.6	最大厚 0.65	外:にぶい橙色(5YR 6/4) 内:にぶい黄褐色 (10YR 5/3)	－	08001440
図189-4	SH13375	W48　№4 遺構検出	土師器	壺	-	残存 29.3	橙色(7.5YR 6/6)	胴内外:ハケ目	08000808
図189-5	SH13375	№2	土師器	壺	10.8	15.0	外:にぶい橙色 (7.5YR7/4) 内:明黄褐色(10YR 7/6)	口内:ミガキ 口外～胴下:ミガキ 胴外下～底外:カキケズリ 胴内～底:ナデ	08000806
図189-6	SH13375	埋土中	土師器	壺	-	残存 7.6	外:にぶい黄橙色 (10YR 6/3) 暗灰色(N3/) 内:にぶい黄橙色 (10YR 6/3)	頸外:ハケ目 胴内:ナデ 胴外:ヘラミガキ	08001444
図189-7	SH13375	№3	弥生土器	台付鉢	12.1	9.9	外:にぶい橙色 (7.5YR7/4) 内:にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	口:ナデ 胴外:ハケ後ナデ 胴内:工具ナデ 裾外～裾内:ヘラミガキ 裾奥:ナデ	08001442
図189-8	SH13375	№5	土師器	高杯	19.0	11.6	外:明黄褐色(10YR 7/6) 内:にぶい橙色 (7.5YR7/4)	杯内～外裾:ミガキ 裾内:ヨコナデ	08000807
図189-9	SH13375	№3	土師器	高杯	-	残存 4.8	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	裾外:ヘラミガキ 裾内:ハケ目 裾内奥:工具ナデ	08001443

表 44　竪穴住居出土土器一覧表（34）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図189-10	SH13375	№1	土師器	器台	受部径 19.7	9.4	外:浅黄橙色 (10YR 8/4) 内:にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	口外:回転ナデ 端外:回転ナデ 内上:工具ナデ 内下:ヘラケズリ	08001441
図189-11	SH13416	埋土	須恵器	杯蓋	13.3	3.9	灰色(7.5Y 6/1)	胴外～底内:回転ナデ 底外:ヘラケズリ	08001435

表 45　土坑・溝状遺構出土土器一覧表（1）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図190-1	SK11006	P-34	弥生土器	甕	-	残存 1.7	外:にぶい赤褐色 内:褐灰色	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	08000521
図190-2	SK11008	覆土	弥生土器	甕	(22.9)	残存 7.3	外:にぶい褐色褐灰色 内:にぶい褐色	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:工具ナデ	08000531
図190-3	SK11008	P-35	弥生土器	甕	(23.2)	残存 4.35	外:褐灰色 内:にぶい橙色	口:ヨコナデ胴外:ハケ目 胴内:ナデ	08000528
図190-4	SK11008	P-35	弥生土器	甕	-	残存 4.2	にぶい橙色	口:ヨコナデ 胴内:ナデ	08000526
図190-5	SK11008	P-35	弥生土器	甕	(24.9)	残存 4.8	にぶい赤褐色	口:ヨコナデ胴外:ヨコ ナデ 胴内:ナデ	08000527
図190-6	SK11008	P-35	弥生土器	壺	(17.6)	残存 2.65	外:橙色褐灰色 内:橙色	頸内外:ヨコナデ	08000530
図190-7	SK11008	P-35	弥生土器	袋状 口縁壺	(32.5)	残存 3.3	外:橙色浅黄橙色 内:浅黄橙色	口内外:ヨコナデ	08000529
図190-8	SK11008	P-35	弥生土器	甕	-	残存 3.6	外:橙色 内:にぶい橙色	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	08000524
図190-9	SK11008	P-35	弥生土器	甕	-	残存 3.45	外:橙色 内:にぶい橙色	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	08000523
図190-10	SK11008	P-35	弥生土器	甕	-	残存 3.7	外:にぶい赤褐色 内:褐灰色	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	08000522
図190-11	SK11008	P-35	弥生土器	甕	-	残存 7.15	外:橙色 内:にぶい黄橙色黒褐色	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	08000525
図190-12	SK11010		弥生土器	壺	(24.0)	残存 2.0	外:にぶい橙色 内:にぶい橙色	口内外:ヨコナデ	08000605
図190-13	SK11010		弥生土器	壺	-	残存 1.9	外:橙色 内:橙色	口内外:ヨコナデ	08000604
図190-14	SK11010	覆土	弥生土器	壺	-	残存 4.7	外:赤褐色 内:灰白色	胴外:暗文 胴内:ナデ	08000603
図190-15	SK11010		弥生土器	甕	-	残存 2.9	外:橙色 内:黄灰色	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	08000602
図190-16	SK11010	覆土	弥生土器	甕	-	残存 3.45	外:浅黄橙色 内:浅黄橙色	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	08000601
図190-17	SK11010		弥生土器	甕	-	残存 5.3	外:橙色 内:橙色	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	08000600
図190-18	SK11037		弥生土器	壺	-	残存 3.15	外:明褐灰色 内:にぶい橙色	胴内:ナデ 突帯有り	08000532
図191-1	SK11051	覆土	弥生土器	甕	(24.2)	残存 6.2	外:にぶい橙色 ～褐灰色 内:にぶい橙色 ～褐灰色	口:ヨコナデ 胴内:ナデ	08000615
図191-2	SK11051	覆土	弥生土器	甕	(21.4)	残存 5.0	外:黒褐色～ にぶい黄橙色 内:浅黄橙色	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ハケ後ナデ	08000614
図191-3	SK11051	覆土	弥生土器	甕	(29.2)	残存 8.8	外:黄橙色～橙色 (スス付着部分褐灰色) 内:橙色～にぶい橙色	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目胴内:ナデ	08000613
図191-4	SK11051	覆土	弥生土器	甕	-	残存 8.2	外:にぶい黄橙色 内:黄橙色	胴外:ハケ目胴内:ナデ 底外:ナデ	08000612
図191-5	SK11051	覆土	土製品	支脚		13.0	外:浅黄橙色 内:灰褐色	外:ナデ	08000611

表 46　土坑・溝状遺構出土土器一覧表（2）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図191-6	SK11057	No.33	弥生土器	甕	20.8	25.5	外:胴部から底部 にぶい橙色 口縁:黒褐色 内:にぶい橙色	口:ヨコナデ 胴外上:ハケ目 胴外下:ケズリ後 ハケ目後ナデ 胴内:ハケ目後ナデ	08000643
図191-7	SK11057	No.6	弥生土器	甕	(16.8)	残存 20.0	外:口縁部にぶい橙色 底部明褐灰色 内:にぶい橙色	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ハケ目後ナデ	08000627
図191-8	SK11057	覆土 遺構検出時 No.14・15・20	弥生土器	甕	19.6	残存 21.5	外:橙色　褐灰色 黒褐色 内:ナデ	口:ヨコナデ 胴外:工具ナデ 胴内:工具ナデ 一部指オサエ	08000634
図191-9	SK11057	No.37	弥生土器	甕	(20.6)	残存 9.0	外:にぶい黄橙色～ 黒褐色 内:橙色	全面:ハケ目	08000642
図192-1	SK11057	No.12	弥生土器	甕	(20.8)	残存 6.0	外:橙色 内:灰白色	口:ハケ目 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	08000625
図192-2	SK11057	No.30	弥生土器	甕	(20.2)	残存 10.8	外:黒褐色 橙色 内:橙色	全面:ハケ目	08000640
図192-3	SK11057	No.12	弥生土器	甕	(20.5)	残存 6.7	外:橙色 内:にぶい黄橙色 橙色	口:ヨコナデ 頸外:ハケ目 胴内外:ハケ目	08000624
図192-4	SK11057	No.30	弥生土器	甕	(21.0)	残存 7.7	外:灰黄褐色 浅黄橙色 内:にぶい黄橙色	口:ヨコナデ 胴内外:ハケ目	08000641
図192-5	SK11057	覆土	土師器	甕	(18.8)	残存 3.8	外:にぶい黄褐色黒褐色 内:にぶい黄橙色 橙色	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ヘラケズリ	08000620
図192-6	SK11057	覆土	弥生土器	甕	-	残存 3.6	外:浅黄色にぶい黄橙色 内:にぶい黄橙色 褐灰色	胴内外:ナデ	08000619
図192-7	SK11057	No.15	弥生土器	壺	-	残存 2.8	外:にぶい黄橙色～橙色 黒褐色 内:にぶい黄橙色	胴外:ナデ 胴内:ハケ目	08000635
図192-8	SK11057	No.6	弥生土器	壺	-	残存 4.2	外:にぶい橙色 内:にぶい黄橙色	胴内外:ナデ	08000621
図192-9	SK11057	No.17	弥生土器	壺	-	残存 4.3	外:灰黄色 黒褐色 内:淡黄色 黄灰色	胴内外:ナデ	08000636
図192-10	SK11057	No.39	弥生土器	壺	-	残存 6.6	外:橙色 にぶい黄橙色 内:橙色	胴外:ヘラミガキ 胴内:工具ナデ	08000632
図192-11	SK11057	覆土　No.9	弥生土器	壺	(20.1)	残存 7.9	にぶい黄橙色	口外:ハケ目 口内:ヨコハケ目 胴外:ハケ目 胴内:ハケ目	08000617
図192-12	SK11057	遺構検出面 No.1・2	弥生土器	袋状 口縁壺	(17.4)	残存 6.5	にぶい黄橙色	口:ヨコナデ 頸外:ハケ目	08000616
図192-13	SK11057	遺構検出面 No.9	弥生土器	壺	-	残存 7.5	外:橙色～浅黄橙色 黒褐色 内:橙色	胴外:ヘラミガキ 胴内:指ナデ	08000629
図193-1	SK11057	No.34	弥生土器	壺	-	残存 23.4	外:灰黄褐色 黒褐色 内:にぶい黄橙色	胴外部:ハケ目後ナデ 胴外下:ハケ目 胴内:ナデ一部ハケ目	08000630
図193-2	SK11057	覆土 No.1・8・11・32	弥生土器	壺	-	残存 27.2	外:浅黄橙色～褐灰色 内:浅黄色	胴外上:ナデ 胴外中:ハケ目 胴外下:粗いハケ目 胴内上:ナデ 胴内下:ハケ目	08000618
図193-3	SK11057	No.6	弥生土器	壺	-	残存 21.0	外:橙色 内:にぶい褐色 (一部スス有)	口外:ヨコナデ 口内:ナデ 胴外上:ハケ目後ナデ 胴外下:ナデ 胴内:工具ナデ	08000626
図193-4	SK11057	No.22	弥生土器	台付鉢	(22.6)	17.2	外:浅黄橙色 内:にぶい黄橙色	口:ヨコナデ 胴脚裾内外:ハケ目	08000631
図193-5	SK11057	No.14	弥生土器	高杯	25.0	20.0	外:にぶい橙色 (一部明赤褐色)	杯上:ハケ目 杯下:ナデ　裾:ナデ	08000633

表 47　土坑・溝状遺構出土土器一覧表（3）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図193-6	SK11057	№10	弥生土器	高杯	-	残存 13.0	外:赤褐色 内:明褐色	脚外:ハケ目後ナデ 裾内外:ハケ目	08000628
図194-1	SK11057	№6	弥生土器	高杯	-	残存 3.6	外:橙色 内:にぶい褐色	杯外:ミガキとハケ目 杯内:ミガキ	08000622
図194-2	SK11057	№17	弥生土器	高坏	-	残存 3.9	外:橙色 内:にぶい橙色 褐灰色	裾外:ハケ目後ナデ 裾内:ナデ	08000637
図194-3	SK11057	№23	弥生土器	高杯	-	残存 9.3	外:灰白色 にぶい橙色 内:灰白色 にぶい橙色	脚外:ヘラミガキ	08000638
図194-4	SK11057	№25	弥生土器	高杯	-	残存 7.6	外:褐灰色 にぶい橙色 内:褐灰色	脚外:擦痕	08000639
図194-5	SK11057	№10	土製品	器台	-	残存 10.2	外:橙色 内:橙色	全面ナデ	08000623
図194-6	SK11072		弥生土器	甕	-	残存 5.0	外:橙色 内:灰褐色	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 胴底:ナデ	08000537
図194-7	SK11075		弥生土器	甕	(28.0)	残存 2.9	外:にぶ黄橙色(10YR 7/2) 内:にぶ黄橙色(7.5YR7/4) 口:明褐灰色(7.5YR 7/2) 内部:淡赤橙色(2.5YR7/3)	ヨコナデ	08000645
図194-8	SK11075		弥生土器	甕	(20.0)	残存 6.1	外:にぶい橙色(5YR 6/3) 内:橙色(2.5YR 6/6) 口:にぶい橙色(7.5YR7/4)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	08000644
図194-9	SK11075		弥生土器	甕	-	残存 5.7	外:褐灰色(10YR4/1) 内:にぶい橙色(7.5YR6/4)	胴外:工具ナデ 胴内:工具ナデ 底外:ナデ	08000646
図194-10	SK11105	覆土	弥生土器	壺	(19.2)	残存 4.8	外:にぶい黄橙色(10YR 7/3) 内:にぶい黄橙色(10YR 7/2) 内面及び外面:まだらに 褐灰色(10YR 5/1)	ヨコナデ	08000647
図194-11	SK11105	覆土	弥生土器	器台	-	脚部高 (6.0)	外:にぶい黄橙色(10YR 7/2) 内上:浅黄橙色(10YR8/3) 内下:灰褐色(7.5YR 6/2)	外:ハケ目 内:ナデ 端:ヨコナデ	08000648
図194-12	SK11118	覆土	弥生土器	甕	-	残存 2.0	外:にぶい橙色 内:橙色	口:ヨコナデ	08000542
図194-13	SK11118	覆土	弥生 土器？	壺	-	残存 7.4	外:にぶい赤褐色 黒色 内:橙色	胴外:工具ナデ 胴内:ハケ目	08000543
図195-1	SK11120	覆土	弥生土器	甕	-	残存 4.1	外:にぶい褐色 内:にぶい橙色	全面:ナデ	08000544
図195-2	SK11124		弥生土器	甕	(30.9)	残存 7.3	外:にぶい褐色 (7.5YR5/3) 内:にぶい橙色 (5YR 7/4)胎土側面 側:にぶい黄橙色 (10YR 7/2)	口:ヨコナデ 胴内外:ハケ目	08000649
図195-3	SK11128	P-35・36	弥生土器	甕	(21.4)	残存 3.8	外:にぶ橙色(7.5YR 7/4) 内:にぶい橙色(7.5YR7/4) 口:橙色(5YR 7/6) 胎土:浅黄橙色(10YR8/3)	口:ヨコナデ 胴外:ヨコナデ 胴内:ナデ	08000650
図195-5	SK11128	P-35・36	弥生土器	甕	-	残存 1.7	頸外:褐灰色(7.5YR 4/1) 頸外一部:にぶい橙色 (7.5YR 6/4) 口外:にぶ橙色(7.5YR6/4) 頸内:にぶい黄橙色 (10YR 7/3) 口内:にぶい黄褐色 (10YR 5/3) 口内一部:褐灰色 (10YR 4/1)	口:ヨコナデ 胴内:ナデ	08000652
図195-6	SK11128	P-35・36	弥生土器	支脚	-	残存 4.15	外:にぶい橙色 (7.5YR6/4) 底:にぶい褐色 (7.5YR5/4) 胎土:橙色(5YR6/6)	外:指オサエ	08000653

表 48　土坑・溝状遺構出土土器一覧表（4）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図195-7	SK11135		弥生土器	甕	(16.0)	残存 10.5	外:にぶい黄橙色 橙色　黒褐色 内:にぶい黄橙色	口外:ヨコナデ 口内:ハケ目 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	08000657
図195-8	SK11135		弥生土器	甕	-	残存 7.5	外:橙色～褐灰色 内:浅黄橙色	胴外:ヘラケズリ 胴内:ハケ目 底内外:ナデ	08000656
図195-9	SK11135		弥生土器	器台	(12.4)	残存 6.6	外:にぶい黄橙色～橙色 内:橙色	外:ハケ目(不明瞭) 内:ナデ	08000658
図195-10	SK11135		弥生土器	器台	-	残存 10.5	外:橙色 内:にぶい黄橙色	外:指頭圧痕 内:ナデ	08000659
図196-1	SK11148	覆土	弥生 土器？	壺	(16.95)	残存 4.15	外:明赤褐色 内:にぶい褐色	口:ヨコナデ 胴内:ナデ	08000549
図196-2	SK11148	覆土	土師器	壺	(14.3)	残存 8.6	外:明褐色 内:明黄褐色	口:ヨコナデ 胴外:ハケ後ナデ 胴内:ヘラケズリ	08000553
図196-3	SK11148	覆土	土師器	二重 口縁壺	(19.2)	残存 7.9	外:黄橙色 内:明黄褐色	口:ヨコナデ 頸:ヨコナデ胴内:ナデ	08000551
図196-4	SK11148	覆土	弥生土器	鉢	(13.35)	残存 9.35	外:赤褐色 内:明赤褐色	口:ヨコナデ 胴外:指ナデ 胴内:ハケ目	08000550
図196-5	SK11148	覆土	弥生土器	鉢	(13.25)	残存 8.5	にぶい褐色	胴内外:工具ナデ	08000548
図196-6	SK11148	覆土	土師器	鉢	(18.2)	残存 9.9	にぶい黄橙色	口:ヨコナデ 胴外:ヘラケズリ 胴内:ハケ目	08000554
図196-7	SK11157	覆土	弥生土器	高杯	-	残存 5.65	にぶい褐色	脚外:ヘラミガキ 脚内:ハケ目	08000552
図196-8	SK11157		弥生土器	壺	(15.0)	残存 5.5	外:明黄褐色 内:浅黄橙色～明黄褐色	口:ヨコナデ 胴内:ナデ	08000662
図196-9	SK11157		弥生土器	壺	-	残存 9.0	外:にぶい黄橙色 内:黒褐色	内外:ハケ目	08000661
図196-10	SK11157		弥生土器	鉢	(11.3)	5.6	外:橙色 黒褐色 内:橙色 黒褐色	胴外:ハケ目後ナデ 胴内:工具ナデ	08000664
図196-11	SK11157		土師器	鉢	-	残存 5.1	外:浅黄橙色 褐灰色 内:黒褐色	口:ヨコナデ 胴内外:ナデ	08000663
図197-1	SK11174	覆土	土師器	壺	16.2	残存 13.9	にぶい橙色(2.5YR) 一部ススあり	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ヘラケズリ	08000666
図197-2	SK11174	覆土	土師器	壺	-	残存 7.9	明黄褐色	胴外:ハケ目 胴内:ヘラケズリ	08000668
図197-3	SK11174		土師器	鉢	(11.6)	残存 3.8	外:黄褐色(2.5YR) 内:黒色	胴内外:ナデ	08000669
図197-4	SK11174	覆土	弥生土器	器台	-	残存 7.5	明赤褐色(5YR)	胴内外:ハケメ 胴外中:ナデ	08000667
図197-5	SK11186		弥生土器	甕	(24.2)	残存 3.9	褐色	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	08000672
図197-6	SK11186		弥生土器	甕	(23.0)	残存 3.0	外:黒褐色 内:橙色	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	08000671
図197-7	SK11201	覆土	弥生土器	甕	(30.1)	残存 5.6	外:にぶい赤褐色 内:明褐色	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	08000675
図197-8	SK11201	覆土	弥生土器	甕	(27.2)	残存 5.9	外:橙色(7.5YR) 内:橙色	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	08000676
図197-9	SK11201	覆土	弥生土器	甕	(29.2)	残存 7.1	外:にぶい赤褐色 内:明赤褐色一部黒褐色	胴外:ハケ目 底外:ナデ 底内:ナデ	08000674
図197-10	SK11201	覆土	弥生土器	壺	-	残存 4.3	外:赤褐色 内:橙色	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	08000677
図197-11	SK11201	覆土	弥生土器	壺	-	残存 3.6	外:明赤褐色 内:明褐色	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	08000678
図198-1	SK11214	覆土	弥生土器	甕	(15.8)	残存 20.8	外:赤褐色 橙色 黒褐色内:赤褐色	口:ハケ目後ヨコナデ 胴外上:ハケ目 胴外下:工具ナデ 胴内:ハケ目	08000556
図198-2	SK11214	覆土	弥生土器	甕	(18.8)	残存 14.7	明赤褐色 橙色	胴内外:ハケ目	08000557

表 49　土坑・溝状遺構出土土器一覧表（5）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図198-3	SK11214	覆土	弥生土器	壺	(14.7)	残存 7.25	にぶい橙色	頸内:ナデ後一部ハケ目 胴内外:ハケ目	08000555
図198-4	SK11215		弥生土器	壺	-	残存 7.75	外:暗赤褐色 内:明赤褐色	外面:ハケ目 内面:ハケ後ナデ 口縁部:ハケ目後ナデ	08000559
図198-5	SK11215		弥生土器	鉢	(25.8)	残存 6.3	外:明赤褐色 内:橙色	口外:ヨコナデ 口内:ハケ目 胴内上:タテにハケ目 胴内下:ヨコにハケ目	08000558
図198-6	SD11218	覆土	土師器	甕	(16.4)	残存 5.0	外:明赤褐色一部黒色 内:明赤褐色	口:ヨコナデ 胴内:ヘラケズリ	08000683
図198-7	SD11218	覆土	土師器	甕	(17.4)	残存 9.3	にぶい黄橙色	外面上:ハケ目 外面下:工具ナデ 内面:ヘラケズリ 口縁部:ヨコナデ	08000682
図198-8	SD11218	覆土	弥生土器	甕	-	残存 4.9	にぶい橙色	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目後ヨコナデ 胴内:ヨコナデ	08000680
図198-9	SD11218	覆土	弥生土器	甕	-	残存 5.2	外:にぶい黄橙色 内:にぶい黄橙色 一部黒色	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目後ヨコナデ 胴内:ヨコナデ	08000681
図198-10	SD11218	覆土	弥生土器	甕	-	残存 6.7	外:褐灰色 内:灰黄褐色	口:ヨコナデ 胴内外:ハケ目	08000679
図199-1	SK11232	X42	弥生土器	甕	(25.0)	残存 5.0	赤褐色	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	08000685
図199-2	SK11232	X42	弥生土器	甕	-	残存 4.7	にぶい赤褐色	口:ヨコナデ 胴内:ナデ	08000687
図199-3	SK11232		弥生土器	甕	-	残存 4.5	灰黄褐色	口外:ヨコナデ 口内:ヨコナデ後ナデ	08000562
図199-4	SK11232	X42	弥生土器	甕	(24.8)	残存 6.3	明赤褐色一部黒色	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	08000684
図199-5	SK11232		弥生土器	甕	-	残存 3.5	明赤褐色	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目	08000560
図199-6	SK11232	X42	弥生土器	甕	-	残存 7.0	浅黄橙色	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	08000686
図199-7	SK11232	X42	弥生土器	壺	(15.6)	残存 4.8	赤褐色(5YR)	口:ヨコナデ 頸外:ナデ 頸内:工具ナデ	08000688
図199-8	SK11232		弥生土器	壺	-	残存 5.05	橙色	胴外:ハケ目 胴内:ヨコナデ一部 工具ナデ 突:ヨコナデ	08000561
図199-9	SK11232	X42	弥生土器	器台？	-	残存 4.8	橙色	胴外:ハケ目後 一部ヨコナデ胴 内:不定方向のハケ目	08000689
図199-10	SK11233		弥生土器	甕	(28.6)	残存 4.6	橙色	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目後ナデ 胴内:ナデ	08000572
図199-11	SK11233		弥生土器	甕	(26.0)	残存 4.55	外:橙色 黒褐色 内:にぶい橙色	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目後ヨコナデ 胴内:ナデ	08000574
図199-12	SK11233		弥生土器	甕	(24.8)	残存 3.35	橙色	口:ヨコナデ胴 内:ナデ	08000573
図199-13	SK11233		弥生土器	甕	(25.7)	残存 5.1	赤褐色	口:ヨコナデ 外面:ハケ目後ヨコナデ 内面:ナデ	08000571
図200-1	SK11233		弥生土器	甕	(31.3)	残存 5.35	外:にぶい赤褐色 内:明赤褐色	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	08000570
図200-2	SK11233		弥生土器	甕棺	-	残存 3.05	外:明黄褐色 内:にぶい黄橙色	口内外:ヨコナデ 上端:不明	08000565
図200-3	SK11233		弥生土器	甕棺	-	残存 4.3	外:橙色 赤黒色 内:橙色	全面:ヨコナデ	08000563

表 50　土坑・溝状遺構出土土器一覧表（6）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図200-4	SK11233		弥生土器	甕棺	-	残存 4.3	にぶい黄橙色	口内外:ヨコナデ 上端:不明	08000564
図200-5	SK11233		土師器	擂鉢	-	残存 3.1	にぶい黄橙色 橙色　灰色	胴外:ナデ 胴内:ヨコナデ	08000567
図200-6	SK11233		弥生土器	甕	-	残存 3.1	外:橙色 内:にぶい橙色	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	08000569
図200-7	SK11233		弥生土器	甕	-	残存 4.65	にぶい黄褐色	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 底外:ナデ	08000566
図200-8	SK11233		弥生土器	壺？	-	残存 3.95	にぶい黄橙色	胴内外:ナデ 底部:剥離	08000568
図200-9	SK11238		弥生土器	甕？	-	残存 1.65	橙色	ヨコナデ	08000575
図200-10	SK11238	覆土	弥生土器	壺	-	残存 2.35	橙色 外面底面一部黒褐色	胴外:ハケ目 胴内:指頭圧痕 底外:ナデ	08000576
図200-11	SK11244	覆土	弥生土器	甕	(32.2)	残存 4.0	外:褐灰色 内:灰褐色	口:ヨコナデ	08000578
図200-12	SK11244	覆土	弥生土器	甕	(27.1)	残存 3.5	にぶい赤褐色	口:ヨコナデ	08000579
図200-13	SK11244	覆土	弥生土器	甕	-	残存 3.1	外:橙色 内:にぶい橙色	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目後ヨコナデ 胴内:ヨコ方向にハケ目	08000580
図200-14	SK11244	覆土	弥生土器	甕	-	残存 4.25	にぶい橙色一部黒褐色	胴外:ハケ目 胴内:ナデ底外:ナデ	08000577
図200-15	SK11246		弥生土器	甕	(27.8)	残存 4.0	褐色	口上端:ヨコナデ 胴外:ナデ 胴内:工具ナデ	08000692
図200-16	SK11246		弥生土器	甕	(24.0)	残存 2.7	外:淡褐色 内:淡褐色	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目　胴内:ナデ	08000690
図200-17	SK11246		弥生土器	甕	(27.0)	残存 4.0	外:黒褐色 内:淡褐色	全面:ヨコナデ	08000691
図201-1	SK11248	覆土	弥生土器	甕	-	残存 2.15	橙色	口:ヨコナデ	08000584
図201-2	SK11248	覆土	弥生土器	甕	-	残存 3.6	外:橙色 褐灰色 内:橙色 黒褐色	口外:ハケ目後ヨコナデ 口内:ヨコナデ 口上端:ヨコナデ	08000583
図201-3	SK11250	覆土	弥生土器	甕	-	残存 1.4	灰黄褐色	全面:ヨコナデ	08000585
図201-4	SK11260		弥生土器	甕	(20.8)	残存 2.8	淡褐色(7.5YR)	全面:ヨコナデ	08000697
図201-5	SK11260		弥生土器	甕	-	残存 5.0	外:黄褐色(7.5YR) 一部黒色 内:褐色	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ハケ目後ナデ	08000696
図201-6	SK11260		弥生土器	壺	-	残存 8.3	外:橙色 内:明赤褐色(5YR)	胴外:工具ナデ 底内外:ナデ	08000698
図201-7	SK11282		弥生土器	甕	(22.0)	残存 7.3	外:黒灰褐色 内:淡灰褐色	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:工具ナデ	08000487
図201-8	SK11282		弥生土器	甕	(25.2)	残存 3.4	—	口:ヨコナデ 胴外:ナデ 胴内:ヨコナデ	08000486
図201-9	SK11282		弥生土器	甕棺	(46.6)	残存 4.8	にぶい橙色 上面:明赤褐色	全面:ヨコナデ	08000489
図201-10	SK11282		縄文土器	深鉢	-	残存 2.8	外:褐色 内:黒褐色	指ナデ 指頭圧痕	08000488
図202-1	SK12005	1層　№1	弥生土器	甕 (底部)	-	残存 11.0	にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	胴外上:カキケズリ一部 ハケ目 胴外下:ヘラケズリ 胴内:ハケ目 底外:ハケ目 底内:ナデ	07003249
図202-2	SK12018	№9	弥生土器	甕	23.7	34.0	暗赤褐色(5YR 3/2)	口:ヨコナデ 胴外上:ハケ目 胴外下:ナデ 胴内:ハケ後ナデ	07003224

表 51　土坑・溝状遺構出土土器一覧表（7）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図202-3	SK12018	上層　№2	-	壺	(16.9)	41.4	外:橙色(5YR 7/6) 内:橙色(5YR 6/6)	口:ハケ目後ヨコナデ 胴外下:ナデ 胴外上:ハケ目 胴内下:ハケ目 胴内上:工具ナデ	07003195
図202-4	SK12018	下層 №8・10	弥生土器	壺	19.7	31.7	外:橙色(7.5YR 7/6) 内:橙色(5YR 6/6)	口:ヨコナデ 肩外:ハケ目 胴下外:ヘラケズリ後ナデ 胴内:ハケ目	07003196
図203-1	SK12018	上層　№1	弥生土器	高杯	-	残存 11.0	にぶい赤褐色 (2.5YR 5/4)	脚外:ヘラミガキ 脚内:ナデ 裾内:ハケ目	07003227
図203-2	SK12018	下層　№5	弥生土器	高杯	-	残存 5.8	にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	杯内:ナデ 脚外:ハケ目 脚内:ナデ	07003228
図203-3	SK12018	上層　№3	弥生土器	高杯	-	残存 15.3	橙色(5YR 7/8)	杯外:ナデ 杯底内:ナデ 脚外:ヘラミガキ 脚内:工具ナデ 裾外:ナデ 裾内:ハケ目	07003225
図203-4	SK12018	上層　№4	弥生土器	高杯	-	残存 6.2	橙色(7.5YR 7/6)	脚外:ナデ	07003226
図203-5	SK12025	埋土	弥生土器	高杯	-	残存 7.3	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	脚外:ヘラミガキ 杯内:ナデ	07003142
図203-6	SK12042	埋土	弥生土器	甕	(20.9)	残存 7.8	外:にぶい黄橙色 (10YR 6/3) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	口外:ヨコナデ 口内:ヨコナデ後ハケ目	07003078
図203-7	SK12042	埋土	弥生土器	壺	(38.6)	残存 54.5	橙色(7.5YR 7/6) にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	口:ハケ目 胴外上:ハケ目 胴外下:ハケ目後ナデ 胴内上:ハケ目 胴内下:ナデ	07003077
図203-8	SK12042	埋土	弥生土器	器台	-	残存 9.9	外:にぶい橙色(7.5YR6/4) 内:褐色(7.5YR 4/3)	内外:ナデ	07003079
図204-1	SK12044	上層	弥生土器	壺	-	残存 4.5	にぶい橙色 (7.5YR 6/4)	胴外:ナデ 胴内:工具ナデ	07003251
図204-2	SK12050		弥生土器	鉢	(19.0)	残存 13.0	橙色(5YR 6/8)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	07003247
図204-3	SK12050		弥生土器	器台	-	残存 7.1	灰黄色(2.5Y 6/2)	脚内外:ナデ 裾内:工具ナデ	07003248
図204-4	SK12051		弥生土器	鉢	(33.5)	残存 16.3	橙色(7.5YR 7/6)	口外:ハケ目 口内:ハケ目後ナデ 胴外:ヘラケズリ 胴内:ナデ	07003250
図204-5	SK12070	埋土　№2	弥生土器	高杯	17.0	12.3	外:橙色(5YR 6/6) 内:にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	杯外:ハケ後ナデ 脚外:ナデ 脚内:ハケ後ナデ	07003141
図204-6	SK12080		土師器？	高坏	-	残存 5.6	にぶい橙色 (7.5YR 6/4)	裾内外:ハケ目	07003143
図205-1	SK12083	下層　上層 №1	土師器	高杯	(17.2)	11.4	橙色(5YR 6/6)	杯外:ハケ目後ナデ 杯内:ナデ 裾外:ナデ	07003064
図205-2	SK12083	上層　№2	土師器	高杯	16.7	10.3	橙色(5YR 7/6)	杯外:ハケ目 杯内:ハケ目後ナデ 脚部:ナデ	07003065
図205-3	SK12083	N-44 包含層	土師器	高杯	20.0	13.3	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	杯上内:ナデ 杯下内:ハケ目後ナデ 脚外:ヘラミガキ 脚内:ナデ	07003063
図205-4	SK12083	下層　№5	弥生土器	甕	26.3	残存 39.2	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/4) 内:にぶい褐色 (7.5YR5/4)	口:ハケ目 胴外上:ハケ目 胴外中:タタキ 胴外下:タタキ後 ヘラケズリ 胴内:ハケ目	07003062
図206-1	SK13010	埋土　№46	弥生土器	甕	-	-	橙色(5YR 6/6)	口:ヨコナデ 胴外:タタキ 胴内:ハケ目後ナデ	08000961

表 52　土坑・溝状遺構出土土器一覧表 (8)

＊法量の（ ）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図206-2	SK13010	№45	弥生土器	甕	(18.0)	残存 7.3	外:橙色(2.5YR 7/6) 内:橙色(5YR 7.6)	全面:ハケ目	08000809
図206-3	SK13010	埋土 №3・56	弥生土器	甕	(17.1)	23.6	橙色(7.5YR 6/6)	口:ヨコナデ 胴外上:ハケ目 胴外下:カキケズリ 胴内上:ハケ目後ナデ 胴内下:ナデ	08000960
図206-4	SK13010	№1	弥生土器	壺	最大幅 約22.2	残存 22.8	橙色(5YR 6/6)	口外:ナデ 胴外:ハケ目 胴外下:ヘラケズリ 胴内上:ハケ目 胴内下:ナデ	08000812
図206-5	SK13010	№2	弥生土器	壺	17.2	23.5	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/4) 内:明黄褐色(10YR7/6)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ヘラケズリ	08000811
図206-6	SK13010	埋土	弥生土器	高杯	(19.2)	残存 9.4	橙色(5YR 6/6)	杯内外:ヘラミガキ 脚外:ヘラミガキ 脚内:ヘラナデ	08000962
図206-7	SK13010	№4	弥生土器	高杯	18.5	残存 6.4	橙色(5YR 6/6)	杯外上:ヨコナデ 杯外下:ヘラミガキ 杯内:ヨコナデ	08000963
図206-8	SK13010	№18	土師器	高杯 杯部	(28.2)	残存 5.6	橙色(5YR 6/6)	杯外:ヘラミガキ 杯内:ナデ	08000810
図206-9	SK13010	№41	弥生土器	高杯	-	残存 7.8	橙色(7.5YR 7/6)	不明	08000967
図207-1	SK13010	№35	弥生土器	鉢	13.0	6.8	橙色(5YR 6/6)	口外:ヨコナデ 口内:ヘラミガキ 胴外:ヘラミガキ 胴内:ナデ	08000964
図207-2	SK13010	№35	弥生土器	台付鉢	12.4	残存 4.7	橙色(2.5YR 6/8)	胴外:ヘラミガキ 胴内:ナデ	08000965
図207-3	SK13010	№51	弥生土器	鉢？	(13.4)	4.9	橙色(7.5YR 7/6)	口:ヨコナデ 胴外:ナデ一部ヘラケズリ 後ナデ 底内:ナデ	08000966
図207-4	SK13010	№9	弥生土器	台付 鉢？	-	残存 2.5	にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	胴外:ヘラミガキ 胴内:ヨコナデ	08000968
図207-5	SK13033	№4	土師器	壺	(16.8)	残存 7.3	橙色(7.5YR 7/6)	口:ヨコナデ 胴内:ヘラケズリ	08000979
図207-6	SK13033	№1	土師器	ミニチュア 土器	5.2	3.3	橙色(5YR 6/6)	全面指ナデ	08000980
図207-7	SK13140	遺構検出	弥生土器	壺	24.85	28.7	明褐色 部分的に黒褐色	口:ヨコナデ 胴外上:ヨコナデ 胴外下:ナデ 頸内:ナデ 胴内:ナデ	08000506
図207-8	SK13196	№19	弥生土器	甕	(13.8)	残存 18.3	にぶい褐色 (7.5YR 5/4)	口:ヨコナデ 胴外上:ハケ目 胴外下:ヘラケズリ後ナデ 胴内:ハケ目	08001454
図207-9	SK13196	№14？	弥生土器	甕	(13.6)	残存 14.5	にぶい褐色 (7.5YR 5/4)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目後ナデ 胴内上:指ナデ 胴内下:工具ナデ	08001455
図208-1	SK13196	№2	弥生土器	甕	(15.9)	残存 7.5	外:橙色(7.5YR 6/6) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ一部工具痕	08001453
図208-2	SK13196	埋土　№17	弥生土器	底部	-	残存 3.0	外:にぶい黄橙色 (10YR 6/4) 内:にぶい橙色 (5YR 6/4)	底外:ナデ 底内:工具ナデ	08001459
図208-3	SK13196	№3	弥生土器	鼓形 器台	18.1	残存 5.8	外:淡黄色(2.5Y 8/4) 内:浅黄色(2.5Y 7/4)	口内:ヨコナデ 頸外:ヨコナデ 頸内:ナデ	08001456

表 53　土坑・溝状遺構出土土器一覧表 (9)

＊法量の（ ）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図208-4	SK13196	№6	弥生土器	壺？	-	残存 11.2	にぶい褐色 (7.5YR 5/4)	胴外:ヘラミガキ 胴内:ハケ目 脚外:ナデ	08001458
図208-5	SK13196	№5	弥生土器	高杯	-	残存 8.5	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目	08001457
図208-6	SK13196	№1	土師器	鉢	(10.8)	6.9	外:橙色(7.5YR 6/6) 内:にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	胴内外:ナデ	08000802
図208-7	SK13196	№1	土師器	鉢	(11.0)	5.2	外:明黄褐色(10YR 6/6) 内:にぶい黄褐色	口:ヨコナデ 胴内外:ハケ目	08000801
図208-8	SK13196	№4	陶質土器	壺	11.5	12.1	灰オリーブ色 (7.5Y 6/2)	口:ヨコナデ 胴中:ヘラケズリ後ナデ 胴下:ナデ 胴内:工具ナデ	08000803
図208-9	SK13218	埋土中	弥生土器	甕	19.8	残存 13.0	にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	口:ヨコナデ 胴内外:ハケ目	08000854
図208-10	SK13218	埋土中	土師器	二重 口縁壺	(15.2)	残存 8.2	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目後ナデ 胴内:ヘラケズリ	08000999
図208-11	SK13218	埋土中	弥生土器	甕	-	残存 4.8	にぶい橙色 (7.5YR 6/4)	胴外:カキケズリ 胴内:ナデ	08001000
図208-12	SK13218	埋土中	弥生土器	椀	(13.3)	5.3	橙色(5YR 6/6)	口外:ナデ 胴外:ケズリ後ナデ 胴内:ハケ目	08001001
図209-1	SK13368	№26・ 75・76	弥生土器	甕	(14.7)	残存 12.2	にぶい褐色	口:ヨコナデ 胴内外:ハケ目	08000853
図209-2	SK13368	№33	土師器	甕	(19.6)	残存 3.6	外:にぶい黄橙色 (10YR 6/3) 内:にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	口:ヨコナデ	08001419
図209-3	SK13368	№28	土師器	壺	(14.5)	残存 6.4	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ヘラケズリ	08001423
図209-4	SK13368	埋土	土師器	甕	-	残存 19.9	外:灰黄褐色 (10YR 5/2) 内:にぶい黄橙色 (10YR 6/3)	口:ヨコナデ 胴外上:ハケ目後タタキ 胴外下:ハケ目 胴内:ヘラケズリ	08001425
図209-5	SK13368	№17	弥生土器	壺	(18.7)	残存 8.6	橙色(5YR 6/6)	胴内外:ハケ目 口:ヨコナデ	08000852
図209-6	SK13368	№45	弥生土器	壺	(15.2)	残存 6.1	外:にぶい褐色 (7.5YR5/4) 内:灰黄色(2.5Y 6/2)	口:ヨコナデ 胴外:ヨコナデ 胴内:工具ナデ	08001421
図209-7	SK13368	埋土 №26・36・ 41・58・62	弥生土器	壺	(18.3)	残存 15.8	橙色(5YR 6/6)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目後 一部工具ナデ 胴内:ハケ目	08000851
図209-8	SK13368	№27・ 29・53	土師器	壺	15.3	残存 20.6	にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	口:ヨコナデ 肩外:ヨコにハケ目 胴外:ハケ目 胴内:ヘラケズリ	08000883
図209-9	SK13368	№48	弥生土器	甕	(15.9)	残存 5.2	にぶい褐色	口外:ハケ目後ヨコナデ 口内:ハケ目後ヨコナデ	08001420
図210-1	SK13368	№66	弥生土器	高杯	(25.9)	残存 6.8	にぶい橙色 (7.5YR 6/4)	口:ヨコナデ 胴上外:ヨコナデ後 ヘラミガキ 胴上内:ハケ目後 ヘラミガキ 胴下外:ハケ目後 ヘラミガキ 胴下内:ナデ	08001416
図210-2	SK13368	№22	弥生土器	高杯	-	残存 7.9	灰黄褐色(10YR 5/2)	杯底外:ヘラミガキ 脚外:工具ナデ 裾外:工具ナデ後ヨコナデ 裾内:工具ナデ	08001417

表 54　土坑・溝状遺構出土土器一覧表（10）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
					口外径	器高			
図210-3	SK13368	埋土	土師器	器台	(11.6)	残存 7.6	明黄褐色 (10YR 7/6)	杯外:ハケ目後ヘラミガキ 杯内:ナデ？ 脚外:ヘラミガキ	08001418
図210-4	SK13368	№28	土師器	鉢	(15.7)	残存 8.7	外:暗灰黄色 (2.5Y 5/2) 内:にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:工具ナデ	08001422
図210-5	SK13368	№30・34・36・56	土師器	小型丸底壺	(12.0)	残存 7.5	外:にぶい黄橙色 (10YR 7/4) 内:明褐色 (7.5YR 5/6)	口:ヨコナデ 胴外:工具ナデ 胴内上:ハケ目 胴内下:工具ナデ	08000855

表 55　11 区～ 13 区竪穴住居跡・土坑出土石器一覧表（1）

挿図番号	出土遺構	種　別	法量(cm・g)				石　　材	備　　考	登録番号
			残存長	残存幅	残存厚	重量			
図211-1	SH11183	石包丁	8.1	8.05	0.6	47.4			09000777
図211-2	SK13043	石包丁	6.25	4.65	0.65	31.2	砂岩	遺構図無し 鍛冶遺構出土	09001048
図211-3	SH11183	石包丁	4.6	4.5	0.4	11.6			09000775
図211-4	SH11131	大型直縁刃石器	4.9	7.4	0.8	43.4	砂岩		09000769
図211-5	SH11047	石包丁？	1.65	5.7	0.95	11.6	砂岩	被熱する？	09000740
図211-6	SK11201	磨製石斧	9.55	4.5	2.3	160.4	蛇紋岩		09000759
図211-7	SH11113	磨製石斧	12.35	5.6	4.5	456.8	安山岩		09000755
図211-8	SK13105	磨製石斧	9.2	6.75	3.5	316.0	サヌカイト	遺構図無し	09001063
図211-9	SH11231	石斧	10.3	5.05	2.6	146.4	流紋岩	未製品？	09000782
図212-1	SH11258	柱状片刃石斧	10.7	4.5	2.95	2808		刃部欠損	09000752
図212-2	SH11160	扁平片刃石斧	9.65	6.45	1.5	157.4			09000727
図212-3	SH11231	敲石	10.8	5.95	4.1	431.0	安山岩		09000793
図212-4	SK13203	敲石	9.5	5.3	3.2	274.8		遺構図無し	09001052
図212-5	SH11144	敲石	9.1	3.8	3.8	156.4		砥石からの転用？	09000728
図212-6	SH11206	敲石	9.0	3.95	4.05	139.0			09000725
図212-7	SK11228	石杵	14.0	8.15	5.7	1005.0	花崗岩	遺構図無し	09000796
図212-8	SK13100	磨石	7.9	5.1	3.7	232.48	砂岩？	摩面2面	09001053
図212-9	SK13218	磨石	8.65	4.5	3.2	208.0	安山岩	摩面4面	09001041
図213-1	SK13042	磨石	7.0	7.0	4.0	274.91	花崗岩	遺構図無し	09001051
図213-2	SK13318	磨石	10.3	7.4	4.35	413.4		摩面1面 遺構図無し	09001040
図213-3	SK13189	磨石	11.8	10.2	6.1	1100.0	安山岩	摩面4面 遺構図無し	09001050
図213-4	SH11169	磨石	10.5	8.55	5.5	695.0	安山岩		09000797
図213-5	SH11181	磨石？	16.55	9.8	5.25	1615.0	安山岩		09000721
図213-6	SH11169	磨石	12.9	9.8	6.9	1205.0			09000798
図214-1	SH11217	凹石	12.05	7.35	6.25	765.0		凹面1面 摩面3面	09000722
図214-2	SK12044	凹石	10.6	7.9	5.25	745.0	安山岩	凹面4面 摩面2面	09000833
図214-3	SK11292	凹石	9.85	12.6	3.65	620.0	砂岩	凹面1面 摩面1面	09000845
図214-4	SK11057	凹石	12.9	10.4	6.3	1310.0		凹面2面 敲面2面 摩面1面	09000794
図214-5	SH13163	凹石	12.25	11.1	2.4	393.51		凹面1面	09001055
図214-6	SK13076	台石	15.6	13.05	5.8	1775.0	花崗岩	遺構図無し 摩面2面	09001049

表 56　11 区～ 13 区竪穴住居跡・土坑出土石器一覧表（2）

挿図番号	出土遺構	種　別	法量(cm・g)				石　材	備　考	登録番号
			残存長	残存幅	残存厚	重量			
図214-7	SK13196	台石	14.75	13.2	6.6	1490.0		敲面1面 摩面2面	09001054
図215-1	SH12043	台石	14.6	18.05	7.55	1865.0	砂岩	敲面2面 摩石4面 砥石からの転用 鍛冶遺構出土	09000825
図215-2	SH11204	台石	26.3	24.65	7.8	6500.0			09000786
図215-3	SK13339	砥石	8.2	9.5	5.05	638.0	花崗岩	遺構図無し 摩面1面	09001061
図215-4	SH12036	砥石	11.4	13.0	3.6	840.0	頁岩	鍛冶遺構出土 研面1面	09000824
図215-5	SH13163	砥石	11.5	10.85	3.1	370.9	頁岩	研面2面	09001056
図215-6	SH12041	砥石	14.5	13.35	5.15	950.0	砂岩	研面4面	09000827
図215-7	SK13318	砥石	11.4	12.2	4.3	890.0		遺構図無し 研面3面	09001044
図216-1	SK12012	砥石	13.65	14.15	6.3	1295.0	砂岩	研面3面 遺構図無し	09000829
図216-2	SH11159	砥石	15.35	12.85	3.25	760.0	砂岩	研面3面 遺構図無し	09000720
図216-3	SK12012	砥石	18.6	9.95	6.45	1350.0	砂岩	研面1面 遺構図無し 鉄分付着？	09000828
図216-4	SH11253	砥石	16.35	8.9	8.6	1360.0		研面6面	09000791
図216-5	SH11003	砥石	140.5	14.4	8.4	2580.0	砂岩	研面5面	09000795
図216-6	SK11228	砥石	19.7	11.3	9.0	3080.0		研面1面 遺構図無し	09000799
図216-7	SH11231	砥石	12.2	20.0	4.7	1000.0		研面4面	09000734
図217-1	SH11159	砥石	16.35	9.3	8.4	1415.0	砂岩	砥面4面 溝状砥痕有り	09000726
図217-2	SH11003	砥石	19.3	9.75	9.15	1925.0	砂岩	砥面4面 溝状砥痕有り	09000724
図217-3	SH13212	磨石	8.8	8.85	2.8	283.0	砂岩	砥面4面	09001058
図217-4	SK13105	砥石	7.9	5.5	5.95	454.0	安山岩	中原Ⅶに無し	09001062
図217-5	SK13033	砥石	4.9	7.7	6.0	217.0	砂岩 (粗粒)	砥面2面 不明2面 鉄分付着	09001057
図217-6	SH11096	砥石	8.65	6.55	3.4	238.8	砂岩	砥面3面	09000723
図217-7	SK12012	砥石	6.8	7.35	2.7	116.4	砂岩	砥面3面 遺構図無し	09000820
図217-8	SH11182	砥石	6.2	5.4		129.4	砂岩	砥面2面	09000738
図217-9	SH12041	砥石	5.45	7.9	1.85	118.2	砂岩	砥面1面 鍛冶遺構出土	09000819
図217-10	SH12043	砥石	4.85	7.25	2.05	113.6	砂岩	砥面2面 鍛冶遺構出土	09000822
図217-11	SH11013	砥石	5.35	5.15	3.0	117.2	砂岩	砥面3面	09000807
図217-12	SK13245	砥石	6.45	5.7	3.5	137.0	砂岩	砥面2面	09001059
図217-13	SH11230	砥石	6.4	4.15	2.95	99.8	砂岩	砥面3面 整形痕有り	09000808
図217-14	SH11212	砥石	7.3	5.95	3.55	192.4	砂岩	砥面4面 片面に煤？が付着	09000735
図218-1	SH12043	砥石	5.8	5.15	3.6	86.2	砂岩	砥面3面 鍛冶遺構出土	09000823
図218-2	SH12042	砥石	4.3	6.65	2.35	96.0	砂岩	砥面1面	09000731

表 57　11 区～ 13 区竪穴住居跡・土坑出土石器一覧表（3）

挿図番号	出土遺構	種　別	法量(cm・g)				石　材	備　考	登録番号
			残存長	残存幅	残存厚	重量			
図218-3	SH11047	砥石	3.05	3.3	0.8	10.0	砂岩	砥面5面	09000732
図218-4	SH11151	定形砥石？	4.2	3.0	1.5	16.8		砥面3面	09000741
図218-5	SK13231	定形砥石	4.6	3.1	2.65	70.8	砂岩	砥面4面？ 遺構図無し	09001043
図218-6	SH12043	定形砥石？	4.7	3.0	1.15	23.4	砂岩	砥面2面 鍛冶遺構出土	09000826
図218-7	SH11005	定形砥石	16.5	3.65	4.0	289.4		砥面5面	09000737
図218-8	SH11147	定形砥石	8.85	2.0	1.9	40.2	砂岩	砥面5面	09000736
図218-9	SH11183	未製品	3.2	4.3	0.8	18.4		施溝痕石器	09000730
図218-10	SK11051	未製品	5.35	3.15	0.85	21.6		施溝痕石器	09000813
図218-11	SH11207	未製品	6.5	3.65	3.05	96.2		施溝痕石器 砥石からの転用？	09000739
図218-12	SH11183	未製品	4.55	8.8	0.95	49.2	安山岩	施溝痕石器	09000729
図218-13	SH11138	打製石鏃	2.4	2.35	0.35	1.36	サヌカイト		09000784
図218-14	SH11127	打製石鏃	3.45	1.6	0.65	2.79	黒曜石	有軸	09000744
図218-15	SH11144	磨製石鏃	4.4	2.0	0.3	2.8			09000765
図218-16	SH11149	石錘	6.25	4.1	2.9	67.4	砂岩		09000749
図218-17	SH11138	石錘	5.8	2.5	2.8	55.4	滑石		09000751
図218-18	SH11094	石錘	4.9	2.0	1.5	17.6	滑石		09000748
図218-19	SH11205	石錘	2.0	1.0	0.65	1.8			09000747
図218-20	SH11257	石製紡錘車	5.55	5.6	0.8	2.79		孔径　0.6ｃｍ	09000743
図218-21	SH11131	石製紡錘車	5.7	3.9	1.4	29.4		未製品 穿孔無し	09000742

Ⅴ．古代・中世の遺構と遺物

１，概要

11 区～ 13 区の古代、中世の遺構として、SD11065 溝、SK11263 土坑、SK13369 土坑がある。

SD11065 溝は 11 区から 9-2 区、9-3 区、5 区にかけて直線的に掘削された溝であり、埋土中から弥生時代、古墳時代、古代の土器が多量に出土した。遺構や遺物の出土状況などの所見から、8 世紀後半代に掘削された溝と考えられる。

SK11263 土坑は底部糸切りの土師器小皿から 12 世紀末～ 13 世紀前半、SK13369 土坑は瓦器椀から 12 世紀前半と考えられる。

２，遺構

（1）溝

ＳＤ１１０６５

11 区から 9-2 区、9-3 区、5 区にかけて直線的に掘削された溝である。11 区では SD11065、9-2 区では SD9001 と命名した。5 区の発掘調査時には平面で遺構が検出できなく、SD552 自然流路内にて検出した水路の堤防と考えられる SF526、SF527 杭列として確認した。また、5 区南壁土層断面で検出した溝は 9 区 SD9001 の土層断面や埋土と同じであった(『中原遺跡Ⅲ』P265)。調査後の検討により、SD11065、SD9001 は 5 区まで延長することが判った。以上のことから、SD11065 は調査区内を北東から南西に向けて流れる幅約 5m ～ 7m、深さ約 0.6m ～ 1m の直線溝であり、確認できただけでもその延長は約 250 mに及ぶことが判った（図 8、PL60-1,2 参照)。

図 219 に SD11065 の土層図を掲載する。レンズ状の自然堆積であり、中層から上層にかけて、溝跡周辺の遺構からの流れ込みの弥生時代中期～後期、古墳時代前期、後期などの土器が出土した。溝底から出土したのは奈良時代後期の土器であり、溝跡の掘削時期が判る。

図 219 の土層Ⅱでは掘り返しらしき土層が確認できるが、土層Ⅰでは確認できず、調査時においてもそのような所見はなかった。

図 9 を見ても判るように SD11065 は砂丘微高地を斜めに縦断する溝である。砂丘微高地の南側は低地部になることが調査によって確認されており、この低地は旧松浦川の支流に注ぐことが予想される。これらから、溝の機能は物資輸送の運河的役割や集落拡大に伴う用排水路などが考えられる。

（2）土坑

SK11263 土坑

Y-39・40 区画に位置し、東側から南側は調査区外になる。遺構東側半分は未堀により不明。平面形態は円形になると思われ、規模は確認できる範囲で、長軸 1.84m、短軸 0.76m、深さ 0.12m である。

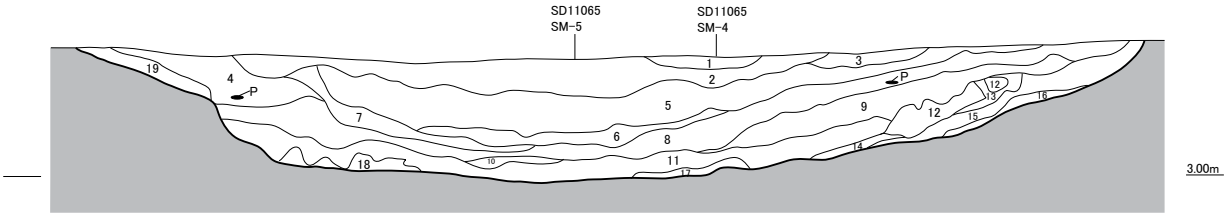
出土遺物は土師器小皿などがある。

SK13369 土坑

Z-44 区画に位置し、南側は調査区画外になる。周囲は畑などによる撹乱が見られる。平面形態は円形で、規模は長軸 1.58m、短軸 1.38m、深さ 0.4m である。

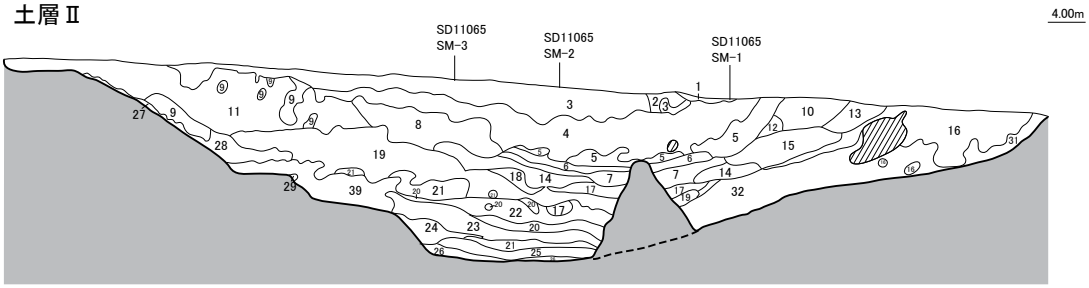
出土遺物は瓦器椀がある。

土層Ⅰ



1、灰白色砂質土
2、黒褐色砂質土(Hue 10YR 2/3)と暗褐色砂質土(Hue 2.5YR 3/6)の混で多少
黒色砂質土(Hue 10YR 1.7/1)の小を含む
3、褐色砂質土(Hue 7.5YR 4/6)と黒褐色砂質土(Hue 7.5YR 3/2)の混で褐色砂質土の割合多し
4、暗灰黄砂質土(Hue 2.5Y 4/2)と褐色砂質土(Hue 7.5YR 4/6)の混
5、黒褐色砂質土(Hue 2.5Y 3/1)
6、赤黒色粘質土(Hue 10R 1.7/1)
7、浅黄色砂質土(Hue 2.5Y 7/4)が上方に集中し 黒褐色砂質土(Hue 10YR 3/1)が混ざりながら
下方に集中 砂粒φ1.5mm未満を含む
8、灰黄色砂質土(Hue 2.5Y 6/2)とオリーブ黒色砂質土(Hue 5Y 3/1)の混で砂粒φ2～4mm未満を多く含む
また木片を含む
9、暗赤灰色砂質土(Hue 2.5YR 3/1)と にぶい黄色砂質土(Hue 2.5Y 6/3)の混
10、黒褐色粘質土(Hue 10YR 3/1)木片を含む
11、赤黒色砂質土(Hue 7.5R 1.7/1)と にぶい黄色(Hue 2.5Y 6/3)の混ざり 炭 鉄滓を含む
12、黒褐色砂質土(Hue 2.5Y 3/1)
13、黒褐色砂質土(Hue 7.5YR 3/1)と 明黄色砂質土(Hue 2.5Y 7/6)の混ざり
14、黒褐色砂質土(Hue 7.5R 1.7/1)と 明黄褐色砂質土(Hue 10YR 6/8)の混ざり
15、明黄褐色砂質土(Hue 10YR 6/8)
16、褐色砂質土(Hue 10YR 3/4)
17、黄褐色砂質土(Hue 2.5Y 5/3) 砂粒φ1mmを多く含む
18、灰白色砂質土(Hue 10Y 7/1) (地山)
19、4層と明黄褐色砂質土(Hue 10YR 6/8)の混ざり (地山)

土層Ⅱ



1、灰白色砂質土(Hue 7.5YR 8/1) φ2～3mmの砂粒
2、灰白色砂質土(Hue 7.5Y 8/1) [φ2～3mmの砂粒]と灰褐色粘性砂質土(Hue 7.5YR 4/2)と明褐色
粘性砂質土(Hue 7.5YR 5/8)の混ざり
3、灰褐色粘性砂質土(Hue 7.5YR 4/2)と明褐色粘性砂質土(Hue 7.5YR 5/8)の混ざり φ2～3mmの砂粒
4、黒色粘性砂質土(Hue 10Y 2/1) 多少 浅黄色砂質土(Hue 5Y 7/3)が混ざる
5、黒色粘性砂質土(Hue 10Y 2/1)と浅黄色砂質土(Hue 5Y 7/3)の混ざり
6、黒色粘質土(Hue 7.5YR 1.7/1)と黒褐色粘質土(Hue 7.5YR 2/2)の混ざり
7、暗赤灰色粘質土(Hue 10R 3/1) 木片を含む
8、黒褐色粘性砂質土(Hue 10YR 3/1)と浅黄色砂質土(Hue 5Y 7/3)の混ざり
9、灰黄褐色砂質土(Hue 10YR 4/2)
10、5と褐色粘性砂質土(Hue 7.5YR 4/6)が混ざり
11、にぶい黄褐色砂質土(Hue 10YR 5/3)
12、10に同じ 浅黄色砂質土(Hue 5Y 7/3)の割合大
13、10に同じ ただし浅黄色砂質土(Hue 5Y 7/3)が均質に混じる
14、暗赤灰色粘質土(Hue 10R 3/1)と浅黄色砂質土(Hue 5Y 7/3)の混ざり 木片を含む
15、浅黄色砂質土(Hue 5Y 7/3)に多少 褐色粘性砂質土(Hue 7.5YR 4/6)と黒色粘性砂質土
(Hue 10Y 2/1)が混ざる
16、黒褐色砂質土(Hue 7.5YR 3/1)
17、灰オリーブ色砂質土(Hue 7.5Y 6/2)木片を含む
18、14に同じ 浅黄色砂質土(Hue 5Y 7/3)の割合大
19、褐灰色砂質土(Hue 10YR 3/1)と浅黄色砂質土(Hue 5Y 7/3)の混ざり 木片を含む
20、オリーブ灰色砂質土(Hue 10Y 6/3)
21、17に同じ 木片を含まない
22、褐灰色粘性砂質土(Hue 7.5YR 4/1) 木片を含む
23、20と22の混ざり ただし木片を含まない
24、23と同じ 22の割合大
25、22と同じ 木片を含まない
26、灰色砂質土(Hue 10Y 6/1)
27、黄色砂質土(Hue 5Y 8/6)
28、黒色粘性砂質土(Hue 10Y 2/1)と 29の混ざり
29、浅黄色砂質土(Hue 7.5 7/3)
30、20に同じ 均質に混じっていない
31、明黄褐色砂質土(Hue 2.5Y 6/8)
32、17に多少 16を含む

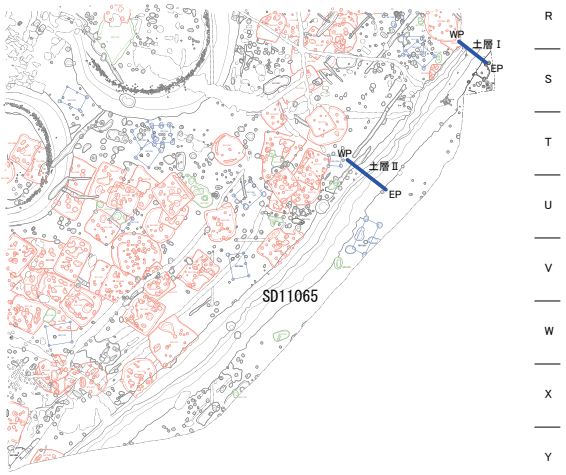


図 219 SD11065 土層図 (1/40)

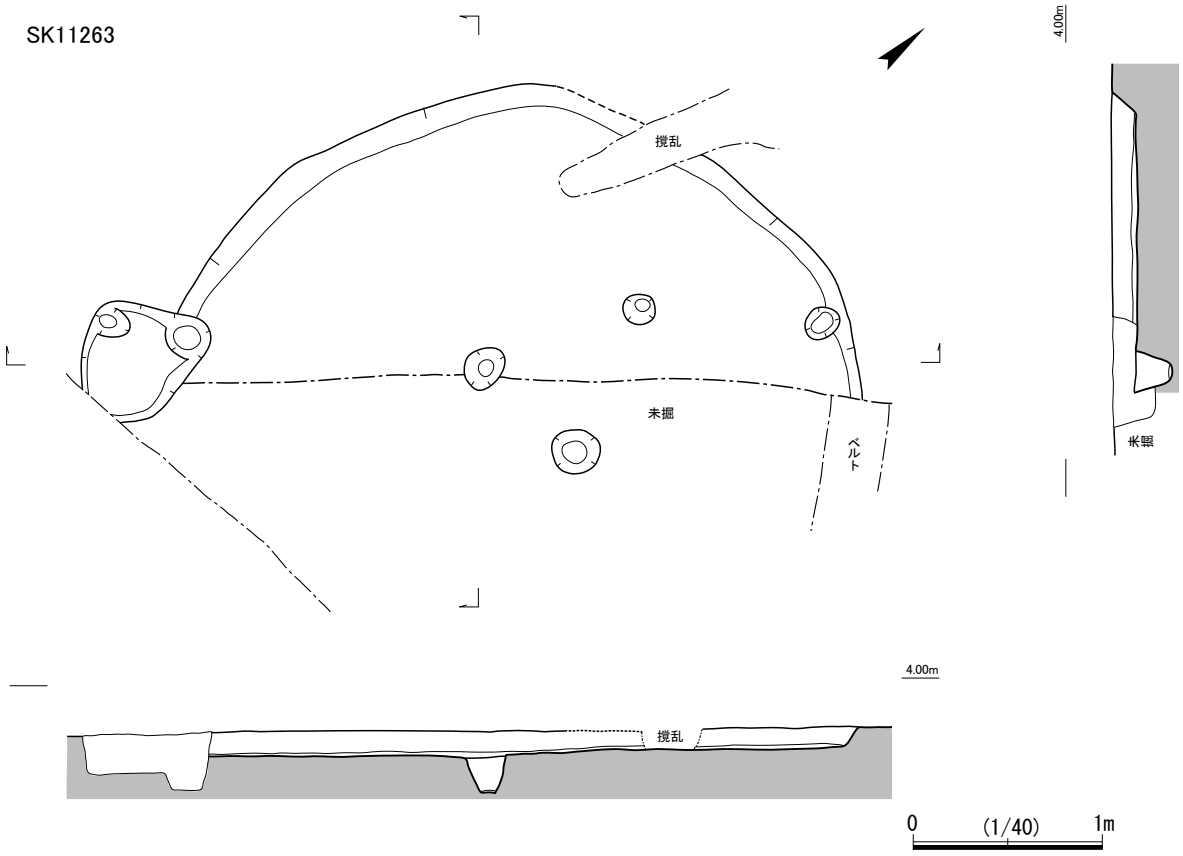


図 220　SK11263・13369 土坑（1/40、1/30）

3，遺物

（1）溝

ＳＤ１１０６５遺構出土土器

弥生時代から奈良時代の遺物が出土しているが、比較的長期間の使用が考えられる遺構であり、その存続時期が問題となるが、ここでは溝の最下層から出土した土器より本遺構は奈良時代の所産と考えられ、奈良時代の遺物を中心に記載する。

図 221-1 ～ 3 は須恵器の杯蓋である。1、2 はつまみ部が欠損するが、3 は扁平で形骸化したつまみ部が残存する。1 は器高が低いが天井部にわずかに丸味を残し、口縁端部が下方に断面三角形に突出する。天井部外面中央部はヘラ切り後ナデ、天井部外面外周及び内面は回転ナデ調整後不定方向のナデを施す。2、3 はさらに器高が低く扁平で、外周部がやや膨らむ。口縁端部が下方に小さく屈曲する。いずれも天井部中央部はヘラケズリ、外周部内外面は回転ナデ、内面中央部はナデ調整を施す。2 は砂粒を含む。

図 221-4 ～ 9 は平底の須恵器の杯である。4 は体部が外傾気味に上方に開く。淡灰褐色を呈する。底部外面及び体部下半部の一部は回転ヘラ切り未調整、底部内面及び体部内外面回転ナデ。回転方向は右回り。5 は体部がやや内湾しながら外方に開き、口縁部は短く直立する。体部内外面回転ナデ、底部外面不定方向ナデ調整を施す。底部内面には粘土紐巻き上げ痕が残る。色調はやや赤味を帯びる。6 ～ 9 は直線的に外方に開く体部を持つ。6 は口縁端部がわずかに直立し、底部内面が黒変する。体部内外面回転ナデ、底部外面は回転ヘラ切り後ナデ調整を施す。回転台の回転方向は右回り。7 は体部内外面回転ナデ、底部内面周縁部は回転ナデ、中央部は横方向のナデ、底部外面は回転ヘラ切り後ナデ調整を施す。回転台の回転方向は右回り。なお、底部内面周縁部は底面を平坦にするためか、回転ナデの一部にヘラケズリを重ねる。8 は体部内外面ヨコナデ、底部内面はナデ、底部外面はヘラ切り後ナデ調整を施す。9 は体部内外面が回転ナデ、底部外面及び体部下半部はヘラ切り後ナデ調整。

図 221-10 ～ 19 は高台を持つ須恵器の杯である。10 は高台が比較的長く、外傾する。底部と体部の境は丸味を持ち、体部上半部はわずかに外反しながら外方向に開く。内外面横ナデ。破損後 2 次的な火を受けたのか、接合する破片の一部が赤変する。11、12 は底部外縁部やや内側に短く外傾する高台を張り付ける。底部と体部の境は丸味を持ち、体部は内湾し、口縁部でわずかに外反する。体部上半及び内面は回転ナデ調整、体部下半部はヘラケズリ後回転ナデ、底部内外面及び高台はナデ調整を施す。13 は高台が短く、外傾も弱い。底部と体部の境は丸味を持ち、体部は直線的に外方へ開く。体部外面はヘラケズリ後ナデ、体部内面及び底部内面外周部回転ナデ、底部内面中央部はナデ、底部外面はヘラ切り後ナデ調整を施す。14 は底部及び体部下半部の一部が残存する。底部のつくりは 13 に類似する。体部内外面回転ナデ、底部内面ナデ、底部外面ヘラ切り後ナデ調整を施す。回転方向は右回り。淡灰褐色を呈する。15 は底部から体部下半部が残存する。短く直立する高台を底部外縁部やや内側に張り付ける。底部と体部の境はヘラケズリを行わず角張り、同内面も稜がつく。体部内外面回転ナデ、底部内面及び高台はナデ、底部外面はヘラ切り後ナデ調整を施す。16 は粘土紐巻き上げによる底部に、外縁部やや内側に短く直立した高台を張り付けたものである。体部は内湾気味に開く。高台端部下面にはキザミが入る。17 は底部のみ残存する。底径 13cm で大宰府分類坏 c か。高台は張り付けており、一部では高台外側にはみ出した粘土を撫で付け断面が台形となる。底部外面ヘラ切り後ナデ、底部内面外周部は回転ナデ、中央部は不定方向のナデ調整を施す。底部内面には粘土紐の巻き上げ痕が残る。回転方向は右回り。18 は口径 21cm の大坏で、わずかに外傾する高台を持ち、底部と体部の境に角を有して

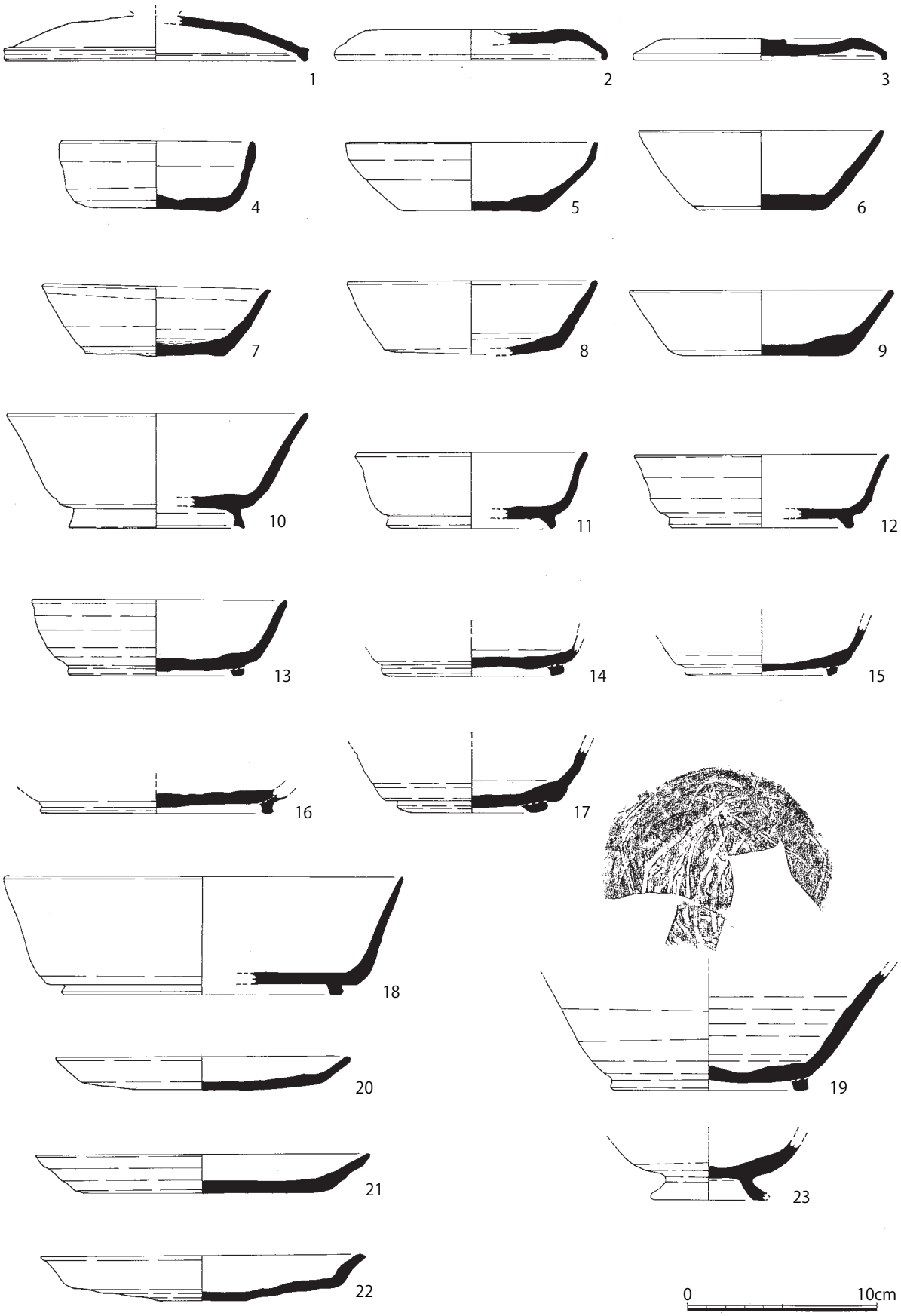


図 221　SD11065 出土土器 1（1/3）

体部が直線的に外方に開く。底部外面はヘラケズリか。高台張り付け部ナデ、体部内外面、底部内面外周部は回転ナデ、底部内面中央部はナデ調整を施す。灰白色を呈する。19 は高台を外縁部やや内側に張り付け、底部と体部の境にはわずかな角を有して体部が直線気味に外方に開く。口縁部は大半が欠損しているが、残存部より内湾しながら外傾する可能性がある。内外面回転ナデ、底部外面及び高台はナデ調整を施す。底部内面は細いヘラ状もしくは棒状の工具痕が不定方向に多数残る。

図 221-20 ～ 22 は須恵器の皿である。口径は 16 ～ 18cm で、底部は平底か若干丸味を持つ平底であり、口縁部は外方に短く開くが、20 は直線的に外傾し、21、22 は外反する。調整は口縁部内外面及び底部内面は回転ナデ、底部外面は、20 は回転ヘケ切り未調整、21、22 は回転ヘラ切り後ナデ調整を施す。

図 221-23 は須恵器の脚付長頸壺の底部か。高台は外方に短く延び、端部を外側に拡張し広い平坦面を持つ。底部はヘラケズリを施し、丸味を持つ。底部内面及び高台内側はナデ調整を施す。底部外面にヘラ記号が描かれる。

図 222-1 ～ 7 は土師器の杯である。1 は底部と体部の境に丸味を有して体部が短く内湾気味に立ち上がり、口縁端部はわずかに外反気味に開く。底部に粘土紐巻き上げ痕が残る。底部外面は、外周部にハケを回転させ、中央部は同一工具による横方向のハケ目調整を施す。体部内外面及び底部外周部は回転ナデ、底部中央部はナデ調整を施す。底部内面に指頭圧痕が残る。2 は平底から、底部と体部の境に丸味を持って体部が内湾気味に開く。底部外面はヘラ切り後工具ナデ、底部内面は回転ナデ後不定方向ナデ、体部内外面は回転ナデ調整を施す。3 は平底に直線的に開く体部が付く。底部と体部の境は角張る。底部外面は回転ヘラ切り後ナデ、底部内面はナデ、体部内外面は回転ナデ調整を施す。底部内面及び体部内面の一部は黒変し、対応する外面も黒変する。燈明として使用されたものか。4 は平底に、外方に開く内湾気味の体部が付く。底部と体部の境は角張る。底部外面はヘラ切り未調整、体部内外面及び底部内面は回転ナデ調整を施す。5 は口径がわずかに小さく、平底に直線的に開く体部が付く。底部外面はヘラ切り未調整、底部内面はナデ、体部内外面は回転ナデ調整を施す。6 は体部が直線的に開き、口縁部が外反する。底部の大半を欠くが外面ヘラ切りか。体部内面回転ナデ調整を施す。7 は平底に、長く大きく外傾する体部が付く。口縁端部下を強くナデ、端部を内側に丸く突出させる。底部外面ヘラ切り、体部内外面及び底部内面外周部は回転ナデ、底部中央部はナデ調整を施す。

図 222-8 ～ 10 は土師器の椀であり、8、9 は体部が外方に直線的に開き、底部と体部の境に長方形の外傾する高台を持つ。8 はやや長めの高台を有する。内外面回転ナデ調整で、底部内面中央部は回転ナデ後横方向のナデ調整を施す。高台端面の一部には板状圧痕が残る。9 は短く細めの高台を有する。体部内外面及び底部外周部内外面は回転ナデ、底部内面中央部はナデ、底部外面中央部にはヘラ切り痕が残る。回転台回転方向右回り。10 は底部と体部の境は丸味を有し、底部外縁部より若干内側に外傾する高台を持つ。高台端面は外側を向き、面取りする。体部は内湾気味に外方へ開き、口縁端部は外方に屈曲する。口縁端部は面取りする。体部内外面、底部外面及び高台は丁寧なヘラミガキを施す。底部内面は摩耗により不明確であるが、同様にヘラミガキを施していると思われる。

図 222-11 ～ 13 は土師器の皿である。口縁部がわずかに外反しながら外方に開く。11 は底部と体部の境が丸味を持つ。底部外面は、ヘラ切り後ナデ調整を施す。板状圧痕が残る。12 は口縁端部が外方向に丸く肥厚する。底部外面はヘラ切り後ナデ調整を施す。13 は口縁外面端部下にわずかに沈線を巡らせ、口縁端部を外側に丸く肥厚させる。ヘラ切り未調整。回転台回転方向右回り。

図 222-14 は小皿である。欠損状況により円盤状の底部と体部を接合したことが分かる。底部は糸切りか、ナデ調整を施す。体部内外面及び底部内面は回転ナデ調整を施す。

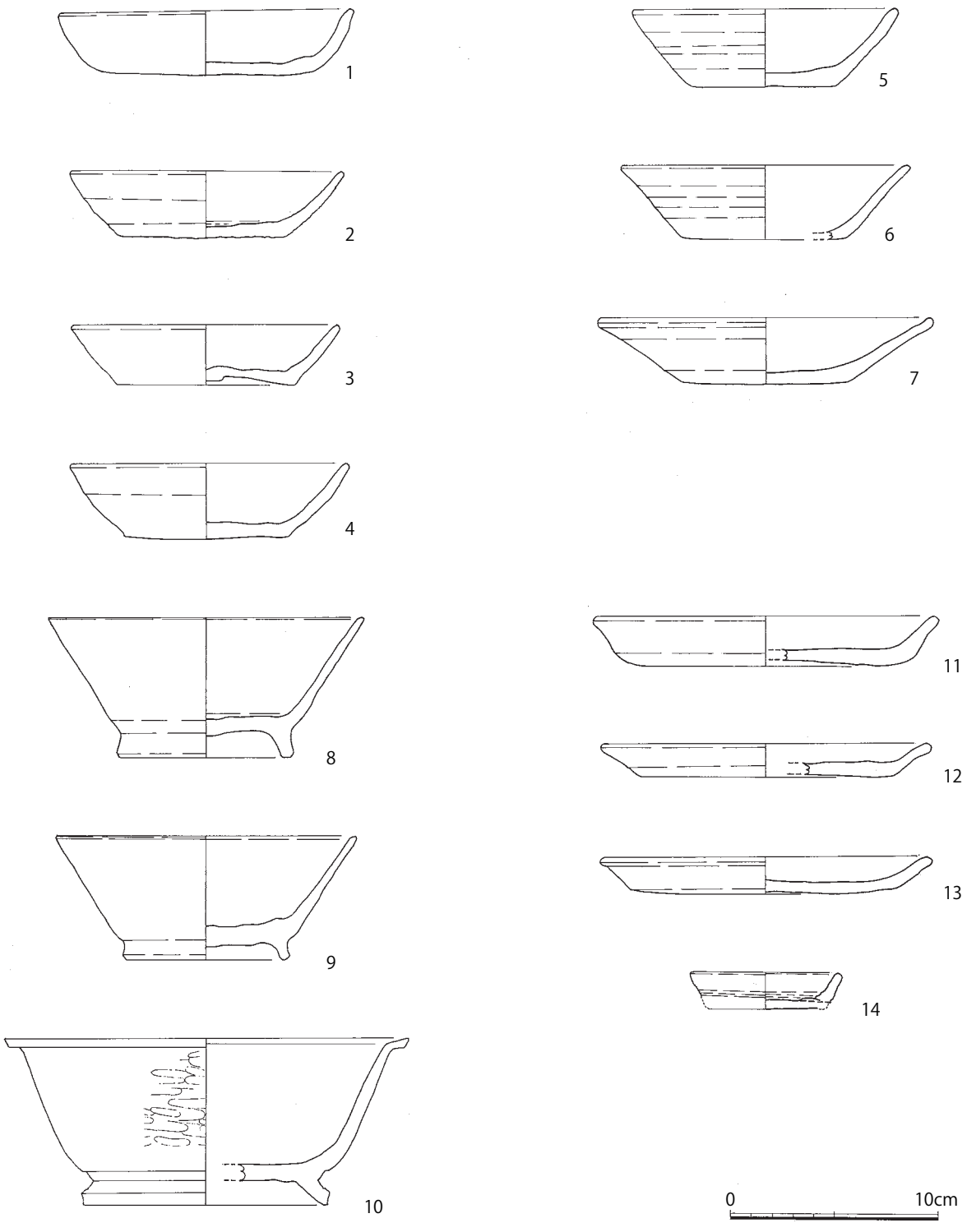


図 222　SD11065 出土土器 2（1/3）

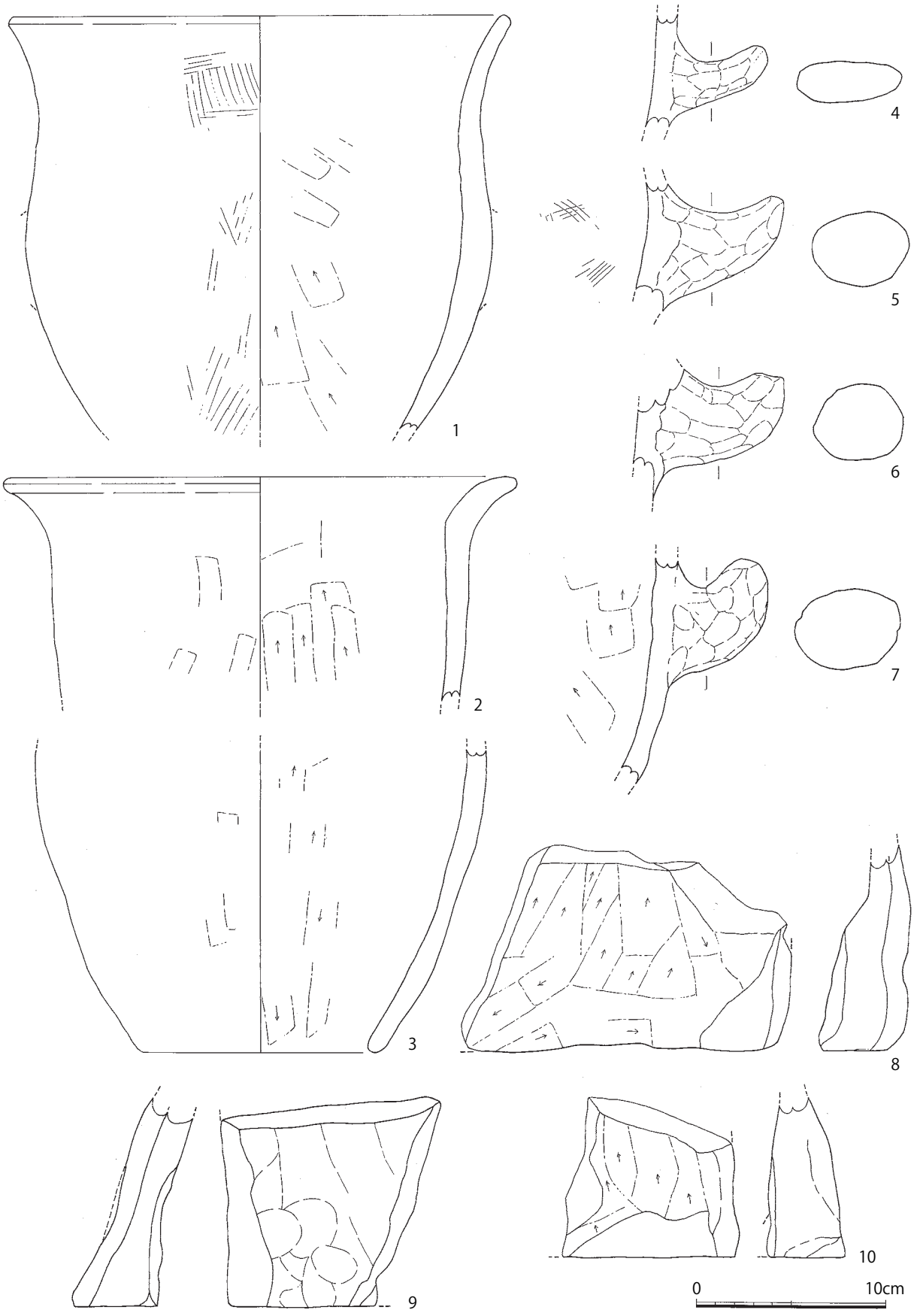


図 223　SD11065 出土土器 3（1/3）

図 223-1 ～ 7 は甑である。1 は胴部から口縁部までが残存し、口縁部がゆるやかに外反し、頸部のしまりが弱く胴部がわずかに張る。胴部最大径よりやや上位に把手の接合部が残存する。胴部の器壁が厚く、胎土には砂粒を多量に含む。胴部外面の上半部はハケ目後ナデ調整、下半部はハケ目、胴部内面上半部は工具によるナデ、下半部は左上方向のヘラケズリを施す。口縁部外面はハケ目後ナデ、口縁部内面は横方向のハケ目後ナデ、口縁端部内外面回転ナデ調整を施す。胴部下半部はわずかに赤化する。2 は体部上半部から口縁部まで残存し、肥厚した口縁部が外反し、頸部のしまりは弱く、胴部の張りも見られない。頸部内面には壁面調整により稜が残る。胎土に砂粒を少量含む。外面胴部は工具によるナデ、内面は上方向のヘラケズリ、口縁部内外面は回転ナデ調整を施す。頸部下以下黒変しており、竈への設置状況を示すものと想定される。3 は胴部下半のみ残存する。下方に向かって緩やかに内湾して窄まるが、蒸気孔周辺ではさらに窄まる。蒸気孔周縁は丸く収める。胎土には砂粒を多量に含む。内面は上方向のヘラケズリ、外面工具によるナデ調整を施すが、外器面は摩耗する。

4 ～ 7 は把手である。4 はやや長く上湾し、幅広で厚みが薄い舌状を成す。表面ナデ、一部残る体部内面はナデ調整を施す。体部内面には指頭圧痕が多量に残る。5 は厚みが厚く断面に丸味を帯びたものである。表面ナデ、体部内面はハケ目後ナデ調整を施す。6 は 5 よりさらに厚みを増し、断面は円形に近くなる。長さはやや短く、外方に伸び端部周辺で上方に湾曲する。表面はナデ調整であるが、上記の 2 点に対して成形が粗雑で凹凸も多い。胎土に砂粒を多量に含む。把手先端部周辺は黒化している。体部内面はナデ調整を施す。7 は把手と周辺の体部の一部が残存する。側面形状は接合部か横方向にそれほど伸びず、上方に屈曲する。断面形状は円形を成す。表面ナデ調整を施すが、成形が粗雑で凹凸が多い。体部表面はヘラケズリ後ナデ、内部は上方又は左上方へのヘラケズリを施す。胎土には砂粒を多量に含む。

図 223-8 ～ 10 は移動式竈。いずれも焚口を含む裾部付近の小片である。8 は内湾気味に直立する。裾端部外面に粘土を接合し肥厚させる。焚口は裾部に対し垂直に設けられるが、成形は粗雑で凹凸が多い。周辺部はわずかに黒変する。内外面ヘラケズリ、裾部下面は粗いハケ目調整を施す。胎土には砂粒を多量に含む。9 は内湾気味に内傾する。裾端部外面に粘土を接合し、外側に張り出させ、幅の広い端面を造り出す。焚口及び内面周辺は丁寧に面取りがされ、工具ナデが施される。裾部内外面ナデ調整を施すが、最下部内面には指頭圧痕が多数残る。胎土に砂粒を多量に含む。裾部外壁面が一定の高さまで剥離する。10 は内湾気味に直立する。不明確であるが上記同様、裾端部外面に粘土を接合し肥厚する。焚口は面取りされ、丁寧にナデ調整が施されるが、角は丸く仕上げる。焚口はわずかに黒変する。内面ヘラケズリ、外面ナデ、裾端面は粗いハケ目調整を施す。胎土には多量の砂粒を含む。

図 224-1 ～ 27 は須恵器の杯蓋である。1 は天井部と口縁部を分ける凹線が残るもので、天井部は比較的平坦で、口縁部は外反気味に外方に開き、端部は丸く収める。天井部外面の平坦な部分のみ回転ヘラケズリ､それ以外は回転ナデ調整。回転台回転方向は右回り。天井部外面に「++」のヘラ記号を刻む。2 は天井部が丸く口縁部も内湾しながら開く。天井部と口縁部の境にわずかに稜が残り、口縁端部内面に浅い凹線が廻る。天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面及び口縁部はヨコナデ調整を施す。回転台回転方向は右回り。

3 は天井部と口縁部をわける稜はなく、天井部は丸味を持ち、口縁端部内面に浅い凹線が廻る。天井部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ、口縁部内外面ヨコナデを施す。

4 は 3 と同様の器形を成すが、器高が低く、やや扁平である。口縁端部内面に浅い凹線が廻る。

5 は天井部に丸味を残すものの、天井部が扁平で、口縁端面が内傾する。天井部と口縁部の境は不明

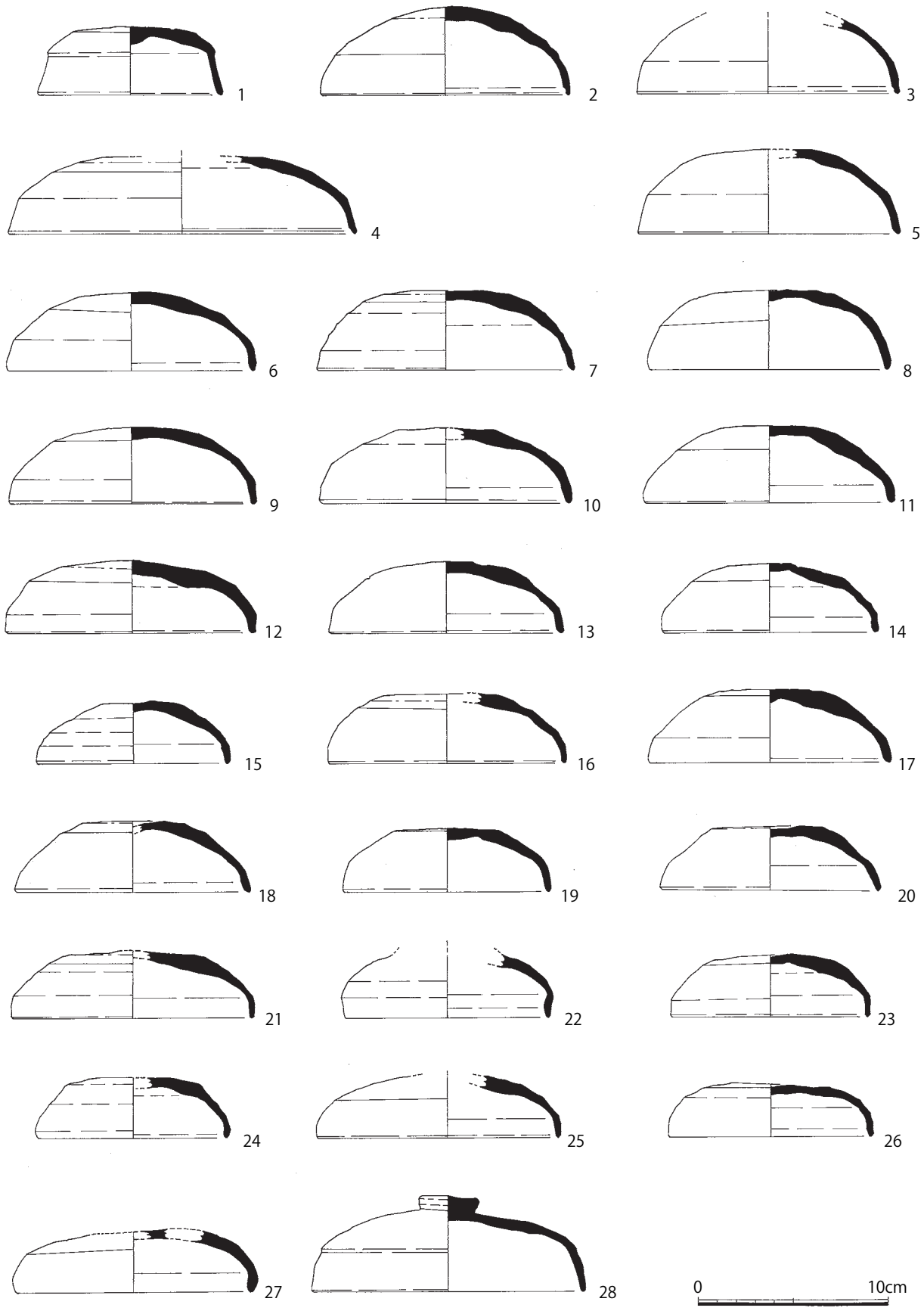


図 224　SD11065 出土土器 4（1/3）

瞭ながら浅い凹線が廻り、わずかに天井部と口縁部を分ける意識が窺える。天井外面中央部は回転ヘラケズリ、天井外周部及び口縁内外面、天井部内面は回転ナデを施す。天井部外面の大半は淡灰褐色を呈する。

6 は天井部に丸味を残すものの扁平で、天井部と口縁部の境が不明瞭で、口縁部が下方に内湾気味に短く伸びる。口縁端部は丸く収める。天井中央部外面は回転ヘラケズリ、同内面はヨコナデ、天井外周部内外面及び口縁内外面回転ナデを施す。

7 ～ 10 は天井中央部が平坦で、天井外周部及び口縁部が内湾しながら開き、境は不明瞭である。調整は 6 に同じ。7 は内面が口縁端部以外淡灰褐色を呈しており、杯身と重ねて焼成した可能性も想定される。8 は胎土に砂粒を多量に含み、焼成はやや不良。天井部に「⟱」のヘラ記号を刻む。9 は精緻な胎土を使用する。10 は口縁部がやや立ち気味で、厚い。

11 は口縁部が短く直立気味に開く。天井外周部から口縁部にかけて「⟓」のヘラ記号を刻む。

12 は天井中央部が平坦で丸味が乏しく、天井外周部は直線的に外方に開き、口縁部は短く直立気味に立つ。調整は 7 ～ 11 と同様であるが、器壁が厚く、厚みも一定していない。外面には自然釉が付着する。また、天井部外面に「⫫」のヘラ記号を刻む。

13 は口径がやや小さく、天井部にわずかに丸味を持つ。口縁部は直立気味に立つ。

14、15 は口径が小さく、天井中央部は平坦で、天井外周部は直線的に開き、口縁部は短く直立する。天井中央部外面の平坦面は回転ヘラケズリ、天井外周部内外面及び口縁部内外面は回転ナデ、天井中央部内面はナデ調整を施す。14 は天井部外面に「⟋」のヘラ記号を刻む。15 は天井部外面に「⟙」のヘラ記号を刻む。

16 ～ 18 はやや口径が大きく、器高が高いが天井部の回転ヘラケズリの範囲が狭くなるものである。16 はヘラを 2 周程度しか回転していない。

19 ～ 20 は天井部がより平坦で水平に近いものである。19 は欠損により判読できないが、天井部外面にヘラ記号を刻む。20 は天井部外面にナデ調整を施し、「⟘」のヘラ記号を刻む。

21 ～ 27 は口径に対して器高が低く、扁平なものである。21 は天井中央部内面のみヨコナデで、それ以外は回転ナデ調整を施す。欠損により判読できないが、天井中央外面にヘラ記号を刻む。22 は口縁部が短く内傾し、内側に肥厚させる。天井部に自然釉がかかる。23 は天井部が平坦であるが、天井中央付近まで回転ナデ調整を施し、「⟟」のヘラ記号を刻む。外面に自然釉がかかる。24 は口縁端部外側が内傾して尖り気味になる。25 は著しく扁平であり、緩やかな丸みを持つ。天井部外面は口縁部近くまでヘラケズリを施す。口縁部から天井部の一部にかけて自然釉がかかる。26 は口縁端部内側が内傾する。天井部に「⟑」のヘラ記号を刻む。27 は 25 の器形に類似する。口縁部は厚く内側に内傾する。胎土に砂粒を多量に含む。天井部にヘラ記号「⟚」を刻む。

28 は高杯の蓋か。天井中央部は比較的扁平で、緩やかに内湾しながら開き、口縁部は外傾する。天井部と口縁部の境に凹線が廻る。天井部中央にはボタン状のつまみが付く。外面回転ヘラケズリ後回転ナデ調整、天井外周部内面は回転ナデ、天井中央部はナデ調整を施す。

図 225-1 ～ 20 は須恵器の杯身であり、いずれも受部を有するものである。1 ～ 5 は、たちあがりが比較的高く、わずかに内傾し、受部は水平もしくは上方に短くのび、底部は丸味を残すものである。1 は受部が水平で、上面に杯蓋の口縁端部が一部融着し、受部端部には自然釉がかかる。外面には窯塵が多量に融着する。2 はたちあがりがやや低いが外反気味に上方に立ち上がる。底部外面中央部は回転ヘラケズリ、内部はヨコナデ、底部内面及び体部内外面、受部、立ち上がりは回転ナデを施す。本資料も

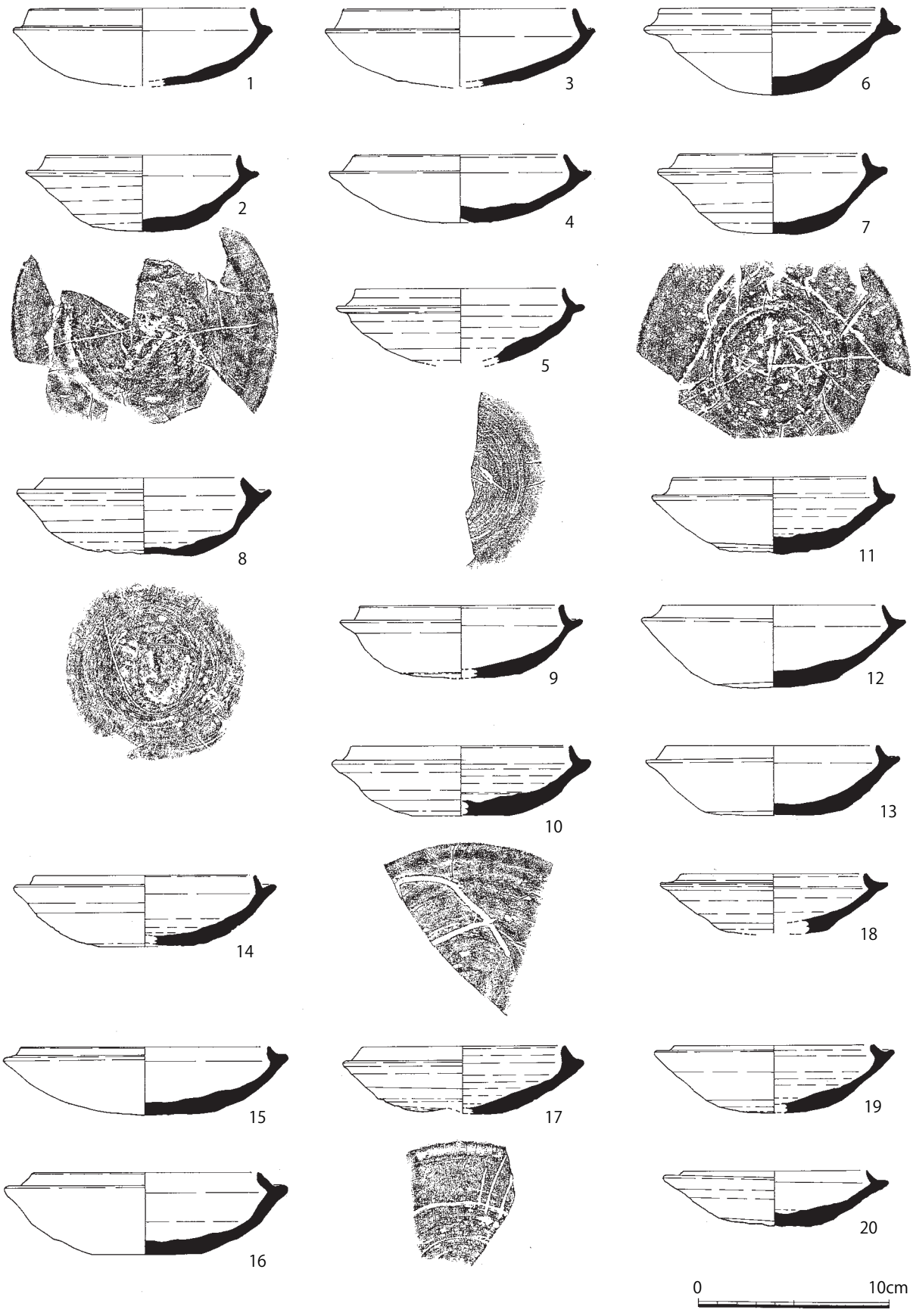


図 225　SD11065 出土土器 5（1/3）

杯蓋を重ねて焼成したと想定され、たちあがり及び内面は灰白色を呈し、受部上面から外側はにぶい橙色を呈する。底部外面に「><」のヘラ記号を刻む。3、4 は器高が低く、扁平である。たちあがりはわずかに内傾し、受部は小さく水平に伸びる。4 は底部外面に「艹」のヘラ記号を刻む。5 はたちあがりが外反しながら内傾する。受部は短く水平に張り出す。底部外面にはヘラ記号が見られるが、欠損により不明瞭である。

6、7 はたちあがりが低く、底部に丸みを持つものである。6 はたちあがりが直立する。受部は水平に張り出し、状面には細く浅い凹線を巡らせる。体部外面上位まで回転ヘラケズリを施す。7 は底部がやや平坦で、底部と体部の境は丸みを持ち、体部が直線手に開く。底部外面に 2 と類似する「><)」のヘラ記号を刻む。

8 は底部が平坦で器高が低く、扁平なものである。底部内面も丸味が乏しく、体部と底部の境に稜を持ち、体部は外反気味に開く。たちあがりは低く、受部は上方へ短く伸びる。底部外面に「〇」のヘラ記号を刻む。

9、10 はたちあがりが低く、底部が平坦気味で器高が低いものである。9 はたちあがりが外反気味に内傾する。受部は水平よりわずかに上方に伸びる。底部、体部に丸味を残すが扁平なものである。10 は浅く扁平なものである。たちあがりは外反気味に内傾する。受部はやや上方に張り出し、上面に凹線が廻る。体部外面上位まで回転ヘラケズリを施す。底部外面にヘラ記号を刻む。器形は異なるが受部の凹線や体部調整において 6 に類似する。

11、12、13 は底部が平坦で体部が直線的で、側面形状が逆梯形に近いものである。11 はたちあがりが低く外反しながら内傾し、受部が若干上方に伸び、上面に凹線が廻る。12 は胎土に砂粒を多量に含む。13 は受部下面から体部外面にかけて「|||」のヘラ記号を刻む。

14 ～ 17 はたちあがりが低く、扁平で、体部から底部にかけて丸味のあるものである。14 はたちあがりが内傾し、受部も上方に短く伸びる。6、10 同様、体部上位まで回転ヘラケズリを施す。15 は、たちあがりが非常に低く、外反気味に内傾する。外面は淡灰褐色を呈する。底部外面に「|||」のヘラ記号を刻む。16 はたちあがりが外反しながら内傾し、端部は薄く尖る。17 はたちあがりが太く、端部は尖り気味に仕上げる。受部下面から体部外面にかけて「|||」のヘラ記号を刻む。

18 ～ 20 はたちあがりが非常に低く、内傾度の強いものである。18 は受部の突出が短く、たちあがりと受部の境が不明瞭である。19 は受部が短く上方に突出する。焼成不良である。20 は立ち上がりと受部の境が不明瞭で、たちあがりが薄く、端部が尖る。底部外面に「キ」のヘラ記号を刻む。

図 226-1 ～ 4 は須恵器の甕である。1 は大甕で、頸部上半から口縁部が残存する。複合口縁の甕で、大宰府分類大甕 b 類。口縁端部は内側に粘土を接合し、内傾する平坦面を設け、一次口縁と二次口縁の境は外側に粘土を接合して屈曲部を設ける。屈曲部下には沈線を廻らせ、やや波長の長い波状文を施文する。2 は頸部から口縁部にかけて残存する。素口縁の甕で、大宰府分類大甕 a 類。口縁端部を折り返し、端面は平坦に仕上げる。頸部外面に波長の短い櫛描波状文を 2 条、浅い沈線 2 条を挟んで再度櫛描波状文を施文する。口縁端部及び内面に自然釉がかかる。3 は肩部から口縁部が残存する。口縁部は素口縁で端面を垂直に面取りし、凹線を廻らせる。肩部外面にはカキメを施し、体部内面には同心円文タタキを残す。4 は肩部から口縁部が残存する。口縁部は素口縁で端部がわずかに内湾し端部は丸く収める。肩部外面に縦方向のカキメ調整を施したのちヨコナデを施し、体部内面には同心円文タタキ痕を残す。

図 226-5 ～ 9 は須恵器の壺である。5 は肩部から口縁部にかけて残存する。頸部がしまり、口縁部が外反気味に開き、端部は折り返して外側に肥厚させ、丸く仕上げる。体部外面は格子目タタキ後ハケ、

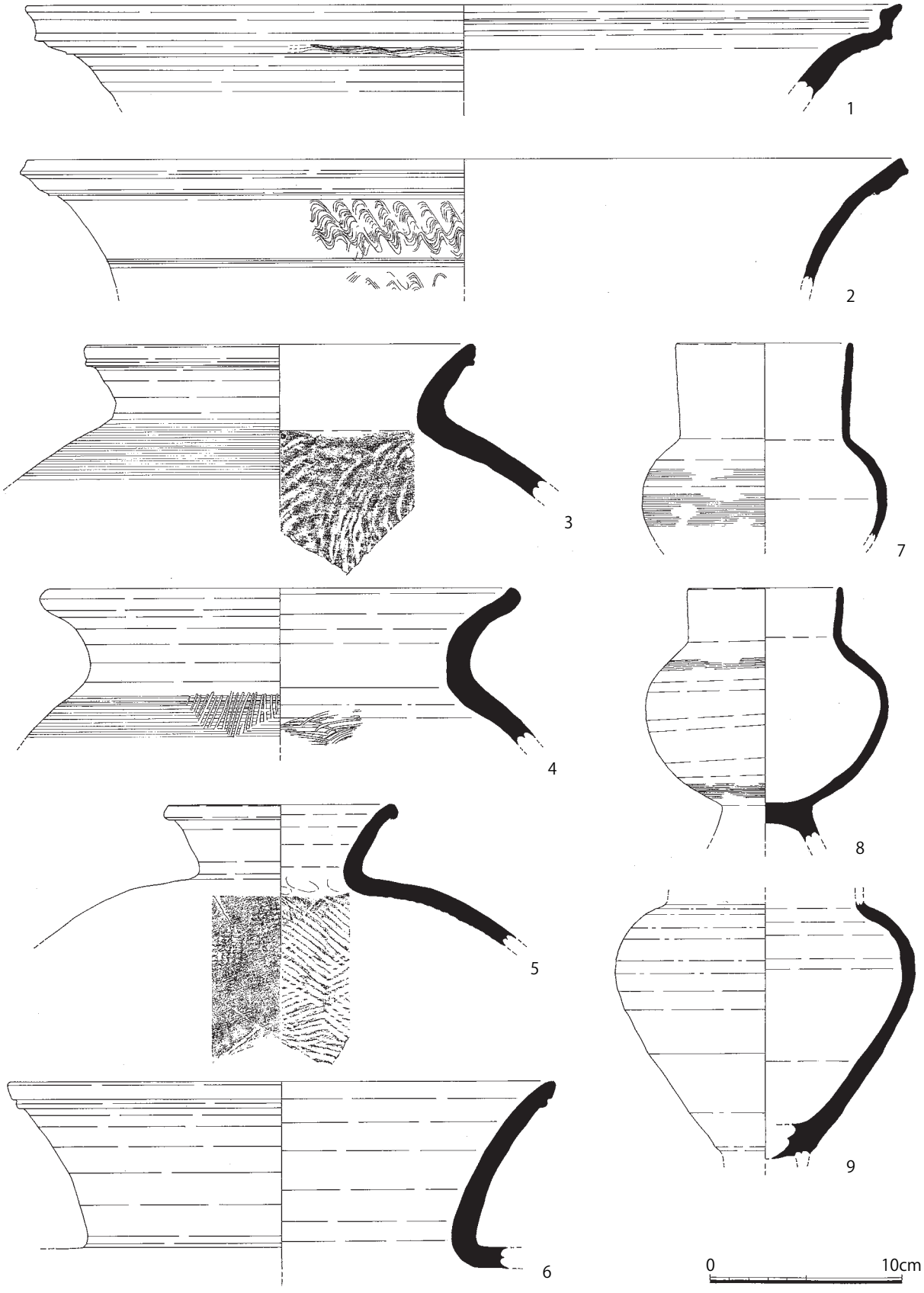


図 226　SD11065 出土土器 6（1/3）

頸部周辺から口縁部はナデ調整を施す。体部内面には平行タタキを残す。6 は頸部から口縁部にかけて残存する。頸部は比較的しまり、緩やかに外反しながら外方に開く。口縁端部は外側に肥厚させ、沈線を廻らせる。7 は底部以下を欠損しているが、脚台付直口壺か。口縁部は長く、ほぼ直立する。体部は扁球形で最大径が体部中央付近にある。体部外面はカキメを施す。肩部外面及び口頸部内面には自然釉がかかる。8 は須恵器の脚台付直口壺である。脚台の端部を欠く。口縁部が短く、体部最大径は上方にあり、肩が張る器形を成す。脚部は中空で底部との境に粘土を充填して孔を塞ぐ。肩部から胴部中位、底部にはカキメ調整を施す。9 は口頸部及び脚部を欠く。胴部の最大径は肩部にあり、体部下半は大きく窄まる。底部には高台張り付け痕が残存していることより、長頸壺か。外面調整は肩部が回転ヘラケズリ後ナデ、体部中位は回転ナデ、体部下半はヘラケズリを施す。内面は体部が回転ナデ、底部は縦方向のナデ調整を施す。

図 227-1 は瞭である。底部から頸部まで残存する。体部は最大径が肩部にあり扁球形を成す。頸部は細くしまるが、器壁は厚く口縁部は外方へ大きく開くと想定される。頸部から肩部にかけてはカキメ、底部は回転ヘラケズリを施す。肩部には自然釉がかかる。

図 227-2、3 は長頸壺であり、いずれも頸部から口縁部にかけて残存する。2 は頸部内面と体部内面の境には稜を持ち、頸部は緩やかに外反しながら外上方に開き、口縁端部は水平に屈曲してわずかに短く伸びる。口縁端面はやや面を取りながらも丸く仕上げる。頸部の下方には 2 条の沈線を廻らせる。内外面ナデ調整を施す。3 は頸部上半から口縁部にかけて残存する。2 とほぼ同口径であるが、頸部の開きは弱く、外反度もわずかで、直線的に開く。口縁端部は水平よりやや上方に屈曲し短く伸び、端面は丸く仕上げる。頸部の下半欠損部に沈線がわずかに残る。

図 227-4 ～ 6 は高杯で、4、5 は長脚、7 は短脚である。4 は中空で、上半では開きは少なく、裾部で大きく外方に開く。裾端部は面取りをし、下方に若干つまみ出す。脚部中位には 2 条の沈線を廻らせる。脚柱内部には絞り痕が認められる。外面は回転ナデ調整を施す。自然釉がかかる。5 は脚部のみ残存する。脚柱部は中空で、内部に粘土紐積上げ痕が残り、棒に粘土を巻きつけて成形したことが分かる。裾部は大半を欠失しているが、屈曲部をもって外方に開く。内外面回転ナデ調整を施す。外面には自然釉がかかる。6 は杯部のみ残存する。体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がり半球形を成す。体部中位外面には 2 条の沈線を廻らせる。外面下半部はカキメ、外面上半及び脚柱接合部周辺、内面は回転ナデ調整を施す。

図 227-7 は脚部の一部を欠く。杯部は下半部が一旦横方向に開き、丸みを持って上方に立ち上がる。口縁部はわずかに内傾し、端部は丸く収める。脚部は中空で裾部で大きく開き、端部は面を取り、下方に小さくつまみ出す。脚柱部内面外面には螺旋状の粘土紐積上げ痕が残る。内外面回転ナデ調整を施す。なお、脚柱外面は杯部外面から螺旋状に回転ナデ調整が続く。

図 227-8 は提瓶である。底部のみ欠損する。口縁部は内湾気味に開く漏斗状を成す。端部は丸く収める。体部背面の張出しは弱く、平行タタキ後カキメ調整を施す。肩部にわずかに屈曲した角状の双耳が付く。

図 227-9 は須恵器の鉢である。底部が尖る半球形を成し、口縁部はわずかに内湾する。内面及び口縁部はヨコナデ、底部外面は回転ヘラケズリを施す。

図 228-1 ～ 19 は弥生時代の甕であり、1 ～ 8 は口縁部を含む個体、9 ～ 19 は底部を含む個体である。1 ～ 6 は逆 L 字形や鋤先形を成すものであり、いずれも胴部内面はナデ調整、外面は縦方向のハケ目調整、口縁部及び口縁下はヨコナデを施す。1 は口縁上面が平坦であり、わずかに内側に傾き、口縁端部は丸く仕上げる。胴部最大径は口縁下に位置する。口縁端部、体部の一部が黒変する。2、3 は口縁部内側

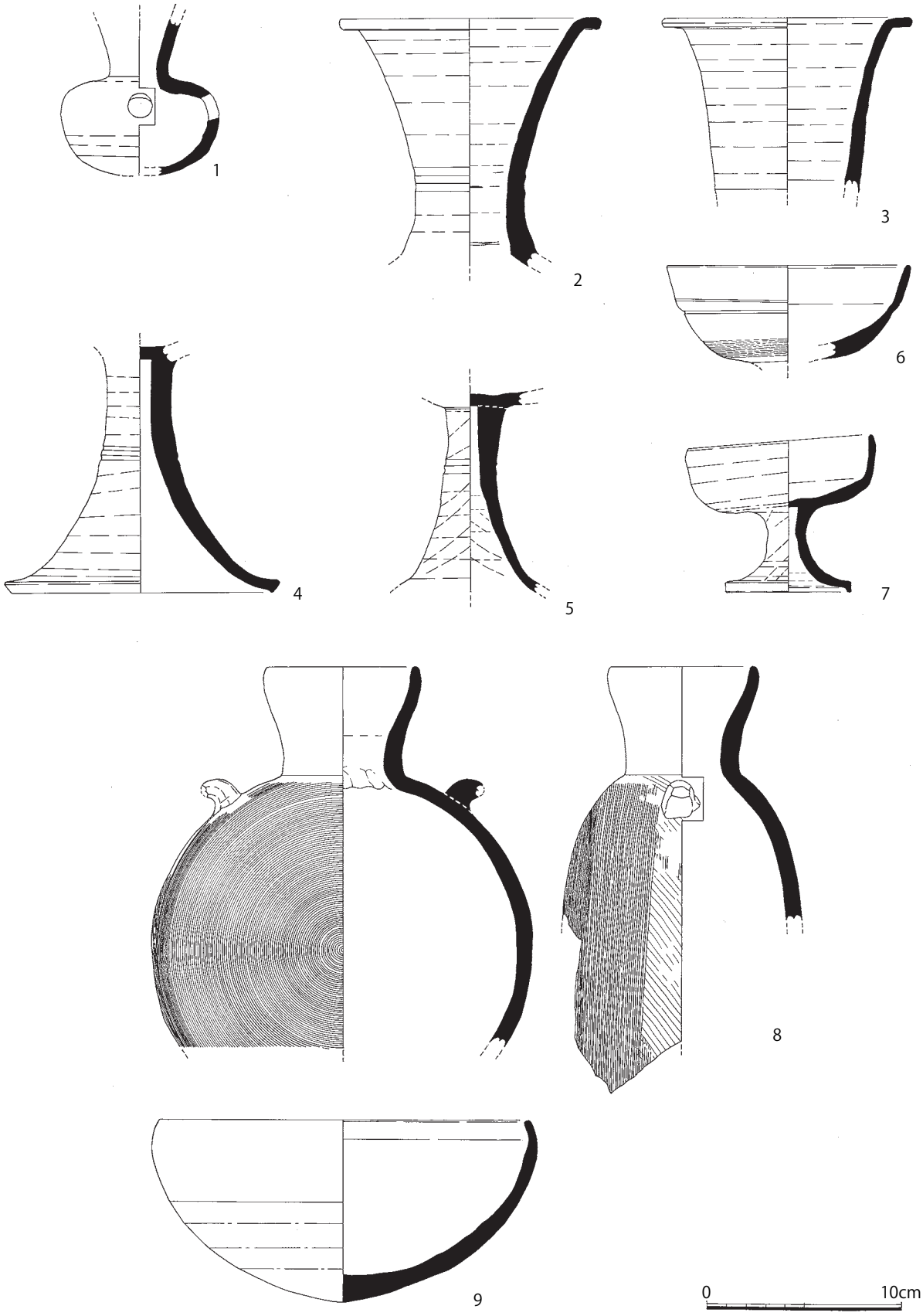


図 227　SD11065 出土土器 7（1/3）

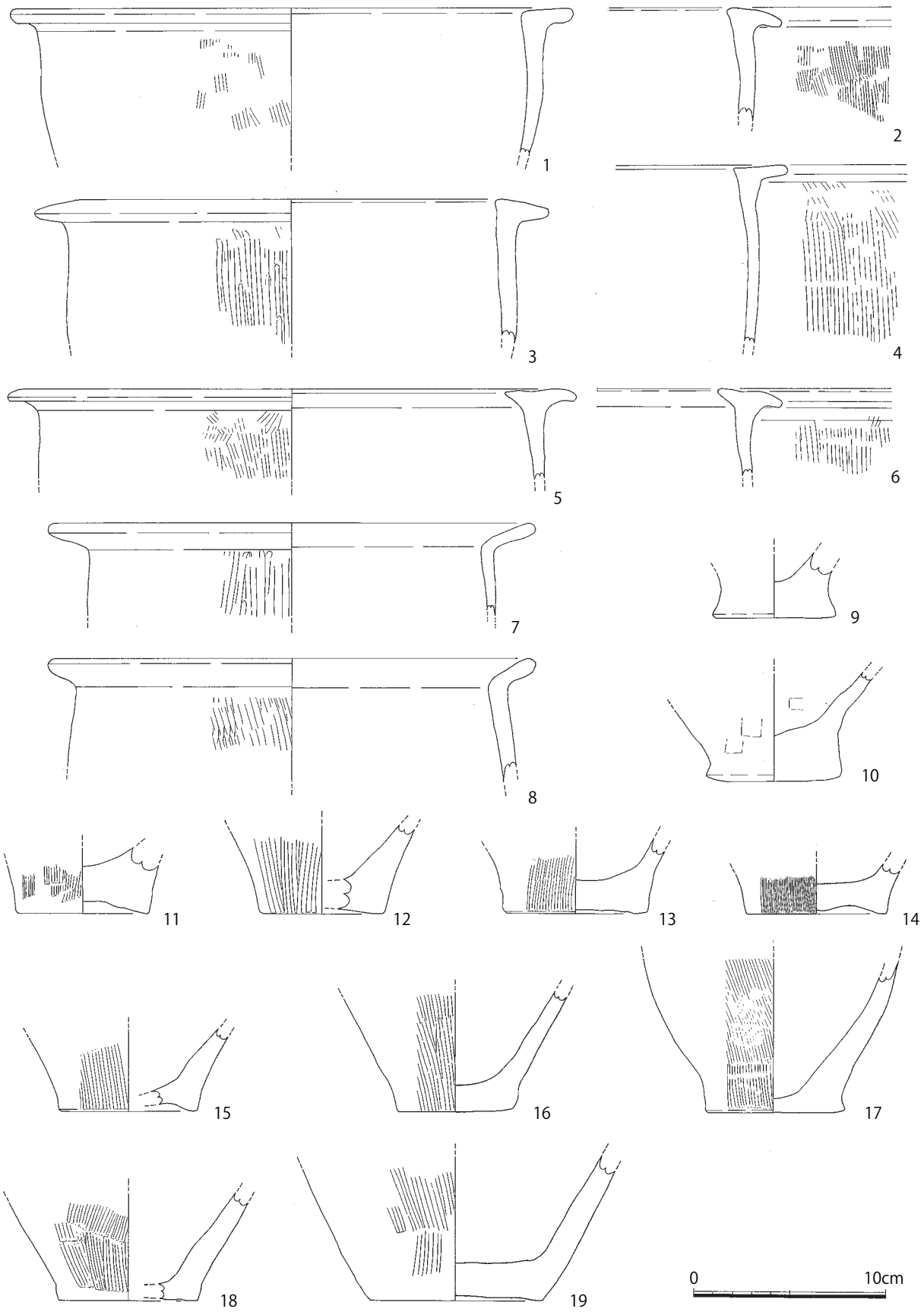


図 228　SD11065 出土土器 8（1/3）

をわずかに突出させたもので、口縁上面は平坦で外側に傾く。4 も口縁部内側にわずかに突出させたもので、口縁部上面は平坦で、内側に傾斜する。5、6 は口縁部の内側を突出させたもので、端部はわずかに垂れる。

7、8 は口縁部が屈折するもので、口唇部が屈曲部よりわずかに上がり、屈曲部は丸味を持つ。口縁端部は丸く仕上げる。

9、10 は厚底の平底で、底部下端が外側に張り出す。10 は外面が被熱により赤変し、底面には葉脈状のヘラ描きがみられる。

11 ～ 15 は上げ底気味の底部であり、いずれも外面ハケ目、内面ナデ調整を施す。

16 ～ 19 は平底で外面は縦方向のハケ目調整を施す。16 は底面にもハケ目調整を施す。17 は底裾が外側にわずかに張り出す。19 は底部外周にヨコナデを施す。

図 229-1 ～ 15 は弥生時代の壺であり、1 ～ 3 は口縁部を含む個体、4 ～ 15 は底部を含む個体である。1、2 は口縁部が鋤先形を成す広口壺であり、内外面に赤色顔料を塗布し、頸部内面はヨコナデ、口縁部はヘラミガキ、外面には暗文を施す。1 は頸部上半から口縁部にかけて残存しており、口縁上面がわずかに外傾する。内面から口縁部平坦面にかけて黒変する。2 は口縁上面が丸味を持って外側に傾き、口縁端部は面取りする。3 は肩部から口縁部にかけて残存する。頸部は内面に丸味をもって屈曲する。口縁端部は丸く仕上げる。頸・肩部外面及び口縁部内面はヘラミガキ、口縁部外面はヨコナデ、頸・肩部内面はハケ目調整を施す。外面及び口縁部、頸部内面に赤色顔料を塗布する。

4 は底部から胴部下半が残存する。底部は平底で、胴部にかけて外反気味に立ち上がる。底部及び周辺は器壁が激しく剥離する。内外面ヘラミガキを施す。

5 は厚い平底で、底部から胴部にかけて外反気味に立ち上がる。

6 ～ 8 は平底の底部である。6、7 は底部器壁が極めて薄く、胴部外面はヘラミガキを施す。6 は胴部外面には赤色顔料を塗布し、内面の一部に赤色顔料が残る。8 は外面工具によるナデ、底面及び内面はナデ調整を施す。

9 ～ 11 は凸レンズ底の底部である。9 は丸味を帯びた底部から胴部にかけて外反気味に立ち上がる。底面中央にはくぼみが見られ、底部成形時には環状の円盤を使用したことが分かる。10 は底部から胴部にかけて外反気味に立ち上がるもので、底部の縁を潰し、丸味を持たせる。外面は工具によるナデ調整を施す。11 は胴部にタタキ痕が残る、成形当初には形の小さな平底で、胴部外面にタタキを施した後、底部周縁部を潰し凸レンズ状に仕上げたものと思われる。

12 ～ 14 は平底であるが底部から胴部が内湾気味に立ち上がるもので、底部周縁部が丸味をもつものである。12 は底部周縁部に丸味を帯び、体部の一部にタタキ痕が残る。胴部外面タタキ後ナデ調整を施す。13 は胴部外面ハケ目、内面工具によるナデ調整を施す。14 は底部の器壁が薄く、体部外面ヘラナデ、内面ハケ目を施す。

15 は尖り気味の丸底であり、内外面ハケ目調整を施す。外面は黒変する。

図 230-1 ～ 10 は甕であり、口縁部を含むものを図示した。1 は「くの字」形を有すものであり、口縁の立ち上がりは弱く、屈曲部内側の稜も不明確である。口縁端部は丸く仕上げる。胴部の最大径は上位にあり、外面には煤が付着する。

2 は頸部外面が丸味を帯び口縁部が外反しながら伸びるもので、端部は丸く仕上げる。胴部最大径は中位にあり、長胴形を成すものと思われる。胴部外面はハケ目、内面はヘラケズリ、口縁部内外面及び頸部外面は回転ナデ調整を施す。胎土に砂粒を多量に含む。

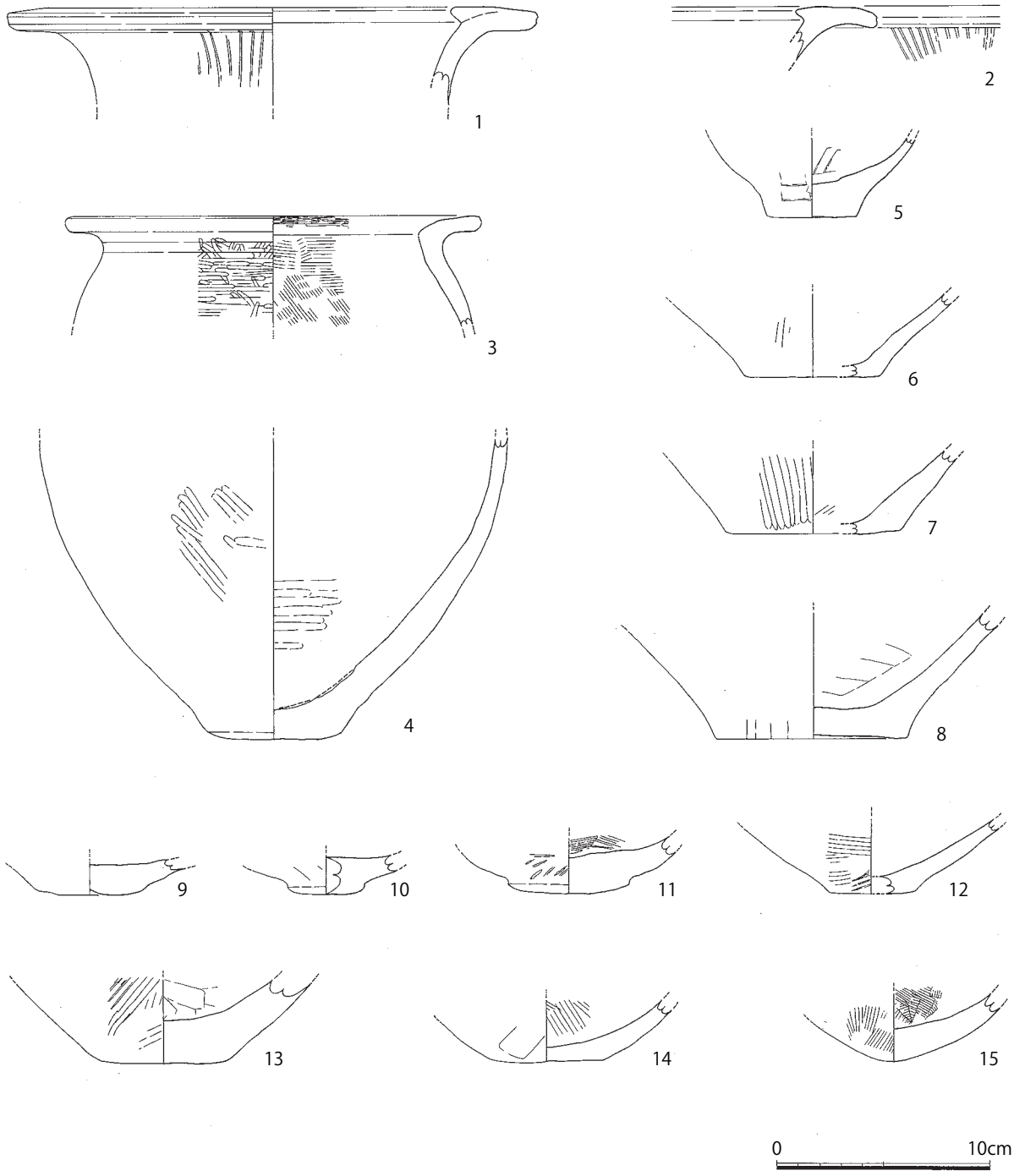


図 229　SD11065 出土土器 9（1/3）

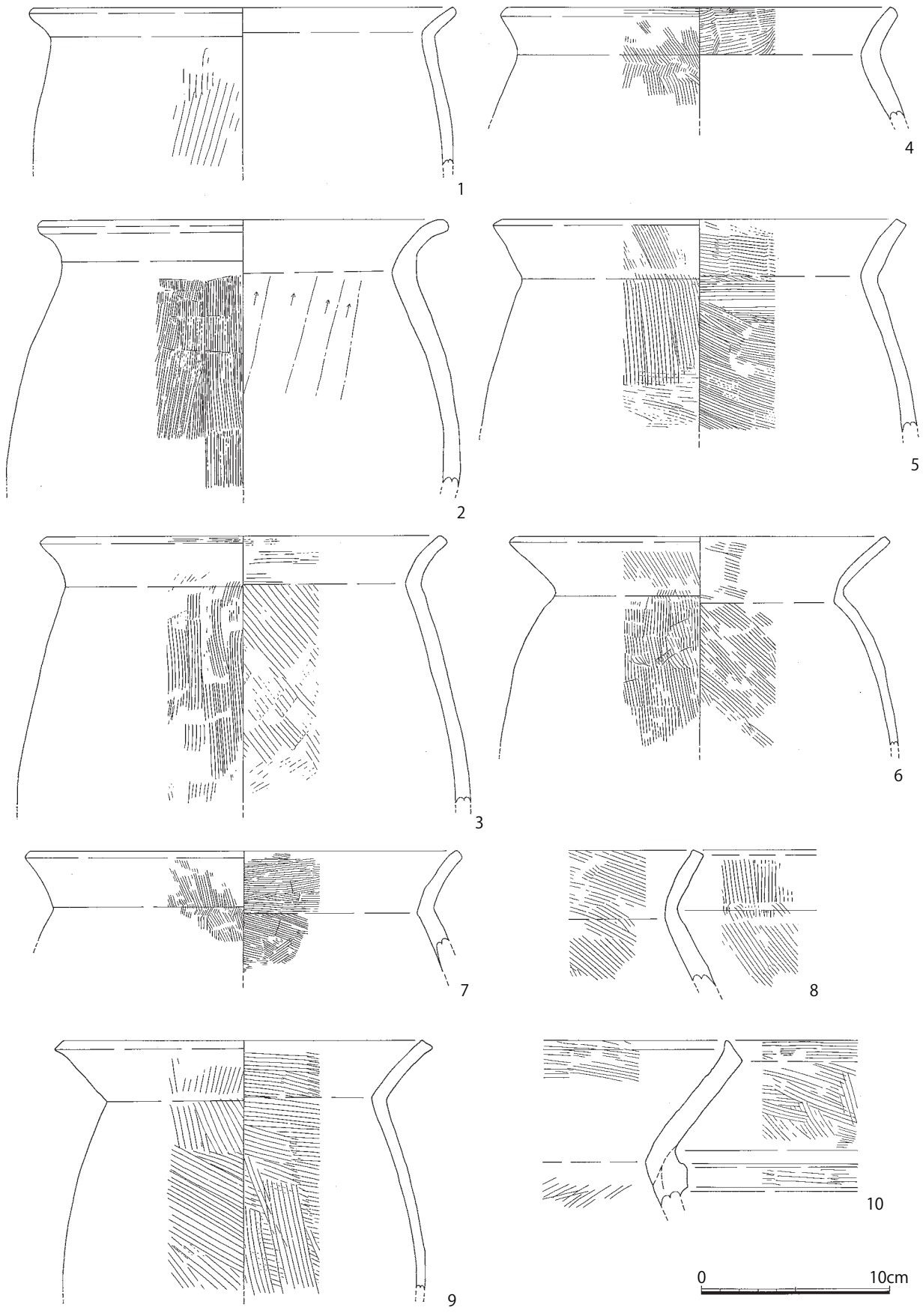


図 230　SD11065 出土土器 10（1/3）

3 は口縁部が外反しながら外上方へ伸びるもので、立ち上がりは強く、端部は面取りする。胴部は長胴形を成す。外面ハケ目、口縁部外面はハケ目後ナデ、口縁端部及び口縁内部はヨコナデ、体部内面は左上方向のハケ目を施す。

4 は口縁が外上方に立ち上がり、口縁端部は面取りする。口縁部外面及び胴部外面はハケ目、口縁部内面は横方向のハケ目、胴部内面はナデ調整を施す。

5 は口縁外面から肩部まで連続して縦方向のハケ目を施し、口縁外面のみさらにヨコナデを施す。胴部外面は左上方向のハケ目調整、口縁端部はヨコナデ、口縁内側から頸部内側にかけて横方向のハケ目、胴部内面は左上方向のハケ目調整を施す。器壁の摩耗がほとんど見られない。外面に黒斑あり。

6 は器壁が薄い。口縁部外面はハケ目後ヨコナデ、胴部外面は縦方向のハケ目、口縁内面は横方向のハケ目、胴部は左上方向のハケ目調整を施す。外面には煤が付着する。

7 の口縁部は内湾気味に立ち上がる。

8 は頸部内面が丸味を帯びる。口縁外面は縦方向のハケ目、胴部内外面は左上方向のハケ目調整を施す。

9 は胴部の張りが弱く、長胴を成す。調整は 6 に類似するが、内面の斜め方向のハケ目後縦方向のハケ目を間隔をあけて重ねる。

10 は頸部に断面台形の凸帯が付くものである。口縁部端部は内側にわずかにつまみ出す。口縁部内面下半から頸部内面にかけてナデ、それ以外はハケ目調整を施す。

図 231-1 ～ 8 は器台である。1 は受部からくびれ部が残存するもので、緩やかに外反する。くびれ部外面ハケ目、内面はナデ、受部外面はナデ、内面はヨコナデ調整を施す。2 は厚手のもので、くびれ部と裾部が残存する。くびれ部は柱状で径がほとんど変化せず、裾部は屈曲して広がり、端部は面を成す。くびれ部上位は内面が広がり、器壁が剥離する。くびれ部外面及び裾部外面は縦方向のハケ目、裾部内面は横方向のナデ、くびれ部内面はナデ調整を施す。3 はくびれが弱く、器壁が厚い。受部は裾部より若干径が小さく、器壁もやや薄い。端部はわずかに面取りする。内外面ナデ調整を施す。4 はくびれ部と裾部が残存する。くびれ部の器壁は厚く、厚みを減じながら外方に開き裾部と成している。裾部端部は摩耗しているが、下方につまみ出す。くびれ部内外面ナデ調整、裾部内外面ヨコナデ。裾部内面には指頭圧痕が残る。5 は手捏のもので、くびれ部と裾部が残存する。くびれ部が直線的に開き、裾部でわずかに広がり、端部は踏ん張る。くびれ部内部はナデ、裾内部は横方向のハケ目、外面には指頭圧痕が残り、指ナデが施される。6 は器高が 7.2cm の小型で厚手粗製のもので、外面には指頭圧痕が多数残る。くびれ部は上位にあり、くびれ部内部には成形時の絞り後が残る。内外面ナデ調整を施す。7 は口縁部及び裾部を欠く。くびれが上位にあり、外反しながら受部が外方に大きく開く。くびれ部内面には絞り痕が顕著に認められる。受部内面はハケ目、外面はナデ調整を施す。8 は山陰系の鼓型器台であり、受部の一部が残存する。一次口縁が短く外方へ開き、さらに二次口縁が外反しながら開く。屈曲部には粘土を接合し、下方へのつまみ出しを造る。一次口縁外面はヨコナデ、二次口縁外面はハケ目後ナデ、内面二次口縁上半はヨコナデ後ナデ、下半及び一次口縁内部はヘラミガキを施す。

図 231-9 は受部のみ残存する。受部は下半部が直線的に外上方に開き、上半部が短く外反しながらやや上方に開く。口縁端部は面取りし、外側に小さくつまみ出す。内外面ヨコナデを施す。

図 231-10 は裾部のみ残存する。器壁は厚く、中実気味のものである。くびれは直線的である。外面縦方向の工具ナデ、内面ナデ調整を施す。

図 231-11 は支脚で、裾部片側が外方に広がるため、受部が湾曲するものか。断面方形。外面ナデ調

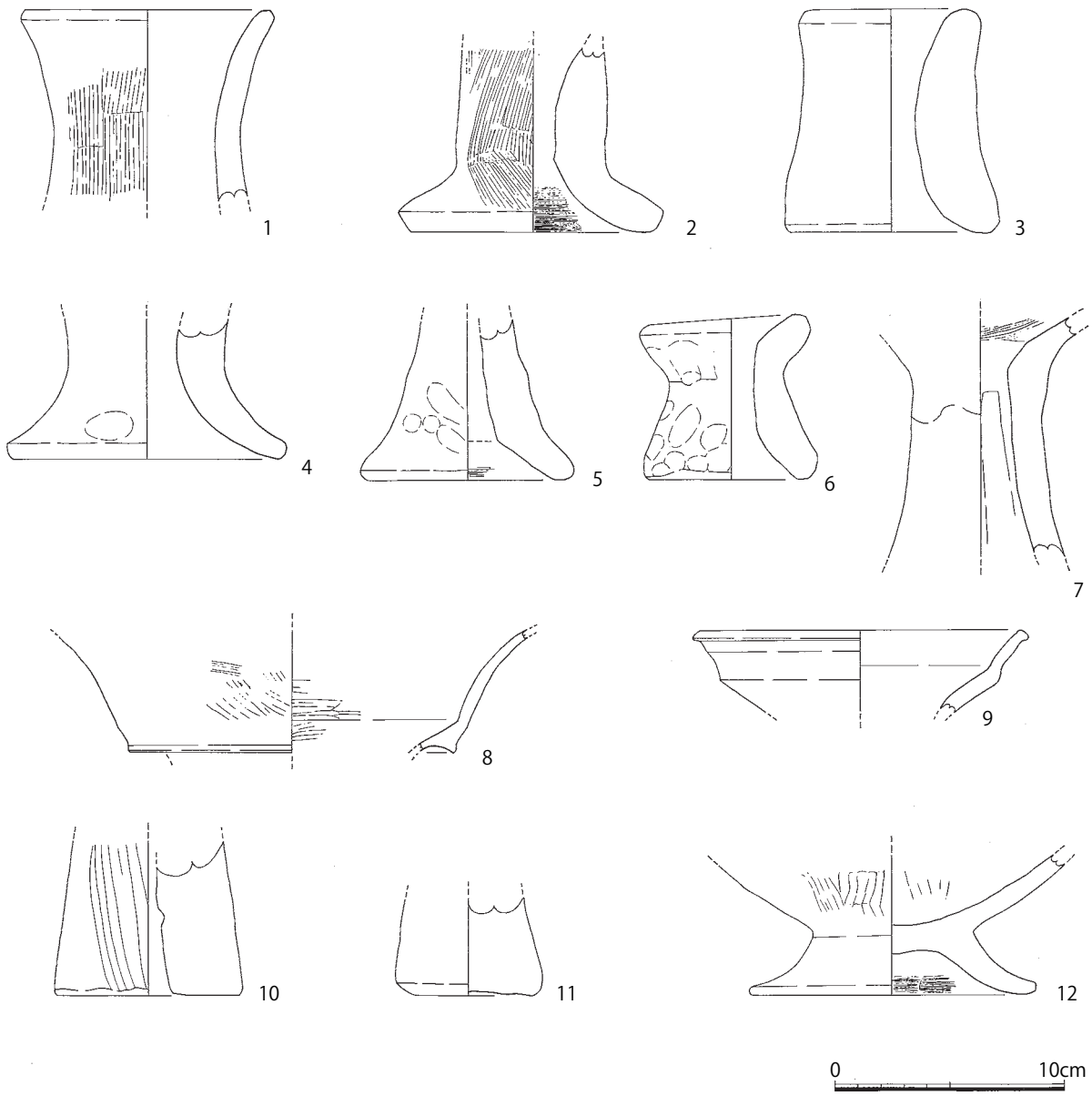


図 231　SD11065 出土土器 11（1/3）

整で、接地面には指頭圧痕が残る。

図 231-12 は台付鉢か。底部及び脚部が残存する。脚部は外反しながらハの字に開き、端部は面取りする。鉢部内外面は縦方向のヘラミガキ、底部はナデ、脚部外面はヨコナデ、脚部内面は横方向のハケ目調整を施す。

図 232-1 ～ 7 は甕である。1 はほぼ全体が残存する。口縁部は直線的に外傾し、端部は面取りする。頸部のくびれは弱く、胴部最大径は中位にある。底部は尖り気味の丸底である。口縁部外面はハケ目後ヨコナデ、口縁部内面から頸部内面にかけてはハケ目、外面は胴部上半部及び底部がタタキ、下半部はタタキ後ナデ、胴部内面は左上方向のヘラケズリ後ハケ目、底部はナデ調整を施す。外面には口縁部を中心に煤が付着する。

2 は胴部上半から口縁部にかけて残存する。頸部のしまりはやや強いものの、内側の稜は弱い。口縁部は直線的に外方に開く。胴部外面ハケ目、内面横方向のヘラケズリ、口縁部外面ヨコナデ、内面ハケ目調整を施す。頸部内面にナデ調整を施した後、胴部のヘラケズリを行う。

3 は胴部最大径が中位より若干上にある球形を成し、頸部は内面にやや不明確な稜を有しながら、口縁部は直線的に開く。外面は左上方向のハケ目で、下半部はハケ目後ナデ、肩部には縦方向のハケを重ねる。内面は縦方向のヘラケズリで、肩部には左上がりのハケ目、口縁部内面には横方向のハケ目調整を施す。内面に粘土紐積上げ痕が残る。

4 は胴部外面がハケ目後ナデ、内面はハケ目、口縁部内外面はヨコナデを施す。

5 は肩部から口縁部が残存する。頸部のくびれは強いものの、内面は丸味を持つ。肩部外面はナデ、内面はヘラケズリ、口縁部内外面はヨコナデを施す。外面には煤が付着する。

6 は口縁部から肩部が残存する。頸部のしまりは弱く、口縁部は内湾しながら開く。肩部の張りも弱い。肩部内外面は左上方向のハケ目、口縁部内外面は横方向のナデ調整を施す。

7 は底部で、内面は右上方向のハケ目、外面は工具によるナデ調整を施す。外面には煤が付着する。

図 233-1 ～ 12 は壺である。1 は壺胴部から口縁部にかけて残存する。頸部のくびれが強く、口縁部は比較的長く、わずかに外反しながら小さく開く。口縁端部はわずかに外側に張り出す。胴部外面は横又は左上方向のハケ目、肩部外面は縦方向のハケ目、頸部から口縁部外面は左上方向のハケ目後ヨコナデ調整、口縁内面は横方向のハケ目後ヨコナデ、肩部内面は横方向のハケ目後縦方向のナデ、胴部内面はナデ調整を施す。また、肩部内面には粘土紐積上げ痕が幾重にも残る。

2 ～ 8 は小型広口壺である。2 はやや小形であり、器壁もきわめて薄い。胴部外面はハケ目、頸基部はハケ目後ナデ、口縁部外面はナデ、口縁部内面はハケ後ナデ、頸部内面はナデ、胴部内面はヘラケズリを施す。外面には煤が付着し、底部は被熱により器壁が荒れる。3 は胴部最大径が中位にあり、ややなで肩で底部がやや度がり気味の球形を成す。口縁部は外反気味に開き、全体的に器壁が厚い。胴部外面はハケ目、頸部及び口縁部内外面、胴部内面は横方向のナデ調整を施す。外面には、肩部から口縁部を中心に煤が付着する。なお、口縁部の一部にも煤が付着する。4 は胴部最大径がやや上位にあり、やや底部が尖り気味の球形で、頸部は内部に稜を持たず丸味を持って屈曲し、口縁部は外反気味に外方へ開く。胴部外面は左上方向のハケ目、頸部から口縁部外面はナデ、口縁部内面はハケ目後ナデ、胴部内面はナデ調整を施す。外面には、肩部から口縁部を中心に煤が付着する。5 は頸部内面の屈曲が強く、口縁部が外反気味に開く。胴部外面は左上方向のハケ目後ナデ、頸基部から口縁部内面、胴部内面は横方向のナデ調整を施す。外面は胴下半部に煤が付着し、底部は被熱により器壁が荒れる。

6 ～ 8 はいわゆる「小型丸底壺」である。いずれも底部を欠いた胴部中位から口縁部にかけての固体

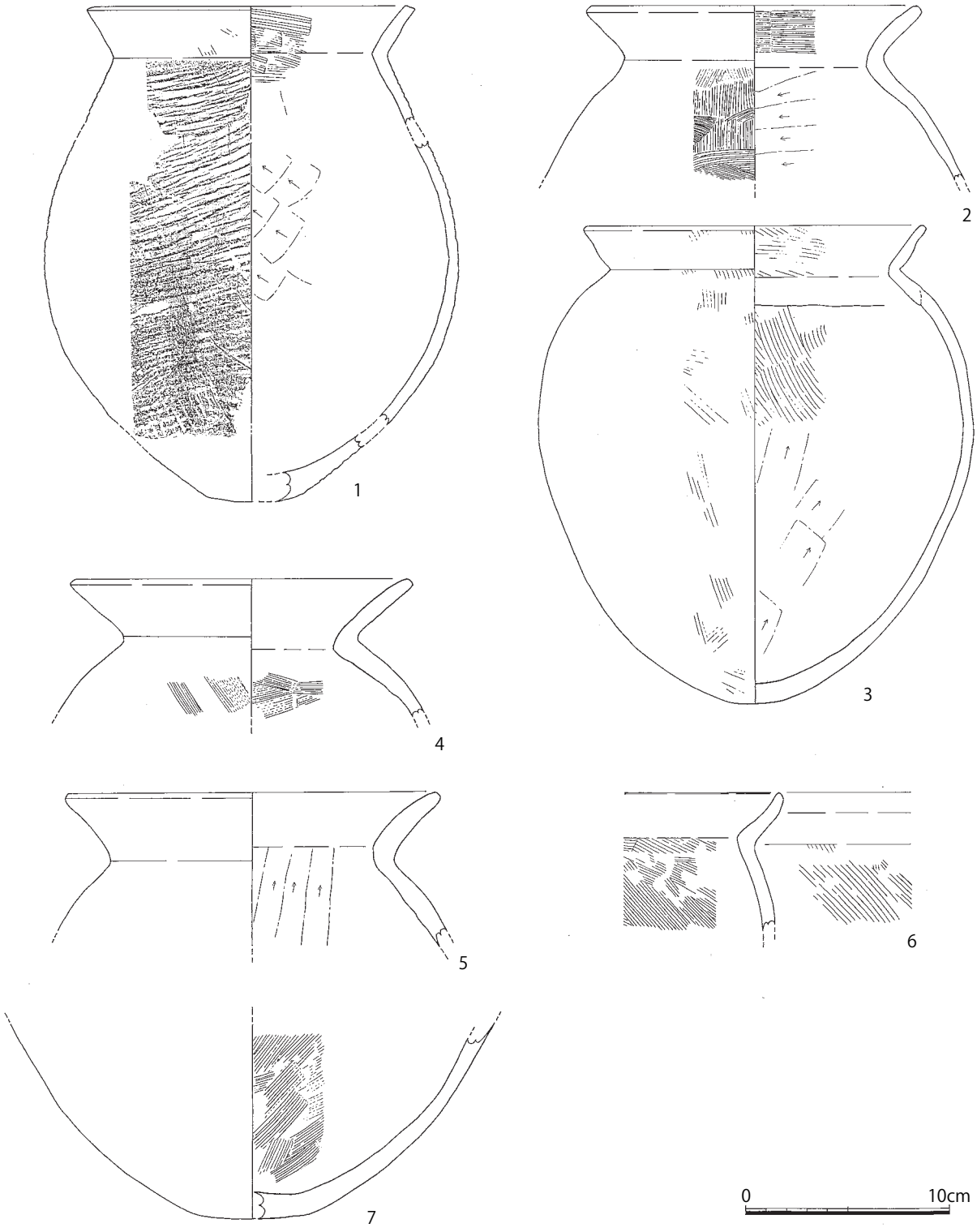


図 232　SD11065 出土土器 12（1/3）

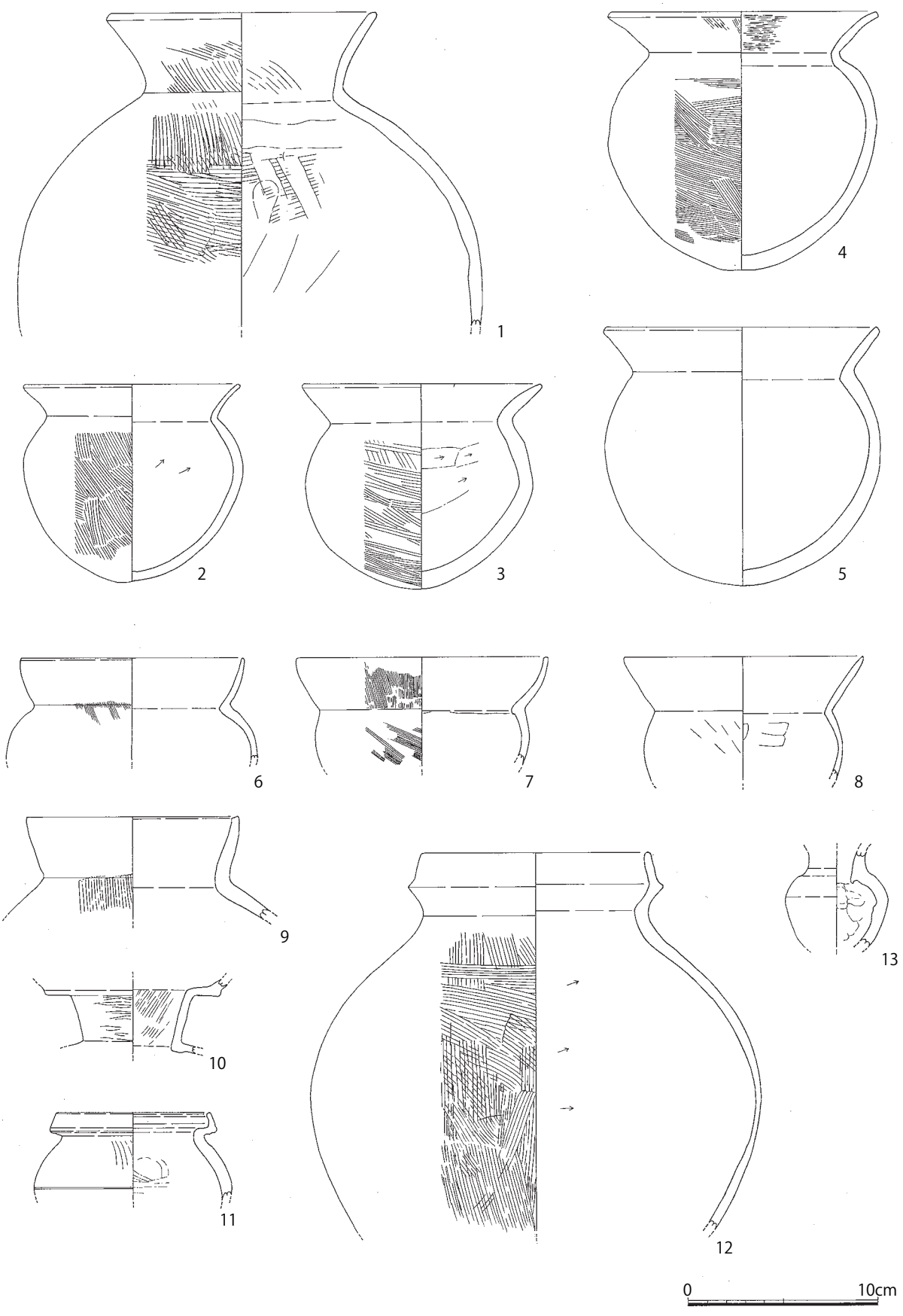


図 233　SD11065 出土土器 13（1/3）

である。6 は口縁部が内湾気味に開き、口径が胴部最大径を下回り、肩が張る。胴部外面ハケ目後ナデ、口縁部外面ヨコナデ、口縁部内面はハケ目後ナデ、肩部内面はナデ、胴部内面にはハケ目が施される。7 は口縁部が内湾気味に開き、口径が胴部最大径を上回る。胴部外面及び口縁部外面はハケ目、頸部はハケ目後ナデ、口縁部内面はナデ、胴部内面は縦方向のヘラケズリ後ナデ調整を施す。8 は口径が胴部最大径を上回るもので、口縁部は直線的に外傾する。胴部内外面は板状工具によるナデ、口縁部内外面は横方向のナデ調整を施す。

9 は直口壺で肩部から口縁部にかけて残存する。口縁部は内湾気味に直立し、端部は面取りする。肩部外面は縦方向のハケ目、内面はナデ、口縁部内外面ヨコナデを施す。

10 は畿内系の二重口縁壺であり、頸部と口縁部が残存する。外径する筒状の頸部に、1 次口縁が水平に伸び、わずかな段を有して 2 次口縁が外上方に開く。頸部外面及び 1 次口縁外面横方向のヘラミガキ、頸部内面縦方向のヘラミガキ、2 次口縁内面ハケ目後縦方向のヘラミガキを施す。頸基部内面には胴部と頸部の接続痕が残る。外面及び口縁部内面、頸部内面の一部に赤色顔料を塗布する。

11 は胴部上半から口縁部にかけて残存する。短く外反する頸部に二重口縁が組み合さったもので、二次口縁接合部外面はややあいまいな稜を持って突出し、二次口縁は短く内傾する。胴部外面は縦方向のハケ目後ナデ、内面横方向のヘラケズリ、頸基部外面はハケ目後ナデ、内面ナデ、口縁部内外面ヨコナデを施す。

12 は短頸の二重口縁壺であり、短く外反する頸部から外反する一次口縁が外側に開き、内側に屈曲して二次口縁がわずかに内傾しながら上方に立ち上がる。屈曲部は外方にわずかに張り出し、口縁端部は丸く収める。胴部下半部外面は左上方向のハケ目に縦方向のハケ目を重ね、上半部は縦方向のハケ目に左上方向のハケ目を重ねるが、頸基部は縦方向のハケ目調整のみ施す。頸部内外面、口縁部内外面は横方向のナデ、内面は横方向のヘラケズリを施す。

13 は手捏の長頸壺か。口縁部及び底部を欠く。胴部外面及び頸部内外面はナデ調整、肩部内面には指頭圧痕及び絞り痕が多数残る。ある程度成形した胴部に、口頸部とする棒に巻きつけた粘土を差し込み、頸基部で絞り接合したものと想定される。内外面に黒斑が見られる。

図 234-1 ～ 19 は鉢である。1 は有孔鉢である。砲弾形を成し、底部には内側から穿孔された径 1.5cm の孔が開く。口縁部はわずかに内湾し、端部は丸く仕上げる。孔周辺は成形が粗雑で、指頭圧痕が残る。平底の底部を改変して整形、穿孔したものか。胴部外面上半は縦方向のハケ目、口縁部外面及び胴部下半はナデ、内面は左上方向のハケ目調整を施す。

2、3 は単純口縁の浅鉢である。2 は外面がハケ目、内面はナデ、口縁部内外面ヨコナデを施す。3 は口縁部が内湾気味に開く。器壁は厚く、胎土に砂粒を含む。口縁部外面は横方向のハケ目後ナデ、内面は横方向のナデ、底部外面は工具によるナデ、内面はナデ調整を施す。

4 ～ 7 は単純口縁の内外面にヘラミガキを施した小型台付鉢である。4 は浅鉢に裾端部を欠く。器壁が薄く、細く丁寧なヘラミガキを施した精製品である。口縁端部外面には浅い沈線を廻らせ、脚部 3 方に焼成前穿孔を有する。鉢部内外面及び脚台部外面はヘラミガキ、脚台内部は工具によるナデ調整を施す。5 は口縁部及び脚台部を欠く。内外面ヘラミガキを施すものの、器壁は厚く、胎土に砂粒を含む。底部には脚台部を細い棒で接合したと思われる小孔が残る。6 は鉢上半部を欠く。脚台は脚基部が幅広で厚みがあり、裾部はハの字に開く。外面及び鉢部内面はヘラミガキ、脚台内面はハケ目調整を施す。7 は接合・図化できないが同一個体と想定される口縁部も出土。器壁外面の摩耗が著しいが、随所に赤色顔料が残存し、脚台外面にはヘラミガキの痕跡が一部残る。脚台内面は工具によるナデ調整か。

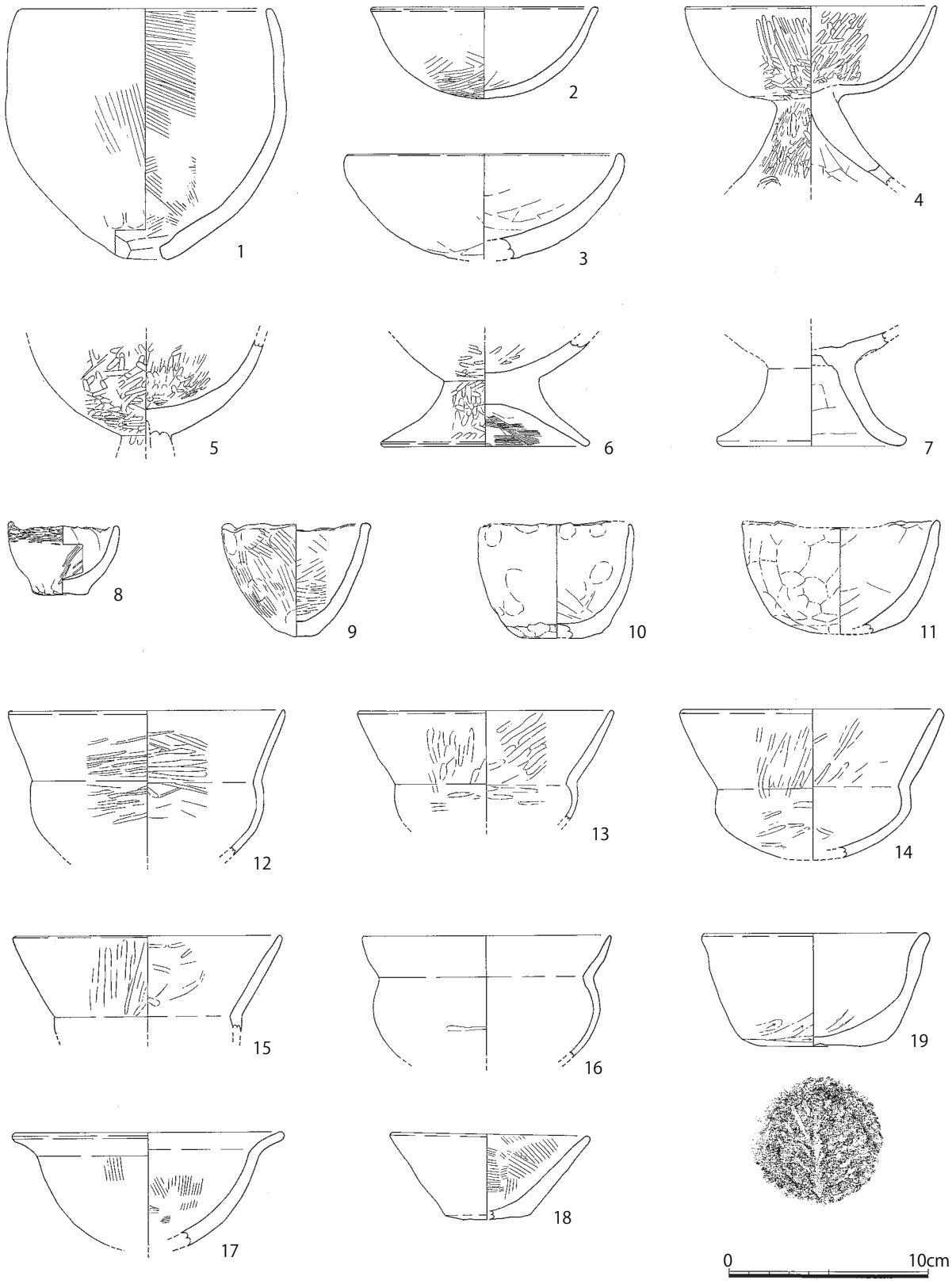


図 234　SD11065 出土土器 14（1/3）

8 ～ 11 は手捏の鉢である。8 は平底で、口縁端部は未成形で波打つ。胴部外面の一部にハケ目、口縁部外面には横方向のハケ目調整を施す。内面上半には指頭圧痕が残り、外面には煤が付着する。9 は完形品で単純口縁の深鉢形を成す。口縁端部は一部面取りを行ったようであるが粗雑で、波打つ。外面縦方向のハケ目後ナデ、口縁部内面は横方向のナデ、胴部内面ヨコ方向のハケ目を施す。10 は平底で単純口縁の深鉢形を成す。底部周辺外面はヘラケズリ、胴部外面から口縁部内面にかけてナデ調整を施す。胴部内面は工具による押さえ痕、内外面に指頭圧痕が残る。11 はやや厚手のものである。外面はヘラケズリ後一部ナデ、底部内面はナデ、胴部内面は横方向のナデ調整を施す。底部内面に成形時の工具痕を残す。

12 ～ 16 は畿内系小型丸底鉢であり、12 ～ 15 は口頸部の長いもの、16 は口頸部の短いものである。12 は底部を欠く。胴部の張りが弱く、胴部上端のくびれは弱い。内外面横方向のヘラミガキを施す。口縁端部内側は横方向のナデ調整を施す。13 は胴部の大半を欠く。胴部上端のくびれは弱く、内面の稜も鋭さを欠く。口縁部外面縦方向のヘラミガキ、内面右上方向のヘラミガキ、胴部内外面横方向のヘラミガキを施す。口縁端部内側は横方向のナデ調整を施す。14 は底部を欠く。やや胴が張り、くびれも他のものより若干強い。胴部外面及び底部内面は横方向のヘラミガキ、口縁部外面は縦方向のヘラミガキ、胴部内面はナデ及び一部横方向のヘラミガキを施す。なお、口縁部内側には、一部手直しの痕跡か、ヘラミガキ後横方向のハケ目を施し、再度ヘラミガキを施した個所が認められる。15 は口縁部からくびれ部が残存する。口縁部外面は縦方向のヘラミガキ、内面は右上方向のヘラミガキ、くびれ部内面は横方向のナデ調整を施す。16 は胴部が扁球形でくびれは弱く、内湾する口縁部が外方に開く。胴部外面下半は板状工具によるナデ、胴部外面上半は横方向のヘラミガキ、胴部内面はナデ、口頸部内外面は横方向のナデ調整を施す。

17 は台付き鉢か。鉢部は短く、弱い屈折口縁に反球形の胴部が付くもので、屈曲部は鋭さを欠く。胴部内外面ハケ目、口縁部ナデ調整を施す。摩耗により不鮮明であるが胴部内面はハケ目、口縁部内面ナデ、胴部内面ハケ目調整を施す。18 は平底に直線的に開く胴部が付く。外面ナデ、内面ハケ目調整を施す。底部に黒斑あり。19 は口縁部内外面及び胴部内面は横方向のナデ、胴部外面はナデ、底部周縁部外面は横方向のヘラケズリを施す。底部内側には工具痕、底部外面には木の葉状の圧痕及び葉脈のヘラ描きを有する。

図 235-1 ～ 19 は高杯及び器台である。1 ～ 5 は杯部のみ残存しており、脚柱部以下を欠く。1 は内湾気味の杯下半部に、下半部より長く外反する上半部がつく。内外面ヨコナデ後粗いヘラミガキを施す。2、3 は杯下半部が直線的に開き、屈折部を持って上半部が外反気味に長く伸びる。2 は内外面摩耗が著しいが一部にヘラミガキ痕が認められる。3 は、杯上半部外面はナデ後暗文を施す。内面はヨコ方向のナデ後ヘラミガキ、下半部外面横方向のヘラミガキ、内面ハケ目後ナデを施す。内面のヘラミガキは粗いが暗文か。外面黒斑あり。4 は内湾する杯下半部にわずかな段をもって接合する外反気味の杯上半部からなる。口縁部は端部に向かうほど薄くなる。屈折部の痕跡より杯下半部の内側に上半部を接合して作成される。外面及び下半部内面は縦方向のヘラミガキ、上半部と下半部の境内面はナデ、杯上半部内面はナデ後暗文を施文する。暗文は縦方向のヘラミガキを数条で単位とし、一定間隔で配置し、空白部分に縦方向の波状文を 3 条施文する。5 は内湾する杯下半部に、外反する長い上半部が接合する。接合部は、内側に段を有する。下半部外面はハケ目後ナデ調整、内面及び杯上半部外面は暗文を施文する。6 ～ 16 は脚柱部を中心に残存し、杯部の大半を欠く。6 ～ 8 は長脚、9 ～ 14 は短脚のものである。6 は直線的な脚柱部から裾部へむけて自然に開く。内面はナデ、外面は縦方向のヘラミガキが施される。

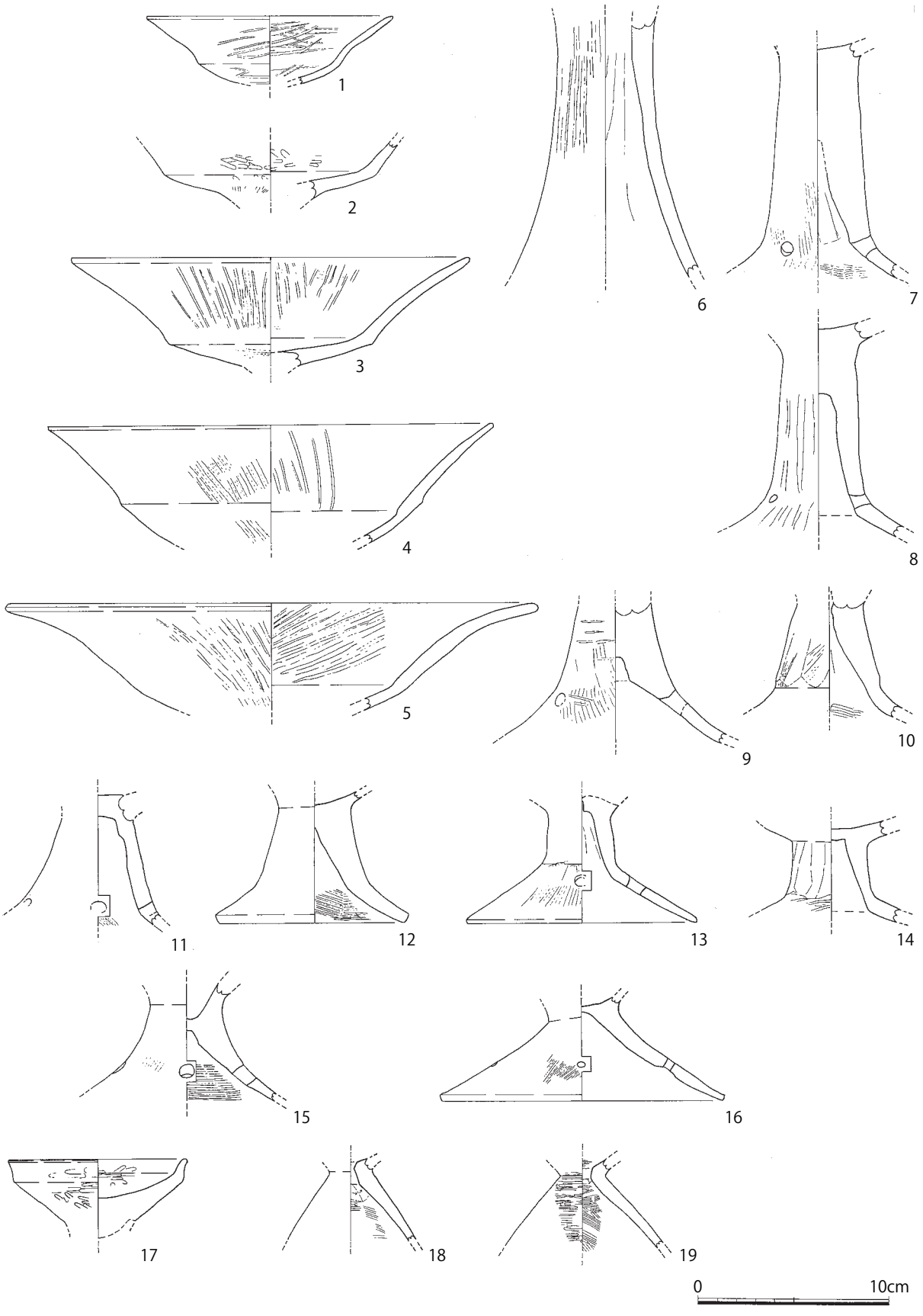


図 235　SD11065 出土土器 15（1/3）

内面には絞り痕が認められる。7 は中実気味のものである。直線的な脚柱部からやや不明瞭な屈曲部をもって脚裾部が直線的に開く。屈曲部には外側からの焼成前穿孔を有する。外面ハケ目後ヘラミガキ、裾部内面横方向のハケ目調整を施す。8 は直線的な脚柱部に屈曲して直線的に開く脚裾部がつく。外面ハケ目後ヘラミガキ、脚柱部内面は横方向のナデ、裾部内面は横方向のハケ目後ナデ調整を施す。屈曲部には外側からの焼成前穿孔を有する。9 は脚柱部が中実気味で、脚柱部から裾部へむけて自然に開く。屈曲部には外側からの焼成前穿孔を有する。外面はハケ目後横方向のヘラミガキ、内面横方向のナデ調整を施す。10 は外面屈曲部外面に段を有する。外面ヘラケズリ後ハケ目後ナデ調整を施す。脚柱部内面には絞り痕を残しナデ調整、裾部はハケ目調整を施す。脚柱部上端には杯を接合する際の小孔が残る。外面の一部に煤付着。11 は屈曲部に焼成前穿孔、脚柱部上端に杯部接合時の小孔を有する。脚柱部外面ハケ目後ナデ、内面螺旋状のナデ、裾部内面ハケ目調整を施す。12 は厚手もので、裾端部は面取りする。外面及び脚柱部内面はナデ、裾部内面は横方向のハケ目調整を施す。13 は脚柱部が釣鐘型を呈し、短い脚柱部に長く直線的な裾部が付く。袖端部は細く尖り気味に仕上げる。脚柱部内面には工具痕が残る。脚柱部外面及び内面はナデ、裾部外面は縦方向のハケ目調整を施す。裾部に孔を穿つ。14 は杯底部が残り、中空の脚柱部が直立し、裾部が屈曲して開く。屈曲部内面には鋭い稜を持つ。杯底部内面はハケ目後ナデ、脚柱部外面縦方向のヘラミガキ、裾部外面横方向のヘラミガキ、脚柱部内面横方向のナデ調整を施す。

15 は脚柱部上端に杯部の接合部が残存する。裾部には外側からの焼成前穿孔 3 孔が残る。外面ハケ目後ナデ、内面横方向のハケ目調整を施す。

16 は外反気味に大きく開く脚部のみ残存する。脚裾端部は面取りし、脚中位に孔を穿つ。外面ハケ目後ナデ、内面ナデ、脚裾端部ヨコナデを施す。わすかに残る杯部はナデ調整を施す。

17 は杯部のみで、脚部を欠く。杯下半部は器壁が厚く内湾気味に開き、外反気味に直立する短い杯上半部が付く。杯底部外面には脚の接合部が残る。内外面ヘラミガキを施す。

1　8、19 は小型器台で、杯部を欠き、円錐形の脚部が残る。いずれも杯底部には孔が穿たれ、中空の脚内につながる。18 の孔は両側からの焼成前穿孔。外面横方向のナデ、内面ハケ目調整を施す。19 は外面横方向のヘラミガキ、内面横方向のハケ目調整を施す。

参考文献

蒲原宏行　1991 「古墳時代初頭前後の土器編年　－佐賀平野の場合―」
『調査研究書　第 16 集』 佐賀県立博物館・佐賀県立美術館

蒲原宏行　2003 「佐賀平野における弥生後期の土器編年」
『調査研究書　第 27 集』 佐賀県立博物館・佐賀県立美術館

宮崎亮一他　2000 「大宰府条坊跡ＸＶ　－陶磁器分類編－」
『大宰府市の文化財　第 49 集』 大宰府市教育委員会

山本信夫　1992 「北部九州の 7 世紀から 9 世紀中葉の土器」
『古代の土器研究会　第 1 回シンポジウム　古代の土器研究 - 律令的土器様式の東西 -』

山本信夫、中島恒次郎　1992『宮ノ本遺跡　Ⅱ　– 窯跡編 -』
『大宰府市の文化財　第 10 集』 大宰府市教育委員会

山本信夫 1990 「統計上の土器－歴史時代土師器の編年研究に寄せて－」
『乙益重多隆先生古希記念論文集』

（2）土坑

ＳＸ１１２６３出土土器

図 236-1 ～ 6 はいずれも糸切底の土師器の小皿である。1 は口径 11cm、器高 1.3cm で底部と口縁部の境は丸味を帯び、口縁は短く、厚い。口縁内面回転ナデ、底部内面ナデ調整を施す。2 は口径 9.6cm、器高 1.5cm である。底径が小さく、口縁部が長く開く。口縁部内外面回転ナデ、底部内面はナデ調整を施す。底部と口縁部の境は丸味を持つ。3 は口径 10.0cm、器高 1.3cm である。底部と口縁部の境はわずかに角張る。2 より底径が大きく、口縁部は短く立ち気味である。内外面ナデ調整を施す。4 は口径 9.4cm、器高 1.2cm である。底部と口縁部の境に不明確な稜を持ち、口縁部は短く、厚い。底部は中央部分がわずかに浮き、上げ底気味になる。5 は口径 9.4cm、器高 1.3cm である。4 とほぼ同様の形態を成すが、口縁部が薄く、やや外反気味に開く。6 は口径 9.4cm、器高 1.0cm である。口縁部はさらに短く外方に開く。底部との境は、内面では不明瞭である。

図 236-7、8 は鉢で口縁部と体部が残存する。7 は、深鉢で口縁部はわずかに内湾し、口縁端面は水平に仕上げる。外面口縁部は横方向のハケ目、その後体部と合わせて左上方向のハケ目を重ねる。内面左上のハケ目、口縁端部は横方向のナデ調整を施す。8 は体部から口縁部にかけて残存する。頸部がわずかにしまり口縁部は短く外反する。端部は薄く仕上げる。体部外面はハケ目、内面は工具によるナデ、口縁部は横方向のナデ調整を施す。

図 236-9 は高杯であり、杯部のみ残存する。体部と口縁部の境に段を有し、口縁部は長く外反気味に開く。口縁下半部外面ヘラケズリ後ナデ、上半部外面縦方向のハケ目後ナデ、上半部内面横方向のハケ目後ナデ、下半部ナデ調整を施す。

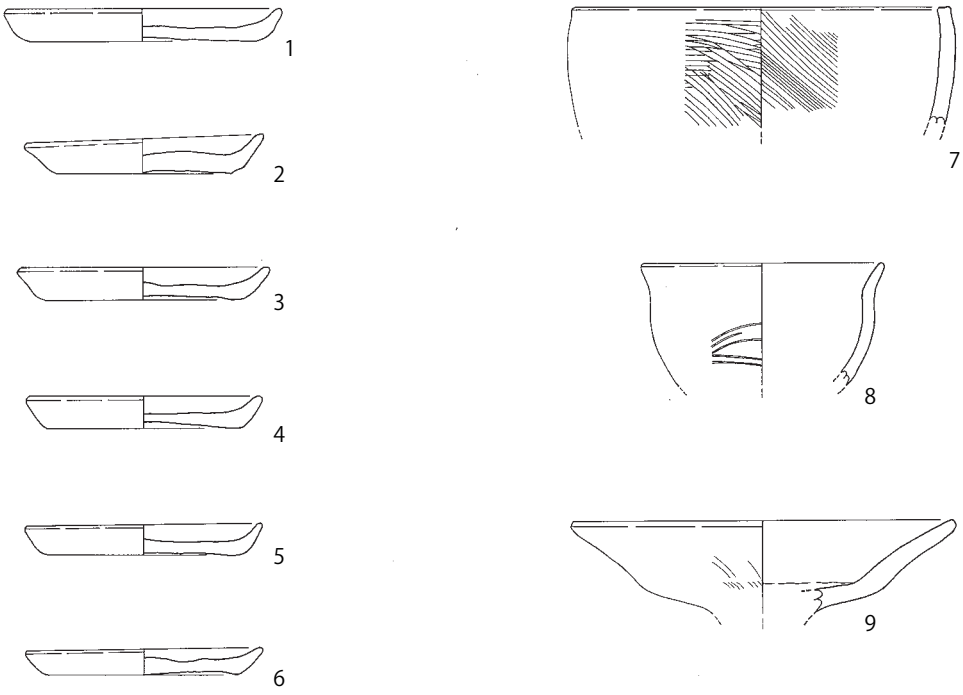
ＳＫ１３３６９出土土器

図 236-10 は瓦器椀である。体部は内湾気味に開き、口縁部はわずかに外反する。底部には外方向に外傾する高台が付く。高台端面はわずかに面を取る。内外面はヘラミガキを施すが、内面は右上方向もしくは横方向のヘラミガキ、外面は横方向のヘラミガキを施す。高台及び高台内部は回転ナデ調整を施す。内面は黒色、外面及び高台の一部は灰白色を呈する。

参考文献

宮崎亮一他　2000 「大宰府条坊跡ＸＶ　－陶磁器分類編－」
『大宰府市の文化財　第 49 集』 大宰府市教育委員会
山本信夫 1990 「統計上の土器－歴史時代土師器の編年研究に寄せて－」
『乙益重多隆先生古希記念論文集』

SK11263



SK13369

図 236　SK11263・13369 出土土器（1/3）

表 58　中世土坑一覧表

遺構番号	区　　画	規模(m)			平面形態	出　土　遺　物	備考
		長軸	短軸	深さ			
SK11263	Y-39・40	1.84	0.76	0.12	円形	土師器小皿	
SK13369	Z-44	1.58	1.38	0.40	円形	瓦器椀	

表 59　SD11065 出土土器一覧表（1）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
				口外径	器高			
図221-1	T33・34 U34 ②③④⑤混り 溝4層SU33・34	須恵器	杯蓋	16.0	2.3	灰色(N 5/0)	天外:ヘラ切り後ナデ 天内:回転ナデ	03002313
図221-2	S33　溝2層	須恵器	杯蓋	(14.4)	残存 1.6	灰色(10Y 5/1)	天外:ヘラケズリ 天内:回転ナデ	03002331
図221-3	X37 溝1層 X38 溝1層 X37 溝3層	須恵器	杯蓋	13.2	1.1	灰色(10Y 5/1)	天外:ヘラケズリ 天内:回転ナデ	03002314
図221-4	—	須恵器	杯	10.3 底径 (7.5)	3.7	灰褐色(7.5YR 5/2)	胴内:回転ナデ 底外:回転ヘラ切り未調整	03002332
図221-5	U34・35②③④ ⑤混り V35 溝3層西 UV34・35⑤	須恵器	杯	13.2	3.5	灰色(7.5YR 5/1)	胴内外:回転ナデ 底外:不定方向ナデ	03002312
図221-6	V35 溝4層	須恵器	杯	12.8	4.1	灰色(5Y 6/1)	胴内外:回転ナデ 底外:ヘラ切り後ナデ	03002311
図221-7	V35② 黒色砂質土層 下層	須恵器	杯	12.1 底径 7.55	3.75	灰色	胴内外:回転ナデ 底外:ヘラ切り後ナデ	0300097
図221-8	TU34⑤ U34 溝1層 U34	須恵器	杯	13.1 底径 9.9	残存 3.9	灰色(N 6/0)	胴内外:ヨコナデ 底外:ヘラ切り後ナデ	03002333
図221-9	V35 溝5層 V35・36 溝4層 VW35・36 溝2・3層 V34・35	須恵器	杯	13.6	3.4	灰色(N 5/0)	胴内外:回転ナデ 底外:ヘラ切り後ナデ	03002310
図221-10	TU34④ T33・34⑤ T33・34	須恵器	杯	(15.8)	6.0	内:灰色(N 6/0) 外:褐灰色(10YR 6/1) にぶい褐色(7.5YR 5/3)	胴内外:ヨコナデ	03002334
図221-11	ST33④ T33・34 U44 溝3層	須恵器	杯	(12.0) 高台径 (8.9)	3.95	褐灰色(7.5YR 6/1)	胴内外:回転ナデ 底内外:ナデ 高台:ナデ	03002326
図221-12	T33・34 U34 ②③④⑤混り	須恵器	杯	13.4	3.8	灰色(5Y 5/1)	胴内外:回転ナデ 底内外:ナデ 高台:ナデ	03002315
図221-13	⑤ U34・35 5・2-3・4混り U34・35 3層	須恵器	杯	13.6	4.0	灰色(7.5Y 6/1)	胴外:ヘラケズリ後ナデ 胴内:ナデ 底外:ヘラ切り後ナデ	03002309
図221-14	T33・34 溝3層	須恵器	杯	高台径 9.55	残存 2.15	灰褐色(7.5YR 6/2)	胴内外:回転ナデ 底外:ヘラ切り後ナデ 底内:ナデ	03002328
図221-15	U34・35溝4層 U34・35 5・2・3・4混り	須恵器	杯	高台径 8.0	残存 2.6	灰白色(2.5Y 7/1)	胴内外:回転ナデ 底外:ヘラ切り後ナデ 底内:ナデ 高台:ナデ	03002327
図221-16	U34・35溝2層 横撹乱 溝2層 U34・35①	須恵器	杯	高台径 12.3	残存 1.2	—	胴外:回転ナデ 胴内中:ナデ 底外:ヘラ切り後ナデ	03002330
図221-17	S33 2・3間 S33①	須恵器	杯	底径 (8.0)	残存 3.4	灰色(5Y 5/1)	底外:ヘラ切り後ナデ 底内:ナデ	03002329
図221-18	V35 溝4層 U34・35(5)	須恵器	杯	21.0	6.2	灰色(5Y 6/1)	胴内外:回転ナデ 底外:ヘラケズリ？ 底内:ナデ	03002308

表 60　SD11065 出土土器一覧表 (2)

＊法量の（ ）は復元値

挿図番号	出土地点	種 別	器 種	法量(cm)		色　　調	調 整 方 法	登録番号
				口外径	器高			
図221-19	XY38 溝1層	須恵器	杯	高台径 10.05	残存 6.1	内:灰白色(N 8/0) 外:灰色(N 6/0)	胴内外:回転ナデ 底外:ナデ 高台:ナデ	06003662
図221-20	W36・37① WX36・37 溝1層 W36・37 溝1層	須恵器	皿	15.4	1.7	灰色(5Y 4/1)	口内外:回転ナデ 底外:回転ヘラ削り 底内:回転ナデ	03002307
図221-21	V35 溝1層 V35 溝3層	須恵器	皿	17.4	2.0	黄灰色(2.5Y 6/1)	底外:回転ヘラ削り後ナデ	03002305
図221-22	V35	須恵器	皿	17.0	2.3	灰色(5Y 5/1)	底外:回転ヘラ削り後ナデ	03002306
図221-23	XY38 溝3層	須恵器	壺	高台径 (7.2)	残存 3.1 高台高 1.1	灰色(N 5/0)	底内:ナデ 高大内:ナデ 底部外面にヘラ記号あり	06003651
図222-1	U34　5層混り	土師器	杯	14.1 内径 13.9 底径 10.2	3.2	にぶい黄橙色 (10YR 7/2)	胴内外:回転ナデ 底外:ハケ目後ナデ	06003567
図222-2	③	土師器	杯	13.0 底径 8.0	3.25	全体:にぶい橙色 内面一部:にぶい黄橙色 外面一部:にぶい橙色	胴内外:回転ナデ 底外:ヘラ切り後工具ナデ 底内:回転ナデ後 不正方向ナデ	03000098
図222-3	S33③	土師器	杯	(12.8) 内径 (12.6) 底径 6.4	2.9	にぶい橙色 (7.5YR 6/4)	胴内外:回転ナデ 底外:回転ヘラ切り後ナデ 底内:ナデ	06003562
図222-4	STU33・34 S33 T33・34 ⑤	土師器	杯	13.4 内径 13.2 底径 7.9	3.7	灰白色(2.5Y 8/1)	胴内外:回転ナデ 底外:ヘラ切り未調整	06003563
図222-5	TU33(2)	土師器	杯	(12.7) 内径 (12.5)	3.75	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	胴内外:回転ナデ 底外:ヘラ切り未調整	06003559
図222-6	U34・35⑤	土師器	杯	(13.9) 内径 (13.6) 底径 7.8	3.6	浅黄橙色(10YR 8/3)	胴内外:回転ナデ 底外:ヘラ切り？	06003560
図222-7	T33⑤	土師器	杯	(16.1) 内径 (15.7) 底径 7.8	3.2	浅黄橙色(10YR8/3)	胴内外:回転ナデ 底外:ヘラ切り 底内:ナデ	06003564
図222-8	U34 5層混り U34・35	土師器	椀	15.2	6.7	明黄褐色(10YR6/6)	内外:回転ナデ	03002318
図222-9	T33・34 U34(3)	土師器	椀	14.4	5.9	にぶい黄橙色 (10YR6/3)	内外:回転ナデ	03002316
図222-10	TU34④ T33・34 U34④ TU34⑤	土師器	椀	19.4	7.5	橙色(5YR7/6)	内外:ヘラミガキ	03002317
図222-11	V35⑤	土師器	皿	(16.5) 内径 (16.0) 底径 13.2	2.4	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	内外:回転ナデ 底外:ヘラ切り後ナデ	06003568

表 61　SD11065 出土土器一覧表 (3)

＊法量の（ ）は復元値

挿図番号	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
				口外径	器高			
図222-12	V35(4)	土師器	皿	15.8 内径 15.4 底径 12.1	1.6	灰白色(2.5Y8/2)	内外:回転ナデ 底外:ヘラ切り後ナデ	06003566
図222-13	V35⑤	土師器	皿	15.9 内径 15.4 底径 12.7	1.8	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	内:回転ナデ 底外:ヘラ切り未調整	06003565
図222-14	TU34② 黒褐色粘質土	土師器	小皿	7.2 底径 (2.9)	1.8	全体:浅黄色 外面底部一部:明褐色	内外:回転ナデ 底外:糸切?	0300099
図223-1	(5) V35・36 ⑬⑭	土師器	甑	(26.3) 内径 (25.8)	残存 21.7	内:褐色(7.5YR4/3) 外:にぶい橙色 (7.5YR7/4)	胴外上:ハケ目後ナデ 胴外下:ハケ目 胴内上:工具ナデ 胴内下:ヘラケズリ	06003551
図223-2	⑤ V35	土師器	甑	(27.0) 内径 (26.0)	残存 11.7	にぶい橙色(5YR6/4)	口内外:回転ナデ 胴外:工具ナデ 胴内:ヘラケズリ	06003553
図223-3	X38④ 溝4層	土師器	甑	底径 12.3	残存 15.8	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	胴外:工具ナデ 胴内:ヘラケズリ	06003552
図223-4	VW36(5)	土師器	甑	—	残存 5.9	内:にぶい橙色(7.5YR7/4) 外:橙色(5YR7/6)	ナデ	06003558
図223-5	X38(5)	土師器	甑	—	残存 6.7	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	ナデ	06003557
図223-6	X37(5)	土師器	甑	—	残存 6.9	内:にぶい褐色(7.5YR5/3) 外:にぶい褐色(7.5YR6/3) 黒褐色(10YR3/1)	ナデ	06003556
図223-7	V35(5)	土師器	甑	—	残存 11.8	にぶい褐色 (7.5YR6/3)	ナデ	06003555
図223-8	⑱⑭		竈	—	残存 10.8	にぶい橙色(5YR6/4)	内外:ヘラケズリ	06003594
図223-9	溝4層		竈	—	残存 11.0	にぶい橙色 (7.5YR7/3)	内外:工具ナデ	06003595
図223-10	V34・35①		竈	—	残存 8.4	にぶい橙色(5YR7/4)	外:ナデ 内:ヘラケズリ	06003596
図224-1	ST33・34 U33 溝4層 T33②③④⑤混り	須恵器	杯蓋	9.65	3.6	内外:灰色(N6/0) 外面一部:暗灰色(N4/0)	天外:回転ヘラ削り 他は回転ナデ 天井外面ヘラ記号有り	03002352
図224-2	W36⑤ 溝4層	須恵器	杯蓋	(13.0)	4.6	灰色(N6/0)	天外:回転ヘラケズリ 内:ヨコナデ	03002348
図224-3	V35 溝5層	須恵器	杯蓋	(13.7)	残存 3.9	内:灰色(7.5Y 6/1) 外:灰色(N 5/0)	天外:回転ヘラケズリ 内:ナデ	03002367
図224-4	X37 溝4層	須恵器	杯蓋	(18.2)	残存 4.05	内:灰色(N 6/0) 外:灰色(N 5/0)	天外:回転ヘラケズリ 内:ナデ	03002346
図224-5	X37 溝4層 X38	須恵器	杯蓋	(13.6)	4.4	黄灰色(2.5Y 6/1)	天外:回転ヘラケズリ 内:回転ナデ	03002353
図224-6	W35 溝中層 W36 溝5層	須恵器	杯蓋	12.9	4.1	灰色(N 6/0)	天外:回転ヘラケズリ 内:ナデ	03002349
図224-7	V35 溝5層 V35 5層混り U34・35 溝2層 V34・35 溝2層 V34・35②③④ ⑤混り	須恵器	杯蓋	(13.4)	4.1	内:にぶい黄橙色 (10YR 6/3) 口唇部:灰色 外:灰色(N 6/0)	天外:回転ヘラケズリ 内:ナデ	03002370
図224-8	WX36青灰砂・ 灰褐色砂質土 混り W36⑤溝4層 WX37溝4層	須恵器	杯蓋	12.3	4.15	灰色(N 6/0)	天外:回転ヘラケズリ 内:ナデ 天井部にヘラ記号あり	03002368

表 62　SD11065 出土土器一覧表 (4)

＊法量の（ ）は復元値

挿図番号	出土地点	種 別	器 種	法量(cm)		色 調	調 整 方 法	登録番号
				口外径	器高			
図224-9	V35 溝4層	須恵器	杯蓋	12.9	残存 4.0	灰色(N 4/0・N 5/0)	天外:回転ヘラケズリ 内:ナデ	03002347
図224-10	V35・36 溝1層 T34 青灰色砂質土	須恵器	杯蓋	(13.1)	残存 3.9	オリーブ灰色 (2.5GY 6/1)	天外:回転ヘラケズリ 内:ナデ	03002356
図224-11	S32 №2	須恵器	杯蓋	(13.1)	4.0	内:明オリーブ灰色 (2.5GY 7/1) 外:にぶい黄橙色 (10YR 7/2)	天外:回転ヘラケズリ 内:ナデ 天井外面にヘラ記号あり	03002373
図224-12	UV34・35 S・2・3・4混り UV34・35⑤	須恵器	杯蓋	13.0	3.8	内:灰白色(N 7/0) 外:灰白色(N 7/0) 一部灰色(N 4/0)	天外:回転ヘラケズリ 内:ナデ 天井外面にヘラ記号あり	03002340
図224-13	Y38 溝4層 Y37 溝4層 Y38 溝2層 X37 溝3層 X37 溝4層	須恵器	杯蓋	12.2	3.7	灰色(N 6/0)	天外:回転ヘラケズリ 内:ナデ	03002342
図224-14	S33③ 青灰色砂質土	須恵器	杯蓋	11.3	3.6	灰色(7.5Y6/1)	天外:回転ヘラケズリ 内:ナデ 天井外面ヘラ記号あり	03002351
図224-15	－	須恵器	杯蓋	(10.1)	3.25	灰色(N6/0)	天外:回転ヘラケズリ 内:ナデ 天井外面ヘラ記号あり	03002343
図224-16	X36・37溝4層 W36 溝5層 W36 溝4層	須恵器	杯蓋	12.4	3.6	灰白色(N7/0)	天外:回転ヘラケズリ 内:ナデ	03002374
図224-17	X37 溝4層 WX36・37 溝4層	須恵器	杯蓋	(12.6)	3.8	灰白色(N7/0)	天外:回転ヘラケズリ 内:ナデ	03002369
図224-18	V35 溝5層	須恵器	杯蓋	(12.25)	3.7	内:灰色(N 6/0) 外:灰色(N 5/0)	天外:回転ヘラケズリ 内:ナデ	03002354
図224-19	T33・34⑤	須恵器	杯蓋	(10.8)	3.3	灰色(N 5/0)	天外:回転ヘラケズリ 内:ナデ 天井外面ヘラ記号あり	03002371
図224-20	S33⑤	須恵器	杯蓋	11.45	3.3	内:灰色(N 5/0) 外:灰白色(N 7/0) 灰色(N 5/0)	内外:ナデ 天井外面ヘラ記号あり	03002355
図224-21	V35・36 W36 溝4層	須恵器	杯蓋	(12.6)	3.5	灰白色(N 7/0)	天内:ヨコナデ 他は回転ナデ 天井外面ヘラ記号あり	03002341
図224-22	STU33・34 溝2層	須恵器	杯蓋	(10.6)	残存 3.3	灰白色(N 7/0) 一部灰色(N 4/0)	内外:ヨコナデ	03002366
図224-23	S33 青灰色砂質土 S33 溝4層	須恵器	杯蓋	10.4	3.3	内:灰色(N 6/0) 外:灰色(N 5/0)混り	天外:ヘラケズリ 他は回転ナデ 天井外面ヘラ記号あり	03002345
図224-24	U34・35 5・2・3・4混り U34・35 溝4層	須恵器	杯蓋	(9.9)	3.15	灰色(N 5/0)	天外:ナデ 他はヘラケズリ後ヨコナデ	03002357
図224-25	U34・35⑤ UV34・35 溝4層 U34 溝5層	須恵器	杯蓋	(12.5)	残存 3.2	灰色(N6/0)	外:ヘラケズリ 内:ヨコナデ	03002372
図224-26	T33・34⑤	須恵器	杯蓋	10.65	残存 2.85	内:灰色(N 5/0) 外:灰色(N 6/0) 一部灰色(N 5/0)	天:回転ヘラケズリ 他はナデ 天井外面ヘラ記号あり	03002344
図224-27	VW36 溝4層	須恵器	杯蓋	12.5	残存 3.3	灰色(N 5/0)	天:回転ヘラケズリ 他はナデ 天井外面ヘラ記号あり	03002350
図224-28	X37 溝4層 X38 溝5層	須恵器	蓋	(14.25) 摘み径 3.1	5.0	灰白色(N 7/0)	外:回転ヘラケズリ後回転ナデ 内面ナデ	03002375

表 63　SD11065 出土土器一覧表（5）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土地点	種　別	器　種	法量(cm) 口外径	法量(cm) 器高	色　　調	調　整　方　法	登録番号
図225-1	⑤V34・25 UV34・35 5・2・3・4 U34・35⑤	須恵器	杯身	13.4 かえり径 1.8	残存 4.05	内:灰白色(N 7/0) 外:灰色(N 6/0)	内:ヨコナデ 外面には自然釉がかかる	03002390
図225-2	S33 T33・34 溝5層	須恵器	杯身	12.15 内径 10.0	3.95	内:灰白色(10Y 7/1) 外:にぶい橙色 (7.5YR7/3)	底外:回転ヘラケズリ 底内:ヨコナデ 他は回転ナデ 底部外面ヘラ記号あり	06003670
図225-3	U34 溝4層	須恵器	杯身	(14.0) かえり 部口径 12.2	残存 4.0	内:褐灰色(10YR 6/1) 外:灰色(5Y 6/1)	底外:回転ヘラケズリ 底内:ヨコナデ 他は回転ナデ	03002336
図225-4	V35 溝3層 V35	須恵器	杯身	(13.6) かえり 部口径 10.9	3.55	内:青灰色(5PB 5/1) 外:青灰色(5PB 6/1)	底外:回転ヘラケズリ 底内:ヨコナデ 他は回転ナデ 底部外面ヘラ記号あり	03002394
図225-5	TU33・34⑤	須恵器	杯身	(10.95) 受部径 12.9	残存 3.85	灰色(5Y 5/1)	底外:回転ヘラケズリ 底内:ナデ 他は回転ナデ 底部外面ヘラ記号あり	06003677
図225-6	U34・35⑤	須恵器	杯身	(13.3) かえり 部口径 11.6	4.55	灰色(N 6/0)	底外:回転ヘラケズリ 底内:ヨコナデ 他は回転ナデ	03002337
図225-7	T33・34 U34 混り⑤	須恵器	杯身	11.95 内径 9.6	4.15	内:灰白色(7.5Y 7/1) 外:灰黄色(2.5Y 7/2)	底外:回転ヘラケズリ 底内:ナデ 他は回転ナデ 底部外面ヘラ記号あり	06003671
図225-8	W35 溝3層	須恵器	杯身	13.25 内径 10.35	4.05	灰色(N 5/0)	体外:ヘラケズリ 底外:ナデ 底内:ナデ 他は回転ナデ 底部外面ヘラ記号あり	06003669
図225-9	WX37② W37 溝2層 WX36・37 溝1層	須恵器	杯身	(12.6) かえり 径 (10.65)	3.8	灰色(N 6/0)	底外:回転ヘラケズリ 底内中央部:回転ナデ後 横方向のナデ 他は回転ナデ	03002388
図225-10	UV34・35 溝1層 STU33・34 溝4層	須恵器	杯身	(11.5) 受部径 (13.5)	3.6	内:灰色(N 5/0) 外:灰色(N 6/0) 灰黄褐色(10YR4/2)	底外:回転ヘラケズリ 底内中央部:回転ナデ後 不正方向ナデ 他回は転ナデ 底部外面ヘラ記号あり	06003678
図225-11	27混り 黒色粘 性砂質土	須恵器	杯身	10.6 受部径 12.75	4.0	外:灰白色 内面及び外面たちあがり:黄灰色	底外:回転ヘラ切り 底内:ヨコナデ 他は回転ナデ	03000103
図225-12	X38⑤ 溝4層	須恵器	杯身	13.7 かえり 部口径 11.5	4.3	内:灰色(N 6/0) 外:灰白色(N 7/0) 一部灰色(N 5/0)	底外:回転ヘラケズリ 底内ヨコナデ 他は回転ナデ 底部外面ヘラ記号あり	03002338
図225-13	V35 溝1層 V35 溝5層 W35・34 溝3層 V34・X36 黄黒褐砂質 VW列	須恵器	杯身	13.2	3.65	内:灰色(N 6/0) 外:灰色(N 5/0)	胴内外:回転ナデ 底内:横方向ナデ 底外:ヘラケズリ？ 窯塵多量に付着	03002392
図225-14	U34 溝5層	須恵器	杯身	11.4 受部径 13.9	残存 3.7	内及び受部:灰色 外:灰色	底外:回転ヘラケズリ 底内:ナデ 他は回転ナデ 底部外面ヘラ記号あり	03000104
図225-15	V37～39 W38表採一括	須恵器	杯身	(14.8) かえり 径 (13.0)	3.5	内:オリーブ灰色 (2.5GY 6/1) 外:灰褐色 (7.5YR 6/2)	底外:回転ヘラケズリ 底内:ナデ 他は回転ナデ 底部外面ヘラ記号あり	03002391

表 64　SD11065 出土土器一覧表 (6)

＊法量の（ ）は復元値

挿図番号	出土地点	種 別	器 種	法量(cm)		色　　調	調 整 方 法	登録番号
				口外径	器高			
図225-16	X36④溝3層 W36・37 X36・37 5層混り	須恵器	杯身	(14.7) かえり 部径 12.0	4.3	灰白色(N 7/0)	底外:回転ヘラケズリ 底内:ナデ 他は回転ナデ	03002339
図225-17	U34・35 溝3層	須恵器	杯身	12.55 内径 (10.45)	3.5	灰白色(5Y 7/1)	底外:回転ヘラケズリ 底内:ナデ 他は回転ナデ 胴部外面ヘラ記号あり	06003673
図225-18	S33 溝1層 STU33・34 溝2層 S33②	須恵器	杯身	(9.7) 受部径 11.9	残存 3.1	内:にぶい赤褐色 (5YR 5/4) 外:にぶい赤褐色 (5YR 5/3) にぶい褐色(7.5YR 5/3)	底外:回転ヘラケズリ 底内:ナデ 他は回転ナデ	06003676
図225-19	S33・34③ 溝2層 S33・34⑤ ST33③⑤	須恵器	杯身	(10.45) 受部径 12.5	3.5	内:灰白色(7.5Y 7/1) 外:灰白色(N 7/0)	底外:回転ヘラケズリ 底内:ナデ 他は回転ナデ	06003675
図225-20	⑦X37 溝4層	須恵器	杯身	9.6 受部径 11.8	2.8	外:灰色 内及び受部:灰色	底外:回転ヘラ切り 底内ナデ 他は回転ナデ 底部外面ヘラ記号あり	03000100
図226-1	⑤V34・35	須恵器	甕		残存 4.9	内:黄灰色(2.5Y 6/1) 外:灰白色(N 7/0)	口～頸外:回転ナデ 頸内:ナデ	06003660
図226-2	V35・36 溝4層	須恵器	甕	(45.9)	残存 6.6	内:自然釉 暗オリーブ色(5Y 4/3) 外面露体部:灰色(N 6/0)	口外:回転ナデ 内面自然釉付着	06003661
図226-3	W36 溝2層	須恵器	甕	(20.2)	残存 8.0	灰色(5Y 6/1)	口内外:回転ナデ 肩外カキメ 胴内:同心円文タタキ	06003658
図226-4	S33 溝4層	須恵器	甕	(24.9)	残存 8.1	内:灰白色(N 7/0) 外:灰色(N 5/0)	口内外:回転ナデ 肩外カキメ後ナデ 胴内:同心円文タタキ	06003657
図226-5	Y37 溝5層	須恵器	壺	(11.7)	残存 7.3	内:灰色(7.5Y 6/1) 外:灰色(N 6/0)	口内外:回転ナデ 肩外:格子目タタキ後 ハケ目 胴内:並行タタキ	06003659
図226-6	SD33①	須恵器	壺	(28.4)	残存 9.6	灰色(N 5/0)	内外:回転ナデ	06003656
図226-7	V35 溝5層 V34・35 溝2・4層 V35 溝4層	須恵器	壺	(9.1) 胴部径 12.6	残存 10.2	灰色(N 6/0・N 5/0)	胴外:カキメ 他はヨコナデ	06003652
図226-8	WX36・37⑤ 溝4層 W36 溝4・5層 X37 溝4層 X36・37 溝2層 W36⑤	須恵器	台付壺	8.0 胴部径 12.5	残存 13.1	灰色(N 6/0・N 5/0)	口内外:ヨコナデ 肩～胴中:カキメ 胴外下:回転ナデ 胴内ヨコナデ底外:カキメ	06003650
図226-9	V36 溝4層 W36 5層 W35・36 3層 V35 溝2・3・5層 VW列	須恵器	台付壺	頸部径 (10.3) 胴部径 15.5	残存 13.2	灰色(N 6/0・N 5/0)	肩外:回転ヘラケズリ後 ナデ 胴外中:回転ナデ 胴外下:回転ヘラケズリ 胴内:回転ナデ 底内:ナデ	06003653
図227-1	V35 溝2層 U34・35 V35 溝3層 V35 溝5層 V34・35	須恵器	瑞	頸部径 (3.0) 胴部径 8.1 孔径1.3	残存 7.9	内:褐灰色 (10YR 6/1・5/1) 外:褐灰色(10YR 4/1) 黒褐色(10YR 3/1)	頸～肩外:カキメ 底外:回転ヘラケズリ 内:ナデ	06003649
図227-2	U34 溝2層 U34・35 検出時 U34・35②	須恵器	長頸壺	(13.15)	残存 12.65	内:灰色(5Y 6/1) 外:灰色(7.5Y 6/1)	内外:回転ナデ	06003665

表 65　SD11065 出土土器一覧表（7）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
				口外径	器高			
図227-3	STU33・34 溝4層 R33 黒褐色砂 質土中 撹乱	須恵器	長頸壺	(12.7)	残存 8.9	内:灰色(5Y 4/1) 外:灰色(5Y 5/1)	内外:回転ナデ	06003664
図227-4	下33(28) 溝4層	須恵器	高杯	底径 (14.0)	残存 12.55	内:灰白色(2.5Y 8/1) 外:灰白色(5Y 5/1)	外:回転ナデ 内:工具ナデ	06003666
図227-5	WX27⑤ V34・35混り ⑤②③④	須恵器	高杯	—	残存 10.25	内:灰色(N 6/0) 外:釉調 灰色(N 5/0) 露胎部 灰白色(N 7/0)	内外:回転ナデ	06003668
図227-6	W56 溝5層 W36 溝4層	須恵器	高杯 (杯部)	12.45	残存 5.05	灰色(N6/0)	杯下外:カキメ 他は回転ナデ	06003663
図227-7	T33・34 V34 溝⑤ 溝4・5層	須恵器	高杯	9.55	8.0	内:灰色(7.5Y 6/1) 外:灰色(N 6/0)	内外:回転ナデ	06003667
図227-8	T33 U35表採 U34 溝4・5層 U34・35溝4層 U34・35 V35 溝3層	須恵器	提瓶	(7.7)	—	灰色(N5/0・N4/0)	口内外:ヨコナデ 胴外:カキ目 胴部(閉塞面):平行タタキ後カキ目 内:ナデ	06003655
図227-9	S33 溝4層 ③②⑤間	須恵器	鉢	(18.9)	9.3	灰色(N 6/0) 自然釉　黒	底外:回転ヘラケズリ 底内:ナデ 他はヨコナデ	06003654
図228-1	S33(2)	弥生土器	甕	(29.2) 内径 (23.8)	残存 7.7	内:浅黄橙色(7.5YR 8/3) 外:にぶい橙色(7.5YR7/3) 浅黄橙色(7.5YR 8/3)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	06003647
図228-2	U34・35①	弥生土器	甕	—	残存 5.9	にぶい橙色(5YR 7/4)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	06003646
図228-3	STU33(2)	弥生土器	甕	(26.6) 内径 (21.1)	残存 7.5	内:にぶい橙色(7.5YR7/4) 外:にぶい橙色(7.5YR7/3)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	06003642
図228-4	T33 溝5層	弥生土器	甕	—	残存 9.2	にぶい橙色(7.5YR 7/4) にぶい黄橙色(10YR 7/4)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	06003641
図228-5	V35(3)	弥生土器	甕	(29.4) 内径 (22.1)	残存 4.7	内:にぶい橙色(5YR 7/4) 灰褐色(7.5YR 6/2) 外:灰褐色(7.5YR 5/2)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	06003645
図228-6	U34(3)	弥生土器	甕	—	残存 4.5	にぶい橙色(7.5YR 7/3) にぶい褐色(7.5YR 6/3)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	06003648
図228-7	W36(5)	弥生土器	甕	(25.3) 内径 (19.8)	残存 4.8	にぶい橙色 (7.5YR 7/3) 灰褐色(7.5YR 6/2)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	06003640
図228-8	W35(5)	弥生土器	甕	(25.4) 内径 (20.4)	残存 6.4	内:明褐灰色 (7.5YR 7/2) 外:灰黄褐色(10YR 6/2)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	06003644
図228-9	X37・38④	弥生土器	甕	底径 6.5	残存 3.4	内:灰色(5Y 5/1) 外:浅黄橙色(10YR 8/3)	内外:ナデ	06003583
図228-10	WX37(5)	弥生土器	甕	底径 7.0	残存 5.7	内:灰黄褐色(10YR 6/2) 外:にぶい赤褐色 (2.5YR 5/4)	外:工具ナデ 内:ナデ、丹塗り	06003574
図228-11	⑤I33・34	弥生土器	甕	底径 (6.9)	残存 3.4	内:にぶい橙色(7.5YR7/3) 外:赤橙色(10R 6/6)	胴内～底内ナデ 胴外:ハケ目	06003573
図228-12	TU33・34③	弥生土器	甕	底径 (6.6)	残存 4.6	にぶい黄橙色 (10YR 7/2)	胴内～底内ナデ 胴外:ハケ目	06003572
図228-13	T33・34(5) U34	弥生土器	甕	底径 7.4	残存 3.9	内:灰褐色(7.5YR 4/2) 外:橙色(2.5YR 6/6)	胴内～底内ナデ 胴外:ハケ目	06003576
図228-14	X37(2)	弥生土器	甕	底径 7.2	残存 2.5	にぶい橙色(7.5YR 7/4)	胴内～底内ナデ 胴外:ハケ目	06003581
図228-15	STU33・34②	弥生土器	甕	底径 (7.2)	残存 4.3	内:にぶい黄橙色(10YR 7/2) 外:にぶい橙色(2.5YR6/3)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ	06003582
図228-16	⑪W36 溝3層	弥生土器	甕	底径 6.0	残存 6.2	にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	胴外:ハケ目 胴内～底内:ナデ	06003578
図228-17	V35・36(5)	弥生土器	甕	底径 7.2	残存 8.0	にぶい橙色(5YR 7/3)	胴外:ハケ目 胴内～底内:ナデ	06003577

表 66　SD11065 出土土器一覧表 (8)

＊法量の（ ）は復元値

挿図番号	出土地点	種 別	器 種	法量(cm)		色　　調	調 整 方 法	登録番号
				口外径	器高			
図228-18	T33・34④西	弥生土器	甕	底径 (7.2)	残存 5.6	内:にぶい黄橙色 (10YR 6/3) 外:にぶい橙色(5YR 6/4)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ	06003571
図228-19	V36(4)	弥生土器	甕	底径 9.0	残存 7.5	にぶい橙色(5YR 7/4)	胴外:ハケ目及びヨコナデ 胴内～底内:ナデ	06003584
図229-1	UV34・35(5) T33	弥生土器	壺	(24.8) 内径 (16.6)	残存 4.0	浅黄橙色(7.5YR 8/3) 顔料:橙色 (2.5YR7/6・6/6)	口:ヘラミガキ 頸内:ヨコナデ　胴外:暗文内外:赤色顔料塗布	06003636
図229-2	UV34・35(3) U34・35(5)	弥生土器	壺	—	残存 2.5	浅黄橙色(7.5YR 8/3) 顔料:橙色 (2.5YR 7/6)	口:ヘラミガキ 頸内:ヨコナデ　胴外:暗文内外:赤色顔料塗布	06003637
図229-3	TU34(4)	弥生土器	短頸壺	(19.2) 内径 (13.6)	残存 5.1	にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	口内～頸・肩外:ミガキ 頸内:ハケ目 内外赤色顔料塗布	06003632
図229-4	X37(4)	弥生土器	壺	底径 (6.2)	残存 14.0	にぶい赤褐色	内外:ヘラミガキ	06003580
図229-5	X36(4)	弥生土器	壺	底径 4.2	残存 3.7	灰黄褐色(10YR 6/2)	内外:工具ナデ	06003542
図229-6	X37 W36(5) (4)	弥生土器	壺	底径 (6.3)	残存 3.8	内:にぶい橙色(5YR 6/4) 外:にぶい橙色 (7.5YR7/4)	外:ヘラミガキ 内:ナデ 内外面赤色顔料塗布	06003541
図229-7	(1)V35・36 W36(3)	弥生土器	壺	底径 (8.1)	残存 3.8	内:にぶい橙色(5YR 7/4) 外:褐灰色(10YR 4/1) にぶい黄橙色(10YR 7/3)	外:ヘラミガキ 内:ナデ	06003538
図229-8	T33・34(5)	弥生土器	壺	底径 9.0	残存 5.8	灰黄褐色(10YR 6/2)	胴外:工具ナデ 胴内～底内:ナデ	06003570
図229-9	Y38 溝4層	弥生土器	壺	底径 4.9	残存 1.6	内:にぶい橙色(5YR 7/6) 外:にぶい橙色(5YR 6/3)	不明	06003548
図229-10	U34・35②	弥生土器	壺	底径 3.6	残存 1.8	内:にぶい黄橙色 (10YR 7/2) 外:にぶい橙色(2.5YR6/4)	内外:工具ナデ	06003547
図229-11	ST35 5層	弥生土器	壺	底径 5.6	残存 2.6	内:にぶい黄橙色 (10YR 7/2) 外:にぶい橙色(2.5YR6/4)	胴外:タタキ 底外:ナデ 底内:ハケ目	06003549
図229-12	X37(5)	弥生土器	壺	底径 4.1	残存 3.5	内:黒褐色(10YR 3/1) 外:灰黄褐色(10YR 6/2)	胴外:タタキ後ハケ目 胴内～底内:ナデ	06003550
図229-13	U34(3)	弥生土器	壺	底径 5.7	残存 3.9	内:にぶい黄橙色 (10YR 7/3) 外:褐灰色(10YR 5/1)	胴外:ハケ目 胴内:工具ナデ	06003539
図229-14	W36(5)	弥生土器	壺	底径 5.3	残存 2.9	内:にぶい橙色(7.5YR7/4) 外:にぶい黄橙色 (10YR 7/4) 灰色(N4/0)	胴外:ヘラナデ 胴内:ハケ目	06003540
図229-15	X38(3)	弥生土器	壺	—	残存 3.2	内:灰黄褐色(10YR 5/2) 外:にぶい褐色(7.5YR5/3)	内外:ハケ目	06003545
図230-1	TU34(4)	弥生土器	甕	(22.4)	残存 8.3	内:にぶい橙色(7.5YR7/4) 外:にぶい橙色 (5YR 6/4・7.5YR 7/4)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内ナデ	06003638
図230-2	(5)V35・36⑫ W36 溝1層 ⑬⑭	弥生土器	甕	21.5	残存 14.0	橙色(7.5YR 7/6)	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ヘラケズリ	06003592
図230-3	W36 溝3層	弥生土器	甕	(20.6) 内径 (21.4)	残存 14.0	内:にぶい黄橙色 (10YR 7/2) 外:灰黄褐色(10YR 6/2)	口:ハケ目後ナデ 胴内外:ハケ目	06003531
図230-4	(5)W36	弥生土器	甕	(20.8)	残存 5.9	内:明褐灰色(7.5YR 7/2) 外:橙色(5YR 7/6) にぶい橙色(5YR 7/4)	口内外～胴部外面:ハケ目 胴内:ナデ	06003643
図230-5	V33・34④	弥生土器	甕	(21.6) 内径 (20.7)	残存 11.2	内:褐灰色(10YR 4/1) にぶい橙色(7.5YR 6/4) 外:黒褐色(10YR 3/1) にぶい橙色(7.5YR 7/4)	口端:ヨコナデ 内外:ハケ目	06003532

表 67　SD11065 出土土器一覧表 (9)

＊法量の（ ）は復元値

挿図番号	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
				口外径	器高			
図230-6	X38(3)(5)	弥生土器	甕	(20.0)	残存 11.0	内:橙色(5YR 7/6) にぶい橙色 (5YR7 /4・7.5YR 7/3) 明褐灰色(7.5YR 7/2) 外:明褐灰色(7.5YR 7/2) にぶい橙色 (7.5YR7/3)	口端:ヨコナデ 内外:ハケ目	06003631
図230-7	W36(4)	弥生土器	甕	(23.0)	残存 6.3	内:にぶい赤褐色 (2.5YR 5/4) 橙色(5YR 6/6) にぶい橙色 (7.5R 7/4) 外:橙色(5YR 6/6・7/6)	口端:ヨコナデ 内外:ハケ目	06003635
図230-8	U34・35(5)	弥生土器	甕	—	残存 7.1	内:橙色(2.5YR 7/6) にぶい橙色(5YR 7/4) 外:にぶい橙色(5YR 7/4)	口端:ヨコナデ 内外:ハケ目	06003633
図230-9	X38 溝4層	土師器	甕	19.9 内径 18.8	—	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	口端:ヨコナデ 内外:ハケ目	06003534
図230-10	S33(1)	弥生土器	甕	—	残存 8.8	にぶい橙色(5YR 7/4)	口内:一部ナデ　他ハケ目	06003634
図231-1	T33・34④	弥生土器	器台	—	残存 8.3	橙色(7.5YR 7/6)	受部:ナデ くびれ外:ハケ目 内:ナデ	06003629
図231-2	X37(5)	弥生土器	器台	裾部径 11.5	残存 7.9	にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	胴外:ハケ目 胴内:ナデ 裾内:ハケ目	06003617
図231-3	WX37(5)	弥生土器	器台	裾部径 9.3 受部径 (7.9)	9.6	にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	内外:ナデ	06003619
図231-4	WX36(5)	弥生土器	器台	裾部径 12.1	残存 6.1	内面:橙色(5YR 7/6) 外:にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	裾内外:ヨコナデ 他ナデ	06003618
図231-5	X37(5)	弥生土器	器台	裾部径 (9.3)	残存 6.9	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	裾内:ハケ目 他ナデ	06003621
図231-6	S32 №1	弥生土器	器台	裾部径 7.5 受部径 7.4	7.1	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	内外:ナデ	06003624
図231-7	W36(2)	弥生土器	器台	—	残存 10.3	にぶい黄橙色 (10YR 7/2)	受部内:ハケ目 他はナデ	06003623
図231-8	V34・35(2)	弥生土器	器台	—	残存 5.4	にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	内一部:ヘラミガキ 他はナデ	06003630
図231-9	X37(3)	弥生土器	器台	(14.6)	残存 3.5	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	内外:ヨコナデ	06003626
図231-10	S33(2)	弥生土器	器台	裾部径 (8.2)	残存 6.7	灰黄色(2.5Y 7/2)	外:工具ナデ 内:ナデ	06003620
図231-11	U34⑤	弥生土器	支脚	裾部径 6.3	残存 4.2	橙色(7.5YR 7/6)	ナデ	06003622
図231-12	U34 溝2層	弥生土器	台付鉢	裾部径 12.4	残存 6.0	橙色(5YR 6/6)	鉢内外:ヘラミガキ 脚外:ヨコナデ 脚内:ハケ目	06003616
図232-1	X38(5)・X37・ X38(5)・(3)	土師器	甕	17.5	—	にぶい褐色 (7.5YR 6/3)	口外:ヨコナデ 口内:ハケ目 胴上外タタキ 胴下外タタキ後ナデ 胴内:ヘラケズリ後ナデ 底外:タタキ 底内:ナデ	06003536
図232-2	T34 2・5層 ⑤ TU34	土師器	甕	(15.7)	残存 8.5	にぶい橙色	口外:ヨコナデ 口内:ハケ目 胴外:ハケ目 胴内:ヘラケズリ	06003591

表 68　SD11065 出土土器一覧表（10）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
				口外径	器高			
図232-3	X38	土師器	甕	(16.6) 内径 (16.2)	23.1	内面:にぶい黄橙色 (10YR 6/4) 外面:にぶい赤褐色 (5YR 5/4)	口外:不明 口内:ハケ目 胴外上:ハケ目 胴外下:ハケ目後ナデ 胴内上:ハケ目 胴内下:ヘラケズリ	06003533
図232-4	X38(5)	土師器	甕	(16.0)	残存 6.7	にぶい橙色 (7.5YR 7/3)	口内外:ヨコナデ 胴外:ハケ目後ナデ 胴内:ハケ目	06003593
図232-5	W35・36(5)	土師器	甕	(17.8)	残存 7.5	にぶい橙色(5YR 6/3)	口:ヨコナデ 胴外:ナデ 胴内:ヘラケズリ	06003585
図232-6	(2)V35・36	弥生土器	甕	—	残存 6.7	内面:橙色(5YR 7/6) 褐灰色(10YR 6/1) 外面:橙色(7.5YR 7/6)	口:ヨコナデ 肩内外:ハケ目	06003639
図232-7	X37・38(4)	弥生土器	甕	—	残存 9.5	内面:灰黄色(2.5Y 4/1) 外面:にぶい褐色 (7.5YR 5/3)	外:工具ナデ 内:ハケ目	06003544
図233-1	(32)T33 溝3層下	土師器	壺	14.2	残存 16.4	内面:にぶい橙色 (5YR 6/3) 外面:橙色(5YR 7/6)	口外:ハケ目後ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	06003599
図233-2	③X38混り	土師器	小型 広口壺	内径 10.4	10.3	内面:にぶい黄褐色 (10YR 5/3) 外面:黄灰色(2.5Y 4/1)	口内外:目ナデ 胴外ハケ目 胴内:ヘラケズリ	06003520
図233-3	T33・34 O34① V35(3)5？ V35(5) V34・35②	土師器	小型 広口壺	内径 12.4	10.7	内面:にぶい黄橙色 (10YR 6/3) 外面:灰黄褐色 (10YR6/2)	口内外:ヨコナデ 胴内:ヨコナデ 胴外:ハケ目	06003521
図233-4	⑯V35 茶褐色砂質土	土師器	小型 広口壺	14.2 内径 13.9	13.5	内面:褐灰色(10YR 5/1) 外面:にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	口外:ナデ 口内:ハケ目後ナデ 胴外:ハケ目 胴内:ナデ	06003518
図233-5	X38 青灰色砂質土	土師器	小型 広口壺	内径 14.1	13.6	内面:にぶい橙色 (7.5YR 7/4) 外面:にぶい黄橙色 (10YR 6/3)	口内外:ヨコナデ 胴外:ハケ目後ナデ 胴内:ヨコナデ	06003519
図233-6	X37・38 Y38①	土師器	小型 丸底壺	(11.6)	残存 5.4	橙色(5YR 7/6)	口外:ヨコナデ 口内:ハケ目後ナデ 胴外:ハケ目後ナデ 胴内一部:ハケ目	06003526
図233-7	WX37(5)	土師器	小型 丸底壺	(13.2)	残存 5.8	内面:にぶい褐色 (7.5YR 6/3) 外面:にぶい黄褐色 (10YR 6/3)	口外:ハケメ 口内:ナデ 胴外:ハケ目 胴内:ヘラケズリ後ナデ	06003529
図233-8	T33・34 U34混り⑤	土師器	小型 丸底壺	(12.5)	残存 6.5	内面:にぶい褐色 (7.5YR 6/3) 外面:にぶい黄褐色 (10YR 6/3)	口内外:ヨコナデ 胴内外:板状工具による ナデ	06003528
図233-9	(3)(5)	土師器	直口壺	11.2	残存 5.4	橙色(5YR 7/6)	口内外:ヨコナデ 肩外:ハケ目 肩内:ナデ	06003588
図233-10	T33・34⑤	土師器	二重 口縁壺	—	残存 3.9	橙色(5YR 6/8)	内外:ヘラミガキ 内外面に赤色顔料塗布	06003600
図233-11	U34・35①	ミニチュア 土器	二重 口縁壺	(8.2)	残存 4.6	内面:にぶい黄橙色 (10YR 7/3) 外面:浅黄橙色(10YR8/3) にぶい黄橙色(10YR 6/3)	口内外:ヨコナデ 胴外:ハケ目後ナデ 胴内:ヘラケズリ	06003689
図233-12	V38⑱ 溝3層	土師器	二重 口縁壺	(12.0)	残存 19.8	内面:灰白色 (10YR7/1) 外面:橙色(7.5YR7/6)	口内外:ナデ 胴外:ハケ目 胴内:ヘラケズリ	06003601
図233-13	X38 溝5層	ミニチュア 土器	壺	胴部径 (5.35)	残存 5.05	内面:灰黄褐色(10YR6/2) 暗灰色(N 3/0) 外面:灰黄色(2.5Y 6/2) 暗灰色(N 3/0)	頸内外:ヨコナデ 胴外:ナデ	06003688

表 69　SD11065 出土土器一覧表（11）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
				口外径	器高			
図234-1	X38(3)(5)	土師器	(有孔) 鉢	(12.6) 底部穿 孔径 1.5	12.5	内面:にぶい橙色 (7.5YR 6/4) 外面:にぶい橙色 (7.5YR 7/3) 褐灰色(10YR 5/1)	口外:ナデ 胴外上:ハケ目 胴外下:ナデ 胴内:ハケ目	06003535
図234-2	V34・35②	土師器	鉢	(11.3)	4.55	内面:浅黄橙色(10YR8/4) 淡橙色(5YR 8/4) 外面:にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	口内外:ヨコナデ 外:ハケ目 内:ナデ	06003681
図234-3	UV34・35(3) U34(3) V34・35②	土師器	鉢	(13.7)	残存 5.2	内面:にぶい橙色 (7.5YR 6/4) 外面:にぶい黄橙色 (10YR 6/3) にぶい橙色(7.5YR 6/4)	口外:ハケ目後ナデ 口内:ナデ 底内外:ナデ	06003686
図234-4	ST33・34③ S33②	土師器	台付鉢	(12.55)	残存 8.9	内面:にぶい黄橙色 (10YR 7/3) にぶい褐色(7.5YR 6/3) 黒色(2.5Y2/1) 外面:にぶい橙色 (5YR 6/4) 灰黄褐色(10YR 6/2) 黒褐色(10YR 3/1)	鉢内外:ヘラミガキ 脚外:ヘラミガキ 脚内:工具ナデ	06003696
図234-5	X38 溝4層	土師器	台付鉢	—	残存 5.2	内面:にぶい褐色 (7.5YR 5/4) 褐灰色(7.5YR 4/1) 外面:橙色(5YR 6/6) 灰褐色(5YR 4/2)	内外:ヘラミガキ	06003694
図234-6	W36 黒色粘性砂質 土層⑨	土師器	台付鉢	底径 (10.4) 基部径 4.7 底径 (10.4)	残存 5.3	内面:にぶい黄橙色 (10YR 6/3・7/3) 外面:にぶい赤褐色 (5YR 5/4) 橙色(5YR 6/6) にぶい橙色(7.5YR 6/4)	鉢内外:ヘラミガキ 脚外:ヘラミガキ 脚内:ハケ目	06003695
図234-7	T34 西3層下	土師器	台付鉢	底径 (9.4)	残存 5.7	内面:にぶい橙色 (7.5YR 7/3) 暗灰色(N 3/0) 明赤褐色(2.5YR 5/6) 外面:にぶい橙色 (7.5YR 7/4) 暗灰色(N 3/0) 明赤褐色(2.5YR 5/6)	外:ヘラミガキ 内:ナデ？ 内外面に赤色顔料塗布	06003697
図234-8	V35(3)	手捏土器	鉢	(5.5) 底径 2.55	3.65	内面:にぶい橙色 (5YR 6/4) 外面:橙色(5YR 7/6) 灰褐色(7.5YR 5/2)	外:ハケ目	06003685
図234-9	⑩W36 溝3層	手捏土器	鉢	7.45	5.65	内面:橙色(2.5YR6/6) 灰黄褐色(10YR6/2) 外面:橙色(2.5YR6/6) 灰黄褐色(10YR6/2)	口内:ナデ 外:ハケ目後ナデ 胴内:ハケ目	06003683
図234-10	U3N 溝3層	手捏土器	鉢	7.55	5.85	内面:にぶい黄橙色 (10YR 7/4) 黒褐色(2.5Y 3/1) 外面:にぶい橙色 (7.5YR 7/3) 灰黄褐色(10YR 6/2)	口内外:ナデ 胴外:ナデ 底外:ヘラケズリ	06003679
図234-11	ST33⑤	手捏土器	鉢	(9.85)	残存 5.6	内面:灰黄褐色(10YR6/2) 外面:にぶい黄橙色 (10YR 7/2) にぶい橙色(5YR 6/3)	外:ヘラケズリ後一部ナデ 内:ナデ	06003680
図234-12	XY38(4)	土師器	小型 丸底鉢	(13.6)	残存 7.2	内面:にぶい橙色(7.5YR7/4) 外面:橙色(7.5YR 7/6)	口端内:ナデ 他はヘラミガキ	06003530

表 70　SD11065 出土土器一覧表（12）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
				口外径	器高			
図234-13	ST33 5層	土師器	小型 丸底鉢	内径 12.8	残存 5.5	灰白色(2.5Y 7/1)	口端内:ナデ 他はヘラミガキ	06003523
図234-14	S33② ST33⑤	土師器	小型 丸底鉢	内径 12.8	7.4	にぶい黄橙色 (10YR 7/2)	胴内:ナデ一部ヘラミガキ 他はヘラミガキ	06003522
図234-15	STU34・33③	土師器	小型 丸底鉢	内径 (13.1)	残存 4.8	内面:灰白色(2.5Y 7/1) 外面:灰黄色(2.5Y 7/2)	くびれ部内:ナデ 他はヘラミガキ	06003524
図234-16	U34・35④	土師器	小型 丸底鉢	(12.4)	残存 6.0	内面:浅黄橙色 (7.5YR8/3) 外面:橙色(5YR 7/6)	口頸内外:ナデ 胴上外:ヘラミガキ 胴下外:ナデ 胴内:ナデ	06003527
図234-17	U34・35(4)	土師器	鉢	(13.5)	残存 5.65	灰白色(10YR8/2)	口縁部内外面ナデ 胴部内外面ハケ目	06003687
図234-18	TV33・34(3) T3 溝T3⑤	土師器	鉢	(10.0) 底径 4.2	4.325	内面:にぶい黄橙色 (10YR7/3) にぶい橙色(7.5YR 7/4) 外面:にぶい黄橙色 (10YR 7/3) にぶい橙色(7.5YR 6/4)灰色(N 6/0)	外:ナデ 内:ハケ	06003684
図234-19	(26)T33 青灰色砂質土	土師器	鉢	(11.3) 底径 5.4	5.6	浅黄橙色(7.5YR 8/3)	底:ヘラケズリ 他はナデ	06003682
図235-1	X37(3)	弥生土器	高杯	(12.8)	残存 3.5	橙色(5YR 6/8)	内外:ヨコナデ後 粗いヘラミガキ	06003625
図235-2	X37(1)	土師器	高杯	—	残存 3.1	内面:橙色(2.5YR 7/6) 浅黄橙色(10YR 8/3) 外面:橙色(2.5YR 7/6) にぶい橙色(5YR 7/4)	内外:ヘラミガキ	06003693
図235-3	T33・34(4)	土師器	高杯	(20.7)	残存 5.6	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	上外:ナデ後暗文 上内:ナデ後ヘラミガキ 下外:ヘラミガキ 下内:ハケ目後ナデ	06003613
図235-4	③X38混り	土師器	高杯	(23.2)	残存 6.2	にぶい黄橙色 (10YR 6/3)	外:ヘラミガキ 下内:ヘラミガキ 上内:ナデ後暗文	06003614
図235-5	VW36	土師器	高杯	(27.7)	残存 5.6	橙色(5YR 7/6)	上外:暗文 下外:ハケ目後ナデ 内面:暗文	06003612
図235-6	X38(3)	土師器	高杯	—	残存 13.6	にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	外:ヘラミガキ 内:ナデ	06003611
図235-7	U34③	土師器	高杯	—	残存 12.2	橙色(2.5YR 6/8)	外:ハケ目後ヘラミガキ 内:ハケ目	06003609
図235-8	W36 溝3層	土師器？	高杯	—	残存 11.1	内面:にぶい橙色 (7.5YR 7/3) 外面:赤橙色(10R 6/6)	外:ハケ目後ヘミガキ 脚内:ナデ 裾内:ハケ目後ナデ	06003608
図235-9	X37(3)	土師器	高杯	—	残存 7.2	にぶい褐色 (7.5YR 5/3)	外:ハケ目後ヘラミガキ 内:ナデ	06003605
図235-10	V34・35(5)	土師器	高杯	—	残存 6.0	橙色(5YR 7/6)	外:ヘラケズリ後ハケ目後 ナデ 脚内:ナデ 裾内:ハケ目	06003607
図235-11	W36 溝5層	土師器	高杯	—	残存 6.8	にぶい黄橙色 (10YR 7/2)	外:ハケ目後ナデ 脚内:ナデ 裾内:ハケ目	06003606
図235-12	V35(5)	土師器	高杯	裾部径 (10.1)	残存 6.8	にぶい黄褐色 (10YR 5/3)	外:ナデ 脚内:ナデ 裾内:ハケ目	06003604
図235-13	VW35・36 ⑤	土師器	高杯	裾部径 (12.0)	残存 6.1	赤橙色(10R 6/8)	脚外:ナデ 脚内:ナデ 裾外:ハケ目	06003615
図235-14	S33(5)	土師器	高杯	—	残存 5.3	橙色(5YR 6/6)	杯内:ハケ目後ナデ 脚外:ヘラミガキ 脚内:ナデ 裾外:ヘラミガキ	06003610
図235-15	X38(3)	土師器	高杯	—	残存 6.0	橙色(7.5YR 7/6)	外:ハケ目後ナデ 内:ハケ目	06003603

表 71　SD11065 出土土器一覧表（13）

＊法量の（ ）は復元値

挿図番号	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
				口外径	器高			
図235-16	U34･35(4) V35	土師器	高杯?	裾部径 (14.6)	残存 5.4	橙色(5YR 6/6)	外:ハケ目後ナデ 内:ナデ	06003602
図235-17	X37(5)	土師器	器台？	(9.25)	残存 4.1	内面:にぶい橙色 (7.5YR 6/4) 外面:にぶい褐色 (7.5YR 6/3)	内外:ヘラミガキ	06003692
図235-18	X37(6)	土師器	小型 器台	—	残存 4.3	内面:にぶい橙色 (7.5YR 7/4) 浅黄橙色(10YR 8/3) 外面:にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	外:ナデ 内:ハケ目	06003690
図235-19	VW36･37(5) 溝5層	土師器	小型 器台	—	残存 4.7	内面:橙色(5YR7/6･6/6) 外面:橙色(5YR 7/6)	外:ヘラミガキ 内:ハケ目	06003691

表 72　中世土坑出土土器一覧表

＊法量の（ ）は復元値

挿図番号	出土地点	種　別	器　種	法量(cm)		色　　調	調　整　方　法	登録番号
				口外径	器高			
図236-1	清掃時 (包含層)	土師器	皿	(11.0) 底径 (9.0)	1.3	淡灰褐色	口内:回転ナデ 底内:ナデ 糸切底	08000476
図236-2	清掃時 (包含層)	土師器	皿	9.5 底径 6.8	1.55	淡褐色 (一部ススあり)	口内外:回転ナデ 底内:ナデ 糸切底	08000479
図236-3	清掃時 (包含層)	土師器	皿	10.0 底径 8.0	1.3	淡褐色 (一部ススあり)	口内外:回転ナデ 底内:ナデ 糸切底	08000481
図236-4	清掃時 (包含層)	土師器	皿	9.4 底径 7.5	1.25	淡灰褐色	内外:ナデ 糸切底	08000477
図236-5	清掃時 (包含層)	土師器	皿	9.4 底径 7.6	1.3	淡褐色 (一部炭あり)	外:不明 内:回転ナデ 糸切底	08000478
図236-6	清掃時 (包含層)	土師器	皿	9.4 底径 7.45	1.05	淡褐色	外:不明 内:回転ナデ 糸切底	08000480
図236-7		弥生土器	鉢	(15.0)	残存 4.7	淡褐色	口端部:ヨコナデ 内:ヨコナデ 他はハケ目	08000699
図236-8		弥生土器	鉢	(9.6)	残存 4.8	内面:にぶい褐色 外面:にぶい橙色	口:ヨコナデ 胴外:ハケ目 胴内:工具ナデ	08000700
図236-9		土師器	高杯	(15.2)	残存 3.7	明褐色	上外:ハケ後ナデ 下外:ヘラケズリ後ナデ 上半内ハケ目後ナデ 下半:ナデ	08000482
図236-10	№5	瓦器	椀	(16.2) 内径 (15.9) 底径 6.7	5.5	内面:暗灰色(N 3/0) 外面:暗灰色(N 3/0) 灰黄色(2.5Y 6/2)	体内外:ヘラミガキ 高台外:回転ナデ 高台内:回転ナデ	08001424

Ⅵ. 総括

1，中原遺跡の弥生時代～古墳時代集落構造の変遷

小松　譲

（1）はじめに

本遺跡では弥生時代中期から古墳時代後期の集落を 7 区、9 区、10 区、11 区、12 区、13 区にて確認した。本遺跡の集落には居住域の他、木組遺構などの生産域があり、9 区、10 区、13 区の南側、14 区の整理報告が未だ終了しておらず、全体像はつかめていない。そのような中、今回の報告対象地区である 11 区、12 区、13 区では弥生時代～古墳時代の墳墓と集落を確認した。これまで、墳墓群の報告として『中原遺跡Ⅳ』2010 年刊で弥生時代の甕棺墓を、『中原遺跡Ⅴ』2011 年刊で弥生時代の土壙墓、木棺墓、祭祀土坑と古墳時代中期～後期の前方後円墳や円墳を報告した。さらに『中原遺跡Ⅵ』2012 年刊で、古墳時代初頭前後の墳墓群として墳丘墓、土壙墓、木棺墓群、前方後円墳と周溝墓群の調査を報告した。これら 3 冊は 11 区～ 13 区に分布する弥生時代～古墳時代の墳墓群の報告にあたる。

本遺跡の墳墓群は弥生時代中期の特定集団墓、終末期の特定個人墓、古墳時代前期、中期、後期にわたり各時期の中小首長墓が築造される。さらに当該時期の集落を確認した。本遺跡の弥生時代～古墳時代の集落は唐津地域の中小首長層を輩出した集落の実態がわかるモデルケースとなる稀少な調査事例である。そこで、本稿では 11 区～ 13 区の弥生時代～古墳時代の集落の時期変遷をもとに論を進めたい。なお､11区～13区は砂丘微高地全域を完掘している｡図8,9を見ても判るように周辺は低地部にあたり、地形的に制約された砂丘微高地全域であることは、集落と墳墓の変遷のモデルケースとなる。

時間軸の設定は表 73 のとおりである。

表 73　集落時期編年表

田崎(1985)武末(1987)		蒲原(1992,2003)		小松(2002)	田辺(1966)
城ノ越式					
須玖Ⅰ式	古段階				
	新段階				
須玖Ⅱ式	古段階				
	新段階	村徳永式	1式		
			2式		
			3式		
		千住式	1式		
			2式		
			3式		
		惣座式	0式		
			1式		
			2式		
		夕ヶ里式			
		土師本村式	1式		
			2式		
			3式	2A期	
				2B期	TK73
				3期	TK216
				4A期	TK208
					TK23
				4B期	TK47
				5A期	MT15
					TK10
				5B期	TK43
					TK209
				6期	7世紀前半
				7期	7世紀中～後

参考文献

田崎博之 1985「須玖式土器の再検討」『史淵』122

武末純一 1987「須玖式土器」『弥生文化の研究』第 4 巻　雄山閣

蒲原宏之 1992「古墳時代初頭前後の土器編年」『佐賀県立博物館・美術館調査研究書』16

蒲原宏之 2003「佐賀平野における弥生後期の土器編年」『佐賀県立博物館・美術館調査研究書』27

小松　譲 2002「肥前地域における古墳時代中・後期土師器編年」『古墳時代中・後期の土師器』第 5 回九州前方後円墳研究会資料集

田辺昭三 1966『陶邑古窯址群Ⅰ』平安学園考古学クラブ

図 237　11，12，13 区遺構配置図 1（1/600）

51 | 50 | 49 | 48 | 47 | 46 | 45 | 44 | 43 | 42 | 41 | 40 | 39 | 38 | 37 | 36 | 35 | 34 | 33

M | N | O | P | Q | R | S | T | U | V | W | X | Y | Z

弥生時代中期
（須玖Ⅰ式～須玖Ⅱ式）

須玖Ⅰ、Ⅱ式

12区
11区
13区
唐津市教委調査区
A群
B群
C群

・遺構番号は下二桁、三桁を記入

0 50m

図 238　11，12，13 区遺構配置図 2（1/600）

51 | 50 | 49 | 48 | 47 | 46 | 45 | 44 | 43 | 42 | 41 | 40 | 39 | 38 | 37 | 36 | 35 | 34 | 33

M | N | O | P | Q | R | S | T | U | V | W | X | Y | Z

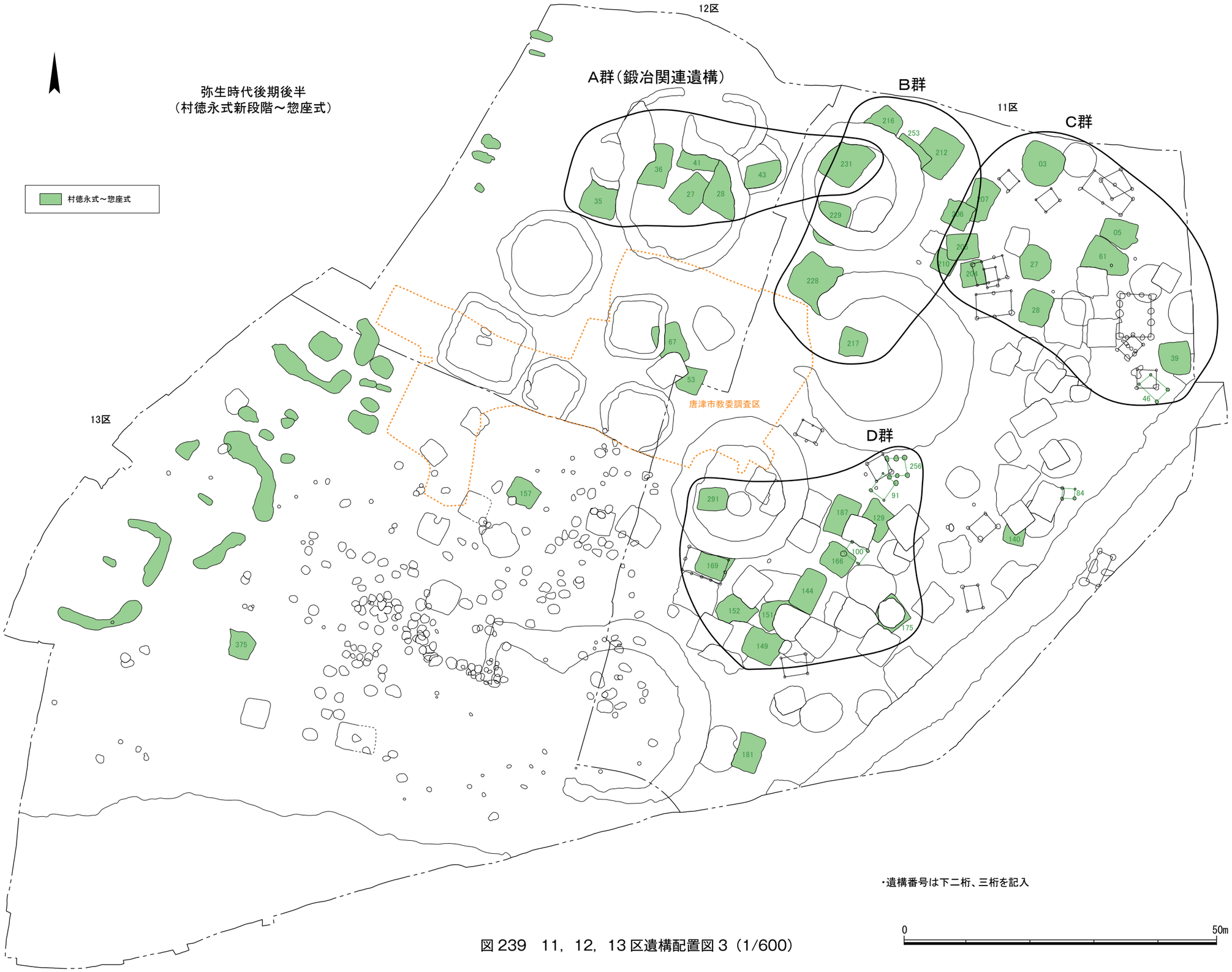


図 239　11，12，13 区遺構配置図 3（1/600）

51 | 50 | 49 | 48 | 47 | 46 | 45 | 44 | 43 | 42 | 41 | 40 | 39 | 38 | 37 | 36 | 35 | 34 | 33

M | N | O | P | Q | R | S | T | U | V | W | X | Y | Z

古墳時代前期
（タヶ里式～土師本村1式）

タヶ里式～土師本村1式

12区
11区
13区
唐津市教委調査区

212 279 68 69 29 160 188 190 189 230 110 111 258 58 159 147 138 150 66 154 139 261 246 345

・遺構番号は下二桁、三桁を記入

0 50m

図 240　11，12，13 区遺構配置図 4（1/600）

古墳時代後期
（4B期～6期）

4B期～6期

12区
11区
13区
唐津市教委調査区

416
158
154
115
163
68
82
47
130
112
142

・遺構番号は下二桁、三桁を記入

0 50m

図 241　11，12，13 区遺構配置図 5（1/600）

（2）弥生時代中期～古墳時代後期の墳墓群

弥生時代中期の甕棺墓、土壙墓、木棺墓群には鉄矛や銅矛、円環型銅釧、ヒスイ製勾玉、碧玉製管玉が副葬される。中原Ⅱ-2～Ⅱ-5期（汲田式～須玖式）において副葬品を所有する甕棺墓が集中する箇所にはA群、B群、C群の3群がある。A群は8基から、B群は18基から、C群は21基からなる甕棺墓群であり、副葬品の保有率が高い。墳丘や溝などの区画施設は確認できなかったが、A群を囲むように3基の祭祀土坑があるなど、副葬品を所有する甕棺墓が集中する3群は特定集団墓と考えられる。

弥生時代終末期には墳丘墓3基と土壙墓、木棺墓、石棺墓が4つの群を形成して分布する。墳丘墓の2基からは内行花文鏡や方格規矩鏡の破砕鏡片や鉄剣、玉類が副葬されていた。土壙墓、木棺墓、石棺墓群には浮彫式獣帯鏡の破砕鏡片、仿製鏡、鉄剣、素環頭小刀、素環頭刀子、玉類などが副葬されるものもあった。

古墳時代前期には墳丘長26.0mの前方後円墳や周溝墓8基が築造される。内部主体は削平され、副葬品は検出できなかった。

古墳時代中期～後期には5世紀前半から6世紀後半まで5基の古墳が連続して築造される。5世紀前半は墳丘長25.2mの帆立貝形前方後円墳、TK208～TK23期は墳丘径18.2mの円墳、TK47期は墳丘径16.8mの円墳、TK47～MT15期は墳丘径14.5mの円墳、TK43期は墳丘長33.0mの前方後円墳が築造される。多くの内部主体は削平され､副葬品は検出できなかったが周溝から初期馬具などが出土した。

以上のように、本遺跡では弥生時代前期期から古墳時代後期まで連続して墳墓が営まれている。その墳墓には副葬品や墳墓形態から本地域の中小首長層の墓に相当するものも多い。但し、弥生時代後期前半～中頃と4世紀後半～5世紀初頭の2時期に墳墓築造の空白期がみられる。

（3）集落の変遷

表73は集落変遷の時間軸を示すための表である。この時期・編年にあわせて、竪穴住居跡、掘立柱建物跡の時期を決定した。表6、7、8の竪穴住居跡一覧表と掘立柱建物跡一覧表に時期を示す。さらに表74は集落と墳墓の各遺構の時期別一覧表である。弥生時代墳墓の時期区分は弥生時代甕棺墓の編年試案（小松2011）を用いた。各遺構の時期決定は出土土器などによるが、決定困難な遺構も多く、明瞭にこれらの各時期に収まらない遺構も多いため、集落と墳墓を対照させて、時間軸での変遷をみるための資料と考えていただきたい。

11区～13区では弥生時代から古墳時代の竪穴住居跡112軒、掘立柱建物跡22棟を確認した。時期決定できない遺構数は竪穴住居跡19軒、掘立柱建物跡8軒である。時期決定した時期別遺構数は須玖Ⅰ式～須玖Ⅱ式は竪穴住居跡19軒、掘立柱建物跡8棟、村徳永式～惣座式は竪穴住居跡40軒、掘立柱建物跡5棟、夕ヶ里式～土師本村1式は竪穴住居跡23軒、掘立柱建物跡1棟、4B期(TK47)～6期（7世紀前半）は竪穴住居跡11軒、掘立柱建物跡0棟である。この表から集落の形成は須玖Ⅰ式古段階から始まり、6期（7世紀前半）まで続くものの、土師本村2式～4A期(TK23)に空白期がある。また、この表では現れないが、村徳永式～千住式古段階も集落形成が衰退している。集落形成が最も活発化するのは千住式新段階～夕ヶ里式にかけてである。

集落と墳墓の遺構数を対照してみると、墳墓形成はⅠ-1期（板付Ⅰ式）から始まっている。これは集落形成に先だって墳墓が造られていることを示す。須玖式、千住式新段階～夕ヶ里式、4B期（TK47）～6期（7世紀前半）は集落と墳墓が対照して形成される。但し、3期(TK216)～4A期は前方後円墳や円墳は築造されるが、当該期の住居はみあたらない。

図 237 は時期別の遺構配置図である。前述の集落形成過程をもとに須玖Ⅰ式～須玖Ⅱ式、村徳永式～惣座式、夕ヶ里式～土師本村 1 式、4B 期 (TK47) ～ 6 期（7 世紀前半）の 4 時期に分け、竪穴住居跡、掘立柱建物跡の他、甕棺墓、墳丘墓、土壙墓、木棺墓、石棺墓 (弥生時代終末期のみ)、古墳などの墳墓群を色別に表示した。以下、集落形成過程の変遷を記す。

①弥生時代前期～中期初頭（中原Ⅰ -1 ～ Ⅱ -1、板付Ⅰ式～城ノ越式）

甕棺墓 24 基がある。その分布図は『中原遺跡Ⅳ』313 頁～ 316 頁に掲載する。T-48 ～ W-42 区画にかけ、全長約 70m、幅約 20m の細長い墓域を形成する。これは砂丘微高地の尾根状を占地したと思われる。竪穴住居は確認できていない。

②弥生時代中期（須玖Ⅰ式～須玖Ⅱ式）

図 238 に当該期の各遺構配置図を示す。竪穴住居跡 19 軒、掘立柱建物跡 8 棟が砂丘微高地の東辺に分布する。その分布を細かくみると空間地（広場）を馬蹄形に囲む竪穴住居群が 3 群あることに気づく。北方から A 群は竪穴住居 SH11064、SH11013、SH11052、SH11095、SH11081、SH11098、SH11254 の 7 軒、掘立柱建物 SB11038、SB11044、SB11059、SB11060 の 4 棟、B 群は竪穴住居 SH11113、SH11121、SH11264、SH11183、SH11131、SH11143、SH11122 の 7 軒、掘立柱建物 SB11202、SB11085、SB11088、SB11089 の 4 棟、C 群は SH11127、SH11219、SH11267、SH11182 の 4 軒である。このように空間地（広場）を馬蹄形に囲む 4 軒から 7 軒の竪穴住居群 3 群が砂丘微高地縁辺部に並ぶ。

これらの集落構成員の墳墓である甕棺墓地が砂丘微高地の南西部に形成される。中原Ⅱ -2 ～Ⅱ -6 期（須玖Ⅰ、Ⅱ式）にかけて 243 基の甕棺墓が造られ、その中には 3 群 47 基からなる特定集団墓が形成される。同砂丘微高地上に 3 群からなる竪穴住居 19 軒＋αがあるが、その集落構成員以上の甕棺墓が造られていることは明確である。本遺跡の甕棺墓群は周辺集落の墓地でもあり、複数集落集団の共同墓地である。また、甕棺墓の形成過程は『中原遺跡Ⅳ』2010 年で述べたように中原Ⅱ -6 期に画期があり、Ⅱ -2 ～Ⅱ -5 期の墓域周辺に墓道を伴う甕棺墓が造られるなど墓域の変化が看取できる。Ⅱ -6 期以降、墳墓群は衰退していく。本遺跡の竪穴住居も中原Ⅱ -6 期（須玖Ⅱ式新段階）は見られない。墓域の再編と衰退は、周辺集落を含めた集落の盛衰を表出していると思われる。

再び、本遺跡の弥生時代中期の集落について眼を転じる。居住域と墓域を区画する溝などの施設も無い。竪穴住居に特別な大型建物も見られない。但し、掘立柱建物を見てみると、A 群中の SB11038 は 5 間× 3 間で床面積 34㎡と他の建物に比べると大形である。また、SB11059 は 3 間× 1 間で床面積 17.68㎡であり、A 群に大形の掘立柱建物が伴う。B 群は SB11202 が 2 間× 1 間で 3 棟は 1 間× 1 間であり、C 群には掘立柱建物が伴わない。掘立柱建物の集落における性格をここで論じる余裕はないが、掘立柱建物の分布から、A 群、B 群、C 群の集団間の階層性が予想され、A 群＞ B 群＞ C 群を想定できる。

当該期の生産活動を示す遺構・遺物に木組遺構、堤防状遺構がある。木組遺構は低地部である 7 区から 10 基を確認している（『中原遺跡Ⅱ』2008 年）。このほか未報告ではあるが、9-2 区や 13 区南部からも検出されている。さらに 13 区南部では堤防状遺構や銅剣の鋳型片も出土しており、これらの整理を通して再検討が必要である。

③弥生時代後期後半 (村徳永式新段階～惣座式）

図 239 に当該期の各遺構配置図を示す。表 73 の時期区分は村徳永式～惣座式にしているが、村徳永式～千住式古段階の遺構は少なく、多くは千住式新段階～惣座式にかけての遺構である。砂丘微高地全域に竪穴住居跡 40 軒、掘立柱建物跡 5 棟が砂丘微高地の甕棺墓域を除いた全域に広がる。当該期に特

徴的竪穴住居群に鉄製品や鉄片、鉄滓を多量に出土する一群がある。本報告書では鉄製品や鉄片について報告できなかったが､表 7 の備考に記す。その詳細は次刊に譲りたいが､鉄片､鉄滓の分析などにより、これらは当該期の鍛冶関連遺構であると考えた。その分布は調査区内北西部の ST12032 前方後円墳や ST11067 古墳から切られる遺構群が鍛冶関連遺構である。東から SH11231、SH12043、SH12028、SH12041、SH12027、SH12036、SH12035 の 7 軒である。これらの遺構種別は SH としており、表Ⅳ -2 の竪穴住居数に含んでいる。この鍛冶関連遺構の 7 軒を A 群とする。この A 群以外に空間地（広場）を環状に囲む竪穴住居群が B 群、C 群、D 群の 3 群がある。B 群は北方から竪穴住居 SH11216、SH11253、SH11212、SH11206、SH11210、SH11229、SH11228、SH11217 の 8 軒である。C 群は北方から SH11003、SH11207、SH11205、SH11204、SH11027、SH11005、SH11061、SH11028、SH11039 の 9 軒、掘立柱建物 SB11046 の 1 棟である。D 群は北方から SH11291、SH11187、SH11129、SH11166、SH11169、SH11152、SH11151、SH11144、SH11149、SH11175 の 10 軒、掘立柱建物 SB11256、SB11091、SB11100 の 3 棟である。空間地（広場）を環状に囲む 8 軒から 10 軒の竪穴住居群 3 群と鍛冶関連の工房が砂丘微高地全域に形成される。

当該期の墳墓は墳丘墓 3 基や土壙墓、木棺墓、石棺墓群 4 群 15 基がある。これらの墓域は砂丘微高地の西側縁辺部に占地しており、その形成時期は千住 2 式から惣座式である。これらの形成過程や時期については『中原遺跡Ⅵ』2012 年を参照されたい。いずれも青銅鏡や鉄剣、玉類を副葬した厚葬墓であり、特定個人墓、特定集団墓に位置づけられる。この墳墓群と集落の形成時期は同じである。墳丘墓 3 基の被葬者の居館と考えられるような大型建物や大形の竪穴住居など階層性を示す施設は本砂丘微高地では見られない。

④古墳時代前期 (夕ヶ里式～土師本村 1 式）

図 240 に当該期の各遺構配置図を示す。竪穴住居出土土器では夕ヶ里式と土師本村 1 式の分別が困難で、表 7 の時期区分は曖昧なものが多い。また、詳細な分析、検討は未だ行っていないが、惣座式から夕ヶ里式の土器群も時間的な連続性があるように思える。惣座式から夕ヶ里式期にいたる集落の変遷を考えるにあたり、ST12032 前方後円墳や周溝墓は千住式から惣座式の鍛冶関連遺構や竪穴住居を壊して築造されており、前方後円墳や周溝墓群の墓域は 60m × 40m と広い。また、竪穴住居は平面方形で、主柱穴が四本柱という定形化した構造が出現するなど集落形成にあたっては画期にあたる。

竪穴住居跡 23 軒、掘立柱建物跡 1 棟が砂丘微高地の南東部の約 55m × 40m の範囲に密集し、その他に砂丘微高地に散在して分布する。これらの竪穴住居の分布をさらに群にわけることはできない。また、大型建物や大形の竪穴住居など階層性を示す施設も砂丘微高地上にはみられない。但し、竪穴住居の分布に密集域と散在域があることは集落構造に関わると考える。密集域は約 55m × 40m の範囲に竪穴住居 17 軒が切りあう。

当該期の墳墓は前方後円墳 1 基とその周溝を共有する周溝墓 4 基、その他に 4 基の周溝墓が 60m × 40m の墓域を形成する。これらの時期は夕ヶ里式であり、詳細な検討が必要ではあるものの、当該期の居住域と墓域が近接することは確実である。前方後円墳と周溝墓といった階層性みられる墳墓の墓域と居住域が近接して立地するという特徴をもつ。

⑤古墳時代後期（4B 期〔TK47〕～ 6 期〔7 世紀前半〕）

図 241 に当該期の各遺構配置図を示す。竪穴住居跡 11 軒が砂丘微高地に散在して分布する。表 73 の時期区分は 4B 期～ 6 期にしているが、4B 期～ 5A 期の竪穴住居は 2 軒で、5B 期～ 6 期の竪穴住居は 9 軒であり 5B 期以降に竪穴住居は増加する。当該期の竪穴住居は竈をもち主柱穴が四本柱であると

いう特徴をもつ。竪穴住居は散在しているため、これらの分布をさらに群にわけることはできない。また、大型建物や大形の竪穴住居など階層性を示す施設も砂丘微高地上にはみられない。

当該期の墳墓は前方後円墳 1 基と円墳 2 基であるが、古墳群の形成は当該期以前から始まる。古墳時代前期の前方後円墳、周溝墓群築造から空白期を挟んで、2B 期 (TK73) ～ 3 期 (TK216) に帆立貝形前方後円墳 1 基、4A 期に円墳 1 基と連続して古墳が築造される。この 2B 期～ 4A 期の竪穴住居は砂丘微高地上では確認できていない。4B 期～ 6 期の竪穴住居は 2B 期以降に築造される古墳 5 基に隣接して散在して分布する。

（4）まとめ

11 区～ 13 区にあたる砂丘微高地上の弥生時代～古墳時代の集落の変遷を墳墓群と照合させて論じてきた。弥生時代中期（須玖Ⅰ式～須玖Ⅱ式）にはA群、B群、C群の３つの単位集団[註1]が確認できた。1 群あたり 4 軒～ 7 軒からなる竪穴住居が馬蹄形状に立地する。竪穴住居が切りあっていることや、近接することからさらに２時期から３時期に細分できる。1 時期の集落構成員数を算出すると、1 時期に 1 つの群で２軒～３軒で､1 軒あたり 5 人と仮定すると 1 群 10 人～ 15 人､3 群で 30 人～ 45 人になる。3 つの単位集団で、その構成員数は 30 人～ 45 人が数時期にわたり居住したことが予想される。

村徳永式～千住式古段階期の集落衰退期をはさんで、後期後半（千住式新段階～惣座式期）にかけて集落形成が活発化する。鍛冶工房とB群、C群、D群の３つの単位集団が確認できた。1 群あたり 8 軒～ 10 軒からなる竪穴住居が環状に立地する。竪穴住居が切りあっていることや、近接することからさらに２時期から３時期に細分できる。1 時期の集落構成員数を算出すると、1 時期に 1 つの群で３軒～ 4 軒で､1 軒あたり 5 人と仮定すると 1 群 15 人～ 20 人､3 群で 45 人～ 60 人になる。3 つの単位集団で、その構成員数は 45 人～ 60 人が数時期にわたり居住したことが予想される。弥生時代中期と後期後半の単位集団の系譜は推測の域をでないが、後期後半の墓域が甕棺墓地を避けて占地していることから、同一系譜の集団と考えられる。

古墳時代前期（夕ヶ里式～土師本村 1 式）は居住域の再編が看取できる。前時期までの単位集団は抽出できず、竪穴住居の密集域と散在する域に分化する。また、前時期にあった鍛冶工房は当該期の墳墓域になる。当該期も鍛冶関連遺構は継続するようであるが､詳細な整理後にその系譜なども考えたい。竪穴住居の密集域は２～３時期に細分でき、1 時期の集落構成員数を算出すると 1 時期に 6 軒で 1 軒あたり 5 人と仮定すると 30 人になり、散在域を含めて 30 人～ 40 人になる。当該期には伽耶系の陶質土器や畿内系、山陰系、肥後系・島原半島系の土器群が出土しており、各地域との活発な交流、交易がなされる。

土師本村 2 式～ 4A 期 (TK23）にかけて集落形成の空白期がある。但し、2B 期以降、帆立貝形前方後円墳からはじまる 5 基の古墳群が 5B 期まで連続して築造される。2B 期～ 4B 期の古墳 2 基の周溝から初期馬具が出土している。本砂丘微高地で集落形成が無いものの、周辺には居住域がみられる。古墳時代後期（4B 期〔TK47〕～ 6 期〔7 世紀前半〕）の竪穴住居は散在的であり、切りあうこともない。

以上、本遺跡の弥生時代～古墳時代の集落構造において、数群からなる単位集団→住居密集域と散在域の分化→住居散在域の変遷が辿れた。この変遷は社会構造の変化に伴うものであり、集落変遷モデルの提示としたい。11 区～ 13 区にあたる砂丘微高地上の弥生時代～古墳時代の集落の変遷を概観したが、本調査区の東側の 9-2 区、10 区の掘立柱建物群の整理は今後である。また、低地部の木組遺構や堤防状遺構の整理もこれからであり、改めて総括的なまとめをおこなう必要がある。

註

1　単位集団は生産・消費や経営の最小単位。以下の文献による。近藤義郎 1959「共同体と単位集団」『考古学研究』第 6 巻第 1 号　考古学研究会

参考文献

佐賀県教育委員会 2008『中原遺跡Ⅱ』佐賀県文化財調査報告書第 175 集

佐賀県教育委員会 2010『中原遺跡Ⅳ』佐賀県文化財調査報告書第 182 集

佐賀県教育委員会 2011『中原遺跡Ⅴ』佐賀県文化財調査報告書第 187 集

佐賀県教育委員会 2011『中原遺跡Ⅵ』佐賀県文化財調査報告書第 193 集

小松譲 2010「中原遺跡甕棺墓地の形成過程」『中原遺跡Ⅳ』佐賀県文化財調査報告書第 182 集

小松譲 2010「唐津地域甕棺の器種・型式分類と編年試案」『中原遺跡Ⅳ』佐賀県文化財調査報告書第 182 集

表 74　11 ～ 13 区集落・墳墓時期別一覧

集落				墳墓						
集落の時期区分		竪穴住居跡数	掘立柱建物跡数	墳墓の時期区分	甕棺	土壙墓・木棺墓・石棺墓	墳丘墓	周溝墓	前方後円墳	円墳
				Ⅰ－1	4					
				Ⅰ－2	5					
				Ⅰ－3	6					
城ノ越式		—	—	Ⅱ－1	9	14				
須玖Ⅰ式	古段階	19	8	Ⅱ－2	95					
	新段階			Ⅱ－3	81					
須玖Ⅱ式	古段階			Ⅱ－4	43					
	新段階			Ⅱ－5,Ⅱ－6	24					
村徳永式	2式	40	5	Ⅲ－1	7					
	3式									
千住式	1式									
	2式									
	3式			Ⅲ－2	1		1			
惣座式	0式						1			
	1式					15	1			
	2式									
夕ヶ里式		23	1					8	1	
土師本村式	1式									
	2式	—	—							
	3式	—	—							
2B期	TK73	—	—						1	
3期	TK216	—	—							
4A期	TK208	—	—							1
	TK23	—	—							
4B期	TK47	11	—							1
5A期	MT15		—							1
	TK10		—						1	
5B期	TK43		—							
	TK209		—							
6期	7世紀前半		—							
7期	7世紀中～後	—	—							
時期不明		19	8							
計		112	14							

2，唐津地域出土の肥後系・島原半島系土器群

小松　譲

（1）問題の所在

中原遺跡の調査時に弥生土器の台付甕の底部片や長方形透かしのある器台片が出土していくことに気づいた。佐賀平野など有明海沿岸地域では珍しくないが、玄界灘沿岸の唐津地域で出土することに奇異に感じた。本書巻頭図版 7 はその集合写真である。

中原遺跡では弥生時代終末の鍛冶に係る鉄片や鉄滓のほか鉄鏃などが出土している。有茎鉄鏃は肥後地域出土のそれと類似している。また、西北九州沿岸の遺跡から後漢鏡、鏡片が出土している。前述の肥後系土器群は九州島の西回り沿岸から唐津地域に流入したのではないかとの仮説を設定した。

肥後地域と唐津地域の交流という視点から唐津地域出土の肥後系・島原半島系土器を紹介したい。

（2）台付甕、肥前型器台について

肥後系・島原半島系の土器群の中で出土量も多く、肥後、島原半島地域の特徴をもつ台付甕と肥前型器台[註1]について記す。以下は平成 23 年 12 月に開催された肥後考古学会・長崎県考古学会合同大会『環有明海の交流』によるものが大きい。

台付甕は須玖式土器圏以南地域である肥後地域などで、城ノ越期の甕の系譜上で型式変化して成立したと考えられ、その分布域は肥後地域である。弥生時代中期後葉には黒髪式系統の影響をうけて、長崎県の島原半島・大村湾沿岸地域でも台付甕が出現する。さらに弥生時代後期後半には肥後地域と長崎県地域に「肥後型」と「島原型」とも称すべき特徴ある台付甕が出現するという。この時期に祭祀用土器として出現するのが「肥前型器台」である。また、佐賀平野でも弥生時代後期後半には台付甕が、終末期には肥前型器台が出現する。

図 245 は肥前型器台の分布と破線以南は台付甕地域を示す。佐賀平野でも肥前型器台や台付甕を出土する遺跡は多く分布するが、それらの出土量は少なく土器群に占める割合は低いため、台付甕地域圏外になる。

肥前型器台は透かしを有する大型器台で系譜的には瀬戸内地方との関連が予想されるが明確でなく、その分布は島原半島を中心に有明海沿岸域である。小田富士夫氏、上田龍児氏はその分布、型式変化、用途、系譜について論じた（小田、上田 2004）。それによると型式変化は口縁部形態と筒部文様に注目した。口縁部形態はＡ：丸味ないし方形→Ｂ：上方に肥厚→Ｃ：二重口縁で、筒部文様はⅠ：突帯→Ⅱ：ヘラ描→Ⅲ：櫛描→Ⅳ：なしである。また、成立は佐賀県西部～島原半島にかけての地域であり、弥生時代後期後半～古墳時代初頭までの時期にみられるとした。

（3）唐津地域出土の肥後系・島原半島系土器

図 242 ～ 244 と表 75 の番号が照合する。出土遺跡、遺構、参考文献を参照されたい。ここでは後述の理由から瀬戸内系土器も掲載した。

1 は黒髪式の甕口縁部片である。甕口縁部上面が反り、外上方にのびる。

2 はワイングラス形の高杯である。報告書によると器面は黒色顔料塗布し、丁寧な磨きを施す。二条及び四条の横方向の沈線で区画し、その間に鋭く尖った工具による斜線を鋸歯文状に施文する。胎土、焼成は精練されており、瀬戸内地域（吉備南部）からの搬入土器と思われる。

3、4 はジョッキ形土器である。平底で、胎土は精選される。ジョッキ形土器の分布は菊池川流域を中

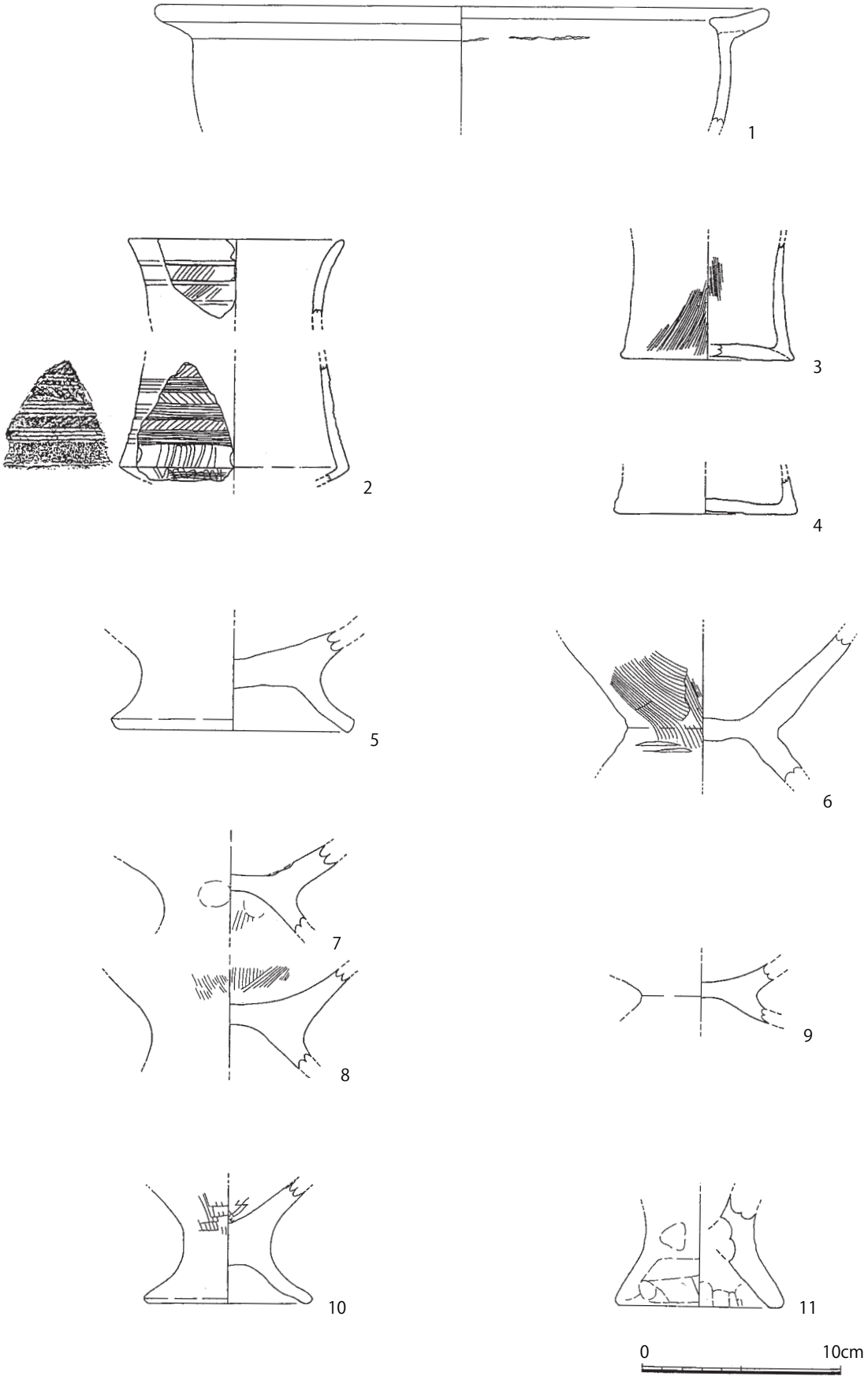


図 242　肥後系・島原半島系土器群 1（1/3）

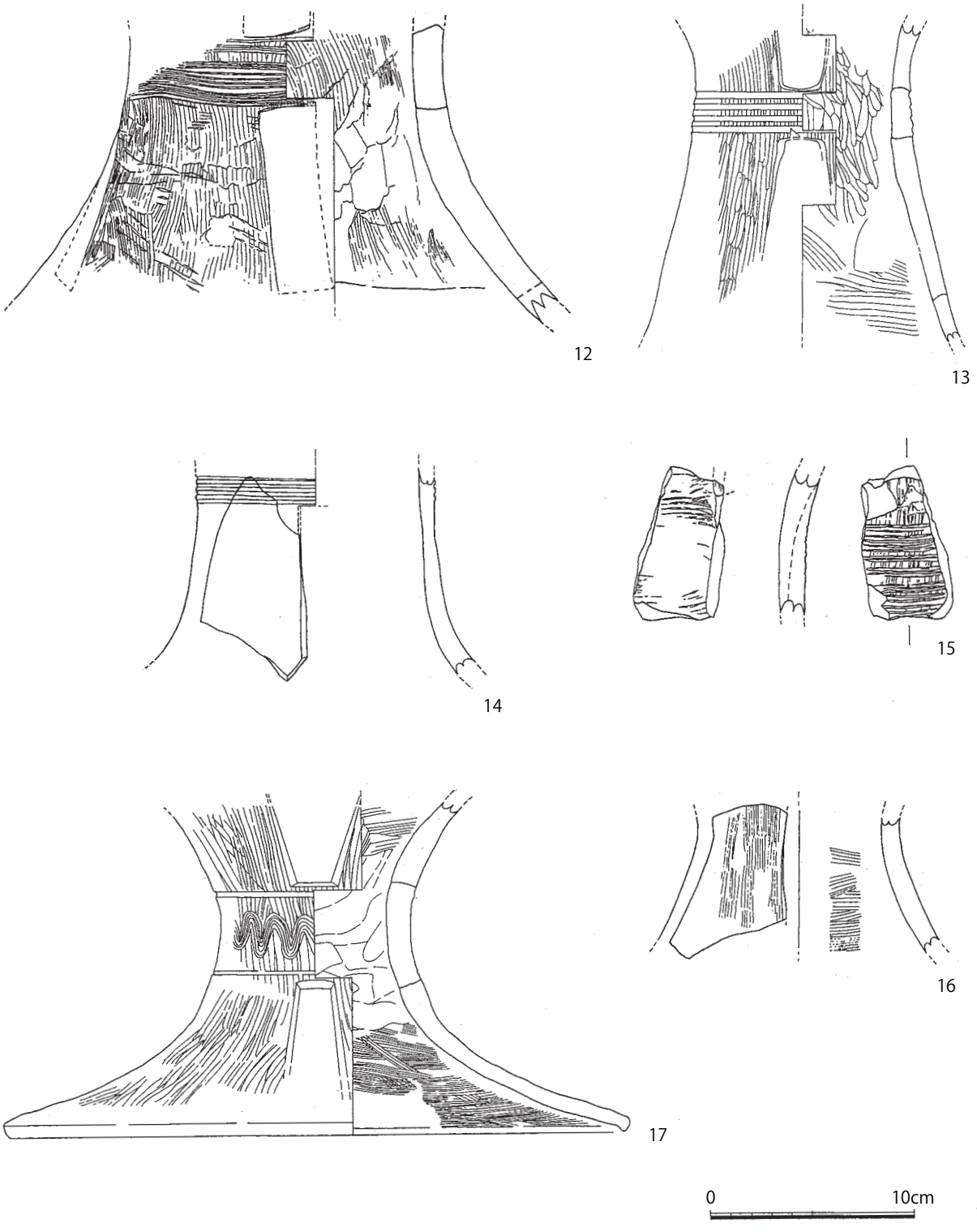


図 243　肥後系・島原半島系土器群 2（1/3）

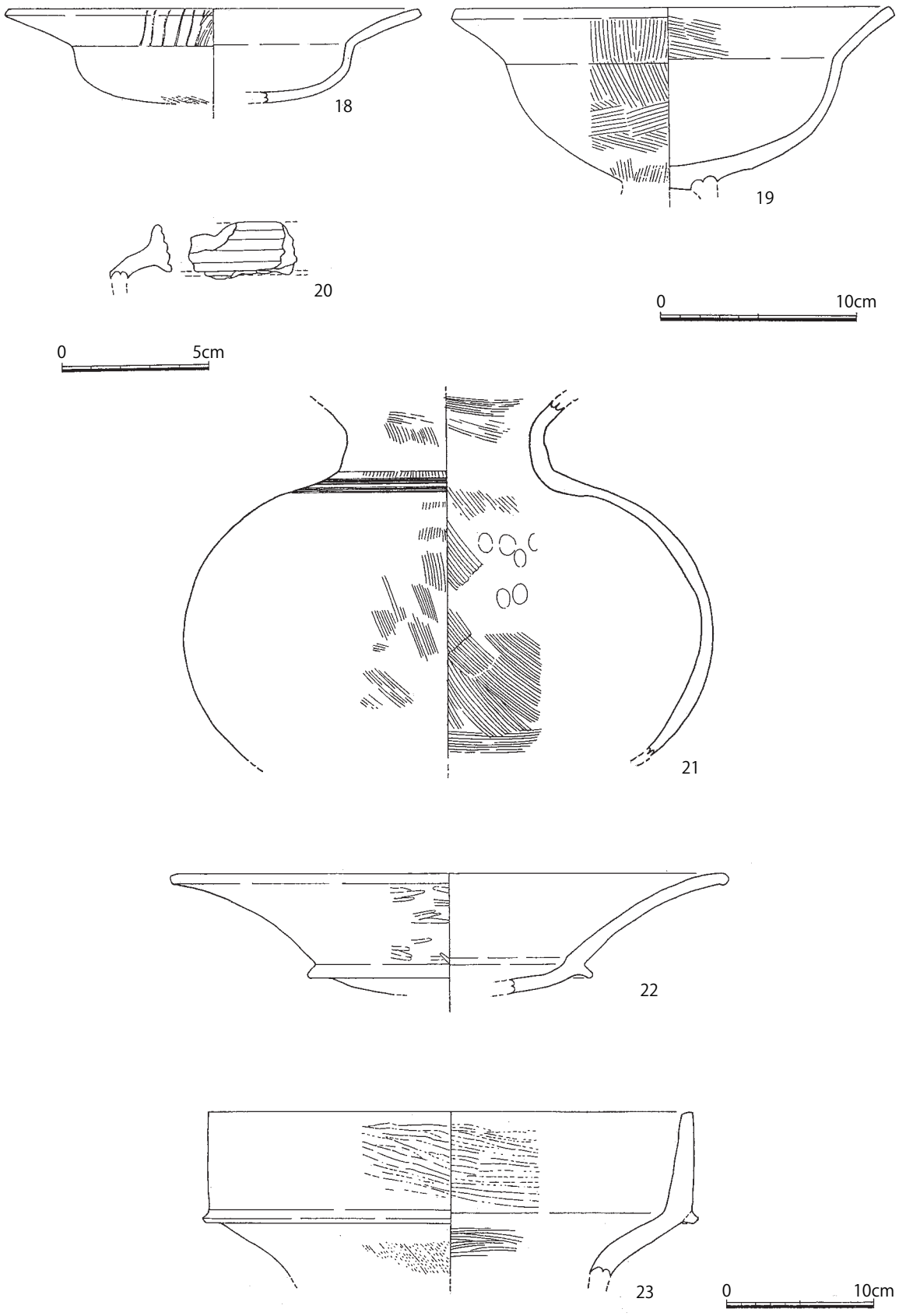


図 244　肥後系・島原半島系土器群３（1/2、1/3、1/4）

心とした熊本県北部を主な分布地域とする。

5 ～ 11 は台付甕の底部片である。10 は台部が外反する。島原半島系か？未報告であるが、中原遺跡 9-2、9-3 区からも台付甕底部片数点が出土している。5 と 10 は中原遺跡 2 区 SX246 出土である。SX246 は自然流路の 1 箇所に弥生時代終末の土器群が多量に投棄された状態で出土した遺構である。甕や器台形土器の出土量が多い。5 世紀代の水田（下層水田）のさらに下層からの出土であり混入はありえない（『中原遺跡Ⅰ』参照）。在地系甕の丸底の底部片がみられ布留甕はない。時期は惣座式～夕ヶ里式古段階であろう。11 の供伴土器は須玖Ⅱ式新～村徳永式である。島原半島系か？

12 ～ 17 は透かしのある大型器台である。長方形又は台形の透かしが二段四方に入る。12 は筒部に櫛描文を施す。13、14 は筒部に数条のヘラ描き沈線を施す。15 は筒部に櫛描文を施す。17 は二条の沈線の間に櫛描波状文を施す。17 は胎土に白色砂粒を多く含むなど在地土器とは異なり、搬入品と思われる。

18,19 は高杯である。両者とも杯部上半が外上方に開き、杯部下半は丸味をもつ。18 は杯部が浅く、19 は深い。18 は杯部外面に暗文状の磨きを施す。比較的、精製された土器である。19 は杯部内外面ハケを施す。比較的、粗製な土器である。18 は野部田 1 式、19 は野部田 2 式にあたる（福田 2011）。類例は熊本県うてな遺跡出土例にみられる。

20 は甕の口縁端部に四条の凹線文を施す。瀬戸内系の土器である。

21 は壺の肩部外面に直線櫛描文を二段に施す。在地土器に櫛描文を施すものはなく、瀬戸内地域あるいは肥後地域からの二次的影響と思われる。

22 は高杯、23 は二重口縁壺である。22 は杯部上半と下半の境に、23 は二次口縁基部外面に断面方形の突帯を回す。このような部位に突帯を回す土器は在地土器には見られない。類例が熊本県天草上木原遺跡、長崎県今福遺跡でみられ、これらの地域からの影響と考えた。

（4）唐津地域出土土器群の位置づけについて

前述の土器群に瀬戸内系の土器も加えたのは以下の理由による。

2 は報告書によると瀬戸内地域（吉備南部）からの搬入土器とされる。21 の肩部外面に直線櫛描文を二段に施す壺も系譜的には瀬戸内系であろう。20 は甕の口縁端部に四条の凹線文を施す、瀬戸内系の中でも吉備系と思われる。SH11027 出土で、同遺構から図 243-14、16 の肥前型器台も出土している。肥前型器台の系譜は瀬戸内系の影響が論じられており、それらの影響のもと当地で成立した可能性が強い。熊本県八代市下堀切遺跡では凹線文の甕や高杯など瀬戸内系土器が、長崎県南島原市今福遺跡では瀬戸内系の高杯が出土するなど、肥後、島原半島地域では瀬戸内系土器の出土例が比較的多くみられる。玄界灘沿岸地域で出土する瀬戸内系土器の流入及び影響は地理的に東方からを考えるが、唐津地域以西では肥後を経由して九州島西回り沿岸に肥後系、島原半島系土器群とともに流入した可能性を考える必要がある。

唐津地域の肥後系土器の初現は、今のところ図 242-1 の黒髪Ⅱ式の甕である。島原半島系は 11 の台付甕である。その時期は須玖Ⅱ式新段階～村徳永式である。

台付甕の地域性について島原地域の台付甕は台部が肥後地域のそれより底部径が小さく、台部が外反するという特徴をもつ。10 は台部が外反し、島原半島地域のそれに類似する。また、11 も底部径が小さく島原半島系と思われる。これ以外は肥後系と思われる。

肥後系・島原半島系土器のうち出土例が多いのは台付甕、肥前型器台、高杯、ジョッキ形土器である。

出土例の増加する時期は西久保式～野部田式（福田 2011）と考えられ、本遺跡 SH11207 からは台付甕 2 点と肥前型器台が千住式の土器群と伴に出土している。また、肥前型器台の筒部文様はヘラ描と櫛描のみであることも時期推定ができ、野部田式、惣座式が主体と考える。肥前型器台で夕ヶ里式期に下るものは見当たらないが、中原遺跡 2 区 SX246 出土の台付甕（図 242-5、10）は夕ヶ里式に下る可能性がある。また、鍛冶関連工房である SH11231 から肥前型器台、SH12036 から高杯が出土していることは鍛冶工房と肥後の関係を示唆すると考える。

図 244-22､23 の突帯ある高杯､二重口縁壺は在地土器には見られない｡類例が熊本県天草上木原遺跡、長崎県今福遺跡でみられ、これらの地域からの影響と考え、肥後系、島原半島系土器群に入れた。さほど注目されていない特徴であるが今後の類例に期待したい。

（5）九州島西回り沿岸ルートの提唱

唐津地域出土の肥後系・島原半島系土器の流入経路を西回り沿岸と想定した。それは、肥後系・島原半島系土器や青銅鏡の分布による。

肥前型器台と台付甕地域の北限で五島灘沿岸に位置する佐世保市門前遺跡（図 245 の 48）では弥生時代後期後半の箱式石棺墓 7 基、石蓋土壙墓 2 基、土壙墓 2 基には鉄剣や素環頭刀子、石製勾玉やｶﾞﾗｽ小玉が副葬された厚葬墓が確認された。これらの厚葬墓は約 15 m× 10 mの平面長方形の範囲に分布し、墳丘墓の可能性も考えられている。その墳墓群と近接した集石遺構から肥前型器台片 6 点が出土している。このことは当地の葬送に伴う祭祀土器が肥前型器台によることを物語る。肥前型器台の筒部文様はヘラ描及び櫛描である。この他、門前遺跡では台付甕や瀬戸内系と考えられる口縁端部に凹線文を施した壺口縁部片も出土している。

佐賀県伊万里市宮ノ前北遺跡では包含層から肥前型器台 5 点が出土している。（図 246 参照）口縁部は方形におさめる。筒部文様はヘラ描き沈線と櫛描がある。小田､上田（2004）の分布図では唐津地域、伊万里地域は肥前型器台の空白地帯になっていたが、分布することが判った。今後、西北九州沿岸から肥前型器台、台付甕などの肥後系・島原半島系土器群の出土例が増えることが予想される。[註2]

この西北九州沿岸に青銅鏡の分布がみられることは興味深い。佐賀県伊万里市午戌遺跡では箱式石棺から長宜子孫銘内行花文鏡と細線式獣帯鏡片が出土している。長崎県松浦市栢木遺跡では箱式石棺から内行花文鏡が出土している。長崎県平戸市里田原遺跡では方格規矩鏡片が、長崎県佐世保市門前遺跡では異体字銘帯鏡片が、長崎県東彼杵町白井川遺跡では方格規矩鏡片が出土している。

唐津市より西方の沿岸部の肥後系・島原半島系土器の出土例は糸島市三雲仲田遺跡出土の肥前型器台のみで希薄になる。唐津市中原遺跡では鍛冶工房から肥前型器台や肥後系の高杯が出土しており、肥後地域と類似する有茎鉄鏃の生産を行っていることも序々に判り始めた。鍛冶関連の報告の詳細は次刊で行い、肥後地域の鉄製品との比較検討も行いたい。

以上のことから弥生時代後期における九州島西回り沿岸ルートの活発化は朝鮮半島から肥後地域への鉄素材の流通と、それに伴う唐津地域や西北九州沿岸、島原半島や肥後地域の首長間交流によると考えられる。

謝辞

小文の作成にあたり福田匡朗氏からご教示頂きました。記して感謝します。

註 1 「肥前型器台」は小田富士夫氏の命名という（宮崎貴夫 2011）。但し、小田富士雄・上田龍児 2004 では「肥前型器台」の名称は記載されていない。名称として適切と考えるため使用した。

註 2　この他、伊万里市馬立場遺跡包含層から台付甕底部片が出土している。（伊万里市教委 1987）

参考文献

長崎県教育委員会 1997「栢木遺跡」『原始・古代の長崎県　資料編Ⅱ』

伊万里市教育委員会 2000『午戌遺跡』伊万里市文化財調査報告書第 47 集

唐津市教育委員会 2001『千々賀遺跡』唐津市文化財調査報告書第 102 集

天草町教育委員会 2003『上木原遺跡』天草町文化財調査報告書第 1 集

唐津市教育委員会 2003『半田引地遺跡』唐津市文化財調査報告書第 111 集

小田富士雄・上田龍児 2004「長崎県・景華園遺跡の研究」福岡大学考古学研究室調査報告第 3 冊

佐賀県教育委員会 2007『中原遺跡Ⅰ』佐賀県文化財調査報告書第 168 集

伊万里市教育委員会 2008『宮ノ前北遺跡 D 地点』伊万里市文化財調査報告書第 51 集

佐賀県教育委員会 2008『中原遺跡Ⅱ』佐賀県文化財調査報告書第 175 集

福田匡朗 2011「菊池川流域における古墳時代初頭前後の土器編年」『熊本古墳研究』第 4 号　熊本古墳研究会

宮崎貴夫 2011「長崎県地域の状況について」『環有明海の交流―台付甕をめぐる諸問題―』肥後考古学会・長崎県考古学会合同大会資料集

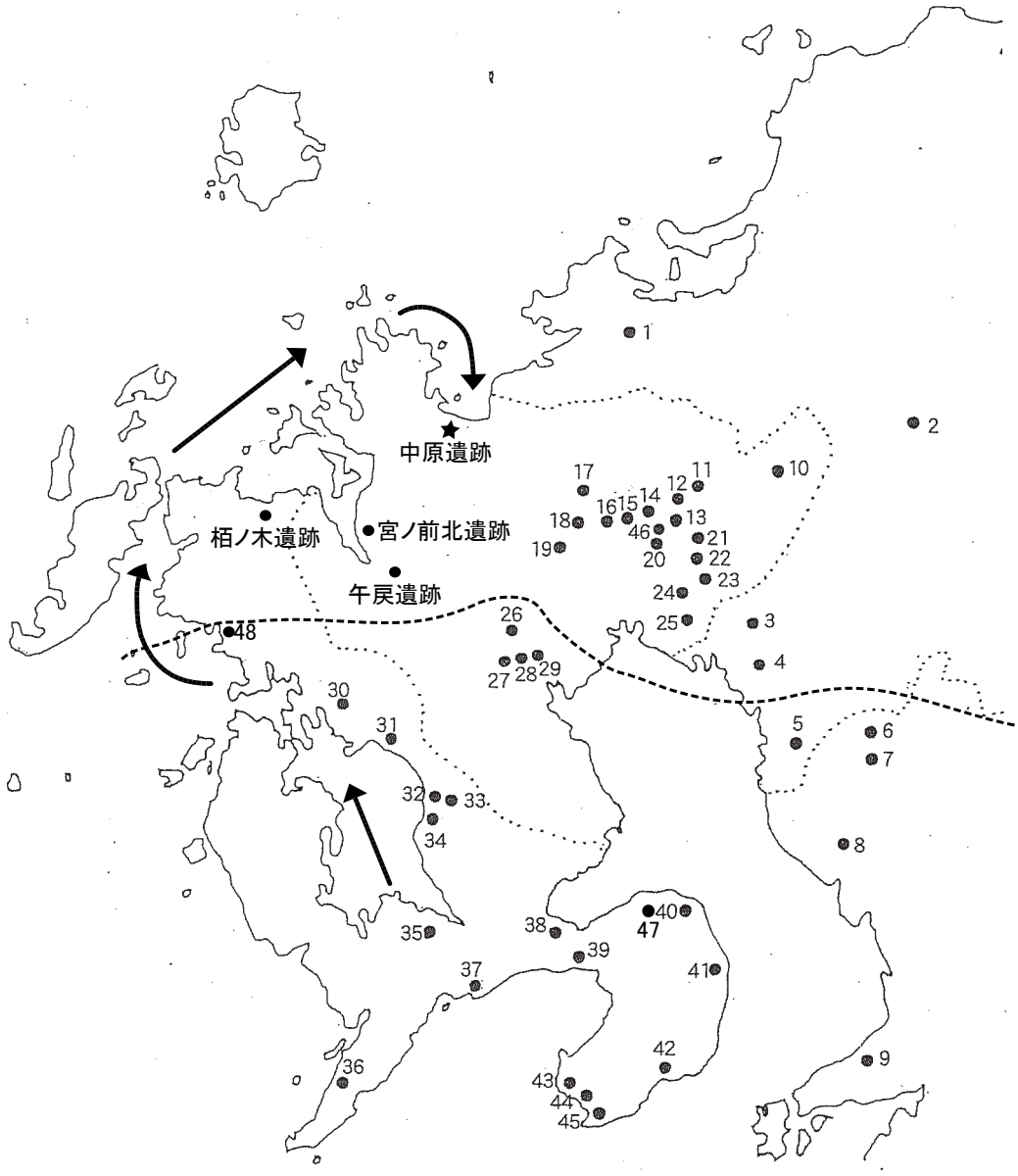
佐賀県教育委員会 2013『古園遺跡・千々賀遺跡・千田島Ⅱ遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 200 集

表 75　唐津地域出土肥後系・島原半島系土器一覧

番号	種　別	遺跡名	遺構名	備　考	文　献
1	甕	半田大園遺跡	包含層	黒髪式	2
2	ワイングラス形高杯	千々賀遺跡	包含層	瀬戸内系	1
3	ジョッキ形土器	千々賀遺跡	包含層		1
4	ジョッキ形土器	千々賀遺跡	包含層		1
5	台付甕	中原遺跡2区	SX246	底部片	3
6	台付甕	半田大園遺跡	包含層	底部片	2
7	台付甕	中原遺跡11区	SH11207	底部片	本書
8	台付甕	中原遺跡11区	SH11207	底部片	本書
9	台付甕	中原遺跡13区	SH13212	底部片	本書
10	台付甕	中原遺跡2区	SX246	底部片	3
11	台付甕	中原遺跡11区	SH11064	底部片	本書
12	器台	中原遺跡7区	包含層	肥前型器台	4
13	器台	中原遺跡11区	SH11207	肥前型器台	本書
14	器台	中原遺跡11区	SH11027	肥前型器台	本書
15	器台	中原遺跡7区	包含層	肥前型器台	4
16	器台	中原遺跡11区	SH11027	肥前型器台	本書
17	器台	中原遺跡11区	SH11231	肥前型器台	本書
18	高杯	中原遺跡12区	SH12036		本書
19	高杯	古園遺跡	SH08		5
20	甕	中原遺跡11区	SH11027	瀬戸内系	本書
21	壺	中原遺跡11区	SH11217	肩部櫛描文	本書
22	高杯	中原遺跡13区	SK13010		本書
23	二重口縁壺	中原遺跡11区	SH11068		本書

参考文献

1 唐津市教育委員会2001『千々賀遺跡』唐津市文化財調査報告書第102集
2 唐津市教育委員会2003『半田引地遺跡』唐津市文化財調査報告書第111集
3 佐賀県教育委員会2007『中原遺跡Ⅰ』佐賀県文化財調査報告書第168集
4 佐賀県教育委員会2008『中原遺跡Ⅱ』佐賀県文化財調査報告書第175集
5 佐賀県教育委員会2013『古園遺跡・千々賀遺跡・千田島Ⅱ遺跡』佐賀県文化財調査報告書第200集

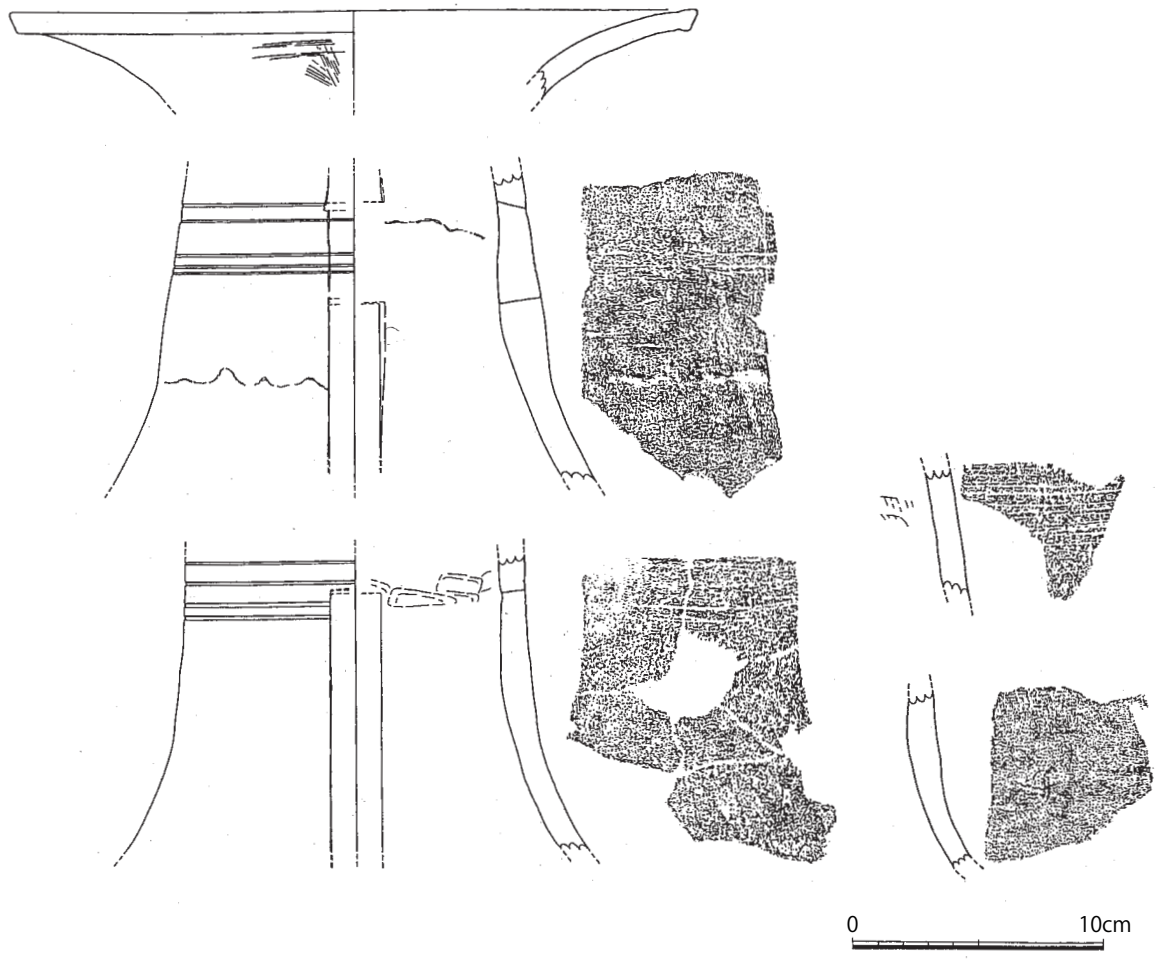


（小田・上田2004、宮崎2011に加筆）

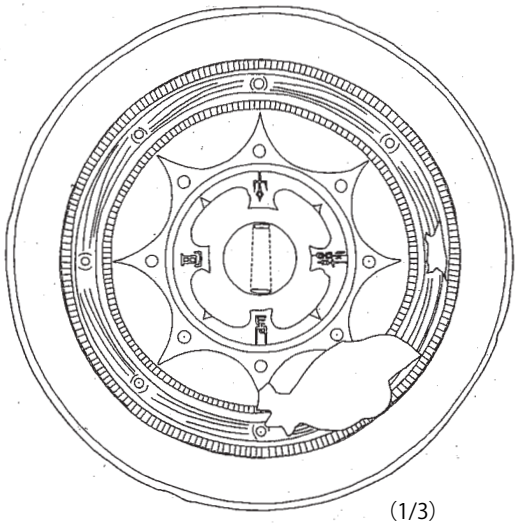
図中番号は小田・上田2004参照

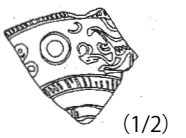
図 245　肥前型器台の分布と台付甕地域

伊万里市宮ノ前北遺跡（1/3）



伊万里市午戻遺跡





松浦市柏ノ木遺跡

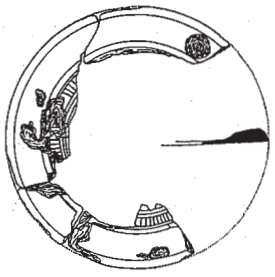


図 246　宮ノ前北遺跡出土器台・午戻遺跡、栢ノ木遺跡出土鏡

報告書抄録

ふりがな	なかばる
書　　名	中原遺跡Ⅶ（第一分冊）　11 区～ 13 区の集落跡の調査
副 書 名	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書
巻　　次	13
シリーズ名	佐賀県文化財調査報告書
シリーズ番号	第 199 集
編 著 者 名	小松譲・吉本健一・吉野進一・伊達惇一朗
編 集 機 関	佐賀県教育委員会
所 在 地	〒840-8570　佐賀市城内 1 丁目 1 番 59 号　TEL(0952)25-7232
発行年月日	西暦 2013 年 3 月 15 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
中原（なかばる）遺跡	唐津市（からつし） 原字溜ノ内（はるためのうち） ・西ノ畑（にしのはた）	412023	2146	33°24′57″ 36164	129°59′59″ 3893	平成13年 5月28日～ 平成17年 9月30日	13,660㎡ (本書掲載分)	西九州自動車道建設事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中原遺跡11区 ・12区・13区	集落	弥生 古墳 奈良	竪穴住居 掘立柱建物 土坑 溝	弥生土器 土師器 須恵器 陶質土器	・弥生時代～古墳時代の集落跡。外来系土器が出土。

佐賀県文化財調査報告書第199集

中原遺跡Ⅶ

11区～13区の集落跡の調査

―西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書(13)―

平成25(2013)年3月15日

発行　佐賀県教育委員会

〒840-0041　佐賀県佐賀市城内1丁目1番59号

印刷　株式会社 佐賀印刷社

〒849-0921 佐賀県佐賀市高木瀬西6丁目11番7号